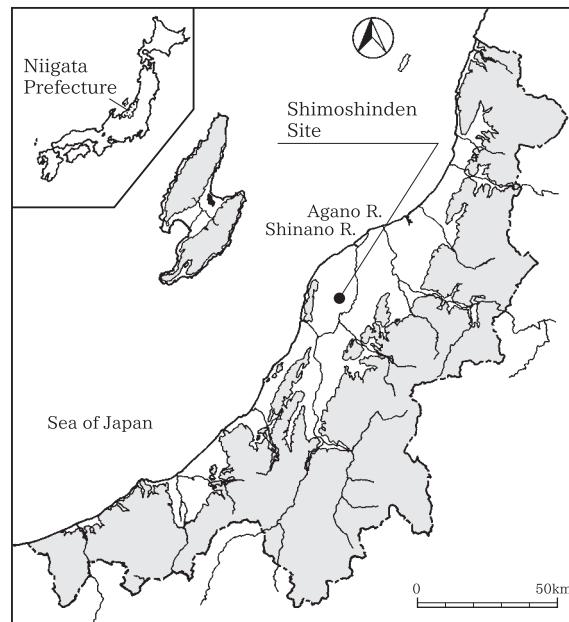


しも しん でん 下新田遺跡 第6・8・9次調査

— 県営ほ場整備事業（経営体育成基盤整備型）道上地区に伴う第3・5・6次発掘調査報告書 —



2015

新潟市教育委員会

例 言











- 1 本書は新潟県新潟市西蒲区にしかんく道上どうじょう下新田あぎしもしんでん 5244 他で実施した下新田遺跡しもしんでんの第 6・8・9 次発掘調査記録である。
- 2 調査は県営ほ場整備事業（経営体育成基盤整備型）道上地区造成に伴い、新潟県から新潟市が受託した。調査主体は新潟市教育委員会（以下、市教委という）であるが、平成 24・25 年度は新潟市文化観光・スポーツ部文化財センターが、平成 26 年 4 月より新潟市文化スポーツ部文化財センター（以下、市文化財センターという）が補助執行した。
- 3 平成 24・25 年度に発掘調査と整理作業、平成 26 年度に整理作業、平成 27 年度に報告書刊行を行った。発掘調査と整理作業の体制は第Ⅲ章に記した。
- 4 出土遺物及び調査・整理作業に係る記録類は、一括して市文化財センターが保管・管理している。
- 5 本書の作成・編集は龍田優子（市文化財センター主査）が行った。
- 6 執筆（第Ⅵ章を除く）は、第Ⅳ章第 3 節（1・4・5 区）を龍田・長澤展生（株式会社シン技術コンサル）が、第Ⅶ章第 2 節 B を相澤央（帝京大学）が、これ以外を龍田が行った。
- 7 第Ⅵ章自然科学分析については、早田勉（株式会社火山灰考古学研究所（第 1A・2・4・5 節）、千葉博俊・金井慎司・斉藤崇人・馬場健司（バリノ・サーヴェイ株式会社（第 1B・C・6 節）、黒沼保子・佐々木由香・バンダリ・スダルシヤン・森将志・米田恭子（株式会社パレオ・ラボ（第 3・5・7 節））に分析・執筆を委託し、龍田が編集した。
- 8 本書で用いた写真は、本発掘調査遺構写真は龍田・潮田憲幸（市文化財センター主査）・牧野耕作（同専門臨時職員）・長澤が撮影した。確認調査写真は、諫山えりか（市歴史文化課主査）が撮影した。遺物写真は木製品（保存処理未処理分）を佐藤俊英氏（ビッグヘッド）に、土器棺復原および土製品の一部を前山精明（市文化財センター副主幹）、これ以外を株式会社ハイグラフィに委託し松永由佳氏が撮影した。ただし写真図版 1 は米軍（国土地理院発行）が、空中写真は株式会社イビソクが撮影したものを使用した。
- 9 遺構図のトレースは株式会社イビソク・有限会社不二出版に、遺物出土状況微細図等の測量・各種図版作成の一部は株式会社オリスに、各種図版作成の一部・編集に関しては有限会社不二出版に委託してデジタルトレースと DTP ソフトによる編集を実施し、完成データを印刷業者へ入稿して印刷した。
- 10 今回の調査成果については、これまでに現地説明会および平成 24 年度新潟市遺跡発掘調査速報会〔潮田 2013〕、平成 25 年度新潟市遺跡発掘調査速報会〔龍田 2014〕で公表されている。本報告書と齟齬がある場合は、本書の記載内容をもって正とする。
- 11 調査から本書の作成に至るまで下記の方々・機関よりご指導・ご協力を賜った。ここに記して厚く御礼申し上げる。

（所属・敬称略、五十音順）

春日真実・笹澤正史・鈴木俊成・三ツ井朋子・山本 肇

公益財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県教育庁文化行政課・新潟県新潟地域振興局巻農業振興部・
西蒲原土地改良区

凡 例

- 1 本書は本文と巻末図版（図面図版・写真図版）からなる。
- 2 本書で示す方位は全て真北である。磁北は真北から西偏約7度である。
- 3 掲載図面のうち、既存の地形図等を使用した場合は、原図の作成者・作成年を示した。
- 4 引用文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕中に示し、巻末に一括して掲載したが、第VI章に伴うものについては分けて明記した。
- 5 遺構番号は発掘調査現場で付したものをを用いた。番号は遺構の種別毎に付さず、地区ごとに通し番号とした。
- 6 土層の土色および遺物の色調観察は『新版 標準土色帖』（小山・竹原 1967）を用い、色調名と番号を示した。
- 7 遺物実測図の縮尺は1/3を基本とし、これと異なる場合は各図面に明記した。
- 8 土器実測図で全周の1/12以下のような遺存率の低いものについては、誤差があるため中軸線の両側に空白を設けた。土器実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外を白抜きとした。トーンについては以下のとおりである。
土 器 …… 黒色処理  赤 彩  墨 痕  炭化物・スス  (275・276・294のみ ) 漆 
石製品 …… 磨耗部分  付着物  被熱  節理面 
- 9 土器実測に示す「┌」・「└」はケズリ方向（移動した砂粒の終点を短線で区切っている）を示し、両側矢印（↔）はミガキ方向を示す。
- 10 石製品実測図に示す矢印は、断面表示箇所が磨耗範囲、遺物内表示箇所が研磨・磨耗方向を示す。
- 11 本文の事実記載（第IV・V章）や図面・写真（図版）の掲載順序は、調査地区の北側から1区→4区→5区→2区→3区→第6次調査区とした。また、遺構に関わるものについては、地区ごとに上層・中層・下層を分け上層→中層（上面・下面）→下層を基本とした。
- 12 掲載した遺物の番号は種別関係なく通し番号とし、本文および観察表・写真図版の番号は全て同一番号とした。なお、土器と木製品の一部については、写真図版にのみ掲載した資料がある。
- 13 遺構・遺物観察表中における（ ）付きの値は、推定値を意味する。
- 14 遺物の注記は、下新田遺跡の略記号「下新田」とし出土地点や層位を続けて記した。平成24年度出土遺物は、略記号の前に「12」を、平成25年度出土遺物は略記号の前に「13」を付した。また、出土地点計測を行った遺物は、取り上げNo.と小グリッドを併記した。

目 次

第I章 序 章

第1節 遺跡概観	1
第2節 発掘調査に至る経緯	1

第II章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境	3
第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	3

第III章 調査の概要

第1節 試掘・確認調査	7
第2節 本発掘調査	7
A 調査方法	7
B 調査経過	9
C 調査体制	10
第3節 整理作業	11
A 整理方法	11
B 整理経過	11
C 整理体制	11

第IV章 遺 跡

第1節 概 要	12
第2節 層 序	12
第3節 遺 構	14
A 遺構の概要	14
B 遺構各説	14

第V章 遺 物

第1節 概 要	35
第2節 土 器	35
A 実測図の表現と観察項目	35
B 土器の分類	36
C 遺構出土の土器	42
D 遺構外出土の土器	46
E 確認調査・工事立会出土の土器	50
第3節 土 製 品	53
第4節 鍛冶関連遺物	54
第5節 石 製 品	54

第6節 木製品	55
第7節 その他	56

第VI章 自然科学分析

第1節 下新田遺跡の土層と古植生	57
A サンプル採取地点の土層層序	57
B 分析試料	58
C 分析方法	58
D 分析結果	59
第2節 水田跡（稲作跡）の検討	62
A 分析試料	62
B 分析方法	62
C 分析結果	62
第3節 畠跡の検討1（栽培植物）	65
A 分析試料	65
B 分析方法	65
C 分析結果	65
D まとめ	69
第4節 畠跡の検討2（放射性炭素年代測定）	71
A 測定試料と測定方法	71
B 測定値の見かた	71
C 測定結果	73
第5節 樹種同定	73
A 同定試料	73
B 同定方法	73
C 同定結果	73
第6節 出土骨片の同定	75
A 試料	75
B 分析方法	75
C 結果および考察	75
第7節 レプリカ法による土器圧痕の同定	76
A はじめに	76
B 資料と方法	76
C 結果	76
D 考察	78

第VII章 総括

第1節 遺構	81
A 上層の畠跡と水田跡の年代について	81
B 土器棺墓について	81
第2節 遺物	82
A 土器の編年的位置づけ	82
B 墨書土器	86

引用・参考文献	90
別表	92
報告書抄録・奥付	巻末

挿図目次

第 1 図 下新田遺跡周辺地形分類図 (1/150,000)	4	第 17 図 畠跡の植物珪酸体分析結果	67
第 2 図 下新田遺跡周辺の遺跡分布図 (飛鳥・奈良・平安時代) (1/100,000)	5	第 18 図 花粉・孢子顕微鏡写真	70
第 3 図 確認調査トレンチ配置図と本発掘調査範囲	8	第 19 図 植物珪酸体顕微鏡写真	70
第 4 図 確認調査土層柱状図	8	第 20 図 大型植物遺体顕微鏡写真	71
第 5 図 奈良・平安時代の須恵器器種分類	37	第 21 図 放射性炭素年代測定結果	72
第 6 図 奈良・平安時代の土師器・黒色土器器種分類	39	第 22 図 樹種同定図	74
第 7 図 奈良・平安時代の土師器器種分類	40	第 23 図 出土骨	75
第 8 図 確認調査および工事立会出土土器の主な地点	51	第 24 図 圧痕レプリカ走査型電子顕微鏡写真 (1)	79
第 9 図 各地点の土層柱状図	57	第 25 図 圧痕レプリカ走査型電子顕微鏡写真 (2)・ 実体顕微鏡写真	80
第 10 図 主要花粉ダイアグラム	60	第 26 図 エリア別土器構成比率	83
第 11 図 花粉顕微鏡写真	60	第 27 図 重量による出土層位別種別比率	83
第 12 図 植物珪酸体の検出量	61	第 28 図 下新田遺跡出土土器の変遷案 (食膳具)	84
第 13 図 植物珪酸体顕微鏡写真	61	第 29 図 下新田遺跡出土土器の変遷案 (煮炊具)	85
第 14 図 各地点の植物珪酸体分析結果	63	第 30 図 下新田遺跡出土墨書土器	87
第 15 図 植物珪酸体顕微鏡写真	64	第 31 図 八幡林遺跡出土 23 号木簡の「日置」	87
第 16 図 畠跡の花粉ダイアグラム	67	第 32 図 下新田遺跡内の変遷案	89

表目次

第 1 表 下新田遺跡調査履歴	2	第 10 表 放射性炭素年代測定の試料と方法	72
第 2 表 下新田遺跡周辺の古代遺跡	6	第 11 表 放射性炭素年代測定	72
第 3 表 検出花粉一覧	59	第 12 表 同定樹木一覧	74
第 4 表 植物珪酸体一覧と含量	61	第 13 表 検出分類群の一覧	75
第 5 表 水田跡の植物珪酸体一覧	63	第 14 表 骨同定結果	75
第 6 表 分析試料一覧	65	第 15 表 下新田遺跡出土土器種実圧痕の同定結果	76
第 7 表 検出花粉一覧	66	第 16 表 下新田遺跡出土土器圧痕の同定結果一覧	77
第 8 表 試料 1g 当りのプラント・オパール個数	67	第 17 表 下新田遺跡の編年の位置づけ	83
第 9 表 畠跡から検出した大型植物遺体	70	第 18 表 下新田遺跡出土墨書土器一覧	87

別表目次

別表 1 遺構計測表	92	別表 4 鍛冶関連遺物観察表	108
別表 2 土器観察表	98	別表 5 木製品観察表	108
別表 3 土製品・石製品観察表	108		

図版目次

- 図版 1 周辺の旧地形図 (1/50,000)
- 図版 2 下新田遺跡周辺の旧土地利用図 (1/7,000)
- 図版 3 下新田遺跡と周辺の遺跡 (1/20,000)
- 図版 4 道上地区ほ場整備事業などに伴う試掘・確認調査位置図 (1/10,000)
- 図版 5 下新田遺跡グリッド設定図 (1/3,000)
- 図版 6 1区 遺構全体図 (1/300)
- 図版 7 1・4・5区 小グリッド別古代土器出土重量分布図 (1/500)
- 図版 8 基本層序
- 図版 9 1区 上層遺構平面部分図 (1/100)
- 図版 10 1区 上層遺構実測図 (1/50)
- 図版 11 1区 上層遺構実測図 (1/40) (1/50)
- 図版 12 1区 上層遺構実測図 (1/40)
- 図版 13 1区 中層上面遺構平面部分図 (1/100)
- 図版 14 1区 中層上面遺構実測図 (1/40)
- 図版 15 1区 中層上面遺構実測図 (1/40)
- 図版 16 1区 中層上面遺構実測図 (1/40)
- 図版 17 1区 中層上面遺構実測図 (1/40)
- 図版 18 1区 中層下面遺構平面部分図 (1/100)
- 図版 19 1区 中層下面遺構実測図 (1/40)
- 図版 20 1区 中層下面遺構実測図 (1/40)
- 図版 21 1区 中層下面遺構実測図 (1/40)
- 図版 22 1区 中層下面遺構実測図 (1/40) (1/50)
- 図版 23 4区 遺構全体図 (1/100)
- 図版 24 4区 遺構実測図 (1/40)
- 図版 25 5区 遺構全体図 (1/100)・遺構実測図 (1/40) (1/50)
- 図版 26 2・3区 遺構全体図 (1/300)
- 図版 27 2・3区 小グリッド別古代土器出土重量分布図 (1/500)
- 図版 28 2区 上層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 29 2区 中層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 30 2区 中層遺構実測図 (1/40)
- 図版 31 2区 中層遺構実測図 (1/40)
- 図版 32 2区 下層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 33 3区 上層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 34 3区 上層遺構実測図 (1/40)
- 図版 35 3区 中層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 36 3区 中層遺構実測図 (1/40)
- 図版 37 3区 下層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 38 第6次調査区 遺構全体図 (1/300)
- 図版 39 第6次調査区 小グリッド別古代土器出土重量分布図 (1/500)
- 図版 40 第6次調査区 上層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 41 第6次調査区 中層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 42 第6次調査区 下層遺構平面部分図 (1/120)・遺構実測図 (1/40)
- 図版 43 第10次調査区 遺構全体図 (1/100)・遺構実測図 (1/20)・微細図 (1/10)・土器棺復原図 (1/8)
- 図版 44 1区 遺構出土土器 1
- 図版 45 1区 遺構出土土器 2
- 図版 46 1区 遺構出土土器 3
- 図版 47 4区 遺構出土土器
- 図版 48 2区 遺構出土土器 1
- 図版 49 2区 遺構出土土器 2
- 図版 50 3区 遺構出土土器
- 図版 51 第6次調査区 遺構出土土器 1
- 図版 52 第6次調査区 遺構出土土器 2
- 図版 53 1区 包含層出土土器 1
- 図版 54 1区 包含層出土土器 2
- 図版 55 1区 包含層出土土器 3
4区 包含層出土土器
5区 包含層出土土器
- 図版 56 2区 包含層出土土器 1
- 図版 57 2区 包含層出土土器 2
3区 包含層出土土器
- 図版 58 第6次調査区 包含層出土土器 1
- 図版 59 第6次調査区 包含層出土土器 2
- 図版 60 確認調査・工事立会時出土土器 1
- 図版 61 確認調査・工事立会時出土土器 (包含層 1) 2
- 図版 62 確認調査・工事立会時出土土器 (包含層 2) 3
- 図版 63 確認調査・工事立会時出土土器 (包含層 3) 4・鍛冶関連遺物
- 図版 64 土製品
- 図版 65 石製品 1
- 図版 66 石製品 2
- 図版 67 木製品 1
- 図版 68 木製品 2

写真図版目次

写真図版 1	下新田遺跡周辺空中写真 1	1 区 SD16 完掘
写真図版 2	下新田遺跡周辺空中写真 2	1 区 SD40 土層断面 B-B'
	調査前風景 全景	1 区 SD38 土層断面・完掘
	1 区 調査前風景	1 区 SD39・110 遺物出土状況
	2・3 区 調査前風景	1 区 SD39・110 完掘
	第 6 次調査区 調査前風景	1 区 SD42 土層断面・完掘
写真図版 3	完掘状況	写真図版 10
写真図版 4	1 区 中層上面 完掘状況	1 区 SD43 土層断面・完掘
	1 区 中層下面 完掘状況	1 区 SD63・75 土層断面・完掘
写真図版 5	1 区 SN118・SD56 土層断面・完掘	1 区 SE57 土層断面
	1 区 SN119 土層断面	1 区 SE57 完掘
	1 区 SN120 土層断面	1 区 SK49 土層断面
	1 区 SN120 周辺土層断面・完掘	1 区 SK49 完掘
	1 区 SN (畠跡) 土層断面	1 区 SK50 土層断面・完掘
	1 区 SN (畠跡) ① (B-10H-6E12～20)	写真図版 11
	土層断面	1 区 SD18 土層断面 A-A'
	1 区 SN (畠跡) ② (B-10H-4B23～5C6)	1 区 SD18 土層断面 B-B'
	土層断面	1 区 SD18 完掘
	1 区 SN (畠跡) ③ (B-10H-5C13～5D21)	1 区 SD15 土層断面・完掘
	土層断面	1 区 SD24 土層断面 A-A'
写真図版 6	1 区 SN (畠跡) ④ (B-10H-6D4～6E6)	1 区 SD24・31 土層断面 B-B'
	土層断面	1 区 SD28 土層断面
	1 区 SD1 土層断面	1 区 SD28 完掘
	1 区 SD1 土層断面・完掘	写真図版 12
	1 区 SD2 土層断面・完掘	1 区 SD29 土層断面 A-A'
	1 区 SD6 土層断面・完掘	1 区 SD29・31 土層断面 B-B'
	1 区 SD54 土層断面・完掘	1 区 SD31・29・SK32 土層断面 C-C'
	1 区 SD55 土層断面	1 区 SD29・33 土層断面 D-D'
	1 区 SD55 完掘	1 区 SD30・SK51 土層断面・完掘
写真図版 7	1 区 SK19 土層断面・完掘	1 区 SD31 完掘
	1 区 SK59 土層断面・完掘	1 区 SD33 土層断面・完掘、SK32 完掘
	1 区 SK48 土層断面 A-A'・完掘	1 区 SD35 土層断面 A-A'
	1 区 SK48 土層断面 B-B'	写真図版 13
	1 区 SK20・81・93 土層断面	1 区 SD35 土層断面 B-B'
	1 区 SK60・SD40 土層断面	1 区 SD24・29・35 完掘
	1 区 SK58 土層断面・完掘	1 区 SD75 土層断面・完掘
	1 区 SK52・53 土層断面・完掘	1 区 SD66・44 土層断面 B-B'
写真図版 8	1 区 SK79 土層断面	1 区 SD66・SX65 土層断面 C-C'
	1 区 SK103 土層断面	1 区 SX45・SD66 土層断面 D-D'
	1 区 SD11 遺物出土状況	1 区 SD66 土層断面 E-E'
	1 区 SD11・82 土層断面・完掘	1 区 SX45・65・SD44・66 完掘
	1 区 SD3・4 土層断面・完掘	写真図版 14
	1 区 SD10 土層断面・完掘	4 区 中層下面 完掘状況
	1 区 SD9・8・7 土層断面・完掘	4 区 SN35・SD5・8・9・10・SP28・29 土層断面
	1 区 SD21 土層断面・完掘	4 区 SK4 土層断面
写真図版 9	1 区 SD16・40 土層断面 A-A'・完掘	4 区 SK4 遺物出土状況
	1 区 SD16 土層断面 B-B'	4 区 SK4 完掘
		4 区 SK24 土層断面・完掘
		4 区 SK30・SD26・SX6・SP31 土層断面・完掘

	4区 SD1・2・3・5・7 土層断面		2区 SP41 土層断面・完掘
写真図版 15	4区 SD1・2・3・7 完掘		2区 SD9・28 土層断面・完掘
	4区 SD5・7・8・9 完掘		2区 SD15 土層断面・完掘
	4区 SD10 完掘		2区 SD4・15・16 完掘
	4区 下層完掘状況		2区 SP52 土層断面
	5区 完掘状況		2区 SP53 土層断面
	5区 SX1 土層断面 A-A'	写真図版 22	3区 中層完掘状況
	5区 SX1 土層断面 B-B'		3区 下層完掘状況
	5区 SX1 完掘	写真図版 23	3区 中層 (D-4J-5E21 ~ 7F2) 完掘
写真図版 16	2区 完掘状況		3区 下層 (D-4J-5E21 ~ 7F2) 完掘
	2区 (D-3I-9H18 ~ 8G13) 完掘		3区 基本層序 A
	2区 (D-3I-7F12 ~ 8F4) 完掘		3区 基本層序 B
	2区 (D-3I-6E6 ~ 7F6) 完掘		3区 基本層序 C
	2区 (D-3I-4B4 ~ 5C4) 完掘		3区 基本層序 D
写真図版 17	2区 (東側) 完掘		3区 SN45・SD46・47 土層断面
	2区 (西側) 完掘		3区 SN45・SD53・SP52 土層断面
	2区 基本層序 A	写真図版 24	3区 SN48 土層断面
	2区 基本層序 B、SP51 土層断面		3区 SP10 土層断面・完掘
	2区 SN (畠跡) ① (D-3I-6D10 ~ 6E23) 土層断面		3区 SK5 遺物出土状況
	2区 SN (畠跡) (D-3I-5D16) 土層断面		3区 SK5 土層断面・完掘
	2区 SD45 土層断面		3区 SK24 土層断面
	2区 SD39 土層断面		3区 SK24 完掘
写真図版 18	2区 SE25 土層断面・完掘		3区 SD7 土層断面
	2区 SK13・SP50 土層断面		3区 SD7 完掘
	2区 SD1 土層断面	写真図版 25	3区 SD15 土層断面
	2区 SD1 完掘		3区 SD15・SP13 完掘
	2区 SD3 土層断面		3区 SD18 土層断面
	2区 SD3 完掘		3区 SD18 完掘
	2区 SD4 土層断面・完掘		3区 SD21 土層断面 A-A'
	2区 SD10 土層断面・完掘		3区 SD21 土層断面 B-B'
写真図版 19	2区 SD7 土層断面		3区 SD21 完掘
	2区 SD7 完掘		3区 SD33・SP44 土層断面
	2区 SD11 土層断面・完掘	写真図版 26	3区 SP34 土層断面・完掘、SD33・SP44 完掘
	2区 SD16 土層断面・完掘		3区 SD35 土層断面・完掘
	2区 SD26 土層断面		3区 SD40 土層断面
	2区 SD26 完掘		3区 SD40 完掘
	2区 SD29 土層断面		3区 SD41 土層断面・完掘、SP13 完掘
	2区 SX2・37 土層断面		3区 SX30 土層断面
写真図版 20	2区 SX42 遺物出土状況		3区 SX30 完掘
	2区 SX42 土層断面・完掘		3区 SX39 土層断面
	2区 SX44・SP43 土層断面・完掘	写真図版 27	3区 SX39 完掘
	2区 SP18 土層断面		3区 SP55 土層断面
	2区 SP18 完掘		3区 SP56 土層断面
	2区 SP20 土層断面・完掘		3区 SP57 土層断面
	2区 SP36 土層断面		3区 SP58 土層断面
	2区 SP36 完掘		3区 SP59 土層断面
写真図版 21	2区 SP38 土層断面		3区 SK38・SP60 土層断面
	2区 SP38 完掘		3区 SP61 土層断面

写真図版 28	第 6 次調査区 完掘状況 第 6 次調査区 (D-3I-9F6 ~ 10G17) 完掘 第 6 次調査区 (D-3I-8D3 ~ 9E3) 完掘 第 6 次調査区 (D-3I-7C3 ~ 8D3) 完掘 第 6 次調査区 (D-3I-6B9 ~ 6C21) 完掘 第 6 次調査区 (D-3I-5B22 ~ 6B15) 完掘 第 6 次調査区 (D-3I-4J2 ~ 5A8) 完掘 第 6 次調査区 基本層序 A	第 6 次調査区 SD13 土層断面・完掘 第 6 次調査区 SD14・17 土層断面・完掘
写真図版 29	第 6 次調査区 基本層序 B 第 6 次調査区 SN (畠跡) ① (D-3I-6B14 ~ 6B2) 土層断面 第 6 次調査区 SN (畠跡) ① (D-3I-6B2 ~ 6B14) 土層断面 第 6 次調査区 SN (畠跡) ② (D-3I-5A8 ~ 6B2) 土層断面 第 6 次調査区 SD1 土層断面 第 6 次調査区 SD1 完掘 第 6 次調査区 SD7 土層断面 第 6 次調査区 SD7 完掘	写真図版 32 出土遺物 1 集合写真 1 写真図版 33 出土遺物 2 集合写真 2 写真図版 34 出土遺物 3 古代土器 1 写真図版 35 出土遺物 4 古代土器 2 写真図版 36 出土遺物 5 古代土器 3 写真図版 37 出土遺物 6 古代土器 4 写真図版 38 出土遺物 7 古代土器 5 写真図版 39 出土遺物 8 古代土器 6 写真図版 40 出土遺物 9 古代土器 7 土製品 1 写真図版 41 出土遺物 10 古代土器 8 墨書・墨痕のある土器 写真図版 42 出土遺物 11 古代土器 9 刻書土器・土師器底部 1 写真図版 43 出土遺物 12 古代土器 10 土師器底部 2 写真図版 44 出土遺物 13 古代土器 11 土師器底部 3 ほか 写真図版 45 出土遺物 14 古代土器 12 写真図版 46 出土遺物 15 古代土器 13 写真図版 47 出土遺物 16 古代土器 14 写真図版 48 出土遺物 17 古代土器 15 写真図版 49 出土遺物 18 古代土器 16 写真図版 50 出土遺物 19 古代土器 17 写真図版 51 出土遺物 20 古代土器 18 写真図版 52 出土遺物 21 古代土器 19 写真図版 53 出土遺物 22 古代土器 20 写真図版 54 出土遺物 23 古代土器 21 写真図版 55 出土遺物 24 鍛冶関連遺物 古代土器 22 土製品 2 石製品 1 写真図版 56 出土遺物 25 石製品 2 写真図版 57 出土遺物 26 木製品 1 写真図版 58 出土遺物 27 木製品 2
写真図版 30	第 6 次調査区 SD8 土層断面 第 6 次調査区 SD8 完掘 第 6 次調査区 SD3 土層断面 第 6 次調査区 SD2 完掘 第 6 次調査区 SD3 完掘 第 6 次調査区 SD15・18・19・SX11 完掘 第 6 次調査区 SK5 土層断面 第 6 次調査区 SK5 完掘	
写真図版 31	第 6 次調査区 SD4 土層断面 第 6 次調査区 SD4 完掘 第 6 次調査区 SD6 土層断面 第 6 次調査区 SD6 遺物出土状況 第 6 次調査区 SD6 完掘 第 6 次調査区 SD9 土層断面・完掘	

第 I 章 序 章

第 1 節 遺 跡 概 観

下新田遺跡は、新潟市西蒲区道上字下新田 5191 ほかに所在する。旧中之口村教育委員会（以後、旧村教委という）が実施した県営ほ場整備事業に伴う分布調査により平成 16（2004）年 3 月に発見された。遺跡は、中ノ口川左岸の河川や潟の自然堤防上の微高地に立地し、地表面の標高は 1.7 ～ 2.5m で現集落の北側がやや高く、北東に向かってわずかに傾斜して下る。分布調査で採集された土器は、8 世紀代と 9 世紀半ば～後半の 2 時期が認められ、奈良・平安時代の遺跡として登録された（追録中之口村誌編さん委員会 2006）。その後、新潟市歴史文化課（市教育長）によって平成 20 年に上記事業予定地内全域を対象に確認調査が行われ、奈良・平安時代の遺物包含層と遺構検出面がそれぞれあることや、北西から南東方向に細長く広がる遺跡であることが確認された。さらに、同事業や工場売買などに伴う追加の確認調査により、上記の遺跡内容を追認するとともに遺跡範囲も徐々に拡大した。

遺跡の広がりには東西 300m、南北 1,200m あまりに及び、現況は、水田・畑・農道・宅地などである。本書で主に扱う第 6・8・9 次調査地は、遺跡の南東端に位置する。最初の本発掘調査であるこの一連の調査によって、上・中・下層に分かれている状況や、厚い洪水堆積土によって覆われた遺跡の良好な遺存状況、また市内でも数少ない奈良時代の集落跡であることが確認された。

第 2 節 発掘調査に至る経緯

平成 15 年度、旧中之口村（現 新潟市西蒲区）内の道上地区で 140ha（第三工区 90ha・第四工区 50ha）に及ぶ県営ほ場整備事業（経営体育成基盤整備型）の計画が旧村教委に知らされた。事業開始は平成 18 年度で、予定地内に周知の遺跡はほとんどなかったが、地下の様子が全く分からない地域であり、未発見の遺跡の存在を想定しなければならなかった。すでに旧中之口村内の 3 地区（羽黒、河間・三ツ門、小吉）では、同事業が平成 17 年度から計画されており、合計 598ha という事業面積を考えると時間的な猶予はなかった。

旧村教委は、急遽、新潟県巻農地事務所（現新潟県新潟地域振興局巻農業振興部、以下、新潟地域振興局という）や中之口土地改良区（平成 25 年に統合、現西蒲原土地改良区）および地元住民と、事業の円滑化を目的に協議を重ね、平成 16 年 3 月に道上地区 140ha の分布調査を実施した。その結果、両工区内の水田畦畔・田面を中心に奈良・平安時代の土器が大量に採集された。採集場所は、それぞれ小字名から第三工区が「仲歩切遺跡」、第四工区が「下新田遺跡」として、中教委第 114 号で新潟県教育委員会教育長（以下、県教育長という）に通知し（平成 16 年 4 月 13 日付）周知化された（平成 16 年 5 月 7 日付、教文第 155 号）。当時、事業予定地全域では荒田遺跡（平成 19 年に新潟市との合併により名称を道上荒田遺跡に変更）が存在するだけであった。しかし、この分布調査で採集した 2 遺跡の土器の良好な残存状況や、旧村役場の車庫棟に保管されていた第三工区の南側に隣接する万坊江遺跡から出土したとされる古代・中世の土器などから、地表面下の浅い地点における遺跡の広がりも予想された。

その後、事業計画の見直しにより道上地区は第 1 期地区（第四工区）と第 2 期地区（第三工区）として、第 1 期地区が平成 20 年度から、第 2 期地区が平成 21 年度からの事業開始と変更された。平成 20 年度に入り、事業の進捗状況に合わせて新潟地域振興局から平成 20 年 9 月 18 日付け新振巻農第 336 号で、新潟市教育委員会教育長（以下、市教育長という）宛てに道上地区第四工区の埋蔵文化財の事前調査依頼書が提出された。そして、下新田遺跡の広がりや未知の遺跡を確認するため第四工区全域を対象として、同年 10 月から歴史文化課（市教育

長)は、確認調査を行った(第1次)。その結果、遺跡は北西から南東方向に細長く広がることが確認されたため遺跡範囲を拡大した。

その後、新潟地域振興局と歴史文化課(以下、歴史文課という)との間で事業内容や進捗状況も含めた協議が重ねられた。そして、新潟地域振興局より県教育長へ平成24年3月12日付け新振巻農第881号の2で文化財保護法第94条第1項の通知と、市教育長宛て同日付け新振巻農第880号で発掘調査依頼書が提出された。これを受けて県教育長より平成24年3月30日付け教文第1456号の2で本発掘調査指示の通知があった。歴史文課(市教育長)は、平成24年度着工で新規の用水管敷設工事が計画されている部分について、遺跡の広がりや深さなどを確認するため、本発掘調査に先立ち追加の確認調査を実施した(第4次)。調査結果を受けて、歴史文課(市教育長)は、県教育長へ平成24年11月2日付け新歴F第1号の8で、文化財保護法99条の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を提出し、11月5日から本発掘調査を実施した(第6次調査)。

ほぼ同時期に平成25年度着工部分について、新潟地域振興局より埋蔵文化財の事前調査依頼書が提出された(市教育長宛て、平成24年11月19日付け新振巻農第558号)。歴史文課(市教育長)は、農道および用排水管敷設工事が計画されている工事予定地内を対象に、遺跡の広がりや深さなどを確認するため追加の調査を実施した(第7次)。翌2月25日付けで新潟地域振興局より県教委へ新振巻農第825号の2で文化財保護法第94条第12項の通知と、3月5日付けで市教育長へ発掘調査依頼書が提出され、県教委から平成25年3月25日付け教文第1408号で本発掘調査指示の通知があった。歴史文課(市教育長)は平成25年7月30日付け新歴F第39号で県教育長宛てに文化財保護法99条の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を提出し、8月6日から本発掘調査を実施した(第8次、1~3区)。

その後、調査中に1区隣接地で平成26年度着工の同事業に伴う用排水管敷設および農道建設工事が明らかとなった。新潟地域振興局と歴史文課および文化財センターとで協議し、施工規模と調査の状況などから一連の本発掘調査として実施することが望ましいという結論に達した。そこで、新潟地域振興局より県教育長へ平成25年10月8日付け新振巻農第481号の2で文化財保護法第94条第1項の通知と、市教育長宛てに新振巻農第679号で発掘調査依頼書が提出された。歴史文課(市教育長)は、平成25年11月11日付け新歴B第143号で県教育長宛てに文化財保護法99条の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を提出し、本発掘調査を実施した(第9次、4・5区)。さらに、本発掘調査終了後の工事立会中に完形の土師器長甕2個体が、合わせ口の土器棺状態で土坑から検出され、その広がりなどを確認するため急遽約40m²の確認調査を実施した(第10次)。

第1表 下新田遺跡調査履歴

通算調査回数	県管ほ場整備道土地区に伴う発掘調査回数	調査年次	調査種別	調査原因	調査主体	担当	調査面積()は対象面積	文献	備考
		H16年(2004)3.17~3.26	分布調査	道土地区ほ場整備事業	中之口村	中之口村教育委員会金子優子	(140ha)	[追録中之口村誌編さん委員会2006]	下新田遺跡を新登録
1	1	H20年(2008)10.1~11.4	確認調査	道土地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会今井さやか	357㎡		遺跡範囲拡大
2		H22年(2010)12.14~12.20	試掘調査	工場売買	新潟市	新潟市教育委員会立木宏明	330㎡		
3		H24年(2012)6.20	確認調査	個人住宅建設	新潟市	新潟市教育委員会廣野耕造	4㎡		
4	2	H24年(2012)6.26	確認調査	道土地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会渡邊ますみ	25.2㎡		
5		H24年(2012)8.10	確認調査	個人住宅建設	新潟市	新潟市教育委員会渡邊ますみ	4.6㎡		
6	3	H24年(2012)11.5~12.14	本発掘調査	道土地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター潮田憲幸	348㎡	[本書]	上層から畠跡が確認され、下層からは残存状態の良好な奈良時代の土器が多出した。
7	4	H24年(2012)11.20~11.22	確認調査	道土地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会渡邊ますみ	47.6㎡		
8	5	H25年(2013)8.6~12.18	本発掘調査	道土地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター龍田優子	1,875㎡	[本書]	1・2・3区上層から水田跡・畠跡が確認され、中・下層からは奈良・平安時代の土器が多出した。
9	6	H25年(2013)11.11~12.11	本発掘調査	道土地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市文化財センター龍田優子	120㎡	[本書]	4・5区浅い土坑から土師器無台碗が置かれたような状態で出土した。
10	7	H26年(2014)2.27~3.8	確認調査	道土地区ほ場整備事業	新潟市	新潟市教育委員会諫山えりか	40㎡		完形の土師器長甕2個体が合わせ口の土器棺状態で土坑から出土した。

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境（第1図、図版2）

新潟市の地形は、南東側に新津丘陵、南西側には弥彦・角田山塊に分かれる。そして、市域の大半が信濃川と阿賀野川をはじめとする諸河川から供給された土砂の堆積により形成された広大な越後平野の主要部を占める。この越後平野は、大規模な海岸砂丘と砂丘間低地、氾濫原と自然堤防で構成される。海岸地帯の砂丘列は沖積世以降に形成されたものであり、形成された時代から内陸より新砂丘Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに大別され、さらにそれぞれ4列・4列・2列に細分されている〔新潟古砂丘グループ1974〕。また、砂丘列と自然堤防に囲まれるように後背湿地が広く分布している。後背湿地は、水はけが悪く湿地や潟湖の状態であったと考えられ、砂丘列の内陸部に広がる低湿地帯には多くの潟湖が形成されたが、現在では干拓や河川の整備により消滅したものも多い。

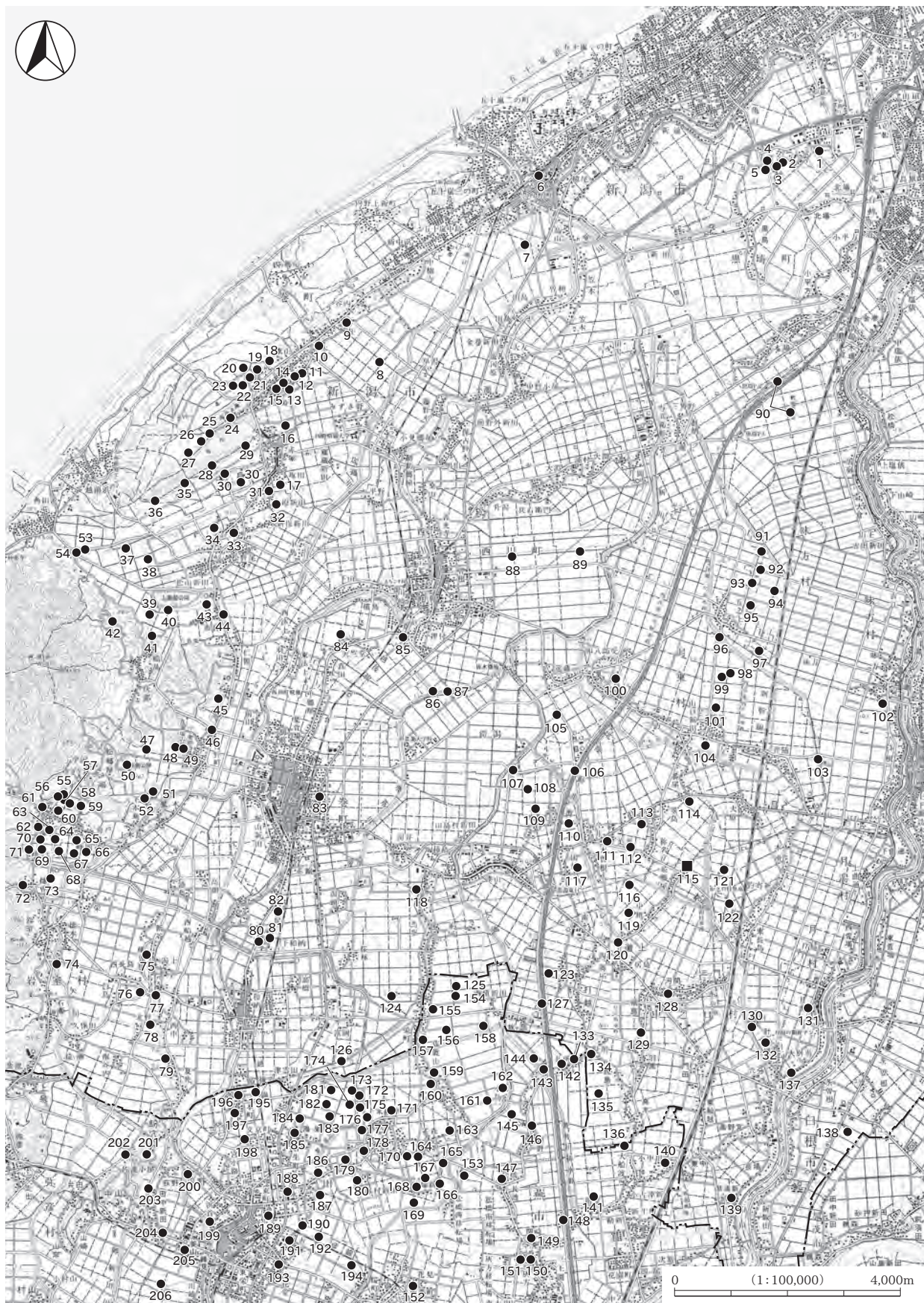
下新田遺跡の所在する新潟市西蒲区道上地区は、越後平野のほぼ中央部に位置し、遺跡は信濃川の支流である中ノ口川左岸の自然堤防上に立地している。遺跡周辺の景観は、昭和30年代に行われた耕地整理事業によって形成されたものである。現在は一帯が水田として利用されているが、耕地整理以前の地図を見ると、かつては現集落東側に広範囲に広がる微高地があり、畑として利用されていたことが分かる。また、微高地周辺は水田として、それら水田の中にわずかな畑が点在している状況も窺える（図版2）。今回調査を行った下新田遺跡は、現在の道上集落の北側に隣接し、東へ約3kmには中ノ口川があり本流である信濃川はそのさらに東へ約5kmにある。また、北西約3kmには潟湖である鎧潟がかつて存在した（1960年代の干拓工事により現在は消滅）。標高は約1.7～2.5mを測り、現集落の北側が高く北東に向かってわずかに傾斜しながら下っている。

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境（第2図）

新潟市で周知化されている遺跡の数は724か所である（平成26年3月現在）。そのうち、下新田遺跡の所在する西蒲区の古代（飛鳥～平安時代）に限定すると88か所になる。越後平野の遺跡立地は、沖積地に形成された自然堤防上が最も多く下新田遺跡もここに含まれる。これ以外では角田山東麓の丘陵上・砂丘で確認できる。遺跡立地の変遷は、旧石器・縄文・弥生時代は角田・弥彦山麓に集中し、古墳時代にはその縁辺部や平野部微高地、奈良・平安時代になると多くが平野部微高地上に認められるようになる。古代の遺跡数は、平安時代に盛んに行われた沖積地の水田開発によって激増するものの、現集落とは一致せず現在の水田部分に点在している。越後平野の地盤沈降による旧地表面の沈下が原因と考えられ、水田の地中深くから発見される遺跡も多い。そのひとつである下新田遺跡は、発見当時から奈良・平安時代を主体とする古代の遺跡として周知されている。

下新田遺跡のある西蒲区は、古代の行政区分としては蒲原郡に属していた。その郡域は概ね三条市以北で阿賀野川以西の越後平野と推定され、中世南北朝時代に蒲原郡の郡域が旧沼垂郡を含む領域に拡大するまでは大幅な変更はないと思われる。また、7世紀段階には旧越中国の淳足柵に属する領域として整備され、8世紀には蒲原郡として成立したと見られる。10世紀に成立した『和名類聚抄』によれば、蒲原郡内には「日置・櫻井・勇礼・青海・小伏」の5郷が存在している。これらの所在については諸説あり、今回の調査で出土した「日置」の墨書土器が、郷名を記しているとすればこの地域が「日置郷」であった可能性も考えられる（第Ⅶ章参照）ものの、下新田遺跡がどの郷に含まれていたか明瞭でない。

ここでは、第2図に示した周辺の古代遺跡をもとに縄文時代からの遺跡分布について古代を中心に概観する。



国土地理院 新潟・新津・内野・弥彦 1/50,000→1/100,000 一部修正

第2図 下新田遺跡周辺の遺跡分布図(飛鳥・奈良・平安時代)

第2表 下新田遺跡周辺の古代遺跡

No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	的場	27	沼	53	長道	79	郷屋	105	四ツ割	131	早稲田	157	川下A	183	三方口
2	緒立C	28	北浦原A	54	定口	80	住吉神社脇	106	沼下	132	梅田	158	西横	184	西ノ神
3	緒立A	29	北浦原B	55	ケカチ堂	81	おおやさま屋敷	107	湯前	133	長所天神	159	野神屋敷	185	鴻野築大坪
4	緒立城館跡	30	南浦原	56	桜本	82	ハガヤバ	108	漆山上田	134	羽黒西	160	中組	186	新保境
5	緒立B	31	大原	57	大間潟	83	新道	109	島灘瀬	135	姥島	161	川上	187	松田
6	細越	32	山田屋敷	58	ヤチ	84	漕上り	110	家掛	136	見対	162	香語田	188	谷内A
7	六地山	33	下稲場	59	峰岡上町	85	浦田	111	林付	137	水戸下	163	稲葉	189	下町
8	四石	34	代官屋敷	60	番場西	86	なえびき橋	112	浦B	138	拾参番割	164	小諏訪前	190	野神田
9	茨曾根	35	原付	61	舟山神社B	87	大島橋	113	浦A	139	湯浦新	165	大橋	191	前畑
10	木山	36	清水上	62	御井戸A	88	中才	114	本田	140	境浦	166	庚塚E	192	仲沖
11	ヤマサキ	37	イタチバラ	63	御井戸B	89	三町歩	115	下新田	141	諏訪ノ木	167	小諏訪前B	193	中沢屋敷
12	茶畑	38	権作	64	堰場B	90	釈迦堂	116	道上荒田	142	浦田乙	168	庚塚A	194	野沖
13	前田	39	上堰場A	65	下町	91	五之上曾根上	117	堤	143	居畑	169	銭淵	195	本町カジ田
14	屋敷添	40	上堰場B	66	舟戸上田B	92	味方曾根下	118	高畑	144	浦田川東	170	花立	196	池田
15	屋敷浦	41	赤坂	67	クリヤ潟	93	フギリ	119	浦歩切	145	上徳	171	十二田	197	弥五郎屋敷A
16	大敷	42	大沢	68	堰場A	94	弥佐エ門	120	万坊江	146	桑橋	172	江添C	198	熊ノ田
17	坂田	43	タテ	69	平田	95	土手内	121	兵蔵	147	長渡	173	五人割	199	中築地
18	ツル子C	44	さかしの	70	七十刈	96	樋切	122	六枚田	148	ヤケ屋敷	174	小川	200	平野
19	ツル子B	45	前平野須恵器窯跡	71	新谷	97	骨田	123	高六	149	斎藤屋敷	175	江添D	201	田中新田
20	吹荒地	46	下田東	72	猿田今山宮	98	与平潟	124	地藏腰	150	万福寺	176	江添E	202	塚塚B
21	ツル子A	47	南赤坂	73	桜田	99	六十歩下	125	古辻	151	松橋	177	江添F	203	樋の浦
22	赤塚神明社	48	越王	74	箕越	100	三角耕地	126	馬堀荒田	152	花見	178	北小脇	204	矢作
23	荒所B	49	菖蒲塚古墳終塚	75	岩室曾根	101	三條田	127	茶院A	153	三角田	179	新保A	205	中築地
24	病院脇	50	峰岡城山	76	長島天神	102	味方用水路	128	長善寺	154	助次郎	180	大保	206	清石エ門新田
25	上谷内B	51	天神C	77	狐塚	103	千日	129	上向	155	横地	181	七嶋	※No.140以降は市外の遺跡	
26	上谷内A	52	重稲場須恵器窯跡	78	大縄	104	西前田	130	島田	156	川下B	182	堅割		

古墳時代も遺跡分布は弥生時代を踏襲したあり方を示す。角田山麓に位置する御井戸B遺跡では古墳時代後期で集落が途絶える状況が推測されている〔前山・相田2004〕が、沖積地における6世紀の遺跡が確認されていないため状況は不明瞭である。しかし、大島橋遺跡(87)・秋葉区の大沢谷内遺跡〔細野・伊比ほか2012〕・田上町行屋崎遺跡〔田畑ほか2015〕などで7世紀の遺物が定量出土しており、この時期に集落が沖積地にも出現し始めた状況が窺える。

飛鳥～平安時代は、丘陵裾部には製鉄遺跡や須恵器窯跡などの生産遺跡が集中するようになり、角田山東麓には前平野須恵器窯跡(45)・重稲場須恵器窯跡(52)がある。遺跡で立地で分けると、集落遺跡の多くは平野部に分布するようになるが、平成25年度に調査された峰岡上町遺跡(59)のように丘陵上にも集落跡は存在している。また、周辺の内陸砂丘地にも前時代を踏襲するように遺跡が立地する。下稲場遺跡(33)は、未調査ではあるが膨大な量の遺物が採集されており〔花積・半沢1984、山口1994〕拠点的な集落遺跡と考える。同じく砂丘上に立地する的地場遺跡(1)・緒立C遺跡(2)は官衙関連遺跡とされ、四石遺跡(8)のように埋没した砂丘上に立地する遺跡もある。いずれも内水面を利用した古代の様子が窺える遺跡である。

信濃川以西の沖積地では大島橋遺跡(87)が最も古く、鎧潟干拓に伴う飛落川の付け替え工事の際に、地表下約0.6m(包蔵地カードより)で須恵器・土師器が、その下約1.3mで土師器だけが出土したとされ〔山口1984〕、7世紀の飛鳥時代の集落遺跡と考えられる。奈良時代になると沖積地の遺跡は増加し、その初め頃に下新田遺跡のほか、茶院A遺跡(127)(平成20年に「茶院遺跡」から名称を変更)・浦田遺跡(85)・燕市三角田遺跡(153)が出現し、早い段階からの低地利用が窺える。次いで仲歩切遺跡(119)・古辻遺跡(125)(遺跡範囲がまたがる燕市では助次郎遺跡として周知化されている)、さらに平安時代になると沖積地の遺跡数は急増し、釈迦堂遺跡(90)・五之上曾根上遺跡(91)・味方曾根下遺跡(92)・林付遺跡(111)などが存在する。

北約9kmの釈迦堂遺跡では火葬が行われた痕跡が確認され、出土遺物などからも有力者の存在が推測されている〔江口ほか2000〕。県内における古代の数少ない埋葬事例である。また、北西約1.5kmに位置する林付遺跡では、「川合(川井)」や「館」と記された墨書土器や2面廂をもつ大形の掘立柱建物が確認され、石帯や榿状錘などから荘所関連施設の可能性が指摘されている〔相田ほか2012〕。北約5.7kmの五之上曾根上遺跡(91)は、概ね9世紀代に比定される土師器・須恵器を主体に灰釉陶器、奈良時代の土師器や円筒形土製品などが採集されており、未調査ではあるが拠点的な集落と推定されている〔関2000〕。また、周辺にある同時期の樋切遺跡(96)・土手内遺跡(95)も含め、中心的な集落の可能性や、その地下にはさらに古い時代の遺物が存在する可能性も指摘された〔関前掲〕。このように本遺跡を含む周辺地域は、発掘調査があまり行われておらず不明瞭な部分も多い。しかし、前述したように越後平野の地盤沈降で、未発見の遺跡が地中深くに存在する可能性は高いと考える。

第Ⅲ章 調査の概要

第1節 試掘・確認調査

道上地区ほ場整備事業に伴う試掘・確認調査は、平成20年度に事業全区域(140ha)を対象に行っている(図版4)。その後、事業の実施設計に合わせて平成24年度に2か所、平成25年度にも追加の確認調査を実施した。平成20年度に357m²、平成24年度に72.8m²、平成25年度に40m²の現状で469.8m²を行っている。調査はバックホウで表土から徐々に掘削した後、人力により精査を行い、遺構・遺物の有無と土層堆積状況を記録した。トレンチの大きさは、概ね1.5～2.0×2.0～3.0mである。

今回の本発掘調査地点は、平成20・24年度に確認調査を実施している。平成24年度本調査地区(第6次調査区)の現況は水田である。事前の追加調査(第2次)によって現地表面(GL)から0.6～1.2mで黒褐色粘土層の奈良時代遺物包含層が確認され、6Tからは土器片が45点出土している。1・3区の現況は農道および水田、2区の現況は水田である。前年の追加調査(第4次)によって現地表面(GL)から1区では0.7～1.3m、2区では0.8～1.0m、3区では1.2～1.3mで黒褐色粘土層の遺物包含層0.1～0.3mが、さらに連続して暗灰色粘質土層の遺物包含層0.04～0.4mが確認されている。この上下の遺物包含層は全てのトレンチで確認され(第4図)、2時期の生活層の可能性が指摘された。1区では全てのトレンチで遺構が検出され、2区6Tでは土製支脚、8Tでは手づくね土器2点を含む143点の土器片が出土し、現集落側に向かって遺構・遺物の密度が高い状況であった(第3図)。以上の結果から、遺跡範囲内で保護層が確保されない部分について記録保存のための本発掘調査を実施し、それ以外の部分については工事立会をすることとなった。なお、本発掘調査対象外であるが、平成20年度調査の116Tでは現地表面(GL)から約0.42mで土坑が検出され、9世紀後半の土器がまとまって出土している(図版60)。

第2節 本発掘調査

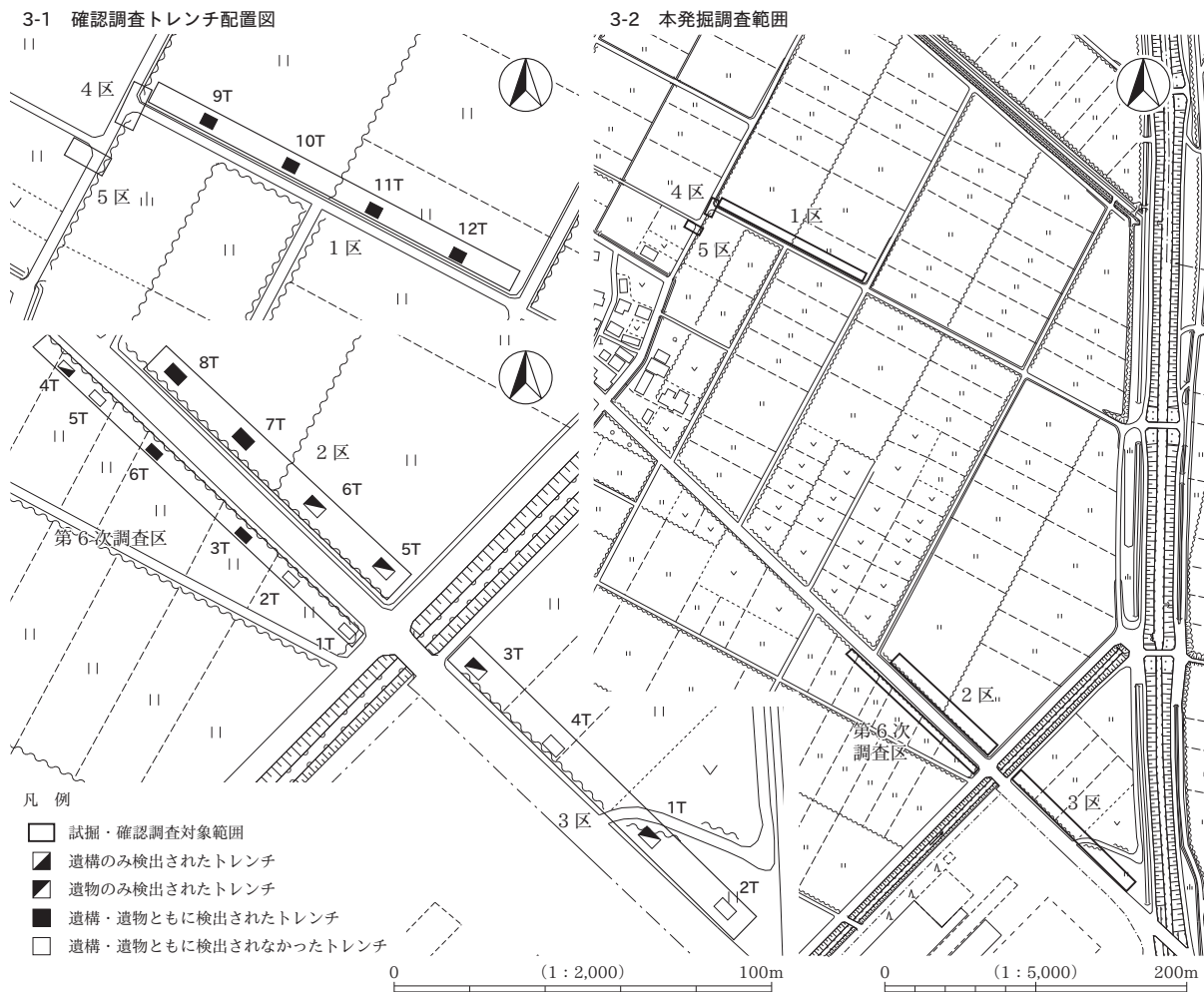
A 調査方法

1) グリッドの設定(図版5)

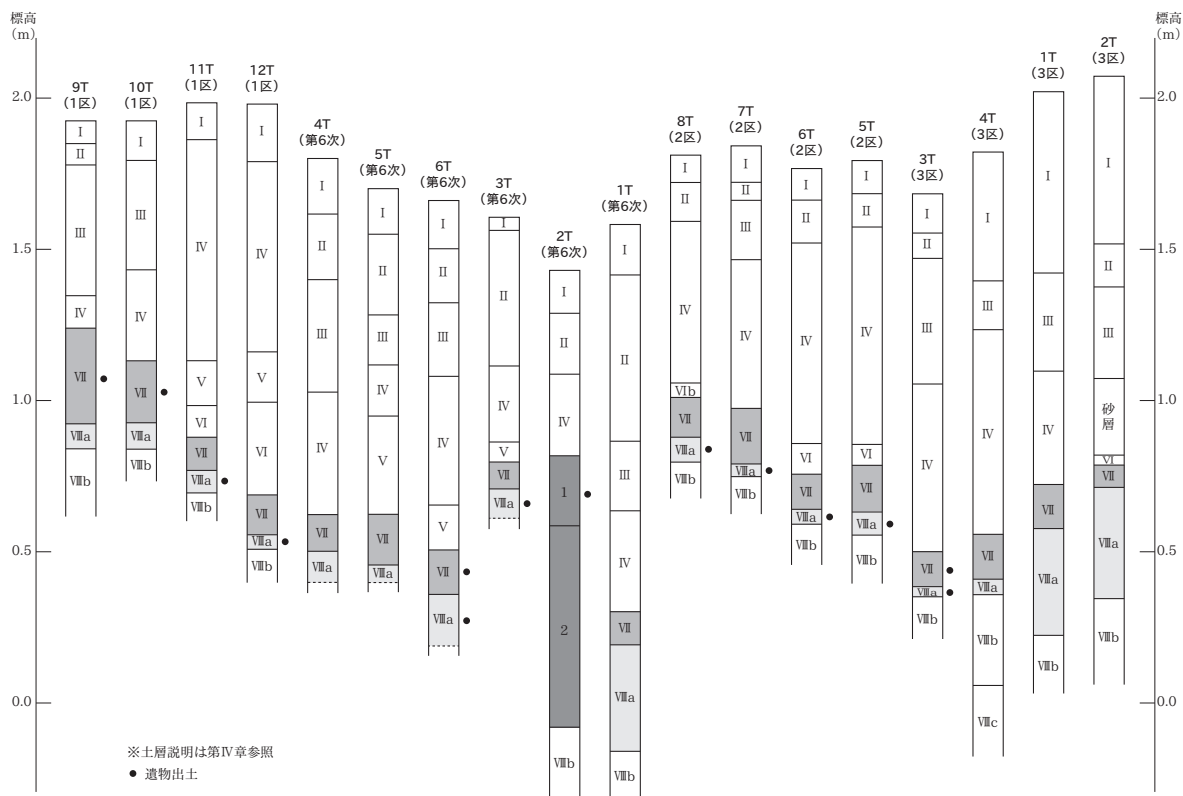
グリッドは、平成24年度の第6次調査の際に設定したが、翌年の本発掘調査地点が原点よりも北側に及ぶことから、調査成果の整合性が保たれるよう、道上地区ほ場整備事業用地内を網羅するように原点を移動した。この際、第6次調査で使用したグリッドとの重複を避けるため、1000m方眼をA・B・C…区として各区ごとに100m方眼の大大グリッドおよび10m方眼の大グリッドを組んだ。新しい原点はX座標194900.000m・Y座標39500.000m(世界測地系2011, 平面直角座標系第Ⅷ系)、緯度37°45′20″04626・経度138°56′53″80738とした。大グリッドの名称は、北西隅(原点)を「1A・1A」杭として南北方向をアラビア数字、東西方向をアルファベットで表した。大大グリッドは大グリッドの前に表記し、大グリッドをさらに2m方眼で区切って25分割する小グリッドを設定し「D-3I-8D15」のように呼称した。基準杭の打設は測量業者に委託した。本書で扱う本発掘調査区全体のほぼ中央D-2I-5C1杭(X座標193760.000m、Y座標41320.000m)で、南北方向を座標北の0度0分0秒とし、座標北は真北に対し0度17分13秒東偏し、磁北は真北に対して7度51分西偏する。

なお、発掘調査区6点北西隅の座標は次のとおりである。

第6次調査区 D3H3I1 (X座標193680.000m・Y座標41280.000m、緯度37°44′40″1903
経度138°58′06″2792)



第3図 確認調査トレンチ配置図と本発掘調査範囲



第4図 確認調査土層柱状図

- 1区 B10H4A1 (X座標 193970.000m・Y座標 41200.000m、緯度 37° 44′ 49″ 6100
経度 138° 58′ 03″ 0705)
- 2区 D3I5D19 (X座標 193654.000m・Y座標 41336.000m、緯度 37° 44′ 39″ 3378
経度 138° 58′ 08″ 5614)
- 3区 D4J2A1 (X座標 193590.000m・Y座標 41400.000m、緯度 37° 44′ 37″ 2514
経度 138° 58′ 11″ 1626)
- 4区 B10G4J2 (X座標 193970.000m・Y座標 41192.000m、緯度 37° 44′ 49″ 6113
経度 138° 58′ 02″ 7437)
- 5区 B10G5H10 (X座標 193958.000m・Y座標 41178.000m、緯度 37° 44′ 49″ 2243
経度 138° 58′ 02″ 1693)

2) 調査方法

① 表土剥ぎ 確認調査結果から遺物包含層(VII層)までの深さが平均して1mを超えていたため、安全のため壁面に勾配や段を付け、遺物の出土に注意しながら重機(バックホウ)により除去した。また、VII層からの遺物出土は少ないと予想されたため、場所によっては下の包含層(VIIIa層)上面まで重機による掘削を数cmの厚さに切り替え掘り下げていった。工事の掘削幅が約3mと狭く旧地表面まで安全勾配の傾斜をつけると、旧地表面の上面でも幅が1mに満たない部分が多くあった。また、湛水防止のために表土剥ぎと並行して調査区の周囲および調査区内に土側溝を掘り、2時のポンプで強制排水を行った。土側溝は人力で掘削し、幅20cm、深さ20cm程度の溝で、壁面を垂直に掘ると崩壊する恐れがあるため緩く傾斜をつけたV字の溝である。土側溝による遺構の破壊が考えられたが、湛水により調査が不能になることを防ぐ処置である。

② 包含層掘削・遺構検出・発掘 重機で掘削後、人力で行った。包含層は連続した2層(VII・VIIIa層)であるが、場所によって厚さが大きく異なり平面的には非常に区別のつきにくい状況であった。遺構の発掘は、半裁して覆土の観察・記録後に完掘を行ったが、細長い調査区を分断する溝状遺構や壁面にかかる遺構が多く、覆土の観察・記録と完掘とが同時になる場合も多くあった。なお、排土は人力で調査区外へ搬出した。

③ 実測・写真 調査に係る実測・測量は全て測量業者に委託した。断面実測は手取りと写真測量を併用し、平面実測はトータルステーションを用いて作成した。遺構断面・平面の写真撮影は、デジタル・35mm版・6×7版のカメラを用い、白黒フィルム・カラーポジフィルムを調査員が適宜選択しながら行った。遺構の全体(俯瞰)写真撮影は、測量業者がラジコンヘリコプターにより行った。

④ 遺物取り上げ 包含層出土遺物は、小グリッド単位あるいはトータルステーションによる地点測量で取り上げた。遺構出土遺物については、分かる範囲で層位・小グリッド単位で取り上げた。

⑤ 自然科学分析 古環境復元や栽培植物の解明のために植物珪酸体・プラントオパール・花粉・樹種・種実の各分析を行い、遺跡の下限や遺構の年代推定の参考とするために放射性炭素年代測定を実施した。分析は専門業者に委託した。

B 調査経過

1) 第6次調査の経過

平成24年11月5日から諸準備を開始した。調査区の幅が3mと狭く旧地表面までが深いことに加え、地域の主要道路である県道脇であることから、全長約120mを5分割して調査を実施した。表土剥ぎおよび埋め戻しもその都度行った。13日から最初の区画である東端約20mについて重機による表土掘削を開始した。それと並行して土側溝掘削、法面仕上げを行った。雨が降るとたちまち調査区が水没してしまう状況にあり、排水作業をしながらの包含層掘削・遺構精査・掘削であった。県道側の壁面には合板数枚ずつを当て単管を打ち込みながら調査を進めた。19日から次の区画、26日からは3区画目の調査に移行した。遺物包含層が2面確認され

たが、平面では上層（後に、これより上層で畠跡が確認され中層へ変更になる）の遺構確認面が不明瞭であり、基本的に下層の遺構確認面（Ⅷb層）まで下げて遺構精査を行った。また、並行して行っていた壁面の記録中に畠の畝の高まりが20条以上確認された。これまで上層と捉えていた層よりも上の層位であり、遺物の出土もなかったため遺構の時期は不明とせざるを得なかった。12月3日から4区画目、4日からは最後の区画の調査に移行した。12月5日には全ての壁面の層序記録を行い調査が終了し、6日に機材等を撤収した。

2) 第8次調査(1・2・3区)の経過

平成25年7月29日から諸準備を開始し、調査員2名体制で8月6日から1区の調査に入る。重機による表土掘削と並行して土側溝掘削、法面仕上げを行った。8日から測量業者による杭打ちが行われ、22日に表土掘削を終了すると、26日からは1区と3区に分かれて調査を行った。1区は包含層掘削・遺構精査、3区は重機による表土掘削を開始した。さらに9月24日からは調査員3名体制で2区の表土掘削を開始し、3地区同時に調査を実施した。徐々に人員を増やししながら調査を進めたが、調査区は幅が狭く湧水による足場も悪いため、多くの人員を投入する事が出来ず、調査は思うように進まなかった。壁面の層序記録中、第6次調査に続き1・2区で畠の畝状遺構が、また1・3区では水田の大畦畔が壁面で確認された。また、1区中層の遺構密度は高く、上・下面で遺構が検出されるという状況が確認できた。3区の表土掘削中に、北西から約25m部分で砂層に溜まった地下水が噴き出し、遺構確認面や壁面を崩落させた。急遽、広い範囲の土留めを行い崩落を止め調査を続けた。10月2日には旧農道・水路で後世の攪乱が予想された3区南東端約18m分について、重機による表土掘削を開始した。予想通り地表面下約1.2mまで削られて盛土されていたため、崩れやすく重機による掘削はより慎重に行った。しかし、壁面の崩落が著しく、安全のために十分な記録を取ることができないまま埋め戻すことにした。

3区は、中層調査終了の8日、下層調査終了の11月6日に高所作業車による撮影を行った。1区は、中層上面の遺構調査がほぼ終了した10月19日にラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を行った。その後、1区中層下面、2区中層の遺構調査がほぼ終了した11月1日にはラジコンヘリコプターによる2回目の空中写真撮影を行った。23日には地元住民への現地説明会を行い40名の参加があった。その後2区下層調査を12月18日に終了し、27日までに機材等を撤収した。

3) 第9次調査(4・5区)の経過

9月17日に追加調査の必要性が生じたため、1区調査終了後の11月11日から4区の調査を開始する。表土掘削と並行して土側溝掘削、法面仕上げを行い、隣接する1区から延びる水田の大畦畔を上層で確認した。続いて包含層掘削・遺構精査を行ったが、悪天候のため調査区が度々水没した。また、遺構・遺物の密度も高く、調査は遅々として進まなかった。そこで、調査期間短縮のために21日からは5区の表土掘削を開始し、4区と並行して調査を行った。4区に比べて5区は上層の遺構も不明瞭で中・下層遺構も希薄、出土遺物も少なかった。4区が10日に、5区が11日に調査を終了した。

最終的な発掘調査面積は、第6次調査区上端面積：348.00m²、下端面積：151.00m²、1区上端面積：559.26m²、下端面積：153.60m²、2区上端面積：354.31m²、下端面積：121.92m²、3区上端面積：377.80m²、下端面積：98.63m²、4区上端面積：70.20m²、下端面積：23.94m²、5区上端面積：50.17m²、下端面積：12.02m²である。合計面積は上端面積：1,759.74m²、下端面積：561.11m²である。ただし、各調査区で中・下層と随時遺構確認面を掘り下げながら調査を行ったため、抄録に記載した発掘調査面積とは異なる。

C 調査体制

【平成24年度：第6次調査】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長 高橋 保 所長補佐 丸山憲幸 主任 渡邊朋和）
調査担当	潮田憲幸（新潟市文化財センター 主査）

【平成 25 年度：第 8・9 次調査】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長 中野俊一 所長補佐 丸山憲幸 主任 遠藤恭雄）
調査担当	龍田優子（新潟市文化財センター 主査）
調査員	牧野耕作（新潟市文化財センター 嘱託） 長澤展生（株式会社シン技術コンサル）

第 3 節 整理作業

A 整理方法

1) 遺物

第 6 次調査でコンテナ（内寸 54.5×33.6×10.0cm）8 箱、第 8・9 次調査で 93 箱の遺物が出土している。土器が中心であり、他に土製品・石製品・鍛冶関連遺物・木製品などが出土している。

遺物の整理作業は、①洗浄→②注記→③グリッド別、種別の重量計測→④接合→⑤報告書掲載遺物の抽出→⑥実測図・観察表作成→⑦トレース図作成→⑧仮割付作成→⑨写真撮影→⑩版下作成の順を基本とし作業を行った。このうち⑦と⑩は業者に委託してデジタル編集を行い、⑨も業者に委託した。

2) 遺構

現場の測量図はすべて測量業者作成のものであり、トータルステーションで測量した遺構平面図および壁面図は 1/20 で出力したものを校正した。手取りの断面図についてはデジタル化して出力したものを校正した。また、平面図・断面図の整合については、それぞれ確認した図面等を用いて作業を行い、原図と校正図データを残した。現場で撮影した記録写真は、フィルム写真はフィルムの現像・ベタ焼き（ネガフィルムのみ）を行いアルバムに収め、デジタル写真は撮影日ごとに整理した。フィルム写真は画像ごとに露出が適正なコマをデジタル化した。

B 整理経過

出土遺物の洗浄・注記・計測作業は発掘調査と並行して行い、現場でほぼ終了した。その後の作業は、平成 25 年度の調査終了後に行ったが、現地説明会等のために現場で接合までの作業を行ったものもある。また、測量業者に委託した遺構実測図等の測量図は、平面図・断面図の整合の後に掲載遺構の抽出を行い、図面図版・写真図版のレイアウトを行った。平成 26 年度に全体編集等を行い、平成 27 年度に報告書を刊行した。

C 整理体制

【平成 25 年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長 中野俊一 所長補佐 丸山憲幸 主任 遠藤恭雄）
整理担当	龍田優子（新潟市文化財センター 主査）
調査員	牧野耕作（新潟市文化財センター 嘱託） 長澤展生（株式会社シン技術コンサル）

【平成 26 年度】

調査主体	新潟市教育委員会（教育長 阿部愛子）
所管課・事務局	新潟市文化財センター（所長 中野俊一 所長補佐 福地康郎 主任 遠藤恭雄）
整理担当	龍田優子（新潟市文化財センター 主査）

第Ⅳ章 遺 跡

第 1 節 概 要

下新田遺跡は中ノ口川左岸の自然堤防上の微高地に立地する。今回の調査地は、北西から南東方向に細長くのびる遺跡の中央部～南東側に当たる。現地表面の標高は 1.7～2.5m で現集落北端部分がやや高く、北東に向かって緩やかに下っていく。現地表面から遺構確認面（中・下層）までの深さは、北西側が浅く南東側では深くなり遺構確認面（下層）の標高は、0.3～1.4m を測り、北西から南東に向かい下っている。本発掘調査地は用排水管敷設および農道建設に伴う路線調査であり調査地区が複数に分かれていたため、平成 25 年度調査（第 8・9 次調査）分については便宜上 1～5 区と呼称し、平成 24 年度調査区は本遺跡の通算発掘調査回数から第 6 次調査区とした。

遺物包含層は連続した上下の 2 層であり、遺構はそれぞれの下面と上層包含層の上面で検出される。上層の遺構は水田跡（畦畔状遺構）や畠跡（畝状遺構）などであり、主に壁面の土層堆積で確認した。また、中・下層では井戸・土坑・溝状遺構・小土坑・性格不明遺構などが確認された。出土遺物などの状況から古代に属する。なお、全ての調査区域が細長く狭小なため遺構全体を調査できず、一部分の調査に限られているものが多い。さらに調査地区が分かれて広範囲に及ぶため、ひとつの遺跡として記載するよう努めたが、統一した表記にはならず、逆に煩雑になってしまった場合もある。

出土遺物は、第 6 次調査でコンテナ（内寸 54.5×33.6×10.0cm）8 箱、第 8・9 次調査で 93 箱である。各調査区で異なるが、奈良（8 世紀前半）・平安時代（9 世紀後半）の土器が主体で、中世土師器・土製品・鍛冶関連遺物・石製品・木製品も認められる。

第 2 節 層 序（図版 8、写真図版 17・23・28・29）

基本層序を図版 8 に示す。基盤層まで大きく 8 層に分けられる。過去の調査結果を参考に分層したが abc…などの細分は独自に設定し、細々分した場合はその根拠を記し、その多寡を「>」の記号で示した。各調査区で上・中・下層に分かれ、1・4 区では、水田・畠跡が確認できるⅦ層にその他の遺構も多く検出されたため、2・3・第 6 次調査区とは異なり中層のⅦc 層を上・下面に分けて記載した。なお、各調査区の層序対応関係も以下に示した。

包含層はⅦ層とⅧa 層である。Ⅶ層からは奈良・平安時代の遺物、Ⅷa 層からは主に奈良時代の遺物が出土している。Ⅷa 層は場所によってごく薄い堆積のためⅦ層にみられる遺物には下層から表出した遺物が含まれている。遺構確認面はⅦ層上・下面とⅧa 層上面とⅧb 層上面である。Ⅶ層はⅦa 層上面で水田・畠跡の上部が確認できるものの、実際にはⅧa 層上面まで削り込んだところで遺構の検出作業を行っているため、細長い調査区の両壁面で遺構の掘り込みや土層の堆積を確認している。Ⅶa～b 層上・下面で検出される遺構（以下、上層遺構という）は平安時代、Ⅶc2・Ⅶc3・Ⅷa 層上面で検出される遺構（以下、中層遺構という。なお 1・4 区の検出面は、Ⅶc2 層を中層上面、Ⅶc3 層を中層下面として扱った）は奈良・平安時代、Ⅷb 層上面で検出される遺構（以下、下層遺構という）は奈良時代と考える。

- I 層 灰黄褐色粘質土（10YR6/2）粘性ややあり。しまりややあり。表土・耕作土・盛土などを一括した。
- Ⅱa 層 灰白色粘質土（10YR7/1）粘性ややあり。しまりややあり。水田床土としての還元作用と耕作による攪拌が目立つ。暗 2>1

- II b 層 灰白色粘質土 (10YR7/2 ~ 6/1) 粘性ややあり。しまりややあり。場所により消失する。
- III a 層 青灰白色砂質土 (10YR7/1 ~ 6/1) 粘性あり。しまりあり。混入物は少ない。
- III b 層 褐灰色砂質土 (10YR6/1) 粘性あり。しまりあり。粒径の細かい砂を微量含む。
- III c 層 褐灰色砂質土 (10YR5/1) 粘性なし。しまりあり。粒径のやや小さい砂を中量含む。
- III d 層 褐灰色砂質土 (10YR6/1) 粘性あり。しまりあり。粒径の細かい砂を微量含む。
- IV a 層 黄灰色砂質土 (2.5Y6/1 ~ 7/1) 粘性なし。しまりややあり。1区全体に安定して堆積する。水酸化鉄を含む。
暗 1>2
- IV b 層 灰色砂質土 (7.5Y4/1) 粘性あり。しまりあり。水酸化鉄を多量含む。粘性 1>2>3
- IV c 層 黄灰色砂質土 (2.5Y6/1) 粘性なし。しまりややあり。水酸化鉄を少量含む。部分的に堆積する。
- IV d 層 灰白色砂質土 (2.5Y7/1) 粘性あり。しまりあり。水酸化鉄を少量含む。部分的に堆積する。
- V a 層 オリーブ灰色砂質土 (5GY6/1 ~ 5/1) 粘性あり。しまりあり。水酸化鉄を中~多量含む。ラミナ堆積。
暗 2>1
- V b 層 オリーブ灰色砂質土 (5GY7/1) 粘性あり。しまりあり。水酸化鉄を含む。ラミナ堆積。
- VI a 層 オリーブ灰色シルト (5GY6/1) 粘性ややあり。しまりあり。未分解腐植物を少~多量含む。ラミナ堆積。
2区・3区・6次調査区付近に安定して堆積する。
- VI b 層 褐灰色シルト (10YR6/1) 粘性あり。しまりややあり。未分解腐植物を少量含む。白色塊を含む。ラミナ堆積。
- VI c 層 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性あり。しまりややあり。未分解腐植物を含む。白色塊を含む。ラミナ堆積。
- VII a 層 黒褐色~黄灰色粘質土 (5YR3/1 ~ 2.5Y4/1) 粘性あり。しまりあり。1・4区の水田畦畔上部の攪拌層 (VII a1・2・3・5層) や畠 (VII a4層) を構成する。調査区全体にはVII a6層が安定して堆積する。包含層 (上層、上面-畠跡・水田跡の上部確認面)
- VII a1 層 褐灰色~黄灰色粘質土 (10YR4/1 ~ 2.5Y4/1) 粘性あり。しまりあり。未分解腐植物を少量含む。炭化物 φ2 ~ 7mm を少量含む。VIII層ブロック φ5mm を微量含む。
- VII a2 層 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性あり。しまりあり。未分解腐植物を少量含む。炭化物 φ5mm を少量含む。
- VII a3 層 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性あり。しまりあり。未分解腐植物を少量含む。炭化物 φ3 ~ 7mm を少量含む。
- VII a4 層 褐色粘質土 (7.5YR4/3) 粘性あり。しまりややあり。未分解腐植物を多量含む。
- VII a5 層 黄灰色粘質土 (5YR4/1) 粘性あり。しまりあり。炭化物 φ2 ~ 5mm を少量含む。VII c層ブロック φ5mm を多量含む。
- VII a6 層 黒褐色粘質土 (5YR3/1 ~ 10YR3/1) 粘性あり。しまりあり。未分解腐植物を少量含む。炭化物 φ3 ~ 5mm を少量含む。VIII層ブロック φ5 ~ 7mm を少量含む。
- VII b 層 黄灰色~黒褐色粘質土 (2.5Y4/1 ~ 10YR3/1) 粘性あり。しまりあり。VII c・VIII層ブロックを少量~中量含む。炭化物 φ5mm を微~少量含む。3区水田畦畔上部の攪拌層や2区の畠を構成する。包含層 (上層、上面-遺構確認面) 粘性 1>2>3>4>5
- VII c 層 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1 ~ 6/1) 粘性ややあり。しまりあり。VIII層ブロック φ5 ~ 15mm を少~中量含む。包含層 (中層 (1・4・5区の中層上・下面)、上面-遺構確認面) 砂質 3>2>1
- VIII a 層 灰色~青灰色粘質土 (N5/1 ~ 5BG6/1) 粘性ややあり。しまりあり。炭化物 φ1 ~ 10mm を含む。未分解腐植物を含む。包含層 (中層、上面-遺構確認面) 未分解腐植物 2>1
- VIII b 層 青灰色シルト (5BG5/1 ~ 4/1) 粘性なし。しまりあり。未分解腐植物を含む。(下層、上面-遺構確認面)
暗 2>1

VIII c 層 暗青灰色砂質土 (5G5/1) 粘性なし。しまりあり。青灰色砂層との互層。無遺物層。

第3節 遺 構

A 遺構の概要

遺構名は、遺構の性格を示す(種別)記号と数字によって付けている。種別記号は〔文化庁文化財部記念物課2010)を参考に井戸-SE、土坑-SK、溝状遺構-SD、性格不明遺構-SX、柱穴・ピット-SPとし、遺構番号は遺構の種類に関係なく各調査区で検出順に付けた。なお、畝跡(畝状遺構)と水田跡(畦畔状遺構)は同じ「SN」であったため、必要に応じて「SN(畝跡)」や「SN(水田跡)」のように種別記号に続けて()内に記載した。本文では、調査区ごと(調査地の北方向から1・4・5・2・3・第6次調査区の順)に上層、中層、下層遺構の順で主な遺構のみ記述した。なお、各遺構の属性や詳細な計測値等は別表1に示した。主軸方位の計測については、溝状遺構など長軸が捉えやすいものについて示した。平面形(円形・楕円形など)・断面形(弧状・台形状・皿状・U字状・V字状など)・覆土の堆積についても記載したが、調査区壁面で検出した遺構も多く判断が難しい。切り合い関係については、同一検出面における新旧関係を示し、上・中・下層間の関係は省略している。ここでは個別図で図示した代表的な遺構について主に説明する。なお、2区第6次調査区は隣接地だが、遺構のつながりは追いきれなかった。

B 遺構各説

1) 1区の遺構(上層)

黒褐色粘質土等からなるVII a～VII b層中に帰属するかあるいは、その可能性が高い遺構を一括した。SN(水田畦畔)9条、VII a4層中に畝と畝間で構成されるSN(畝跡)、SD12基が検出された。SD54～56・111～113・115・116は、水田跡との位置関係などから水田跡に伴う可能性が高く、調査区東側の低地で検出された。また、畝跡と考える溝状遺構は調査区西側の微高地で多数認められた。

a 水田跡(SN)

調査区東半のB-10H-6E～8Iにかけて、VII a～VII b層下面を遺構確認面とする主に畦状遺構からなる水田跡を検出した。これらは全て調査現場で調査区壁面の土層断面で確認したもので、畦状遺構の形状および主軸方向は土層断面から復元した。畦状遺構はVII a6層上面に構築されたSN120(1・3層)・128・129と、VII a4層下面～VII b層下面にかけて構築されたSN118・119・120(5・7層)・121・124に2分できる。

SN118(図版9・10、写真図版5) B-10H-8I14・19・24に位置する。遺構プランは南北両壁面の土層断面から復元した。遺構確認面はVII b4層下面で南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-3°-Wを指し、確認面での短軸0.50m、高さ0.16mを測る。3層の盛土からなる。SD117を切るが、SD56との新旧関係は明瞭でない。遺物は出土していない。

SN119(図版9・10、写真図版5) B-10H-8I6・7・11・12に位置する。遺構プランは南北両壁面の土層断面から復元した。遺構確認面はVII b4層下面で南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-37°-Wを指し、確認面での短軸0.30m、高さ0.22mを測る。2層の盛土からなり台形状を呈する。SD55・115・116に切られる。遺物は出土していない。

SN120(図版9・10、写真図版5) B-10H-7H22・23、8H2～4に位置する。遺構プランは南北両壁面の土層断面から復元した。遺構確認面はVII a2層下面で南北端は調査区外へ延びる。土層断面の観察から8層に分層され、VII a1層上面までの存在が確認された。4a層としたVII a6相当層上面の1・2層と3層の盛土2基と、6層としたVII b層上面相当の5層、同層下面相当の7層の合計4基の畦状遺構からなる。遺物は出土していない。

1～4期に区分し、古い順に説明する。1期は主軸がN-11°-Wを指し、確認面での短軸0.21m、高さ0.18m

を測り、7層に相当する。SD54と重複し当遺構が新しい。2期は主軸が若干西に向きN-17°-Wを指し、短軸0.17m、高さ0.17mを測り5層に相当する。3期は主軸がさらに西向きのN-19°-Wを示し、短軸0.20m、高さ0.11mを測り、3層に相当する。4期は主軸が最も西向きのN-25°-Wを指し、短軸0.78m、高さ0.61mと規模が大きくなる。2層に分層され、上面にはVIIa1層が堆積する。なお、4a・bと6層は水田面の可能性がある。SN121(図版9・11) B-10H-7F4・5に位置する。遺構プランは南北両壁面の土層断面で復元した。遺構確認面はVIIb4層下面で南北端は調査区外へ延びる。確認面での短軸0.80m、高さ0.10mを測り単層の盛土からなる。SD112を切るが、SD111・113に切られる。上部にはVIIa6層を挟んでSN128が存在する。遺物は出土していない。

SN124(図版9・11) B-10H-7G12～14に位置する。遺構プランは南北両壁面の土層断面で復元した。遺構確認面はVIIb4層下面で南北端は調査区外へ延びる。確認面での高さ0.11mを測り単層の盛土からなる。上部にはVIIa6層を挟んでSN129が存在する。遺物は出土していない。

SN128(図版9・11) B-10H-6F24、7F3～5・10に位置する。遺構プランは南北両壁面の土層断面で復元した。遺構確認面はVIIa1層下面で南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-9°-Eを指し、確認面での短軸2.40m、高さ0.15mを測り2層の盛土からなる。下部にはVIIa6層を挟んでSN121が存在する。遺物は出土していない。

SN129(図版9・11) B-10H-7G8・12～14に位置する。遺構プランは南北両壁面の土層断面で復元した。遺構確認面はVIIa4層上面で南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-78°-Eを指し、確認面での短軸は1.40m、高さ0.14mを測り単層の盛土からなる。下部にはVIIa6層を挟んでSN124が存在する。遺物は出土していない。

b 畝 跡 (SN) (図版9・11・12、写真図版5・6)

調査区西半のB-10H-4B～6Eで確認された。これらは調査区南北両壁面のVIIa4層中で明瞭に観察された。VIIa4層は未分解腐植物を主体とする土壌で、確認面での短軸0.59～1.15m、深さ0.13～0.25mを測る。断面形が溝状の畝間(1・2層)が比較的等間隔に並び、その左右両側は畝の盛土(3層)と考えられる。また畝間の直下には粘性・しまりのある土壌(5層)も部分的に認められた。

この畝跡を構成するVIIa4層は、10H-6E13・14付近で水平的な堆積となり、この西側が畝跡の区域となる。後述するが(第七章)、東側の水田跡との時間的な前後関係は、畝跡が認められるVIIa4層とVIIa6層相当と考えるSN(水田跡)120の4a層の関係から、畝はSN120の3・4期が残存するVIIa6層以後の形成と考えられるものの、一律ではない。また、畝跡は多数の畝・畝間で構成されるため、遺構番号は付けず観察表と代表的な土層断面を示した。遺物は出土していない。なお、この畝跡は主にVIIa4層で確認されることから、中層(上面・下面)図面図版に出てくる際は、便宜上「VIIa4」と表記した。

c 溝状遺構 (SD)

上層に属する溝状遺構は、前述のように畦状遺構に伴って水田跡を構成していた可能性もある(SD54～56・111～113・115・116)。

SD1(図版9・12、写真図版6) B-10G-3J19・20・24・25、4J5、10H-4A1に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はVIIb4層上面で、主軸はN-35°-Wを指し、確認面での深さ0.23mを測る。断面形は弧状を呈する。覆土は5層に分層され、レンズ状堆積がみられる。土師器食膳具・煮炊具を主体に須恵器甕や黒色土器の小片、鉄滓がわずかに出土している。土師器無台椀(1)、須恵器有台杯(2)・壺・瓶類(3)・甕(4)を図示した。

SD2(図版9・12、写真図版6) B-10H-4A1～3・7・8に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はVIIa6層上面で、主軸はN-34°-Eを指し、確認面での短軸2.70m、深さ1.14mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は5層に分層されレンズ状堆積がみられる。規模や形状から旧流路跡の可能性もある。土師器食膳具、須恵器無台椀・有台椀・甕・横瓶(5)が出土している。

SD6(図版9・12、写真図版6) B-10H-5C8に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はVIIb1層上面で、主軸はN-31°-Eを指し、確認面での短軸0.45m、深さ0.51mを測る。断面形はU字状を呈する。覆土は8層

に分層されレンズ状堆積がみられる。非ロクロの土師器甕・食膳具、須恵器有台杯、黒色土器無台碗(6)が出土している。

SD54 (図版9・10、写真図版6) B-10H-7H24、8H4・9に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はVIIb4層下面で、主軸はN-5°-Eを指し、確認面での短軸1.70m、深さ0.31mを測る。基底面は凹凸が著しく小穴状に起伏し、覆土は2層である。SN(水田跡)120に切られるが、位置関係などからこの水田に関連する遺構の可能性はある。非ロクロの土師器甕を主体に、須恵器甕(7)が出土している。

SD55 (図版9・10、写真図版6) B-10H-8H5・10、8I6に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はVIIb3層下面で、主軸はN-36°-Wを指し、確認面での短軸0.50m、深さ0.07mを測る。覆土は単層で、SN(水田跡)119を切るが、位置関係などからこの水田に関連する遺構の可能性はある。遺物は出土していない。

SD56 (図版9・10、写真図版5) B-10H-8I19・20・24・25に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はVIIb4層下面で、主軸はN-11°-Wを指し、確認面での短軸1.50m、深さ0.14mを測る。基底面は凹凸が著しく小穴状に起伏する。覆土は単層で、SN(水田跡)118を切るが、位置関係からこの水田に関連する遺構の可能性はある。遺物は出土していない。

SD111 (図版9・11) B-10H-7F4に位置する。遺構確認面はVIIb4層上面で、南壁土層断面で検出された。確認面からの深さ0.06mを測り、覆土は単層である。SN(水田跡)121を切る。遺物は出土していない。

SD112 (図版9・11) B-10H-7F4に位置する。遺構確認面はVIIc1層上面で、南壁土層断面で検出された。確認面からの深さ0.16mを測り、覆土は単層である。SN(水田跡)121、SD113に切られる。遺物は出土していない。

SD113 (図版9・11) B-10H-7F4・5に位置する。遺構確認面はVIIc1層上面で、南壁土層断面で検出された。確認面からの深さ0.16mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SN(水田跡)121、SD112を切る。遺物は出土していない。

SD115 (図版9・10) B-10H-8I11・12に位置する。遺構確認面はVIIb4層下面で、南壁土層断面で検出された。確認面からの深さ0.12mを測り、基底面は凹凸が著しい。覆土は単層である。SN(水田跡)119を切るが、位置関係などからこの水田に関連する遺構の可能性はある。遺物は出土していない。

SD116 (図版9・10) B-10H-8I12・13・18に位置する。遺構確認面はVIIb4層上面で、南壁土層断面で検出された。確認面からの深さ0.19mを測り、基底面は凹凸が著しい。覆土は2層に分層される。SN(水田跡)119を切るが、位置関係などからこの水田に関連する遺構の可能性はある。遺物は出土していない。

2) 1 区 の 遺 構 (中層上面)

黄灰色粘質土をベースとするVIIc層を遺構確認面とするが、1区東側を中心にVIIc2層上面とVIIc3層上面を確認面とする遺構があり、前者を中層上面遺構、後者を中層下面遺構として扱った。検出された遺構はSK17基、SD26基、SX1基、SP8基の計52基である。

a 土 坑 (SK)

SK19 (図版13・14 写真図版7) B-10H-4B11・16に位置する。土層断面で検出され、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.25mを測り、断面形は台形状を呈する。覆土は2層に分層され、レンズ状堆積がみられる。SD11を切る。遺物は出土していない。

SK20 (図版13・14 写真図版7) B-10H-4B11に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.43mを測る。断面形はやや漏斗状を呈する。覆土は4層に分層されレンズ状堆積がみられる。SK81、SD11を切る。非ロクロの土師器甕・杯(14)が出土している。

SK48 (図版13・14 写真図版7) B-10H-7G1・6に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.19mを測り断面形は皿状を呈する。覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SK52 (図版13・15 写真図版7) B-10H-5D24・25に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.30mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は3層に分層されレンズ状堆積がみられる。土側溝

で南側は遺存せず、西側はSK53に切られる。非ロクロの土師器甕の小片がわずかに出土している。

SK53 (図版13・15 写真図版7) B-10H-5D24に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.41mを測る。断面形はU字状を呈し、覆土は3層に分層される。SK52を切る。須恵器甕(15)を図示したが、非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SK58 (図版13・15 写真図版7) B-10H-5D17に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.33mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK59 (図版13・14 写真図版7) B-10H-7F5に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.23mを測り、覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK60 (図版13・14 写真図版7) B-10H-4B17・18に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.51mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は3層に分層される。東側はSD40に切られる。遺物は出土していない。

SK78 (図版13・15) B-10G-3J19に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.33mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は3層に分層されレンズ状堆積がみられる。遺物は出土していない。

SK79 (図版13・15 写真図版8) B-10H-3A21、4A1・2に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。土側溝で南側は遺存しない。確認面での深さ0.32mを測り、覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK81 (図版13・14 写真図版7) B-10H-4B11に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。西側はSK20に切られ、土側溝で南側は遺存していないため、遺構プランは不明瞭である。覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK93 (図版13・14 写真図版7) B-10H-4B12・17に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。土側溝で南側は遺存せず、遺構プランは不明瞭である。断面形は漏斗状を呈し、覆土は5層に分層されレンズ状堆積がみられる。遺物は出土していない。

SK97 (図版13・15) B-10H-5C1・2に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。土側溝で南側は遺存せず、遺構プランは不明瞭である。確認面での深さ0.33mを測る。覆土は2層に分層される。SK98を切るが、SD12・13・96には切られる。遺物は出土していない。

SK103 (図版13・15 写真図版8) B-10H-5D18・23・24に位置する。土層断面で検出され、北側は調査区外へ延びる。土側溝で南側は遺存せず、遺構プランは不明瞭である。確認面での深さ0.33mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SK114 (図版13・15) B-10H-7F10、7G6に位置する。土層断面で検出され、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.12mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

b 溝状遺構 (SD)

①規模が大きく自然流路の可能性が高いもの (SD11・82)、②畝跡と考えるもの (SD3・4・7～9・13・21・22・88～91)、③上記以外の区画溝と考えるもの (SD10・38～40・42・43・63・110) がある。

SD3 (図版13・16 写真図版8) B-10H-4B24・25、5B5に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-28°-Eを指し、確認面での短軸1.20m、深さ0.24mを測る。断面形は台形状を呈し覆土は3層に分層される。SP95に切られる。図示し得なかったが、ロクロ・非ロクロの土師器甕・無台碗の小片がわずかに出土している。

SD4 (図版13・16 写真図版8) B-10H-4B25、4C21、5B5に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-28°-Eを指し、確認面での短軸0.50m、深さ0.16mを測る。覆土は2層に分層される。SX132に切られる。非ロクロの土師器甕、須恵器有台杯(45)・杯蓋、黒色土器の小片がわずかに出土している。

SD7 (図版13・16 写真図版8) B-10H-5C9・13・14に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-34°-Eを指し、確認面での短軸0.13m、深さ0.24mを測る。断面形はV字状を呈する。覆土は2層に分層されレン

ズ状堆積がみられる。遺物は出土していない。

SD8 (図版13・16 写真図版8) B-10H-5C9・14に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-27°-Eを指し、確認面での短軸0.30m、深さ0.14mを測る。断面形はU字状を呈し、覆土は単層である。土師器長甕が出土している。

SD9 (図版13・16 写真図版8) B-10H-5C9・10・14・15に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-24°-Eを指し、確認面での短軸0.38m、深さ0.31mを測る。断面形はV字状を呈する。覆土は2層に分層されレンズ状堆積がみられる。土師器長甕が出土している。

SD10 (図版13・16 写真図版8) B-10H-5C15・20、5D11・16に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-26°-Eを指し、確認面での短軸1.45m、深さ0.34mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は3層に分層され、レンズ状堆積がみられる。土師器無台碗(18)・鉢・甕、須恵器横瓶が出土している。

SD11 (図版13・16 写真図版8) B-10H-4A8～10・14・15、4B11に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-6°-Wを指し、確認面での深さ0.62mを測る。覆土は5層に分層されレンズ状堆積がみられる。SD82を切るが、SK19・20に切られる。非ロクロの土師器甕片が全ての層から主体的に出土しているが、須恵器無台杯・杯蓋・甕、黒色土器(5層のみ)、砥石もみられる。土師器長甕(19)、須恵器甕(20～23)を図示した。

SD12 (図版13) B-10H-4C21、5C1に位置し、北東端は調査区外へ延びる。主軸はN-58°-Eを指す。覆土は2層に分層される。SK98、SD22を切る。土師器小甕(24)、須恵器無台杯・甕(25)が出土している。

SD13 (図版13・15・16) B-10H-5C1・2に位置し、南北端は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.23mを測る。覆土は3層に分層されレンズ状堆積がみられる。SK97を切るが、SD96に切られる。被熱礫が1点出土している。

SD16 (図版13・17 写真図版9) B-10H-4B17・18・23に位置する。調査区に平行して確認され、蛇行気味に南側は調査区外へ延びる。主軸はN-56°-Wを指し、確認面での深さ0.16mを測る。断面形は弧状を呈する。覆土は2層に分層される。SD40・88を切る。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕の小片が出土している。

SD21 (図版13・16 写真図版8) B-10H-5C15に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-34°-Eを示し、確認面での短軸0.21m、深さ0.33mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は4層に分層されレンズ状堆積がみられる。SP99に切られる。遺物は出土していない。

SD22 (図版13・16) B-10H-5C1に位置する。主軸はN-25°-Eを指し、確認面での短軸0.52m、深さ0.15mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。北端はSD12に切られ、南端はSX132に切られる。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕・無台碗の小片がわずかに出土している。

SD38 (図版13・17 写真図版9) B-10H-6F11・16に位置し、北側は調査区外へと続く。主軸はN-23°-Eを指し、確認面での短軸1.25m、深さ0.13mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。被熱礫(360)のみ出土している。

SD39 (図版13・17 写真図版9) B-10H-6F17・18・22・23に位置し、南北端は調査区外へと続く。主軸はN-27°-Eを指し、確認面での短軸2.02m、深さ0.21mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は2層に分層される。SD110を切る。ロクロ・非ロクロの土師器甕・羽釜・無台碗、須恵器無台杯・有台杯・杯蓋・甕が出土している。土師器甕(38)・須恵器無台杯(39)を図示した。

SD40 (図版13・14・17 写真図版7・9) B-10H-4B18に位置し、北側は調査区外へと続く。確認面での短軸0.33m、深さ0.16mを測る。断面形は概ね弧状を呈し、覆土は3層に分層される。SK60を切るが、SD16に切られる。図示し得なかったが、1・2層から非ロクロの土師器甕、須恵器甕が出土している。

SD42 (図版13・17 写真図版9) B-10H-7G8・13～15・18～20に位置し、南北端は調査区外へと続く。確認面での深さ0.31mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は3層に分層される。SD43に切られる。土師器甕(40)、須恵器無台杯・壺瓶類(41)が出土している。

SD43 (図版13・17 写真図版10) B-10H-7G15・19・20に位置し、南北端は調査区外へと続く。主軸は

N-31° -E を指し、確認面での短軸 1.95m、深さ 0.18m を測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。SD42 を切る。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕の小片が出土している。

SD63 (図版 13・17 写真図版 10) B-10G-3J19・20・24・25 に位置し、南北端は調査区外へと続く。主軸は N-3° -W を指し、確認面での短軸 1.44m、深さ 0.45m を測る。覆土は 4 層に分層される。遺物は出土していない。

SD82 (図版 13・16 写真図版 8) B-10H-4A9・10・14・15、4B11 に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸は N-25° -E を指し、確認面での深さ 0.72m を測る。断面形は台形状を呈し、覆土は 5 層に分層される。直上の SD11 に切られる。遺物は出土していない。

SD88 (図版 13・17) B-10H-4B18・23 に位置する。土層断面で検出し、南端は調査区外へ延びる。確認面での深さは 0.22m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は 2 層に分層される。SD16 に切られる。遺物は出土していない。

SD89 (図版 13・17) B-10H-4B23・24 に位置する。土層断面で検出し、南端は調査区外へ延びる。確認面での深さは 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SD90 (図版 13・17) B-10H-4B24 に位置する。土層断面で検出し、南端は調査区外へ延びる。確認面での深さは 0.19m を測る。断面形は台形状を呈し、覆土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SD91 (図版 13・17) B-10H-4B24 に位置する。土層断面で検出し、南端は調査区外へ延びる。確認面での深さは 0.22m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SD96 (図版 13・15) B-10H-5C1・2 に位置する。土層断面で検出し、南端は調査区外へ延びる。確認面での深さは 0.17m を測る。断面形は弧状を呈し覆土は 2 層に分層される。SK97・SD13 を切るが SD12 に切られる。遺物は出土していない。

SD110 (図版 13・17 写真図版 9) B-10H-6E16・17・21・22 に位置し、南北端は調査区外へと続く。主軸は N-48° -E を指し、確認面での深さ 0.16m を測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。SD39 に切られる。遺物は出土していない。

c 性格不明遺構 (SX)

SX132 (図版 13・16) B-10H-4B25、4C21、5B5、5C1 に位置する。土層断面で検出し、南端は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.15m を測る。覆土は単層である。SD4・22 を切る。遺物は出土していない。

d ピ ッ ト (SP)

SP99 (図版 13・16) B-10H-5C14・15 に位置する。調査区南壁で検出し、確認面での深さ 0.32m を測る。断面形は U 字状を呈し、覆土は単層である。SD21 を切る。遺物は出土していない。

SP123 (図版 13・16) B-10H-5C15 に位置する。調査区南壁で検出し、確認面での深さ 0.16m を測る。断面形は V 字状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

3) 1 区 の 遺 構 (中層下面)

VIIc3 層上面および VIIIa 層上面を遺構確認面とする。SD44・66、SX45・65 は、上層の水田跡により遺構周辺に VIIc 層の堆積がみられず VIIIa 層で確認した。SE 1 基、SK 10 基、SD 14 基、SX 4 基、SP 11 基の計 40 基である。

a 井 戸 (SE)

SE57 (図版 18・19 写真図版 10) B-10H-5C1～3・7・8 に位置する。遺構確認面は VIIc3 層上面で南北端は調査区外へ延びる。検出時点では溝状遺構として調査を進めていたが、基底面が深い点と下層から齋串などの木製品が複数点出土したため井戸と判断した。調査区が狭小で壁面崩落の危険があり基底面は未検出だが、確認面からの深さ 0.96m まで掘り下げた。断面形は漏斗状を呈し、覆土は 8 層に分層されレンズ状堆積がみられる。SD5 に切られる。遺物の多くは 5・6 層から出土している。土師器鍋 (8)・羽釜 (155)、黒色土器皿 (9)・杯蓋 (10)、須恵器無台杯 (11・12)・杯蓋 (13) や、齋串 (362・363) をはじめとする大量の木製品 (364～372) が出土した。ほかに、9 世紀以降の土師器小甕や無台碗、須恵器無台杯・甕、磨耗礫も出土している。

b 土 坑 (SK)

SK32 (図版 18・21 写真図版 12) B-10H-6E1・6 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、確認面での深さ 0.11m を測り、覆土は単層である。SD33 を切るが、SD29 に切られる。遺物は出土していない。

SK49 (図版 18・19 写真図版 10) B-10H-8I13 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、北側は土側溝で遺存しない。確認面での深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK50 (図版 18・19 写真図版 10) B-10H-5C15 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、北側は調査区外へ延びる。南側は土側溝で遺存しない。確認面での深さ 0.33m を測り、断面形は弧状を呈する。覆土は 3 層に分層され、レンズ状堆積がみられる。SD24 を切る。遺物は出土していない。

SK51 (図版 18・20 写真図版 12) B-10H-5D24、6D4 に位置する。土層断面の SD24 底面で確認し、南端は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.12m を測り、覆土は単層である。SD30 を切るが、SD24 に切られる。遺物は出土していない。

SK76 (図版 18・20) B-10H-4A1 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.24m を測る。覆土は 3 層に分層され、レンズ状堆積がみられる。SK77、SD75 を切る。遺物は出土していない。

SK77 (図版 18・20) B-10H-4A1 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.14m を測り、覆土は単層である。SD75 を切るが、SK76 に切られる。遺物は出土していない。

SK83 (図版 18・20) B-10H-4A2・7 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.21m を測り、覆土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SK84 (図版 18・20) B-10H-4A7・8 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.23m を測る。断面形は台形状を呈し、覆土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SK85 (図版 18・20) B-10H-4A8 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.21m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SP122 を切る。遺物は出土していない。

SK100 (図版 18・19) B-10H-5D16 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

c 溝状遺構 (SD)

SD5 (図版 18・19) B-10H-5C1～3・7 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸は N-29° -E を指し、確認面での短軸 1.73m、深さ 0.37m を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は 3 層に分層され、レンズ状堆積がみられる。直下の SE57 を切る。非ロクロの土師器甕・無台碗、須恵器無台杯 (16)・杯蓋 (17)・甕、被熱礫が出土している。

SD15 (図版 18・21 写真図版 11) B-10H-6E7～9・13 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸は N-32° -E を指し、確認面での短軸 3.22m、深さ 0.33m を測る。覆土は 3 層に分層され、レンズ状堆積がみられる。SD29・35、SX131、SP14・41 に切られる。非ロクロの土師器甕を主体に無台碗 (26)・鉢・甕 (27)、須恵器無台杯・杯蓋・壺・甕、カマド形土製品 (325) が出土している。

SD18 (図版 18・20 写真図版 11) B-10H-4B11・12・16～18 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、調査区に平行しているが西側は中層上面の遺構に切られる。主軸は N-62° -W を指し、確認面での短軸 0.60m、深さ 0.33m を測る。覆土は 3 層に分層される。非ロクロの土師器甕が主体的に出土し、土師器鉢 (28)、磨耗礫 (354) を図示した。他に、敲打痕の認められる砥石が 1 点出土している。

SD24 (図版 18・19・20・21 写真図版 11・13) B-10H-5C10・15、5D11・16～18・22～24、6D4・5・10、6E1・6 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸は N-56° -W を指し、確認面での短軸 0.44m、深さ 0.28m を測る。覆土は 5 層に分層され、1 層はⅦc2 層に類似する。SK51、SD30・31・33 を切るが、SK50 に切られる。主体的に出土している土師器甕 (29) のほか、土師器鉢・羽釜、

須恵器無台杯・甕、磨耗礫もわずかに出土している。

SD28 (図版 18・20 写真図版 11) B-10H-5D18・23 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面である。主軸は N-50° -W を指し、確認面での長軸 1.15m、短軸 0.30m、深さ 0.18m を測る。平面形は中央部がやや括れた長方形、断面形は弧状を呈する。覆土は 2 層に分層される。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕、須恵器杯・大甕がわずかに出土している。

SD29 (図版 18・21 写真図版 12・13) B-10H-5D18・23～25、6D5、6E1・6～8・13・14 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸は N-54° -W を指し、確認面での短軸 0.48m、深さ 0.31m を測る。断面形は台形状を呈し、覆土は 3 層に分層される。SK32、SD15・30・31・33・102、SP34・41 を切るが、SX131 に切られる。非ロクロの土師器甕を主体に、須恵器無台杯・有台杯・墨痕の認められる杯蓋・甕、磨耗礫もわずかに出土している。土師器甕 (30)、被熱礫 (359) を図示した。

SD30 (図版 18・20・21 写真図版 12) B-10H-5D24・25、6D4・5 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸は N-29° -E を指し、確認面での短軸 1.85m、深さ 0.27m を測る。断面形は台形状を呈し、覆土は 3 層に分層される。SK51、SD24・29 に切られる。非ロクロの土師器甕を主体に、須恵器無台杯・有台杯 (転用硯 1 点)・墨痕の認められる杯蓋・甕もわずかに出土している。土師器甕 (32)・把手か脚 (33)、須恵器甕 (36) を図示した。

SD31 (図版 18・20・21 写真図版 11・12) B-10H-6D5・10、6E1 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸は N-51° -E を指し、確認面での短軸 0.34m、深さ 0.06m を測る。覆土は単層である。SD33 を切るが、SD24・29・35 に切られる。遺物は出土していない。

SD33 (図版 18・21 写真図版 12) B-10H-6E1・2・6・7 に位置する。遺構確認面はⅧa 層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸は N-34° -E を指し、確認面での短軸 1.80m、深さ 0.30m を測る。覆土は 2 層に分層される。SK32、SD24・29・31・35 に切られる。非ロクロの土師器甕、須恵器杯蓋 (31)・有台杯 (34)・甕 (35)、磨耗礫が出土している。

SD35 (図版 18・21 写真図版 12・13) B-10H-5D25、6D5、6E1・2・7～9・13～15・20 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、調査区に平行して確認されたが、北側は調査区外へ延びる。土側溝などで遺存する部分は少ないが、主軸は N-55° -W を指し、確認面での短軸 0.44m、深さ 0.15m を測る。断面形は台形状を呈し、覆土は 2 層に分層される。SD15・31・33、SP14 を切る。非ロクロの土師器甕、須恵器無台杯・有台杯 (37)・杯蓋・甕が出土している。

SD44 (図版 18・22 写真図版 13) B-10H-7H16・17・21・22 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、南北端は調査区外へ延びる。主軸は N-37° -E を指し、確認面での短軸 0.43m、深さ 0.15m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は 2 層に分層される。SD66、SX65 を切る。遺物は出土していない。

SD66 (図版 18・22 写真図版 13) B-10H-7H16・17・21～23、8H2・3 に位置する。遺構確認面はⅧa 層上面で、北側は蛇行して調査区外へ延びる。主軸は N-50° -W を指し、確認面での短軸 0.80m、深さ 0.22m を測る。覆土は 2 層に分層される。SD44 に切られるが、SX45・65 を切る。遺物は出土していない。

SD75 (図版 18・21 写真図版 10・13) B-10G-3J25、4J5、10H-3A21、4A1 に位置する。遺構確認面はⅧa 層上面で、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.13m を測る。覆土は単層である。SK76・77、SD63 に切られる。遺物は出土していない。

SD80 (図版 18・21) B-10H-4A3・8・9 に位置し、北側は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦc3 層上面で、南側は中層上面の遺構に切られる。確認面での深さ 0.29m を測る。基底面は若干起伏し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

d 性格不明遺構 (SX)

SX45 (図版 18・22 写真図版 13) B-10H-7H22・23、8H2・3 に位置する。遺構確認面はⅧa 層上面で、南北

端は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.22m を測り、断面形は皿状を呈する。覆土は 3 層に分層されレンズ状堆積がみられる。SD66 に切られるが、SX65 を切る。土師器甕、須恵器杯蓋(42)・羽口(320)が出土している。SX65 (図版 18・22 写真図版 13) B-10H-7H17・21・22 に位置する。遺構確認面はⅧa 層上面で、南北端は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.19m を測り、覆土は 2 層に分層される。SD44・66、SX45 に切られる。非ロクロの土師器甕を主体に須恵器大甕・墨痕の認められる有台杯、円筒形土製品が出土している。土師器無台杯(43)・土師器甕(44)を図示した。

SX106 (図版 18・22) B-10H-7G20・25、7H21 に位置する。遺構確認面はⅧa 層上面で、南北端は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.08m を測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SX131 (図版 18・21) B-10H-6E7・13 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面であり、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.30m を測る。覆土は 2 層に分層される。SD15・29 を切る。遺物は出土していない。

e ピ ッ ト (SP)

SP14 (図版 18) B-10H-6E7 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面である。平面は円形で、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP25 (図版 18・22) B-10H-5D16 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、確認面での長軸 0.36m、短軸 0.27m、深さ 0.24m を測る。平面は楕円形、断面形は弧状を呈する。覆土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SP26 (図版 18・22) B-10H-5D16 に位置する。遺構確認面はⅦc3 層上面で、北側は土側溝で遺存しない。確認面での深さ 0.11m を測り、断面形は弧状を呈する。覆土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SP34 (図版 18・22) B-10H-6E7 に位置する。確認面はⅦc3 層上面で、北側は SD29 に切られる。確認面での深さ 0.15m を測り、断面形は弧状を呈する。覆土は単層である。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP41 (図版 18・22) B-10H-6E7 に位置する。SD15 の底面で検出され、南側は SD29 に切られる。確認面での深さ 0.33m を測る。断面形は V 字状を呈する。覆土は 2 層に分層される。非ロクロの土師器甕、羽釜かカマド形土製品と思われる破片が出土しているが、図示し得たのは不明土製品(339)のみである。

SP62 (図版 18・22) B-10H-4A8 に位置する。確認面はⅦc3 層上面で、確認面での長軸 0.35m、短軸 0.25m、深さ 0.18m を測る。平面は楕円形、断面形は台形状を呈する。覆土は 2 層に分層される。SD80 を切る。遺物は出土していない。

4) 4 区 の 遺 構 (上層)

Ⅶb 層中に帰属するものを一括した。検出された遺構は、土層断面で畦状遺構が確認された SN(水田畦畔)1 条、SK 1 基、SX 1 基の計 3 基である。

a 水 田 跡 (SN)

SN35 (図版 23・24 写真図版 14) B-10G-3J11~13・16~18 に位置する。土層断面で確認した。1 区 SN120 の 3・4 期が形成されるⅦa6 層上面に構築され、盛土は単層で、SX6 との切り合いは明瞭でない。主軸は東西方向で隣接する 1 区へと続く。確認面での短軸 3.30m、高さ 0.31m を測り、断面は台形状を呈する。遺物は出土していない。

b 土 坑 (SK)

SK4 (図版 23・24 写真図版 14) B-10G-3J16・17・21・22 に位置する。遺構確認面はⅦb2 層上面で、中層の遺構より約 0.1m 高い。SD7・8 を切るが、南東端は土側溝で遺存せず、そのまま調査区外へ延びる。平面形は楕円形、断面は皿状を呈し、覆土は 2 層に分層される。主軸は N-34° -E を指し、確認面での短軸 1.12m、深さ 0.17m を測る浅い土坑である。残存率の高い土師器無台碗を中心とした食膳具が、廃棄されたような状態でまとまって出土した。10 世紀代と考える土師器無台碗が主体であるが、非ロクロの甕、須恵器杯・甕、被熱礫、磨耗礫もわずかにみられる。土師器無台碗(46~59)・鉢(60)、須恵器有台杯(61)を図示した。

c 性格不明遺構 (SX)

SX6 (図版 23・24 写真図版 14) B-10G-3J2・3・7・8・12・13 に位置する。遺構確認面はVIIb1 層上面で、西側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.69m を測り基底面は起伏している。覆土は 2 層に分層される。SN35 との切り合いは明瞭でない。土師器無台椀、須恵器無台杯 (62)・杯蓋 (63) が出土している。

5) 4 区 の 遺 構 (中層上面)

VIIc2 層上面を遺構確認面とする。検出された遺構は、SD 5 基と SP 3 基の計 8 基である。このうち SD1～3・5・7 は、規則的な間隔で検出され畝の間跡の可能性はある。

a 溝状遺構 (SD)

SD1 (図版 23・24 写真図版 14・15) B-10G-3I25、3J21、4I5、4J1 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸は N-57° -W を指し、確認面での深さ 0.34m を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は 3 層に分層され、レンズ状堆積がみられる。土師器小甕 (64)、須恵器杯蓋 (65) を図示したが、非ロクロの土師器甕も 1 点出土している。

SD2 (図版 23・24 写真図版 14・15) B-10G-3I25、3J21、4J1 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸は N-57° -W を指し、確認面での短軸 0.53m、深さ 0.39m を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は 3 層に分層されレンズ状堆積がみられる。図示し得なかったが、土師器甕がわずかに出土している。

SD3 (図版 23・24 写真図版 14・15) B-10G-3I25、3J21・22 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸は N-55° -W を指し、確認面での短軸 0.74m、深さ 0.34m を測る。覆土は 2 層に分層されレンズ状堆積がみられる。北側を SD7 に切られる。図示し得なかったが、土師器甕 1 点、黒色土器 1 点が出土している。

SD5 (図版 23・24 写真図版 14・15) B-10G-3J11・12・16・17 に位置し、東西端は調査区外へと続く。主軸は N-60° -W を指し、確認面での短軸 0.56m、深さ 0.16m を測る。断面形は V 字状を呈し覆土は単層である。土師器無台椀を主体に須恵器無台杯が 1 点出土しているが、図示し得たのは土師器の長甕 (66) のみである。

SD7 (図版 23・24 写真図版 14・15) B-10G-3J16・21・22 に位置し、東西端は調査区外へと続く。主軸は N-74° -W を指し、確認面での短軸 0.52m、深さ 0.39m を測る。断面形は台形状を呈する。覆土は 3 層に分層されレンズ状堆積がみられる。SD3 を切るが、SK4 に切られる。図示し得なかったが、土師器甕、須恵器有台杯、砥石が 1 点ずつ出土している。

b ピ ッ ト (SP)

SP27 (図版 23・24) B-10G-3J16 に位置し、確認面での深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP32 (図版 23・24) B-10G-3J18 に位置し、確認面での深さ 0.36m を測る。断面形は概ね V 字状を呈し、覆土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SP33 (図版 23・24) B-10G-3J17・18 に位置し、確認面での深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

6) 4 区 の 遺 構 (中層下面)

VIIc3 層上面を遺構確認面とする。検出された遺構は SK 2 基、SD 4 基、SP 18 基の計 24 基である。溝状遺構は、中層上面同様に規則的な間隔で検出され畝の間跡の可能性はある。ピットが多く検出され、柱根は出土していないが 6 基 (SP11～13・15・17・34) で柱痕が確認された。

a 土 坑 (SK)

SK24 (図版 23・24 写真図版 14) B-10G-3J17・18 に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.33m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は 2 層に分層される。SD10 に切られるが SP34 を切る。遺物は出土していない。

SK30 (図版 23・24 写真図版 14) B-10G-3J12 に位置し、西側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.28m を測る。断面形は漏斗状を呈し、覆土は 3 層に分層される。SD26 を切る。遺物は出土していない。

b 溝状遺構 (SD)

SD8 (図版 23・24 写真図版 15) B-10G-3J16・17・22 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-55° -W を指し、確認面での短軸 0.43m、深さ 0.22m を測る。覆土は単層である。SP16・22・29 を切るが、SK4 に切られる。遺物は出土していない。

SD9 (図版 23・24 写真図版 15) B-10G-3J16・17 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-56° -W を指し、確認面での短軸 0.39m、深さ 0.21m を測る。断面形はV字状を呈する。覆土は単層である。SP14・17 を切る。遺物は出土していない。

SD10 (図版 23・24 写真図版 15) B-10G-3J11・12・17・18 に位置し、西端は調査区外へ延びる。主軸はN-73° -W を指し、確認面での短軸 0.33m、深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈する。覆土は2層に分層され、レンズ状堆積がみられる。SK24、SP23・28 を切るが、SP11・12 に切られる。図示し得なかったが、土師器無台碗が1点出土している。

SD26 (図版 23・24 写真図版 14) B-10G-3J7・12・13 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-60° -W を指し、確認面での短軸 0.78m、深さ 0.33m を測る。基底面は起伏し、覆土は2層に分層される。SK30、SP31 に切られる。遺物は出土していない。

c ピ ッ ト (SP)

SP11 (図版 23・24) B-10G-3J12・17 に位置し、確認面での深さ 0.15m を測る。平面形は楕円形、断面形は浅い漏斗状を呈する。覆土は2層に分層され、中央部に柱痕が残る。SD10 を切る。遺物は出土していない。

SP12 (図版 23・24) B-10G-3J12・17 に位置し、確認面での深さ 0.21m を測る。平面形は円形、断面形は概ね漏斗状を呈する。覆土は2層に分層され、中央部に柱痕が残る。SD10、SP23 を切る。遺物は出土していない。

SP13 (図版 23・24) B-10G-3J13・18 に位置し、確認面での深さ 0.25m を測る。北側は土側溝で遺存しないが、平面形は円形、断面形は概ねV字状を呈する。覆土は3層に分層され、柱痕が残る。遺物は出土していない。

SP15 (図版 23・24) B-10G-3J21 に位置し、確認面での深さ 0.21m を測る。平面形は円形、断面形は弧状を呈する。覆土は2層に分層され、柱痕が残る。遺物は出土していない。

SP17 (図版 23・24) B-10G-3J16 に位置し、確認面での深さ 0.27m を測る。大半はSD9 に切られるが、平面形は円形を呈すると考える。断面形はV字状を呈し、覆土は2層に分層され、中央部に柱痕が残る。遺物は出土していない。

SP28 (図版 23・24 写真図版 14) B-10G-3J11 に位置し、確認面での深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。直上のSD10 に切られる。遺物は出土していない。

SP29 (図版 23・24 写真図版 14) B-10G-3J16 に位置し、確認面での深さ 0.23m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。直上のSD8 に切られる。遺物は出土していない。

SP31 (図版 23・24 写真図版 14) B-10G-3J7・12 に位置し、確認面での深さ 0.39m を測る。断面形は概ねV字状を呈し、覆土は2層に分層されレンズ状堆積がみられる。SD26 を切る。遺物は出土していない。

SP34 (図版 23・24) B-10G-3J17 に位置し、確認面での深さ 0.23m を測る。半分遺存していないが、断面形は概ね漏斗状を呈し、覆土は2層に分層され、柱痕が残る。SK24 に切られる。遺物は出土していない。

7) 5 区 の 遺 構

a 性格不明遺構 (SX)

SX1 (図版 25 写真図版 15) B-10G-5H4・5・10、5I1・6 に位置し、南西側は調査区外へ延びる。遺構確認面はVIIa層で、確認面での深さ 0.09m を測り、覆土は単層である。5区で検出した唯一の遺構である。遺物は出土していない。

8) 2 区 の 遺 構 (上層)

黒褐色粘質土等からなるVIIa～VIIb・VIIc1層中に帰属するかあるいは、その可能性が高い遺構を一括した。

検出された遺構は、VII a6・VII b層中に畝と畝間で構成されるSN（畝跡）、SD 3基、SX 1基である。特に、畝の畝状遺構は、調査区西側で多数認められた。

a 畝 跡 (SN) (図版 28 写真図版 17)

調査区西半のD-3I-4B～8Gで確認された。これらは、南北両壁面のVII a6・VII b層中で明瞭に観察された。確認面での短軸0.50～0.97m、深さ0.16～0.27mを測る断面形がV字状の畝間(1・2層)が比較的等間隔に並び、その左右両側は畝の盛土(3層)と考えられ、畝間の直下には粘性・しまりのある土壌(5層)も部分的に認められた。この畝跡が認められるVII a6・VII b層は、調査区全体で確認されるが、畝・畝間は東へ向かって不明瞭になる。調査段階で認められた畝跡の主軸方向と、南北両壁面の土層断面を基に畝跡を示した(図版28)。これは模式的な図であり、それぞれの畝や畝間の繋がりを検証したものではない。畝跡は非常に多数の畝・畝間で構成されるため、遺構番号は付けず観察表と代表的な土層断面を示した。遺物は出土していない。

b 溝状遺構 (SD)

SD22 (図版 28) D-3I-6E17・18に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はVII c1層で、主軸はN-60°-Eを指し、確認面での短軸0.82m、深さ0.12mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD39 (図版 28 写真図版 17) D-3I-7F18・19に位置する。土層断面で確認され、北側は調査区外へ延びる。遺構確認面はVII c1層で、確認面での深さ0.38mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD45 (図版 28 写真図版 17) D-3I-6D3・4に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はVII c1層で、主軸はN-88°-Eを指し、確認面での短軸0.42m、深さ0.31mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

c 性格不明遺構 (SX)

SX46 (図版 28) D-3I-6D4・5に位置し、南側は調査区外へ延びる。遺構確認面はVII c1層で、確認面での深さ0.46mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

9) 2 区 の 遺 構 (中層)

VII a1・2層上面を確認面とする遺構である。検出された遺構は、SE 1基、SK 1基、SD 26基、SX 1基、SP 12基の計41基である。

a 井 戸 (SE)

SE25 (図版 29 写真図版 18) D-3I-4B4・5・9に位置する。遺構確認面はVII a1層上面で、土層断面で確認され南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.75mを測り、断面形は漏斗状を呈する。覆土は8層に分層され、レンズ状堆積がみられる。非ロクロの土師器長甕(67)・甕か甑(68)、磨耗礫、円形板状製品(373)が出土している。

b 土 坑 (SK)

SK13 (図版 29 写真図版 18) D-3I-9G5、9H1・6・7・12に位置する。遺構確認面はVII a2層上面で、土層断面で確認され南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.34mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は8層に分層され、レンズ状堆積がみられる。SD10・SP50を切る。非ロクロの土師器甕類(82～84)を主体に無台碗、須恵器有台杯(85)・杯蓋・甕(86)、粘土塊・羽口、椀形滓(321)、砥石(346)が出土している。

c 溝状遺構 (SD)

SD1 (図版 29・30 写真図版 18) D-3I-4C24、5C4・5・9・10・15、5D6・11に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はVII a1層上面で、主軸はN-6°-Eを指し、確認面での短軸2.32m、深さ0.73mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は11層に分層され、レンズ状堆積がみられる。規模や堆積状況などから自然流路の可能性がある。非ロクロの土師器甕、器種不明の須恵器小片、被熱礫(361)が出土している。

SD3 (図版 29・30 写真図版 18) D-3I-4C17・18・22・23に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認

面はⅧa1層上面で、主軸はN-63°-Eを指し、確認面での短軸1.09m、深さ0.32mを測る。断面形は弧状を呈する。覆土は6層に分層され、レンズ状堆積がみられる。非ロクロの土師器甕(72)を主体に無台杯(71)・壺、須恵器無台杯(73)、円筒形土製品(330)、被熱した磨耗礫がわずかに出土している。

SD4(図版29・30 写真図版18・21) D-3I-8G13・14・18・19に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅧa2層上面で、主軸はN-52°-Eを指し、確認面での短軸1.24m、深さ0.27mを測る。断面形は概ね弧状を呈し、覆土は3層に分層される。SD10を切る。非ロクロの土師器甕類(87～90)を主体にミニチュア無台杯(91)、須恵器杯蓋、羽口(322)が出土している。

SD7(図版29・30 写真図版19) D-3I-4C11・12・16・17に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅧa1層上面で、主軸はN-23°-Eを指し、確認面での短軸1.38m、深さ0.41mを測る。断面形は台形状を呈する。覆土は6層に分層され、レンズ状堆積がみられる。非ロクロの土師器甕、黒色土器高杯(69)、被熱礫が出土している。

SD10(図版29 写真図版18) D-3I-8G13・18・19・23～25、9G4・5、9H1・6・7・12に位置し、南北端は調査区外へ延びる。調査区南北壁面で確認したが、SK13・SD4に切られ遺構プランは明瞭でない。遺構確認面はⅧa2層上面で、確認面での深さ0.36mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。非ロクロの土師器長甕(92)・無台碗を主体に、須恵器無台杯・杯蓋、被熱礫がわずかに出土している。

SD11(図版29・30 写真図版19) D-3I-9H12・13に位置し、東端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅧa2層上面で、主軸はN-52°-Eを指し、確認面での短軸0.30m、深さ0.28mを測る。断面形はV字状を呈し、覆土は2層に分層される。遺物は出土していない。

SD16(図版29・30 写真図版19・21) D-3I-8G12・13に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅧa1層上面で、主軸はN-52°-Eを指し、確認面での短軸0.91m、深さ0.21mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SD26(図版29・30 写真図版19) D-3I-4C23・24、5C3に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅧa1層上面で、主軸はN-29°-Eを指し、確認面での短軸0.66m、深さ0.20mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は3層に分層される。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SD29(図版29・30 写真図版19) D-3I-4B5・10、4C6に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅧa1層上面で、主軸はN-52°-Eを指し、確認面での短軸1.63m、深さ0.38mを測る。断面形は概ね弧状を呈し、覆土は3層に分層される。SP14・23を切る。遺物は出土していない。

SD31(図版29・30) D-3I-7F6に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅧa1層上面で、主軸はN-44°-Eを指し、確認面での短軸0.50m、深さ0.11mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

d 性格不明遺構(SX)

SX2(図版29・31 写真図版19) D-3I-4B4・5に位置し、北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅧa1層上面で、確認面での深さ0.47mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は3層に分層され、ブロック状堆積がみられる。SX37を切る。非ロクロの土師器甕、須恵器杯蓋(70)が出土している。

SX37(図版29・31 写真図版19) D-3I-4C4に位置する。土層断面で確認し、大部分は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅧa1層上面で、確認面での深さ0.34mを測る。覆土は6層に分層され、ブロック状堆積がみられる。遺物は出土していない。

SX42(図版29・31 写真図版20) D-3I-6E19・24・25、7E4・5に位置する。北側は調査区外へ延び、南側は土側溝で遺存しない。遺構確認面はⅧa1層上面で、確認面での深さ0.39mを測る。断面形は浅い台形状を呈する。覆土は5層に分層される。非ロクロの土師器甕(74～76)・壺(77)、須恵器無台杯(78・81)・有台杯(79・80)・杯蓋(転用硯)・甕、円筒形土製品(326)、磨耗軽石が出土している。

SX44 (図版 29・31 写真図版 20) D-3I-4C6・11 に位置し、北側は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅧa1 層上面で、確認面での深さ 0.33m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は 3 層に分層される。SP43 に切られる。遺物は出土していない。

e ピ ッ ト (SP)

SP14(図版 29) D-3I-4B10 に位置し、SD29 の底面で検出された。確認面での深さ 0.17m を測る。平面形は円形、断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP18 (図版 29・31 写真図版 20) D-3I-8F5 に位置する。遺構確認面はⅧa1 層上面であるが、検出が遅れたため遺構の規模・形状は異なる可能性がある。主軸は N-80° -E を指し、確認面での深さ 0.32m を測る。平面形は円形、断面形は V 字状を呈し、覆土は 3 層に分層される。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP20 (図版 29・31 写真図版 20) D-3I-4B4 に位置し、南側は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅧa1 層上面で、確認面での深さ 0.60m を測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は 8 層に分層され、柱痕が残る。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP23 (図版 29) D-3I-4C6 に位置し、SD29 の底面で検出された。確認面での深さ 0.13m を測る。平面形は円形で、断面形は弧状を呈し、覆土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SP36 (図版 29・31 写真図版 20) D-3I-4C11 に位置する。遺構確認面はⅧa1 層上面で、主軸は N-84° -W を指し、確認面での長軸 0.56m、短軸 0.48m、深さ 0.60m を測る。平面形は楕円形、断面形は漏斗状を呈する。覆土は 6 層に分層され、柱痕が残る。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP38 (図版 29・31 写真図版 21) D-3I-4C11 に位置する。遺構確認面はⅧa1 層上面で、確認面での深さ 0.19m を測る。平面形は円形、断面形は弧状を呈する。覆土は 3 層に分層され、ブロック状に堆積する。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP41 (図版 29・30 写真図版 21) D-3I-4C17 に位置する。遺構確認面はⅧa1 層上面で、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.44m を測る。断面形は変形した U 字状を呈する。覆土は 4 層に分層される。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SP43 (図版 29・31 写真図版 20) D-3I-4C11 に位置する。遺構確認面はⅧa1 層上面で、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.24m を測る。断面形は U 字状を呈し、覆土は 3 層に分層される。SX44 を切る。遺物は出土していない。

SP47 (図版 29・31) D-3I-9H13 に位置する。遺構確認面はⅧa2 層上面で、確認面での深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP50 (図版 29 写真図版 18) D-3I-9H6・7・12 に位置する。SK13 の底面で検出された。確認面での深さ 0.20m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

10) 2 区 遺 構 各 説 (下層)

Ⅷb 層上面を確認面とする遺構である。検出された遺構は、SD 7 基、SP 20 基の計 27 基である。

a 溝 状 遺 構 (SD)

SD9 (図版 32 写真図版 21) D-3I-7F13・17・18 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸は N-43° -E を指し、確認面での短軸 0.31m、深さ 0.12m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD15 (図版 32 写真図版 21) D-3I-8G13・18 に位置し、南側は調査区外へ延びる。主軸は N-45° -E を指し、確認面での短軸 0.37m、深さ 0.08m を測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

SD19 (図版 32) D-3I-6E6・11 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸は N-45° -E を指し、確認面での短軸 0.56m、深さ 0.18m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD28 (図版 32 写真図版 21) D-3I-7F18 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸は N-41° -E を指し、確認面での短軸 0.36m、深さ 0.13m を測る。断面形は台形状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

d ピ ッ ト (SP)

SP24 (図版 32) D-3I-9H1 に位置する。遺構掘削中に壁面が崩落し、十分な記録が取れなかった。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕が 1 点出土している。

SP48 (図版 32) D-3I-8G19・24 に位置する。SD10 の底面で検出されたが、覆土などから下層遺構と判断した。北側は調査区外へ延び、確認面での深さ 0.23m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP51 (図版 32 写真図版 17) D-3I-7F11 に位置する。深堀中の土層断面で検出された。南側は調査区外へ延び、確認面での深さ 0.34m を測る。断面形は漏斗状を呈する。覆土は 3 層に分層され、ブロック状に堆積する。柱根が出土している (375)。

SP52 (図版 32 写真図版 21) D-3I-8G24 に位置し、確認面での深さ 0.27m を測る。断面形は U 字状を呈し、覆土は単層である。柱根が出土している (374)。

SP53 (図版 32 写真図版 21) D-3I-9H6 に位置し、確認面での深さ 0.15m を測る。断面形は漏斗状を呈し、覆土は単層である。柱根が出土している (376)。

11) 3 区 の 遺 構 (上層)

黒褐色粘質土等からなる VII a ~ VII b・VII c1 層中に帰属するかあるいは、その可能性が高い遺構を一括した。検出した遺構は、SN (水田畦畔) 3 条・SD 6 基・SP 3 基の計 12 基である。

a 水 田 跡 (SN)

調査区中央の 10H6E ~ 8I で検出された。全て南北両壁面の土層断面で確認された畦状遺構であり、形状や方向は土層断面をもとに復元した。

SN45 (図版 33 写真図版 23) D-4J-4C20・25、4D16・21・22 に位置する。遺構確認面は VII b2 層下面で、東西端は調査区外へ延びる。主軸は N-80° -E を指し、確認面での高さ 0.37m を測る。概ね台形状を呈する盛土で、4 層に分層される。SD46・47 に切られる。SD47 の上部に 1 層が認められるため、一連の遺構である可能性もある。遺物は出土していない。

SN48 (図版 33・34 写真図版 24) D-4J-3B25、3C21・22 に位置する。遺構確認面は VII a2 層下面で、東西端は調査区外へ延びる。主軸は N-72° -E を指し、確認面での高さ 0.51m を測る。台形状を呈する盛土で、5 層に分層される。SD50 を切るが、SD49・51 に切られる。これらは一連の遺構である可能性もある。遺物は出土していない。

SN54 (図版 33) D-4J-4D13・14 に位置し、南側は調査区外へ延びる。遺構確認面は VII b2 層下面で、南側の土層断面のみで確認した。確認面での高さ 0.20m を測る。弧状を呈する盛土で、3 層に分層される。SD19 を切る。遺物は出土していない。

b 溝 状 遺 構 (SD)

SD46 (図版 33 写真図版 23) D-4J-4C25 に位置し、南側は調査区外へ延びる。遺構確認面は VII b1 層上面で、確認面での深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SN45 とは一連の遺構である可能性もある。遺物は出土していない。

SD47 (図版 33 写真図版 23) D-4J-4C25、4D21 に位置し、南側は調査区外へ延びる。遺構確認面は VII b2 層上面で、確認面での深さ 0.13m を測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。SN45 とは一連の遺構である可能性もある。遺物は出土していない。

SD49 (図版 33・34) D-4J-3C21・22、4C1・2 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面は VII b2 層上面で、主軸は N-49° -E を指し、確認面での幅は南側が広く北側の約 3 倍で 0.92m、深さ 0.18m を測る。また、

南北で断面形が異なり別の遺構の可能性もある。断面形はU字状～弧状を呈し、覆土は2層に分層される。形状・方向などの類似するSD51と共にSN48とは一連の遺構である可能性もある。遺物は出土していない。

SD50 (図版 33・34) D-4J-3B20 に位置し、南側は調査区外へ延びる。土層断面で確認し、遺構プランは不明瞭である。遺構確認面はVIIc1層上面で、確認面での深さ0.11mを測る。断面形は弧状を呈し覆土は単層である。堆積状況などからSN48とは一連の遺構である可能性もある。遺物は出土していない。

SD51 (図版 33・34) D-4J-3B20・25、3C16・21 に位置し、東西端は調査区外へ延びる。遺構確認面はVIIb2層上面で、主軸はN-89°-Eを指し、確認面での幅は南側が広く北側の約3倍で0.90m、深さ0.30mを測る。また、南北で断面形が異なり別の遺構の可能性もある。断面形はV字状～弧状を呈し、覆土は2層に分層される。形状・方向などの類似するSD49と共にSN48とは一連の遺構である可能性もある。遺物は出土していない。

SD53 (図版 33 写真図版 23) D-4J-4D16・21 に位置し、北側は調査区外へ延びる。遺構確認面はVIIb2層上面で、確認面での深さ0.12mを測る。断面形は概ね弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

c ピット (SP)

SP1 (図版 33・34) D-4I-1J19 に位置する。土層断面で検出し、南側は調査区外へ延びる。遺構確認面はVIIb2層上面で、確認面での深さ0.14mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP10 (図版 33・34 写真図版 24) D-4J-5D2 に位置し、南側は調査区外へ延びる。遺構確認面はVIIc1層上面で、確認面での短軸0.44m、深さ0.18mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

SP52(図版 33 写真図版 23) D-4J-4D21 に位置し、北側は調査区外へ延びる。壁面のSN45土層断面中で検出し、確認面での深さ0.11mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SN45に関係する可能性もある。遺物は出土していない。

12) 3 区 の 遺 構 (中層)

VIIa1層上面を確認面とする遺構である。検出された遺構は、SK6基、SD14基、SX2基、SP13基の計35基である。

a 土 坑 (SK)

SK4 (図版 35) D-4J-3B20・25、3C16・21 に位置し、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.17mを測る。断面は皿状を呈し、覆土は単層で、SD3に切られる。非ロクロの土師器甕、須恵器杯蓋が各1点出土している。

SK5 (図版 35 写真図版 24) D-4J-3B15・20 に位置し、北側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.33mを測り、断面はやや台形状を呈する。覆土は4層に分層され、レンズ状堆積がみられる。非ロクロの土師器甕、円筒形土製品(331)・砥石(349)が出土している。

SK20 (図版 35) D-4J-2A19 に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.15mを測り、断面形は皿状を呈する。覆土は3層に分層され、レンズ状堆積がみられる。非ロクロの土師器甕(93)が出土している。

SK24 (図版 35 写真図版 24) D-4J-3B20 に位置し、北側は土側溝で遺存しない。主軸はN-46°-Wを指し、確認面での長軸0.67m、深さ0.20mを測る。平面形は円形、断面形は弧状を呈する。覆土は4層に分層され、ブロック状堆積がみられる。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕、磨耗礫・磨耗軽石がわずかに出土している。

SK36 (図版 35) D-4J-5E16・21 に位置する。北側は調査区外へ延び、南側は大部分が土側溝で遺存しない。確認面での深さ0.17mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕(94)が出土している。

SK37 (図版 35) D-4I-1J19 に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.52mを測る。断面形は漏斗状を呈し、覆土は3層に分層され、レンズ状堆積がみられる。SX12を切る。非ロクロの土師器甕が出土している。

b 溝状遺構 (SD)

SD3 (図版 35) D-4J-3B20、3C16 に位置し、北側は調査区外へ延びる。主軸はN-48°-Eを指し、確認面での短軸0.25m、深さ0.05mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。SK4を切る。遺物は出土していない。

SD7 (図版35 写真図版24) D-4J-3C22、4C1・2に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-49° -Eを指し、確認面での短軸0.29m、深さ0.20mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は2層に分層される。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕、焼礫が出土している。また、2層からモモの核が11点と多量に出土した。

SD9 (図版35) D-4J-4C20、4D16に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-60° -Eを指し、確認面での短軸0.58m、深さ0.12mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は2層に分層される。非ロクロの土師器甕、須恵器有台杯(95)が出土している。

SD11 (図版35) D-4I-1J19に位置する。主軸はN-64° -Eを指し、一部土側溝で遺存しないが、確認面での長軸0.65m、短軸0.24m、深さ0.12mを測る。平面形は楕円形、断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SD15 (図版35 写真図版25) D-4J-2A25、2B21に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-70° -Eを指し、確認面での短軸0.17m、深さ0.07mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SD41を切る。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕が出土している。

SD18 (図版35 写真図版25) D-4J-5D3・7・8に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-70° -Eを指し、確認面での短軸0.78m、深さ0.21mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕、須恵器壺・瓶類(96)、磨耗礫が出土している。

SD19 (図版35) D-4J-5D8・9・13・14に位置し、東西端は調査区外へ延びる。主軸はN-65° -Eを指し、確認面での短軸0.70m、深さ0.20mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SD40を切る。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕が出土している。

SD21 (図版35 写真図版25) D-4J-2A1・2・7・8・13に位置する。調査区に平行するが南側は蛇行して調査区外へ延びる。主軸はN-45° -Wを指し、確認面での短軸0.42m、深さ0.25mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は3層に分層される。中央部分に直径約0.50mの炭化物集中が認められた。非ロクロの土師器甕を主体に、須恵器有台杯(97)、磨耗礫が出土している。

SD22 (図版35・36) D-4J-5D14・15・19・20に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-48° -Eを指し、確認面での短軸0.94m、深さ0.17mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕、須恵器杯が出土している。

SD23 (図版35・36) D-4J-5D20、5E16に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-68° -Eを指し、確認面での短軸0.52m、深さ0.11mを測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。土師器の小片が1点出土している。

SD33 (図版35・36 写真図版25・26) D-4J-4C2・3・7・8に位置し、南側は調査区外へ延びる。主軸はN-66° -Eを指し、確認面での短軸0.44m、深さ0.24mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕・無台杯(98)が出土している。

SD35 (図版35・36 写真図版26) D-4J-4D21に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-63° -Eを指し、確認面での短軸0.31m、深さ0.11mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕、須恵器甕(100)が出土している。

SD40 (図版35・36 写真図版26) D-4J-5D8・9・13・14に位置し、南北端は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.73mを測る。SD19直下で検出され、断面形は漏斗状を呈する。覆土は4層に分層され、レンズ状堆積がみられる。非ロクロの土師器甕、須恵器甕(99)が出土している。

SD41 (図版35・36 写真図版26) D-4J-2A25、2B21に位置し、南北端は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.23mを測る。SD15直下で検出され、断面形はU字状を呈する。覆土は3層に分層される。遺物は出土していない。

c 性格不明遺構 (SX)

SX12 (図版35) D-4I-1J19に位置し、南側は調査区外へ延びる。東側もSK37に切られ、遺構プランは不明瞭

である。確認面での深さ 0.14m を測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕、磨耗礫が出土している。

SX27 (図版 35・36) D-4I-1J25、4J-1A21 に位置し、西側は調査区外へ延びる。主軸は N-76° -E を指し、確認面での深さ 0.28m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は 2 層に分層される。下層遺構 (SP59) の柱根が検出された。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

d ピ ッ ト (SP)

SP2 (図版 35・36) D-4J-3C21 に位置し、北側は土側溝で遺存しない。確認面での深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP8 (図版 35・36) D-4J-2A2 に位置し、東側は土側溝で遺存しない。確認面での深さ 0.20m を測る。断面形は V 字状を呈し、覆土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SP13 (図版 35・36 写真図版 25・26) D-4J-2B21 に位置し、北側は土側溝で遺存しない。確認面での深さ 0.10m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP14 (図版 35・36) D-4J-2B21 に位置し、確認面での長軸 0.32m、短軸 0.26m、深さ 0.08m を測る。平面形は円形、断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP16 (図版 35・36) D-4J-2A20・25 に位置し、確認面での長軸 0.20m、短軸 0.17m、深さ 0.04m を測る。平面形は円形、断面形は V 字状を呈し、覆土は単層である。土師器の小片が 1 点出土している。

SP17 (図版 35・36) D-4J-2A25 に位置し、確認面での長軸 0.21m、短軸 0.18m、深さ 0.07m を測る。平面形は円形、断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP25 (図版 35・36) D-4J-3C21 に位置し、中央部分がサブトレンチで遺存しない。確認面での長軸 0.60m、深さ 0.06m を測る。平面形は楕円形、断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕が 1 点出土している。

SP26 (図版 35・36) D-4I-1J20 に位置し、確認面での深さ 0.10m を測る。北側は土側溝で遺存しないが、断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP29 (図版 35・36) D-4I-1J13・14 に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.40m を測る。断面形は U 字状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP34 (図版 35・36 写真図版 26) D-4J-4C8 に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.13m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SP44 を切る。遺物は出土していない。

SP42 (図版 35・36) D-4J-2A14・19 に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.11m を測る。断面形は皿状を呈し、覆土は 3 層に分層される。遺物は出土していない。

SP43 (図版 35・36) D-4I-1J13 に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.20m を測る。断面形は台形状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SP44 (図版 35・36 写真図版 25・26) D-4J-4C8 に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.44m を測る。断面形は V 字状を呈し、覆土は 2 層に分層される。SP34 に切られる。遺物は出土していない。

13) 3 区 遺 構 各 説 (下層)

VIII b 層上面を確認面とする遺構である。検出された遺構は、SK 2 基、SX 2 基、SP 8 基の計 12 基である。

a 土 坑 (SK)

SK31 (図版 37) D-4J-3B20 に位置する。北側は土側溝で一部遺存しないが、主軸は N-83° -W を指し、確認面での長軸 0.61m、短軸 0.47m、深さ 0.21m を測る。平面形は楕円形、断面形は概ね弧状を呈し、覆土は単層である。遺物は出土していない。

SK38 (図版 37) D-4I-1J20・25、4J-1A21 に位置する。北側は土側溝で遺存しないが、主軸は N-46° -W を指し、確認面での長軸 1.53m、深さ 0.21m を測る。断面形は皿状を呈する。覆土は 2 層に分層される。遺構内

SP60 が検出された。遺物は出土していない。

b 性格不明遺構 (SX)

SX30 (図版 37 写真図版 26) D-4J-3B14・15・19・20 に位置する。西側は湧水で崩落したため調査できなかったが、確認面での短軸 1.02m、深さ 0.17m を測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕 (101) が出土している。

SX39 (図版 37 写真図版 26・27) D-4J-5D2 に位置し、部分的に土側溝で遺存しない。主軸は N-18° -W を指し、確認面での長軸 1.29m、短軸 0.70m、深さ 0.13m を測る。断面形は皿状を呈し、基底面はやや起伏する。覆土は単層である。非ロクロの土師器甕類 (102・103) を主体に、黒色土器高杯 (104)、円筒形土製品が出土している。

c ピ ッ ト (SP)

SP28 (図版 37) D-4I-1J13 に位置し、南側は調査区外へ延びる。確認面での短軸 0.47m、深さ 0.28m を測る。断面形は不定形で、覆土は 4 層に分層される。遺物は出土していない。

SP55 (図版 37 写真図版 27) D-4J-4C14 に位置し、確認面での短軸 0.22m、深さ 0.47m を測る。断面形は V 字状を呈し、覆土は単層である。柱根が出土している (377)。

SP56 (図版 37 写真図版 27) D-4J-4C2 に位置し、確認面での長軸 0.28m、短軸 0.24m、深さ 0.48m を測る。崩落の怖れがあり、底までは掘削できなかった。覆土は単層で、柱根が出土している (378)。

SP57 (図版 37 写真図版 27) D-4J-2A7 に位置し、確認面での長軸 0.26m、短軸 0.24m、深さ 0.16m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。柱根が出土している (379)。

SP58 (図版 37 写真図版 27) D-4J-2A1 に位置し、確認面での長軸 0.20m、短軸 0.19m、深さ 0.32m を測る。断面形は U 字状を呈し、覆土は単層である。柱根が出土している (380)。

SP59 (図版 37 写真図版 27) D-4J-1A21 に位置し、SX27 内で検出された。確認面での長軸 0.24m、短軸 0.22m、深さ 0.21m を測る。崩落の怖れがあり、底までは掘削できなかった。覆土は単層で、柱根が出土している (381)。

SP60 (図版 37 写真図版 27) D-4I-1J20・25 に位置し、SX38 内で検出された。確認面での長軸 0.30m、短軸 0.27m、深さ 0.05m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。柱根が出土している (382)。

SP61 (図版 37 写真図版 27) D-4I-1J18 に位置し、確認面での長軸 0.20m、短軸 0.18m、深さ 0.18m を測る。崩落の怖れがあり、底までは掘削できなかった。覆土は単層で、柱根が出土している (383)。

14) 第 6 次調査区の遺構 (上層)

黒褐色粘質土等からなる VII a ~ VII b・VII c1 層中に帰属するかあるいは、その可能性が高い遺構を一括した。検出された遺構は、VII a6・VII b 層中に畝と畝間で構成される SN (畝跡) と、SD3 基である。特に、畝状遺構は調査区中央～西側で多数認められた。

a 畝 跡 (SN) (図版 40 写真図版 29)

調査区西半の D-3I-5A ~ 6B で確認された。これらは 1 区で確認された VII a4 層の下で認められ、調査区南北両壁面の VII a6・VII b 層中で明瞭に観察された。特に VII b 層は未分解腐植物を主体とする土壌で、断面形が U ~ V 字状の畝間 (1・2 層) が比較的等間隔に並び、その左右両側は畝の盛土 (3・4 層) と考えられる。1・2 区のように畝間の下部に認められたような粘性の強い土壌 (5 層) は観察できなかった。また、この畝跡が認められる VII a6・VII b 層は、調査区全体に認められ、西側ほど畝・畝間ともに明瞭であった。なお、畝跡は非常に多数の畝・畝間で構成されるため、遺構番号は付けず観察表と代表的な土層断面を示した。遺物は出土していない。

b 溝 状 遺 構 (SD)

SD1 (図版 40 写真図版 29) D-3I-10F9・10 に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面は VII b1 層で、主軸は N-75° -E を指し、確認面での短軸 1.08m、深さ 0.19m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は 2 層に分層される。非ロクロの土師器甕、須恵器有台杯 (105)・甕が出土している。

SD7 (図版 40 写真図版 29) D-3I-7D22・23、8D2・3 に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦc1層で、主軸はN-20°-Eを指し、確認面での短軸2.14m、深さ0.41mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕が出土している。

SD8 (図版 40 写真図版 30) D-3I-6C16・21 に位置し、南北端は調査区外へ延びる。遺構確認面はⅦc1層で、主軸はN-60°-Eを指し、確認面での短軸0.50m、深さ0.17mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は単層である。器種不明の土師器小片が出土している。

15) 第6次調査区の遺構 (中層)

Ⅶa1層上面を確認面とする遺構である。検出された遺構は、SD7基、SX2基の計9基である。

a 溝状遺構 (SD)

SD2 (図版 41) D-3I-9F17・18・22～24、10F4 に位置し、東側は調査区外へ延びる。主軸はN-57°-Wを指し、確認面での短軸0.47mを測る。SD3と合流するが新旧関係は明瞭でない。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕を主体に、無台碗1点が出土している。

SD3 (図版 41 写真図版 30) D-3I-9F17・22 に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-2°-Wを指し、確認面での短軸0.46m、深さ0.14mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。南側に別の遺構の存在も考えられ、合流するSD2との新旧関係も明瞭でない。非ロクロの土師器甕を主体に壺、黒色土器碗、磨耗礫が出土している。

SD9 (図版 41 写真図版 31) D-3I-6B20、6C16 に位置し、南北端は調査区外へ延びる。東側は土側溝で遺存しない。主軸はN-66°-Eを指し、確認面での短軸0.99m、深さ0.21mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕、須恵器杯蓋が出土している。

SD15 (図版 41 写真図版 30) D-3I-5A15・20、5B16 に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸はN-32°-Eを指し、確認面での短軸0.72m、深さ0.29mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。SX11を切る。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕が多量に出土している。

SD18 (図版 41 写真図版 30) D-3I-5A20、5B16・21 に位置し、南北端は調査区外に延びる。主軸はN-31°-Eを指し、確認面での短軸0.94m、深さ0.27mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は単層である。SX11を切る。遺物は出土していない。

SD19 (図版 41 写真図版 30) D-3I-5B21・22 に位置し、東側は調査区外へ延びる。主軸はN-70°-Eを指し、確認面での短軸0.34m、深さ0.17mを測る。断面形は台形状を呈し、覆土は2層に分層される。SX11を切る。遺物は出土していない。

SD20 (図版 41) D-3I-6B2・3 に位置し、西側は試掘坑で遺存せず南北端は調査区外へ延びる。確認面での深さ0.26mを測る。断面形は弧状を呈し、覆土は2層に分層される。SX11を切る。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

b 性格不明遺構 (SX)

SX11 (図版 41 写真図版 30) D-3I-5A、5B、6B に位置し、大部分は調査区外へ延びる。規模が大きく南側土層断面で東西方向に11.60m、確認面での深さ0.30mを測る。断面形は概ね皿状を呈し、覆土は2層に分層される。SD15・18・19・20に切られる。出土遺物は多く、非ロクロの土師器甕類(107～110)が主体を占めるが、壺(111・112)、須恵器無台杯・有台杯(113・114)、黒色土器鉢(106)、土製支脚(333)・焼成粘土塊(341)、被熱礫・磨耗礫(352・353)が出土している。

SX12 (図版 41) D-3H-4J14・15・20・25 に位置し、東側は試掘坑で遺存せず大部分が調査区外へ延びる。確認面での深さ0.26mを測る。覆土は2層に分層される。非ロクロの土師器甕を主体に、無台碗が出土している。

16) 第6次調査区の遺構 (下層)

Ⅶb層上面を確認面とする遺構である。検出された遺構は、SK1基、SD8基の計9基である。

a 土 坑 (SK)

SK5 (図版 42 写真図版 30) D-3I-8E22 に位置し、東側がわずかに調査区外へ延びる。主軸は N-58° -W を指し、確認面での長軸 1.07m、深さ 0.11m を測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕がわずかに出土している。

b 溝状遺構 (SD)

SD4 (図版 42 写真図版 31) D-3I-9F11・12・16・17 に位置する。大部分が土側溝と既設コンクリートで遺存しない。確認面での深さ 0.15m を測り、覆土は単層である。非ロクロの土師器甕を主体に、円筒形土製品 (332)、搬入礫と考える自然礫がわずかに出土している。

SD6 (図版 42 写真図版 31) D-3I-8D8 ~ 10・14・15・20、8E11 に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸は N-61° -E を指し、確認面での短軸 3.58m、深さ 0.07m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は 4 層に分層される。出土遺物は多く、非ロクロの土師器甕類 (115 ~ 122) を主体に壺 (123)、須恵器無台杯 (124)・有台杯 (125)・杯蓋・壺瓶類 (126)、円筒形土製品 (327)、砥石 (343)・磨耗礫・磨耗軽石 (355)・敲石・被熱礫が出土している。

SD10 (図版 42) D-3I-6B8・9 に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸は N-70° -E を指し、確認面での短軸 0.47m、深さ 0.10m を測る。断面形は皿状を呈し、覆土は単層である。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕、黒色土器、磨耗礫・被熱礫がわずかに出土している。

SD13 (図版 42 写真図版 31) D-3H-4J3・8・9・13・14 に位置し、南北端は調査区外へ延びる。主軸は N-8° -E を指し、確認面での深さ 0.22m を測る。断面形は皿状を呈し、覆土は 2 層に分層される。非ロクロの土師器甕・壺が出土している。

SD14 (図版 42 写真図版 31) D-3I-4A16・21 に位置する。東側は土側溝で遺存せず、南北端は調査区外へ延びる。主軸は N-43° -E を指し、確認面での短軸 0.82m、深さ 0.23m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。図示し得なかったが、非ロクロの土師器甕が出土している。

SD16 (図版 42) D-3H-4J14・15 に位置し、SX12 の底面で検出されたが、下層遺構である SD17・21 との切り合い関係が明瞭でなかったため、同じ下層遺構と判断した。主軸は N-77° -E を指す。南側は調査区外へ延びる。東端は SD21 と合流するが新旧関係は明瞭でない。確認面での短軸 0.51m、深さ 0.40m を測り、覆土は単層である。図示し得なかったが、須恵器無台杯、被熱礫・磨耗礫・磨耗軽石が出土している。

SD17 (図版 42 写真図版 31) D-3H-4J20・25、3I-4A21 に位置する。主軸は N-17° -W を指し、南側は調査区外に延びる。東端は SD21 と合流するが新旧関係は明瞭でない。確認面での短軸 0.50m、深さ 0.16m を測る。断面形は台形状を呈し、覆土は 2 層に分層される。遺物は出土していない。

SD21 (図版 42) D-3H-4J15・19・20 に位置する。試掘坑の底面で検出され、南北端は調査区外へ延びる。確認面での深さ 0.09m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は単層である。SD16・17 との新旧関係は明瞭でない。出土遺物は多く、非ロクロの土師器甕を主体に、杯 (127)・手づくね (128・129)、須恵器無台杯、磨耗礫が出土している。

17) 第 10 次調査区の遺構

VII (本調査での VII c2) 層上面および VIII (本調査での VIII a) 層上面を確認面とする遺構である。それぞれ中層上面・下面に相当する。検出された遺構は、上面が SX7 基で、下面が SK 1 基・SX 1 基・SP 1 基の計 10 基である。ここでは中層下面で検出された SK1 についてのみ記載する。

SK1 (図版 43) B-6D-10I16 に位置し、主軸は N-17° -W を指す。工事立会中の検出であり、南西側は遺存しない。平面形は楕円形と推定され、確認面での深さ 0.31m を測る。断面形は弧状を呈し、覆土は褐灰色粘質土で炭化物を含む。底面には土師器長甕 2 個体 (275・276) が逆方向に口縁部を合わせた、いわゆる合わせ口の状態で出土した。土師器長甕 2 個体を埋納する土器棺墓と考える。他に、無台碗小片が 1 点出土している。

第V章 遺 物

第1節 概 要

今回の調査では土器・土製品・石製品・鍛冶関連遺物・木製品が出土している。その量は、コンテナ（内寸54.5×33.6×10.0cm）にして101箱であり、内訳は、土器88箱、土製品2箱、石製品5箱、鍛冶関連遺物1箱、柱根を含む木製品5箱（コンテナ内寸130.5×30.0×17.8cm）である。各調査区における種別ごとの内訳は煩雑になるため割愛するが、全体量は第6次調査8箱、第8次調査の1区37箱、2区31箱、3区21箱、第9次調査の4区7箱、5区1箱である。遺構出土遺物は少なく、土器でみると1/5ほどの20箱である。

遺跡からは全体形状の分かる残存率の高い土器が多く出土した。掲載遺物の抽出にあたり、調査区が狭小で部分的な遺構の調査となったことを考慮し、遺構出土遺物よりも残存率の高い資料を優先している。また、類似資料の重複掲載を避け、バラエティに富んだ様相が分かるように努めた。

接合資料については、その帰属判断が難しいが、遺構出土資料が含まれる場合には基本的に遺構出土遺物として扱い、複数の遺構資料が含まれる場合には遺構の切り合いや破片の大きさなどで帰属を決めている。ただし遺物の分布状況は遺構の範囲内でまとまっている地点もあるが、上・中・下層で検出した遺構の範囲とは必ずしも一致しない（図版7・27・39）。また、遺構外出土の遺存率の高い遺物も多く、遺構出土遺物と接合しても、その破片の大きさ等から遺構外出土とした遺物もある。なお、接合関係は観察表（別表2）に記載した。

遺構出土資料は第IV章の遺構順に、その他の遺物については量が少ないため器種ごとに記載した。また、確認調査や工事立会時出土の遺物も多く、主な出土地点を第8図に示した。各遺物の属性・情報は観察表（前掲）にまとめたが、特に注意される点や補足については本文に記した。各項目の注意点は、別表2の最初に示している。

第2節 土 器

出土した土器の大半は奈良・平安時代であり、上・中・下層で土師器・須恵器を中心に黒色土器と、灰釉陶器・中世土師器がわずかに出土している。土師器・須恵器の層位ごとのグリッド別重量分布は図版7・27・39に示したとおりである。全ての地区で須恵器よりも土師器が多く出土している。1・4・5区は上・中層上面の遺物量が多く、特に土師器が圧倒的である。2区は検出遺構数に比して下層出土の土師器が多く、3区の遺物分布は遺構範囲と概ね一致する。第6次調査区は他の地区とは逆に下層の遺物出土量が際立って多い。土器は、一般的な器種が揃い、在地か周辺で製作されたものが主体と考えるが、細かい時期区分で見ると偏りや変化がみられる。また、東北地方に特徴的な土師器（89・200・242など）が存在し、遺跡の性格に関係して注目される。

なお、出土土器の編年的位置づけや時期区分は春日編年〔1999・2000・2005など〕を基本としており、本資料の時期・生産地について春日真実氏にご教示いただいたことを併記しておく。

A 実測図の表現と観察項目

成形・調整技法の表現・名称は、『山三賀Ⅱ遺跡』（坂井ほか1989）を参考に以下のとおりとした。

1. ナデ・ケズリ・ハケメ・ミガキ…ロクロの回転を利用しない調整。
2. ロクロナデ・ロクロケズリ・カキメ…ロクロの回転を利用した調整。
3. タタキメ・あて具痕…タタキ調整によって外面と内面にみられる工具痕。

4. 底部のヘラ切り・糸切り…ロクロの回転を利用した切り離し。

また、実測図では径の復元が困難なものについて中軸線から稜線等を離すことで表現し、調整が変換する場所については実線とした。土器の色調は外面の色調を記載したが、器面の場所によって色調が異なるものについては、最も広い範囲で確認されるなど平均的な色調を示した。

胎土は、10～20倍のルーペを使用し肉眼観察を行った。長石・石英・雲母・角閃石・各種岩石や砂粒・海綿動物骨針・赤色粒子・白色粒子が観察された。土師器は、前山〔2012〕などを参考に長石・石英・各種岩石や砂粒について、表面が摩耗しているか否かと含有量を観察し以下のように分類した。

I群…磨耗した石英・長石・各種岩石を主体的に含むもの。さらに破碎した石英・長石・各種岩石を中量含むものをIa類、少量含むものをIb類、相対的に少ないものをIc類とした。

II群…破碎した石英・長石および各種岩石を主体的に含むもの。さらに磨耗した石英・長石・各種岩石を中量含むものをIIa類、少量含むものをIIb類、相対的に少ないものをIIc類とした。

III群…磨耗および破碎した石英・長石・各種岩石を主体的に含むもの。多量に含むものをIIIa類、相対的に少ないものをIIIb類とした。

IV群…磨耗・破碎にかかわらず石英・長石・各種岩石の破片をほとんど含まないもの。

I群が最も多く、II群が次ぐ。混和材は、土器の製作段階で混入されたものであり、当時付近を流れていた信濃川水系の河川から採取した可能性が高い。しかし、約3割を占めるII群に顕著な破碎した石英・長石・各種岩石などは、意図的な混入とも考えられる。また、混和材をほとんど含まないIV群の煮炊具は1点もなかった。

須恵器は、胎土が生産地を反映していると思われるため、これまでの研究成果〔坂井1989・春日2000・春日ほか2001〕を参考に下記の3群に分け、本文・観察表に記載した。

A群…1mm前後の長石・石英・砂粒を定量含む。粘質が強く、器面は滑らかである。新津丘陵窯跡群など信濃川右岸で生産された可能性が高いもの。

B群…1mm以下の細かい白色小粒子を多量に含む。砂質が強く、混入物の少ない精白な胎土で器面に黒色の斑点、吹き出しがみられる。佐渡の小泊窯跡群で生産された可能性が高いもの。

C群…石英・長石を多量に含み、小礫が露出する。粘質が強く、器面はざらついている。笹神丘陵の笹神・真木山窯跡群を中心とする阿賀北地方で生産された可能性が高いもの。

D群…A～C群以外のものを一括した。

このD群の産地については、遺跡周辺の信濃川左岸に存在する角田山麓・西古志地域の窯跡群などが候補としてあげられる。また、頸城地域の窯跡産と考えられるものなどもあるが、分かる範囲で個別に記述した。

B 土 器 の 分 類

種別ごとに製作技術や形態的特徴などで器種分類を行った。同一器種内の大別はA・B…、細別は1・2…、さらに形態などによる細々別にはa・b…を用いた。法量による分類にはI・II…を用いて、その組み合わせにより分類を表している。なお、出土量が少ないものについては器種名のみ表記した(第5～7図)。

須 恵 器

無台杯 口径でI(14cm以上)・II(12～13cm前後)・III(12cm以下)に大別し(主体はII類)、さらに器高指数(器高÷口径×100)で細別した。底部切り離しはヘラ切りが主体であるが、回転糸切りも1点認められた(233)。

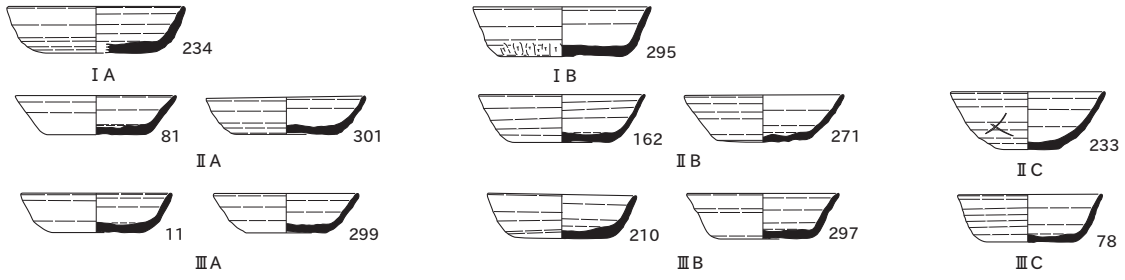
A類:器高指数が26以下の比較的身が浅いもの

B類:器高指数が27～30前後のもの

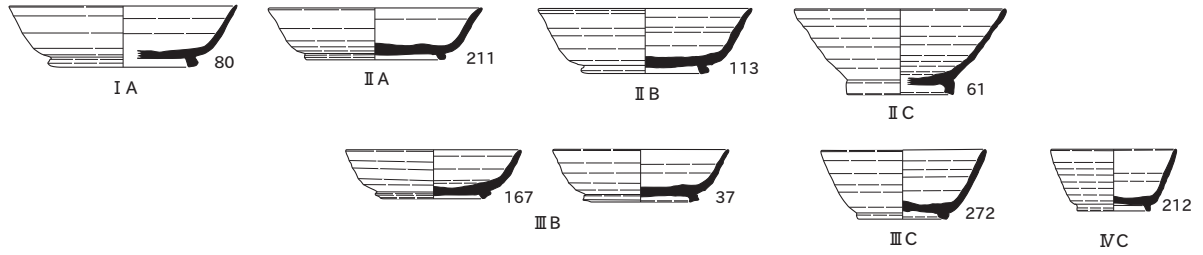
C類:器高指数が32以上の比較的身が深いもの

有台杯 口径でI(18cm以上)・II(15～17cm前後)・III(12～14cm前後)・IV(10cm以下)に大別し(大半がII・III類)、器高指数で細分した。

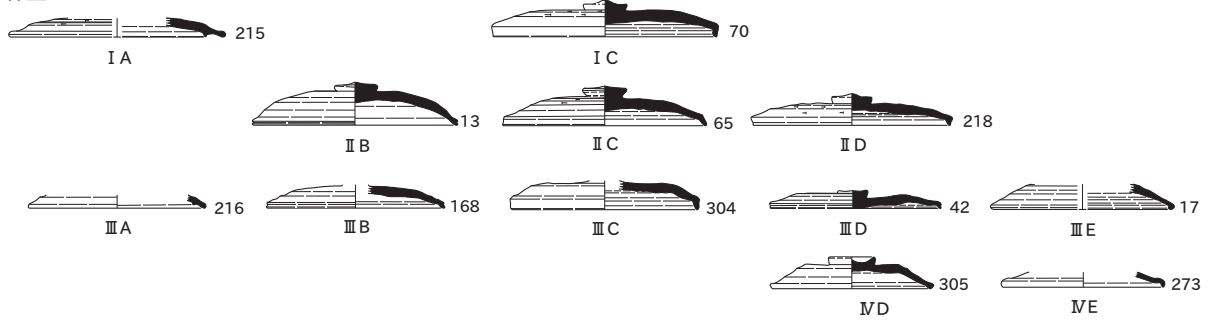
無台杯



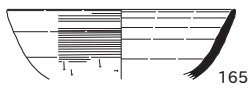
有台杯



杯蓋



鉢

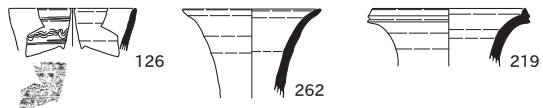


横瓶



壺・瓶類

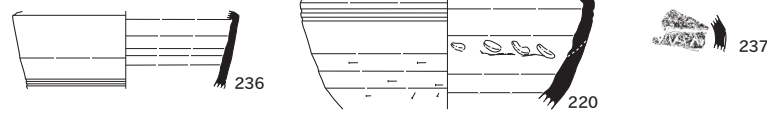
[口縁部]



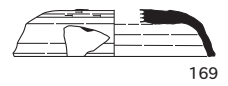
[底部]



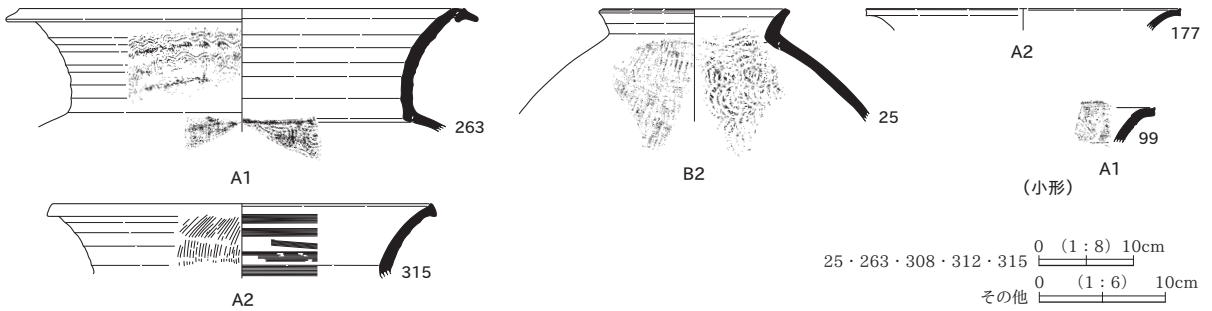
[体部]



壺蓋



甕



第5図 奈良・平安時代の須恵器器種分類

A類：器高指数が24以下の比較的身が浅いもの

B類：器高指数が26～29前後のもの

C類：器高指数が36以上の比較的身が深いもの

杯 蓋 口端部径でⅠ（17cm以上）・Ⅱ（15～16cm前後）・Ⅲ（13～14cm前後）・Ⅳ（12cm前後）に大別し（主体はⅢ類）、見受けのかえりの有無と口端部の形態で細別した。内外面に墨書や刻書が施されたものがある。

A類：内面に身受けのかえりを持つもの

B類：内面に身受けのかえりを持たず、口縁端部がほとんど垂下しないもの

C類：内面に身受けのかえりを持たず、口縁端部が長く垂下するもの

D類：内面に身受けのかえりを持たず、口縁端部が短く垂下し断面が逆三角形になるもの

E類：内面に身受けのかえりを持たず、口縁端部が短く垂下し断面が玉縁状となるもの

鉢 体部が逆ハの字状に開き口縁部は直立する。口縁端部が丸く収まるものと、内面が肥厚し端面を持つものがある。

横 瓶 俵型の体部をもつ。

長頸瓶 長い頸部をもつ瓶ないしは壺。全体形状の分かる個体はない。体部外面下半はケズリが施される。

壺・瓶類 全体形状の分からない破片資料のみであり、貯蔵具ではあるものの壺か瓶か判断の付かないものを一括した。口縁部は、直立するものと逆ハの字状に開くものがあり、後者の端部は丸く収まるもの（126・262）とつまみあげられるもの（219）がある。外面には横位沈線間に波状文が施されるものがある（126）。体部は曲線的あるいは直線的な器形を呈し、外面には2条の横位沈線が上方や下方に認められる。また、横位沈線間にハの字状の刻みが施されるものもある（237）。底部は、平底と脚付きがあり、脚の形状はハの字状に開くだけのもの（3）と末端部が内折して接地面の細いもの（96）がある。また、貫通する孔が開けられているものもある（96）。

短頸壺蓋 壺にともなうもの。1点のみ出土している（169）。

甕 口縁部形態で大別し、口縁部に施される波状文の有無で細別した。外面のタタキメは平行線文、内面のあて具痕は同心円文が施されたものが多い。器壁の厚い大形と薄い小形があると思われる。

A類：長く外反してのびるもの

B類：短く直線的にのびるもの

[口縁部文様]

1類：波状文が施されるもの

2類：波状文が施されないもの

土 師 器

無台杯 ロクロ使用の有無で分けた。底部形態は丸底と平底があり、器形や法量にもバラエティがある。

A類：ロクロを使用していないもの（ロクロメがみられない）

B類：ロクロを使用しているもの（ロクロメがみられる）

無台椀 すべてロクロを使用している。口径でⅠ（18cm以上）・Ⅱ（15～16cm前後）・Ⅲ（14cm以下）に大別し（主体はⅢ類）、さらに器高指数で細別した。底部切り離しは大半が回転糸切りである。

A類：器高指数が32以下の比較的身が浅いもの

B類：器高指数が33のもの

C類：器高指数が34以上の比較的身が深いもの

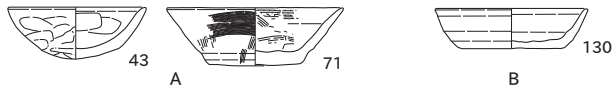
鉢 すべてロクロを使用している。口縁部形態で分けた。

A類：直立するもの

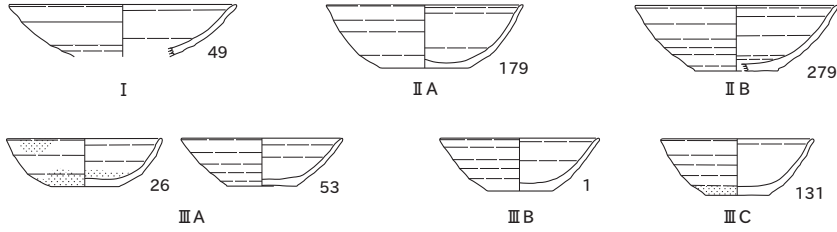
B類：端部が外反するもの

C類：内側に屈曲するもの

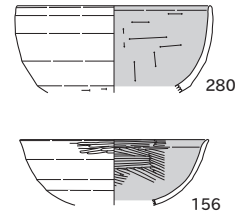
無台杯



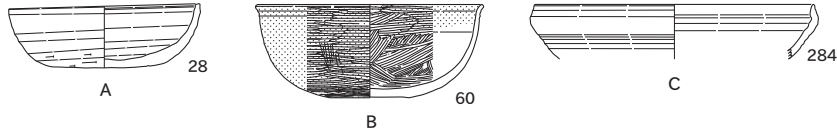
無台椀



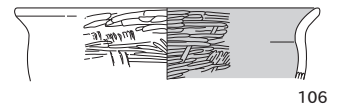
[黒色土器]
無台椀



鉢



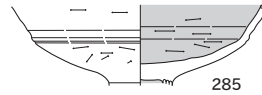
鉢



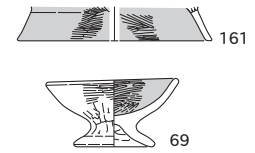
高杯



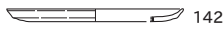
高杯



台付鉢



皿



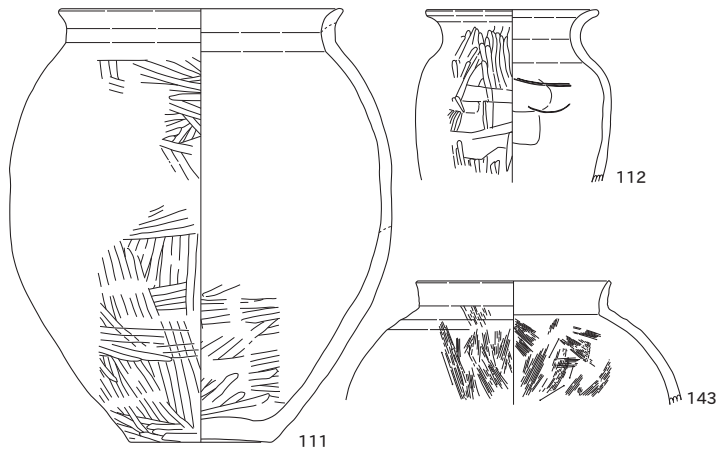
皿



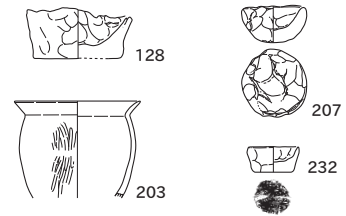
杯蓋



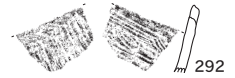
壺



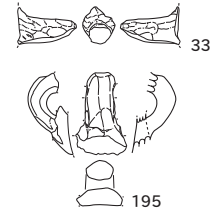
手づくね・ミニチュア



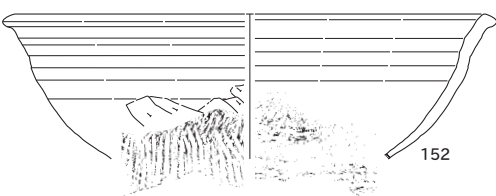
その他 (口縁部)



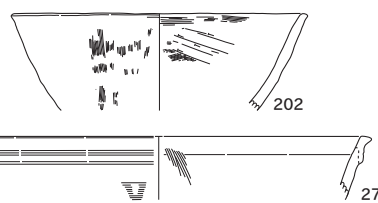
(把手)



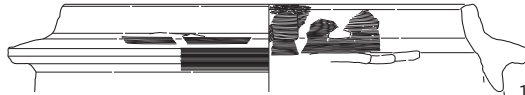
鍋



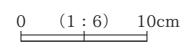
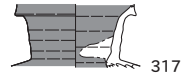
甌



羽釜

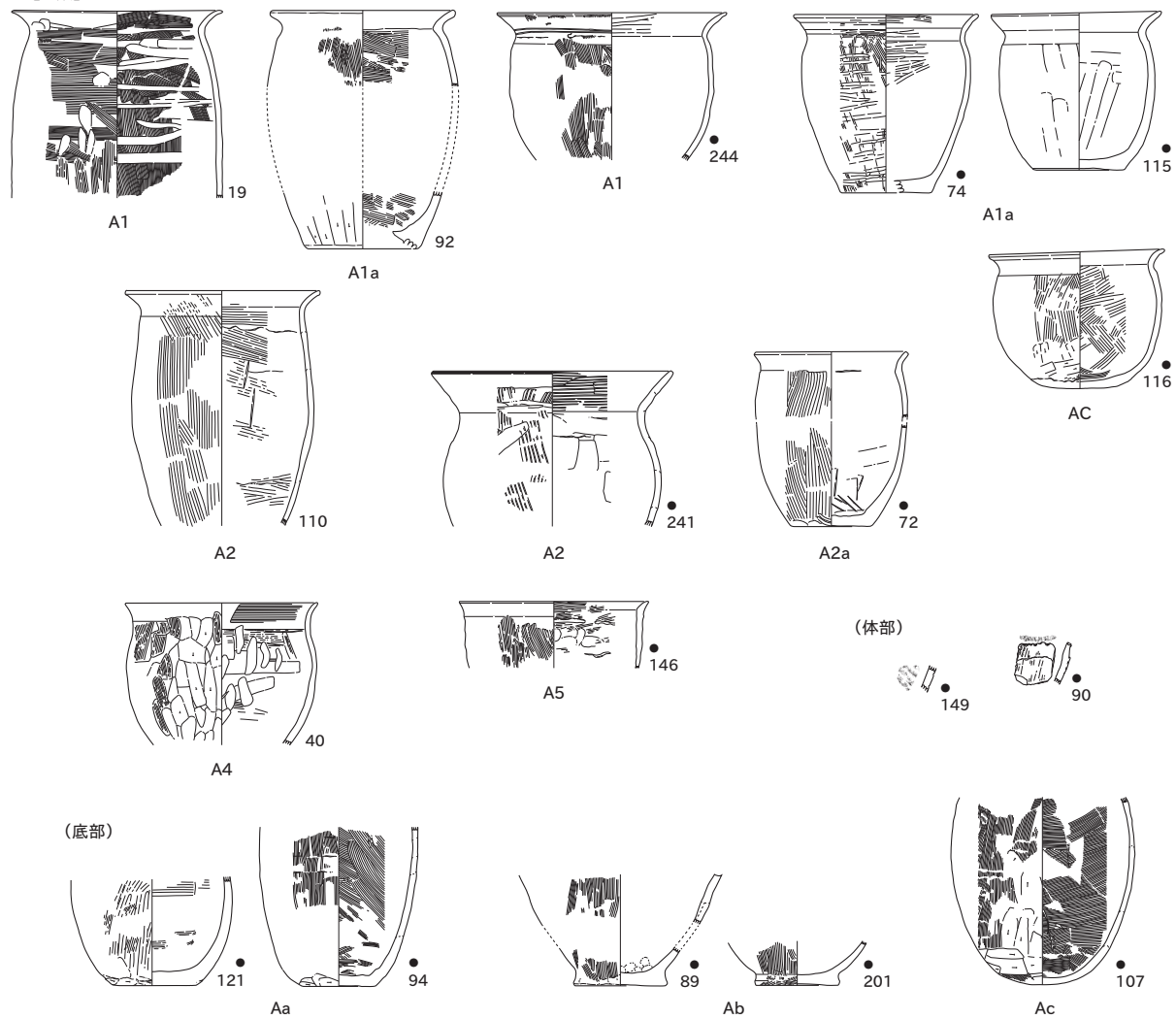


灰釉陶器

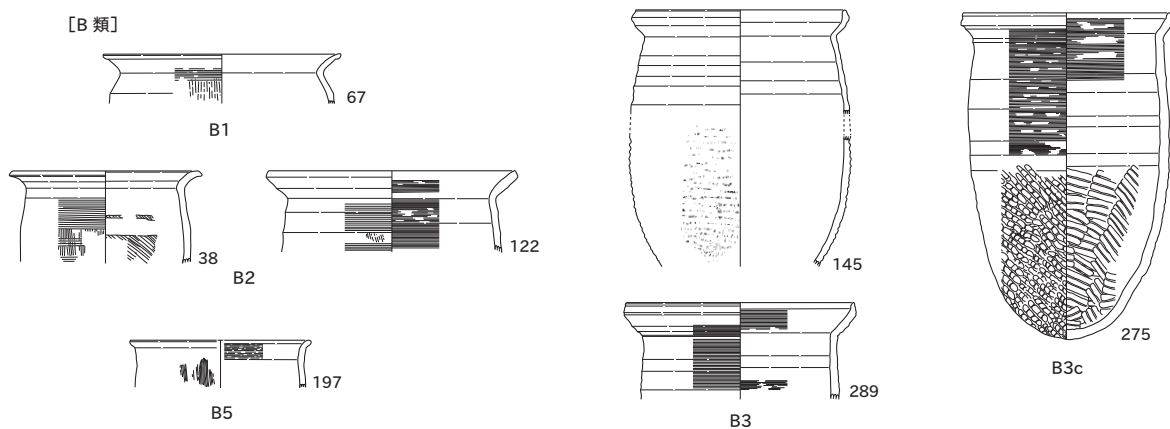


第6図 奈良・平安時代の土師器・黒色土器器種分類

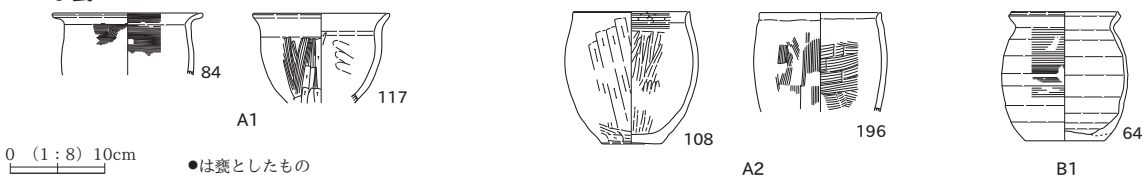
長甕・甕
[A類]



[B類]



小甕



0 (1:8) 10cm

●は甕としたもの

第7図 奈良・平安時代の土師器器種分類

高 杯 内外面ともに丁寧なヘラミガキが施された杯部とナデ調整による脚部が1点ずつ出土している。

皿 身のごく浅い器。法量の異なる皿が1点ずつ出土している。319は中世土師器である。

壺 頸部がしまり、体部のふくらみが大きいもの。内外面をヘラケズリ後にヘラミガキされる。体部が丸くふくらむもの(111・143)と肩が張るようにふくらむもの(112)がある。大形と小形がみられる。

長甕・甕 口径が19cm～26cmの煮炊具。体部が細身で長胴の長甕と、体部が張り比較的短胴の甕に分かれる。製作技法上で大きく異なるロクロ使用の有無(カキメがみられるか否か)で大別し、それぞれ口縁部・底部形態により細別した。A2類には「西古志型甕」[坂井1990ほか]が含まれる。体部外面にハケメ調整後に数条の斜位沈線が施されるもの(149)や、粘土帯の接合部分が工具により波状を呈するもの(90・252)などがある。

A類:ロクロを使用していないもので、体部内外面にハケメが施されるもの

B類:ロクロを使用しているもので、体部内外面にハケメが施されるもの

C類:ロクロを使用しているもので、体部にカキメ・タタキメ(あて具痕)がみられるもの

[口縁部形態]

1類:くの字状に外反し、端部が丸く収まるもの

2類:くの字状に外反し、端部が面取りされて断面が四角形となるもの

3類:くの字状に外反し、端部が面をもち、上方につまみ上げられているもの

4類:緩やかに外反し、端部が丸く収まるか先細りするもの

5類:直立気味に立ち上がり、外傾して端部が丸く収まるか先細りするもの

[底部形態]

a類:平底で、体部にかけて直線的に立ち上がるもの

b類:平底で、体部にかけて明瞭な段をもって立ち上がるもの

C類:丸底のもの

小 甕 口径が16cm未満の煮炊具。ロクロ使用の有無で大別し、口縁部形態により細分した。

A類:ロクロを使用していないもので、体部内外面はハケメを主体にヘラケズリ・ヘラミガキされる

B類:ロクロを使用しているもので、体部にカキメやロクロメがみられる

[口縁部形態]

1類:口縁部がくの字状に外反するもの

2類:口縁部が直立気味に立ち上がるもの

鍋 口径が30cm以上で、口径に比べ器高が低い煮炊具。口縁部から底部まで残存するものはないが、すべてロクロを使用している。口縁部は、強く外反するものや段をもつものなどバラエティがある。

甌 口縁部が直立する。全体形状の分かるものは出土していないが、体部が直線的に外傾する器形から甌と判断した。ロクロ使用で口縁部外面に段をもつもの(27)と、ロクロ未使用で口縁部に段をもたないもの(202)がある。

羽 釜 口縁部下に鏝状の張り出しをもつ煮炊具で、上に甌などをのせて使用したと考える。155のほかに口縁部破片が数点出土している。

灰釉陶器 壺・瓶類の口縁部(317)・体部・底部(318)が出土している。同一個体と考える。

その他 器種が不明のもの。土器の歪みの可能性もあるが、口縁部が波状を呈するもの(292)がある。また、棒状(33)と環状(195)の把手が1点ずつ出土している。煮炊具の体部などに付くと考える。

手づくね・ミニチュア 粘土を手でこねただけで器の形にしたもので、内外面には指頭圧痕が明瞭にみられる(128・207)。法量は異なるが底部形態で分けた。また、器面にハケメ・ミガキなどの調整が施されているものはミニチュアとした(203・232)。

A類:丸底のもの

B類：平底のもの

黒色土器

多様な器種が出土しているが、全体形状の分かる資料はごくわずかである。

無台杯 底部がやや直線的に立ち上がる。内面が黒色処理されている。

無台椀 体部が内湾気味に立ち上がる。内面が黒色処理されている。

有台椀 高台を丁寧に作り出している。内面が黒色処理されている。

高 杯 内面が黒色処理されている。小形・中形・大形がみられ、285は脚部内面も黒色処理されている。

杯 蓋 内外面が黒色処理され、光沢を帯びる。

鉢 口縁部が外反し、内面が黒色処理されている。

台付鉢 161は台付椀の可能性もある脚部で内外面が黒色処理されている。69は器内面が黒色処理されている。

皿 内外面が黒色処理され、光沢を帯びる。

C 遺構出土の土器

1) 1 区

SD1 (図版44、写真図版34・45) 土師器無台椀(1)、須恵器有台杯(2)・壺(3)・甕(4)を図示した。1は略完形品で底部切り離しは糸切りである。ⅢB類で胎土はIb類、VI期と考える。2は底部で胎土B群、V期と考える。3は壺・瓶類の脚部で、4はやや短いA2類の口縁部である。ともに胎土D群である。

SD2 (図版44、写真図版45) 須恵器横瓶(5)を図示した。全体形状は不明瞭である。胎土A群。

SD6 (図版44、写真図版45) 黒色土器無台椀(6)を図示した。底部の破片資料で全体形状は不明瞭である。底部切り離しは糸切り。内面はミガキが施され黒色処理されている。胎土Ⅱc類でVI期以降の所産と考える。

SD54 (図版44、写真図版45) 須恵器甕(7)を図示した。全体形状は不明瞭である。胎土A群。

SE57 (図版44、写真図版34・42・45) 多くの遺物が出土している。土師器鍋(8)、黒色土器皿(9)・杯蓋(10)、須恵器無台杯(11・12)・杯蓋(13)を図示した。8はロクロ成形で内外面にカキメが残り、口縁部は逆くの字状に外反する。胎土Ic類でⅢ期と考える。9・10は内外面ともに丁寧にミガキが施され黒色処理され光沢を帯びている。胎土は9がIVa類、10がIVb類で、10はV期と考える。多様な黒色土器が出土した燕市上町遺跡〔松島2009〕に類例がある。11はⅢA類、12はⅡB類で11の底部内面には「一」の刻書が施される。ともに底部切り離しはヘラ切り、胎土A群でV期と考える。13はⅡB類で内面に「×」の刻書が施される。胎土はD群でⅢ期の所産と考える。

SK20 (図版44、写真図版45) 土師器杯(14)を図示した。全体形状は不明瞭であるが、口縁部内面はミガキが施され赤彩されている。胎土Ⅱc類でⅢ期の所産と考える。

SK53 (図版44、写真図版45) 須恵器甕(15)を図示した。全体形状は不明瞭である。胎土A群。

SD5 (図版44、写真図版45) 須恵器無台杯(16)・杯蓋(17)を図示した。16は胎土A群で底部切り離しはヘラ切り、Ⅲ期と考える。17はⅢE類で胎土B群、VI期と考える。内面には墨痕が残り、転用硯と考える。

SD10 (図版44、写真図版45) 土師器無台椀(18)を図示した。底部切り離しは糸切りである。胎土はⅡc類でVI2・3期と考える。

SD11 (図版45、写真図版34・45) 土師器長甕(19)、須恵器甕(20～23)を図示した。19はA1類で胎土はⅢb類である。内外面ともにハケメが施された後、ナデが行われる。体部内面の下半に黒色付着物がわずかに認められる。Ⅲ期。20はA1類で胎土はA群、8世紀代の所産と考える。21～23は体部のみで全体形状は不明瞭である。21は胎土B群、22・23はA群である。

SD12 (図版45、写真図版34・45・46) 土師器小甕(24)、須恵器甕(25)を図示した。24はB1類で胎土はIb

類、口縁部～体部上半の内外面には炭化物・ススが付着している。VI期と考える。25はB2類で胎土はA群である。8～9世紀代の所産と考える。

SD15 (図版45、写真図版34・46) 土師器無台椀(26)・甑(27)を図示した。26は略完形品でⅢA類、口縁部外面・底部にスス、底部内面には炭化物が付着している。胎土Ic類でVI期以降の所産と考える。27はロクロ成形で口縁部は逆ハの字状に開く。口縁部外面に段が巡り、端部は外面が肥厚して面をもつ。胎土はⅡc類であり、器形から甑と判断した。VI期以降と考える。

SD18 (図版46、写真図版34・46) 土師器鉢(28)を図示した。口縁部は直立し端部は断面が右上がりに面をもち、内面にはごく細い沈線が巡る。体部外面から底面にかけてケズリが施される。胎土Ⅱb類でⅢ期と考える。

SD24 (図版46、写真図版46) 土師器甕(29)を図示した。Aa類で体部外面から底面はケズリが施されている。内面はハケメが施され、胎土はⅡb類、Ⅲ期と考える。

SD29 (図版46、写真図版42・46) 土師器甕(30)を図示した。A類で、底面には平行葉脈痕がみられる。中央部分は円形に凹み、体部外面はハケメが施される。胎土はⅡb類、Ⅲ期と考える。

SD30 (図版46、写真図版42・46) 土師器甕(32・33)、須恵器甕(36)を図示した。32は底部の立ち上がりに若干凹みができるAb類で、底面にはミヤマカワラハンノキと推測される網状脈の木葉痕がみられる(第VI章参照)。体部内外面にはハケメが施される。胎土はⅢa類でⅢ期と考える。33は甕など煮炊具の体部などに対応する把手部分と考えたが、わずかではあるが端部に面をもっていることから脚の可能性もある。胎土はⅡc類でⅢ期と考える。36は甕の底部付近でタタキメ・あて具痕ともに幾重にも認められる。胎土はA群である。

SD33 (図版46、写真図版41・46) 須恵器杯蓋(31)・有台杯(34)・甕(35)を図示した。31はつまみ・口端部が残存せず、内面には墨痕が認められる。胎土D群で8世紀代。34はⅡA類で内面に墨痕が認められ、転用硯と考える。胎土はD群で、浅い高台などからⅣ期とした。35は口縁部が短いB2類で胎土はA群である。Ⅴ期の所産と考える。

SD35 (図版46、写真図版46) 須恵器有台杯(37)を図示した。ⅢB類で底部切り離しはヘラ切りである。胎土はD群でⅢ期の所産と考える。

SD39 (図版46、写真図版41・46) 土師器長甕(38)、須恵器無台杯(39)を図示した。38はロクロ成形の長甕で、体部外面はハケメ後のカキメが残り、内面はハケメがナデ消されている。器壁は厚く、B2類で口縁端部は面をもつ。本遺跡出土煮炊具の胎土としては珍しいIc類でⅢ期の所産と考える。39は小片で全体形状は不明瞭だが、体部外面に墨書が施される。胎土はD群。図示しなかったが、155と類似する羽釜の口縁部が1点出土している。

SD42 (図版46、写真図版46) 土師器甕(40)、須恵器壺・瓶類(41)を図示した。40はA4類でハケメが施された後、体部外面は縦方向にケズリが施され、内面はその際の指頭圧痕がみられる。胎土はⅡc類でⅢ期と考える。41は壺・瓶類の小片で全体形状は不明瞭である。体部外面に自然釉が付着する。胎土はD群。

SX45 (図版46、写真図版34・46) 須恵器杯蓋(42)を図示した。若干歪みがあるが、略完形でⅢD類とした。胎土A群でⅤ期の所産と考える。

SX65 (図版46、写真図版34・44・46) 土師器無台杯(43)・甕(44)を図示した。43はA類の略完形品で丸底である。内外面ともに横方向のナデが行われる。胎土はⅢb類でⅡ2期～Ⅲ1期の所産と考える。44は小片のため全体形状は不明瞭であるが、体部内外面にハケメが施される。内面には粘土帯の輪積み痕跡が明瞭に残り、上部と下部では色調が異なる。胎土はⅡb類でⅢ期と考える。

SD4 (図版46、写真図版46) 須恵器有台杯(45)を図示した。残存率は少ないが全体形状が分かる破片でⅢB類とした。胎土はA群でⅢ期と考える。

2) 4 区

SK4 (図版47、写真図版34・35・46・47) 土師器無台椀(46～59)・鉢(60)、須恵器有台杯(61)を図示した。浅い土坑から残存率の高い資料がまとまって出土し、一括性が高い。最も多く出土した土師器無台椀は、大半が

Ⅲ類に属し、ⅢA類が53・54・56・59、ⅢB類が52・57・58、ⅢC類が47・55で、ⅡA類は46・50で、底部の残存しない48はⅡ類、49はⅠ類である。底部が残存しているものは全て底部切り離しが糸切りである。胎土はⅠc・Ⅲb類が大半を占める。Ⅰc類が46～48・50・51・55、Ⅲb類が49・52～54・57・58、その他Ⅱb類が59、Ⅱc類が56であった。46～48・50・51がⅥ期、49・52～59がⅦ1期と考える。60は略完形品でやや外反する口縁部直下に浅い凹線が巡り、内外面は丁寧なミガキが施される。内面は口縁部に、外面は全体にススが付着する。胎土はⅡb類で、Ⅲ期と考える。61はⅡC類で器高指数41と身深である。工事立会で400m以上も離れた地点出土の破片と接合した。本遺跡から出土した他の須恵器と比べ非常に軽い。高台は外端接地で、胎土はB群、Ⅶ1期のいわゆる高野段階〔坂井・鶴間・春日1991〕と考える。

SX6 (図版47、写真図版41・47) 須恵器無台杯(62)・杯蓋(63)を図示した。62はⅡA類で底部切り離しはヘラ切りである。底面に墨書が施される。63はつまみを欠くがⅢD類で天面はケズリが施される。ともに胎土はB群でⅤ期の所産と考える。

SD1 (図版47、写真図版35) 土師器小甕(64)、須恵器杯蓋(65)を図示した。64はSK4との接合資料である。B1類で体部外面にはカキメがみられる。胎土はⅠb類でⅤ期の所産と考える。65はⅡC類で天面はケズリが施される。胎土はA群でⅢ期の所産と考える。

SD5 (図版47、写真図版47) 土師器長甕(66)を図示した。B3類で内外面にカキメがみられる。胎土はⅣa類で9世紀代と考える。

3) 2 区

SE25 (図版48、写真図版47) 土師器長甕(67)・甌(68)を図示した。67はB1類で口縁部は逆くの字状に強く外反する。口縁部は丸く収まるが口端部直下の外面が若干肥厚する。頸部外面には横方向のハケメが施される。胎土はⅡb類でⅢ期の所産と考える。68は逆ハの字状開く器形で、端部は丸く収まる。器壁が厚く器形から甌と考えた。胎土はⅡb類でⅢ期の所産と考える。

SD7 (図版48、写真図版35・41) 黒色土器高杯(69)を図示した。杯部は内外面ともにミガキが施され、内面は黒色処理される。脚部は内外面にナデが行われている胎土はⅠc類でⅢ期の所産と考える。

SX2 (図版48、写真図版35・47) 須恵器杯蓋(70)を図示した。ⅠC類で天面はケズリが施される。胎土は信濃川右岸の窯跡産と考えA群とした。Ⅲ期の所産と考える。

SD3 (図版48、写真図版35・41・42・47) 土師器無台杯(71)・甕(72)、須恵器無台杯(73)を図示した。71はA類で口縁部内面にススが付着する。胎土はⅡc類でⅢ期の所産と考える。72はA2a類で内外面に炭化物やススが付着する。胎土はⅢa類でⅢ期の所産と考える。73は底部小片であるが、底面は赤彩が施され、内面には墨痕がみられる。胎土はA群で9世紀代と考える。

SX42 (図版48、写真図版35・41・42・47・48) 土師器甕(74・76)・長甕(75)・壺(77)、須恵器無台杯(78・81)・有台杯(79・80)を図示した。74はA1a類で内外面にはハケメの後にミガキが施され、口縁部から体部上位内面には炭化物が付着する。75は残存している器形から長甕と判断した。A2類で口縁部から体部下半の内面には炭化物が付着する。76は甕の底部でAa類である。底面までハケメが施される。74～76はともに胎土Ⅰb類でⅢ期の所産と考える。77は丸みを帯びた体部器形と内面に施されたミガキから壺と判断した。胎土はⅡb類でⅢ期と考える。78は約20m離れた第6次調査区との接合資料で、ⅢC類、底部切り離しはヘラ切りである。81はⅡA類で底部切り離しはヘラ切り。79はⅢB類で底部切り離しはヘラ切りである。底面には墨書が施される。80はⅠA類で底部切り離しはヘラ切りである。転用硯で内面に墨痕が残り、磨耗している。78～81はともに胎土A群でⅡ2期～Ⅲ1期の所産と考える。

SK13 (図版49、写真図版41・42・48) 土師器長甕(82)・甕(83)・小甕(84)、須恵器有台杯(85)・甕(86)を図示した。82はA1類で頸部に浅い凹線が巡り、内外面はハケメが施される。内面は縦位に、外面は縦位の後に横位にハケメが施され文様のような効果をもつ。胎土はⅠa類でⅢ期。83は立ち上がりに若干の段をもつ

底部でAa類。全体形状は不明瞭だが内面は丁寧なハケメが施される。焼成時か使用時にはじけたのか、粉々に砕けた小片がまとまって出土した。底面はナデが行われる。胎土はIc類でⅢ期。84はA1類で83と類似した特徴をもち、小片も多く出土した。強く外反した口縁部の内外面はナデが行われ、口端部直下の外面が肥厚する。体部上半は内外面にカキメが残り、その後一部にハケメが施される。胎土はIa類でⅢ期。85はⅡB類で底部外面の高台内に墨痕がみられる。胎土D群でⅢ期。86は甕の体部小片で全体形状は不明瞭である。胎土はD群。SD4(図版49、写真図版35・36・44・48) 土師器長甕(87・88)・甕(89・90)・ミニチュア無台杯(91)を図示した。87はA2類で内面は横位に、外面は縦位にハケメが施され、内面には指頭圧痕がみられる。胎土はIb類でⅢ期。88はA1類で口端部は先細りする。胎土はⅡc類でⅢ期。89はAb類で底部から抉れるように立ち上がる。底部内面には指頭圧痕が残り、焼成時の黒斑がみられる。胎土はⅡb類でⅢ期。90は体部小片で全体形状は不明瞭であるが、外面にハケメが施される。A類で粘土帯のつなぎ目部分に工具を押しつけて波状を呈する。胎土Ⅱa類でⅢ期。91は小形で内面に横位のハケメが施され、外面はナデが行われている。胎土Ⅱa類でⅢ期と考える。

SD10(図版49、写真図版36) 土師器長甕(92)を図示した。推定であるが口縁部から底部までわかる資料。A1a類とした。体部の内外面はハケメ、外面下半には縦位にケズリが施される。胎土Ⅱb類でⅢ期と考える。

4) 3 区

SK20(図版50、写真図版42・48) 土師器甕(93)を図示した。A類の底部で底面に網状脈の木葉痕とイネの穎果と推定される圧痕が認められる。胎土はIb類で混和材を多く含む。Ⅲ期と考える。

SK36(図版50、写真図版36・42) 土師器甕(94)を図示した。体～底部の破片資料でAa類である。内外面はハケメが施される。底部内面はナデが行われ、底部外面はケズリが施され、底面は凹凸する。外面には全体的にススが付着する。胎土はⅢb類でⅢ期と考える。

SD9(図版50、写真図版36・48) 須恵器有台杯(95)を図示した。高台は低く太い。ⅡB類で底部切り離しはヘラ切りである。胎土はA群でⅢ期の所産と考える。

SD18(図版50、写真図版48) 須恵器壺・瓶類(96)を図示した。脚部破片で全体形状は不明瞭である。端部は内側に屈曲し外面に微隆起が巡る。その上部に外面から斜め下方に穿孔されている。胎土はA類でⅢ期。

SD21(図版50、写真図版36・48) 須恵器有台杯(97)を図示した。高台は低く細い。ⅢB類で底部切り離しはヘラ切りである。胎土はD群でⅢ期の所産と考える。

SD33(図版50、写真図版48) 土師器無台杯(98)を図示した。A類で体部外面はケズリが施され、内面はハケメの後ミガキが施される。底面もミガキが施される。胎土はIb類でⅢ期の所産と考える。

SD40(図版50、写真図版48) 須恵器甕(99)を図示した。器壁が薄く、小形の可能性がある。口縁部直下の外面に波状文・横位沈線が施され、A1類とした。胎土はD群。8世紀代と考える。

SD35(図版50、写真図版48) 須恵器甕(100)を図示した。肩部小片で、全体形状は不明瞭。胎土はD類。

SX30(図版50、写真図版48) 土師器甕(101)を図示した。やや抉れて立ち上がる底部でAb類とした。内外面にハケメが施され、外面には指頭圧痕がみられる。胎土はIb類でⅢ期と考える。

SX39(図版50、写真図版36・48) 土師器長甕(102)・甕(103)、黒色土器高杯(104)を図示した。102はA1類で内外面にハケメが施される。内面はその後ナデが行われ、指頭圧痕がみられる。胎土はⅢb類でⅢ期と考える。103はやや抉れて立ち上がる底部でAb類とした。内外面は細かいハケメが施される。底部はナデが行われ中央部分が凹む。胎土はIb類でⅢ期と考える。104は高杯としたが脚が付かず別器種の可能性もある。杯部外面に段をもち、ケズリの後ミガキが施される。内面はミガキが施され黒色処理される。胎土Ib類でⅡ2期～Ⅲ1期と考える。

5) 第6次調査区

SD1(図版51、写真図版48) 須恵器有台杯(105)を図示した。口縁部はⅢ類とした。胎土A群でⅢ期。

SX11 (図版 51、写真図版 36・37・48) 黒色土器鉢 (106)、土師器甕 (107)・小甕 (108・109)・長甕 (110)・壺 (111・112)、須恵器有台杯 (113・114) を図示した。106 は内外面にミガキが施され、内面は黒色処理される。胎土は I a 類でⅢ期の所産である。107 は丸底で内外面に細かいハケメが施される。外面下半部分はケズリが施されススが付着する。Ac 類で粘土帯の輪積み痕が明瞭に残る。胎土は I a 類でⅢ期である。108 は A2 類で内外面はケズリの後ミガキが施される。口縁部から体部上半の内面には炭化物が付着する。胎土Ⅲ b 類でⅢ期と考える。109 は A1 類で内外面にハケメが施され、口縁部から体部上半の内面には炭化物が帯状に付着するが、部分的に体部中央まで認められる。胎土 I b 類でⅢ期。110 は A2 類で内外面はハケメが施され、輪積み痕跡が明瞭に残る。口縁部から体部外面には部分的にススが付着する。胎土Ⅱ b 類でⅢ期と考える。111 は体部内外面・底面にミガキが施される。胎土 I a 類でⅡ 2 期～Ⅲ 1 期と考える。112 は体部外面に縦位のミガキが施され、内面はナデが行われる。胎土 I a 類でⅢ期。113 はⅡ B 類で底部切り離しはヘラ切りである。高台は太く内端接地である。胎土は A 群でⅡ 2 期～Ⅲ 1 期と考える。114 はⅡ A 類で底部切り離しはヘラ切りである。高台は低くやや太い。胎土 A 群でⅢ期の所産と考える。

SD6 (図版 52、写真図版 37・42・43・49) 土師器甕 (115・116・118・120・121)・小甕 (117・119)・長甕 (122)・壺 (123)、須恵器無台杯 (124)・有台杯 (125)・壺・瓶類 (126) を図示した。115 は略完形品で口縁部が大きく外反した A1a 類で、頸部外面は浅く凹線が巡り段をもつ。内外面はナデが行われ、底面はケズリが施される。体部外面はわずかにススが付着し、内面は全体的に炭化物が付着する。胎土 I a 類でⅢ期と考える。116 は略完形品で口縁部が外反したやや丸底の A1c 類で頸部外面には浅く凹線が巡り段をもつ。内外面はハケメが施され、底部外面付近はケズリが施される。内外面にはスス・炭化物が付着する。胎土Ⅲ b 類でⅢ期。118 は口縁部が外反した A1 類で、内面はナデが行われ外面はハケメが施される。胎土 I b 類でⅢ期。120 は口縁部が外反した A1 類で頸部外面には浅く凹線が巡り段をもつ。内外面はハケメが施され、口縁部内面には帯状に、体部には部分的に炭化物が付着する。胎土 I c 類でⅢ期。121 は Aa 類で、内外面はハケメが施され、底面はケズリが施される。内面には炭化物が付着し、胎土 I b 類でⅢ期。117 は口縁部が外反した A1 類で、外面はハケメの後にケズリが施される。胎土 I c 類でⅢ期。119 は口縁部がわずかに外反した A1 類で頸部外面には浅く凹線が巡りわずかに段をもつ。内面はハケメ、外面はケズリが施される。胎土Ⅲ b 類でⅢ期。122 は口縁部が外反したロク口成形の B2 類で、器壁は厚く口端部に面をもつ。内外面にカキメがみられる。胎土Ⅱ a 類でⅢ期。123 は内面にミガキが施され、外面や底面にはケズリの後ミガキが施される。胎土 I b 類でⅢ期。124 は器壁が厚く小さい。Ⅲ c 類で底部切り離しはヘラ切りである。胎土は A 群でⅡ 2 期～Ⅲ 1 期と考える。125 の高台は低く太い。内端接地でⅡ A 類、底部切り離しはヘラ切りである。胎土は A 群でⅢ期の所産と考える。126 は壺・瓶類の口縁部に沈線間に波状文が施される。胎土は D 類でⅡ 2 期～Ⅲ 1 期の所産と考える。

SD21 (図版 52、写真図版 37・49) 土師器杯 (127)・手づくね (128・129) を図示した。127 は高台が付くか判断できなかったため杯とした。B 類で内外面ともにミガキが施される。胎土 I c 類でⅡ 2～Ⅲ 1 期と考える。128・129 は平底の手づくね B 類で、内外面ともに指頭圧痕がみられる。胎土は 128 が I a 類、129 がⅢ b 類でいずれもⅢ期と考える。

D 遺構外出土の土器

1) 1 区

土師器 (図版 53・54、写真図版 37・41・49・50・52・55) 無台杯 (130)・無台椀 (131～141)・皿 (142)・壺 (143)・長甕 (144・145・147)・甕 (146・148・149)・鍋 (150～154)・羽釜 (155) を図示した。130 は B 類で底部切り離しはヘラ切りである。胎土は粗く I a 類、Ⅲ期と考える。132・136 はⅢ A 類、131・133・134 はⅢ C 類、135 はⅢ B 類である。底部を欠く 137・139 はⅡ 類、138 はⅢ 類である。胎土は 136 が I a 類、135・139～141 は I c 類、133 はⅡ a 類、131・132・137 がⅡ c 類、134 がⅢ b 類、138 がⅣ b 類である。

底部が残る資料は、すべて底部切り離しが糸切りである。141は体部外面に墨書が施される。内外面に炭化物やススが付着しているものや(135・136)、外面にのみススが付着しているものがある(131・134)。131～135はVI期で、136～140はVII期と考える。142は小片で底部切り離しはヘラ切りで、胎土はIc類である。VI期と考える。143は体部が丸く張り出した器形で、体部内外面には細かいハケメが施された後、ミガキが施される。胎土はIIa類でII2～III1期と考える。144はA5類、145・147はB3類である。144は体部がほとんど張らず口縁部が外傾して開く。端部は先細りで内面がやや湾曲する。胎土IIa類で、III期。145は体部内面の下半部は丁寧にナデが行われ、あて具痕が残っていない。147は口縁～体部上半で外面にはカキメが残り、部分的に縦位のナデが行われる。胎土は145がIa類、147がIIIa類でVI期と考える。146・148・149は破片資料で全体形状が不明瞭なため甕とした。146はA5類、148はB2類、149はA類である。146は体部から直立して立ち上がり、口縁部はやや外傾する。端部は先細りし内面は平坦である。内外面はハケメが施され、体部内面はナデが行われ指頭圧痕がみられる。胎土IIa類でIII期。148はA2類で、いわゆる西古志型甕〔坂井1990など〕の口縁部で端部が面取りされている。小片で不明瞭だが胎土IIb類でV期と考える。149は体部小片で内外面にハケメが施された後、外面に3条の斜位沈線が認められる。図示していないが同一個体の小片が数点出土している。胎土IIIb類でIII期。150・151は外反する口縁部で150の内面にはカキメがみられる。胎土IIIb類で8世紀代。152～154は口端部内外面が肥厚する。胎土は順にIIIa・IIc・Ia類でVI期と考える。155は口縁部直下外面にやや下に向く突帯をもつ羽釜で、体部以下の形状は不明瞭である。内外面に細かいハケメが施される。胎土IIb類で、被熱痕跡などにより同一個体片は容易に認識でき、カマド型土製品(325)と酷似している。県内でも出土例が少なく不明瞭だが、東北地方出土の羽釜形土製品を集成した〔古川2014〕によると本資料はIIb類に相当すると考えられ、時期は、9世紀後半から10世紀代とされる。しかし、9世紀前葉を主体とするSE57出土の破片と接合しており、遡る可能性もある。

黒色土器(図版54、写真図版49・50) 無台椀(156・157)・椀(158)・無台杯(159)・有台椀(160)・台付鉢(161)を図示した。156は底部を欠くが身は深めである。内面は体部下半まで、外面は口縁部にミガキが施され、内面が黒色処理される。胎土IVa類でVI期と考える。157はわずかに段をもつ底部で、内面はミガキが施され黒色処理される。底部切り離しは糸切りで、外面立ち上がり部分ともにケズリが施される。胎土IIc類で10世紀代と考える。158は底部を欠くため有台か無台か判断が難しく椀とした。内面にはミガキが施され黒色処理される。胎土IVb類で10世紀代と考える。159は器壁の厚い平底の底部で内面はミガキ、外面立ち上がり部分はケズリが施され、内面が黒色処理される。胎土IIa類でIII期と考える。160は高台の底部で内面にはミガキが施され、黒色処理される。胎土IIc類で10世紀でも新しい時期と考える。161は台杯鉢としたが台杯椀の可能性もある脚部で、ハの字状に直線的に開く。内外面はミガキが施され、黒色処理される。胎土IVb類でVI期と考える。

須恵器(図版54・55、写真図版37・38・41・50・51) 無台杯(162～164)・鉢(165)・有台杯(166・167)・杯蓋(168)・短頸壺蓋(169)・壺・瓶類(170～175)・甕(176～178)を図示した。162・163はIIb類、164はIIa類でやや身が浅い。いずれも底部切り離しはヘラ切りで、胎土B群、V期である。165は底部を欠くが、口縁部にかけて逆ハの字状に開く。体部外面上半はカキメが残り、下半はケズリが施される。胎土A群でIII期。166は径が小さく低い高台の底部で、底外面には墨書が施される。167はIIIb類で高台は低く内端接地である。いずれも底部切り離しはヘラ切りで胎土A群、III期である。168はつまみ部を欠くがIIIb類。胎土D群でIII期。169はつまみ部を欠く短頸壺蓋で天面はケズリが施され、外面には墨書が施される。胎土A群。170～175は小片で全体形状は不明瞭である。170は体部外面下半にケズリが施される。胎土はC群。171は肩部小片で器壁は薄い。胎土はD群。172は肩～体部で肩部上方にごく細い沈線が巡る。体部下半の外面には浅いタタキメがみられる。外面全体に自然釉が付着する。胎土はA群。173は平底の壺底部で、外面はケズリが施され、底面はケズリが施された後にナデが行われる。胎土はD群。174はハの字状に開く壺底部で、胎土はD群と考える。

175 はハの字状に開く壺底部の端部に面をもち、高台の接地部分が細いもの。胎土はD群と考える。176 はA1類で口端部の外側が肥厚し、直下に波状文が施される。胎土はD群。177 はA2類で推定口径が25cmで器壁も薄いため、小形の可能性もある。胎土はC群。178 はA1類で口縁部は大きく外反し、肥厚して段をもつ。直下には波状文が施される。胎土はA群。

2) 4 区

土師器(図版55、写真図版38・51) 無台碗(179～182)を図示した。179 はⅡA類で、胎土Ⅳb類、Ⅵ期。180・182 はⅢC類で、胎土は180がⅠc類で182がⅡc類、ともにⅥ期。179・180・182の底部切り離しは糸切りである。181 はⅢA類で、磨耗により底部切り離しは不明瞭である。胎土Ⅲb類で10世紀代。

黒色土器(図版55、写真図版51) 無台碗(183)を図示した。底部を欠くが、内面はミガキが施され黒色処理される。胎土Ⅳb類でⅥ期と考える。

須恵器(図版55、写真図版51) 無台杯(184・185)を図示した。184 はⅢA類、185 はⅢB類で身が深い。いずれも底部切り離しはヘラ切りで、胎土B群、Ⅴ期と考える

3) 5 区

土師器(図版55、写真図版51) 無台碗(186・187)を図示した。186 はⅢ類の口縁部で器壁は薄い。187 は切り離しが糸切りの底部である。いずれも胎土Ⅲb類で、10世紀代と考える。

黒色土器(図版55、写真図版51) 碗(188)を図示した。底部を欠くため有台か無台か不明瞭である。体部からハの字状に直線的に開く。内面はミガキが施され黒色処理される。胎土はⅡc類でⅥ期。

4) 2 区

土師器(図版56、写真図版38・43・51) 杯(189・190)・無台杯(191)・高杯(192)・甕(195・197～201)・小甕(196)・甌(202)・ミニチュア(203)・手づくね(204～209)を図示した。189 は杯としたが高杯の可能性もある口縁部で、内外面はミガキが施される。190 は杯としたが鉢の可能性もある口縁部で器壁は厚い。いずれもロクロ未使用のA類で、胎土はⅡc類、Ⅲ期と考える。191 は丸底のB類底部である。外面はミガキが施され、内外面ともに赤彩される。胎土Ⅰb類でⅢ期。192 は脚部でハの字状に開く。内外面はナデ・ハケメが施される。胎土Ⅰb類でⅢ期。195 は燕市三角田遺跡の双耳甕〔松島2001〕のように煮炊具の体部に付く環状把手と考えた。胎土はⅡA類でⅡ2～Ⅲ1期と考える。196 はA2類で、体部から内湾気味に立ち上がり口縁部は直立する。内外面はハケメが施され、胎土Ⅲb類でⅢ期。197 はB5類で体部から直立気味に立ち上がり、口縁部は外傾し端部は丸く収まる。体部外面はハケメが施され、口縁部内面はカキメがみられる。胎土Ⅱc類でⅣ期と考える。198 はAa類の底部で、内外面と底面にハケメが施され、内面はナデが行われる。199～201 はAb類の底部である。いずれも立ち上がりが括れる。199 は内外面と底面にケズリが施される。200 は底部のみ残存し、内面はナデが行われている。底面には東北地方に特徴的な網状脈の木葉痕が残る。分析の結果、ミヤマカワラハンノキの可能性が指摘されている(第Ⅵ章参照)。201 は内面にナデが行われ、外面と底面はハケメが施される。胎土は198がⅡc類、199・200がⅢa類、201がⅡb類でいずれもⅢ期である。202 は旧吉田町小諏訪前遺跡〔布施ほか2006〕の甌に類似していると考え甌とした。体部から逆ハの字状に直線的に開き端部は丸く収まる。内外面は細かいハケメが施され、内面はケズリも施される。胎土ⅠA類でⅢ期。203 は器壁が薄く小形で、丁寧に作られ、体部外面はミガキが施されることから甕形のミニチュア土器とした。胎土ⅠA類でⅢ期。204・205 は平底のB類、206～209 は丸底のA類である。204 は手づくねとしたが、ロクロを使用しない無台杯の可能性もある。内外面にナデによる指頭圧痕がみられる。新潟市四十石遺跡〔渡邊ほか2012〕で類似する無台杯が出土している。胎土ⅠA類でⅢ期。205 はごく小さい器状のもので、内外面に指頭圧痕がみられる。粘土のみで混和材をほとんど含まない胎土Ⅳa類である。206～209 はほぼ同じ大きさで酷似している。指頭圧痕のほかに、粘土の接合部まで明瞭にみられる。胎土は206・207がⅠb類、208がⅠc類、209がⅠA類である。いずれもⅢ期。なお、202・208・209 は確認調査(第7次調査)で8T遺構(SD)出土であるが、本調査

で遺構の特定ができなかったため包含層扱いにした。

黒色土器 (図版 56、写真図版 51) 高杯 (193)・杯 (194) を図示した。193 は脚部で、外面はナデ・ハケメが施される。内面はミガキが施され黒色処理される。胎土Ⅱb類で8世紀代と考える。194 は底部を欠く杯で、外面はハケメが施される。内面はミガキが施され、黒色処理される。胎土Ⅲb類でⅢ期と考える。

須恵器 (図版 56・57、写真図版 38・41・52) 無台杯 (210)・有台杯 (211～214)・杯蓋 (215～218)・壺・瓶類 (219)・長頸瓶 (220)・横瓶 (221) を図示した。210 はⅢB類で底部切り離しはヘラ切りである。胎土A群でⅡ2～Ⅲ1期と考える。211 はⅡA類で底部切り離しはヘラ切りである。太く短い高台が付き、胎土A群でⅢ期と考える。212 は出土した有台杯で最も径が小さく、身が深いⅣC類である。底部切り離しはヘラ切りで、細い高台が付く。胎土B群でⅤ期と考える。213・214 は底部破片で、判別できた213の底部切り離しはヘラ切りである。底径は異なるがごく短い高台が付く。胎土は213がD群、214がA群でいずれもⅢ期と考える。215 はⅠA類、216 はⅢA類でいずれも時期判定の基準となる身受けのかえりが付く。215 が大きく、やや内側にかえりが付く。端部は器壁が薄くなってから膨らみ丸く収まる。216 はごく短いかえりが付き、端部は丸く収まる。胎土は215が信濃川右岸の窯跡産と考えA群、216がD群でいずれもⅡ2期である。217 はⅡD類で天面はケズリが施される。外面下部に「日置口」の墨書が施される(第Ⅶ章参照)。胎土D群で西古志地域周辺の窯で生産されたと考え。Ⅲ期。218 はⅡD類で天面はケズリが施される。胎土D群でⅣ期と考える。219 は外反する口縁部で、わずかにつまみ上げられた端部直下には一条の凹線が巡る。胎土はA群で7世紀代と考える。220 は肩～体部であるが、長頸瓶とした。肩部外面直下に2条のごく細い沈線が巡る。体部下半はケズリが施され、内面は製作時に付いた指頭圧痕がみられる。胎土D群でⅢ期と考える。221 は体下半部の小片で全体形状は不明瞭である。外面はカキメがみられる。胎土A群である。

5) 3 区

土師器 (図版 57、写真図版 38・43・44・52) 無台杯 (222)・有台碗 (223)・甕 (226～229)・小甕 (225)・ミニチュア (230・231)・手づくね (232) を図示した。222 はやや小形のA類で、内外面はナデが行われる。胎土Ⅳb類でⅢ期と考える。223 は小片だが有台碗の底部と考えた。胎土Ⅲb類で10世紀後半以降であろうか。225 はA1類で短い口縁部が強く外反する。体部外面はハケメが施され、頸部外面には製作時の指頭圧痕がみられる。胎土Ⅱc類でⅣ期と考えた。226 はAa類の底部で内外面にはハケメが施される。底部の立ち上がり部分には製作時の痕跡か明瞭でないが一条の沈線が巡る。胎土Ⅱc類でⅢ期。227 は口縁部が大きく開くA1類で、体部内面はナデ、外面はハケメが施される。胎土Ⅱc類でⅢ期。228 はA類の体部小片で全体形状は不明瞭である。内面に認められる魚骨状の圧痕を分析したが、魚骨とは断定できなかった(第Ⅵ章参照)。粘土帯のつなぎ目が明瞭にみられる。胎土Ⅰb類でⅢ期と考える。229 は厚い底部小片で底面には繊維状の圧痕が認められる。胎土Ⅲa類でⅢ期。230 は底部を欠き、内面にはケズリが施され口端部は尖る。胎土Ⅱc類。231 は内外面にナデが行われ、底面にはハケメが施される。無台杯の形をしている。胎土Ⅰc類でⅢ期。232 は内外面にナデが行われ指頭圧痕がみられる。ごく小形である。胎土はほとんど混和材を含まないⅣb類である。

黒色土器 (図版 57、写真図版 52) 高杯 (224) を図示した。口縁部と脚端部を欠くが、外面はミガキが施され杯部内面は調整が不明瞭であるが黒色処理される。胎土Ⅳb類でⅡ2～Ⅲ1期である。

須恵器 (図版 57、写真図版 42・44・52) 無台杯 (233・234)・有台杯 (235)・壺・瓶類 (236・237) を図示した。233 は身が深いⅡC類で、底部切り離しは本遺跡出土須恵器で唯一の糸切りである。体部外面に「×」の刻書が施される。胎土はA群としたが頸城地方の窯で生産されたD群の可能性もある。Ⅴ期である。234 はⅠA類で底面に三本線のような刻書が施される。胎土A群でⅢ期。235 はⅢB類で太い高台が付く。胎土A群で8世紀代と考える。236・237 は小片で全体形状は不明瞭である。236 はやや角度の鋭い肩部にかけて直線的に開く体部で、外部下半に2条の細い沈線が巡る。胎土はA群で8世紀代と考える。237 は屈曲する肩部から体部にかけての破片で、体部の浅い沈線間に鋸歯状の刻みが施される。右上がりの刻み内は、工具の痕跡か施文の効

果か凹凸がみられる(図版44)。胎土D群でⅡ2～Ⅲ1期と考える。

6) 第6次調査区

土師器(図版58・59、写真図版38・39・43・44・52) 鉢(238)・高杯(239)・甕(241・244・246～252)・長甕(242・243)・甌(245)・手づくね(253・254)を図示した。238は口縁部外面に凹線が巡り、体部はミガキが施される。胎土Ic類でⅢ期とした。239は高杯としたが、脚部を欠くため不明瞭である。内外面はミガキが施される。胎土は混和材をほとんど含まないIVb類でⅢ期と考える。241は長い口縁部が大きく開き端部に面をもつA2類で、体部は丸みがある。口縁面を作り出した際の痕跡が線状に残る。口縁部内面はハケメが施され、体部内面はナデが行われ、外面はハケメが施される。胎土はIa類でⅡ2期としたが、遡る可能性もある。244・246はA1類だが法量が大きく異なる。244は鍋との折衷のような器形を呈し、器壁が薄く口縁部外面には細い凹線が不規則に巡る。外面にはススが付着する。246は外面にハケメが施され、内面はナデが行われる。胎土は244がⅡa類、246がⅢa類でいずれもⅢ期。247～250は煮炊具の底部で、立ち上がりが見分かる。248～250はAa類とした。247～249の底面は中央部がやや凹み、250はハケメが施される。内面は247・248がナデが行われ、249はハケメが弧状に施される。胎土は247・249がⅢb類、248がⅢa類、250がⅡa類でいずれもⅢ期。251・252はA類。251は体部外面はハケメが施され、内面は漆が厚く付着する。漆は器面で流れて固まったような印象を受ける。胎土Ⅱc類でⅢ期。252は体部外面にハケメが施され、内面はナデが行われる。90と同様に粘土帯のつなぎ目には工具痕が認められ波状を呈する。胎土はIa類でⅢ期。242・243は体部が張らないため長甕とした。口縁部が大きく開くA1類で、242の内面は口縁部にハケメが施され、体部はナデが行われる。胎土は242がⅡa類、243がⅢb類でいずれもⅢ期と考える。245は体部からやや開いて立ち上がる。口縁部から体部まで内面全体にハケメが施され、体部外面は表面が剥落する。胎土はⅢb類でⅢ期。253・254はB類としたが、254の底部はやや丸みを帯びて器壁が薄く他のB類とは異なる。いずれも内外面に明瞭な指頭圧痕が残り、底面にはススが付着する。胎土は253がIa類、254がIb類でⅢ期。

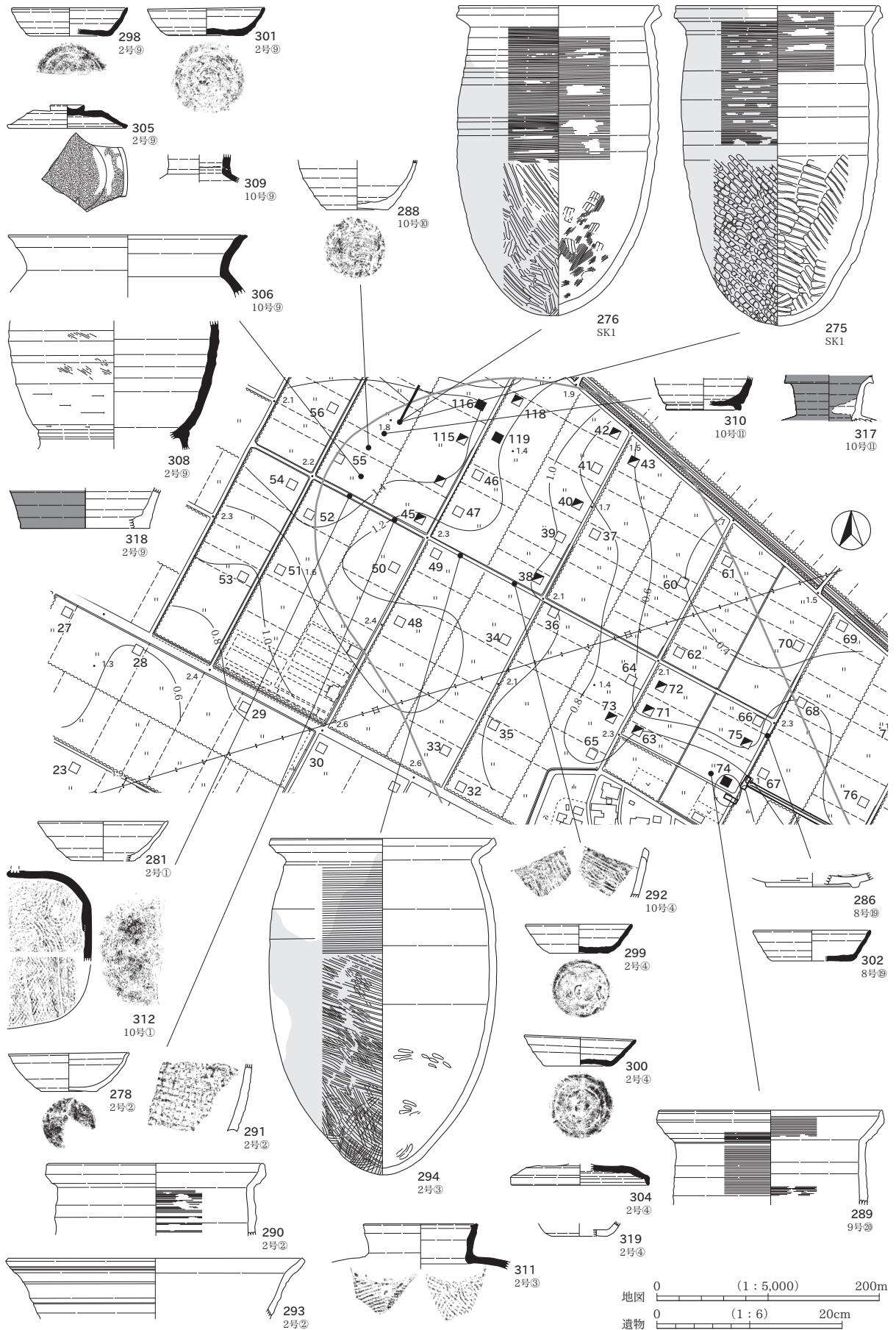
黒色土器(図版58、写真図版38) 高杯(240)を図示した。ハの字状に開く脚部で杯部との境界に一条の細い沈線が巡る。外面はミガキが施され、杯部内面は黒色処理される。胎土Ib類でⅢ期と考える。

須恵器(図版59、写真図版39・41・42・53) 無台杯(255)・有台杯(256～259)・杯蓋(260)・鉢(261)・壺・瓶類(262)・甕(263・264)を図示した。255は底面に刻書が施される。向きは不明瞭であるが、「=」のように2本の線が認められる。底部切り離しはヘラ切りで胎土はA群である。256・259はⅡA類、257はⅡB類、258は口端部を欠くため分類できないが深い身の器形と考える。いずれも底部切り離しはヘラ切りである。256・257は太く短い内端接地の高台が付き、258は体部と高台との接合部外面にごく細い沈線が巡るため、接合部が細くなる。259の高台は外端接地で、底面には墨書が二か所認められる。胎土は258がD群、それ以外がA群で、256・258がⅡ2～Ⅲ1期、257・259がⅢ期。260は内面に「×」の刻書が施され、天面にはケズリが施される。胎土D群でⅢ期。261は逆ハの字状に開く口縁部で、口端部断面は右上がり内側に面をもつ。内外面に自然釉が付着する。胎土はD群。262は逆ハの字状に開く口縁部で全体形状は不明瞭である。胎土A群でⅢ期。263はA1類で口縁部には4条2段の波状文が施される。264は底部付近で外面にタタキメとカキメ、内面にあて具痕がみられる。胎土はいずれもA群で263は8世紀代と考える。

E 確認調査・工事立会出土の土器(第8図)

1) 遺 構 出 土

第1次調査116T(SK)(図版60、写真図版39・41・53) 土師器無台碗(265～268)・小甕(269・270)、須恵器無台杯(271)・有台杯(272)・杯蓋(273)・甕(274)を図示した。265・267がⅢB類、266がⅢA類、268がⅡA類で、全て底部切り離しは糸切りである。胎土は265がIVb類、266がⅢa類、267がIb類、268がⅡa類で、いずれもⅥ期と考える。269はB1類で270はB類、底部切り離しは糸切りである。270の底面に



第8図 確認調査および工事立会出土土器の主な地点

はススが付着している。胎土は269がⅡa類、270がⅡb類で、269はⅥ期と考える。271はⅡB類で底部切り離しはヘラ切りである。胎土B群でⅥ期。272はⅢC類で身が深く、太くて短い高台が付く。胎土B群でⅥ期。273はⅣE類で内面には墨痕が認められ、転用硯と考える。器壁が薄く、胎土B群でⅥ期と考える。274は頸の短いB2類口縁部で、体部外面にタタキメとカキメが、内面にはあて具痕がみられる。胎土はA群。

第10次調査(SK1:土器棺墓)(図版60、写真図版40) 土師器長甕(275・276)を図示した。275・276はB3c類の完形で、口径・器高とも275が大きいものの体部径は276がやや大きい。体部上半の内外面にカキメが、体部下半には外面にタタキメ、内面にはあて具痕がみられる。体部を中心に外面には全体的にススが付着する。胎土は275がⅠa類、276がⅢb類でⅥ期である。

2) 包含層出土

土師器(図版61、写真図版40・41・44・53・54) 無台碗(277～279・281～283)・鉢(284)・甕(287)・小甕(288)・長甕(289～291・294)・鍋(293)・不明(292)を図示した。277・278・281はⅢA類で279はⅡB類である。283も含め底部切り離しはすべて糸切りである。283は底面に墨書が施される。胎土は277・282・283がⅣb類、278がⅠc類、279がⅢa類、281がⅣa類でいずれもⅥ期と考える。284は体部から逆への字状に開き口縁部は内側に屈曲する仏鉢の模倣と考える。胎土Ⅳb類でⅥ期。287はAa類の底部で底面中央部は凹み、内外面は細かいハケメが施される。胎土Ⅲb類でⅢ期。288はB類で底部切り離しは糸切りである。胎土はⅠa類で9世紀代である。289・290はB3類の口縁～体部で内外面にロクロメ・カキメがみられる。胎土は289がⅢb類、290がⅠb類でⅥ期である。291はB類の体部で外面にタタキメ・内面はナデが行われる。外面には炭化物が付着している。胎土ⅡbでⅥ期。292は波状を呈するB類の口縁部と考へた。器種不明としたものの、器の歪みの可能性もあるが、平口縁としても器種は不明瞭である。内外面にハケメが施される。胎土Ⅱa類で時期はⅢ期か。294はB3c類の略完形で、外面にロクロメ・カキメ、内面にあて具痕がみられる。外面には全体的にススが付着する。胎土はⅢa類でⅥ期である。293は外傾して開く口縁～体部で外面にはススが付着する。胎土Ⅱc類でⅥ期と考える。

黒色土器(図版61、写真図版53・54) 無台碗(280)・高杯(285)・有台皿(286)を図示した。280は底部を欠くが、体部外面下方はケズリが施され、内面にはミガキが施され黒色処理される。胎土Ⅳb類でⅥ期と考える。285は杯部で口縁部と脚部を欠く。外面は凹線と細い沈線による段があり、ケズリの後ミガキが施される。内面はミガキが施され黒色処理される。脚部内面もナデが行われ黒色処理される。胎土はⅢb類でⅡ2期としたが、遡り可能性もある。286は底部で有台皿としたが有台碗の可能性もある。内外面はミガキが施される。内面と高台内は黒色処理される。胎土はⅡc類。なお、280は確認調査時の遺構出土であるが、単独出土のため、ここで扱った。

須恵器(図版62・63、写真図版40・41・44・54) 無台杯(295～303)・杯蓋(304・305)・壺・瓶類(307～310)・横瓶(311・312)・甕(306・313～316)を図示した。295はⅠB類、298・301・302はⅡA類、297はⅢB類、296・299・300はⅢA類で、底部切り離しはいずれもヘラ切りである。295は底部からの立ち上がり部分にケズリが施される(図版44)胎土A群でⅢ期と考える。296は胎土A群で、本遺跡では出土例の少ないⅣ期と考える。297は身がやや深く、胎土D群でⅤ期。298～302の胎土はB群で、298・302がⅤ期、それ以外がⅥ期と考える。303は底部で内面全体に漆が付着する。器壁は薄く、胎土B群でⅥ期と考える。304はつまみ部を欠くがⅢC類で、外面には自然釉が付着する。胎土A群でⅢ期。305は径の小さいⅣD類で、内面に墨痕が認められることから転用硯と考える。胎土B群でⅥ期。307は直線的に開く体部で、内面上部にごく細い沈線が2条巡る。胎土はD群。308はやや丸みを帯びて立ち上がる体部で長頸壺の可能性はある。外面下半はケズリが施され、高台との境界部には浅い沈線が2条巡る。309は頸部で長頸壺の可能性はある。310は底部で308とは法量の違う長頸壺の可能性はある。底部切り離しはヘラ切りである。いずれも胎土はB群であるが小片のため時期は不明瞭である。311は口縁～体部で、口縁部内面と体部外面に自然釉が付着する。体部外面

にタタキメ、内面にあて具痕がみられる。312 は体部で側端部は粘土板閉塞で側面はケズリが施され、外面にタタキメとカキメ、内面にあて具痕がみられる。胎土はいずれも D 群で V 期と考える。306 はやや小形の B2 類口縁部で、内面に自然釉が付着する。313 は A1 類で肥厚した口縁部直下に 4 条の波状文が施される。314・315 は A2 類の口縁部で、口端部の形状は異なる。315 の口縁部外面にはロクロ成形前のタタキメがみられ、自然釉が付着する。316 は体部で外面にタタキメとカキメ、内面にあて具痕がみられる。いずれも胎土 D 群。

灰釉陶器 (図版 63、写真図版 54) 壺・瓶類 (317・318) を図示した。317 は口端部を若干欠く口縁～頸部である。口縁部外面は肥厚して端部はつまみ上げられ断面三角形を呈する。頸部はほぼ直角に屈曲する。外面は全体に内面は大部分に灰釉が施される。318 は平底の底部で、底部切り離しはヘラ切りである。外面と底面に灰釉が施される。317・318 は胎土や出土地点などから同一個体の可能性がある。また接合せず図示し得なかったが同一個体の体部片も出土している。猿投窯産で 9 世紀代と考える。

中世土師器 (図版 63、写真図版 54) 皿 (319) を図示した。底部の破片資料。全体形状は不明瞭。底部から体部へ緩く立ち上がる。古代土師器と同じ分類基準にあてはめると、胎土は混和材をあまり含まない IV b 類である。

第 3 節 土 製 品

総重量 2,460.8g で、焼成粘土塊が 215.6g、その他の土製品が遺構から 1,195.5g、包含層から 1,049.7g 出土した。図示したのは 17 点である。内訳はカマド形土製品 1 点、円筒形土製品 7 点、土製支脚 2 点、土錘 3 点、紡錘車 1 点、不明土製品 2 点、焼成粘土塊 1 点である。胎土は、土師器と同じ属性項目で分類した。種別ごとに記載する。

カマド形土製品 (図版 64、写真図版 55) 竈型土製品や移動式カマドなどともいう。1 区 SD15 から出土した。調査区全体で図示した 1 点のみの出土である。325a が土器の掛け口部である釜口、325b が焚き口部右上部の破片で同一個体と考える。破碎した細かい長石・石英や砂粒を多量に含む胎土 (II b 類) は、容易に個体識別が可能であり、周辺からは同一個体と考える接合しない破片が出土している。釜口が外反して開く形で、内外面はごく細かいハケメが施される。SD15 は、VI 2・3 期以降の土器が出土しており (26・27)、同時期と考える。

円筒形土製品 (図版 64、写真図版 40・55) 円筒形土器や円筒型土製品や筒形土製品などともいう。2 区・3 区・第 6 次調査区のみから出土している。全て破片資料であり、全体形状は不明瞭である。内外面ともにハケメが施され、内面には粘土帯の輪積み痕跡が明瞭に残るものが多い。331 は内面に明瞭なハケメが施されるため、円筒形土製品としたが、上端部までが短く食膳具 (無台杯) の可能性もある。ハケメの方向は、全体的に内面は横方向で外面が縦方向であるが、326 は内面横方向に、332 は外面縦方向にケズリが施される。上端部は先細りし、底部のあるものは平底で 329 の底面中央部はやや凹む。326～328 は底部を欠くため不明瞭であるが、332 は底のない底部と考えた。胎土は 326 が II b 類、327・328 が II c 類、329 が III a 類、330 が I a 類、331 が I b 類、332 が III b 類と規格性は見出せない。328・329 以外は遺構出土であり共伴する土器は大半が III 期に比定されるため、これら円筒形土製品も概ね同じ時期の所産と考える。竈の芯材や煙道など竈の構築と使用に関連した遺物と考えられている [西山 1996 など] が、本遺跡の出土状況から用途まで類推できなかった。

土製支脚 (図版 64、写真図版 55) 図示した 2 点の他に 2 区・第 6 次調査区の包含層から小破片が出土している。333 は第 6 次調査区 SX11 から出土した。下半部のみで遺存である。全体的に丁寧にナデが行われ、下端部底面には使用によると考える浅い V 字状の凹みが認められる。胎土 I a 類。334 は 1 区包含層から出土した (立会調査中の出土であり、厳密には 1 区隣接地であり調査区外)。半分の遺存である。全体的に製作時の痕跡と考える指頭圧痕が残り、端面も平坦でない。胎土 I b 類。

土錘 (図版 64、写真図版 55) 計 4 点出土している。図示した 2 点は、いずれも 1 区包含層からの出土であるが、他に同じ 1 区包含層からと第 6 次調査区包含層から各 1 点出土しており、すべて太い管状土錘である。335 は

端部のみ半周ほど遺存しているが、全体形状は不明瞭である。外面はナデが行われ、端面には置かれていた台の痕跡が残る。胎土Ⅲb類。336は両端まで半周ほど遺存している。厚さは335よりも薄く、外面はナデが行われるが指頭圧痕が若干残る。胎土Ⅰa類。

紡錘車(図版64、写真図版55) 図示した2点のみの出土である。337は3区包含層からの出土で、破片資料のため全体形状は不明瞭である。上面はナデによりやや凹んでいる。胎土Ⅱb類。338は2区包含層からの出土で、断面台形の紡錘車である。約半分を欠くが、全体に丁寧なナデが行われている。胎土Ⅲb類。

不明土製品(図版64、写真図版55) 用途・種別分不清らない土製品を一括した。いずれも1区からの出土で、図示した2点のみである。339は1区SP41から出土した。両端・両側面など大部分を欠き、全体形状は不明瞭である。ナデやケズリが施される面を表とした。成形時のものか爪痕が2か所に残る。裏面には棒状工具などの痕跡か円筒状の凹みが認められる。胎土はⅡc類。340は1区包含層から出土した。太い管状土錘の可能性もあるが、外面に断面V字状の斜位沈線状の凹みが認められることから不明土製品とした。胎土はⅡb類。

焼成粘土塊(図版64、写真図版55) 何らかの理由で粘土塊が被熱したものである。出土総重量215.6gを測り、内訳は1区SP41から41.8g、第6次調査区SX11から173.8gである。いずれも不整形で大きさも様々であり、最大の1点のみ図示した(341)。胎土Ⅳb類でほとんど混和材を含まず微細な長石・石英を含み、黒色土器や土師器無台碗に多い胎土である。第Ⅶ章でも述べるが、少量ながら存在する焼成粘土塊は、本遺跡内で土器製作が行われた可能性を示唆する。

第4節 鍛冶関連遺物

鞆の羽口・鉄滓が出土した。形状が分かる大きめの羽口3点、鉄滓2点を図示した。種別ごとに記載する。

羽口(図版63、写真図版55) 総数12点で419.8g出土した。内訳は1区8点(289.8g)、2区3点(126g)、3区1点(4g)で、4区・5区・第6次調査区からは出土していない。1区は調査区中央から西半部で出土し、2区3点が隣接するグリッドから出土している。320は1区SX45から出土した。半周ほど遺存する体部の破片資料。胎土には土器片や粗大な長石や石英が目立つ。推定外径74mm、推定孔径(内径)30mmである。322は2区SD4から出土した。全周のうち1/3程度遺存する先端部分の破片資料。強い被熱により内外面先端が黒化する。推定外径65mm、推定孔径(内径)32mmである。323は2区包含層から出土した。全周のうち1/5程度遺存する先端部分の破片資料。先端部分はガラス質に溶解し、強い被熱により黒化する。溶解部は気泡が目立つ。推定外径66mm、推定孔径(内径)31mmである。

鉄滓(図版63、写真図版55) 1区で174.5g、2区で82.0g、3区で23.0g、4区で12.8g出土し、5区・第6次調査区からは出土していない。1区B-10H-6F11では鉄滓とともに羽口も定量出土し、3区は鉄滓と羽口が隣接するグリッドから出土している。2区では調査区中央やや東側で鉄滓が出土しているものの羽口の出土地点とは若干距離がある。321は2区SK13から出土した椀形滓で、最大長41mm、最大厚18mm、重さ27.05gを測る。324は3区包含層から出土した椀形滓で、最大長37mm、最大厚16mm、重さ22.88gを測る。

第5節 石製品

研磨や磨耗が認められる礫を「石製品」とした。被熱の痕跡が認められる礫もここに含めて記載する。石材は基本的に肉眼観察により同定した。他に調査区全体から搬入礫と考える自然礫がコンテナ(内寸55.4×33.6×10.0cm)で1箱出土している。これらの礫のうち安山岩は角田山麓で比較的多く採集できることから運ばれてきたものとする。また、わずかに出土している花崗岩・軽石など弥彦・角田山麓にはない石材は、採取可能な阿賀野川などから運ばれてきたことが窺える。

砥石 (図版 65、写真図版 55・56) 表面に磨耗痕や明瞭な線状痕を有するものを一括した。総数 24 点出土した。内訳は 1 区 11 点、2 区 6 点、3 区 3 点、4・5 区から各 1 点、第 6 次調査区 2 点で、8 点図示した。342 は 4 面に砥面をもつ泥岩製の砥石で、1 区包含層から出土した。343 は第 6 次調査区 SD6 から出土し、裏面以外の 5 面に砥面をもつ泥岩製の砥石であるが、砥石として使い始めた初期段階のものとする。344 は 5 区包含層から出土した泥岩製の砥石で、ごく薄い剥片の一部と端部両面が V 字状に磨耗している。345 は断面三角形の泥岩製の手持ち用砥石で、2 区包含層から出土した。346 は表裏 2 面に砥面をもつ泥岩製の砥石で表面には線状痕が残る。2 区 SK13 から出土した。347 は表と両側面 3 面に砥面をもつ頁岩製の砥石で、1 区包含層から出土した。348・349 は比較的大きく、台石状を呈する。348 は泥岩製の砥石で表面に研磨痕、裏面には敲打痕が残り、側面には線状痕が認められる。1 区包含層から出土した。349 は 3 区 SK5 の底面から出土した砂岩製の砥石で、表・側面の上半部に研磨痕が残る。また、図示し得なかったが研磨痕の他に敲打痕が認められるものが 2 点、1 区から出土している。

磨耗礫・磨耗軽石 (図版 65・66、写真図版 56) 表面に平滑な磨耗痕をもつもので、磨耗の方向が不明瞭なものを一括した。磨耗礫は円礫やその他硬質岩を使用しているもので、磨耗軽石は軽石を使用しているものである。350～354 が磨耗礫である。総数 69 点出土した。内訳は 1 区 23 点、2 区 8 点 (うち 1 点に被熱痕がみられる)、3 区 13 点、4 区 9 点 (うち 2 点に被熱痕がみられる)、第 6 次調査区 16 点で、5 点図示した。この中にはいわゆる磨石も含まれる。350 は安山岩製で表面に敲打痕、裏面に磨耗痕がみられる。1 区包含層出土。351 は泥岩製で全体的に磨耗している。4 区包含層出土。352・353 は第 6 次調査区 SX11 から出土した。352 は安山岩製で 1 面を欠くが 3 面に被熱痕と磨耗痕がみられる。353 は安山岩製で表面に被熱痕と 1 面に磨耗痕がみられ、部分的に黒色付着物が残る。354 は 1 区 SD18 から出土した。花崗岩製で全体的に磨耗痕と被熱痕がみられ、部分的に敲打痕が残る。被熱により表面が脆く砕けそうな状態である。これは、破碎しやすいように被熱しているとも考えられ、本遺跡出土土師器の胎土Ⅱ群との関係が示唆される。つまり、胎土Ⅱ群の混和材として主体的に含まれる破碎した石英・長石・各種岩石などは、このような方法で採取した可能性も考えられる。354 は、土師器の混和材として持ち込まれ、被熱・敲打して上記混和材を採取している過程の資料かもしれない。

355～357 が磨耗軽石である。総数 8 点出土した。内訳は 1 区 1 点、2 区 3 点、3 区 1 点、第 6 次調査区 3 点、工事立会時 (調査区外) 1 点で、3 点図示した。355 は第 6 次調査区 SD6 から出土し、半分程度に磨耗痕がみられる。356 は 2 区包含層から出土し、全体的に磨耗痕がみられる。357 は工事立会時に出土し、一部に磨耗痕がみられる。なお、磨耗痕のみられない軽石が 1 点 3 区包含層から出土している。

敲石 (図版 66、写真図版 56) 総数 6 点出土した。内訳は 1 区 3 点、第 6 次調査区 3 点で 1 点図示した。358 は第 6 次調査区包含層から出土し、安山岩製円礫を用いた敲石で全体的に敲打痕が残る。

被熱礫 (図版 66、写真図版 56) 総数 40 点出土した。内訳は 1 区 9 点、2 区 9 点、3 区 4 点、4 区 8 点、第 6 次調査区 10 点で 3 点図示した。図示した 359～361 はすべて安山岩製である。360・361 は被熱により全体的に脆く砕けそうな状態である。359 は 1 区 SD29 から、360 は 1 区 SD38 から、361 は 2 区 SD1 から出土した。

その他 自然礫が 33 点出土している。内訳は 1 区 1 点、2 区 4 点、3 区 17 点、4・5 区から各 1 点、第 6 次調査区 9 点である。

第 6 節 木 製 品

総数 47 点出土した。内訳は柱痕 10 点、円形板状製品 2 点、板状製品 16 点、棒状製品 5 点、ヘラ状製品 1 点、箸状製品 1 点、斎串 2 点、燃えさし 8 点、不明・自然木 2 点である。そのうち遺存状態の良い 22 点を図示した。柱痕以外の大半が 1 区 SE57 から出土している (362～372)。以下、種別ごとに記載する。

齋串（図版 67、写真図版 57） 362・363 は完形の齋串である。板目材を使用し片側を剣先状に尖らせ、圭頭状にした反対側には上向きの切り込みが左右非対称に入る。363 裏面には浅い線状痕が数本みられる。362 は長さ 18.5cm、幅 2.9cm、厚さ 0.6cm で、363 は長さ 18.4cm、幅 2.7cm、厚さ 0.4cm を測りほぼ同じ大きさである。

箸状製品（図版 67、写真図版 57） 364 は完形で厚さが 0.7cm 以下と細いことから箸状製品と考えた。

ヘラ状製品（図版 67、写真図版 57） 365 は唯一の竹材でヘラ状製品である。上部片側は細く下端部は扁平にヘラ状に加工され、使用によるものか線状痕が残る。完形で長さ 31.0cm、幅 1.6cm、厚さ 0.3cm を測る。

棒状製品（図版 67、写真図版 57） 366・367 は棒状製品とした。366 は追柁目材を使用し全周・両端部は加工されている。上端とした方は扁平に、下端とした方は中央をやや欠くがドーム状に丸くなり、断面円形ですりこぎ状を呈する。略完形で長さ 26.8cm、幅 3.2cm、厚さ 3.2cm を測る。367 は半割材を使用した木柱・木杭かもしれない。上部を欠き、先端部は加工され方形の面をもつ。幅 6.0cm、厚さ 5.0cm を測る。

板状製品（図版 67、写真図版 57） 368～371 は板状製品である。368 は半割材を使用し、端部は加工されて若干尖っている。上部を欠くが幅 4.2cm、厚さ 1.8cm を測る。369 は板目材を使用し、両端部は切り落とされている。使用によるものか表面に線状痕がみられる。側面を若干欠くが完形で長さ 51.8cm、幅 2.5cm、厚さ 0.9cm を測る。370 は柁目材を使用し断面三角形を呈する。両端部を欠くが幅 1.4cm、厚さ 0.5cm を測る。371 は柁目材を使用し断面長方形を呈する。下端部を欠くが幅 2.1cm、厚さ 0.3cm を測る。

円形板状製品（図版 67、写真図版 57） 372・373 は円形板状製品で曲物の底板と考える。372 は柁目材を使用し表面の加工痕は不明瞭であった。左右 2/3 ほどを欠き中央部のみ残存している。長さ 18.4cm、厚さ 0.5cm を測る。373 は 2 区 SE25 から出土している。柁目材を使用し表面の加工痕は不明瞭であった。完形で直径約 18.0cm、厚さ 0.9cm を測る。

柱根（図版 68、写真図版 58） 374～383 は柱根である。374～376 は 2 区、377～383 は 3 区のいずれも下層から出土した。柱の径は 10cm 以下 1 本、10～15cm が 3 本、15～20cm が 6 本である。374・375 はいずれも広葉樹で、374 はクリの可能性が高い。また、374 は出土した柱根で最も太く、直径 20.1cm を測る。ほぼ全周に加工が施されている。375 も外面に若干の加工がみられる。柱の先端を水平に加工されているもの（374・380～381・383）が最も多く、V 字状に尖らされるもの（377）や、片側からのみ斜めに加工されているもの（379）もある。379・382 は腐植により先端の加工が不明瞭であった。378 は端部中央が上部からの圧力により水平になっている。

第7節 その他

有機遺物など上記分類に含まれない遺物を一括した。ヒョウタンが 1 区 SE57 の 6 層から出土しているが、残存不良により図示し得なかった（図版 57）。破片には外側から径 2.0mm のごく小さい穿孔が 2 か所認められるものの、接合しなかったため全体形状は不明瞭だが、釣瓶の可能性もある。また、種実が 20 点出土している（土壌の篩選別などは含めない）。内訳はモモ 18 点、クルミ 2 点である。このうちの大半（モモ 11 点、クルミ 2 点）は 3 区 SD7 からの出土であり、SD7 出土のモモには長軸 3.0cm と比較的大きいものが 2 点含まれていた。残るモモ 7 点は 1 区 SE57、2 区 SE25・SD13、3 区 SP11・SP44 から各 1 点、3 区包含層から 2 点出土した。さらに、骨が 4 点出土している。同定した結果、ウマの骨（歯）・鳥類の骨・カニの殻であった（第 VI 章参照）。ウマの歯 1 点は第 6 次調査区 SD21、鳥類の骨 2 点（同一個体）は SX11、カニの殻 1 点は 2 区包含層からの出土である。

第VI章 自然科学分析

今回の調査では、上層で水田跡や畝跡、中・下層では井戸・土坑・川跡・溝状遺構など古代に属するさまざまな遺構が確認された。畝跡と考えられる畝状遺構が確認された地点で、栽培作物および古植生の検討を目的に、花粉分析・植物珪酸体分析を実施し、遺跡の下限を知るために上層の畝状遺構（畝跡）およびその直上から採取した土壌による¹⁴C年代測定を行った。また、発掘調査で検出された木材類（柱根）に関して樹種同定を実施した。

さらに、出土した土器（主に土師器）に認められる籾殻圧痕や土器底部の網状脈の木葉痕、その他の圧痕について、圧痕レプリカ法を用いた分析で種実・樹種同定を行い、遺跡における植物利用などを検討した。

第1節 下新田遺跡の土層と古植生

A サンプル採取地点の土層層序（図版8）

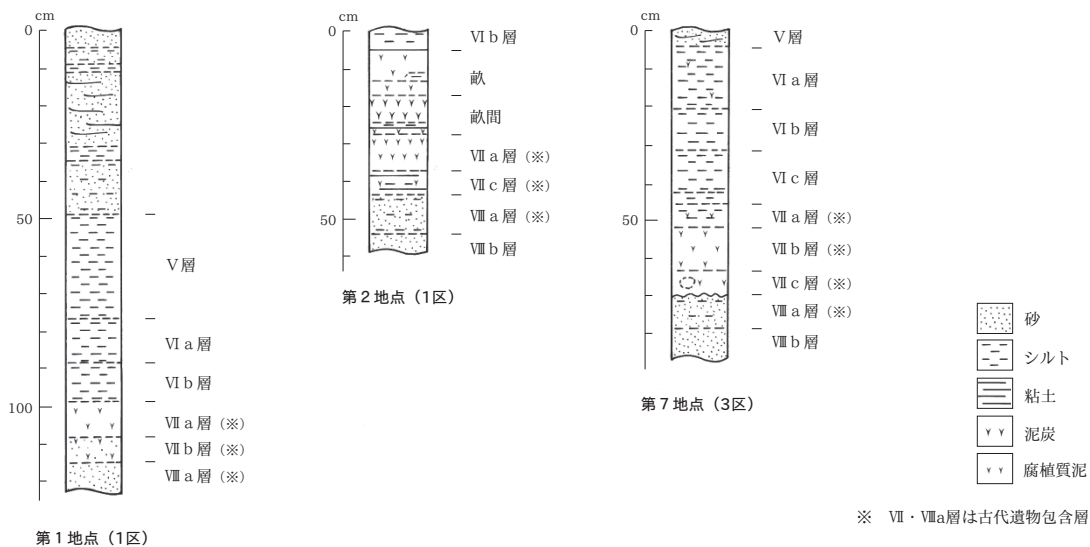
1) 1 区

土層の観察は、畝跡と考える畝状遺構が検出されたVII層を含む、V～VIII層を対象とした。

第1地点は、下位より青灰色砂層（層厚8cm, VIIa層）、砂混じりで青みがかった暗灰色泥層（層厚7cm, VIIb層）、暗灰褐色泥層（層厚9cm, VIIa層）、細かく成層した青みがかった灰色～暗灰色シルト層（層厚10cm, VIb層）、青みがかった灰色シルト層（層厚12cm, VIa層）、細かく成層した青みがかった灰色シルト層（層厚28cm, V層）が認められる（第9図）。

第2地点は畝状遺構が検出された地点で、下位より青灰色砂層（層厚5cm以上, VIIIb層）、青灰色シルト質砂層（層厚10cm, VIIIa層）、やや色調が暗い灰色泥層（層厚6cm, VIIc層）、黒灰色泥層（層厚9cm, VIIa層）、灰色がかった褐色泥層（層厚1cm）、灰色シルト層（層厚1cm）、やや色調が暗い褐色の草本質泥炭層（層厚6cm, いわゆるマコモ層、以上畝間層）、青灰色シルトをレンズ状に挟む暗灰褐色泥層（層厚6cm, 畝層）、青みがかった灰色シルト層（層厚5cm, VIb層）が認められる（第9図）。

第3地点は畝状遺構の断面が観察できる。畝はそれまでに形成されていた土層の上に土をのせて作られており、



第9図 各地点の土層柱状図

下位より褐色草本質泥炭層ブロック混じり暗灰色泥層（層厚 6cm, 畝間下層）、やや色調が暗い褐色土（層厚 9cm, 畝間上層）で埋没している。

2) 2 区

第4地点の畝状遺構は、下位より黒灰褐色泥層（層厚 2cm 以上）、褐色泥炭層（層厚 0.8cm）、灰白色層の上面に土をのせて作られており、下位より灰褐色泥層（層厚 8cm）、灰色シルト層（層厚 1cm）、暗灰色泥層（層厚 2cm）で埋没している。

第5地点の畝状遺構は、下位より灰色シルト層（層厚 1cm）、暗灰色泥層（層厚 4cm）、灰褐色泥層（層厚 5cm）で埋没している。このことから、これら2区で検出された畝は灰色シルト層を堆積させた洪水の被災遺構の可能性が考えられる。

3) 3 区

第7地点は、下位より青みがかった灰色砂層（層厚 8cm 以上, VIIIb 層）、青灰色シルト質砂層（層厚 9cm, VIIa 層）、砂混じり灰色シルトブロックを含む暗灰色泥層（層厚 6cm, VIIc 層）、やや褐色がかった暗灰色泥層（層厚 12cm, VIIb 層）、灰色シルトブロックを含む細かく成層して色調がやや暗い灰色泥層（層厚 6cm）、やや色調が暗い灰色泥ブロックを含み細かく成層した灰色シルト層（層厚 3cm, 以上VIIa 層）、細かく層理が発達した灰色シルト層（層厚 11cm, VIc 層）、灰色シルト層（層厚 11cm, VIb 層）、細かく層理が発達しやや色調が暗い灰色シルト層（層厚 16cm, VIa 層）、細かく層理が発達しやや青みがかった灰色砂層（層厚 32cm 以上, V 層）が認められる（第9図）。

B 分析試料

試料は、2区南壁のほぼ中央部の断面より採取した（第5地点 図版8）。古植生の検討という分析目的を考慮し、VII層とその上位と下位の層に相当するVI～VIII層の各層より採取した土壌試料7点である。なお、畝状遺構が検出されたVIIa層では、畝を構成する堆積物と畝間を充填する堆積物の2点を採取している。

C 分析方法

1) 花粉分析

試料約 10g について、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重 2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸 9：濃硫酸 1 の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、保有の現生標本や島倉〔1973〕、中村〔1980a〕等を参考にする。また、イネ属については、検出されるイネ科花粉の表面微細構造、発芽孔の肥厚状況、粒径等を考慮し中村〔1974〕を参考にイネ属と他のイネ科に分類する。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類をハイフン（-）で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

2) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム、比重 2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリウラックスで封入してプレパラートを作製する。400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体）を、近藤〔2010〕の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際、分析試料の乾燥重量、プレパラート作製に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物（乾土）1g あたりの植物珪酸体含量（同定した数を堆積物 1g あたりの個数に換算）

を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、各分類群の含量は100単位として表示し、100個/g未満は「<100」で表示する。また、各分類群の植物珪酸体含量を図示する。

D 分析結果

1) 花粉分析

結果を第3表、第10図、および主な分類群の顕微鏡写真を第11図に示す。花粉化石は、VIa層～VIIa層の各層より産出し、保存状態は試料によって異なるが普通～やや悪い程度である。また、全体的にシダ類胞子が多産する。

各層の花粉化石群集は、優占する分類群は異なるものの多産する分類群は概ね類似する。木本花粉では、各層を通じてマツ属、スギ属、ハンノキ属が多産し、VIIa～VIa層ではブナ属も多産する。この他、ツガ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、サワグルミ属、クマシデ属-アサダ属、コナラ属コナラ亜属、モチノキ属等を伴う。

草本花粉は、各層を通じてイネ科やカヤツリグサ科が多く産出する傾向にあり、VIa層ではゴキツル属も多く産出する。この他、サナエタデ節-ウナギツカミ節、アカザ科、オナモミ属等を伴う。なお、産出は少ないものの全体的にガマ属、ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、コウホネ属、ハス属、ヒシ属、サンショウモ等の水湿地生植物に由来する花粉・胞子が認められ、VIIa層の畝では水生藻類のクンショウモ属も検出される。

また、上記したイネ科花粉中には栽培種であるイネ属の花粉も認められた。イネ属花粉が検出されなかったVIIb層を除く各層のイネ科花粉中におけるイネ属型の割合は、VIIIa層が約17.4%、VIIc層が約8.0%、VIIa層(畝間)が約16.2%、VIIa層(畝)が約17.6%、VIc層が約23.2%、VIa層が約16.1%である。

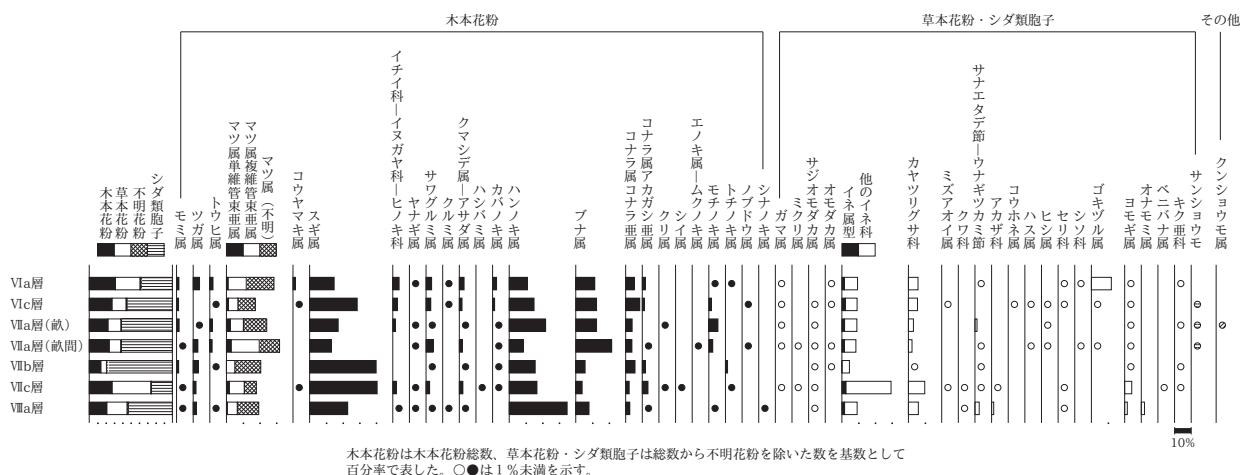
2) 植物珪酸体分析

結果を第12図、第4表、および主な分類群の顕微鏡写真を第13図に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるが、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められるなど、保存状態は不良である。

植物珪酸体含量は、VIIIa～VIa層を通じて、100個/g未満～4.3万個/gである。詳細にみると、畝および畝間が発見された層位(VIIa層)とその上位・下位とで産状が異なり、VIIIa～VIIb層が600～1,600個/g、VIIa層が1.9～4.3万個/g、VIc～VIa層がいずれも100個/g未満と、植物珪酸体含量の多寡が顕著である。

第3表 検出花粉一覧

分類群	2区南壁 基本土層					
	VIa層	VIc層	VIIa層		VIIb層	VIIc層 VIIa層
			畝	畝間		
木本花粉						
マキ属	-	1	-	-	-	1
モミ属	3	3	2	1	2	1
ツガ属	8	-	1	6	5	4
トウヒ属	4	1	2	3	1	-
マツ属単維管束亜属	2	3	3	6	-	4
マツ属複維管束亜属	23	14	10	36	8	21
マツ属(不明)	35	26	18	26	25	17
コウヤマキ属	3	2	-	-	-	1
スギ属	31	71	22	28	64	95
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	8	7	2	-	-	5
ヤナギ属	1	-	1	1	-	1
サワグルミ属	7	7	1	9	1	5
クルミ属	2	2	-	-	-	1
クマシデ属-アサダ属	6	4	1	4	1	5
ハシバミ属	-	-	-	-	-	2
カバノキ属	5	3	1	1	1	2
ハンノキ属	23	37	28	18	25	39
ブナ属	24	31	16	46	9	9
コナラ属コナラ亜属	11	21	5	8	9	5
コナラ属アカガシ亜属	4	3	-	1	3	8
クリ属	-	-	1	-	-	1
シイ属	-	-	-	-	-	2
ニレ属-ケヤキ属	6	6	7	10	4	5
エノキ属-ムクノキ属	-	-	-	1	-	-
モチノキ属	1	4	7	5	-	2
トチノキ属	1	-	-	-	2	1
ノブドウ属	-	1	-	1	-	-
シナノキ属	-	-	-	-	-	1
ウコギ科	1	-	-	1	-	-
ツツジ科	-	1	-	-	-	-
イボタノキ属	-	-	-	1	-	1
タニウツギ属	1	-	-	-	-	-
草本花粉						
ガマ属	2	3	2	2	-	2
ミクリ属	-	-	-	3	-	1
サジオモダカ属	-	3	2	1	2	5
オモダカ属	1	1	-	1	1	-
イネ属型	10	19	9	12	-	20
他のイネ科	52	63	42	62	52	230
カヤツリグサ科	38	49	17	19	6	83
ミズアオイ属	-	1	-	-	-	1
クワ科	-	-	-	-	-	3
イブキトラノオ節	-	-	-	-	-	2
サナエタデ節-ウナギツカミ節	2	-	7	8	7	6
タデ属	1	-	-	-	-	-
アカザ科	-	-	-	-	-	2
ナデシコ科	-	-	-	-	-	1
コウホネ属	-	1	-	-	-	-
ハス属	-	2	-	1	-	-
アブラナ科	-	1	-	-	-	1
マメ科	-	-	-	-	-	2
ヒシ属	-	2	3	6	-	-
セリ科	1	1	-	-	-	5
シソ科	1	-	-	1	-	-
ゴキツル属	79	4	-	3	-	-
ヨモギ属	6	3	4	3	9	36
オナモミ属	-	-	-	-	-	18
ベニバナ属	-	-	-	-	-	1
キク亜科	1	-	2	-	1	1
タンポポ科	3	-	-	-	-	-
不明花粉						
不明花粉	9	10	3	8	2	8
シダ類胞子						
ゼンマイ属	5	1	-	1	-	1
サンショウモ	-	3	4	1	-	-
他のシダ類胞子	247	493	346	542	911	214
合計	210	248	128	213	160	234
木本花粉	197	153	88	122	78	397
草本花粉	9	10	3	8	2	8
不明花粉	9	10	3	8	2	8
シダ類胞子	252	497	350	544	911	215
合計(不明を除く)	659	898	566	879	1149	846
その他						
クンショウモ属	-	-	1	-	-	-



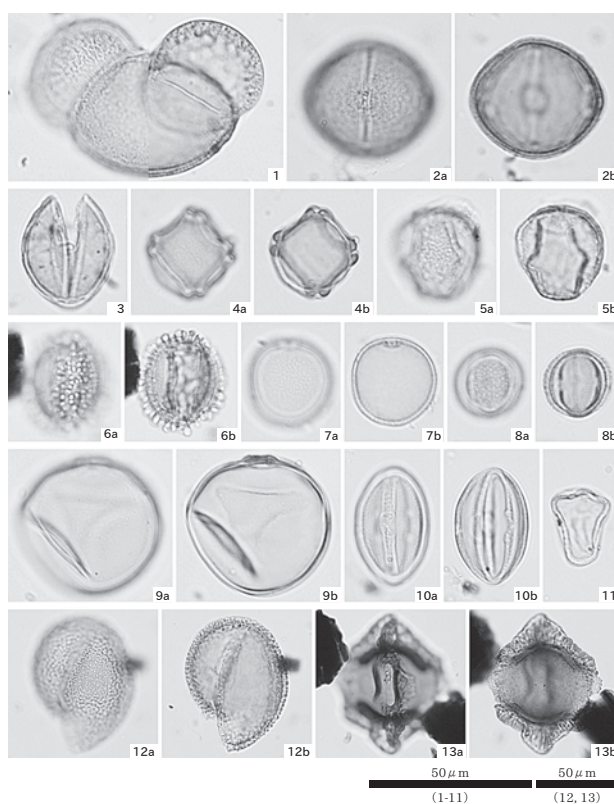
木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類孢子は総数から不明花粉を除いた数を基数として百分率で表した。○●は1%未満を示す。

第10図 主要花粉ダイアグラム

各層の植物珪酸体群集についてみると、VII a ~ VII b 層は、タケ亜科、ヨシ属、コブナグサ属、イチゴツナギ亜科等が産出するが、いずれも含量が低い。畝状遺構が検出されたVII a 層は、ヨシ属の含量が極めて高く、タケ亜科、コブナグサ属、イチゴツナギ亜科等を伴う。VI c ~ VI a 層は、分類群が不明の機動細胞植物珪酸体が100個/g未滿確認された程度である。また、栽培種のイネ属は、VIII a 層、VII c 層およびVII a 層の畝間より検出されるが、その含量はいずれも100個/g未滿である。

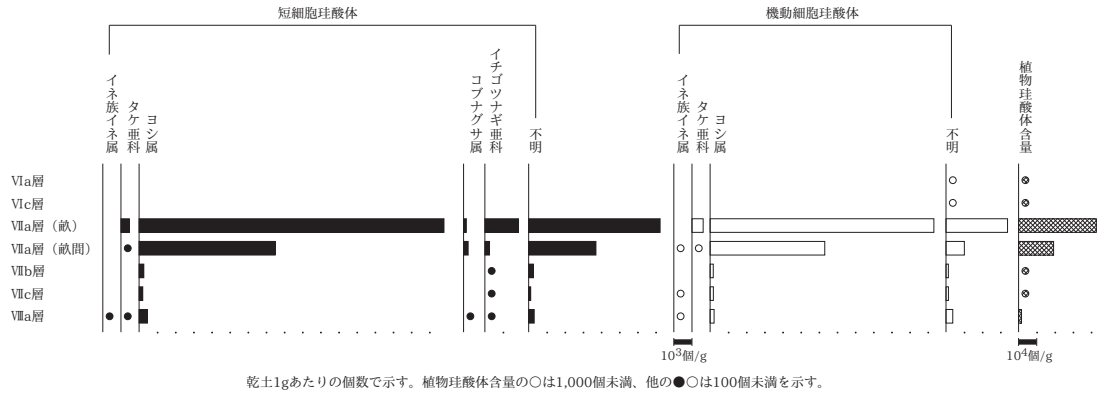
分析の結果、2区南壁のVIII a ~ VI a 層における花粉化石群集は、木本類ではマツ属、スギ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属等が多産した。本遺跡の立地等を考慮すると、ブナ属やコナラ亜属は平野部周縁の山地や丘陵に分布する冷温帯性広葉樹林に由来すると考えられ、モミ属、ツガ属、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科等の針葉樹はこれらの広葉樹林に混交していたと推定される。また、多産したハンノキ属には湿地林を構成する種が含まれる。スギ属は、植林等により本来の生態性は不明であるが、北陸地域を含む日本海沿岸部では扇状地先端の湧水地周辺や低地部にスギ林の分布が確認されている。この他、ヤナギ属やサワグルミ属、クルミ属、クマシデ属-アサダ属、コナラ亜属、トチノキ属、シナノキ属等は、溪谷林や河畔林を構成する分類群を含む。これらの分類群は、周辺の低地および河川沿いに分布した林分に由来すると考えられる。

なお、上述した多産した分類群のうち、スギ属、ハンノキ属、ブナ属の消長に着目すると、VIII a 層とVII b ~ VII c 層との間ではスギ属が増加し、ハンノキ属が減少するという特徴が認められる。また、VII b ~ VII c 層とそれより上位の層位との間では、スギ属がやや減少傾向にあり、ブナ属が増加するという特徴が認められる。これら



- 1. マツ属 (2区南壁 基本土層; VIa層)
- 2. ブナ属 (2区南壁 基本土層; VIa層)
- 3. スギ属 (2区南壁 基本土層; VIa層)
- 4. ハンノキ属 (2区南壁 基本土層; VIa層)
- 5. コナラ属コナラ亜属 (2区南壁 基本土層; VIa層)
- 6. モチノキ属 (2区南壁 基本土層; VIIa層畝間)
- 7. イネ科 (2区南壁 基本土層; VIc層)
- 8. ヨモギ属 (2区南壁 基本土層; VIa層)
- 9. イネ属型 (2区南壁 基本土層; VIc層)
- 10. ゴキツル属 (2区南壁 基本土層; VIa層)
- 11. カヤツリグサ科 (2区南壁 基本土層; VIa層)
- 12. ヒシ属 (2区南壁 基本土層; VIIa層畝間)
- 13. ヒシ属 (2区南壁 基本土層; VIIa層畝間)

第11図 花粉顕微鏡写真



第 12 図 植物珪酸体の検出量

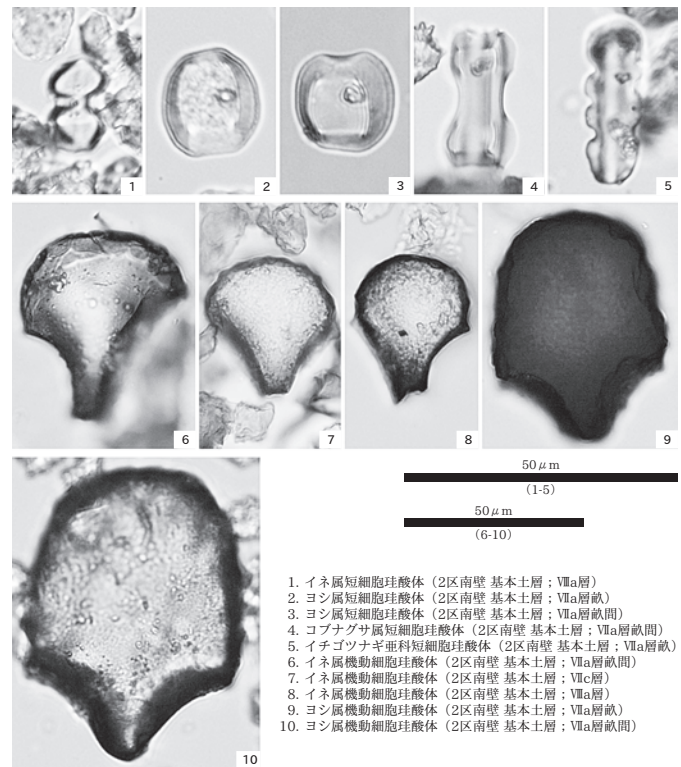
の変化は、周辺域に分布したと思われるハンノキ属やスギ属の林分が減少したため、とくにVIIa層以降に山地や丘陵の森林植生と考えられるブナ属が相対的に反映されるようになった結果と推定される。

一方、草本類では、イネ科、カヤツリグサ科の多産と、ガマ属、ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、コウホネ属、ハス属、ヒシ属、ゴキヅル属、サンショウモ等の水湿地生草本・シダ類の検出によって特徴付けられた。水湿地生種の産出状況についてみると、VIIa層はサジオモダカ属が僅かに検出されたのみであるが、VIIc層では検出される分類群が増え、ガマ属、ミクリ属、サジオモダカ属、ミズアオイ属等が確認される。さらにVIIa層および上位では上記した分類群とともに、コウホネ属、ハス属、ヒシ属等の水深が1~2m程度の池沼に生育する分類群が産出する。このような変化は、調査地周辺の水域環境の変遷を示している可能性があり、植物珪酸体に認められたヨシ属、コブナグサ属はこのような湿潤な環境に生育したイネ科草本類に由来すると考えられる。この他に検出された、タケ亜科やイチゴツナギ亜科等のイネ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節、アカザ科、ヨモギ属、オナモミ属、キク亜科等は、比較的乾燥した場所に分布した草地環境を反映していると考えられる。

第 4 表 植物珪酸体一覧と含量

分類群	2区南壁 基本土層 (個/g)						
	VIIa層	VIIc層	VIIa層		VIIb層	VIIc層	VIIa層
			畝	畝間			
イネ科葉部短細胞珪酸体							
イネ族イネ属	-	-	-	-	-	-	<100
タケ亜科	-	-	500	<100	-	-	<100
ヨシ属	-	-	16,800	7,500	300	200	500
コブナグサ属	-	-	200	300	-	-	<100
イチゴツナギ亜科	-	-	1,800	300	<100	<100	<100
不明	-	-	7,200	3,700	300	100	300
イネ科葉身機動細胞珪酸体							
イネ族イネ属	-	-	-	<100	-	<100	<100
タケ亜科	-	-	600	<100	-	-	-
ヨシ属	-	-	12,300	6,300	200	200	200
不明	<100	<100	3,400	1,000	100	100	400
合計							
イネ科葉部短細胞珪酸体	-	-	26,500	11,800	600	300	900
イネ科葉身機動細胞珪酸体	<100	<100	16,300	7,500	300	300	700
植物珪酸体含量	<100	<100	42,800	19,300	900	600	1,600

* 「<100」は100個/g未満を示す。



第 13 図 植物珪酸体顕微鏡写真

1. イネ属短細胞珪酸体 (2区南壁 基本土層; VIIa層)
2. ヨシ属短細胞珪酸体 (2区南壁 基本土層; VIIa層畝)
3. ヨシ属短細胞珪酸体 (2区南壁 基本土層; VIIa層畝間)
4. コブナグサ属短細胞珪酸体 (2区南壁 基本土層; VIIa層畝)
5. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (2区南壁 基本土層; VIIa層畝間)
6. イネ属機動細胞珪酸体 (2区南壁 基本土層; VIIa層畝)
7. イネ属機動細胞珪酸体 (2区南壁 基本土層; VIIc層)
8. イネ属機動細胞珪酸体 (2区南壁 基本土層; VIIa層)
9. ヨシ属機動細胞珪酸体 (2区南壁 基本土層; VIIa層畝)
10. ヨシ属機動細胞珪酸体 (2区南壁 基本土層; VIIa層畝間)

第2節 水田跡（稲作跡）の検討

A 分析試料

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸(SiO₂)が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで水田跡（稲作跡）の検証や探査が可能である〔藤原・杉山 1984、杉山 2000〕。

分析試料は、1区第1地点、1区第2地点、3区第7地点から採取された計15点である（図版8）。試料採取層位を分析結果の柱状図に示す（第14図）。

B 分析方法

分析は、ガラスビーズ法〔藤原 1976〕を用いて次の手順で行った。

- ① 試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）
- ② 試料約 1g に対し直径約 40 μm のガラスビーズを約 0.02g 添加（電子分析天秤により 0.1mg の精度で秤量）
- ③ 電気炉灰化法（550℃・6 時間）による脱有機物処理
- ④ 超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）による分散
- ⑤ 沈底法による 20 μm 以下の微粒子除去
- ⑥ 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成
- ⑦ 検鏡・計数

同定は、400 倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が 400 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート 1 枚分の精査に相当する。試料 1g あたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料 1g 中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体 1 個あたりの植物体乾重）をかけて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる〔杉山 2000〕。

C 分析結果

水田跡（稲作跡）の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、ジユズダマ属型、チマキザサ節型、ミヤコザサ節型の主要な 8 分類群に限定した。分析結果を第 5 表および第 14 図に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を第 15 図に示す。

1) 水田跡（稲作跡）の検討

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料 1g あたり 5,000 個以上と高い密度で検出された場合に、稲作が行われていた可能性が高いと判断している〔杉山 2000〕。なお、密度が 3,000 個 /g 程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を 3,000 個 /g として検討を行った。

① 1 区第 1 地点

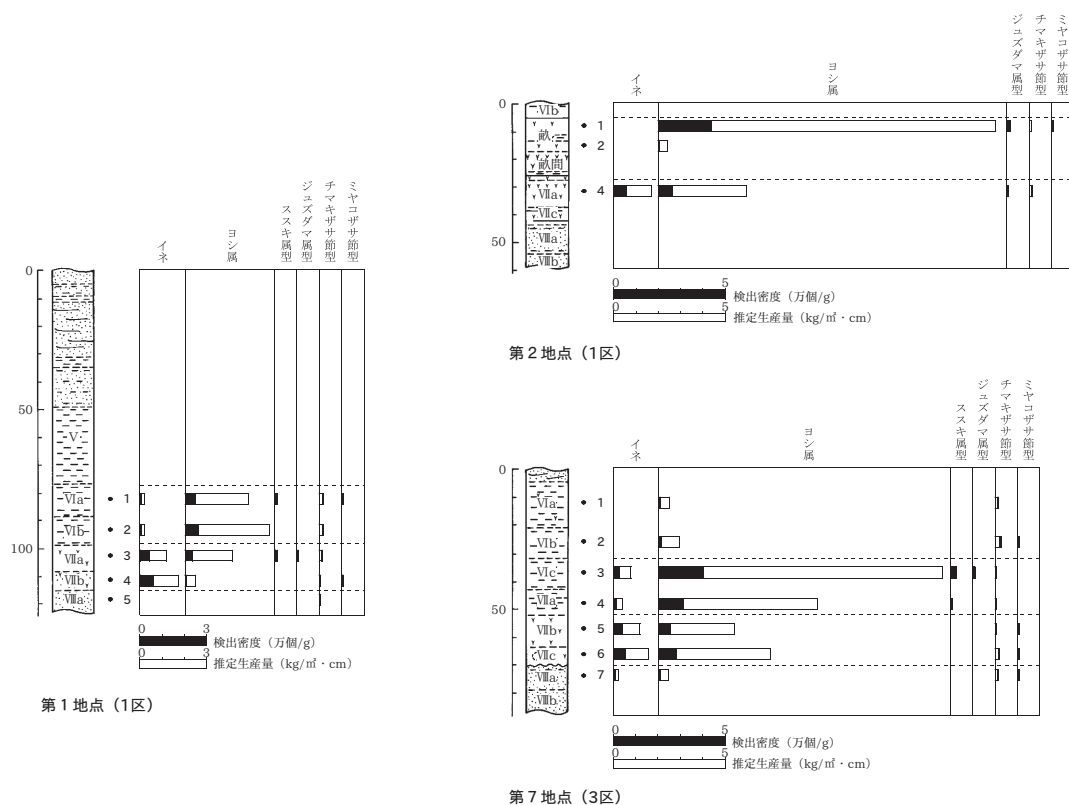
VI a 層（試料 1）～VIII a 層（試料 5）について分析を行った。その結果、VI a 層（試料 1）～VII b 層（試料 4）でイネが検出された。このうち、VII b 層（試料 4）では密度が 6,000 個 /g と高い値であり、VII a 層（試料 3）でも 4,100 個 /g と比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられ

第5表 水田跡の植物珪酸体一覧

検出密度 (単位: ×100個/g)		1区第1地点					1区第2地点			3区第7地点						
分類群	学名	1	2	3	4	5	1	2	4	1	2	3	4	5	6	7
イネ科	Gramineae															
イネ	<i>Oryza sativa</i>	7	7	41	60			58				27	13	41	54	7
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	46	61	34	7		245	7	64	8	15	206	115	55	81	7
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	7		7								20	6			
ジュズダマ属型	<i>Coix</i> type			7			14		6			7				
タケ亜科	Bambusoideae															
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	20	20	14	7	7	7		13	15	30	7	6	7	20	14
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	7			7		7				8			7	7	7
植物珪酸体総数	Total	85	88	103	80	7	274	7	142	23	53	265	141	110	163	34

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m²・cm) : 試料の仮比重を1.0と仮定して算出

イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.19	0.20	1.21	1.77			1.70			0.78	0.38	1.22	1.59	0.20	
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	2.89	3.83	2.16	0.42		15.49	0.47	4.06	0.48	0.95	12.97	7.28	3.48	5.13	0.43
ススキ属型	<i>Miscanthus</i> type	0.08		0.08								0.25	0.08			
チマキザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Sasa</i> etc.	0.15	0.15	0.10	0.05	0.06	0.05		0.10	0.11	0.23	0.05	0.05	0.05	0.15	0.10
ミヤコザサ節型	<i>Sasa</i> sect. <i>Crassinodi</i>	0.02			0.02		0.02				0.02			0.02	0.02	0.02



第14図 各地点の植物珪酸体分析結果

る。VIb層(試料2)とVIIa層(試料1)では、密度が700個/gと低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

② 1区第2地点

畝跡の畝を構成する層(以下、畝層)(試料1・2)とVIIa層(試料3)について分析を行った。その結果、VIIa層(試料3)からイネが検出された。密度は5,800個/gと高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

③ 3区第7地点

VIa層（試料1）～VIIIa層（試料7）について分析を行った。その結果、VIc層（試料3）～VIIIa層（試料7）でイネが検出された。このうち、VIIc層（試料6）では密度が5,400個/gと高い値であり、VIb層（試料5）でも4,100個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。その他の層では、密度が700～2,700個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）、ジュズダマ属（ハトムギが含まれる）などがある。このうち、ジュズダマ属型が検出された。

ジュズダマ属型は、1区第1地点のVIIa層（試料3）、1区第2地点の畝層（試料1）とVIIa層（試料4）、3区第7地点のVIc層（試料3）から検出された。ジュズダマ属には食用や薬用となる栽培種のハトムギが含まれるが、現時点では植物珪酸体の形態から栽培種と野草のジュズダマとを完全に識別するには至っていない。また、密度も600～1,400個/gと低い値であることから、これらの層準でハトムギが栽培されていた可能性は考えられるものの、野草のジュズダマに由来する可能性も否定できない。

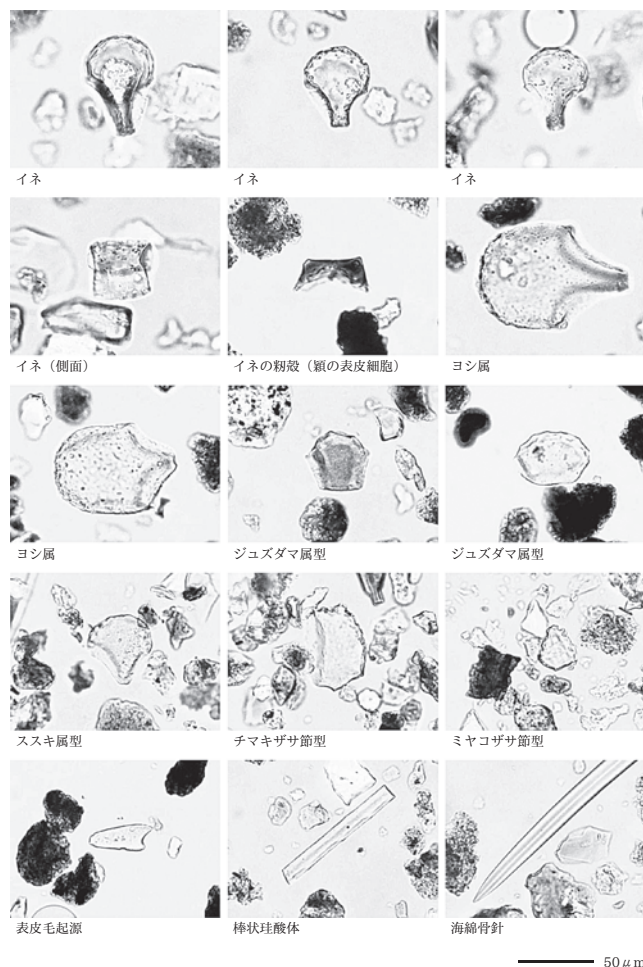
3) 堆積環境の推定

ヨシ属は湿地的なところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。イネ以外の分類群では、多くの層準でヨシ属が多く検出され、ススキ属型やタケ亜科は少量である。おもな分類群の推定生産量によると、おおむねヨシ属が優勢であり、とくに1区第2地点の畝層（試料1）や3区第7地点のVIc層（試料3）ではヨシ属が卓越している。

以上のことから、各層準の堆積当時は、おおむねヨシ属が生育するような湿潤な環境で、1区第2地点の畝層や3区第7地点のVIc層（試料3）ではヨシ属が繁茂するような状況であったと推定される。

なお、稲作の開始以降もヨシ属が多く見られることから、水田雑草としてヨシ属が生育していたことや、休閑期間中にヨシ属が繁茂していたこと、ヨシ属の茎葉が施肥などの目的で水田内に持ち込まれたことなどが想定される。

すなわち、各層準の堆積当時は、おおむねヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ、そこを利用して調査地点もしくはその近辺で水田稲作が行われていたと推定される。



第15図 植物珪酸体顕微鏡写真

第3節 畠跡の検討 1 (栽培植物)

A 分析試料

分析試料は、花粉分析およびプラント・オパール分析と土壌水洗後の篩選別の2種類ある。前者は、1区と2区畠跡の畝や畝間、畝直上から採取された計10試料、後者が2区の南壁(第6地点)と北壁(第5地点)の畠跡の畝と畝間で採取された計8試料である。試料採取位置を図版8に、前者試料一覧を第6表に示す。

B 分析方法

1) 花粉分析

試料(湿重量約3~4g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良い花粉を選んで単体標本(PLC.1102~1109)を作製した(第18図)。

2) プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20~30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについて、ガラスビーズが300個に達するまで行った。また、保存状態の良い植物珪酸体を選んで写真を撮影した(第19図)。

3) 篩選別

土壌試料は、5cm×15cmで奥行きが5cmのブロック状で試料の採取および水洗は新潟市文化財センターが行った。堆積物は1.0mm目の篩で水洗され、大型植物遺体の同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡で行った。計数の方法は、完形または一部が破損しても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が困難な分類群は、おおよその数を記号(+)で示した。

C 分析結果

1) 花粉分析

10試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉32、草本花粉31、形態分類を含むシダ植物胞子3の総計66である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を第7表に、分布図を第16図に示した。分布図の樹木花粉は樹木花粉総数を、草本花粉・シダ植物胞子は全花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン(-)で結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示す。

1・2区ともに同じような花粉組成を示した。樹木花粉ではハンノキ属が最も多く産出しており、33~50%の産出率である。次いでスギ属が14~39%の産出率を示す。その他では、サワグルミ属-クルミ属やクマシデ属-アサダ属、カバノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ属などが

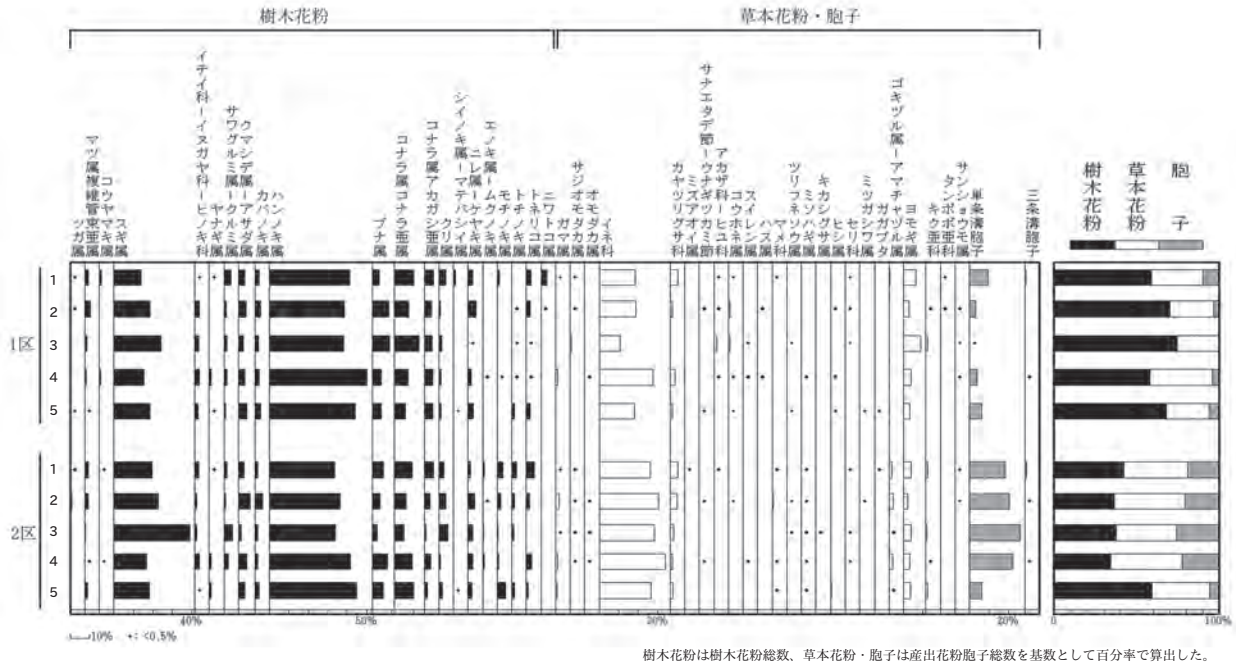
第6表 分析試料一覧

試料No.	調査区	採取位置	時期	土層
1	1区 (第2地点)	畝間上部	古代	灰オリーブ色(5Y5/2)粘土
2		畝間下部		黒褐色(2.5Y3/1)有機質粘土
3		畝直上		黒色(2.5Y2/1)有機質粘土
4		畝上部		黒褐色(2.5Y3/1)有機質粘土
5		畝下部		
1	2区 (第4地点)	畝直上	古代	灰オリーブ色(5Y4/2)粘土
2		畝上部		黒色(7.5YR1.7/1)有機質粘土
3		畝下部		黒色(10YR1.7/1)有機質粘土
4		畝間上部		オリーブ黒色(5Y3/1)有機質粘土
5		畝間下部		黒色(7.5YR1.7/1)有機質粘土

第3節 畠跡の検討1(栽培植物)

第7表 検出花粉一覧

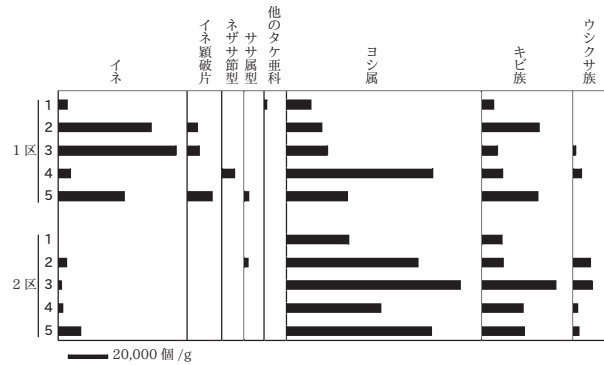
学名	和名	1区					2区				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
樹木											
<i>Tsuga</i>	ツガ属	1	1	-	-	1	1	2	-	-	-
<i>Picea</i>	トウヒ属	-	-	-	-	1	1	-	-	2	-
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属	4	7	2	2	1	4	4	1	1	3
<i>Pinus</i> subgen. <i>Haploxylon</i>	マツ属単維管束亜属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Sciadopitys</i>	コウヤマキ属	2	-	-	2	-	1	-	-	1	-
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	30	44	49	36	39	40	46	78	36	39
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	1	6	4	6	4	4	2	2	5	1
<i>Salix</i>	ヤナギ属	1	-	-	2	1	1	-	-	2	2
<i>Platycarya</i>	ノグルミ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Pterocarya-Juglans</i>	サワグルミ属-クルミ属	8	3	3	4	2	3	2	9	5	-
<i>CarPinus-Ostrya</i>	クマシデ属-アサダ属	7	9	5	8	9	6	12	3	9	7
<i>Betula</i>	カバノキ属	5	7	4	5	6	3	8	3	3	5
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	88	92	77	118	92	68	73	68	90	95
<i>Fagus</i>	ブナ属	8	21	18	11	10	12	8	5	17	12
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	21	18	26	17	12	19	12	10	20	21
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	10	9	8	10	9	10	6	2	7	3
<i>Castanea</i>	クリ属	8	2	3	3	2	5	7	9	2	4
<i>Castanopsis-Pasania</i>	シイノキ属-マテバシイ属	2	-	-	-	1	-	-	-	-	1
<i>Ulmus-Zelkova</i>	ニレ属-ケヤキ属	5	10	1	4	6	3	7	5	5	4
<i>Celtis-Aphananthe</i>	エノキ属-ムクノキ属	-	-	-	1	-	2	1	1	2	-
<i>Cercidiphyllum</i>	カヅラ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
<i>Phellodendron</i>	キハダ属	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-
<i>Mallotus</i>	アカメガシワ属	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
<i>Rhus-Toxicodendron</i>	ヌルデ属-ウルシ属	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Ilex</i>	モチノキ属	2	-	-	1	-	6	4	1	2	9
<i>Aesculus</i>	トチノキ属	-	1	1	1	3	5	3	2	-	3
<i>Vitis</i>	ブドウ属	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1
Araliaceae	ウコギ科	-	-	-	-	1	-	1	1	1	-
<i>Ligustrum</i>	イボタノキ属	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fraxinus</i>	トネリコ属	5	5	1	1	4	8	3	-	6	2
<i>Samburnum</i>	ニワトコ属	6	1	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Viburnum</i>	ガマズミ属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
草本											
<i>Typha</i>	ガマ属	1	-	-	4	-	1	9	1	7	2
<i>Alisma</i>	サジメモダカ属	1	1	2	-	-	1	1	1	2	-
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属	-	-	-	1	-	-	2	2	1	-
Gramineae	イネ科	67	64	29	112	56	127	169	150	213	95
Cyperaceae	カヤツリグサ科	14	4	-	10	3	19	20	10	7	6
<i>Monochoria</i>	ミズアオイ属	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Moraceae	クワ科	-	-	-	3	1	1	1	-	1	-
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria-Echinocaulon</i>	サナエタデ属-ウナギツカミ属	-	1	-	-	1	-	1	-	1	-
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	1	1	4	1	-	1	-	-	-	-
Caryophyllaceae	ナデシコ科	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
<i>Nuphar</i>	コウホネ属	1	3	2	1	1	-	1	-	-	-
<i>Nymphaea</i>	スイレン属	-	-	1	2	-	-	1	-	-	-
<i>Nelumbo</i>	ハス属	-	1	-	1	-	-	-	-	1	-
<i>Thalictrum</i>	カラマツソウ属	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
Brassicaceae	アブラナ科	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-
Rosaceae	バラ科	-	1	-	-	-	1	2	-	-	-
Leguminosae	マメ科	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Impatiens</i>	ツリフネソウ属	-	-	1	-	1	2	3	-	2	1
<i>Lythrum</i>	ミソハギ属	-	-	-	1	-	-	1	2	-	-
<i>Rotala</i>	キカングサ属	-	-	-	-	-	2	1	2	1	1
<i>Trapa</i>	ヒシ属	-	1	-	1	1	-	-	1	-	-
Apiaceae	セリ科	1	1	1	-	-	-	-	-	-	2
<i>Menyanthes</i>	ミツガシワ属	-	-	-	-	1	1	-	1	1	-
<i>Nymphoides indica</i>	ガガブタ	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-
Labiatae	シソ科	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
<i>Patrinia</i>	オミナエシ属	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
<i>Actinostemma-Gynostemma</i>	ゴキツル属-アマチャヅル属	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-
<i>Ambrosia-Xanthium</i>	ブタクサ属-オナモミ属	1	1	-	-	-	8	13	1	11	1
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	23	10	24	16	10	1	-	-	-	-
Tubuliflorae	キク亜科	-	1	3	-	-	18	12	20	19	13
Liguliflorae	タンポポ科	1	1	-	-	-	4	-	3	2	3
シダ植物											
<i>Savinia</i>	サンショウモ属	-	1	1	1	-	1	1	-	-	-
monolete type spore	単葉溝胞子	35	11	1	16	19	89	113	138	140	22
trilete type spore	三条溝胞子	2	-	-	1	-	3	1	-	2	-
Arboreal pollen	樹木花粉	214	239	202	235	208	204	202	200	216	212
Nonarboreal pollen	草本花粉	84	71	35	131	62	151	204	164	232	103
Spores	シダ植物胞子	37	12	2	18	19	93	115	138	142	22
Total Pollen&Spores	花粉・胞子総数	335	322	239	384	289	448	521	502	590	337
Unknown pollen	不明花粉	4	-	1	2	-	3	-	-	7	-



第 16 図 鼠跡の花粉ダイアグラム

第 8 表 試料 1g 当りのプラント・オパール個数

試料 No.	イネ (個/g)	イネ類破片 (個/g)	ネザサ属型 (個/g)	ササ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	イネ型短細胞珪酸体列 (個/g)
1区 1	4,800	0	0	0	1,600	12,700	6,300	0	0
1区 2	46,800	5,400	0	0	0	18,000	28,800	0	0
1区 3	59,200	6,400	0	0	0	20,800	8,000	1,600	1,600
1区 4	6,500	0	6,500	0	0	73,500	10,800	4,300	0
1区 5	33,400	12,800	0	2,600	0	30,800	28,300	0	0
2区 1	0	0	0	0	0	31,400	10,500	0	0
2区 2	4,500	0	0	2,300	0	65,900	11,400	9,100	0
2区 3	2,000	0	0	0	0	87,100	37,600	9,900	0
2区 4	2,600	0	0	0	0	47,300	21,000	2,600	0
2区 5	11,600	0	0	0	0	72,800	21,500	3,300	0



第 17 図 鼠跡の植物珪酸体分析結果

数～十数 % の産出率を示す。草本花粉ではイネ科が最も多く産出しており、11～34%の産出率である。次いでヨモギ属が2～9%の産出率を示す。その他では、好湿性の分類群の種類が多く、ガマ属、サジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、コウホネ属、スイレン属、ハス属、ツリフネソウ属、ミソハギ属、キサシグサ属、ヒシ属、ミツガシワ属、ガガブタ、ゴキヅル属ーアマチャヅル属、サンショウモ属などがわずかに産出している。

2) プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から試料 1g 当りの各プラント・オパール個数を求めた。分析結果を第 8 表および第 17 図に示し、主な分類群の顕微鏡写真を第 19 図に示す。

3) 篩 選 別

選別の結果、木本植物は含まれておらず草本植物の 21 分類群が得られた (第 9 表・第 20 図)。このほか科以下の識別点をもたない一群を同定不能炭化種実とした。また、昆虫遺体が得られたが同定の対象外とした。

以下に得られた大型植物遺体を採取位置別に記載する (同定不能炭化種実は除く)。

[第 6 地点]

VIIa 層畝：ヤナギタデとゴキヅルがわずかに得られた。

VIIb 層畝：ヤナギタデとシソ属、イボクサがわずかに得られた。

VIIa 層畝間：ヤナギタデとクサネム、エノキグサ属、ミクリ属、スゲ属がわずかに得られた。

VIIb 層畝間：ヤナギタデとイヌタデ、シソ属、ヒエ属、エノコログサ属がわずかに得られた。

[第5地点]

VIIa 層畝：アサとクサネム、ゴキヅル、シロネ属、シソ属、イヌゴマ属、ヘラオモダカ、オモダカ属、イボクサ、ミクリ属、ホタルイ属がわずかに得られた。

VIIb 層畝：イネとウキヤガラがわずかに得られた。

VIIa 層畝間：ミズ属とヤナギタデ、ゴキヅル、シロネ属、シソ属、イヌゴマ属、イボクサ、ミクリ属、スゲ属、ホタルイ属がわずかに得られた。

VIIb 層畝間：ヤナギタデスベリヒユ属、ゴキヅル、シソ属、エノコログサ属、ウキヤガラがわずかに得られた。次に、主な分類群の記載を行い、写真を示して同定の根拠とする。

アサ *Cannabis sativa* L. 核 アサ科

褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形で側面に稜がある。下端にはやや突出した楕円形の大きな着点がある。表面には下端から伸びる脈がある。長さ3.3mm、幅3.2mm、厚さ2.6mm。

ミズ属 *Pilea* sp. 果実 イラクサ科

茶褐色で、上面観は扁平。側面観は倒卵形で、両端がやや尖る。種皮は柔らかく表面は平滑であるが、光沢はない。長さ1.4mm、幅0.8mm。

ヤナギタデ *Persicaria hydropiper* (L.) Spach 果実 タデ科

黒色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は両端が尖る広卵形。着点付近はわずかに肥厚する。網目状隆線は細かい。長さ1.9mm、幅1.5mm。

イヌタデ *Persicaria longiseta* (De Bruyn) Kitagawa 果実 タデ科

黒色で、上面観は三角形、側面は広卵形。果皮は厚く硬い。表面は平滑で、他のタデ属より光沢がある。また、稜となる部分が幅広である。大きさは他のタデ属より小さい。残存長1.4mm、残存幅1.0mm。

スベリヒユ属 *Portulaca* spp. 種子 スベリヒユ科

黒色で、上面観は扁平、側面観は円形。全体的にいぼ状の突起がある。「の」の字状になり先端に着点がある。長さ0.7mm、幅0.8mm。

クサネム *Aeschynomene indica* L. 果実 マメ科

褐色で、上面観は楕円形、側面観は完形ならば片面の臍部が顕著に凹む楕円形。臍は全長の1/3未満で楕円形、ほぼ中央に付く。臍の縁辺が肥厚する。種瘤が2つ並ぶ。残存長4.6mm、幅3.8mm。

ゴキヅル *Actinostemma tenerum* Griff. 種子 ウリ科

橙褐色で、楕円形。果皮はコルク質、複数のひだ状の広い隆線がある。残存長7.6mm、残存幅4.2mm。

エノキグサ属 *Acalypha* spp. 種子 トウダイグサ科

黒色で、上面観は円形、側面観は倒卵形。表面には細かい網目状隆線があり、ざらつく。種皮は断面が柵状で、薄く硬い。長さ1.6mm、幅1.1mm。

シロネ属 *Lycopus* sp. 果実 シソ科

黄褐色で、上面観は三角状狭卵形。腹面中央は稜となる。臍孔は卵形。白色の柔組織で縁取られる。長さ1.9mm、幅1.0mm。

シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

赤褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ1.3mm、幅1.2mm。

イヌゴマ属 *Stachys* sp. 果実 シソ科

褐色で、倒卵形。腹側はやや平らで基部に着点があり、背側は膨らんで丸い。表面は平滑。長さ2.0mm、幅1.6mm。

ヘラオモダカ *Alisma canaliculatum* A.Br. et Bouche 果実 オモダカ科

茶褐色で、上面観は扁平、側面観は狭倒卵形。折り目が離れているU字形の種子が内部にある。長さ2.2mm、幅1.2mm。

オモダカ属 *Sagittaria* spp. 種子 オモダカ科

黄褐色で、翼の中心部にいびつなU字形をした種子がある。長さ1.8mm、幅1.0mm。

イボクサ *Murdannia keisak* (Hassk.) Hand. -Mazz. 種子 ツククサ科

黒灰色で、上面観は扁平、側面観は楕円形。中央部に狭楕円形の着点がある。表面はやや凹凸がある。長さ1.4mm、幅2.3mm。

ヒエ属 *Echinochloa* sp. 有ふ果 イネ科

淡褐色で、紡錘形。基部と先端はやや尖る。縦方向に細かい顆粒状の模様がある。壁は薄く弾力がある。内穎は膨らまない。栽培型のヒエよりやや細長く、野生のイヌビエに近い。長さ2.6mm、幅1.4mm。

イネ *Oryza sativa* L. 籾殻 イネ科

橙褐色で、完形ならば側面観が長楕円形。縦方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。残存長5.2mm、残存幅1.5mm。

エノコログサ属 *Setaria* spp. 有ふ果 イネ科

暗黄褐色で、上面観は楕円形、側面観は長楕円形で先端がやや突出する。アワよりも細長く、乳頭突起が畝状を呈する。長さ2.0mm、幅1.1mm。

ミクリ属 *Sparganium* spp. 核 ミクリ科

淡褐色で、上面観は円形、側面観は上部が細くなる卵形。果実は厚く、表面はスポンジ状で柔らかい。縦に5～6本の溝が走る。長さ5.6mm、幅2.7mm。

スゲ属 *Carex* sp. 果実 カヤツリグサ科

茶褐色で、上面観は三稜形、側面観はやや下端が窄まる広卵形。側面には黄褐色の稜がある。先端と基部が振じれたように曲がる。長さ1.5mm、幅0.7mm。

ウキヤガラ *Bolboschoenus fluviatilis* (Torr.) Soják subsp. *yagara* (Ohwi) T.Koyama 果実 カヤツリグサ科

黒褐色で、側面観は倒卵形、断面は正三角形。光沢があり、表面は平滑。長さ3.1mm、幅1.8mm。

ホタルイ属 *Scirpus* spp. 果実 カヤツリグサ科

黒色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は短倒卵形。頂部が尖り、基部は狭まって着点がある。壁は硬い。光沢がある。波打った溝が横に走る。花被には逆刺が密生する。長さ2.2mm、幅1.3mm。

全体的に試料の残りは悪かったが、栽培植物としては、第5地点の畝からアサ(Ⅶa層)とイネの籾殻(Ⅶb層)が1点ずつ得られた。栽培種を含む分類群としては、ヒエ属が南壁の畝間(Ⅶb層)から、エノコログサ属が第5・6地点の畝間(Ⅶb層)から得られているが、形態は野生種に近い。

D ま と め

プラント・オパール分析の結果、キビ族機動細胞珪酸体が両区ともに畝の下部(試料5・8)や畝間の下部(試料2・10)で産出量が多く、畝直上(試料3・6)では産出量が少ない傾向を示している。特に下部に多い傾向から、キビ族(アワやヒエ、キビ)が畝で栽培されていた可能性が推定される。しかし、篩選別による種実遺体ではそれを支持する結果は得られなかった。ただし、畝として機能している間は、畝および畝間の土壌は乾燥していたと考えられるため、生の植物遺体が残りにくかった可能性も考えられる。アサやイネ籾殻も未炭化で産出数が少ないため、畝に伴うものならば、埋積直後に水成堆積物に覆われるなどの何らかの遺存要因を想定する必要がある。なお、イネはプラント・オパール分析の結果でも葉に蓄積される機動細胞珪酸体が畝および畝間から得られている。畝に伴う種実ならば、畝に稲藁をすき込むなど、何らかの要因でもたらされた稲藁に籾殻が付着していた可

能性などが考えられる。

1区では畝や畝間さらに畝直上にも普遍的に多量のイネ機動細胞珪酸体とイネ穎破片が含まれている。しかし、2区では、イネ機動細胞珪酸体の産出量が1区に比べると非常に少なく、イネ穎破片の産出も見られない。2区では水田跡が検出されず、両区のイネ機動細胞珪酸体の産出量に違いが生じるのは、畠周辺の水田の分布状況が関係している可能性が考えられる。

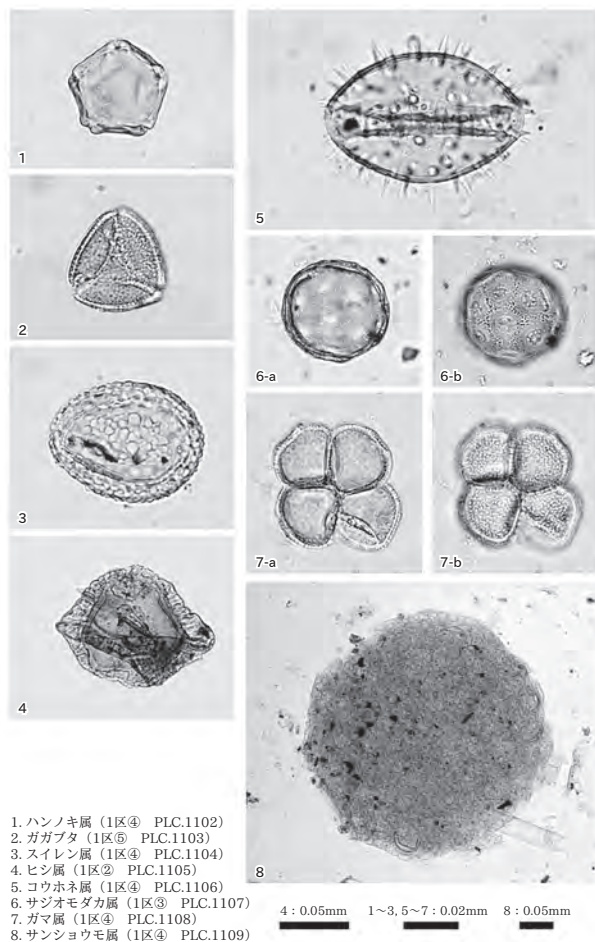
花粉分析の結果、栽培植物などの分類群は検出されなかった。樹木花粉では、両区ともに湿地林要素のハンノキ属が最も多く産出しており、遺跡周辺にハンノキ属主体の湿地林が広がっていたと考えられる。草本花粉でも、好湿性の分類群の種類が多く、ガマ属やサジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、コウホネ属、スイレン属、ハス属、ツリフネソウ属、ミソハギ属、キカシグサ属、ヒシ属、ミツガシワ属、ガガブタ、ゴキヅル属-アマチャヅル属、サンショウモ属が挙げられる。よって、遺跡周辺には比較的水深のある滞水域や陸域の湿地など、様々な湿潤の環境が広がっていたと考えられる。また、サジオモダカ属

第9表 畠跡から検出した大型植物遺体 (括弧内は破片数)

分類群	採取位置 層位 時期	2							
		南壁				北壁			
		畝 VIIa	畝 VIIb	畝間 VIIa	畝間 VIIb	畝 VIIa	畝 VIIb	畝間 VIIa	畝間 VIIb
アサ	核					(1)			
ミズ属	果実							1	
ヤナギタデ	果実	3 (1)	3 (3)	1	(2)			4	1
イヌタデ	果実				(4)				
スベリヒユ属	種子								1
クサネム	果実			(1)		(1)			
ゴキヅル	種子	(1)				(4)		(6)	(1)
エノキグサ属	種子			1					
シロネ属	果実					1		3	
シソ属	果実		(5)		(3)	(2)		1 (3)	(1)
イヌゴマ属	果実					2 (1)		2	
ヘラオモダカ	果実					2			
オモダカ属	種子					1			
イボクサ	種子		2			1		1	
ヒエ属	有ふ果			1					
イネ	籾殻						(1)		
エノコログサ属	有ふ果				(11)				1
ミクリ属	核			1		3		3	
スゲ属	果実			1				3 (1)	
ウキヤガラ	果実						5 (5)		3 (9)
ホタルイ属	果実					2		3	
同定不能	炭化種実			(1)		(1)			
昆虫		(+)	(+)	(++)		(+)		(+)	

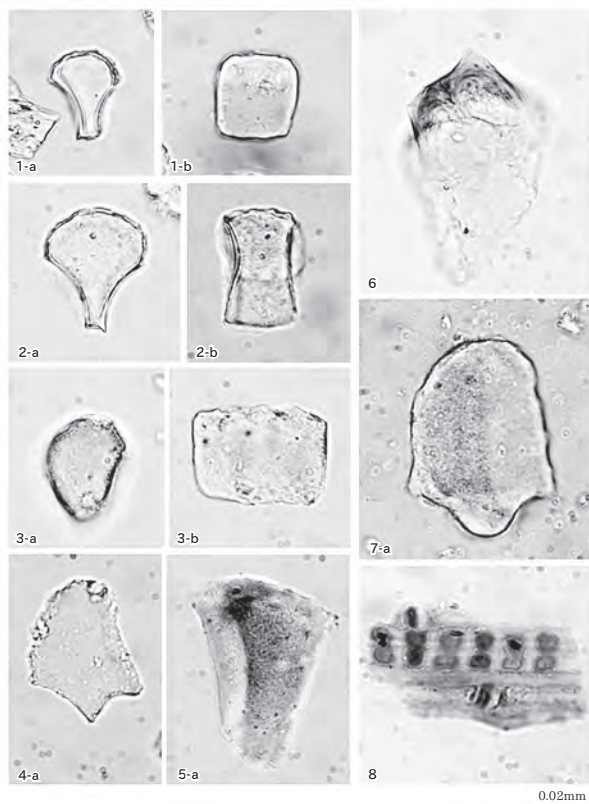
+: 1-9, ++: 10-49

花粉分析の結果、栽培植物などの分類群は検出されなかった。樹木花粉では、両区ともに湿地林要素のハンノキ属が最も多く産出しており、遺跡周辺にハンノキ属主体の湿地林が広がっていたと考えられる。草本花粉でも、好湿性の分類群の種類が多く、ガマ属やサジオモダカ属、オモダカ属、ミズアオイ属、コウホネ属、スイレン属、ハス属、ツリフネソウ属、ミソハギ属、キカシグサ属、ヒシ属、ミツガシワ属、ガガブタ、ゴキヅル属-アマチャヅル属、サンショウモ属が挙げられる。よって、遺跡周辺には比較的水深のある滞水域や陸域の湿地など、様々な湿潤の環境が広がっていたと考えられる。また、サジオモダカ属



1. ハンノキ属 (1区④ PLC.1102)
 2. ガガブタ (1区⑤ PLC.1103)
 3. スイレン属 (1区④ PLC.1104)
 4. ヒシ属 (1区② PLC.1105)
 5. コウホネ属 (1区④ PLC.1106)
 6. サジオモダカ属 (1区③ PLC.1107)
 7. ガマ属 (1区④ PLC.1108)
 8. サンショウモ属 (1区④ PLC.1109)

第18図 花粉・孢子顕微鏡写真



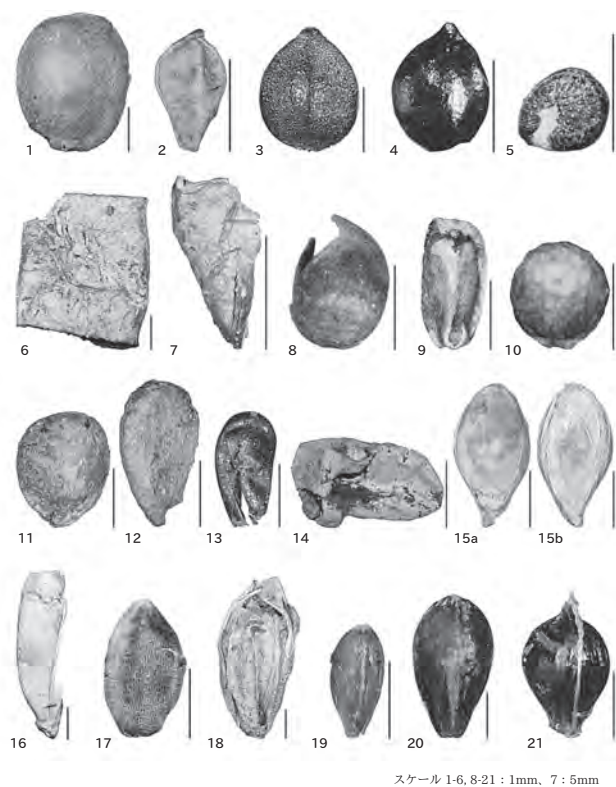
1. イネ機動細胞珪酸体 (2区⑤) 2. イネ機動細胞珪酸体 (1区②)
 3. キビ族機動細胞珪酸体 (1区①) 4. ササ属型機動細胞珪酸体 (1区⑤)
 5. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (1区③) 6. イネ穎破片 (1区②)
 7. ヨシ属機動細胞珪酸体 (1区①) 8. イネ型短細胞珪酸体 (1区③)
 a: 断面 b: 側面

第19図 植物珪酸体顕微鏡写真

やオモダカ属、ミズアオイ属、キカシグサ属などは水田雑草を含む分類群としても知られており、これらは遺跡周辺の水田にも生育していた可能性が考えられる。

篩選別の結果、草本植物は抽水植物（植物体の一部が水面を出て空気中に出る植物）であるヘラオモダカやオモダカ、ミクリ属、ウキヤガラ、ホタルイ属や、湿地や水辺に生育するヤナギタデやクサネム、ゴキヅル、イヌゴマ属、イボクサが産出している。これらは、一部花粉でも産出しており、遺跡周辺に水深のある滞水域や湿地などの湿潤的環境が広がっていた可能性や、水田雑草として生育していた可能性も推定される。複数サンプルから得られている種実もあるため、大型植物遺体の産出状況からもごく近くに水域があった可能性や、畠の耕起により前時代の水成層が攪拌された可能性、後世の水成層から落ち込んだ種実も含まれている可能性などが考えられる。

また、イヌタデやスベリヒユ属、エノキグサ属、シロネ属、シソ属、エノコログサ属などは、乾いた草地や畠に生育する草本植物である。これらがそのまま畠に残っても生の植物遺体は遺存しないと考えられるため、上記の栽培植物と同様、何らかの遺存要因を想定する必要がある。



スケール 1-6, 8-21 : 1mm, 7 : 5mm

1. アサ核 (北壁、畝、VIIa)
2. ミズ属果実 (北壁、畝間、VIIa)
3. ヤナギタデ果実 (南壁、畝、VIIb)
4. イヌタデ果実 (南壁、畝間、VIIb)
5. スベリヒユ属種子 (北壁、畝間、VIIb)
6. クサネム果実 (北壁、畝、VIIa)
7. ゴキヅル種子 (北壁、畝間、VIIa)
8. エノキグサ属種子 (南壁、畝間、VIIa)
9. シロネ属果実 (北壁、畝間、VIIa)
10. シソ属果実 (北壁、畝間、VIIa)
11. イヌゴマ果実 (北壁、畝間、VIIa)
12. ヘラオモダカ果実 (北壁、畝、VIIa)
13. オモダカ属種子 (北壁、畝、VIIa)
14. イボクサ種子 (南壁、畝、VIIb)
15. ヒエ属有ふ果 (南壁、畝間、VIIb)
16. イネ粉殻 (北壁、畝、VIIb)
17. エノコログサ属有ふ果 (南壁、畝間、VIIb)
18. ミクリ属核 (北壁、畝間、VIIa)
19. スゲ属果実 (北壁、畝間、VIIa)
20. ウキヤガラ果実 (北壁、畝、VIIb)
21. ホタルイ属果実 (北壁、畝間、VIIa)

第 20 図 大型植物遺体顕微鏡写真

第 4 節 畠跡の検討 2 (放射性炭素年代測定)

A 測定試料と測定方法

畠跡 (畝状遺構) の年代の下限を調べるために、畝状遺構から検出された腐植質堆積物 3 試料について、酸洗浄のちに、加速器質量分析 (AMS) 法により放射性炭素 (^{14}C) 年代測定を行った。測定対象試料は、1 区第 3 地点の畝状遺構上位の TNH-182S31 (畝上層最上部・VIb 層直下、腐植質泥)、畝状遺構直上の TNH-183S32 (畝間下層・未分解の草本質泥炭：いわゆるマコモ層)、2 区第 5 地点の畝状遺構直上の TNH-184S51 (畝間下層・暗灰色腐植質泥) である (第 10 表・図版 8)。年代測定は米国の Beta Analytic Inc. (ベータ社) で実施され、測定には 3MV HVEE タンデトロン加速器が使用された。

B 測定値の見かた

各用語の意味は次の通りである。

1) 未補正 ^{14}C 年代値 (measured radiocarbon age)

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在 (AD1950 年) から何年前かを計算した値。 ^{14}C の半減期は、国際的慣例によりリビー (Libby) の 5,568 年を用いた。

2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)。この値は標準物質 (PDB) の同位体比

第10表 放射性炭素年代測定の試料と方法

試料	試料採取地点・層位 (試料種類)	重量*	前処理	測定方法
TNH-182S31	1区第3地点畠上層最上部・VIb層直下 (腐植質泥)	45.0g	酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法
TNH-183S32	1区第3地点畠間下層・畠状遺構直上 (いわゆるマコモ層)	23.7g	酸洗浄	加速器質量分析 (AMS) 法
TNH-184S51	2区第5地点畠状遺構直上 (暗灰色腐植質泥)	20.9g		加速器質量分析 (AMS) 法

*: 腐植質土壌、乾燥前の重量。

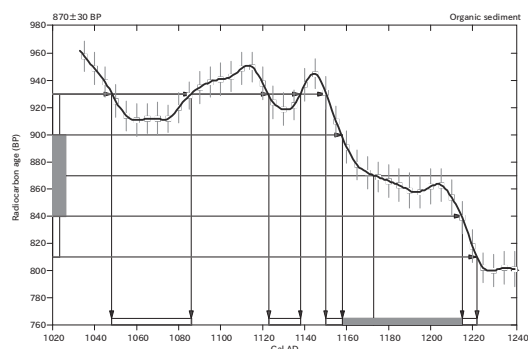
第11表 放射性炭素年代測定

試料	未補正 ¹⁴ C年代 (y BP)	δ ¹³ C	補正 ¹⁴ C年代 (y BP)	暦年較正年代 (Cal BC/AD)	測定番号
TNH-182S31	900±30	-26.9	870±30	2σ : AD 1050~1090 (Cal BP 900~860), AD 1120~1140 (Cal BP 830~810), AD 1150~1220 (Cal BP 800~730) 1σ : AD 1160~1220 (Cal BP 790~740) 交点 : AD 1170 (Cal BP 780)	Beta-366895
TNH-183S32	1010±30	-26.1	990±30	2σ : AD 990~1050 (Cal BP 960~900), AD 1090~1120 (Cal BP 860~830), AD 1140~1150 (Cal BP 810~800) 1σ : AD 1020~1030 (Cal BP 930~920) 交点 : AD 1020 (Cal BP 930)	Beta-366896
TNH-184S51	1010±30	-26.4	990±30	2σ : AD 990~1050 (Cal BP 960~900), AD 1090~1120 (Cal BP 860~830), AD 1140~1150 (Cal BP 810~800) 1σ : AD 1020~1030 (Cal BP 930~920) 交点 : AD 1020 (Cal BP 930)	Beta-366897

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.9;lab_mult=1)

Laboratory number: **Beta-366895**
 Conventional radiocarbon age: **870±30 BP**
 2 Sigma calibrated results: **Cal AD 1050 to 1090 (Cal BP 900 to 860) and Cal AD 1120 to 1140 (Cal BP 830 to 810) and Cal AD 1150 to 1220 (Cal BP 800 to 730)**
 Intercept data
 Intercept of radiocarbon age with calibration curve: **Cal AD 1170 (Cal BP 780)**
 1 Sigma calibrated result: **Cal AD 1160 to 1220 (Cal BP 790 to 740)** (68% probability)



References:
 Database used: *INTCAL09*
 References to *INTCAL09* database: Heaton, et al. 2009, *Radiocarbon* 51(4):1151-1164, Reimer, et al. 2009, *Radiocarbon* 51(4):1111-1150, Stuiver, et al. 1993, *Radiocarbon* 35(1):137-189, Oeschger, et al. 1975, *Tellus* 27: 168-192
 Mathematics used for calibration scenario: *A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates* Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2):317-322

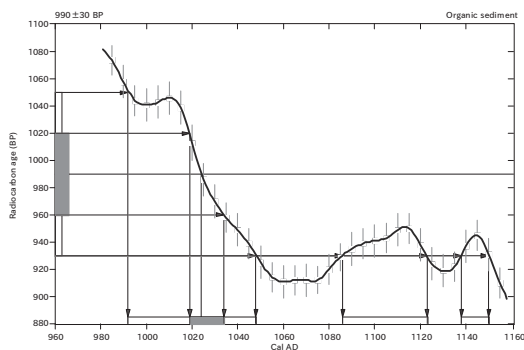
Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.1;lab_mult=1)

Laboratory number: **Beta-366896**
 Conventional radiocarbon age: **990±30 BP**
 2 Sigma calibrated results: **Cal AD 990 to 1050 (Cal BP 960 to 900) and Cal AD 1090 to 1120 (Cal BP 860 to 830) and Cal AD 1140 to 1150 (Cal BP 810 to 800)**
 Intercept data
 Intercept of radiocarbon age with calibration curve: **Cal AD 1020 (Cal BP 930)**
 1 Sigma calibrated result: **Cal AD 1020 to 1030 (Cal BP 930 to 920)** (68% probability)



References:
 Database used: *INTCAL09*
 References to *INTCAL09* database: Heaton, et al. 2009, *Radiocarbon* 51(4):1151-1164, Reimer, et al. 2009, *Radiocarbon* 51(4):1111-1150, Stuiver, et al. 1993, *Radiocarbon* 35(1):1-244, Oeschger, et al. 1975, *Tellus* 27: 168-192
 Mathematics used for calibration scenario: *A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates* Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2):317-322

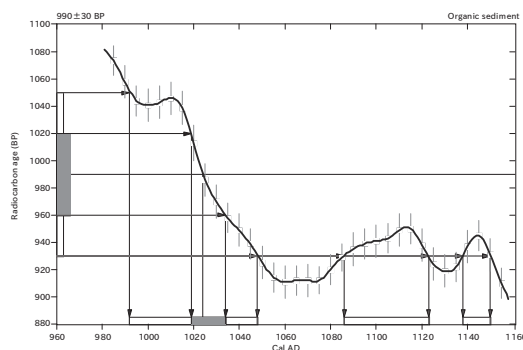
Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.4;lab_mult=1)

Laboratory number: **Beta-366897**
 Conventional radiocarbon age: **990±30 BP**
 2 Sigma calibrated results: **Cal AD 990 to 1050 (Cal BP 960 to 900) and Cal AD 1090 to 1120 (Cal BP 860 to 830) and Cal AD 1140 to 1150 (Cal BP 810 to 800)**
 Intercept data
 Intercept of radiocarbon age with calibration curve: **Cal AD 1020 (Cal BP 930)**
 1 Sigma calibrated result: **Cal AD 1020 to 1030 (Cal BP 930 to 920)** (68% probability)



References:
 Database used: *INTCAL09*
 References to *INTCAL09* database: Heaton, et al. 2009, *Radiocarbon* 51(4):1151-1164, Reimer, et al. 2009, *Radiocarbon* 51(4):1111-1150, Stuiver, et al. 1993, *Radiocarbon* 35(1):1-244, Oeschger, et al. 1975, *Tellus* 27: 168-192
 Mathematics used for calibration scenario: *A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates* Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, *Radiocarbon* 35(2):317-322

Beta Analytic Radiocarbon Dating Laboratory

4985 S.W. 74th Court, Miami, Florida 33155 • Tel: (305)667-5167 • Fax: (305)663-0964 • E-Mail: beta@radiocarbon.com

第21図 放射性炭素年代測定結果

からの千分偏差 (‰) で表す。

3) 補正 ^{14}C 年代値 (conventional radiocarbon age)

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を -25 (‰) に標準化することによって得られる年代値である。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を補正することにより算出した年代 (西暦)。補正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴの U-Th 年代と ^{14}C 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。使用したデータセットは次のとおりである。

INTCAL09 Heaton, et al., 2009, Radiocarbon 51 (4) : 1151-1164.

Reimer, et al., 2009, Radiocarbon 51 (4) : 1111-1150.

Stuiver, et al., 1993, Radiocarbon 35 (1) : 137-189, Oescheger, et al., 1975, Tellus 27 : 168-190. (海洋性試料については Marine09 を使用)

また、較正曲線のスムーズ化には Talma, A.S. and Vogel, J.C. [1993] の理論を用いた。

なお、暦年代の交点とは、補正 ^{14}C 年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1 σ (68% 確率) \cdot 2 σ (95% 確率) は、補正 ^{14}C 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。

C 測定結果

測定結果および暦年代較正年代を第 11 表と第 21 図に示す。

TNH-182S31、TNH-183S32、TNH-184S51 の補正 ^{14}C 年代は、 870 ± 30 y.BP (Beta-366895)、 990 ± 30 y.BP (Beta-366896)、 990 ± 30 y.BP (Beta-366897) である。畠を覆う腐植質堆積物の暦年代較正年代から、畠跡の年代は約 68% 確率で AD1020 ~ AD1030 年にかなり近い年代と推定される。

第5節 樹種同定

A 同定試料

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

試料は、2・3 区の柱根 8 点 (試料 1 は株式会社パレオ・ラボ、試料 2 ~ 8 は株式会社火山灰考古学研究所による分析) である。

B 同定方法

カミソリを用いて新鮮な横断面 (木口と同義)、放射断面 (柾目)、接線断面 (板目) の基本的三断面の切片を作製し、生物顕微鏡によって 40 ~ 1000 倍で観察した。同定は、解剖学的形質や現生標本との対比によって行った。

C 同定結果

第 12 表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す (第 22 図)。以下に同定根拠となった特徴を記す。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 写真 1

横断面：年輪のはじめに大型の道管が 1 ~ 4 列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。早材から晩材にかけて、道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

クリは北海道の西南部、本州、四国、九州に分布する広葉樹である。落葉の高木で、通常高さ20m、径40cmぐらいであるが、大きいものは高さ30m、径2mに達する。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。試料No.1の木取りは丸木であった。

コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 写真2

横断面：年輪のはじめに大型の道管が1～2列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる。接線断面：放射組織は同性放射組織型で、単列のものとして大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

コナラ属コナラ節にはカシワ、コナラ、ナラガシワ、ミズナラがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、高さ15m、径60cmぐらいに達する。材は強靱で弾力に富み、建築材などに用いられる。

ヤマグワ *Morus australis* Poiret クワ科 写真3

横断面：年輪のはじめに大型の丸い道管が単独あるいは2～3個複合して配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は複合して円形の塊をなす傾向を示す。道管の径は徐々に減少する。放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが、上下の縁辺部の1～3細胞ぐらいは直立細胞である。接線断面：放射組織は上下の縁辺部が直立細胞からなる異性放射組織型で、1～5細胞幅ほどである。小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。

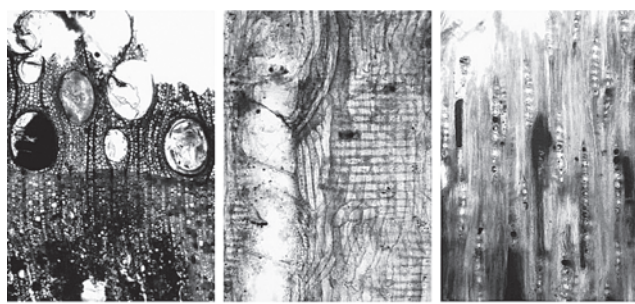
ヤマグワは北海道、本州、四国、九州に分布する。落葉高木で、通常高さ10～15m、径30～40cmである。材は堅硬、靱性に富み、建築などに用いられる。

樹種同定の結果、柱根8点の樹種は、ヤマグワ3点、クリ3点、コナラ属コナラ節2点と同定された。ヤマグワはやや堅硬で靱性に富み、クリは重硬で保存性が良く、ナラ属コナラ節は強靱で弾力に富んだ材である。いずれも温帯に広く分布する落葉高木であり、ヤマグワは谷間や流路沿い、緩傾斜地の適潤な深層の肥沃地を好んで生育する。クリは乾燥した台地や丘陵地を好み、暖温帯と冷温帯の中間域では純林を形成することもある。また、二次林要素でもある。コナラ属コナラ節は日当たりの良い山野に生育し、ミズナラなどの冷温帯落葉広葉樹林の主要構成要素や暖温帯性のナラガシワ、二次林要素でもあるコナラなどが含まれる。いずれの樹種も遺跡周辺に生育していた樹木を利用したと推定される。

第12表 同定樹木一覧

※()内は掲載No.

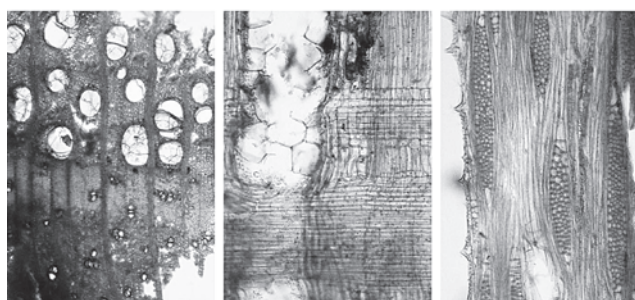
試料No.	出土地点		結果(学名/和名あるいは樹種)	備考	
	区	遺構			グリッド
1 (375)	2	SP53	D-3I-9H6	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ	下層
2 (377)	3	SP55	D-4J-4C14	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ	下層
3 (378)	3	SP56	D-4J-4C2	<i>Castanea crenata</i> Sieb. et Zucc. クリ	下層
4 (379)	3	SP57	D-4J-2A7	<i>Morus australis</i> Poiret ヤマグワ	下層
5 (380)	3	SP58	D-4J-2A1	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>	コナラ属コナラ節 下層
6 (381)	3	SP59	D-4I-2J21	<i>Morus australis</i> Poiret ヤマグワ	下層
7 (382)	3	SP60	D-4I-1J20	<i>Morus australis</i> Poiret ヤマグワ	下層
8 (383)	3	SP61	D-4I-1J13	<i>Quercus</i> sect. <i>Prinus</i>	コナラ属コナラ節 下層



1. 柱根No.1 クリ



2. 柱根No.4 コナラ属コナラ節



3. 柱根No.3 ヤマグワ

第22図 樹種同定図

第6節 出土骨片の同定

A 試料

第6次調査地区のSD21・SX11、2区VIIc層より出土した4点であり、いずれもクリーニングされた状態にある。試料の詳細は、分析番号を付し同定結果とともに第14表に記した。出土した骨は以上4点ですべてである。種類や部位などを明らかとするため、骨同定を実施した。

B 分析方法

試料を肉眼および実体顕微鏡で観察し、その形態的特徴から種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。

C 結果および考察

カニ類、鳥綱、ウマの3種類が検出された(第13表)。同定結果を第14表に示す。以下、試料ごとに結果を記す。
1は、ウマの上顎歯牙片であり、最大長37.57mmを測る。ウマは、役畜や軍用などの多様な用途が考えられるほか、遺跡における出土例は自然死・事故死、屠殺、犠牲(祭祀)などの要因に分類できるとされている〔久保・松井1999〕。本遺跡では、歯牙が確認されたことから少なくともウマの存在が推定されるものの、ウマの利用状況やウマの埋存状況などについては1点のみの出土であるため言及することは難しい。

2・3は、鳥綱の大腿骨/脛骨の破片2点である。いずれも焼骨であることから、食料資源等として利用された後の状況などが推定される。

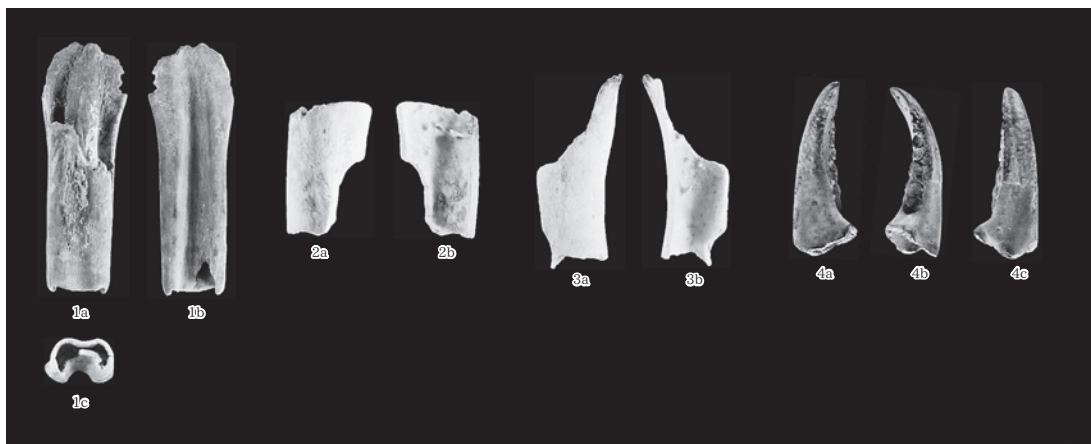
4は、カニ類の可動指であり、最大長24.93mmを測る。この試料は焼けておらず、大きさなどからみて付近に棲息していたものに由来する可能性がある。

第13表 検出分類群の一覧

節足動物門	Phylum Arthropoda
甲殻亜門	Crustacea
軟甲綱	Malacostraca
真軟甲亜綱	Eumalacostraca
エビ目	Decapoda
エビ亜目	Pleocyemata
カニ類	Fam. et. gen. indet.
脊椎動物門	Phylum Vertebrata
鳥綱	Class Aves
鳥類	Ord. et. fam. indet.
哺乳綱	Class Mammalia
ウマ目(奇蹄目)	Order Perissodactyla
ウマ科	Family Equidae
ウマ	<i>Equus caballus</i>

第14表 骨同定結果

ラベル記載情報等					同定結果						
調査区	遺構	グリッド	層位	日付	種類	部位	左右	状態等	数量	重量(g)	備考
第6次調査区	SD21	D-3H-4J20	1層	12.12.03	ウマ	上顎歯牙		破片	1	1.50	最大長37.57mm
第6次調査区	SX11	D-3I-6B2	2層	12.11.29	鳥綱	大腿骨/脛骨		破片	2	1.40	焼骨
2区		D-3I-8G7	VIIc層	13.10.23	カニ類	可動指		破片	1	0.64	最大長24.93mm



1. ウマ 上顎歯牙 (第6次調査区 SD21 1層) 2. 鳥綱 大腿骨/脛骨 (第6次調査区 SX11 2層) 3. 鳥綱 大腿骨/脛骨 (第6次調査区 SX11 2層)
4. カニ類 可動指 (2区 VIIc層)

第23図 出土骨

第7節 レプリカ法による土器圧痕の同定

A はじめに

下新田遺跡は古代を中心とする遺跡で、出土土器には種実と思われる圧痕や木葉痕が複数確認された。ここでは、圧痕のレプリカを採取して同定を行い、当時の利用植物について検討した。

B 資料と方法

資料は、新潟市文化財センターによってあらかじめ抽出された概ね8世紀から9世紀（春日編年〔1999〕Ⅱ2～Ⅵ期）の土器である。はじめに圧痕を肉眼または拡大鏡で観察し、同定可能と考えられる圧痕122点を抽出した。これらについて、以下の手順で圧痕のレプリカを作製した。

圧痕内を筆と流水で水洗し、乾燥条件下でブロアーを用いて付着物を除去した。資料保護のため、パラロイドB72の5%アセトン溶液を離型剤にして土器に含浸させた。種実などの小さい圧痕の採取方法は、丑野・田川〔1991〕等を参考にして以下の手順で行った。印象剤に用いるシリコン樹脂（(株)ニッシン製JMシリコンレギュラータイプ）を医療用注射器に入れ、圧痕部分に充填してレプリカを作製した。木葉痕などの敷物圧痕については、真邊〔2013〕を参考に、広い面積を採取するため粘性が低く、硬化時間がJMシリコンより長い、アグサ・ジャパン(株)製のブルーミックスソフトを使用した。

採取したレプリカを実体顕微鏡と、一部は走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製VE-9800）で観察および写真撮影を行った。

C 結果

同定した結果を第15表に（種実または種実の可能性のある圧痕）、圧痕と認められた全試料の同定結果を第16表に示す。

種実では、木本植物のイヌシデ果実1点とイイギリ種子1点の2分類群、草本植物のマメ科?種子が1点とツユクサ種子が1点、ヒエ属有ふ果が1点、イネ粉が4点、イネ粉殻が4点、イネ穎果が7点、キビ有ふ果が3点、キビ?有ふ果が2点得られた。このほかに、着点があり種実と判断できるが、科以下の同定ができなかった一群を不明種実とし、形状は種実に近いが明確に種実とは判断できなかった一群を不明種実?とした。同様に、果序もしくは芽の形状に似るが、同定根拠が残存していない個体を果序?もしくは芽?とした。

木葉痕ではハンノキ属が4点の1分類群が得られ、科以上の詳細な同定ができなかった一群を広葉樹葉とした。次に、産出した葉および種実の分類群の記載と写真を掲載し、同定の根拠とする。大きさは第16表に示す。なお、種実の写真は臍ないし着点を図版の右側に向けて撮影した。

ハンノキ属 *Alnus* sp. 葉 カバノキ科

側脈は基本的に互生し、主脈と45度よりも少し鋭い角度をなして斜上する。また平行で直線的に伸び、先端に近づくに従って少し内向きに曲がる。細脈は側脈とほぼ直角の角度をなし、一見隆起していないように見えるが、斜光線で見ると明瞭に観察できる。葉裏の毛の痕跡はほとんど確認できない。葉縁は残存していない。

第15表 下新田遺跡出土土器種実圧痕の同定結果

分類群	部位	Ⅱ2～Ⅳ期			Ⅵ期	合計
		甕	杯	碗 土製品		
イヌシデ	果実	1				1
イイギリ	種子	1				1
マメ科?	種子			1		1
ツユクサ	種子	1				1
ヒエ属	有ふ果	1				1
イネ	粉	3	1			4
	粉殻	3		1		4
	穎果	7				7
キビ	有ふ果	3				3
	有ふ果	2				2
不明	果序?	1				1
	種実	1				1
	種実?	3			1	4
	芽?	1				1

以上の特徴から、側脈が直線的で平行に走る樹木の葉としてハンノキ属と、アズキナシ属（バラ科）、マンサク属やトサミズキ属（マンサク科）、コナラ属やクリ属（ブナ科）、ブドウ属、カエデ属、トチノキ属、シナノキ属が候補としてあげられる。しかし、ブナ科の種の多くは、今回の圧痕よりも小さい種が多く、同定した4点の大きさに相当するナラガシワやミズナラは側脈が先端に近づくとき外向きに曲がっているため除外した。アズキナシ属やマンサク属では側脈の角度が今回の圧痕よりもより鋭角になり、アズキナシ属やトサミズキ属では側脈の間隔

第16表 下新田遺跡出土土器圧痕の同定結果一覧

※出土地点は、サンプル採取した破片のグリッドを示した。

レブリカ 採取No.	報告 No.	写真図 版No.	出土地点			種別 器種	部位	サンプル 採取位置	同定結果		写真	法量 (mm)			時期 〔春日 1999〕	備考	
			区	遺構	グリッド				層位	分類群		部位	長さ	幅			厚さ
3			2		D-3I-4B4	VIIc	土師器甕	底部	内面	キビ?	有ふ果		2.52	1.37	(0.89)	III	
6			2		D-3I-4B9	VIIa	土師器甕	底部	外面	紐		第25図				III	燃糸 (L)
7			2		D-3I-4C11	VIIa	土師器甕	口縁部	内面	不明	材 (枝)					III	
8			2		D-3I-4C11	VIIc	土師器甕	底部	内面	イネ	顕果	第24図	5.45	3.36	1.80	III	
11			2		D-3I-4C11	VIIa	土師器甕	底部	外面	縄		第25図				III	
13			2		D-3I-5C10	VIIb	土師器甕	底部	内面	イネ	糊		6.11	(3.23)	(1.08)	III	
16			2		D-3I-5D17	VIIa	土師器甕	底部	内面	イネ	糊殻	第24図	(6.30)	3.87	(1.13)	III	
20-1			1	SD30	B-10H-5D24	2	土師器甕	底部	外面	イネ	糊殻		(4.24)	(2.07)	(0.33)	III	
20-2								底部	外面	イネ	糊殻		(3.40)	(2.95)	(0.94)		
21			1	SD6	B-10H-5C8	3	土師器甕	底部	内面	材						III	
26			1	SD39	B-10H-6F22	2	土師器甕	底部	外面	キビ?	有ふ果		2.95	1.60	(0.84)	III	
27			1	SD39	B-10H-6F16	2	土師器甕	底部	外面	イヌシデ	果実	第24図	3.86	4.17	2.05	III	
28			1	SD43	B-10H-7G20	1	土師器甕	底部	外面	イネ	顕果		4.76	3.30	(2.39)	III	
43			1		B-10H-6F16	VIIc	土師器甕	底部	内面	ツユクサ	種子	第24図	4.12	2.16	1.55	III	
45			1		B-10H-7G6	VIIc	土製品	—	中	イネ	糊殻		5.60	2.51	(0.89)	III	
48			1		B-10H-7G18	VII	土師器甕	底部	内面	材						III	
51			1		B-10H-4B23	VIIb	土師器甕	底部	外面	不明	種実?					VI	
54			2	SD3	D-3I-4C17	1	土師器甕	底部	内面	不明	種実?					III	
60			第6次	SD6	D-3I-8E11	1	土師器甕	口縁部	内面	不明	芽?					III	
66			第6次	SD6	D-3I-8D15	2	土師器甕	口縁部	内面	不明	種実?					III	
68			第6次	SD6	D-3I-8D15	2	土師器甕	底部	外面	不明	種実?					III	
80			第6次	SX11	D-3I-6B2	2	土師器甕	底部	外面	不明	材					III	
81			第6次	SX11	D-3I-6B2	2	土師器甕	底部	内面	不明	稈or茎					III	割れ
82			第6次		D-3I-8E17	VIIc	土師器甕	底部	内面	イネ	顕果		5.86	3.23	(1.22)	III	
83			第6次		D-3I-8E23	VIIa	土師器甕	底部	外面	不明	種実					III	
84	252	44	第6次		D-3I-6C11	VIIa	土師器甕	底部	破断面	工具痕?						III	
85			第6次		D-3I-4A16	VIIa	土師器甕	底部	内面	イイギリ	種子	第24図	1.71	1.27	1.12	III	
90			第6次	SD21	D-3H-4J20	1	土師器甕	底部	内面	不明	果序?					III	
91			3		排土		土師器甕	底部	外面	不明	稈or茎					III	
92			3		D-4J-3B20	VIIc	土師器甕	底部	外面	イネ	顕果		5.38	3.85	(0.63)	III	
93			3		D-4J-3B19	VIIa	土師器甕	底部	外面	不明	材					III	
96			3		D-4J-3C16	VIIc	土師器甕	底部	外面	不明	稈または茎					III	木葉痕ではない
101			3		D-4J-2A7	VIIc	土師器甕	底部	内面	イネ	顕果		6.52	3.69	(1.32)	III	
102			3		D-4J-2A13	VIIc	土師器甕	口縁部	内面	キビ	有ふ果	第25図	2.75	1.52	(0.95)	III	
103			3		D-4I-1J20	VIIc	土師器甕	底部	外面	イネ	糊		5.63	3.18	(1.54)	III	
105-1	93	42	3	SK20	D-4J-2A19	1	土師器甕	底部	外面	ヒエ属	有ふ果	第24図	4.36	1.64	(0.73)	III	木葉痕 割れ、木葉痕
105-2								底部	外面	イネ	顕果		(2.84)	2.19	(0.86)		
108			2		D-3I-7F25	VIIa	土師器甕	底部	内面	不明	材?		6.36	3.64	2.17	III	割れ
118	127		第6次	SD2	D-3H-4J20	1	土師器杯	底部	外面	イネ	糊	第24図	5.41	3.59	2.41	II 2~III	
124	69	35	2	SD7	D-3I-4C17	1	黒色土器高杯	底部	外面	縄						III	
126	40	46	1		B-10H-7G13	VIIc	土師器甕	底部	内面	不明	材					III	
127							土師器甕	底部	内面	イネ	糊		5.41	3.59	2.41	III	
128	88	36	2	SD4	D-3I-8G19	1	土師器甕	底部	外面	キビ	有ふ果		2.66	1.26	(1.00)	III	
131	72	35	2	SD3	D-3I-4C18	2	土師器甕	底部	外面	縄		第25図				III	
132	91	36	2	SD4	D-3I-8G19	1	土師器甕	底部	外面	マメ科?	種子	第24図	4.72	2.03	2.95	III	
146	55	34	4	SK4	B-10G-3J16	1	土師器甕	底部	外面	縄		第25図				VII 1	
149	75	47	2		D-3I-6E24	VIIa	土師器甕	口縁部	内面	イネ	顕果		(2.00)	2.52	1.94	III	
160	200	43	2		D-3I-4C23・24	VIIaVIIc	土師器甕	底部	外面	ハンノキ属	葉	第25図				III	木葉痕
161	32	42	1	SD3	B-10H-5D24	1 VIIa	土師器甕	底部	内面	広葉樹	葉					III	木葉痕
162			1		B-10H-5D23	VIIa	土師器甕	底部	外面	不明	稈または茎					III	木葉痕ではない
163			1		B-10H-5C14	VIIb	土師器甕	底部	外面	広葉樹	葉					III	木葉痕
164		44	3		D-4J-3C21	VIIc	土師器甕	底部	外面	ハンノキ属	葉	第25図				III	木葉痕、縄
165			第6次	SX11	D-3I-5A14	2	土師器甕	底部	外面	ハンノキ属	葉	第25図				III	木葉痕
166			1	SD15	B-10H-6E13	3~6	土師器甕	底部	外面	広葉樹	葉					III	木葉痕
167		44	1		B-10H-7G7	VIIa	土師器甕	底部	外面	ハンノキ属	葉	第25図				III	木葉痕
168			2		D-3I-6D4	VIIa	土師器甕	底部	外面	広葉樹	葉					III	木葉痕
169			2		D-3I-9H6	VIIc	土師器甕	底部	外面	広葉樹	葉					III	木葉痕
170			2		D-3I-6D4	VIIa	土師器甕	底部	外面	広葉樹	葉					III	木葉痕
171			2		D-3I-4C23	VIIa	土師器甕	底部	外面	広葉樹	葉					III	木葉痕
173			1		B-10H-5D23	VIIc	土師器甕	底部	外面	不明	材					III	
174	89	36	2		D-3I-8G19	VIIc	土師器甕	底部	内面	キビ	有ふ果		2.41	1.49	(0.91)	III	
176	237	44	3		D-4J-3B20	VIIa	須志器壺	底部	外面	工具痕?						II 2~III	
177	90	44	2	SD4	D-3I-8G19	1	土師器甕	底部	破断面	工具痕?						III	
179	198	38	2		D-3I-8G19	VIIc	土師器甕	底部	外面	工具痕?						III	
180			1	SD29	B-10H-5D24	2	土師器甕	底部	外面	不明						III	
181	228	44	3	SD29	D-4J-3C21	VIIc	土師器甕	底部	内面	不明		第25図				III	

が狭いため除外した。シナノキ属では、シナノキは葉が小さすぎ、しかも細脈はほとんど隆起しない点、オオバボダイジュも葉裏に毛が多く、細脈の隆起が弱いため異なる。ブドウ属やカエデ属、トチノキ属では基本的に側脈は主脈に対して対生する場合がほとんどであるが、本試料は互生が大部分のため異なる。残ったのはカバノキ科ハンノキ属となるため、ハンノキ属と同定した。その中で植物の分布と側脈の間隔が一致する種はミヤマカラハンノキとヤマハンノキが該当する。

イヌシデ *CarPinus tschonokii* Maxim. 果実 カバノキ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は三角状卵形。下部の大きな着点から縦方向に走る不規則な数本の細い隆線がある。

イイギリ *Idesia polycarpa* Maxim. 種子 イイギリ科

上面観は円形、側面観は狭卵形。下端はやや平坦で、中央に円形で突出する臍がある。表面には微細な網目状隆線がある。

マメ科? *Leguminosae* sp.? 種子

破片で、先端のレプリカが採れてないものの、元々の形状を推定すると、上面観・側面観ともに楕円形か。表面は平滑だが、部分的に発泡している。臍および初生葉は残存していないが、形状からマメ科とした。

ツククサ *Commelina communis* L. 種子 ツククサ科

上面観は扁平、側面観は切削形。表面には不規則な凹凸がある。

ヒエ属 *Echinochloa* sp. 有ふ果 イネ科

紡錘形。横方向に細かい顆粒状の模様がある。壁は薄く弾力がある。外穎側が膨らむが、内穎側は扁平。内穎側の上半部に刺が目立つ。

イネ *Oryza sativa* L. 籾・籾殻・穎果 イネ科

籾は上面観が楕円形で、側面観は長楕円形。2条の稜があり、表面には四角形の網目状の隆線と隆線上の顆粒状突起が規則正しくならぶ。果柄側は残存していない。穎果は上面観が両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が脱落した凹みがあり、両面に縦方向の2本の浅い溝がある。

キビ *Panicum miliaceum* L. 有ふ果 イネ科

球形で先端は丸く、内穎側が膨らむ。表面は平滑。

D 考 察

分類群が特定できた種実圧痕は、25点であった。栽培植物ではイネとキビが得られ、イネは15点と多かった。その内、イネの穎果が7点と多いため、籾摺り後の個体(米の状態)が粘土中に混じった可能性などが考えられる。さらに、イネ穎果の溝はやや不明瞭であるため、水分を含み膨張していた可能性がある。キビは、キビ?とした圧痕を含めると5点得られ、すべて殻付きの状態である有ふ果であった。

そのほかには、種によっては利用可能なマメ科?種子とヒエ属有ふ果、食用にはならないイヌシデ種子やイイギリ種子、ツククサ種子が得られた。土器作りの際にこれらの種実が付近にあつて偶発的に混ざったか、意図的に混和した可能性があるが、いずれも1点しか得られておらず、前者の可能性が高い。あるいは、粘土が有機質粘土であった場合、食用にならない種実などは、採取された時にはすでに粘土自体に混ざっていた可能性もある。

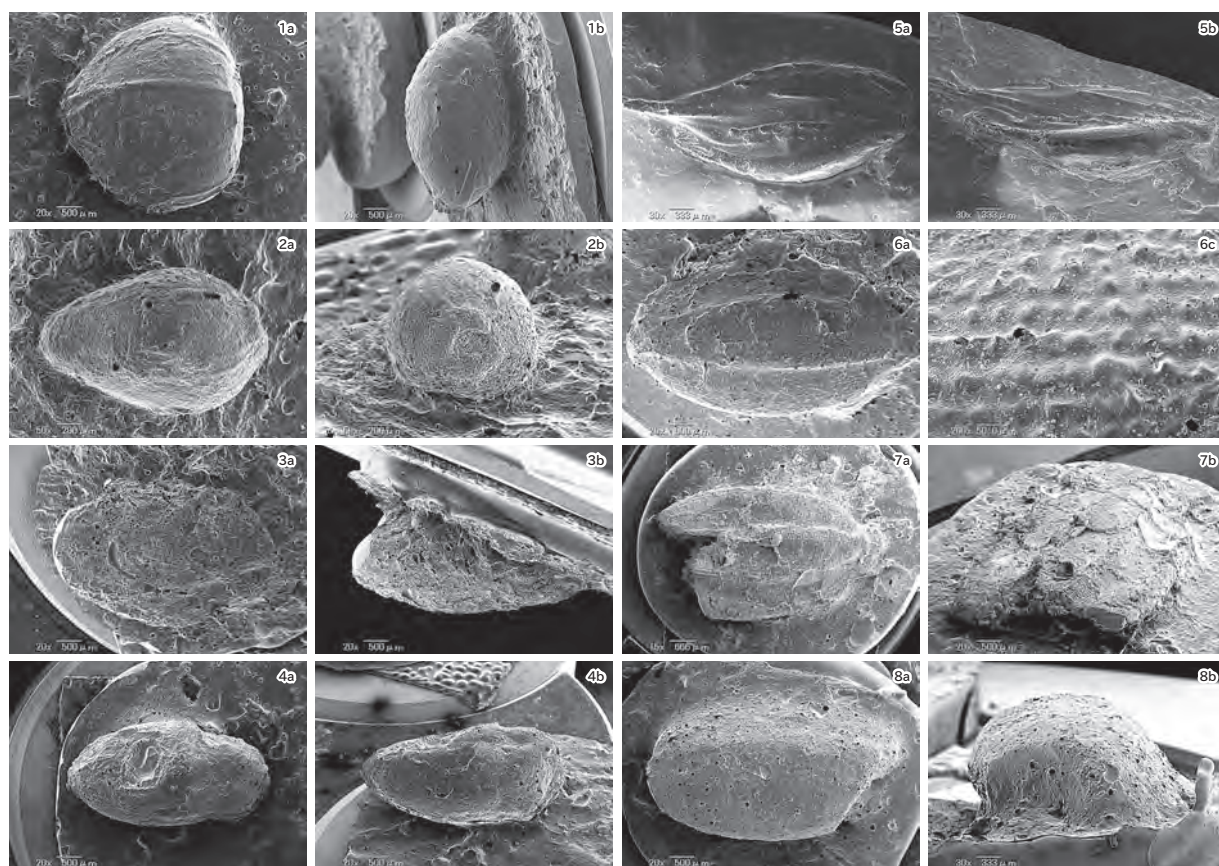
土器の時期別にみると、同定できた種実は8世紀前半の甕や杯、椀から得られた。ほとんどが甕から得られており、杯と椀、土製品から得られたのはそれぞれ1点である。土器作りがどこで行われたかは分からないが、水田稲作と畑作は8世紀前半には下新田遺跡内および周辺で水田と畑作が行われていたと推定される。下新田遺跡では、畝跡(畝状遺構)で篩選別による大型植物遺体分析が行われているが、イネがわずかに得られたのみでイネ科の穀類は得られていない(第VI章第3節3参照)。

種実以外には、縄や紐などの植物起源と考えられる圧痕が、体部ないし底部の外面に付着している例が5個

体でみられた。器種は甕や杯、碗とさまざまであるが、外面のみに単独で付着しており、土器が乾燥するまでに何らかの要因で縄や紐が土器外面に付着する状況があったと考えられる。

土器底部の敷物圧痕としては、広葉樹を使用した木葉痕が得られた。第25図に示した4点は比較的残存が良好で主脈と側脈が観察でき、ハンノキ属と同定した。北陸地方でこの土器が作られたと仮定するならば、ミヤマカワラハンノキが第一候補、ヤマハンノキが第二候補になる。それ以外は、遺存度が悪いか小さな破片のため、科以下の詳細な同定はできなかった。ミヤマカワラハンノキは日本海側の湿った場所に生育するが、ヤマハンノキは山地や溪畔などの乾いた場所に生育する。2区では花粉分析の結果、両区ともに湿地林要素のハンノキ属が最も多く産出しており、遺跡周辺にハンノキ属主体の湿地林が広がっていたと推定されており(第VI章第1節参照)、ミヤマカワラハンノキならば、遺跡周辺にある資源を利用した可能性がある。

植物以外では、魚骨の様な不明圧痕(第25図18)が得られた。試料は、中軸部とそこから派生する枝(以下派生枝と仮称)で構成される。中軸部はおおむね一定間隔で認められる膨らみによって区画される分節構造が観察できるため、本試料は一見魚類の脊柱に見える。魚類とすれば脊柱後半(尾椎)に相当し、中軸部の個々の節は椎体、派生枝は神経棘・血管棘に対応すると考えられる。しかし、本試料は、派生枝の発する位置が、中軸部の節の接続部分であったり、節の中間部であったりして一定しておらず、魚類の神経棘・血管棘にはみられない特徴である点、中軸の節が接続する部分は単純なふくらみとなっており、硬骨魚類にみられる椎体間の境界線や関節突起などに相当する構造が認められない点、派生枝の基部には、硬骨魚類の神経棘・血管棘の基部にみられる



- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. イヌンデ果実 (No.27) | 5. ヒエ属有る果 (No.105-1) |
| 2. イイギリ種子 (No.85) | 6. イネ籾 (No.118) |
| 3. マメ科?種子 (No.132) | 7. イネ籾殻 (No.16) |
| 4. ツクサ種子 (No.43) | 8. イネ穎果 (No.8) |

走査型電子顕微鏡写真のスケール：写真上に記載 a：上面観、b：側面観、c：拡大

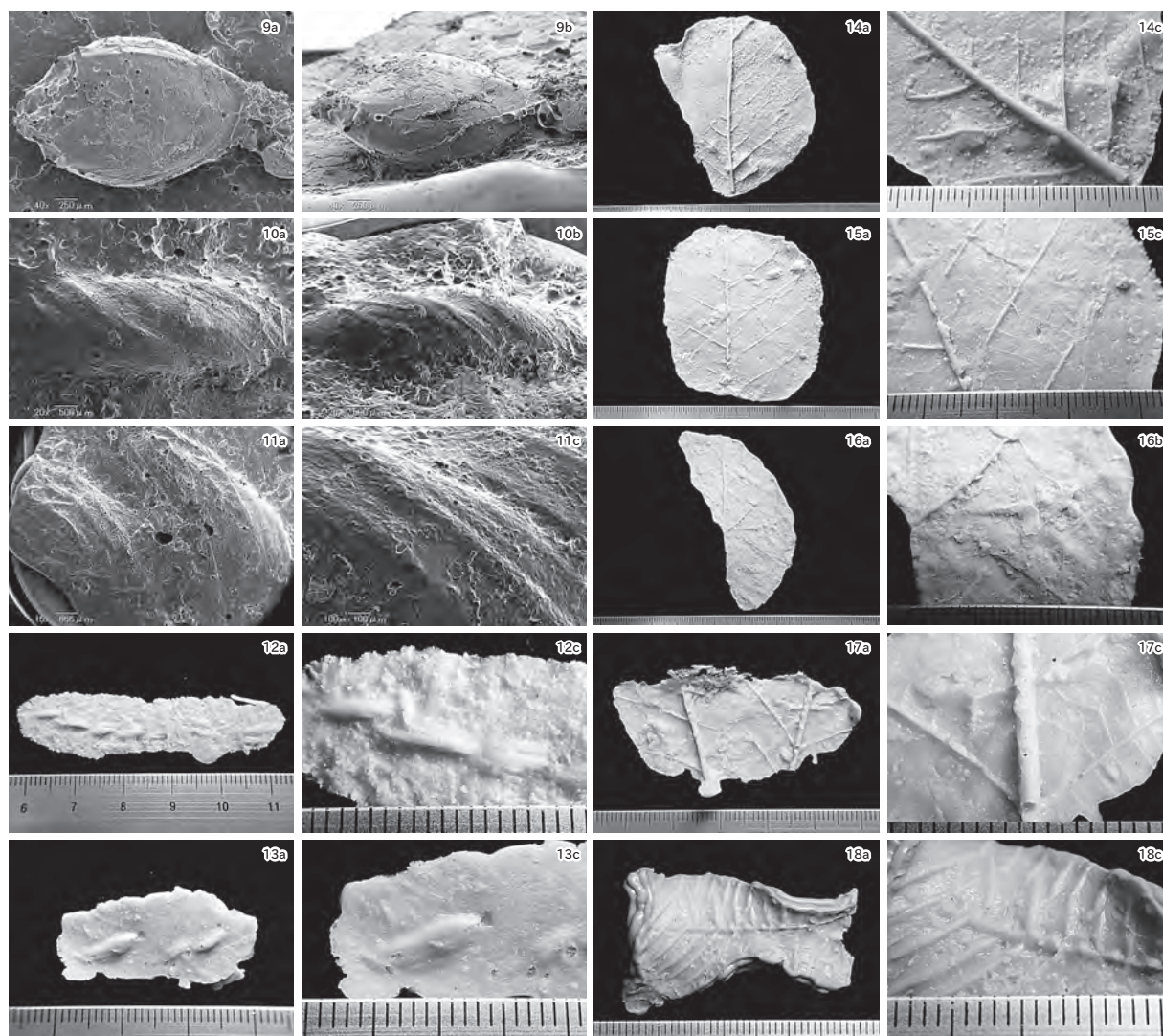
第24図 圧痕レプリカ走査型電子顕微鏡写真(1)

神経弓門・血管弓門に相当する構造が認められない点から、魚類の尾椎とは特徴が合致せず、魚類（少なくとも硬骨魚類）と同定するのは困難であった。今後類例を待ち、再検討したい。

このほかには、人間との関わりが不明な材や枝、稗もしくは茎などの植物遺体の断片が得られた。さらに土器成形時に付いたと思われる工具痕が断面で2点確認できた。これらを含めると、下新田遺跡の土器にはさまざまなものが付着しており、今後はこれが概期の土器の一般的な傾向なのか下新田遺跡のみの傾向かを比較検討する必要があると考える。

謝 辞

木葉痕については東北大学植物園 米倉浩司氏、不明圧痕については早稲田大学非常勤講師 樋泉岳二氏のご教示を得た。記して感謝申し上げる。



9. キビ有ふ果 (No.102) 10. 紐 (No.6) 11. 縄 (No.11) 14. ハンノキ属葉 (木葉痕No.160) 15. ハンノキ属葉 (木葉痕No.164)
 12. 縄 (No.131) 13. 縄 (No.146) 16. ハンノキ属葉 (木葉痕No.165) 17. ハンノキ属葉 (木葉痕No.167)
 18. 不明圧痕 (No.181)

走査型電子顕微鏡写真のスケール: 写真上に記載 a: 全体 (17a・18a: 底部全体), b: 側面観, c: 拡大

第25図 圧痕レプリカ走査型電子顕微鏡写真(2)・実体顕微鏡写真

第Ⅶ章 総 括

第 1 節 遺 構

A 上層の畠跡と水田跡の年代について

今回の調査では、上層で畠跡（畝状遺構）が 1・2・第 6 次調査区で、水田跡（畦畔状遺構）が 1・3・4 区で確認された。以下、両方の遺構が確認された 1 区を中心に、その前後関係および年代について考察する。

畠跡・水田跡は、遺構認識の遅れから畝状の高まりや水田畦畔を調査区壁面で確認したに過ぎないが、いずれも明瞭であった。特に畠跡は地形が微高地となる 1 区西側では、畝間やその下の粘土質の土層まで観察され連続して 20 条以上約 40m に渡り確認された。また、水田畦畔も 7 条確認され、特に SN120 は 4 回作り直され、最終的には高さ 50cm 前後に及ぶ土堤状の土層堆積（いわゆる大畦畔）が明瞭に確認された。南北両壁面で認められる土層堆積の検討から、これら水田畦畔は南北・東西方向に主軸がある。主軸方向が東西を指す SN124・129 と南北を指す SN120 は、時間的な同時性は見出せないものの方形の水田を連想させる。

また、畠跡を構成するⅦa4 層に認められる畝状の起伏は概ね調査区西側に広がる。中央部付近で水平的な堆積となり、水田跡はその東側で確認された。両遺構の時間的な前後関係は、切り合う地点がなく明瞭でない。しかし、Ⅶa4 層と調査区全体に安定して堆積するⅦa6 層（SN120 の 4a 層はこのⅦa6 相当層）を中心とした堆積土層の検討により、各遺構の前後関係は以下の 4 通りに分類できる。

- ① Ⅶa6 層堆積よりも前に構築された水田（SN120（1・2 期）・SN121・SN124）
- ② Ⅶa6 層堆積以降でⅦa4 層すなわち畠よりも前に構築された水田（SN129）
- ③ Ⅶa6 層堆積以降でⅦa1 層よりも前に構築された水田（SN120（3・4 期）・SN128）
- ④ Ⅶa1 層堆積よりも前に構築された水田（SN118・SN119）

このうち①が最も古く②が次ぎ、②と同じか新しい③・④と続く。②・③・④間、および各分類内における前後関係は明瞭でないが、①・②は畠よりも明らかに古い水田跡と考える。すなわち、上層で確認された畠跡と水田跡の時間的な前後関係は一律ではなく、まず水田があり、その周辺に畠が作られた後も水田として利用されていた状況が推察される。

また、水田跡における稲作の検討と畠における栽培植物を検討する目的で、数地点の土壌から花粉分析や植物珪酸体（プラント・オパール）分析さらに篩選別による大型植物遺体分析を行った。さらに、これらの遺構や遺跡の下限を検討する目的で上層遺構である畠跡の畝と畝直上の土壌による放射性炭素（¹⁴C）年代測定を行った（第Ⅶ章参照）。

分析の結果、Ⅶ層で検出された植物珪酸体の量から水田の可能性が高いとされた。しかし、畠跡はどの地点においても明確な栽培植物を検出する事はできなかった。この点やプラントオパール分析と篩選別分析結果の相違について、畠として機能している間は、畝・畝間の土壌は乾燥していたと考えられ、生の植物遺体が残りにくかった状況が想定されている。また、畠の畝直上の土壌で行った放射性炭素（¹⁴C）年代測定では、11 世紀前半という結果が出ている。上記分類の③・④に相当する水田跡（SN120（3・4 期）・SN128・SN118・SN119）については畠跡との時間的前後関係が不明瞭であるものの、上層の畠跡、すなわち遺跡の下限を概ね示す年代と捉える事ができるだろう。畠跡に伴う遺物が明瞭でなく遺構年代の決定が難しかったが、この測定結果により少なくとも古代の範疇に収まることが確認された。

B 土器棺墓について

第10次調査（確認調査）中層で確認されたSK1から土器棺墓が検出された。工事立会時の検出であり、土師器長甕2個体の内276の大半はすでに排土の中であったが、残存状況などから合わせ口の状態であることが確認された（図版43）。古代の埋葬例は、東日本を対象に資料の集成が行われ〔東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会1995〕、県内では類例が少なくわずか10例を古墳（への追葬）・火葬墓・土坑墓に分類して報告されている〔春日1995〕。その後、火葬関連遺構が確認された釈迦堂遺跡の発掘調査報告の中で、増加した検出例も含め上記と同じ分類で集成されている〔江口ほか2000〕。以下では本遺跡で出土した合わせ口の土器棺墓について、県内の類例と多賀城関連の宮城県多賀城市山王遺跡検出例を中心に考える。なお、遺構名は「甕棺墓」とも呼称される〔坂井ほか1986・柳沢ほか2014など〕が、〔文化庁文化財部記念物課2013〕を参考に「土器棺墓」とした。

江口〔2000〕によれば土器棺墓の県内での確認例は、一之口遺跡西地区〔坂井ほか1986〕と草水町二丁目窯跡の2例に過ぎない。時期はいずれも9世紀後半～10世紀初頭とされ本遺跡と同じである。上記集成で、長野県（9世紀半ば～後半）と、三重県の2例（8世紀後半・11世紀前半）が報告され、近年では山王遺跡で少なくとも2基（8世紀後半～9世紀前半）が確認されている〔柳沢ほか2014〕。本遺跡のように2個体の合わせ口の土器棺墓が多いが、山王遺跡では土師器長甕3個体（長軸91.0cm）、一之口遺跡（土坑長96.0cm）では、土師器長甕3個体と土師器無台椀が共伴する例もある。そして、本遺跡・一之口遺跡・山王遺跡の土器棺2例の合わせて4例は、いずれも主軸方向が南北を指している。長野県・三重県例は全く方向が異なるが、他の類例を含め検討が必要であろう。また、本遺跡の土師器外面には全体にススが付着するのに対し、各報告によると一之口遺跡および山王遺跡の土師器には煮炊具としての使用痕が認められない。さらに山王遺跡土器棺（SX10090）の中央の土師器は、焼成前に体下半部が口縁部と平行に切断されており、棺用に焼成された可能性が指摘されている〔柳沢ほか2014〕。また、山王遺跡の土器棺内の土壌分析の結果、2才かそれ以前の幼児の歯が検出されている〔鈴木2014〕。おそらく本遺跡出土の土器棺も、やや小さい（長軸67.9cm）が同様に幼児用の棺と考える。類例の少ない県内の古代埋葬例を考える上で本遺構は貴重な例であるが、遺跡の性格、主軸方向や時期、他県も含めて増加した類例等の検討など、多くの課題を残した。さらに、今回は対象外とした火葬墓なども含めた検討作業も今後の課題である。

第2節 遺物

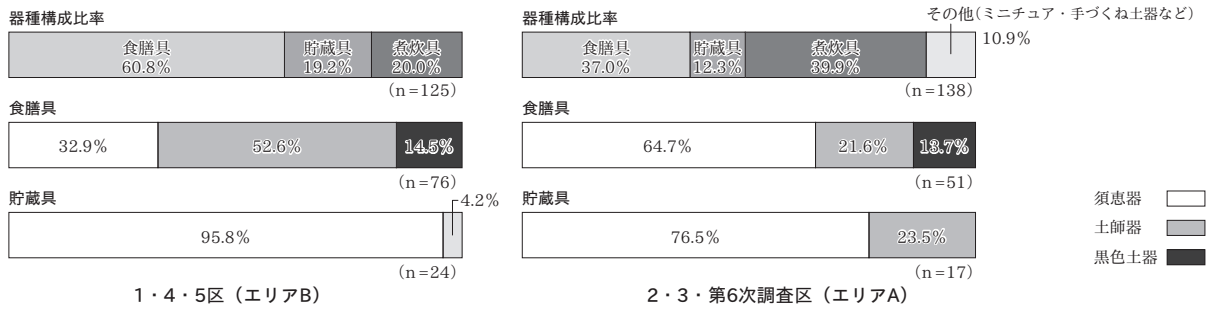
A 土器の編年的位置づけ

下新田遺跡では上・中層から奈良・平安時代、下層からは主に奈良時代の土器が出土し、他に中世の資料も数点確認されている。県内における古代土器の編年案は大枠が整備され〔春日1999・2005など〕、さらに本遺跡の位置する西蒲原地域においても編年案が示されている〔春日2000〕。また、西古志型甕を含む煮炊具について県内の変遷を示したもの〔春日2007・2015a〕など、その後の資料増加に伴う当地域の土器編年案は整備されつつある。以下では本遺跡の主体をなす奈良・平安時代の土器について、上記研究成果を参考にその変遷や編年的位置づけを考える。

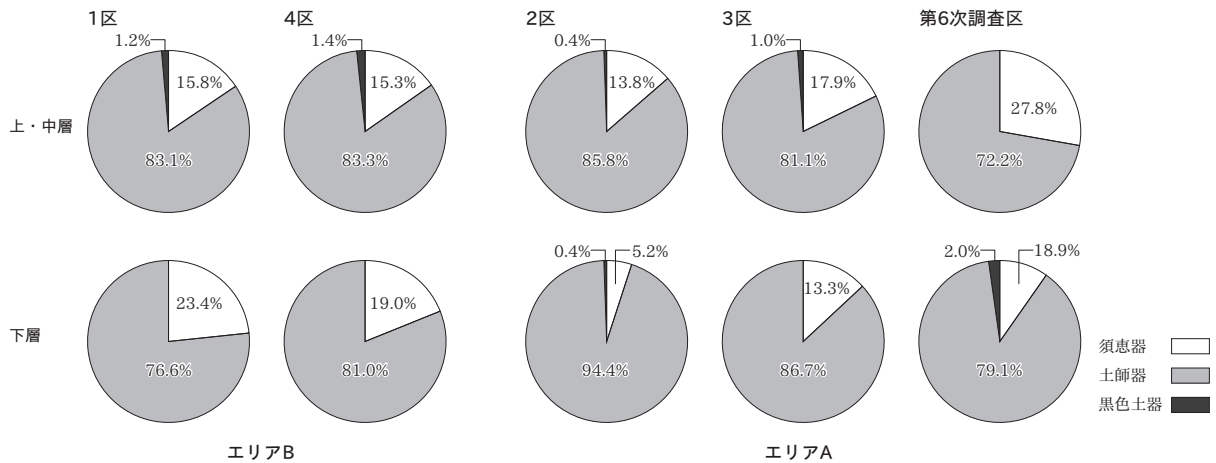
今回の調査地の1・4・5区と2・3・第6次調査区とは100m以上離れており、大きく二つのエリアに分かれる。そして、1・4・5区域（以下、エリアBという）と2・3・第6次調査区域（以下、エリアAという）では、出土する土器にも違いが認められる。掲載した土器に限定した個体の集計ではあるが、全体に占める器種構成比率や、食膳具・貯蔵具における種別比率が異なり（第26図）、未掲載品を含む全体でも概ね同様の割合を示すと考える。エリアBは食膳具が60%を超えているのに対し、エリアAでは食膳具と煮炊具がともに40%近くを占め、その他としたミニチュア・手づくね土器が約10%を占める。食膳具における土師器の割合はエリアBが50%を超え、エリアAでは20%に過ぎない。貯蔵具に占める土師器の割合もエリアAで20%を超えるが、エ

リア B では 5% に満たない。また、重量による上・中層と下層との種別比率では、須恵器の割合がエリア B では下層で多く、エリア A では上・中層の方が多く結果となった (第 27 図)。これらの違いは、いずれも各エリアにおける時期差を反映した結果と考える。

ここでは土器から得られるさまざまな情報、すなわち器形や口縁部・底部・口端部などの細部形態・調整・胎土・底面圧痕などを基にして、主に春日編年 [1999] と対応させ、その変遷を煮炊具と食膳具とに分けて示した (第 28・29 図)。本遺跡は 1～6 期に区分され、年代や春日編年 [1999] との並行関係については第 17 表のように



第 26 図 エリア別土器構成比率



第 27 図 重量による出土層位別種別比率

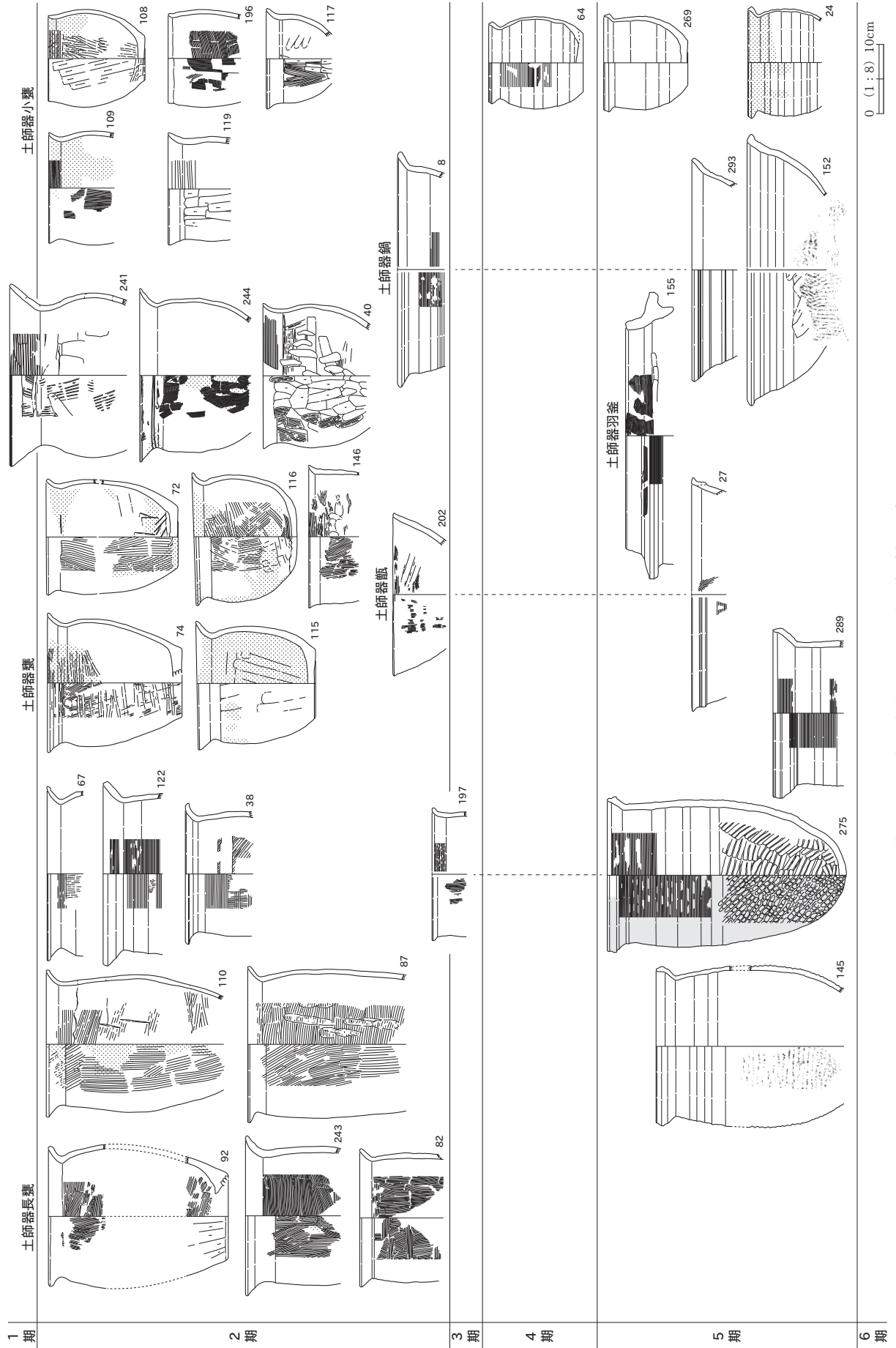
第 17 表 下新田遺跡の編年の位置づけ

	春日編年 (1999)	本書	主な出土遺物	
			食膳具	煮炊具
～7世紀末	II 2期	1期	土: 43 (1区)、黒: 104 (3区) 須: 70・216・81 (2区)、113 (第6次調査区)	241 (第6次調査区)
8世紀初頭～前葉	III 1期	2期	土: 130 (1区)、71 (2区)、98 (3区) 黒: 69 (2区)、106 (第6次調査区) 須: 13・37 (1区)、79・211 (2区)、95 (3区)、114 (第6次調査区)	8・40 (1区)、72・97 (2区) 108・115・244 (第6次調査区)
	III 2期			
8世紀中葉～9世紀初頭	IV 1期	3期	須: 34 (1区)、215 (2区)、296 (第2次調査)	197 (3区)
	IV 2期			
	IV 3期			
9世紀前葉～中葉	V 1期	4期	黒: 10 (1区) 須: 11・42・164 (1区)、212 (2区)、233 (3区)	64 (4区)
	V 2期			
9世紀後葉～10世紀初頭	VI 1期	5期	土: 1・26・144 (1区)、46・47 (4区)、284 (第1次調査) 黒: 158 (1区)、183 (4区) 須: 17 (1区)、271・272 (第1次調査)、299・305 (立会)	24・147・154 (1区)、269 (第1次調査) 275 (第10次調査区)
	VI 2期			
	VI 3期			
10世紀初頭～前葉	VII 1期	6期	土: 52・53・55 (4区)、黒: 159 (1区)、須: 61 (4区)	

※食膳具の表記…土: 土師器、黒: 黒色土器、須: 須恵器



第28図 下新田遺跡出土土器の変遷案(食膳具)



第29図 下新田遺跡出土土器の変遷案(煮炊具)

考える。紙面の都合上、変遷案では割愛した貯蔵具も含め、以下にまとめる。

1期 春日編年のⅡ2～Ⅲ1期に概ね対応する時期と考える。多くはないが2・3・第6次調査区を中心に1区でもわずかに認められる。食膳具は須恵器が多く、土師器無台杯・黒色土器高杯が若干みられる。須恵器は、新津丘陵窯跡産の製品ではほぼ占められるが、信濃川左岸の窯産と考えられるもの(216)も若干みられる。煮炊具は明瞭でないが、器形から241が当期の資料と推測する。貯蔵具は土師器・須恵器ともに出土し、第6次調査区の壺(111)は器壁が厚く法量も大きい。

2期 春日編年のⅢ1～Ⅲ2期に概ね対応する時期と考える。遺跡の主体をなす時期で遺物量も多い。2・3・第6次調査区出土遺物の大半を占めるが、他に1区で少量、4区でもわずかに認められる。食膳具は1期同様に須恵器が多く、土師器無台杯・鉢・高杯、黒色土器鉢・高杯と様々な器種がみられるようになる。須恵器無台杯は口径が大きくなり、逆に有台杯は口径が小さくそして浅くなる。器種は須恵器・土師器ともに鉢が認められ、1期と比べて須恵器は無台杯より有台杯が圧倒的に多くなる。また、新津丘陵窯跡産の製品ではほぼ占められるものの、信濃川左岸の窯産と考えられるもの(13・37・85)も少量確認できる。煮炊具は甕類の他に甌・鍋が若干みられる。長甕・小甕・甕を含む甕類は、「ロクロ不使用でハケメを施す」という特徴以外は器形・法量・口縁部形態・胎土など多様である。また、ロクロ使用の甕もわずかに出土している。貯蔵具は土師器・須恵器ともに認められるが、土師器の壺(77・112)は1期よりも法量が小さくなる傾向にある。

3期 春日編年のⅣ期に概ね対応する時期と考える。出土量は少ない。1・2・3区で認められるが、エリアA内3区南側の第2次調査(確認調査)区からも出土している(296)。食膳具は須恵器のみで信濃川左岸の窯産と考えられるもの(34・218)の他に新津丘陵窯産(296)も含む。煮炊具は口縁部形態などから3区の197は3期と考えたが、2期の範疇で収まるかもしれない。なお、当期と考える貯蔵具は明瞭でない。

4期 春日編年のⅤ期に概ね対応する時期と考える。出土量はやや少ない。1・4区を中心に2・3区でもわずかに認められる。食膳具は須恵器が圧倒的で、他に黒色土器杯蓋がみられ、この段階で須恵器無台杯が有台杯を上回る。また、新津丘陵窯跡産(11・42など)が主体であるが、信濃川左岸の窯産や佐渡小泊窯産(164・212)の製品が若干含まれるようになる。煮炊具は長甕・甕類がみられず、ロクロ使用の小甕(64)が1点、また当期の貯蔵具はエリアBの周辺で横瓶(312)が出土している。

5期 春日編年のⅥ期に概ね対応する時期と考える。1・4区で認められ、他に確認調査等でエリアB周辺、さらに北西側の区域(以下、エリアCという)から出土している。食膳具は土師器が須恵器を上回り無台碗・鉢・皿の他に黒色土器無台碗もわずかにみられる。須恵器は無台杯・有台杯に量的な差は見出せないものの、佐渡小泊窯産の製品ではほぼ占められる。煮炊具は全てロクロ使用で、長甕・小甕・鍋・甌が認められる。他に羽釜(155)は東北地方で出土する羽釜の時期に照らして5期と考えた。なお、当期と考える貯蔵具は明瞭でない。

6期 春日編年のⅦ1期に概ね対応する時期と考える。遺跡全体としての出土は多くはないが、4区SK4からは残存率の高い土師器無台碗がまとまって出土し、一括性の高い資料といえる。食膳具は圧倒的に土師器が多く、須恵器は佐渡小泊窯産の有台杯1点のみである(61)。土師器無台碗ではほぼ占められるが黒色土器無台碗も認められる。5期よりも口縁部が開き、作りが粗雑になる傾向にある。なお、当期と考える煮炊具・貯蔵具は明瞭でない。

B 墨書土器

1) 出土地点及び遺構

下新田遺跡の発掘調査では合計9点の墨書土器が出土した(第18表・第30図)。各調査区での出土点数は、1区4点、2区2点、4区1点、第6次調査区1点で、この他に確認調査で1点出土している。遺構出土のものは3点で、SD39(1区)・SX6(4区)・SX42(2区)から各1点である。

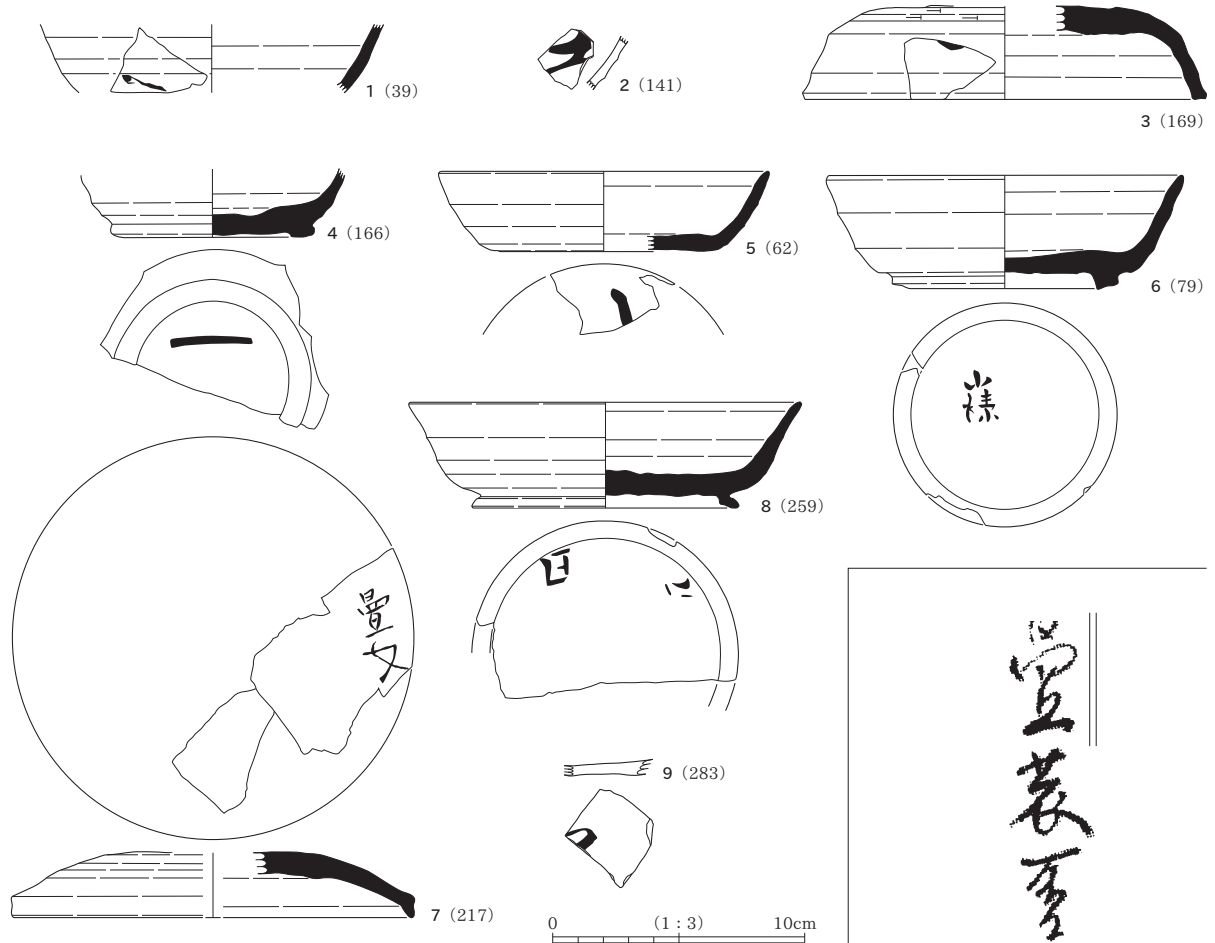
2) 器種と墨書部位

墨書土器9点の内訳は、須恵器が7点、土師器が2点である。須恵器7点のうち食膳具が6点（無台杯2点、有台杯3点、杯蓋1点）、貯蔵具が1点（短頸壺蓋）である。土師器2点はいずれも食膳具の無台碗である。

墨書部位は、須恵器杯（無台杯2点、有台杯3点）では、底部外面4点、体部外面1点で、底部外面への墨書が多い。杯蓋と壺蓋はともに外面に墨書される。土師器無台碗2点は底部外面1点、体部外面1点である。

3) 主な文字の検討

文字を判読できたものは9点のうちの2点（墨6(79)・墨7(217)）にとどまる。



第30図 下新田遺跡出土墨書土器

第31図 八幡林遺跡出土
23号木簡の「日置」
（〔田中ほか1994〕を改変）

第18表 下新田遺跡出土墨書土器一覧

墨書No.	報告No.	出土位置			層位	種別	器種	部位/方向	釈文	時期	備考
		区	遺構	グリッド							
1	39	1	SD39	B-10H-6F22	2	須恵器	無台杯	体部外面	□	—	
2	141	1		B-10H-4A8	VII	土師器	無台碗	体部外面/倒位	□	—	
3	169	1		B-10H-5D25、6E6・13	VII	須恵器	短頸壺蓋	外面	□	—	
4	166	1		B-10H-6E6	VIIa	須恵器	有台杯	底部外面	□	2期	
5	62	4	SX6	B-10G-3J12	1	須恵器	無台杯	底部外面	□	4期	
6	79	2	SX42	D-3I-6E24・25	2、VIIc	須恵器	有台杯	底部外面	小□	2期	
7	217	2		D-3I-7F25・28、8G1	VIIc、VIIa	須恵器	杯蓋	外面	日置□	2期	
8	259	第6次調査区		D-3I-8E16	VIIa	須恵器	有台杯	底部外面	□/□	2期	
9	283	—		63T	VII	土師器	無台碗	底部外面	□	—	第1次調査

a 「小口」(墨6)

須恵器有台杯の底部外面、中央左よりにやや小さく記す。次の墨7も含めて、文字を小ぶりに記す書き方は、主に8世紀代に比較的多くみられる〔平川2000〕。2文字目は画数の多い文字であるが、墨痕が極めて薄いため、読みきることができない。

b 「日置口」(墨7)

須恵器杯蓋の外面の縁よりにやや小さく記す。1文字目の「日」を小さく記し、「日置」の二文字を一文字のように記す書き方は、長岡市八幡林遺跡出土23号木簡の「日置蓑万呂」〔田中ほか1994〕(第31図)や平城宮造酒司地区出土木簡(2234)の「日置葉」〔奈良国立文化財研究所1975〕など多くの類例がある。3文字目は、「日置」からやや離して記し、また、文字の書き方も「日置」とは異なり少し大きめに記している。そのため、「日置」につながる一連の記載ではない可能性もある。

「日置口」の解釈については次の三つが考えられる。①「日置」を郷名と解する。後述するように日置郷は『和名類聚抄』所載の越後国蒲原郡5郷のうちの一つである。②「日置」を古代の氏族名と解する。前記の八幡林遺跡出土23号木簡には「日置蓑万呂」という「日置」を氏族名とする人物名がみられる。③「日置口」を、例えば「日置女」のような人名と解する。

日置郷は、『和名類聚抄』所載の越後国蒲原郡の所管郷5郷(日置・桜井・勇礼・青海・小伏)の内、冒頭に記される郷である。日置郷の範囲については、『新潟県史』や『新潟市史』では触れられておらず、『黒埼町史』は位置不明とする。近年、小林昌二氏は、『和名類聚抄』における郷名の記載順に注目して、日置郷の範囲を信濃川河口付近と想定している〔小林2010〕。また、『東蒲原郡史』では日置郷の範囲を「信濃川河口付近から海岸砂丘地を経て角田山東麓にかけての地域」とする〔東蒲原郡史編さん委員会2012〕。下新田遺跡出土墨書土器の「日置」が郷名を記しているとするれば、日置郷の範囲は角田山東麓から、さらに東方に広がる沖積地にも及んでいたと考えられる。なお、新潟県内出土の墨書土器で、郷名を記している可能性のあるものは、上越市木崎山遺跡出土の「佐味」〔戸根ほか1992〕、新潟市秋葉区上浦A遺跡出土の「桜井」〔川上1997〕がある。

古代の越後国における日置氏の存在については、前記の八幡林遺跡出土23号木簡の「日置蓑万呂」が知られるのみである。23号木簡は、鮭や内子鮭の運送に当たって、荷物を輸送編成の各班に割り当てる際に使用された記録筒と考えられ〔相澤2015〕、八幡林遺跡の所在する古志郡における日置氏の存在がうかがえる。下新田遺跡出土墨書土器の「日置」が氏族名を記しているとするれば、郡域を超えた日置氏の分布の広がりを示しており、島崎川・西川を通じた両地域の交通の実態をうかがわせるものとも考えられよう。

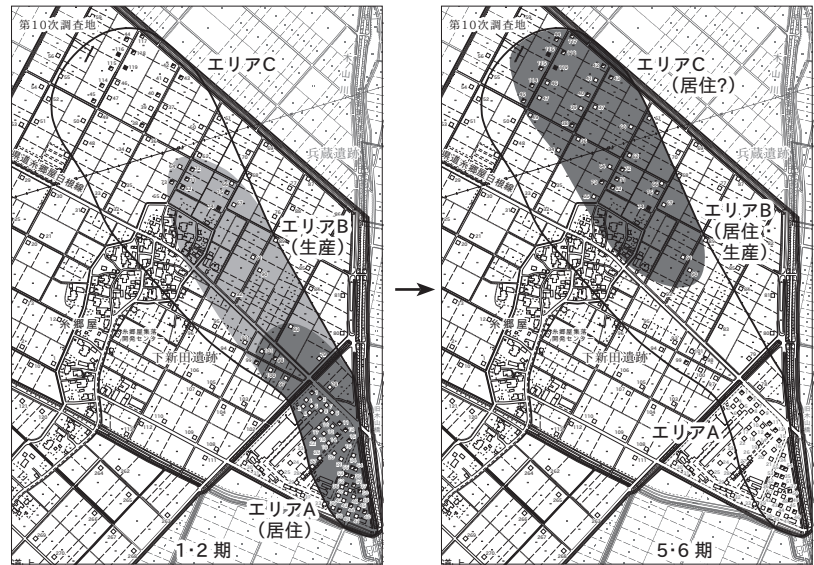
C おわりに

下新田遺跡の調査は、これまで発掘調査事例の少ない当地域において古代の様相を知ることのできる大きな成果となった。しかし、円筒形土製品、カマド形土製品、羽釜、底面に木葉痕のある土師器甕など遺跡の特徴を示す遺物について十分に検討できなかつた。簡単ではあるが、ここに記す。また、畠跡・水田跡などの生産域と、出土した土器とその編年案から推測する遺跡内の土地利用についても考える。

本遺跡からは円筒形土製品(326～332)や土製支脚(333・334)などカマドに関わる遺物が複数出土している。円筒形土製品は、カマドの天井材・袖芯材・煙道として使用されたのではないかと考えられ〔西山1996など〕、大島橋遺跡〔山口1984〕・樋切遺跡〔関2000〕・燕市三角田遺跡〔松島2001〕など本遺跡と同じか、少し古い時期の周辺での出土も多い。そして、この種の土製品が出土する時期と分布状況などから、当地域へは上越地域からの移住による伝播という可能性が指摘されている〔春日2014〕。住居跡は確認できなかったが遺跡内には居住空間が広がっていたと考える。円筒形土製品はエリアAのみ、土製支脚はエリアA・Bから出土する。この違いを土器同様に時期差と捉えると、エリアBの北西側をエリアCとして、遺跡内の土地利用の変遷は第32図のように考えられる。すなわち、遺物量の極めて少ない下新田3・4期を挟み、断続的に居住地として利用され

ていたであろう。しかし、各エリア間には空白部分もあり、図示した範囲は明瞭でなく、根拠も乏しいため推測の域を出ない。

次に羽釜（155）とカマド形土製品（325）について考える。名称は異なるが同一遺物の「羽釜形土器」・「竈形土製品」は、東北地方出土品について分類・集成が行われ、年代や出土状況などが整理されている〔古川 2014〕。それによれば、羽釜は様々な地域からの系譜があり官衛関連遺跡に限定されない祭祀的な遺物であること、



第 32 図 下新田遺跡内の変遷案

竈形土製品は官衛関連遺跡に限られ、従来の研究通り〔稲田 1978・千葉 2001 など〕祭祀との関連が指摘された〔古川前掲〕。県内では南魚沼市(旧六日町)の金屋遺跡でまとまって出土しているが、鏝は短く長野・山梨県から群馬・埼玉県へ伝播した羽釜の系統であり、時期は 10 世紀後半以降とされている〔山本 1985〕。本遺跡出土の羽釜は、東北地方で 9～10 世紀代に増加するもの(ⅡB 類)と類似すると考える。また、本遺跡出土のカマド形土製品は、焚き口に底をもたず釜口(掛け口部)が外反し、的場遺跡〔小池ほか 1993〕・無頭遺跡〔長澤ほか 2002〕・田上町行屋崎遺跡〔田畑ほか 2015〕でもみられるが、浜田遺跡〔中間ほか 1975〕・旗屋崎遺跡〔寺村 1979〕・馬場遺跡〔中間ほか 1983〕など佐渡地方に多く、東北地方に類例を見出すことはできなかつた。東国の「竈形土器」を集成した〔神谷 1988〕で「他に例のない形」と記載されており、地域性の強い遺物と考える。本遺跡では羽釜とカマド形土製品は同一遺構から出土せず、地点も離れている。すなわち、羽釜は県内より東北地方に近いが、カマド形土製品は地域性の強い遺物であり、この両者の異なったあり方は、カマド形土製品が官衛関連遺跡に限られるということ〔古川前掲〕が本遺跡でもいえるのか、類例などの検討も含め今後の課題である。

最後に土師器の製作および製作地について考える。本遺跡からは土師器甕 A 類(非クロロ)の粘土帯接合面(つなぎ目)に施された工具痕跡の明瞭な破片(90・252)や、網状脈の木葉痕がみられる底部片(32・200 など)が出土している。前者は粘土紐を積み上げる際に工具を連続して押圧することで波状にし、接合面の増加による接着強化が目的と推測される。複数個体にみられることから、土器製作のひとつの工程と捉える事も可能であろう。2 点は下新田 2 期に相当し、エリア A から出土している。また、底面にみられる網状脈の木葉痕の内 4 点(32・200・レプリカ採取 No.164・167 (写真図版 44))について、他の自然科学分析から遺跡周辺が湿地帯とみられるため、ミヤマカワラハンノキが第一候補とされた(第 VI 章参照)。全て 2 期に相当し、3 点がエリア A から出土している。当期に丘陵部で土師器製作をする場合、低湿地のハンノキの葉を選択する確率は低いのではないだろうか。湿地性のハンノキの葉を土器製作時に用いる理由は身近にあったからだと考える。つまり、上記の樹木同定が別の理由などで正しいと断定されれば、土師器焼成遺構は検出されていないものの、本遺跡および周辺で土器製作・焼成が行われていたと推察することも可能だろう。

今回は、東北的な要素〔加藤ほか 2001・加藤 2004〕がみられる土師器について胎土分類から違いが見出せるか、また類例の少ないウマの骨(歯)の検討など課題を多く残した。今後、今回の調査で個別に検討を行った事項なども合わせて考えることで、本遺跡を含む周辺地域の古代様相の把握へつなく更なる成果としたい。

引用・参考文献

- ア 相澤 央 2015 「古代越後平野の内水面交通」『古代の運河』 八木書店
相田泰臣ほか 2012 『林付遺跡第2次調査－新潟市立潟東南小学校体育館建設工事に伴う林付遺跡第2次発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
味方村誌編纂委員会 2000 『味方村誌通史編』 味方村
- イ 稲田孝司 1978 「忌の竈と王権」『考古学研究』第25巻第1号 考古学研究会
- ウ 潮田憲幸 2013 「下新田遺跡」『平成24年度 新潟市遺跡発掘調査速報会 最新調査成果が語る新潟市の歴史』 新潟市文化財センター
- エ 江口友子ほか 2000 『北陸自動車道黒埼パーキングエリア改良工事関係発掘調査報告書 釈迦堂遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第100集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- カ 春日真実 1995 「新潟県の奈良・平安時代の墓制について」『東日本における奈良・平安時代の墓制－墓制をめぐる諸問題－』 東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会
春日真実 1999 「第4章 古代 第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』 新潟県考古学会
春日真実 2000 「第5章 まとめ」『吉田町史 資料編1 考古・古代・中世』 吉田町
春日真実 2005 「越後における奈良・平安時代土器編年の対応関係について－「今池編年」・「下ノ西編年」・「山三賀編年」の検討を中心に－」『新潟考古』第16号 新潟県考古学会
春日真実 2006 「越後における7世紀の土器編年」『新潟考古』第17号 新潟県考古学会
春日真実 2007 「越後における古代の煮炊具について」『新潟考古』第18号 新潟県考古学会
春日真実 2014 「古代遺跡の動態－西蒲原地域を事例として－」『郷土史燕』第7号 燕市教育委員会・燕市郷土史研究会連合会
春日真実 2015a 「古代西蒲原地域の土器器煮炊具」『郷土史燕』第8号 燕市教育委員会・燕市郷土史研究会連合会
春日真実 2015b 「考古資料から考える大宝二年の越中国四郡分割」『平成24年度越後国域確定1300年記念事業 記録集』 新潟県教育委員会
春日真実ほか 2001 『一般国道116号出雲崎バイパス関係発掘調査報告書IV 梯子谷窯跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第104集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 加藤 学 2004 「新潟県域における北方系の土師器甕－事例紹介と問題提起－」『越後阿賀北地域の古代土器様相』 新潟古代土器研究会
加藤 学ほか 2001 『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書 松影A遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第106集 新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
- 神谷佳明 1988 「東国出土の甕形土器についての検討」『群馬の考古学』創立十周年記念論集 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
川上貞夫 1997 『上浦A遺跡』 新津市教育委員会
- コ 小池邦明ほか 1993 『新潟市の場遺跡 的場土地区画整理事業用地内発掘調査報告書』 新潟市教育委員会
小林昌二 2010 「古代越後の蒲原・沼垂郡－新潟市西区の四十石遺跡にふれて－」『新潟史学』63号 新潟史学会
小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版標準土色帖』 日本色研事業株式会社
- サ 坂井秀弥ほか 1986 『北陸自動車道上越市春日・木田地区発掘調査報告書II 一之口遺跡西地区』新潟県埋蔵文化財調査報告書第40集 新潟県教育委員会
坂井秀弥ほか 1989 『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀II遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集 新潟県教育委員会
坂井秀弥 1990 「新潟県三島郡与板町の製鉄遺跡」『新潟考古』第1号 新潟県考古学会
坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』第2号 新潟県考古学会
- ス 鈴木敏彦 2014 「山王遺跡多賀前地区 SX10090 横位合口土師器甕棺墓出土の人歯」『山王遺跡VI－多賀前地区第4次発掘調査報告書－』宮城県文化財調査報告書第235号 宮城県教育委員会・国土交通省東北地方整備局
- セ 関 雅之 2000 『新潟市潟東村所蔵の考古資料整理報告－谷川忠壽美氏収集資料の調査記録－』 潟東村教育委員会
- タ 龍田優子 2014 「下新田遺跡－地中深く眠る奈良・平安時代のムラー」『平成25年度 新潟市遺跡発掘調査速報会 最新調査成果が語る新潟市の歴史』 新潟市文化財センター
田中 靖ほか 1994 『八幡林遺跡』和島村埋蔵文化財調査報告書第3集 新潟県和島村教育委員会
田畑 弘ほか 2015 『行屋崎遺跡 一般国道403号(小須戸田上バイパス)道路築造事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 新潟県南蒲原郡田上町教育委員会
- チ 千葉孝弥ほか 2001 『市川橋遺跡－城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書I－』多賀城市文化財調査報告書第60集 多賀城市教育委員会・多賀城市城南土地区画整理組合
- ツ 追録中之口村誌編さん委員会 2006 『追録中之口村誌』 新潟市
- テ 寺村光晴 1979 『旗射崎遺跡－新潟県佐渡郡金井町旗射崎遺跡の発掘調査－』 金井町教育委員会
- ト 戸根与八郎ほか 1992 『北陸自動車道関係発掘調査報告書 木崎山遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第28集 新潟県教育委員会
- ナ 長澤展生ほか 2002 『無頭遺跡発掘調査報告書』 新津市教育委員会
奈良国立文化財研究所 1975 『平城宮木簡二』
- ニ 新潟古砂丘グループ 1974 「新潟砂丘と人類遺跡－新潟砂丘の形成史I－」『第四紀研究』13-2 日本第四紀学会

- 新潟古代土器研究会 2004 『越後阿賀北地域の古代土器様相』
- 新潟市国際文化部歴史文化課 2007 『新新潟歴史双書 2 新潟市の遺跡』 新潟市
- 新潟市史編さん原始古代中世史部会 1994 『新潟市史 資料編 1 原始古代中世』 新潟市
- 西山 克己 1996 「7世紀代に用られた円筒形土器」『長野県考古学会誌』79 長野県考古学会
- ハ 花積哲夫・半沢 正 1984 「角田山東麓・佐潟周辺の遺跡調査報告Ⅰ」『FIELD NOTE』3号 新潟大学考古学研究部
- ヒ 東蒲原郡史編さん委員会 2012 『東蒲原郡史 通史編 1』
- 東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会 1995 『東日本における奈良・平安時代の墓制—墓制をめぐる諸問題—』
- 平川 南 2000 『墨書土器の研究』 吉川弘文館
- フ 布施智也ほか 2006 『花立遺跡 小諏訪前遺跡 吉田町米納津地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』吉田町文化財調査報告書 第13集 吉田町教育委員会
- 古川一明 2014 「古代東北地方における特殊な形態の煮炊用土器について」『東北歴史博物館研究紀要』15 東北歴史博物館
- 文化庁文化財部記念物課 2010 「第Ⅵ章 遺構の記録」『発掘調査のてびき—集落遺跡発掘編—』
- 文化庁文化財部記念物課 2013 「第Ⅱ章 墳墓の調査」『発掘調査のてびき—各種遺跡調査編—』
- ホ 細野高伯・伊比博和ほか 2012 『大沢谷内遺跡Ⅱ第7・9・11・12・14次調査—一般国道403号小須戸田上バイパス整備工事に伴う大沢谷内遺跡第2・4・6・7・9次発掘調査報告書—』新潟市教育委員会
- 本間信昭ほか 1976 『北陸高速自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 茶院遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第5 新潟県教育委員会
- 本間嘉晴ほか 1975 『浜田遺跡 新潟県佐渡郡真野町浜田遺跡発掘調査報告』真野町教育委員会
- 本間嘉晴ほか 1983 『馬場遺跡 新潟県佐渡郡相川町北片辺馬場遺跡発掘調査報告』相川町教育委員会
- マ 前山精明 2012 『大沢谷内遺跡Ⅲ 第18次調査—市道鎌倉横川線改良工事に伴う大沢谷内遺跡第2次発掘調査報告書—』新潟市教育委員会
- 前山精明・相田泰臣 2004 『御井戸遺跡Ⅱ—2003年度確認調査の概要—』巻町教育委員会
- 松島悦子 2001 『三角田遺跡 国営新荒井川排水路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』燕市埋蔵文化財発掘調査報告書第1集 燕市教育委員会・吉田町教育委員会
- 松島悦子 2009 『上町遺跡 市道砂子塚・笈ヶ島線道路築造工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』燕市埋蔵文化財発掘調査報告書第5集 燕市教育委員会
- ヤ 柳澤和明ほか 2014 『山王遺跡Ⅵ—多賀前地区第4次発掘調査報告書—』宮城県文化財調査報告書第235号 宮城県教育委員会・国土交通省東北地方整備局
- 山口栄一 1984 「西川町の遺跡」『西川町史考 その12 史料・民具の紹介と古老の話』西川町教育委員会
- 山口栄一 1994 「下稲場遺跡」「重稲場須恵器窯跡」「前平野須恵器窯跡」『巻町史 資料編 1 考古』巻町
- 山本 肇 1985 「第Ⅶ章 考察 3. 羽釜について」『関越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書 金屋遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第37 新潟県教育委員会
- ワ 渡邊ますみほか 2012 『四十石遺跡 第2次調査—(仮称)新赤塚埋立処分地整備工事に伴う四十石遺跡第2次発掘調査報告書—』新潟市教育委員会
- 第Ⅵ章**
- イ 伊東隆夫・山田昌久編 2012 『木の考古学—出土木製品用材データベース—』海青社
- 伊藤元己 1996 「ハス」『週刊朝日百科植物の世界』97 朝日新聞社
- ウ 丑野 毅・田川裕美 1991 「レプリカ法による土器圧痕の観察」『考古学と自然科学』24 日本文化財科学会
- ク 久保和士・松井 章 1999 「第10章 家畜<その2—ウマ・ウシ>」『考古学と自然科学 2 考古学と動物学』西本豊弘・松井 章編 同成社
- コ 近藤錬三 2010 『プラント・オパール図譜』北海道大学出版会
- シ 島倉巳三郎 1973 「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集 大阪市立自然科学博物館
- 島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司 1985 『木材の構造』文永堂出版
- 島地 謙・伊東隆夫 1988 『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣
- ス 杉山真二 2000 「植物珪酸体(プラント・オパール)」『考古学と自然科学 3 考古学と植物学』辻誠一郎編 同成社
- ナ 中村 純 1974 「イネ科花粉について とくにイネ(Oryza sativa)を中心として」『第四紀研究』13
- 中村 純 1980a 「日本産花粉の標徴ⅠⅡ(図版)」『大阪市立自然史博物館収蔵資料目録』第12・13集 大阪市立自然科学博物館
- 中村 純 1980b 「花粉分析による稲作史の研究」『自然科学の手法による遺跡・古文化財等の研究—総括報告書—』文部省科研費特定研究「古文化財」総括班
- ホ 星川清親 1992 『改訂増補 栽培植物の起源と伝播』二宮書店
- フ 藤原宏志 1976 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—」『考古学と自然科学』9 pp.15-29
- 藤原宏志・杉山真二 1984 「プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)—プラント・オパール分析による水田址の探査—」『考古学と自然科学』17 pp.73-85
- マ 真邊 彩 2013 「レプリカ法による土器製作具の復元：素材形状からみた南九州地方の編物底」『地域政策科学研究』10 pp.141-170
- ヤ 山田昌久 1993 「日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史」『植生史研究』特別1号 植生史研究会
- T Talma, A.S. and Vogel, J.C. 1993 A Simplified Approach to Calibrating C₁₄ Dates. Radiocarbon, 35 (2)

別表 1 遺構計測表

凡 例

- (1) 遺構名 観察表の記載順は、SN（水田・畝跡）→SE→SK→SD→SX→SPの順で、その番号順である。あわせて分割図版No.・個別図版No.・写真図版No.を明記し、索引としての役割をもたせてある。なお、Ⅶc2・3層で検出された1・4区中層遺構は上・下面の別を備考に示した。
- (2) 時 代 遺構の帰属する時代は大きな区分によった。
- (3) 主軸方向 畦状遺構・溝状遺構等、必要と思われるもののみ計測した。
- (4) 規 模 上端・下端について計測した。溝状遺構については長軸が長さで、短軸が幅である。規模の（ ）内数値は残存部からの推定値である。
- (5) 形 態 平面形は土坑・ピットのうち残存状況の良いものだけ示した。断面形はセクションライン上の形状を基本とした。
- (6) 切り合い関係 同一層位間で切り合う遺構名を記載した。重複関係の表示は、本遺構が切る遺構を（旧）、本遺構を切る遺構を（新）とし、本文第IV章の記述に対応する。

上層遺構計測表

図版No.	写真図版No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				形態		底面座標 (m)	覆土	切り合い関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考	
								上端		下端		深度	平面							断面
								長軸	短軸	長軸	短軸									
9・10	5	1	SN 118	B-10H-8I14・19・24	古代	Ⅶb4下	N-3°-W	—	0.50	—	1.10	0.16	—	—	0.40	3	SD117 (旧)		水田跡	
9・10	5	1	SN 119	B-10H-8I6・7・11・12	古代	Ⅶb4下	N-37°-W	—	0.30	—	0.65	0.22	—	台形状	0.40	2	SD55・115・116 (新)		水田跡	
9・10	5	1	SN 120	B-10H-7H22・23. 8H2~4	古代	Ⅶa2下	N-25°-W	—	0.78	—	1.72	0.61	—	—	0.60	2			水田跡 4期 (1層)	
								—	0.20	—	0.45	0.11	—	—	0.93	1			水田跡 3期 (3層)	
								—	0.17	—	0.51	0.17	—	—	0.76	1			水田跡 2期 (5層)	
								—	0.21	—	0.63	0.18	—	—	0.60	1	SD54 (旧)		水田跡 1期 (7層)	
9・11		1	SN 121	B-10H-7F4・5	古代	Ⅶb4下	N-42°-E	—	0.80	—	—	0.10	—	—	0.68	1	SD112 (旧)、SD111・113 (新)		水田跡	
9・11		1	SN 124	B-10H-7G12~14	古代	Ⅶb4下	N-60°-E	—	(0.60)	—	(0.90)	0.11	—	—	0.62	1			水田跡	
9・11		1	SN 128	B-10H-6F24. 7F3~5・10	古代	Ⅶa1下	N-9°-E	—	2.40	—	3.35	0.15	—	—	0.77	2			水田跡	
9・11		1	SN 129	B-10H-7G8・12~14	古代	Ⅶa4下	N-78°-E	—	1.40	—	1.80	0.14	—	—	0.76	1			水田跡	
9・11・12	5・6	1	SN	B-10H-4B~6E	古代	Ⅶa4下	—	—	0.59~1.15	—	0.07~0.24	0.13~0.25	—	—	0.84~1.04	5			畝跡	
9・12	6	1	SD 1	B-10G-3J19・20・24・25. 4J5, 10H-4A1	古代	Ⅶb4	N-35°-W	—	—	—	0.55	0.23	—	弧状	0.89	5		○ 44		
9・12	6	1	SD 2	B-10H-4A1~3・7・8	古代	Ⅶa6	N-34°-E	—	2.70	—	1.30	1.14	—	弧状	0.35	5		○ 44		
9・12	6	1	SD 6	B-10H-5C8	古代	Ⅶb1	N-31°-E	—	0.45	—	0.24	0.51	—	U字状	0.56	8		○ 44		
9・10	6	1	SD 54	B-10H-7H24. 8H3・4・9	古代	Ⅶb4下	N-5°-E	—	1.70	—	0.60	0.31	—	—	0.33	2	SN120 (新)	○ 44		
9・10	6	1	SD 55	B-10H-8H5・10. 8I6	古代	Ⅶb3下	N-36°-W	—	0.50	—	0.28	0.07	—	—	0.35	1	SN119 (旧)			
9・10	5	1	SD 56	B-10H-8I19・20・24・25	古代	Ⅶb4下	N-11°-W	—	1.50	—	0.71	0.14	—	—	0.41	1	SN118 (旧)			
9・11		1	SD 111	B-10H-7F4	古代	Ⅶb4	—	—	(0.35)	—	(0.10)	0.06	—	—	0.69	1	SN121 (旧)			
9・11		1	SD 112	B-10H-7F4	古代	Ⅶc1	—	—	(0.35)	—	—	0.16	—	—	0.52	1	SN121, SD113 (新)			
9・11		1	SD 113	B-10H-7F4・5	古代	Ⅶc1	—	—	(0.65)	—	(0.30)	0.16	—	弧状	0.56	1	SN121, SD112 (旧)			
9・10		1	SD 115	B-10H-8I11・12	古代	Ⅶb4下	—	—	(0.31)	—	0.11	0.12	—	—	0.46	1	SN119 (旧)			
9・10		1	SD 116	B-10H-8I12・13・18	古代	Ⅶb4	—	—	(0.61)	—	0.35	0.19	—	—	0.37	2	SN119 (旧)			
9		1	SD 117	B-10H-8I13・14・19	古代	Ⅶb5下	N-17°-W	—	—	—	(0.30)	0.07	—	弧状	0.45	1	SN118 (旧)			
23・24	14	4	SN 35	B-10G-3J11~13・16~18	古代	Ⅶa6	—	—	3.30	—	—	0.31	—	台形状	0.97	1	SX6 (不明)			
23・24	14	4	SK 4	B-10G-3J16・17・21・22	古代	Ⅶb2	N-34°-E	—	1.12	—	0.44	0.17	楕円形	皿状	0.69	2	SD7・8 (旧)	○ 47		
23・24	14	4	SX 6	B-10G-3J2・3・7・8・12・13	古代	Ⅶb1	—	—	—	—	—	0.69	—	—	0.35	2	SN35 (不明)	○ 47		
28	17	2	SN	D-3I-4B~8G	古代	Ⅶc1下	—	—	—	—	0.50~0.97	0.16~0.27	—	V字状	—	5			畝跡	
28		2	SD 22	D-3I-6E17・18	古代	Ⅶc1	N-60°-E	—	0.82	—	0.58	0.12	—	皿状	0.60	1				
28	17	2	SD 39	D-3I-7F18・19	古代	Ⅶc1	—	(1.19)	—	(0.46)	—	0.38	—	弧状	0.35	2				
28	17	2	SD 45	D-3I-6D3・4	古代	Ⅶc1	N-88°-E	—	(0.42)	—	(0.21)	0.31	—	弧状	0.66	1				
28		2	SX 46	D-3I-6D4・5	古代	Ⅶc1	—	(1.25)	(0.47)	(0.37)	(0.24)	0.46	—	弧状	0.47	1				
33	23	3	SN 45	D-4J-4C20・25. 4D16・21・22	古代	Ⅶb2下	N-80°-E	—	(1.20)	—	—	0.37	—	台形状	0.40	4	SD46・47 (新)			
33・34	24	3	SN 48	D-4J-3B25. 3C21・22	古代	Ⅶa2下	N-72°-E	—	(0.46)	—	—	0.51	—	台形状	0.28	5	SD50 (旧)、SD49・51 (新)			
33		3	SN 54	D-4J-4D13・14	古代	Ⅶb2下	—	—	—	—	—	0.20	—	弧状	0.38	3	SD19 (旧)			
33	23	3	SD 46	D-4J-4C25	古代	Ⅶb1	—	—	—	—	—	0.07	—	弧状	0.55	1				
33	23	3	SD 47	D-4J-4C25. 4D21	古代	Ⅶb2	—	—	—	—	—	0.13	—	皿状	0.46	1				
33・34		3	SD 49	D-4J-3C21・22. 4C1・2	古代	Ⅶb2	N-49°-E	—	0.30~0.92	—	—	0.18	—	U字状~弧状	0.39	2				

図版No.	写真図版No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				形態		底面座標 (m)	覆土	切り合い関係	遺物の有無	遺物図版 No.	備考	
								上端		下端		深度	平面							断面
								長軸	短軸	長軸	短軸									
33・34		3	SD 50	D-4J-3B20	古代	VIIc1	-	-	-	-	0.11	-	弧状	0.23	1					
33・34		3	SD 51	D-4J-3B20・25. 3C16・21	古代	VIIb2	N-89°-E	-	0.28 ~ 0.90	-	0.30	-	V字状~弧状	0.34	2					
33	23	3	SD 53	D-4J-4D16・21	古代	VIIb2	-	-	-	-	0.12	-	弧状	0.39	1					
33・34		3	SP 1	D-4I-1J19	古代	VIIb2	-	-	(0.20)	-	0.14	-	皿状	0.31	1					
33・34	24	3	SP 10	D-4J-5D2	古代	VIIc1	-	-	0.44	-	0.22	-	弧状	0.34	3					
33	23	3	SP 52	D-4J-4D21	古代	VIIb2	-	-	-	-	0.11	-	弧状	0.51	1					
40	29	第6次	SN	D-3I-5A ~ 6B	古代	VIIb2下	-	-	-	-	-	-	U~V字状	-	4			島跡		
40	29	第6次	SD 1	D-3I-10F9・10	古代	VIIb1	N-75°-E	-	1.08	-	0.18	-	弧状	0.55	2	○	51			
40	29	第6次	SD 7	D-3I-7D22・23. 8D2・3	古代	VIIc1	N-20°-E	-	2.14	-	1.74	-	弧状	0.34	1	○				
40	30	第6次	SD 8	D-3I-6C16・21	古代	VIIc1	N-60°-E	-	0.50	-	0.27	-	台形状	0.69	1	○				

中層遺構計測表

図版No.	写真図版No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				形態		底面座標 (m)	覆土	切り合い関係	遺物の有無	遺物図版 No.	備考	
								上端		下端		深度	平面							断面
								長軸	短軸	長軸	短軸									
18・19	10	1	SE 57	B-10H-5C1 ~ 3・7・8	古代	VIIc3	-	-	(0.37)	-	(0.96)	-	漏斗状	(-0.04)	8	SD5 (新)	○	44・54・67	下面	
13・14	7	1	SK 19	B-10H-4B11・16	古代	VIIc2	-	-	(0.70)	-	(0.28)	0.25	-	台形状	0.63	2	SD11 (旧)		上面	
13・14	7	1	SK 20	B-10H-4B11	古代	VIIc2	-	-	(1.38)	-	(0.28)	0.43	-	漏斗状	0.40	4	SK81, SD11 (旧)	○	44	上面
18・21	12	1	SK 32	B-10H-6E1・6	古代	VIIc3	-	-	(0.80)	-	(0.75)	0.11	-	-	0.66	1	SD33 (旧) SD29 (新)		下面	
13・14	7	1	SK 48	B-10H-7G1・6	古代	VIIc2	-	-	(1.35)	-	(0.60)	0.19	-	皿状	0.53	2			上面	
18・19	10	1	SK 49	B-10H-8I13	古代	VIIc3	-	-	0.70	-	0.25	0.16	-	弧状	0.19	1			下面	
18・19	10	1	SK 50	B-10H-5C15	古代	VIIc3	-	-	(1.05)	-	(0.40)	0.33	-	弧状	0.54	3	SD24 (旧)		下面	
18・20	12	1	SK 51	B-10H-5D24. 6D4	古代	VIIc3	-	-	(0.65)	-	(0.35)	0.12	-	-	0.53	1	SD30 (旧) SD24 (新)		下面	
13・15	7	1	SK 52	B-10H-5D24・25	古代	VIIc2	-	-	-	-	(0.30)	0.30	-	弧状	0.57	3	SK53 (新)	○	上面	
13・15	7	1	SK 53	B-10H-5D24	古代	VIIc2	-	-	(1.00)	-	(0.30)	0.41	-	U字状	0.50	3	SK52 (旧)	○	44	上面
13・15	7	1	SK 58	B-10H-5D17	古代	VIIc2	-	-	(1.25)	-	(0.40)	0.33	-	弧状	0.64	3			上面	
13・14	7	1	SK 59	B-10H-7F5	古代	VIIc2	-	-	(1.35)	-	(0.32)	0.23	-	-	0.46	3			上面	
13・14	7	1	SK 60	B-10H-4B17・18	古代	VIIc2	-	-	-	-	-	0.51	-	台形状	0.39	3	SD40 (新)		上面	
18・20		1	SK 76	B-10H-4A1	古代	VIIc3	-	-	(0.29)	-	(0.08)	0.24	-	-	0.59	3	SK77, SD75 (旧)		下面	
18・20		1	SK 77	B-10H-4A1	古代	VIIc3	-	-	-	-	-	0.14	-	-	0.70	1	SD75 (旧) SK76 (新)		下面	
13・15		1	SK 78	B-10G-3J19	古代	VIIc2	-	-	(0.60)	-	(0.20)	0.33	-	弧状	0.54	3			上面	
13・15	8	1	SK 79	B-10H-3A21. 4A1・2	古代	VIIc2	-	-	(1.45)	-	(0.75)	0.32	-	-	0.61	3			上面	
13・14	7	1	SK 81	B-10H-4B11	古代	VIIc2	-	-	-	-	-	0.43	-	-	0.46	3	SK20 (新)		上面	
18・20		1	SK 83	B-10H-4A2・7	古代	VIIc3	-	-	(0.28)	-	(0.11)	0.21	-	-	0.59	2			下面	
18・20		1	SK 84	B-10H-4A7・8	古代	VIIc3	-	-	(0.26)	-	(0.08)	0.23	-	台形状	0.62	2			下面	
18・20		1	SK 85	B-10H-4A8	古代	VIIc3	-	-	(0.23)	-	(0.06)	0.21	-	弧状	0.67	1	SP122 (旧)		下面	
13		1	SK 86	B-10H-4B17	古代	VIIc2	-	-	(0.60)	-	(0.20)	0.29	-	弧状	0.56	2			上面	
13・14	7	1	SK 93	B-10H-4B12・17	古代	VIIc2	-	-	(1.52)	-	(0.38)	0.57	-	漏斗状	0.39	5			上面	
13・15		1	SK 97	B-10H-5C1・2	古代	VIIc2	-	-	(1.00)	-	0.54	0.33	-	-	0.54	2	SK98 (旧)、SD12・13・96 (新)		上面	
13		1	SK 98	B-10H-5C1	古代	VIIc2	-	-	-	-	-	0.17	-	-	0.60	2	SK97, SD12・22 (新)		上面	
18・19		1	SK 100	B-10H-5D16	古代	VIIc3	-	-	(0.08)	-	(0.30)	0.18	-	弧状	0.68	2			下面	
13・15	8	1	SK 103	B-10H-5D18・23・24	古代	VIIc2	-	-	(1.38)	-	(0.43)	0.33	-	台形状	0.65	3			上面	
13・15		1	SK 114	B-10H-7F10. 7G6	古代	VIIc2	-	-	(1.01)	-	(0.65)	0.12	-	皿状	0.54	1			上面	
13・16	8	1	SD 3	B-10H-4B24・25. 5B5	古代	VIIc2	N-28°-E	-	1.20	-	0.60	0.24	-	台形状	0.67	3	SP95 (新)	○	上面	
13・16	8	1	SD 4	B-10H-4B25. 4C21. 5B5	古代	VIIc2	N-28°-E	-	0.50	-	0.35	0.16	-	-	0.67	2	SX132 (新)	○	46	上面
18・19		1	SD 5	B-10H-5C1 ~ 3・7	古代	VIIc3	N-29°-E	-	1.73	-	0.70	0.37	-	弧状	0.51	3	SE57 (旧)	○	44	下面
13・16	8	1	SD 7	B-10H-5C9・13・14	古代	VIIc2	N-34°-E	-	0.13	-	0.01	0.24	-	V字状	0.75	2			上面	
13・16	8	1	SD 8	B-10H-5C9・14	古代	VIIc2	N-27°-E	-	0.30	-	0.10	0.14	-	U字状	0.81	1		○	上面	
13・16	8	1	SD 9	B-10H-5C9・10・14・15	古代	VIIc2	N-24°-E	-	0.38	-	0.11	0.31	-	V字状	0.66	2		○	上面	
13・16	8	1	SD 10	B-10H-5C15・20. 5D11・16	古代	VIIc2	N-26°-E	-	1.45	-	0.51	0.34	-	台形状	0.62	3		○	44	上面
13・16	8	1	SD 11	B-10H-4A8 ~ 10・14・15. 4B11	古代	VIIc2	N-6°-W	-	-	-	-	0.62	-	-	0.31	5	SD82 (旧)、SK19・20 (新)	○	45	上面

図版No.	写真図版No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				形態		底面座標 (m)	覆土	切り合い関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考	
								上端		下端		深度	平面							断面
								長軸	短軸	長軸	短軸									
13		1	SD 12	B-10H-4C21. 5C1	古代	VIIc2	N-58°-E	--	(0.89)	--	(0.40)	0.19	--	--	0.70	2	SK98, SD22 (旧)	○	45	上面
13・15・16		1	SD 13	B-10H-5C1・2	古代	VIIc2	N-39°-E	--	0.60	--	0.28	0.23	--	--	0.64	3	SK97 (旧)、SD96 (新)			上面
18・21	11	1	SD 15	B-10H-6E7・9・13	古代	VIIc3	N-32°-E	--	3.22	--	2.12	0.33	--	--	0.60	3	SD29・35, SX131, SP14・41 (旧)	○	45・64	下面
13・17	9	1	SD 16	B-10H-4B17・18・23	古代	VIIc2	N-56°-W	--	0.20	--	0.12	0.16	--	弧状	0.68	2	SD40・88 (旧)	○		上面
18・20	11	1	SD 18	B-10H-4B11・12・16～18	古代	VIIc3	N-62°-W	--	0.60	--	0.25	0.33	--	--	0.47	3		○	46・66	下面
13・16	8	1	SD 21	B-10H-5C15	古代	VIIc2	N-34°-E	--	0.21	--	0.08	0.33	--	台形状	0.67	4	P99 (新)			上面
13・16		1	SD 22	B-10H-5C1	古代	VIIc2	N-25°-E	--	0.52	--	0.55	0.15	--	弧状	0.70	2	SD12・SX132 (新)	○		上面
18・19・20	11・13	1	SD 24	B-10H-5C10・15. 5D11・16～18・22～24. 6D4・5・10. 6E1・6	古代	VIIc3	N-56°-W	--	0.44	--	0.25	0.28	--	--	0.61	5	SK50 (新) SK51, SD30・31・33 (旧)	○	46	下面
18・20	11	1	SD 28	B-10H-5D18・23	古代	VIIc3	N-50°-W	1.15	0.30	0.96	0.21	0.18	長方形	弧状	0.61	2		○		下面
18・21	12・13	1	SD 29	B-10H-5D18・23～25. 6D5. 6E1・6～8・13・14	古代	VIIc3	N-54°-W	--	0.48	--	0.30	0.31	--	台形状	0.53	3	SX131 (新) SK32, SD15・30・31・33・102, SP34・41 (旧)	○	46・66	下面
18・20・21	12	1	SD 30	B-10H-5D24・25. 6D4・5	古代	VIIc3	N-29°-E	--	1.85	--	1.20	0.27	--	台形状	0.56	3	SK51, SD24・29 (新)	○	46	下面
18・20・21	11・12	1	SD 31	B-10H-6D5・10. 6E1	古代	VIIc3	N-51°-E	--	0.34	--	0.20	0.06	--	--	0.69	1	SD33 (旧) SD24・29・35 (新)			下面
18・21	12	1	SD 33	B-10H-6E1・2・6・7	古代	VIIa	N-34°-E	--	1.80	--	0.35	0.30	--	--	0.60	2	SD24・29・31・35, SK32 (新)	○	46	下面
18・21	12・13	1	SD 35	B-10H-5D25. 6D5. 6E1・2・7～9・13～15・20	古代	VIIc3	N-55°-W	--	0.44	--	0.20	0.15	--	台形状	0.53	2	SD15・31・33, SP14 (旧)	○	46	下面
13・17	9	1	SD 38	B-10H-6F11・16	古代	VIIc2	N-23°-E	--	1.25	--	0.95	0.13	--	皿状	0.58	1		○	66	上面
13・17	9	1	SD 39	B-10H-6F17・18・22・23	古代	VIIc2	N-27°-E	--	2.02	--	0.38	0.21	--	皿状	0.48	2	SD110 (旧)	○	46	上面
13・14・17	7・9	1	SD 40	B-10H-4B18	古代	VIIc2	N-22°-E	--	0.33	--	0.28	0.26	--	弧状	0.62	3	SK60 (旧) SD16 (新)	○		上面
13・17	9	1	SD 42	B-10H-7G8・13～15・18～20	古代	VIIc2	N-23°-E	--	(3.80)	--	1.80	0.31	--	皿状	0.36	3	SD43 (新)	○	46	上面
13・17	10	1	SD 43	B-10H-7G15・19・20	古代	VIIc2	N-31°-E	--	1.95	--	0.55	0.18	--	皿状	0.49	1	SD42 (旧)	○		上面
18・22	13	1	SD 44	B-10H-7H16・17・21・22	古代	VIIc3	N-37°-E	--	0.43	--	0.03	0.15	--	弧状	0.41	2	SD66, SX65 (旧)			下面
13		1	SD 46	B-10H-6F23・24. 7F3・4	古代	VIIc2	N-31°-E	--	1.15	--	0.35	0.19	--	弧状	0.54	1				上面
13・17	10	1	SD 63	B-10G-3J19・20・24・25	古代	VIIc2	N-3°-W	--	1.44	--	0.56	0.45	--	--	0.50	4				上面
18・22	13	1	SD 66	B-10H-7H16・17・21～23. 8H2・3	古代	VIIa	N-50°-W	--	0.80	--	0.25	0.22	--	--	0.28	2	SX45・65 (旧) SD44 (新)			下面
18・21	10・13	1	SD 75	B-10G-3J25. 4J5. 10H-3A21. 4A1	古代	VIIa	N-40°-W	--	--	--	--	0.13	--	--	0.58	1	SK76・77、SD63 (新)			下面
18・21		1	SD 80	B-10H-4A3・8・9	古代	VIIc3	N-40°-W	--	0.85	--	0.66	0.29	--	--	0.45	1				下面
13・16	8	1	SD 82	B-10H-4A9・10・14・15. 4B11	古代	VIIc2	N-25°-E	--	--	--	--	0.72	--	台形状	0.20	5	SD11 (新)			上面
13・17		1	SD 88	B-10H-4B18・23	古代	VIIc2	--	--	0.46	--	0.20	0.22	--	弧状	0.69	2	SD16 (新)			上面
13・17		1	SD 89	B-10H-4B23・24	古代	VIIc2	--	--	0.51	--	0.28	0.20	--	弧状	0.72	2				上面
13・17		1	SD 90	B-10H-4B24	古代	VIIc2	--	--	0.95	--	0.60	0.19	--	台形状	0.74	2				上面
13・17		1	SD 91	B-10H-4B24	古代	VIIc2	--	--	0.50	--	0.24	0.22	--	弧状	0.68	2				上面
13・15		1	SD 96	B-10H-5C1・2	古代	VIIc2	--	--	0.50	--	0.20	0.17	--	弧状	0.69	2	SK97, SD13 (旧) SD12 (新)			上面
18		1	SD 102	B-10H-5D11・12・16～18・23	古代	VIIc3	--	--	--	--	--	0.26	--	弧状	0.70	2	SD29 (新)			下面
13・17	9	1	SD 110	B-10H-6E16・17・21・22	古代	VIIc2	N-48°-E	--	--	--	--	0.16	--	皿状	0.54	1	SD39 (新)			上面
18・22	13	1	SX 45	B-10H-7H22・23. 8H2・3	古代	VIIa	--	--	(1.68)	--	(0.99)	0.22	--	皿状	0.37	3	SX65 (旧)、SD66 (新)	○	46・63	下面
18・22	13	1	SX 65	B-10H-7H17・21・22	古代	VIIa	--	--	(1.42)	--	(0.44)	0.19	--	--	0.36	2	SD44・66, SX45 (新)	○	46	下面
18・22		1	SX 106	B-10H-7G20・25. 7H21	古代	VIIa	--	--	(0.96)	--	(0.55)	0.08	--	皿状	0.64	1				下面
18・21		1	SX 131	B-10H-6E7・13	古代	VIIc3	--	--	--	--	--	0.30	--	--	0.67	2	SD15・29 (旧)			下面
13・16		1	SX 132	B-10H-4B25. 4C21. 5B5. 5C1	古代	VIIc2	--	--	1.74	--	0.88	0.15	--	--	0.77	1	SD4・22 (旧)			上面
18		1	SP 14	B-10H-6E7	古代	VIIc3	--	(0.40)	(0.20)	(0.30)	0.15	--	円形	--	--	1		○		下面
18・22		1	SP 25	B-10H-5D16	古代	VIIc3	--	0.36	0.27	0.20	0.14	0.24	楕円形	弧状	0.54	2				下面
18・22		1	SP 26	B-10H-5D16	古代	VIIc3	--	(0.25)	(0.24)	(0.14)	(0.12)	0.11	--	弧状	0.63	2				下面
18・22		1	SP 34	B-10H-6E7	古代	VIIc3	--	(0.28)	(0.26)	(0.16)	(0.16)	0.15	--	弧状	0.60	1	SD29 (新)	○		下面
18・22		1	SP 41	B-10H-6E7	古代	VIIc3	--	(0.48)	(0.37)	(0.18)	(0.16)	0.33	--	V字状	0.41	2	SD29 (新)	○	64	下面
18		1	SP 61	B-10H-6F17・22	古代	VIIc3	--	0.30	0.21	0.10	0.12	0.18	楕円形	半円状	--	1				下面
18・22		1	SP 62	B-10H-4A8	古代	VIIc3	--	0.35	0.25	0.21	0.13	0.18	楕円形	台形状	0.48	2	SD80 (旧)			下面
13		1	SP 87	B-10H-4B16	古代	VIIc2	--	--	(0.52)	--	(0.35)	0.11	--	弧状	0.78	1				下面
18		1	SP 94	B-10H-4B18・19	古代	VIIc3	--	--	(0.46)	--	(0.21)	0.15	--	弧状	0.70	1				下面
13		1	SP 95	B-10H-4B25	古代	VIIc2	--	--	(0.60)	--	(0.40)	0.20	--	漏斗状	0.69	2	SD3 (旧)			上面
13・16		1	SP 99	B-10H-5C14・15	古代	VIIc2	--	--	(0.25)	--	(0.15)	0.32	--	U字状	0.66	1	SD21 (旧)			上面
18		1	SP 101	B-10H-5D17	古代	VIIc3	--	--	(0.36)	--	(0.15)	0.21	--	弧状	0.64	1				下面

図版No.	写真図版No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				形態		底面座標 (m)	覆土	切り合い関係	遺物の有無	遺物図版 No.	備考	
								上端		下端		深度	平面							断面
								長軸	短軸	長軸	短軸									
18		1	SP 104	B-10H-7G7・8	古代	VIIc3	—	—	(0.40)	—	(0.18)	0.08	—	弧状	0.48	1			下面	
18		1	SP 105	B-10H-7H16	古代	VIIc3	—	—	(0.58)	—	(0.19)	0.14	—	弧状	0.45	1			下面	
13		1	SP 107	B-10H-5D22	古代	VIIc2	—	—	(0.25)	—	(0.05)	0.23	—	漏斗状	0.72	2			上面	
13		1	SP 108	B-10H-5D17・22	古代	VIIc2	—	—	(0.40)	—	(0.10)	0.09	—	弧状	0.83	1			上面	
13		1	SP 109	B-10H-5D23・24	古代	VIIc2	—	—	(0.45)	—	(0.10)	0.13	—	弧状	0.93	1			上面	
18・20		1	SP 122	B-10H-4A8	古代	VIIc2	—	—	(0.55)	—	(0.20)	0.17	—	弧状	0.72	1			上面	
13・16		1	SP 123	B-10H-5C15	古代	VIIc2	—	—	(0.41)	—	(0.10)	0.16	—	V字状	0.80	1			上面	
23・24	14	4	SK 24	B-10G-3J17・18	古代	VIIc3	—	—	(0.90)	—	(0.40)	0.33	—	弧状	0.46	2	SP34 (旧) SD10 (新)		下面	
23・24	14	4	SK 30	B-10G-3J12	古代	VIIc3	—	—	(0.61)	—	(0.22)	0.28	—	漏斗状	0.52	3	SD26 (旧)		下面	
23・24	14・15	4	SD 1	B-10G-3I25, 3J21, 4I5, 4J1	古代	VIIc2	N-57°-W	—	—	—	—	0.34	—	弧状	0.58	3		○ 47	上面	
23・24	14・15	4	SD 2	B-10G-3I25, 3J21, 4J1	古代	VIIc2	N-57°-W	—	0.53	—	0.26	0.39	—	台形状	0.54	3		○	上面	
23・24	14・15	4	SD 3	B-10G-3I25, 3J21・22	古代	VIIc2	N-55°-W	—	0.74	—	0.52	0.34	—	—	0.60	2	SD7 (新)	○	上面	
23・24	14・15	4	SD 5	B-10G-3J11・12・16・17	古代	VIIc2	N-60°-W	—	0.56	—	0.14	0.16	—	V字状	0.86	1		○ 47	上面	
23・24	14・15	4	SD 7	B-10G-3J16・21・22	古代	VIIc2	N-74°-W	—	0.52	—	0.31	0.39	—	台形状	0.54	3	SD3 (旧) SK4 (新)	○	上面	
23・24	14・15	4	SD 8	B-10G-3J16・17・22	古代	VIIc3	N-55°-W	—	0.43	—	0.21	0.22	—	—	0.68	1	SP16・22・29 (旧) SK4 (新)		下面	
23・24	14・15	4	SD 9	B-10G-3J16・17	古代	VIIc3	N-56°-W	—	0.39	—	0.23	0.21	—	V字状	0.69	1	SP14・17 (旧)		下面	
23・24	14・15	4	SD 10	B-10G-3J11・12・17・18	古代	VIIc3	N-73°-W	—	0.33	—	0.19	0.20	—	弧状	0.70	2	SK24, SP23・28 (旧) SP11・12 (新)	○	下面	
23・24	14	4	SD 26	B-10G-3J7・12・13	古代	VIIc3	N-60°-W	—	0.78	—	0.30	0.33	—	—	0.50	2	SK30, SP31 (新)		下面	
23・24		4	SP 11	B-10G-3J12・17	古代	VIIc3	—	0.58	0.28	0.36	0.14	0.15	楕円形	漏斗状	0.53	2	SD10 (旧)		下面	
23・24		4	SP 12	B-10G-3J12・17	古代	VIIc3	—	0.37	0.34	0.26	0.16	0.21	円形	漏斗状	0.42	2	SD10, SP23 (旧)		下面	
23・24		4	SP 13	B-10G-3J13・18	古代	VIIc3	—	0.32	0.32	0.11	0.06	0.25	円形	V字状	0.45	3			下面	
23・24		4	SP 14	B-10G-3J16・17	古代	VIIc3	—	—	0.33	0.09	0.08	0.14	—	弧状	0.50	1	SD9, SP16 (新)		下面	
23・24		4	SP 15	B-10G-3J21	古代	VIIc3	—	0.30	0.27	0.11	0.11	0.21	円形	弧状	0.39	2			下面	
23・24		4	SP 16	B-10G-3J16・17	古代	VIIc3	—	0.49	0.41	0.23	0.21	0.08	円形	弧状	0.56	1	SP14 (旧) SD8 (新)		下面	
23・24		4	SP 17	B-10G-3J16	古代	VIIc3	—	(0.41)	(0.22)	(0.35)	(0.11)	0.27	円形	V字状	0.35	2	SD9 (新)		下面	
23・24		4	SP 18	B-10G-3J12	古代	VIIc3	—	0.37	0.28	0.18	0.10	0.19	楕円形	V字状	0.45	2			下面	
23・24		4	SP 19	B-10G-3J12	古代	VIIc3	—	0.27	0.26	0.13	0.10	0.27	円形	漏斗状	0.38	2			下面	
23		4	SP 20	B-10G-3J12	古代	VIIc3	—	0.33	0.27	0.12	0.08	0.16	楕円形	漏斗状	0.50	2			下面	
23・24		4	SP 21	B-1G-3J11・12	古代	VIIc3	—	(0.33)	(0.30)	(0.16)	(0.06)	0.23	円形	V字状	0.31	1			下面	
23・24		4	SP 22	B-10G-3J16	古代	VIIc3	—	(0.53)	(0.36)	(0.26)	(0.19)	0.26	楕円形	U字状	0.30	1	SD8 (新)		下面	
23・24		4	SP 23	B-10G3J12・16・17	古代	VIIc3	—	—	(0.38)	—	(0.16)	0.21	—	V字状	0.38	2	SD10, SP12 (新)		下面	
23・24		4	SP 25	B-10G-3J8	古代	VIIc3	—	0.23	0.23	0.09	0.06	0.11	円形	漏斗状	0.34	1			下面	
23・24		4	SP 27	B-10G-3J16	古代	VIIc2	—	—	(0.46)	—	(0.24)	0.13	—	弧状	0.79	1			上面	
23・24	14	4	SP 28	B-10G-3J11	古代	VIIc3	—	—	(0.22)	—	(0.08)	0.18	—	弧状	0.58	1	SD10 (新)		下面	
23・24	14	4	SP 29	B-10G-3J16	古代	VIIc3	—	—	(0.26)	—	(0.10)	0.23	—	弧状	0.52	2	SD8 (新)		下面	
23・24	14	4	SP 31	B-10G-3J7・12	古代	VIIc3	—	—	(0.30)	—	(0.08)	0.39	—	V字状	0.43	2	SD26 (旧)		下面	
23・24		4	SP 32	B-10G-3J18	古代	VIIc2	—	—	(0.40)	—	(0.15)	0.36	—	V字状	0.57	2	SK24 (旧)		上面	
23・24		4	SP 33	B-10G-3J17・18	古代	VIIc2	—	—	(0.40)	—	(0.25)	0.18	—	弧状	0.72	1			上面	
23・24		4	SP 34	B-10G-3J17	古代	VIIc3	—	—	(0.40)	—	(0.19)	0.23	—	漏斗状	0.43	2			下面	
25	15	5	SX 1	B-10G-5H4・5・10, 5I1・6	古代	VIIa	—	—	(4.45)	—	(4.25)	0.09	—	—	0.60	1				
29	18	2	SE 25	D-3I-4B4・5・9	古代	VIIa1	—	—	(1.32)	—	(0.42)	0.75	—	漏斗状	0.02	8		○ 48・67		
29	18	2	SK 13	D-3I-9G5, 9H1・6・7・12	古代	VIIa2	—	—	(3.44)	—	(0.13)	0.34	—	弧状	0.03	8	SD10, SP50 (旧)	○	49・63・65	
29・30	18	2	SD 1	D-3I-4C24, 5C4・5・9・10・15, 5D6・11	古代	VIIa1	N-6°-E	—	2.32	—	1.06	0.73	—	台形状	-0.27	11		○	66	
29・30	18	2	SD 3	D-3I-4C17・18・22・23	古代	VIIa1	N-63°-E	—	1.09	—	0.52	0.32	—	弧状	0.37	6		○	48・64	
29・30	18・21	2	SD 4	D-3I-8G13・14・18・19	古代	VIIa2	N-52°-E	—	1.24	—	0.39	0.27	—	弧状	0.13	3	SD10 (旧)	○	49・63	
29・30	19	2	SD 7	D-3I-4C11・12・16・17	古代	VIIa1	N-23°-E	(1.75)	1.38	(1.72)	0.74	0.41	—	台形状	0.59	6		○	48	
29	18	2	SD 10	D-3I-8G13・18・19・23～25, 9G4・5, 9H1・6・7・12	古代	VIIa2	—	(1.44)	(1.81)	—	—	0.36	—	弧状	0.19	2	SK13・SD4 (新)	○	49	
29・30	19	2	SD 11	D-3I-9H12・13	古代	VIIa2	N-52°-E	—	0.30	—	0.13	0.28	—	V字状	0.27	2				
29・30	19・21	2	SD 16	D-3I-8G12・13	古代	VIIa1	N-52°-E	—	0.91	—	0.49	0.21	—	弧状	0.36	1		○		
29・30	19	2	SD 26	D-3I-4C23・24, 5C3	古代	VIIa1	N-29°-E	—	0.66	—	0.34	0.20	—	弧状	0.49	3		○		
29・30	19	2	SD 29	D-3I-4B5・10, 4C6	古代	VIIa1	N-52°-E	—	1.63	—	0.31	0.38	—	弧状	0.39	3	SP14・23 (旧)			

図版No.	写真図版No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				形態		底面座標 (m)	覆土	切り合い関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考	
								上端		下端		深度	平面							断面
								長軸	短軸	長軸	短軸									
29・30		2	SD 31	D-3I-7F6	古代	VⅡa1	N-44°-E	—	0.50	—	0.26	0.11	—	弧状	0.57	1				
29・31	19	2	SX 2	D-3I-4B4・5	古代	VⅡa1	—	(1.23)	—	(0.67)	(0.50)	0.47	—	弧状	0.33	3	SX37 (旧)			
29・31	19	2	SX 37	D-3I-4C4	古代	VⅡa1	—	—	—	—	—	0.34	—	—	0.49	6				
29・31	20	2	SX 42	D-3I-6E19・24・25. 7E4・5	古代	VⅡa1	—	—	(4.11)	—	(0.11)	0.39	—	台形状	0.37	5		48・64		
29・31	20	2	SX 44	D-3I-4C6・11	古代	VⅡa1	—	—	(1.33)	—	(0.10)	0.33	—	弧状	0.48	3	SP43 (新)			
29		2	SP 14	D-3I-4B10	古代	VⅡa1	—	(0.19)	(0.16)	(0.10)	(0.07)	0.17	円形	弧状	0.22	1	SD29 (新)			
29・31	20	2	SP 18	D-3I-8F5	古代	VⅡa1	N-80°-E	0.52	0.50	0.10	0.07	0.32	円形	V字状	-0.15	3				
29・31	20	2	SP 20	D-3I-4B4	古代	VⅡa1	—	—	(0.77)	—	(0.19)	0.60	—	漏斗状	0.15	8				
29		2	SP 23	D-3I-4C6	古代	VⅡa1	—	(0.19)	(0.05)	(0.16)	(0.04)	0.13	円形	弧状	0.26	2	SD29 (新)			
29・31	20	2	SP 36	D-3I-4C11	古代	VⅡa1	N-84°-W	0.56	0.48	0.13	0.10	0.60	楕円形	漏斗状	-0.17	6				
29・31	21	2	SP 38	D-3I-4C11	古代	VⅡa1	—	0.22	0.21	0.07	0.06	0.19	円形	弧状	0.27	3				
29・30	21	2	SP 41	D-3I-4C17	古代	VⅡa1	—	—	(0.59)	—	(0.09)	0.44	—	U字状	0.27	4				
29・31	20	2	SP 43	D-3I-4C11	古代	VⅡa1	—	—	(0.15)	—	(0.02)	0.24	—	U字状	0.56	3	SX44 (旧)			
29・31		2	SP 47	D-3I-9H13	古代	VⅡa2	—	—	(0.34)	—	(0.09)	0.10	—	弧状	0.45	1				
29	18	2	SP 50	D-3I-9H6・7・12	古代	VⅡa1	—	—	(0.41)	—	(0.11)	0.20	—	弧状	0.12	1	SK13 (新)			
35		3	SK 4	D-4J-3B20・25. 3C16・21	古代	VⅡa1	—	—	—	—	—	0.17	—	皿状	0.25	1	SD3 (新)			
35	24	3	SK 5	D-4J-3B15・20	古代	VⅡa1	—	—	(1.37)	—	0.63	0.33	—	台形状	0.05	4		64・65		
35		3	SK 20	D-4J-2A19	古代	VⅡa1	—	—	(1.17)	—	(0.82)	0.15	—	皿状	0.24	3		50		
35	24	3	SK 24	D-4J-3B20	古代	VⅡa1	N-46°-W	0.67	(0.66)	0.25	0.16	0.20	円形	弧状	0.11	4				
35		3	SK 36	D-4J-5E16・21	古代	VⅡa1	—	—	(0.56)	—	(0.32)	0.17	—	弧状	0.22	1		50		
35		3	SK 37	D-4I-1J19	古代	VⅡa1	—	—	(0.99)	—	(0.56)	0.52	—	漏斗状	-0.22	3	SX12 (旧)			
35		3	SD 3	D-4J-3B20, 3C16	古代	VⅡa1	N-48°-E	—	0.25	—	0.05	0.05	—	皿状	0.33	1	SK4 (旧)			
35	24	3	SD 7	D-4J-3C22, 4C1・2	古代	VⅡa1	N-49°-E	—	0.29	—	0.17	0.20	—	台形状	0.24	2				
35		3	SD 9	D-4J-4C20, 4D16	古代	VⅡa1	N-60°-E	—	0.58	—	0.33	0.12	—	皿状	0.31	2		50		
35		3	SD 11	D-4I-1J19	古代	VⅡa1	N-64°-E	0.65	0.24	0.50	0.13	0.12	楕円形	弧状	0.26	1				
35	25	3	SD 15	D-4J-2A25, 2B21	古代	VⅡa1	N-70°-E	—	0.17	—	0.07	0.07	—	弧状	0.24	1	SD41 (旧)			
35	25	3	SD 18	D-4J-5D3・7・8	古代	VⅡa1	N-70°-E	—	0.78	—	0.56	0.21	—	皿状	0.29	1		50		
35		3	SD 19	D-4J-5D8・9・13・14	古代	VⅡa1	N-65°-E	—	0.70	—	0.43	0.20	—	弧状	0.28	1	SD40 (旧)			
35	25	3	SD 21	D-4J-2A1・2・7・8・13	古代	VⅡa1	N-45°-W	—	0.42	—	(0.16)	0.25	—	弧状	0.14	3		50		
35・36		3	SD 22	D-4J-5D14・15・19・20	古代	VⅡa1	N-48°-E	—	0.94	—	0.84	0.17	—	皿状	0.34	1				
35・36		3	SD 23	D-4J-5D20, 5E16	古代	VⅡa1	N-68°-E	—	0.52	—	0.41	0.11	—	皿状	0.35	1				
35・36	25・26	3	SD 33	D-4J-4C2・3・7・8	古代	VⅡa1	N-66°-E	—	0.44	—	0.22	0.24	—	弧状	0.18	1		50		
35・36	26	3	SD 35	D-4J-4D21	古代	VⅡa1	N-63°-E	—	0.31	—	0.14	0.11	—	弧状	0.27	1		50		
35・36	26	3	SD 40	D-4J-5D8・9・13・14	古代	VⅡa1	—	—	—	—	—	0.73	—	漏斗状	-0.28	4	SD19 (新)	50		
35・36	26	3	SD 41	D-4J-2A25, 2B21	古代	VⅡa1	—	—	—	—	—	0.23	—	U字状	0.17	3	SD15 (新)			
35		3	SX 12	D-4I-1J19	古代	VⅡa1	—	—	—	—	—	0.14	—	皿状	0.23	1	SK37 (新)			
35・36		3	SX 27	D-4I-1J25, 4J-1A21	古代	VⅡa1	N-76°-E	—	0.75	—	0.33	0.28	—	弧状	0.15	2				
35・36		3	SP 2	D-4J-3C21	古代	VⅡa1	—	—	0.20	—	0.09	0.13	—	弧状	0.25	1				
35・36		3	SP 8	D-4J-2A2	古代	VⅡa1	—	(0.24)	(0.18)	0.05	0.05	0.20	—	V字状	0.16	2				
35・36	25・26	3	SP 13	D-4J-2B21	古代	VⅡa1	—	—	(0.20)	—	(0.09)	0.10	—	弧状	0.26	1				
35・36		3	SP 14	D-4J-2B21	古代	VⅡa1	—	0.32	0.26	0.21	0.16	0.08	円形	皿状	0.27	1				
35・36		3	SP 16	D-4J-2A20・25	古代	VⅡa1	—	0.20	0.17	0.09	0.07	0.04	円形	V字状	0.34	1				
35・36		3	SP 17	D-4J-2A25	古代	VⅡa1	—	0.21	0.18	0.14	0.13	0.07	円形	弧状	0.31	1				
35・36		3	SP 25	D-4J-3C21	古代	VⅡa1	—	0.60	(0.20)	0.34	(0.09)	0.06	楕円形	皿状	0.32	1				
35・36		3	SP 26	D-4I-1J20	古代	VⅡa1	—	(0.47)	(0.39)	(0.33)	(0.28)	0.10	—	皿状	0.30	1				
35・36		3	SP 29	D-4I-1J13・14	古代	VⅡa1	—	—	(0.41)	—	(0.16)	0.40	—	U字状	0.04	1				
35・36	26	3	SP 34	D-4J-4C8	古代	VⅡa1	—	—	—	—	—	0.13	—	弧状	0.27	1	SP44 (旧)			
35・36		3	SP 42	D-4J-2A14・19	古代	VⅡa1	—	—	(0.64)	—	(0.53)	0.11	—	皿状	0.27	3				
35・36		3	SP 43	D-4I-1J13	古代	VⅡa1	—	—	(0.46)	—	(0.20)	0.20	—	台形状	0.26	1				
35・36	25・26	3	SP 44	D-4J-4C8	古代	VⅡa1	—	—	(0.41)	—	(0.08)	0.44	—	V字状	-0.01	2	SP34 (新)			
41		第6次	SD 2	D-3I-9F17・18・22～24, 10F4	古代	VⅡa1	N-57°-W	—	0.47	—	0.34	0.14	—	—	0.47	1	SD3 (不明)			

図版No.	写真図版No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				形態		底面座標 (m)	覆土	切り合い関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考	
								上端		下端		深度	平面							断面
								長軸	短軸	長軸	短軸									
41	30	第6次	SD 3	D-3I-9F17・22	古代	VIIa1	N-2°-W	—	0.46	—	0.24	0.14	—	弧状	0.47	1	SD2 (不明)	○		
41	30	第6次	SD 9	D-3I-6B20, 6C16	古代	VIIa1	N-66°-E	—	0.99	—	0.22	0.21	—	弧状	0.58	1		○		
41	30	第6次	SD 15	D-3I-5A15・20, 5B16	古代	VIIa1	N-32°-E	—	0.72	—	0.20	0.29	—	弧状	0.54	2	SX11 (旧)	○		
41	30	第6次	SD 18	D-3I-5A20, 5B16・21	古代	VIIa1	N-31°-E	—	0.94	—	0.66	0.27	—	台形状	0.52	1	SX11 (旧)			
41		第6次	SD 19	D-3I-5B21・22	古代	VIIa1	N-70°-E	—	0.34	—	0.17	0.17	—	台形状	0.59	2	SX11 (旧)			
41		第6次	SD 20	D-3I-6B2・3	古代	VIIa1	—	—	—	—	—	0.26	—	弧状	0.48	2	SX11 (旧)	○		
41	30	第6次	SX 11	D-3I-5A, 5B, 6B	古代	VIIa1	—	—	—	—	—	0.30	—	皿状	0.49	2	SD15・18・19・20 (新)	○	51・64・66	
41		第6次	SX 12	D-3H-4J14・15・20・25	古代	VIIa1	—	—	—	—	—	0.26	—	—	0.47	2		○		
43		第10次	SK 1	(B-6D-10I16)	古代	VIIa	N-17°-W	(0.77)	(0.61)	0.36	0.24	0.31	楕円形	弧状	0.77	1		○	60	土器棺墓

下層遺構計測表

図版No.	写真図版No.	区	遺構	グリッド	時代	確認面	主軸方向	規模 (m)				形態		底面座標 (m)	覆土	切り合い関係	遺物の有無	遺物図版No.	備考	
								上端		下端		深度	平面							断面
								長軸	短軸	長軸	短軸									
32	21	2	SD 9	D-3I-7F13・17・18	古代	VIIb	N-43°-E	—	0.31	—	0.14	0.12	—	弧状	0.28	1				
32	21	2	SD 15	D-3I-8G13・18	古代	VIIb	N-45°-E	—	0.37	—	0.14	0.08	—	皿状	0.37	1		○		
32		2	SD 19	D-3I-6E6・11	古代	VIIb	N-45°-E	—	0.56	—	0.38	0.18	—	弧状	0.27	1				
32	21	2	SD 28	D-3I-7F18	古代	VIIb	N-41°-E	—	0.36	—	0.20	0.13	—	台形状	0.28	1				
32		2	SP 21	D-3I-6E18	古代	VIIb	—	0.22	0.20	0.10	0.08	—	円形	—	—	—				
32		2	SP 24	D-3I-9H1	古代	VIIb	—	(0.44)	(0.28)	(0.28)	(0.18)	—	—	—	—	—	○			
32		2	SP 35	D-3I-6E19・24	古代	VIIb	—	—	(0.26)	—	(0.16)	—	楕円形	—	—	—				
32		2	SP 48	D-3I-8G19・24	古代	VIIb	—	—	(0.52)	—	(0.20)	0.23	—	弧状	0.20	1				
32	17	2	SP 51	D-3I-7F11	古代	VIIb	—	—	—	—	—	0.34	—	漏斗状	-0.10	3		○	68	
32	21	2	SP 52	D-3I-8G24	古代	VIIb	—	0.20	0.19	—	—	0.27	楕円形	U字状	-0.02	1		○	68	
32	21	2	SP 53	D-3I-9H6	古代	VIIb	—	0.27	0.16	—	—	0.15	楕円形	漏斗状	-0.03	1		○	68	
37		3	SK 31	D-4J-3B20	古代	VIIb	N-83°-W	0.61	0.47	0.49	0.24	0.21	楕円形	弧状	-0.01	1				
37		3	SK 38	D-4I-1J20・25, 4J-1A21	古代	VIIb	N-46°-W	1.53	(0.80)	1.15	0.59	0.21	—	皿状	0.05	2				
37	26	3	SX 30	D-4J-3B14・15・19・20	古代	VIIb	—	—	(1.02)	—	0.83	0.17	—	皿状	0.06	1		○	50	
37	26・27	3	SX 39	D-4J-5D2	古代	VIIb	N-18°-W	1.29	0.70	1.07	0.61	0.13	—	皿状	0.13	1		○	50	
37		3	SP 28	D-4I-1J13	古代	VIIb	—	—	0.47	—	0.12	0.28	—	不定形	-0.03	4				
37	27	3	SP 55	D-4J-4C14	古代	VIIb	—	(0.24)	0.22	—	—	0.47	円形	V字状	-0.13	1		○	68	
37	27	3	SP 56	D-4J-4C2	古代	VIIb	—	0.28	0.24	—	—	0.48	円形	—	-0.25	1		○	68	
37	27	3	SP 57	D-4J-2A7	古代	VIIb	—	0.26	0.24	—	—	0.16	円形	弧状	0.00	1		○	68	
37	27	3	SP 58	D-4J-2A1	古代	VIIb	—	0.20	0.19	—	—	0.32	円形	U字状	-0.14	1		○	68	
37	27	3	SP 59	D-4J-1A21	古代	VIIb	—	0.24	0.22	—	—	0.21	円形	—	0.08	1		○	68	
37	27	3	SP 60	D-4I-1J20・25	古代	VIIb	—	0.30	0.27	—	—	0.05	円形	弧状	0.20	1		○	68	
37	27	3	SP 61	D-4I-1J18	古代	VIIb	—	0.20	0.18	—	—	0.18	円形	—	0.10	1		○	68	
42	30	第6次	SK 5	D-3I-8E22	古代	VIIb	N-58°-W	1.07	—	0.85	0.44	0.11	—	皿状	0.39	1		○		
42	31	第6次	SD 4	D-3I-9F11・12・16・17	古代	VIIb	—	—	—	—	—	0.15	—	—	0.34	1		○	64	
42	31	第6次	SD 6	D-3I-8D8 ~ 10・14・15・20, 8E11	古代	VIIb	N-61°-E	—	3.58	—	0.88	0.07	—	弧状	0.45	4		○	52・64・65・66	
42	31	第6次	SD 10	D-3I-6B8・9	古代	VIIb	N-70°-E	—	0.47	—	0.13	0.10	—	皿状	0.59	1		○		
42	31	第6次	SD 13	D-3H-4J3・8・9・13・14	古代	VIIb	N-8°-E	—	—	—	—	0.22	—	皿状	0.52	2		○		
42	31	第6次	SD 14	D-3I-4A16・21	古代	VIIb	N-43°-E	—	1.08	—	0.30	0.23	—	弧状	0.39	1		○		
42		第6次	SD 16	D-3H-4J14・15	古代	VIIb	N-77°-E	—	0.51	—	0.24	0.40	—	—	0.41	1	SD17・21 (不明)	○		
42		第6次	SD 17	D-3H-4J20・25, 3I-4A21	古代	VIIb	N-17°-W	—	0.50	—	0.44	0.16	—	台形状	0.52	2	SD16・21 (不明)	○		
42		第6次	SD 21	D-3H-4J15・19・20	古代	VIIb	N-51°-E	—	0.87	—	0.53	0.09	—	弧状	0.40	1	SD16・17 (不明)	○	52	

別表 2 土器観察表

凡例

- 出土位置 調査区(調査次数)・出土位置 遺構名・グリッドを記した。
- 接合関係 帰属遺構以外の破片が接合しているものは、その出土位置を記した。
- 器種 第V章に記した。
- 法量 口径・底径・器高を記す。()中の数字は、残存率の低いものである。
- 胎土 第V章に記した。
- 色調 『新版 標準土色帳』[小山・竹原 1967]の記号を記した。
- 焼成 酸化・炭焼成・還元・炭焼成の区別を記した。
- 製作痕・文様等 手法等とそれらが確認できる部位を記した。「→」は調整の先後関係(古→新)を表す。調整痕の方向等については本文・実測図を参照されたい。「口」は口縁部、「頸」は頸部、「体」は体部、「天」は天井部、「底」は底部、「杯」は杯部、「脚」は脚部である。部位が記されていないものは、遺存部位を示す。
- 遺存率 分母を36とした分数表示で示した。
- 付着物・使用痕跡等 二次的な痕跡について確認できるものを記した。部位については「製作痕・文様等」に同じ。
- レプリカNo. 第VI章第7節で分析したレプリカ作成No.を記した。

図版No.	写真図版No.	報告書No.	出土位置			層位	種別	器種		法量 (cm)			胎土分類	色調	焼成	製作痕・文様等				遺存率			付着物等			備考	レプリカNo.	
			区	遺構名	グリッド			器種名	分類	口径	底径	器高				内面	外面	底面	回転方向	口縁部	底部	全体	内面	外面	底面			
44	34・45	1	1区	SD1	B-10G-3J25	5	土師器	無台碗	III B	12.6	5.2	4.2	I b	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	口～底: ロクロナデ	口～底: ロクロナデ	糸切り	右	24/36	36/36	29/36						
44	45	2	1区	SD1	B-10G-3J25	1	須恵器	有台杯			8.0		B	灰白 (10YR7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右		14/36							
44	45	3	1区	SD1	B-10G-3J25	1	須恵器	壺・瓶類			12.1		D	灰 (10Y4/1)	還元	ロクロナデ・ナデ	ロクロナデ			2/36								
44	45	4	1区	SD1	B-10G-3J25	3	須恵器	甕	A2	25.0			D	灰白 (10YR7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36								
44	45	5	1区	SD2	B-10H-4A2	1	須恵器	横瓶					A	褐灰 (10YR4/1)	還元	あて具痕	タタキメ											
44	45	6	1区	SD6	B-10H-5C8	1	黒色土器	無台碗			5.0		II c	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	体～底: ミガキ 黒色処理	体～底: ロクロナデ	糸切り→ナデ	(右)		10/36							
44	45	7	1区	SD54	B-10H-8H3・4・9	1.2	須恵器	甕					A	灰 (5Y6/1)	還元	あて具痕	タタキメ											
44	45	8	1区	SE57	B-10H-5C7	6	土師器	鍋		(32.4)			I c	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	口: ロクロナデ、体: カキメ	口: ロクロナデ、体: カキメ			2/36				スス				
44	45	9	1区	SE57	B-10H-5C2	4	黒色土器	皿		(18.2)			IV a	黒 (10YR2/1)	酸化	ミガキ 黒色処理	ミガキ 黒色処理			2/36								
44	45	10	1区	SE57	B-10H-5C7	6	黒色土器	杯蓋		19.8			IV b	黒 (N2/0)	酸化	口～体: ミガキ 黒色処理	口～体: ミガキ 黒色処理			3/36								
44	42・45	11	1区	SE57	B-10H-5C2・7	1.4.5	須恵器	無台杯	III A	11.8	7.2	3.1	A	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	口～底: ロクロナデ	口～底: ロクロナデ	ヘラ切り	右	11/36	20/36	17/36	刻書					
44	45	12	1区	SE57	B-10H-5C1	5	須恵器	無台杯	II B	12.8	7.5	3.6	A	灰白 (5Y8/1)	酸化	口～底: ロクロナデ	口～底: ロクロナデ	ヘラ切り	左	2/36	17/36	9/36						
44	34・42・45	13	1区	SE57	B-10H-5C7	4	須恵器	杯蓋	II B	16.2	ツマミ 3.4	3.4	D	灰白 (N7/0)	還元	口～体: ロクロナデ	口～体: ロクロナデ		左	10/36	ツマミ 31/36	13/36	刻書					
44	45	14	1区	SK20	B-10H-4B11	1	土師器	杯		(15.0)			II c	灰白 (10YR8/2)	酸化	口: ミガキ	口: ナデ			2/36				赤彩				
44	45	15	1区	SK53	B-10H-5D24	1	須恵器	甕					A	灰 (N4/1)	還元	あて具痕	タタキメ											
44	45	16	1区	SD5	B-10H-5C2	1	須恵器	無台杯			9.6		A	灰 (N6/)	還元	体～底: ロクロナデ	体～底: ロクロナデ	ヘラ切り	右		19/36				墨痕			
44	45	17	1区	SD5	B-10H-5C2	1	須恵器	杯蓋	III E	(14.0)			B	灰 (N6/)	還元	口: ロクロナデ	口: ロクロナデ、天: ケズリ			3/36								転用視
44	45	18	1区	SD10	B-10H-5D11	1	土師器	無台碗			6.1		II c	にぶい橙 (7.5YR7/3)	酸化	体～底: ロクロナデ	体～底: ロクロナデ	糸切り	右		36/36				スス			
45	34	19	1区	SK20, SD11, 18	B-10H-4A3・15, 4B11・16	2.4. VII. VIIc	土師器	長甕	A1	23.0			III b	灰白 (10YR8/2)	酸化	口: ハケメ、体: ハケメ→ナデ	口: ナデ、体: ハケメ→ナデ			13/36				体: 黒色付着物	体: スス			
45	45	20	1区	SD11	B-10H-4A5	5	須恵器	甕	A1	(52.0)			A	黄灰 (2.5Y5/1)	還元	口: ロクロナデ	口: ロクロナデ・波状文			5/36								
45	45	21	1区	SD11	B-10H-4A1・8	5. VII	須恵器	甕					B	灰 (5Y5/1)	還元	あて具痕	タタキメ											
45	34	22	1区	SD11	B-10H-4A10・15, 4B12	1.4.3. VIIc	須恵器	甕					A	黄灰 (2.5Y5/1)	還元	体: あて具痕	体: タタキメ→カキメ											
45	45	23	1区	SD11	B-10H-4A9	3	須恵器	甕					A	褐灰 (10YR5/1)	還元	あて具痕	タタキメ→カキメ											
45	46	24	1区	SD12	B-10H-5C1	1	土師器	小甕	B1	15.4			I b	灰白 (7.5YR8/2)	酸化	口～体: ロクロナデ	口～体: ロクロナデ			7/36				口～底: 炭化物	口～底: スス			
45	34・45	25	1区	SD12	B-10H-4B16, 4C21・5C1	1. VII. VIIb, VIIc. 視乱	須恵器	甕	B2	19.0			A	灰 (10Y4/1)	還元	口: ロクロナデ、体: あて具痕	口: ロクロナデ、体: タタキメ			8/36								
45	34・46	26	1区	SD15	B-10H-6E7	1. VIIc	土師器	無台碗	III A	12.2	5.5	3.8	I c	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	口～底: ロクロナデ	口～底: ロクロナデ	糸切り	右	18/36	36/36	24/36	底: 炭化物	口～底: スス				
45	46	27	1区	SD15	B-10H-6E7	3	土師器	瓶		(33.8)			II c	にぶい橙 (7.5YR7/4)	酸化	口: ロクロナデ・ハケメ	口: ロクロナデ、体: カキメ			1/36								
46	34・46	28	1区	SD18	B-10H-4B11・16	2	土師器	鉢	A	15.1	9.5	4.9	II b	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	口～底: ロクロナデ	口～体: ロクロナデ 体: ケズリ	ヘラ切り・ケズリ	右	18/36	23/36	18/36						
46	46	29	1区	SD24	B-10H-5D17・18・22	1. VII. VIIc	土師器	甕	Aa		10.0		II b	にぶい黄橙 (10YR6/3)	酸化	ハケメ	ハケメ→ケズリ	ケズリ			9/36							

図版No.	写真図版No.	報告書No.	出土位置			層位	種別	器種		法量 (cm)			胎土分類	色調	焼成	製作痕・文線等				遺存率			付着物等			備考	レプリカNo.	
			区	遺構名	グリッド			器種名	分類	口径	底径	器高				内面	外面	底面	回転方向	口縁部	底部	全体	内面	外面	底面			
																												須恵器
46	42・46	30	1区	SD29	B-10H-5D24	2	土師器	甕	A		9.6		IIb	にぶい黄橙(10YR6/3)	酸化	ナデ	ハケメ	木葉痕→ハケメ、中央部凹む			20/36							
46	46	31	1区	SD33	B-10H-6E1	1	須恵器	杯蓋					D	黄灰(2.5Y6/1)	酸化	体：ロクロナデ	天：ケズリ、体：ロクロナデ								墨痕			
46	42・46	32	1区	SD30	B-10H-5D24	1.VIIa	土師器	甕	Ab		12.4		IIIa	灰黄(2.5Y7/2)	酸化	底：ハケメ・ナデ	底：ハケメ・ナデ	木葉痕			7/36						161	
46	46	33	1区	SD30	B-10H-5D24	1	土師器	把手か脚					IIc	にぶい褐(7.5YR5/3)	酸化		ナデ											
46	41・46	34	1区	SD33	B-10H-6E1・6	1.VIIc	須恵器	有台杯	IIA	17.6	8.9		D	褐灰(10YR6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36			炭化物墨痕	口：スス	底：スス	転用硯	
46	46	35	1区	SD33	B-10H-6E6	2	須恵器	甕	B2	22.0			A	灰(N6/)	還元	口：ロクロナデ、体：あて具痕	口：ロクロナデ、体：タタキメ				9/36							
46	46	36	1区	SD30	B-10H-5D24	1	須恵器	甕					A	灰白(2.5Y7/1)	還元	あて具痕	タタキメ											
46	46	37	1区	SD35:39	B-10H-6E20・6F22	2	須恵器	有台杯	IIIB	13.8	9.2	4.2	D	黄灰(2.5Y6/1)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り			右	1/36	12/36	8/36				
46	46	38	1区	SD15:39	B-10H-6E1・2・7・11・13.6F22	2.VII.VIb.VIIc	土師器	長甕	B2	19.6			Ic	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口：ロクロナデ、体：ハケメ→ナデ	口：ロクロナデ、体：ハケメ→カキメ				5/36							
46	41・46	39	1区	SD39	B-10H-6F22	2	須恵器	無台杯					D	灰黄(2.5Y6/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ								墨書「口」			
46	46	40	1区	SD42	B-10H-7G13	1.VIIc	土師器	甕	A4	21.0			IIc	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口：ハケメ、体：ハケメ	口：ナデ、体：ハケメ・ケズリ				5/36							126
46	46	41	1区	SD42	B-10H-7G14	1	須恵器	壺・瓶類					D	灰白(N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ								自然軸			
46	34・46	42	1区	SX45	B-10H-7H23	1	須恵器	杯蓋	IIID	13.5	ツマミ2.3	1.4	A	灰(N6/0)	還元	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ				右	35/36	ツマミ36/36	35/36				歪みあり
46	34・46	43	1区	SX65	B-10H-7H22	1	土師器	無台杯	A	10.8	丸底	4.1	IIb	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口～底：ナデ	口～底：ナデ				30/36	36/36	30/36					
46	44・46	44	1区	SX65	B-10H-7H22	1	土師器	甕	A				IIb	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	ハケメ→ナデ	ハケメ								スス			
46	46	45	1区	SD4	B-10H-4B19.4C21	1.VII	須恵器	有台杯	IIIB	12.4	7.0	3.8	A	灰黄褐(10YR5/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36	9/36	6/36					
47	46	46	4区	SK4	B-10G-3J17・22	1.2	土師器	無台碗	IIA	16.0	6.8	4.9	Ic	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り			右	2/36	36/36	20/36				
47	34・46	47	4区	SK4	B-10G-3J16・21	1.VIIb	土師器	無台碗	IIIC	12.5	5.4	4.3	Ic	橙(7.5YR7/6)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り			右	32/36	36/36	34/36				
47	46	48	4区	SK4	B-10G-3J16	1	土師器	無台碗	II	16.0			Ic	にぶい橙(7.5Y7/4)	酸化	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ					14/36						
47	46	49	4区	SK4	B-10G-3J16・22	1.2	土師器	無台碗	I	18.0			IIb	灰黄褐(10YR6/2)	酸化	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ					7/36			炭化物	スス		
47	46	50	4区	SK4	B-10G-3J16	1.VIIb	土師器	無台碗	IIA	15.4	6.1	4.9	Ic	にぶい橙(5YR7/4)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ					12/36	15/36	13/36				
47	47	51	4区	SK4	B-10G-3J17・21	1.VIIb	土師器	無台碗			5.4		Ic	にぶい橙(5YR7/3)	酸化	体～底：ロクロナデ	体～底：ロクロナデ	糸切り			右		36/36			体：スス		
47	34・47	52	4区	SK4	B-10G-3J16・17	1.2	土師器	無台碗	IIIB	12.6	5.8	4.1	IIb	灰黄(2.5Y7/2)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り			右	12/36	36/36	24/36				
47	34・47	53	4区	SK4	B-10G-3J17	2	土師器	無台碗	IIIA	12.7	5.6	3.8	IIb	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り			右	31/36	36/36	35/36				
47	34・47	54	4区	SK4	B-10G-3J17	2	土師器	無台碗	IIIA	14.0	5.3	3.8	IIb	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り			右	17/36	36/36	22/36				
47	34・47	55	4区	SK4	B-10G-3J16・17	1.2	土師器	無台碗	IIIC	12.5	5.8	4.3	Ic	灰白(10YR8/2)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り			右	36/36	36/36	36/36				146
47	35・47	56	4区	SK4	B-10G3J16・17	1.2	土師器	無台碗	IIIA	13.0	6.2	4.1	IIc	灰黄(2.5Y7/2)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り			右	4/36	23/36	12/36				
47	47	57	4区	SK4	B-10G-3J16・22	1.VIIb	土師器	無台碗	IIIB	12.0	6.0	3.9	IIb	にぶい橙(7.5Y7/3)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り			右	5/36	18/36	9/36				
47	47	58	4区	SK4	B-10G-3J16・21・22	1.2	土師器	無台碗	IIIB	12.0	6.0	3.9	IIb	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り			右	9/36	11/36	10/36				
47	47	59	4区	SK4	B-10G-3J16	1	土師器	無台碗	IIIA	12.0	5.8	3.8	IIb	灰黄褐(10YR6/2)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り・台の痕跡			右	2/36	36/36	12/36				
47	35	60	4区	SK4:SD5	B-10G-3J16・17・22	1	土師器	鉢	B	18.0	6.4	7.4	IIb	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口～底：ロクロナデ、ミガキ	口～底：ロクロナデ→ミガキ	ミガキ・ロクロナデ				30/36	36/36	33/36	口：炭化物	口～底：スス		
47	35・47	61	4区	SK4	B-10G-3J16・22.415.2号①	1.2.VIIa.VIIb	須恵器	有台杯	IIc	16.6	8.4	6.8	B	灰(7.5Y5/1)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り			左	17/36	13/36	18/36				
47	41・47	62	4区	SX6	B-10G-3J12	1	須恵器	無台杯	IIA	13.0	9.0	3.2	B	灰白(N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り				6/36	5/36	8/36		墨書「口」		
47	47	63	4区	SX6	B-10G-3J12	1.VIIa	須恵器	杯蓋	IIID	14.4			B	灰(N6/0)	還元	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ、天：ロクロナズリ					15/36						

図版No.	写真図版No.	報告書No.	出土位置			層位	種別	器種		法量 (cm)			胎土分類	色調	焼成	製作痕・文線等				遺存率			付着物等			備考	レフカNo.			
			区	遺構名	グリッド			器種名	分類	口径	底径	器高				内面	外面	底面	回転方向	口縁部	底部	全体	内面	外面	底面					
47	35	64	4区	SK4・SD1	B-10G-3J16.415.4J1	1	土師器	小甕	B1	11.1	8.4	13.6	Ib	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ、体：カキメ	ナデ		12/36	27/36	20/36								
47	35	65	4区	SD1	B-10G-4J1	1.VIIa	須恵器	杯蓋	IIc	16.0	ツمامミ3.5	3.1	A	灰(N6/0)	還元	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ、天：ロクロケズリ			3/36	ツمامミ26/36	16/36								
47	47	66	4区	SD5	B-10G-3J17	1	土師器	長甕	B3	(24.0)			IVa	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口：ロクロナデ	口：ロクロナデ			2/36										
48	47	67	2区	SE25	D-3I-4B4・9	5.VIIa	土師器	長甕	B1	25.0			IIb	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			6/36										
48	47	68	2区	SE25	D-3I-4B9	5	土師器	甕か瓶		18.0			IIb	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ナデ	口：ヨコナデ、体：ナデ			4/36										
48	35	69	2区	SD7	D-3I-4C17	1	黒色土器	高杯		10.2	6.4	5.3	Ic	黄灰(2.5Y7/2)	酸化	杯：ミガキ黒色処理、脚：ナデ	杯：ケズリ・ミガキ、脚：ナデ			13/36	26/36	18/36						124		
48	35・47	70	2区	SX2	D-3I-4B4	1	須恵器	杯蓋	Ic	17.7	ツمامミ3.4	2.9	A	灰(N6/0)	還元	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ、天：ロクロケズリ			12/36	ツمامミ18/36	15/36	墨痕							
48	47	71	2区	SD3	D-3I-4C17・18	1	土師器	無台杯	A	14.0	7.2	4.6	IIc	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	口～底：ナデ、ハケメ	口：ナデ、体～底：ナデ・ハケメ	ナデ		4/36	4/36	4/36	口・体：炭化物							
48	35・42	72	2区	SD3	D-3I-4C17・18	1.2.6	土師器	甕	A2a	16.4	8.8	(19.1)	IIIa	にぶい橙(5Y7/3)	酸化	体～底：ナデ	体～底：ハケメ	ハケメ		3/36	36/36	9/36	体：炭化物	体～底：スス				131		
48	41・47	73	2区	SD3	D-3I-4C18	1	須恵器	無台杯			6.9		A	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		8/36			墨痕		赤彩	転用硯				
48	35	74	2区	SX42	D-3I-6E23・24・25.7E5	2.VIIc.VIIa	土師器	甕	A1a	20.0	10.0	19.5	Ib	灰白(2.5Y8/2)	酸化	口～体：ナデ・ミガキ	口：ナデ、体～底：ハケメ→ミガキ	ナデ		10/36	13/36	6/36	口～体：炭化物	体・底：スス						
48	47	75	2区	SX42	D-3I-6E23・24・25	2.VIIc.VIIa	土師器	長甕	A2	18.4			Ib	にぶい褐(7.5YR6/3)	酸化	口～体：ナデ・ハケメ	口：ナデ、体：ハケメ			5/36			口～体：炭化物	体：スス				149		
48	35・42・47	76	2区	SX42	D-3I-6E24	2	土師器	甕	Aa		9.0		Ib	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ハケメ→ナデ	ハケメ	ハケメ			20/36									
48	47	77	2区	SX42	D-3I-6E23～25.7E5	2.VIIc.VIIa	土師器	壺					IIb	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ナデ→ミガキ黒色処理	ハケメ							スス						
48	35・48	78	2区	SX42	D-3I-6E24.8E22	2.4.VIIa	須恵器	無台杯	IIIc	11.4	7.0	3.8	A	灰白(7.5Y7/1)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	右	28/36	36/36	33/36						第6次調査区と接合		
48	35・41・48	79	2区	SX42	D-3I-6E24・25	2.VIIc	須恵器	有台杯	IIIB	14.0	9.0	4.5	A	灰白(2.5Y7/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		14/36	35/36	23/36				墨書「小口」				
48	41・48	80	2区	SX42	D-3I-6E24	2	須恵器	有台杯	IA	18.0	12.0	4.8	A	灰白(5Y7/1)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	右	3/36	9/36	7/36						転用硯		
48	48	81	2区	SX42	D-3I-6E23・25.7E5	1.2.VIIa	須恵器	無台杯	IIA	12.8	7.8	3.1	A	灰白(5Y7/1)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	右	12/36	19/36	16/36								
49	48	82	2区	SK13	D-3I-9H1・6	1.2.VIIc.VIIa	土師器	長甕	A1	19.5			Ia	暗灰黄(2.5Y4/2)	酸化	口：ナデ、体：ハケメ	口：ナデ、体：ハケメ			6/36										
49	42・48	83	2区	SK13・SD10	D-3I-9H6	1.2.3.VIIa	土師器	甕	Aa		8.5		Ic	にぶい黄橙(10YR6/4)	酸化	体～底：ハケメ	体～底：ハケメ・ケズリ			28/36			底：炭化物	スス			破碎後の被熱痕			
49	48	84	2区	SK13・SD10	D-3I-9H6	1	土師器	小甕	A1	15.8			Ia	灰黄褐(10YR6/2)	酸化	口～体：ハケメ	口：ナデ、体：ハケメ			7/36			口～頸：炭化物							
49	41・48	85	2区	SK13	D-3I-9H6	1.VIIa	須恵器	有台杯	IIb	14.8	10.0	4.4	D	灰(5Y6/1)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	右	6/36	12/36	10/36				墨痕	転用硯			
49	48	86	2区	SK13	D-3I-9H6	1	須恵器	甕					D	褐灰(10YR6/1)	還元	あて具痕	タタキメ													
49	35	87	2区	SD4	D-3I-8G13・18・19	1.VIIc.VIIa	土師器	長甕	A2	22.3			Ib	灰白(10YR8/2)	酸化	口：ナデ、体：ハケメ 指頭圧痕	口：ナデ、体：ハケメ			28/36					体：スス					
49	36	88	2区	SD4	D-3I-8G19	1	土師器	長甕	A1	21.0			IIc	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口：ナデ、体：ハケメ→ナデ	口：ナデ、体：ハケメ			18/36									127 128	
49	36	89	2区	SD4	D-3I-8G19	1.VIIc.VIIa	土師器	甕	Ab		9.8		IIb	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	ナデ	ハケメ	ナデ・指頭圧痕			36/36								174	
49	44・48	90	2区	SD4	D-3I-8G19	1	土師器	甕	A				IIa	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ナデ	ハケメ										粘土帯つなぎ目に工具痕	177		
49	36	91	2区	SD4	D-3I-8G18・19	1.VIIc.VIIa	土師器	ミニチュア無台杯		8.5	6.4	5.1	IIa	灰黄(2.5Y7/2)	酸化	口～体：ハケメ、底：ナデ	口～底：ナデ	ナデ		4/36	21/36	13/36						132		
49	36	92	2区	SD10	D-3I-8G13・18・19	1.VIIc.VIIa	土師器	長甕	A1a	19.6	12.0	(26.0)	IIb	にぶい橙(7.5YR7/3)	酸化	口縁：ナデ、体：ハケメ	口縁：ナデ、体上：タテハケメ、体下：タテケズリ			8/36										
50	42・48	93	3区	SK20	D-4J-2A19	1	土師器	甕	A				Ib	灰黄褐(10YR5/2)	酸化			木葉痕										105		
50	36・42	94	3区	SK36	D-4J-5D25.5E21	1.VIIa	土師器	甕	Aa		8.0		IIIb	灰黄(2.5Y7/2)	酸化	体～底：ハケメ、底：ナデ	体：ハケメ、底：ケズリ	ナデ			36/36			スス						
50	36・48	95	3区	SD9	D-4J-4C20	1	須恵器	有台杯	IIb	15.0	10.4	4.5	A	黄灰(2.5Y6/1)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	左	20/36	25/36	23/36								
50	48	96	3区	SD18	D-4J-5D8	1	須恵器	壺・瓶類			16.0		A	灰(N5/0)	還元	底：ロクロナデ	底：ロクロナデ				3/36						脚部に穿孔			
50	36・48	97	3区	SD21	D-4J-2A1・2・7	1.VIIc.VIIc	須恵器	有台杯	IIIB	14.0	9.4	4.2	D	灰(N4/0)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	右	11/36	23/36	17/36								

図版No.	写真図版No.	報告書No.	出土位置			層位	種別	器種		法量 (cm)			胎土分類	色調	焼成	製作痕・文様等				遺存率			付着物等			備考	レプリカNo.	
			区	遺構名	グリッド			器種名	分類	口径	底径	器高				内面	外面	底面	回転方向	口縁部	底部	全体	内面	外面	底面			
50	48	98	3区	SD33	D-4J-4C7-8	1.VIc.VIIa	土師器	無台杯	A	(16.6)	(9.8)	4.9	Ib	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口：ナデ、体～底：ミガキ	口：ナデ、体：ケズリ	ミガキ		3/36	5/36	8/36						
50	48	99	3区	SD40	D-4J-5D9	1	須恵器	甕	A1				D	灰(7.5Y6/1)	還元	口：ナデ	口：ナデ、体：波状文											
50	48	100	3区	SD35	D-4J-4D21	1.VIc	須恵器	甕					D	灰白(2.5Y7/1)	還元	あて具痕	タタキメ											
50	48	101	3区	SX30	D-4J-3B20	1	土師器	甕	Ab		8.4		Ib	にぶい橙(2.5YR6/4)	酸化	ナデ	ナデ、ハケメ	ヘラ切り			6/36							
50	36	102	3区	SX39	D-4J-4D22.5D2	1.VIc.VIIa.排土	土師器	長甕	A1	24.0			IIIb	灰黄褐(10YR6/2)	酸化	口～体：頸部ハケメ→ナデ	口：ナデ、体：ハケメ			4/36					スス			
50	48	103	3区	SX39	D-4J-5D2	1	土師器	甕	Ab		11.0		Ib	にぶい褐(7.5YR5/3)	酸化	ハケメ、ナデ	ハケメ	ナデ			14/36							
50	48	104	3区	SX39	D-4J-5D2	1.VIc	黒色土器	高杯?		15.8			Ib	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	口～体：ミガキ	口：ナデ、体：ケズリ・ミガキ			7/36								
51	48	105	第6次調査区	SD1	D-3I-10F10	1	須恵器	有台杯	III	14.0			A	灰(10Y6/1)	還元	口：ナデ	口：ナデ			3/36								
51	48	106	第6次調査区	SX11	D-3I-5B23.6B2-3	2.VIIa	黒色土器	鉢		24.0			Ia	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	ミガキ・黒色処理	ハケメ→ミガキ			8/36								
51	36	107	第6次調査区	SX11	D-3I-6B2	1	土師器	甕	Ac				Ia	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	体～底：ハケメ	体～底：ハケメ→ケズリ			18/36					底：スス			
51	36	108	第6次調査区	SX11	D-3I-6B2	1.2	土師器	小甕	A2	12.2	6.3	14.0	IIIb	灰黄褐(10YR6/2)	酸化	口：ハケメ、体～底：ケズリ・ミガキ	口：ナデ、体～底：ケズリ・ミガキ	ナデ		9/36	26/36	12/36		口～体：炭化物				
51	48	109	第6次調査区	SX11	D-3I-6B2	1.2	土師器	小甕	A1	16.0			Ib	にぶい褐(7.5YR5/3)	酸化	口：ハケメ、体：ナデ	口：ナデ、体：ハケメ			10/36				口～体：炭化物	口～体：スス			
51	36	110	第6次調査区	SX11	D-3I-5A15.5B16.6B2	1.VIIa	土師器	長甕	A2	21.0			IIb	灰白(10YR8/2)	酸化	口：ナデ、体：ハケメ→ナデ	口：ロクロナデ、体：ハケメ→ナデ			32/36					スス			
51	37	111	第6次調査区	SX11	D-3I-6B2	1	土師器	壺		22.0	11.2	34.4	Ia	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口：ナデ、体～底：ミガキ	口：ナデ、体～底：ミガキ	ミガキ		5/36	36/36	21/36						
51	37	112	第6次調査区	SX11	D-3I-5B22.6B2	2.VIIa	土師器	壺		13.5			Ia	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口～体：ナデ	口：ナデ、体：ハケメ→ミガキ			18/36								
51	37・48	113	第6次調査区	SX11	D-3I-6B2	1.2	須恵器	有台杯	IIb	16.9	10.2	5.1	A	灰(N6/)	還元	口～底：ナデ・ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	右	25/36	36/36	33/36						
51	48	114	第6次調査区	SX11	D-3I-5B21	1	須恵器	有台杯	IIa	15.0	10.6	3.8	A	灰(5Y6/1)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り		13/36	15/36	15/36						
52	37・42	115	第6次調査区	SD6	D-3I-8D15	1.2	土師器	甕	A1a	18.2	10.0	17.1	Ia	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	口～底：ナデ	口～底：ナデ	ケズリ		36/36	27/36	35/36	体：炭化物	口～底：スス				
52	37	116	第6次調査区	SD6	D-3I-8D15	1.2	土師器	甕	A1c	18.9	10.4	14.9	IIIb	浅黄(2.5Y7/3)	酸化	口：ナデ、体～底：ハケメ	口：ナデ、体～底：ハケメ・ケズリ	ケズリ		27/36	36/36	33/36	口～底：炭化物	口～底：スス				
52	49	117	第6次調査区	SD6	D-3I-8D15	1	土師器	小甕	A1	14.4			Ic	にぶい黄橙(10YR6/3)	酸化	ナデ	口：ナデ、体：ハケメ・ケズリ			10/36			口：炭化物	体：スス				
52	49	118	第6次調査区	SD6	D-3I-8D15	1.2	土師器	甕	A1	17.8			Ib	にぶい黄橙(10YR6/3)	酸化	口～体：ナデ	口：ナデ、体：ハケメ			11/36			口：炭化物	口～体：スス				
52	49	119	第6次調査区	SD6	D-3I-8D15	1	土師器	小甕	A1	16.0			IIIb	灰黄褐(10YR6/2)	酸化	口：ハケメ、体：ナデ	口：ナデ、体：ケズリ			6/36								
52	49	120	第6次調査区	SD6	D-3I-8D15.8E11	1.2	土師器	甕	A1	17.9			Ic	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	口：ハケメ、体：ナデ	口：ナデ、体：ハケメ			7/36				口～体：炭化物				
52	37・43	121	第6次調査区	SD6	D-3I-8D15	1.2	土師器	甕	Aa		9.0		Ib	にぶい橙(5YR7/4)	酸化	体：ハケメ・ナデ、底：ケズリ	体：ハケメ→ミガキ、底：ケズリ	ケズリ		36/36			体：炭化物					
52	49	122	第6次調査区	SD6	D-3I-8D15	1.2	土師器	長甕	B2	26.0			IIa	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	口：ロクロナデ、頸：体：カキメ	口～頸：ロクロナデ、体：タタキメ→カキメ			4/36								
52	43・49	123	第6次調査区	SD6	D-3I-8D15	1	土師器	壺			8.0		Ib	灰黄褐(10YR6/2)	酸化	ミガキ	ケズリ・ミガキ	ケズリ・ミガキ			36/36				スス			
52	49	124	第6次調査区	SD6	D-3I-8D15.8E11	1.2	須恵器	無台杯	IIIc	11.3	8.6	3.6	A	灰白(N7/)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	右	11/36	13/36	13/36						
52	49	125	第6次調査区	SD6	D-3I-8D15	2	須恵器	有台杯	IIa	15.9	9.8	4.5	A	灰白(7.5Y1/7)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り		8/36	13/36	14/36						
52	49	126	第6次調査区	SD6	D-3I-8D10.8E11	1.2	須恵器	壺・瓶類		(10.0)			D	灰(N6/)	還元	口：ロクロナデ	口：ロクロナデ			3/36								
52	49	127	第6次調査区	SD21	D-3H-4J20	1	土師器	杯	B	11.5			Ic	灰黄褐(10YR6/2)	酸化	口：ナデ、体：ナデ・ミガキ	口：ナデ、体：ミガキ			19/36							118	
52	37・49	128	第6次調査区	SD21	D-3H-4J20	1	土師器	手づくね	B	8.3	7.0	3.8	Ia	にぶい黄橙(2.5Y6/3)	酸化	ナデ	ナデ	ナデ		33/36	18/36	33/36						
52	37・49	129	第6次調査区	SD21	D-3H-4J20	1	土師器	手づくね	B		6.4		IIIb	灰黄褐(10YR5/2)	酸化	ナデ	ナデ	ナデ			25/36							

図版No.	写真図版No.	報告書No.	出土位置			層位	種別	器種		法量 (cm)			胎土分類	色調	焼成	製作痕・文線等				遺存率			付着物等			備考	レプリカNo.	
			区	遺構名	グリッド			器種名	分類	口径	底径	器高				内面	外面	底面	回転方向	口縁部	底部	全体	内面	外面	底面			
53	37・49	130	1区		B-10H-5C2	VIIc	土師器	無台杯	B	12.0	8.2	3.2	Ia	灰白(10YR8/2)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	右	2/36	36/36	23/36						
53	37・49	131	1区		B-10H-5C2	VIIc	土師器	無台碗	IIIc	12.0	5.2	4.5	IIc	灰白(7.5YR8/2)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り	右	14/36	33/36	25/36			底：スス			
53	49	132	1区		B-10H-5C2	VII	土師器	無台碗	IIIA	12.1	5.3	3.8	IIc	灰黄(2.5Y7/2)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り	右	6/36	36/36	16/36						
53	49	133	1区		B-10H-5B5	VII.VIIc	土師器	無台碗	IIIc	11.6	5.6	4.1	IIa	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り	右	4/36	36/36	18/36						
53	49	134	1区		B-10H-4B17	VII	土師器	無台碗	IIIc	12.8	5.2	4.3	IIIb	灰白(10YR8/2)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り	右	10/36	18/36	11/36			底：スス			
53	49	135	1区		B-10H-5C2	VII.VIIc	土師器	無台碗	IIIB	12.6	5.4	4.2	Ic	灰白(10YR8/2)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り	右	4/36	36/36	19/36	口・底：炭化物		口・底：スス			
53	37・49	136	1区		B-10H-6E7	VIIc	土師器	無台碗	IIIA	13.4	5.4	4.2	Ia	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り	右	16/36	36/36	24/36	口：炭化物		体：スス			
53	49	137	1区		B-10H-4A8	VII	土師器	無台碗	II	16.4			IIc	にぶい黄橙(10YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36								
53	49	138	1区		B-10H-6E6	VII	土師器	無台碗	III	(13.0)			IVb	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36								
53	49	139	1区		B-10H-4B11	VII	土師器	無台碗	II	15.6			Ic	灰白(10YR8/2)	酸化	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ			4/36								
53	49	140	1区		B-10H-4B24	VII	土師器	無台碗			5.3		Ic	灰黄褐(10YR6/2)	酸化	底：ロクロナデ	底：ロクロナデ	糸切り	右		15/36		炭化物					
53	41・49	141	1区		B-10H-4A8	VII	土師器	無台碗					Ic	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ								墨書「□」			
53	49	142	1区		B-10H-5C8	VIIc	土師器	皿		14.0			Ic	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		4/36								
53	50	143	1区		B-10H-6E11	VIIb	土師器	壺		15.2			IIa	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	ハケメ→ミガキ	ハケメ→ミガキ			3/36								
53	50	144	1区		B-10H-3A21.4B17	VIIc.VIIa	土師器	長甕	A5	20.2			IIa	浅黄橙(10YR8/4)	酸化	口：ハケメ、体：ハケメ	口：ナデ、体：ハケメ			2/36								
53	50	145	1区		B-10H-5C1・2・6・7・14.5B5	VII.VIIb.VIIc	土師器	長甕	B3	22.0			Ia	橙(7.5YR7/6)	酸化	体上：ロクロナデ、体下：ナデ	体上：ロクロナデ、体下：タタキ			7/36								
53	50	146	1区		B-10H-6E13	VIIc	土師器	甕	A5	20.7			IIa	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口～頸：ハケメ、体：ハケメ→ナデ	口：ナデ、体：ハケメ			5/36								
53	50	147	1区		B-10H-5C7・8	VII.VIIc	土師器	長甕	B3	24.0			IIIa	灰白(10YR8/2)	酸化	口～体：ロクロナデ	口：ロクロナデ、体：カキメ→一部タテにナデ			6/36				口：スス				
53	50	148	1区		B-10H-7F5	VIIc	土師器	甕	A2	21.7			IIb	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36							西古志型	
53	50	149	1区		B-10H-6E1	VIIc	土師器	甕	A				IIIb	にぶい黄橙(10YR6/3)	酸化	ハケメ	ハケメ→沈線?											
54	50	150	1区		B-10H-7F4	VIIc	土師器	鍋		(36.0)			IIIb	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	口：ロクロナデ、体：カキメ	ロクロナデ			2/36								
54	50	151	1区		B-10H-7H22	VIIc	土師器	鍋		(32.0)			IIIb	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36								
54	50	152	1区		B-10H-5C2	VIIc	土師器	鍋		(37.4)			IIIa	灰白(10YR8/1)	酸化	口：ロクロナデ、体：あて具痕	口：ロクロナデ、体：ケズリ→タタキ			5/36								
54	50	153	1区		B-10H-5B5	VII	土師器	鍋		39.0			IIc	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	ロクロナデ	口：ロクロナデ→ケズリ、体上：ケズリ			3/36								
54	50	154	1区		B-10G-4J5.10H-3A21	VII.VIIc	土師器	鍋		(32.2)			Ia	灰白(10YR8/2)	酸化	口：ロクロナデ、体：カキメ	口～体：ロクロナデ			2/36				体：炭化物				
54	55	155	1区	SE57	B-10H-5C1・7	5.VIIc	土師器	羽釜		32.3			IIb	にぶい橙(5YR7/3)	酸化	ハケメ	ハケメ			1/36								
54	50	156	1区		B-10H-5B5	VII.VIIc.排土	黒色土器	無台碗		14.8			IVa	灰白(10YR8/2)	酸化	口～体：ミガキ・黒色処理	口：ミガキ、体：ロクロナデ			8/36								
54	49	157	1区		B-10H-4B18	VIIc	黒色土器	無台碗			4.8		IIc	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	ミガキ・黒色処理	体：ロクロナデ	糸切り→ケズリ、立ち上がり部分：ケズリ	左	29/36								
54	50	158	1区		B-10H-4B24	VII	黒色土器	碗		13.0			IVb	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ			3/36					スス			
54	50	159	1区		B-10H-8I25	VII	黒色土器	無台杯			5.2		IIa	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	底：ミガキ・黒色処理	底：ケズリ	ナデ		33/36								
54	49	160	1区		B-10H-4B23	VIIb	黒色土器	有台碗			6.3		IIc	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	ミガキ・黒色処理	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ		36/36								
54	50	161	1区		B-10H-5C2	VII	黒色土器	台付鉢か台付碗			(15.4)		IVb	暗灰(N3/0)	酸化	底：ミガキ・黒色処理	底：ミガキ 黒色処理			1/36								

図版No.	写真図版No.	報告書No.	出土位置			層位	種別	器種		法量 (cm)			胎土分類	色調	焼成	製作痕・文様等				遺存率			付着物等			備考	レプリカNo.	
			区	遺構名	グリッド			器種名	分類	口径	底径	器高				内面	外面	底面	回転方向	口縁部	底部	全体	内面	外面	底面			
54	37・50	162	1区		B-10H-5B5	VII. VIIb	須恵器	無台杯	II B	13.1	8.0	3.8	B	灰白 (N7/0)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	右	22/36	29/36	27/36						
54	50	163	1区		B-10G-3J19.24	VIIc. VIIa	須恵器	無台杯	II B	12.8	7.8	3.7	B	灰黄 (2.5Y7/2)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	左	5/36	17/36	9/36						
54	37・50	164	1区		B-10G-3J18・24	VIIc	須恵器	無台杯	II A	12.4	8.8	2.9	B	灰 (N6/0)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	左	4/36	14/36	12/36						
54	50	165	1区		B-10H-5C15.5D16・20.6E6・13	VIIc. VIId	須恵器	鉢		18.0			A	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	体上：カキメ、体下：ケズリ			2/36								
55	41・50	166	1区		B-10H-6E6	VIIa	須恵器	有台杯		8.0			A	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右		18/36				墨書	「一」「口」		
55	38・50	167	1区		B-10H-5D16・17	VIIc	須恵器	有台杯	IIIb	13.8	9.2	3.9	A	灰白 (N7/0)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	右	10/36	29/36	20/36						
55	51	168	1区		B-10H-6E11	VIIb	須恵器	杯蓋	IIIb	14.0			D	灰 (10YR6/1)	還元	上部：ナデ、体：ロクロナデ	ロクロナデ			3/36								
55	38・41・51	169	1区		B-10H-5D25.6E6・13	VII. VIIc	須恵器	短頸壺蓋		16.0		(3.6)	A	灰 (10YR7/1)	還元	上部：ナデ、体：ロクロナデ	上部：ロクロケズリ、体部：ロクロナデ		左	7/36					墨書「口」			
55	51	170	1区		B-10G-3J24	VIIc	須恵器	壺・瓶類					C	灰白 (2.5Y7/1)	還元	体：ロクロナデ	体：ロクロナデ→ケズリ							自然軸				
55	51	171	1区		B-10H-5C15.5D22	VII. VIIb	須恵器	壺・瓶類					D	黄灰 (2.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ								自然軸			
55	51	172	1区		B-10H-7G1・6・19.7H22	VIIc. VIIa	須恵器	壺・瓶類					A	灰オリーブ (10Y4/2)	還元	ロクロナデ	肩・体上：ロクロナデ、体下：タタキ→ロクロナデ								自然軸			
55	51	173	1区		B-10H-5C2.6E6	VIIc	須恵器	壺・瓶類		7.0			D	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ケズリ	ケズリ→ナデ			10/36							
55	51	174	1区		B-10H-5C7	VIIc. 排土	須恵器	壺・瓶類		9.5			D	灰 (N6/)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				12/36							
55	51	175	1区		B-10H-6E20	VIIc	須恵器	壺・瓶類		9.8			D	黄灰 (2.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ				5/36				自然軸			
55	51	176	1区		B-10H-7F3	VIIa	須恵器	甕	A1				D	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	口：ロクロナデ	口：ロクロナデ・波状文			1/36					自然軸	自然軸		
55	51	177	1区		B-10H-5C14.6E16	VIIc. VIIb	須恵器	甕	A2	(25.0)			C	灰白 (2.5Y7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36				自然軸	自然軸			
55	51	178	1区		B-10H-4A8	VIIc	須恵器	甕	A1	(44.0)			A	褐灰 (7.5YR5/1)	還元	口：ロクロナデ	口：ロクロナデ・波状文			2/36								
55	38・51	179	4区		B-10G-3J16	VIIa. VIIb	土師器	無台碗	II A	15.5	7.0	5.0	IVb	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り	右	15/36	25/36	16/36						
55	38・51	180	4区		B-10G-3J22	VIIb	土師器	無台碗	III C	12.4	6.2	4.2	I c	浅黄橙 (10YR8/3)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り	右	28/36	36/36	32/36						
55	51	181	4区		B-10G-3J16	VIIb	土師器	無台碗	III A	13.8	6.2	4.1	IIIb	にぶい橙 (5YR7/3)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ			4/36	14/36	10/36						
55	51	182	4区		B-10G-3J16	VIIb	土師器	無台碗	III C	11.8	5.4	4.2	II c	浅黄橙 (7.5YR8/3)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り	右	4/36	32/36	18/36						
55	51	183	4区		B-10G-3J21	VIIb	黒色土器	無台碗		14.0			IVb	明褐灰 (7.5YR7/2)	酸化	口～体：ミガキ・黒色処理	口～体：ロクロナデ			5/36								
55	51	184	4区		B-10G-3J12・21・23	VIIb. VIIc. VIIa	須恵器	無台杯	III A	12.0	8.5	2.9	B	灰 (N4/0)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り		3/36	22/36	18/36						
55	51	185	4区		B-10G-3J12・13	VIIa. VIIb	須恵器	無台杯	III B	(11.9)	(8.0)	3.5	B	黄灰 (2.5Y6/1)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り		2/36	5/36	4/36						
55	51	186	5区		B-10G-4H24	VIIb	土師器	無台碗	III	13.0			IIIb	にぶい橙 (7.5YR6/4)	酸化	口：ロクロナデ	口：ロクロナデ			5/36								
55	51	187	5区		B-10G-5I7	VIIb	土師器	無台碗		5.0			IIIb	にぶい黄橙 (10YR7/3)	酸化	体～底：ロクロナデ	体～底：ロクロナデ	糸切り	右		18/36							
55	51	188	5区		B-10G-5H4	VIIa	黒色土器	碗		(14.0)			II c	にぶい黄橙 (10YR6/4)	酸化	口～体：ミガキ・黒色処理	口～体：ロクロナデ、ミガキ			3/36								
56	51	189	2区		D-3I-8F5	VIIa. 表採	土師器	杯	A	13.0			II c	灰黄褐 (10YR6/2)	酸化	ミガキ	ミガキ			7/36				口：炭化物	スス			
56	51	190	2区		D-3I-9H13	VIIa	土師器	杯	A	13.7			II c	褐灰 (10YR5/1)	酸化	ナデ	ナデ			3/36								
56	51	191	2区		D-3I-4B4	VIIc	土師器	無台杯	B				I b	にぶい赤褐 (5YR5/4)	酸化	体～底：ロクロナデ	体～底：ロクロナデ、ミガキ				18/36		赤彩	赤彩	赤彩			
56	51	192	2区		D-3I-6E12	VIIa	土師器	高杯		5.0			I b	にぶい黄橙 (10YR7/4)	酸化	脚：ナデ	脚：ナデ・ハケメ				15/36							
56	51	193	2区		D-3I-5D11	VIIc	黒色土器	高杯		6.5			II b	にぶい黄橙 (10YR7/2)	酸化	ミガキ・黒色処理	ナデ・ハケメ			4/36								
56	51	194	2区		D-3I-4C24.5C4	VIIc. VIIa	黒色土器	杯		14.0			IIIb	黒褐 (10YR3/2)	酸化	ミガキ・黒色処理	ハケメ・ナデ			4/36								
56	51	195	2区		D-3I-8G12	VIIc	土師器	甕					II a	にぶい赤褐 (5YR5/4)	酸化	ナデ	ナデ									把手部		

図版No.	写真図版No.	報告書No.	出土位置			層位	種別	器種		法量 (cm)			胎土分類	色調	焼成	製作痕・文線等				遺存率			付着物等			備考	レプリカNo.	
			区	遺構名	グリッド			器種名	分類	口径	底径	器高				内面	外面	底面	回転方向	口縁部	底部	全体	内面	外面	底面			
56	51	196	2区		D-3I-4B4	VIIa	土師器	小甕	A2	12.7			IIIb	にぶい黄橙(10YR6/3)	酸化	口：ナデ、体：ハケメ	口：ナデ、体：ハケメ			9/36								
56	51	197	2区		D-3I-9H12	VIIa	土師器	甕	B5	(19.0)			IIc	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	口：カキメ、体：ロクロナデ	口：ロクロナデ、体：ハケメ			2/36								
56	38・43	198	2区		D-3I-8G18・19	VIIc, VIIa	土師器	甕	Aa		8.0		IIc	灰黄褐(10YR6/2)	酸化	ハケメ→ナデ	ハケメ	ハケメ			16/36						179	
56	38・43	199	2区		D-3I-4B4	VIIa	土師器	甕	Ab		7.6		IIIa	灰黄(2.5Y7/2)	酸化	体～底：ハケメ→ケズリ	体～底：ケズリ	ケズリ			36/36							
56	43・51	200	2区		D-3I-4C23・24	VIIc, VIIa	土師器	甕	Ab		9.0		IIIa	灰白(10YR8/1)	酸化	底：ナデ	底：ナデ	木葉痕			14/36						160	
56	38・43	201	2区		D-3I-8G13・18・19	VIIc, VIIa	土師器	甕	Ab		9.0		IIb	褐灰(10YR4/1)	酸化	ハケメ	ナデ	ハケメ			31/36				スス			
56	51	202	第7次調査	SD	8T		土師器	瓶		23.0			Ia	浅黄橙(10YR8/4)	酸化	ハケメ→ケズリ→ナデ	口：ナデ、体：ハケメ			5/36								
56	51	203	2区		D-3I-8G19・24	VIIc, VIIa	土師器	ミニチュア甕		10.0			Ia	にぶい黄橙(10YR6/4)	酸化	ナデ	口：ナデ、体：ミガキ			8/36								
56	38・51	204	2区		D-3I-4C11	VIIa	土師器	手づくね	B	10.0	8.4	4.4	Ia	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	ナデ	ナデ			10/36	7/36	9/36						
56	38・51	205	2区		D-3I-8G24	VIIc	土師器	手づくね	B	3.2	2.6	2.5	Iva	灰黄(2.5Y7/2)	酸化	ナデ	ナデ	ナデ			26/36	16/36	21/36					
56	38・51	206	2区		D-3I-4B10	VIIa	土師器	手づくね	A	4.3	丸底	2.4	Ib	にぶい橙(5YR7/3)	酸化	ナデ	ナデ	ナデ			30/36	36/36	33/36					
56	38・51	207	2区		D-3I-4C6	VIIa	土師器	手づくね	A	4.8	丸底	2.9	Ib	灰白(2.5Y7/1)	酸化	ナデ	ナデ	ナデ			36/36	36/36	36/36					
56	38・51	208	第7次調査	SD	8T		土師器	手づくね	A	4.5	丸底	2.6	Ic	淡黄(2.5Y8/3)	酸化	ナデ	ナデ			36/36	36/36	36/36						
56	38・51	209	第7次調査	SD	8T		土師器	手づくね	A	5.0	丸底	2.9	Ia	にぶい橙(5YR7/3)	酸化	ナデ	ナデ			29/36	36/36	33/36						
56	38・52	210	2区		D-3I-4C11・16	VIIc, VIIa	須恵器	無台杯	IIIb	11.8	7.0	3.5	A	灰白(N7/0)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	右	17/36	36/36	29/36						
56	52	211	2区		D-3I-4B10	VIIc, VIIa, 攪乱	須恵器	有台杯	IIA	16.8	11.0	4.1	A	灰白(2.5Y7/1)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り		9/36	8/36	9/36						
56	52	212	2区		D-3I-8G12	VIIc	須恵器	有台杯	IVC	9.8	5.8	4.9	B	灰(N6/0)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	右	1/36	23/36	10/36						
57	52	213	2区		D-3I-4C11・17	VIIc, VIIa	須恵器	有台杯	D		10.0		D	灰(5Y5/1)	還元	底：ロクロナデ	底：ロクロナデ	ヘラ切り	右	8/36					自然釉			
57	52	214	2区		D-3I-5D24	VIIc	須恵器	有台杯	A		6.0		A	褐灰(10YR5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			9/36								
57	52	215	2区		D-3I-8G12	VIIc	須恵器	杯蓋	IA	(17.0)			A	灰(N6/0)	還元	口～体：ロクロナデ、かえり	口～体：ロクロナデ、天：ロクロケズリ			2/36								
57	52	216	2区		D-3I-7F6	VIIa	須恵器	杯蓋	IIIA	14.0			D	褐灰(10YR6/1)	還元	ロクロナデ、かえり	ロクロナデ			3/36								
57	41・52	217	2区		D-3I-7F25・28, 8G1	VIIc, VIIa	須恵器	杯蓋	IID	(16.0)			D	灰白(N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ			3/36							墨書「日置口」	
57	52	218	2区		D-3I-5C4, 5D24, 6D4	VIIa	須恵器	杯蓋	IID	14.8	ツマミ 3.1	2.6	D	灰褐(7.5YR5/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ・ケズリ			3/36	ツマミ 36/36	4/36						
57	52	219	2区		D-3I-6D4	VIIa	須恵器	壺・瓶類		12.0			A	褐灰(10YR6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			4/36								
57	52	220	2区		D-3I-5D23・24, 6D10	VIIa・VIIc・VIIa	須恵器	長頸瓶					D	褐灰(10YR5/1)	還元	ロクロナデ、指頭庄痕	体上：ロクロナデ、体下：ロクロケズリ		左					自然釉	自然釉			
57	52	221	2区		D-3I-9H7	VIIc	須恵器	横瓶					A	灰(10Y5/1)	還元	あて具痕	タタキメ・カキメ											
57	52	222	3区		D-4J-4D21	VIIa	土師器	無台杯	A	9.5	7.0	2.6	IVb	灰黄褐(10YR6/2)	酸化	ナデ	ナデ	ナデ			3/36	6/36	6/36				スス	
57	52	223	3区		D-4J-3B19	VIIc	土師器	有台碗			5.0		IIIb	にぶい黄橙(10YR6/4)	酸化	ナデ	ナデ			5/36								
57	52	224	3区		D-4J-4D21	VIIc	黒色土器	高杯					IVb	黄灰(2.5Y4/3)	酸化	体：ミガキ?、黒色処理	体：ミガキ											
57	52	225	3区		D-4J-2B21	VIIc	土師器	小甕	A1	15.8			IIc	にぶい黄橙(10YR6/3)	酸化	ナデ	口～頸：ナデ、頸：指頭庄痕、体：ハケメ			1/36				頸～体：炭化物				
57	52	226	3区		D-4J-1A21	VII	土師器	甕	Aa		14.0		IIc	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	ハケメ	ハケメ、底部直上に1条黄位沈線巡る	木葉痕			3/36							
57	52	227	3区		D-4J-2A20・25	VIIc, VIIa	土師器	甕	A1	16.2			IIc	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ナデ	口～頸：ナデ、体：ハケメ			1/36				炭化物	スス			
57	44・52	228	3区		D-4J-3C21	VIIc	土師器	甕	A				Ib	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ハケメ?	ハケメ									スス		181
57	43・52	229	3区		D-4J-2A7	VII	土師器	甕					IIIa	にぶい黄褐(10YR6/3)	酸化	ナデ	ナデ	ナデ							炭化物			

図版No.	写真図版No.	報告書No.	出土位置			層位	種別	器種		法量 (cm)			胎土分類	色調	焼成	製作痕・文様等				遺存率			付着物等			備考	レプリカNo.			
			区	遺構名	グリッド			器種名	分類	口径	底径	器高				内面	外面	底面	回転方向	口縁部	底部	全体	内面	外面	底面					
57	52	230	3区		D-4J-2A20	VIIa	土師器	ミニチュア無台杯		(7.5)			IIc	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	ケズリ→ナデ	ナデ													
57	38・43・52	231	3区		D-4J-2A8	VIIc	土師器	ミニチュア無台杯		4.0	3.0	2.0	Ic	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ナデ	ナデ	ナデ・ハケメ		8/36	36/36	22/36								
57	52	232	3区		D-4J-2A20	VIIa	土師器	手づくね		(6.2)			IVb	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	ナデ	ナデ			1/36										
57	42・52	233	3区		D-4J-4C25	VIIc	須恵器	無台杯	IIc	12.4	5.2	4.6	A	灰(5Y5/1)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	糸切り	右	13/36	36/36	25/36		刻書						
57	42・52	234	3区		D-4J-2A1	VIIa	須恵器	無台杯	IA	14.0	8.0	3.6	A	灰白(10YR7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	4/36	19/36	6/36		刻書						
57	52	235	3区		D-4J-2B21	VIIc	須恵器	有台杯	IIIb	12.6	7.1	4.0	A	灰黄(2.5Y7/2)	酸化	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り		1/36	10/36	5/36								
57	52	236	3区		D-4J-2A8・14	VIIc	須恵器	壺・瓶類					A	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ 沈線2条													
57	44・52	237	3区		D-4J-3B20	VIIa	須恵器	壺・瓶類					D	黄灰(2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ、2条の沈線間に鋸歯状の刺突													176
58	52	238	第6次調査区		D-3I-8E16	VIIa	土師器	鉢		16.0			Ic	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	ナデ	ナデ・ミガキ			3/36										
58	52	239	第6次調査区		D-3I-8E22	VIIa	土師器	高杯		17.0			IVb	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	杯：ミガキ	杯：ミガキ			6/36										
58	38	240	第6次調査区		D-3I-7D16	VIIa	黒色土器	高杯			9.0		Ib	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	杯：黒色処理、脚：風化して不明	脚：ミガキ				31/36									
58	38	241	第6次調査区		D-3I-5B16	VIIa	土師器	甕	A2	26.0			Ia	灰黄(2.5Y7/2)	酸化	口：ハケメ、体：ナデ	口～体：ナデ・ハケメ			12/36										
58	52	242	第6次調査区		D-3I-4A16	VIIa	土師器	長甕	A1	26.0			IIa	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口：ハケメ、体：ナデ	口：ナデ、体：ハケメ			5/36										
58	52	243	第6次調査区		D-3I-5B23	VIIa	土師器	長甕	A1	22.3			IIIb	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口：ナデ、体：ハケメ	口：ナデ、体：ハケメ			11/36				スス						
58	52	244	第6次調査区		D-3I-8E16	VIIa	土師器	甕	A1	25.0			IIa	淡橙(5YR8/4)	酸化	口：ハケメ→ナデ、体：ナデ	口：ハケメ→ナデ、体：ハケメ			5/36				スス						
58	39	245	第6次調査区		D-3I-6B3	VIIa	土師器	甕か瓠		19.6			IIIb	にぶい黄橙(10YR5/3)	酸化	口～体：ハケメ	口：ナデ、体：ハケメ			16/36										
58	39	246	第6次調査区		D-3H-3J21	VIIa	土師器	甕	A1	18.0			IIIa	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口～体：ナデ	口：ナデ、体：ハケメ			13/36										
58	39・43・52	247	第6次調査区		D-3I-5B16	VIIa	土師器	甕	A		7.8		IIIb	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	底：ナデ	底：ハケメ	ナデ中央凹心			36/36									
58	39・43・52	248	第6次調査区		D-3I-5B16	VIIa	土師器	甕	Aa		9.8		IIIa	にぶい黄橙(10YR7/2)	還元	ナデ	ハケメ	ナデ中央凹心			18/36				スス					
58	39・44	249	第5次調査		6T	灰粘土	土師器	甕	Aa		9.0		IIIb	にぶい黄橙(10YR6/4)	酸化	体～底：ハケメ	体～底：ハケメ→ナデ	ナデ中央凹心			23/36									
58	39・44	250	第6次調査区		D-3I-6C22	VIIa	土師器	甕	Aa		7.2		IIa	黄灰(2.5Y5/1)	酸化	体～底：ナデ	体～底：ハケメ	ハケメ			36/36				スス					
59	44・52	251	第6次調査区		D-3I-8E21	VIIa	土師器	甕	A				IIc	にぶい黄橙(10YR7/2)	酸化	体：不明	体：ハケメ							漆	スス					
59	44・52	252	第6次調査区		D-3I-6C11	VIIa	土師器	甕	A				Ia	橙(7.5YR7/6)	酸化	ナデ	ハケメ										粘土帯つなぎ目に工具痕	84		
59	39・52	253	第6次調査区		D-3I-4A16	VIIa	土師器	手づくね	B	7.1	6.2	4.1	Ia	にぶい黄橙(10YR6/3)	酸化	口～底：ナデ	口～底：ナデ	ナデ		32/36	36/36	35/36			スス					
59	39・52	254	第6次調査区		D-3I-6E3	VIIa	土師器	手づくね	B	8.0	4.8	3.7	Ib	灰黄褐(10YR6/2)	酸化	口～底：ナデ	口～底：ナデ	ナデ		33/36	36/36	33/36			スス					
59	42・53	255	第6次調査区		D-3I-10F4	VIIa	須恵器	無台杯					A	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ		ヘラ切り							刻書					
59	53	256	第6次調査区		D-3I-5B16	VIIa	須恵器	有台杯	IIA	16.9	11.0	4.3	A	灰(7.5Y6/1)	還元	口～底：ロクロナデ・ナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り		9/36	14/36	13/36								
59	53	257	第6次調査区		D-3I-4A16	VIIa	須恵器	有台杯	IIB	15.8	11.3	4.3	A	灰白(7.5Y1/7)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	右	4/36	12/36	8/36								
59	53	258	第6次調査区		D-3I-8E17	VIIa	須恵器	有台杯			8.7		D	灰(N5/)	還元	口～底：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	ヘラ切り	右		36/36									
59	41・53	259	第6次調査区		D-3I-8E16	VIIa	須恵器	有台杯	IIA	15.5	10.6	4.2	A	灰白(N7/0)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り		13/36	15/36	15/36				墨書「□/□」				
59	42・53	260	第6次調査区		D-3I-5B22	VIIa	須恵器	杯蓋			ツマミ3.3		D	灰白(7.5Y7/1)	還元	体：ロクロナデ	体：ロクロナデ、天：ケズリ							刻書						
59	53	261	第6次調査区		D-3I-8E16	VIIa	須恵器	鉢		(16.0)			D	褐灰(10YR6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			3/36				自然軸	自然軸					
59	53	262	第6次調査区		D-3I-8E22	VIIa	須恵器	壺・瓶類		11.0			A	灰白(7.5Y7/1)	還元	口～頸：ロクロナデ	口～頸：ロクロナデ				21/36									

図版No.	写真図版No.	報告書No.	出土位置			層位	種別	器種		法量 (cm)			胎土分類	色調	焼成	製作痕・文線等				遺存率			付着物等			備考	レプリカNo.		
			区	遺構名	グリッド			器種名	分類	口径	底径	器高				内面	外面	底面	回転方向	口縁部	底部	全体	内面	外面	底面				
59	39	263	第6次調査区		D-3I-8E21	VIIa	須恵器	甕	A1	47.0			A	白灰(2.5Y7/1)	還元	口:ロクロナデ、体:あて具痕	口:ロクロナデ・波状文、体:タタキ					4/36							
59	53	264	第6次調査区		D-3I-8E22	VIIa	須恵器	甕					A	灰(7.5Y6/1)	還元	体~底:あて具痕	体~底:タタキ・カキメ												
60	53	265	第1次調査	SK	116T		土師器	無台碗	III B	13.2	5.5	4.4	IVb	黄橙(10YR8/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	8/36	36/36	18/36							
60	39・53	266	第1次調査	SK	116T		土師器	無台碗	III A	12.4	5.7	4.0	IIIa	黄橙(10YR7/8)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右	17/36	36/36	20/36							
60	53	267	第1次調査	SK	116T		土師器	無台碗	III B	12.0	5.6	4.0	I b	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	不明	8/36	36/36	12/36							
60	39・53	268	第1次調査	SK	116T		土師器	無台碗	II A	14.8	7.0	4.6	IIa	浅黄橙(10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	不明	15/36	34/36	24/36							
60	39	269	第1次調査	SK	116T		土師器	小甕	B1	13.5	6.5	12.1	IIa	明黄褐(10YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左	2/36	36/36	10/36				スス			
60	39	270	第1次調査	SK	116T		土師器	小甕	B		7.2		IIb	浅黄橙(10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36						スス		
60	39・53	271	第1次調査	SK	116T		須恵器	無台杯	II B	12.8	7.2	3.6	B	黄灰(2.5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	36/36	36/36	36/36							
60	39・53	272	第1次調査	SK	116T		須恵器	有台杯	III C	13.0	7.0	5.5	B	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	22/36	36/36	24/36							
60	41・53	273	第1次調査	SK	116T		須恵器	杯蓋	IV E	11.8			B	灰(5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36				墨痕		転用硯	
60	53	274	第1次調査	SK	116T		須恵器	甕	B2				A	黄灰(2.5Y6/1)	還元	口:ロクロナデ、体:あて具痕	口:ロクロナデ、体:カキメ・タタキメ												
60	40	275	第10次調査	SK1	1T	I	土師器	長甕	B3C	22.0	丸底	34.5	I a	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	口:ロクロナデ、体:カキメ・あて具痕	口:ロクロナデ、体:カキメ・タタキメ					36/36	36/36	36/36			スス		
60	40	276	第10次調査	SK1	1T	I	土師器	長甕	B3C	21.5	丸底	33.4	IIIb	浅黄橙(10YR8/3)	酸化	口:ロクロナデ、体:カキメ・あて具痕	口:ロクロナデ、体:カキメ・タタキメ					31/36	4/36	28/36			スス		
61	53	277	第1次調査		63T	VII	土師器	無台碗	III A	13.2	5.2	3.8	IVb	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	左	2/36	36/36	10/36				スス			
61	40・53	278	平成25年度立会		2号②	残土	土師器	無台碗	III A	13.0	6.0	4.1	I c	橙(7.5YR7/6)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	不明	18/36	28/36	20/36							
61	53	279	第1次調査		63T	VII	土師器	無台碗	II B	16.0	6.6	5.2	IIIa	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り		9/36	19/36	11/36							
61	53	280	第1次調査	SD	74T		黒色土器	無台碗		15.4			IVb	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ミガキ 黒色処理	ロクロナデ、体下:ケズリ					2/36							
61	53	281	平成25年度立会		2号①		土師器	無台碗	III A	14.0	7.0	4.2	IVa	浅黄橙(7.5YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	不明	11/36	10/36	12/36							
61	53	282	第1次調査		63T	VII	土師器	無台碗			6.3		IVb	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36								
61	41・54	283	第1次調査		63T	VII	土師器	無台碗					IVb	浅黄橙(10YR7/3)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右								墨書「口」		
61	54	284	第1次調査		63T	VII	土師器	鉢	C	22.0			IVb	浅黄橙(10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36							
61	54	285	第1次調査		114T	IX	黒色土器	高杯					IIIb	にぶい黄橙(10YR7/3)	酸化	ミガキ・黒色処理	ケズリ→ミガキ	脚:ナデ・黒色処理											
61	54	286	平成25年度立会		8号⑩		黒色土器	有台皿か有台碗			10.0		II c	赤黒(10R2/1)	酸化	ミガキ・黒色処理	ミガキ	黒色処理											
61	44・54	287	第2次調査		44T	VI	土師器	甕	Aa		8.0		IIIb	灰黄褐(10YR5/2)	酸化	ハケメ	ハケメ	ヘラ切り	ナデ		9/36								
61	40	288	平成25年度立会		10号⑩		土師器	小甕	B		6.7		I a	浅黄橙(10YR8/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	右		36/36								
61	54	289	平成25年度立会		9号⑩		土師器	長甕	B3	24.0			IIIb	黄橙(10YR8/6)	酸化	カキメ	カキメ					4/36							
61	54	290	平成25年度立会		2号②		土師器	長甕	B3	23.0			I b	にぶい橙(7.5YR7/4)	酸化	口:ロクロナデ、体:カキメ	ロクロナデ					4/36							
61	54	291	平成25年度立会		2号②		土師器	長甕	B				IIb	にぶい黄褐(10YR5/4)	酸化	ナデ	タタキメ										炭化物		
61	54	292	平成25年度立会		10号④		土師器	不明	B				IIa	にぶい黄橙(10YR6/3)	酸化	ハケメ	ハケメ												
61	54	293	平成25年度立会		2号②		土師器	鍋		31.8			II c	にぶい褐(5YR6/4)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ					3/36					スス		
61	40	294	平成25年度立会		2号③		土師器	長甕	B3C	24.0	丸底	36.3	IIIa	にぶい黄橙(10YR7/4)	酸化	口:ロクロナデ、体:あて具痕・ナデ	口:ロクロナデ、体:カキメ・タタキメ					18/36	36/36	33/36			スス		
62	40・54	295	第2次調査		38T	VI	須恵器	無台杯	I B	14.0	9.7	4.0	A	灰白(10YR8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ、体下:ケズリ	ヘラ切り	右	10/36	36/36	14/36							
62	54	296	第2次調査		1T	V~VI	須恵器	無台杯	III A	11.9	8.0	3.1	A	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	6/36	24/36	9/36							

図版No.	写真図版No.	報告書No.	出土位置			層位	種別	器種		法量 (cm)			胎土分類	色調	焼成	製作痕・文様等				遺存率			付着物等			備考	レプリカNo.	
			区	遺構名	グリッド			器種名	分類	口径	底径	器高				内面	外面	底面	回転方向	口縁部	底部	全体	内面	外面	底面			
62	54	297	第1次調査		98T	IX	須恵器	無台杯	III B	12.0	8.0	3.6	D	灰白(10YR7/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	16/36	18/36	16/36						
62	54	298	平成25年度立会		2号㊹		須恵器	無台杯	II A	12.3	8.6	3.0	B	灰(7.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	不明	8/36	16/36	13/36						
62	40・54	299	平成25年度立会		2号㊸	残土	須恵器	無台杯	III A	11.7	6.5	3.1	B	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	27/36	36/36	27/36						
62	40・54	300	平成25年度立会		2号㊸	残土	須恵器	無台杯	III A	12.0	7.0	3.0	B	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	右	20/36	36/36	20/36						
62	40・54	301	平成25年度立会		2号㊹		須恵器	無台杯	II A	12.5	8.0	2.9	B	灰(5Y6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	左	20/36	36/36	23/36						
62	54	302	平成25年度立会		8号㊹		須恵器	無台杯	II A	12.5	8.7	3.3	B	灰(10Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ		11/36	21/36	18/36						
62	44・54	303	第1次調査		63T	VII	須恵器	無台杯			8.0		B	灰白(10YR7/1)	還元	不明	ロクロナデ	ヘラ切り			7/36		漆					
62	54	304	平成25年度立会		2号㊸		須恵器	杯蓋	III C	14.6			A	灰(10Y6/1)	還元	ロクロナデ	ナデ			8/36				自然釉				
62	41・54	305	平成25年度立会		2号㊹	残土	須恵器	杯蓋	IV D	12.5	ツマミ 3.4	2.5	B	灰(7.5YR6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			5/36	ツマミ 33/36	8/36	墨痕			転用硯		
62	54	306	平成25年度立会		10号㊹		須恵器	甕	B2	25.8			D	褐灰(10YR5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ			2/36			自然釉					
62	54	307	第2次調査		3T	V~VI	須恵器	壺・瓶類					D	褐灰(10YR6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ											
62	54	308	平成25年度立会		2号㊹		須恵器	壺・瓶類					B	灰白(2.5Y6/1)	酸化	ロクロナデ	タタキ→ロクロナデ、体下：ケズリ		右									
62	54	309	平成25年度立会		10号㊹	残土	須恵器	壺・瓶類					B	オリーブ黒(5Y3/2)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ											
62	54	310	平成25年度立会		10号㊸		須恵器	壺・瓶類			8.0		B	黄灰(2.5Y5/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り			7/36							
62	54	311	平成25年度立会		2号㊸		須恵器	横瓶		12.3			D	褐灰(10Y6/1)	還元	口：ロクロナデ、体：あて具痕	口：ロクロナデ、体：タタキメ			2/36			口：自然釉	体：自然釉				
62	40	312	平成25年度立会		10号㊸		須恵器	横瓶					D	オリーブ黒(7.5Y3/1)	還元	体：あて具痕	体：タタキメ・カキメ・ケズリ				15/36							
63	54	313	第2次調査		50T	VI	須恵器	甕	A1	(37.0)			D	褐灰(10YR6/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ・波状文			2/36								
63	54	314	第1次調査		44T	VII	須恵器	甕	A2				D	褐灰(10YR6/1)	還元	ロクロナデ	ロクロナデ											
63	40	315	第1次調査		44T	VII	須恵器	甕	A2	40.0			D	褐灰(10YR6/1)	還元	カキメ	タタキメ→ロクロナデ			6/36				自然釉				
63	54	316	第1次調査	SD	74T		須恵器	甕					D	青灰(5PB5/1)	還元	あて具痕	タタキメ											
63	54	317	平成25年度立会		10号㊸	残土	灰釉陶器	壺・瓶類					猿投	灰白(2.5YR7/1)	還元	口～頸：ロクロナデ	口～頸：ロクロナデ							灰釉	灰釉		317と同一個体	
63	54	318	平成25年度立会		2号㊹	残土	灰釉陶器	壺・瓶類		14.0			猿投	灰白(2.5YR7/1)	還元	底：ロクロナデ	底：ロクロナデ	ヘラ切り			4/36			灰釉	灰釉		316と同一個体	
63	54	319	平成25年度立会		2号㊸		土師器	皿		6.0			IVb	灰白(10YR8/1)	酸化	ロクロナデ	ロクロナデ				6/36							
-	44	-	3区		D-4J-3C21	VIIc	土師器	甕					IIb	にぶい赤褐(5YR5/4)	酸化	ナデ									木葉痕		164	
-	44	-	1区		B-10H-7G7	VIIa	土師器	甕					IIb	にぶい黄橙(10YR6/4)	酸化		ハケメ								木葉痕		167	

別表3 土製品・石製品観察表

図版No.	写真図版No.	報告書No.	区	出土位置		層位	時代	器種	石材	法量				備考
				遺構	グリッド					長さ(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	
64	55	325a	1区	SD15	B-10H-6E7・8	3.VIc	古代	カマド形土製品					34.86	
64	55	325b	1区	SD15	B-10H-6E7	1	古代	カマド形土製品					11.50	
64	40・55	326	2区	SX42	D-3I-7E5	1	古代	円筒形土製品			90.00		270.98	
64	55	327	第6次調査区	SD6	D-3I-8D15	2	古代	円筒形土製品			101.00		54.27	
64	55	328	3区		D-4J-5D2	VIIc	古代	円筒形土製品			100.00		12.00	
64	40・55	329	第6次調査区		D-3I-8D9	VIIa	古代	円筒形土製品			94.00		175.14	
64	40・55	330	2区	SD3	D-3I-4C17	1	古代	円筒形土製品			92.00		88.09	
64	40・55	331	3区	SK5	D-4J-3B20	4	古代	円筒形土製品		46.00	79.00		67.98	
64	55	332	第6次調査区	SD4	D-3I-9F16	1	古代	円筒形土製品			70.00		50.29	
64	55	333	第6次調査区	SX11	D-3I-6B3	1	古代	土製支脚			63.00	55.00	261.31	
64	55	334	1区		B-10H-6D25	VIIc	古代	土製支脚			58.00	54.00	301.19	
64	55	335	1区		B-10H-8H10	VIIc	古代	管状土鉢					54.00	
64	55	336	1区		B-10H-8H3	VII.VIIc	古代	管状土鉢		97.00			159.97	
64	55	337	3区		D-4J-2A19	VIIc	古代	紡錘車				18.00	13.00	
64	55	338	2区		D-3I-4B5	VIIc	古代	紡錘車				34.00	54.79	
64	55	339	1区	SP41	B-10H-6E7	2	古代	不明土製品					42.00	
64	55	340	1区		B-10H-7H21	VIIa	古代	不明土製品					17.00	
64	55	341	第6次調査区	SX11	D-3I-5A15	2	古代	焼成粘土塊		79.00	65.00	22.00	59.40	
65	55	342	1区		B-10H-7H16	VIIc	古代	砥石	泥岩	99.00	24.00	19.50	68.65	
65	55	343	第6次調査区	SD6	D-3I-8D15	2	古代	砥石	泥岩	116.00	71.00	22.00	258.31	
65	55	344	5区		B-10G-4H25	II	古代	砥石	泥岩	172.00	43.00	9.00	57.16	
65	55	345	2区		D-3I-9H13	VIIa	古代	砥石	泥岩	67.00	43.00	46.00	98.69	
65	55	346	2区	SK13	D-3I-9H6	1	古代	砥石	泥岩	60.00	51.00	18.00	51.28	
65	56	347	1区		B-10H-4A15	VII	古代	砥石	真岩	89.00	50.00	27.00	109.12	
65	56	348	1区		B-10H-5C1	VIIc	古代	砥石	泥岩	174.00	191.00	65.00	2064.83	
65	56	349	3区	SK5	D-4J-3B20	3	古代	砥石	砂岩	178.00	145.00	89.00	2163.71	
65	56	350	1区		B-10H-6E11	VIIb	古代	磨耗礫	安山岩	124.00	61.00	30.00	344.81	
65	56	351	4区		B-10G-3J12	VIIa	古代	磨耗礫	泥岩	139.00	45.00	28.00	154.22	
66	56	352	第6次調査区	SX11	D-3I-6B3	1	古代	磨耗礫	安山岩	79.00	70.00	68.00	417.16	
66	56	353	第6次調査区	SX11	D-3I-6B3	1	古代	磨耗礫	安山岩	123.00	69.00	69.00	526.06	
66	56	354	1区	SD18	B-10H-4B16	2	古代	磨耗礫	花崗岩	101.00	82.00	60.00	56.47	
66	56	355	第6次調査区	SD6	D-3I-8D15	2	古代	磨耗軽石	軽石	95.00	54.00	34.00	34.30	
66	56	356	2区		D-3I-9G5	VIIc	古代	磨耗軽石	軽石	43.00	43.00	23.00	17.63	
66	56	357	平成25年度立会		2号㊸		古代	磨耗軽石	軽石	71.00	70.00	42.00	65.00	
66	56	358	第6次調査区		D-3I-8D9	VIIa	古代	砥石	安山岩	68.00	57.00	46.00	217.06	
66	56	359	1区	SD29	B-10H-6E1	2	古代	被熱礫	安山岩	99.00	75.00	42.00	266.35	
66	56	360	1区	SD38	B-10H-6F11	1	古代	被熱礫	安山岩	86.00	68.00	47.00	307.35	
66	56	361	2区	SD1	D-3I-5C10	2	古代	被熱礫	安山岩	69.00	89.00	50.00	309.32	

別表4 鍛冶関連遺物観察表

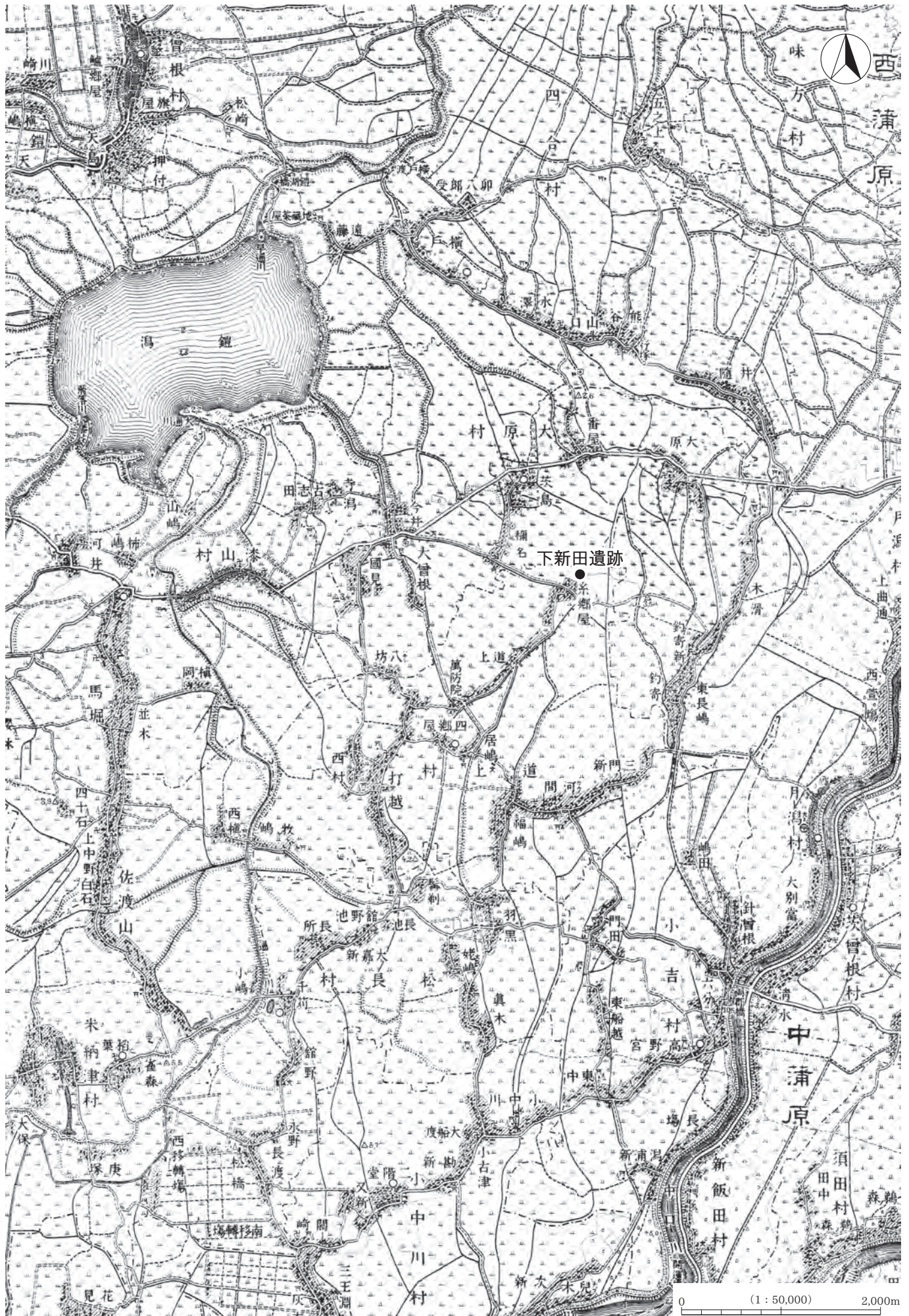
図版No.	写真図版No.	報告書No.	区	出土位置		層位	時代	器種	法量				備考
				遺構	グリッド				長さ(mm)	外径(mm)	厚・孔径(内径)(mm)	重量(g)	
63	55	320	1区	SX45	B-10H-7H22	1	古代	羽口		(74.00)	(30.00)	129.58	
63	55	321	2区	SK13	D-3I-9H7	3	古代	腕形滓	(41.00)		(18.00)	27.05	
63	55	322	2区	SD4	D-3I-8G18	1	古代	羽口		(65.00)	(32.00)	49.56	
63	55	323	2区		D-3I-8G24	VIIa	古代	羽口		(66.00)	(31.00)	23.91	
63	55	324	3区		D-4I-1J13	VIIc	古代	腕形滓	(37.00)		(16.00)	22.88	

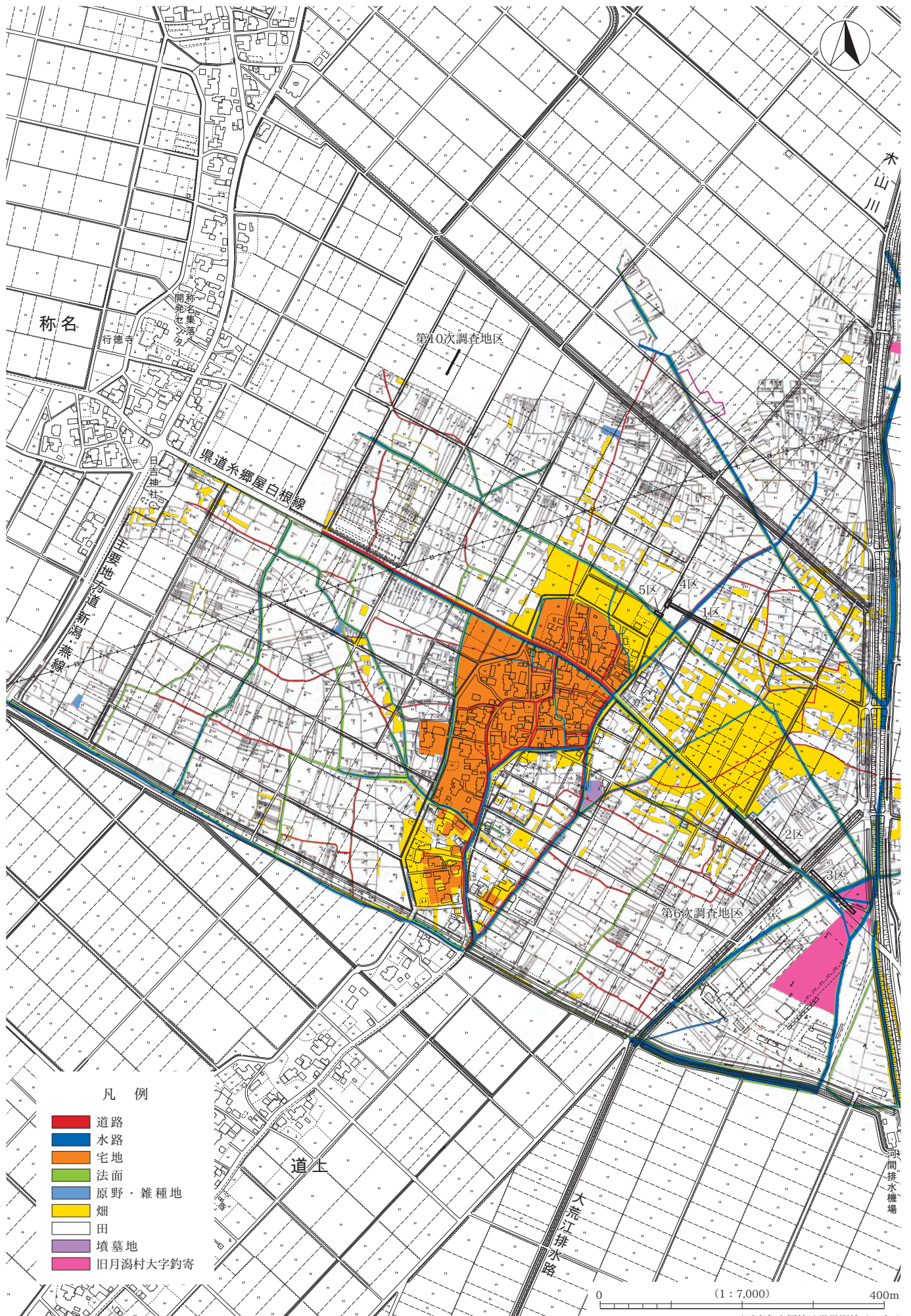
別表5 木製品観察表

図版No.	写真図版No.	報告書No.	区	出土位置			時代	器種	樹種	木取り	法量			備考
				遺構	グリッド	層位					長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ(cm)	
67	57	362	1区	SE57	B-10H-5C7	5	古代	齋串		板目	18.50	2.90	0.60	
67	57	363	1区	SE57	B-10H-5C7	6	古代	齋串		板目	18.40	2.70	0.40	
67	57	364	1区	SE57	B-10H-5C2	5	古代	箸状製品		板目	25.10	1.20	0.70	
67	57	365	1区	SE57	B-10H-5C7	6	古代	ヘラ状製品	竹		31.00	1.60	0.30	
67	57	366	1区	SE57	B-10H-5C2	5	古代	棒状製品		追衿目	26.80	3.20	3.20	
67	57	367	1区	SE57	B-10H-5C7	5	古代	棒状製品			(27.50)	6.00	5.00	半割材
67	57	368	1区	SE57	B-10H-5C7	5	古代	板状製品			(15.70)	4.20	1.80	半割材
67	57	369	1区	SE57	B-10H-5C7	5	古代	板状製品		板目	51.80	2.50	0.90	
67	57	370	1区	SE57	B-10H-5C2	5	古代	板状製品		榫目	(28.00)	1.40	0.50	
67	57	371	1区	SE57	B-10H-5C7	5	古代	板状製品		榫目	(19.50)	2.10	0.30	
67	57	372	1区	SE57	B-10H-5C2	5	古代	円形板状製品		榫目	18.40	(6.80)	0.50	
67	57	373	2区	SE25	D-3I-4B4	8	古代	円形板状製品		榫目	18.00	18.10	0.90	
68	58	374	2区	SP52	D-3I-8G24		古代	柱根	クリ		(123.80)	20.10	21.40	
68	58	375	2区	SP51	D-3I-7F11		古代	柱根	広葉樹	芯持	(39.90)	9.50	9.70	
68	58	376	2区	SP53	D-3I-9H6		古代	柱根	クリ		(44.80)	19.10	12.80	試料No.1 半割材
68	58	377	3区	SP55	D-4J-4C14		古代	柱根	クリ	芯持	(65.60)	14.90	17.10	試料No.2
68	58	378	3区	SP56	D-4J-4C2		古代	柱根	クリ	芯持	(71.00)	17.40	17.40	試料No.3
68	58	379	3区	SP57	D-4J-2A7		古代	柱根	ヤマグワ	芯持	(47.20)	12.20	10.10	試料No.4
68	58	380	3区	SP58	D-4J-2A1		古代	柱根	コナラ属コナラ節	芯持	(64.10)	11.00	10.50	試料No.5
68	58	381	3区	SP59	D-4J-2A21		古代	柱根	ヤマグワ	芯持	(44.50)	18.90	15.20	試料No.6
68	58	382	3区	SP60	D-4I-1J20・25		古代	柱根	ヤマグワ	芯持	(29.50)	17.50	14.70	試料No.7
68	58	383	3区	SP61	D-4I-1J13		古代	柱根	コナラ属コナラ節	芯持	(59.00)	16.10	14.00	試料No.8

※試料No.とは第VI章第5節樹種同定試料No.である。

圖 版



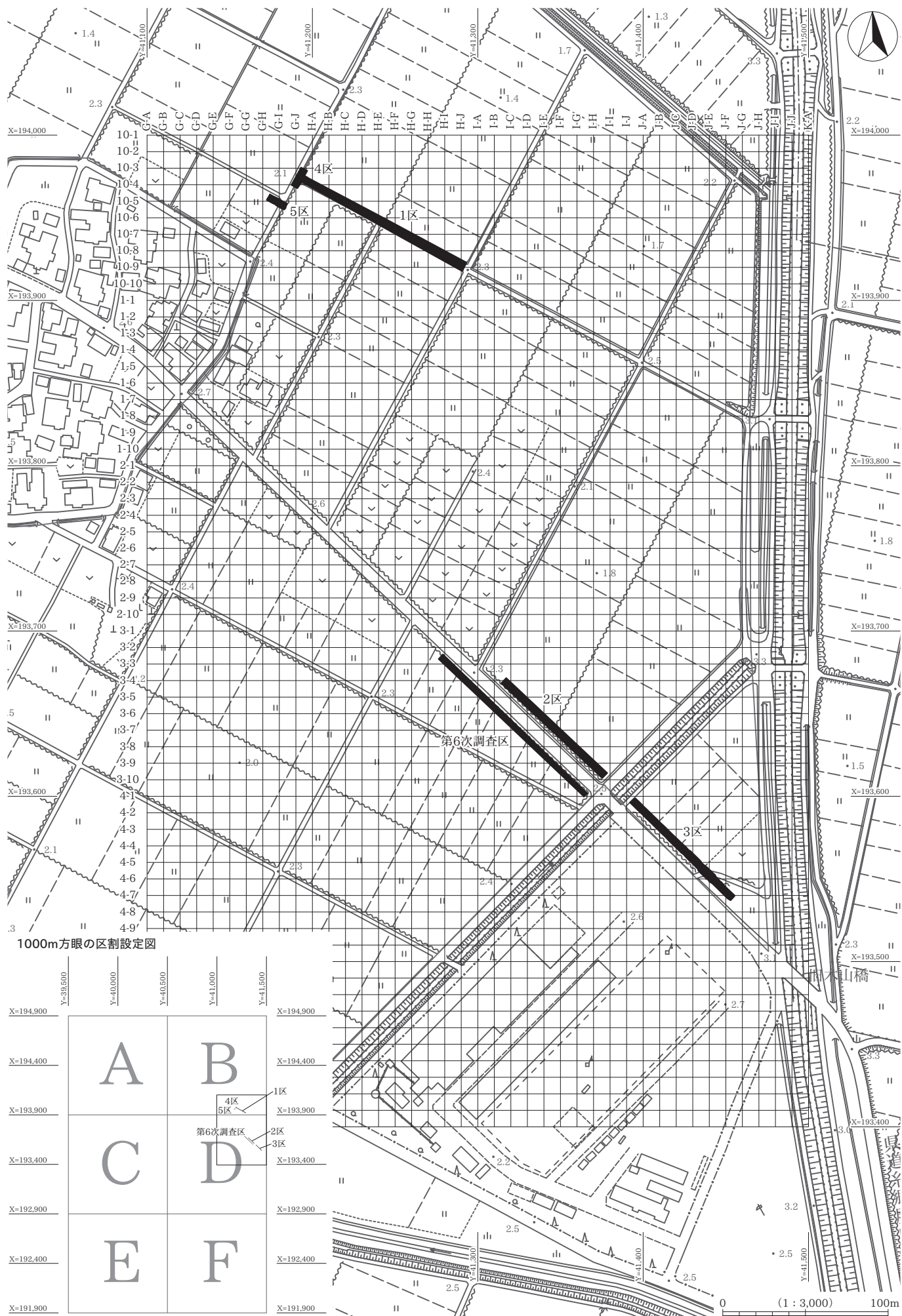




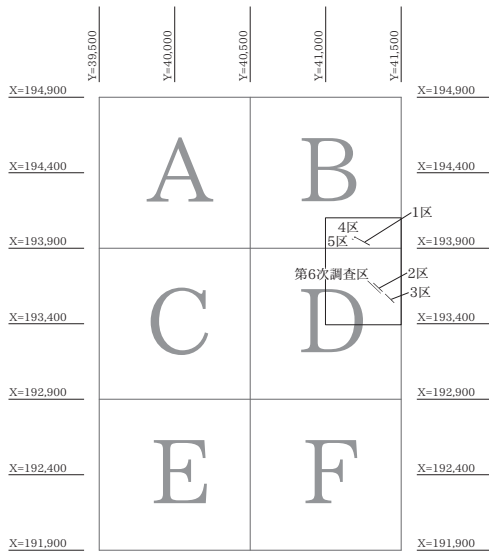
凡例

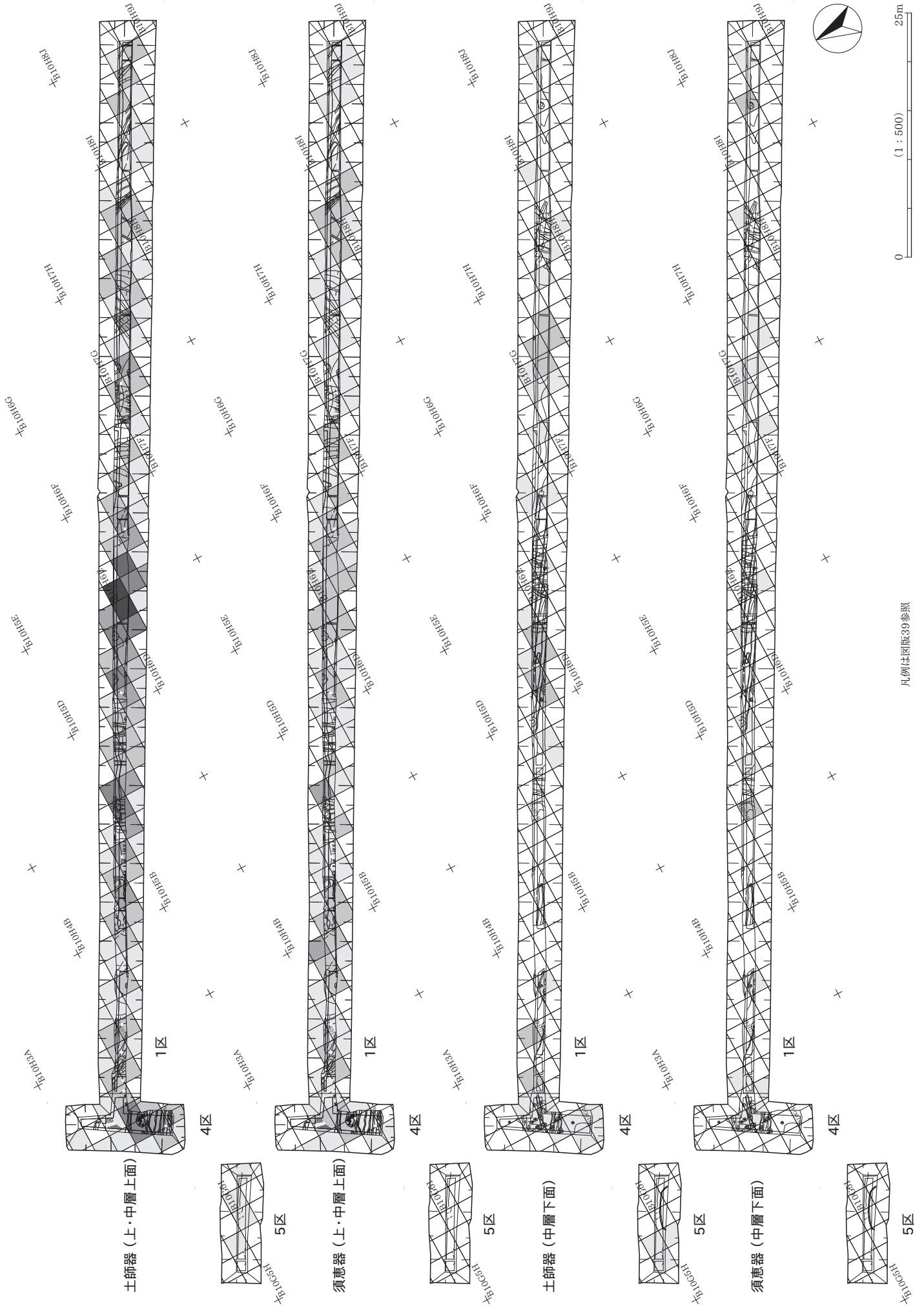
遺跡推定範囲
 2014年4月1日現在

0 (1 : 20,000) 800m

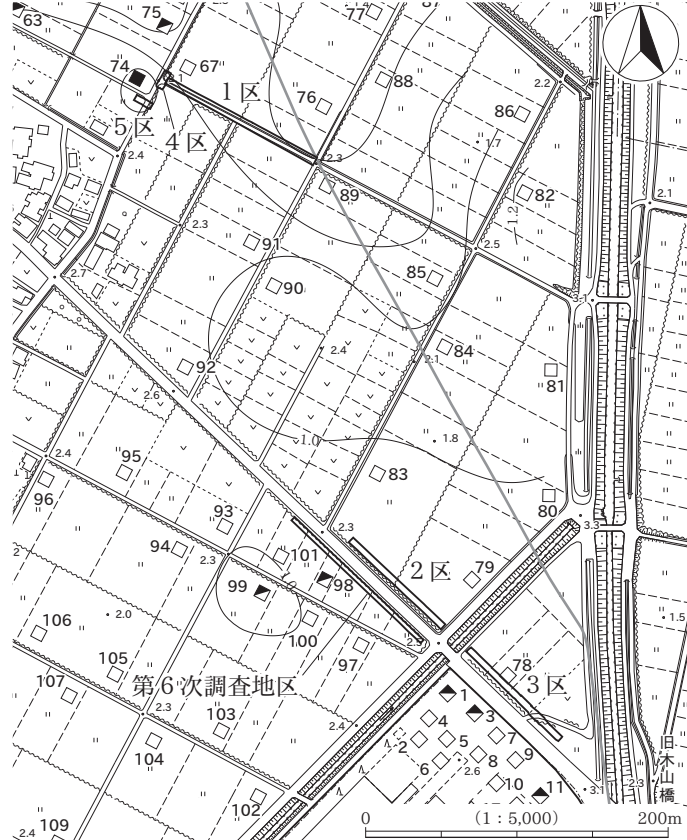


100m方眼の区割設定図

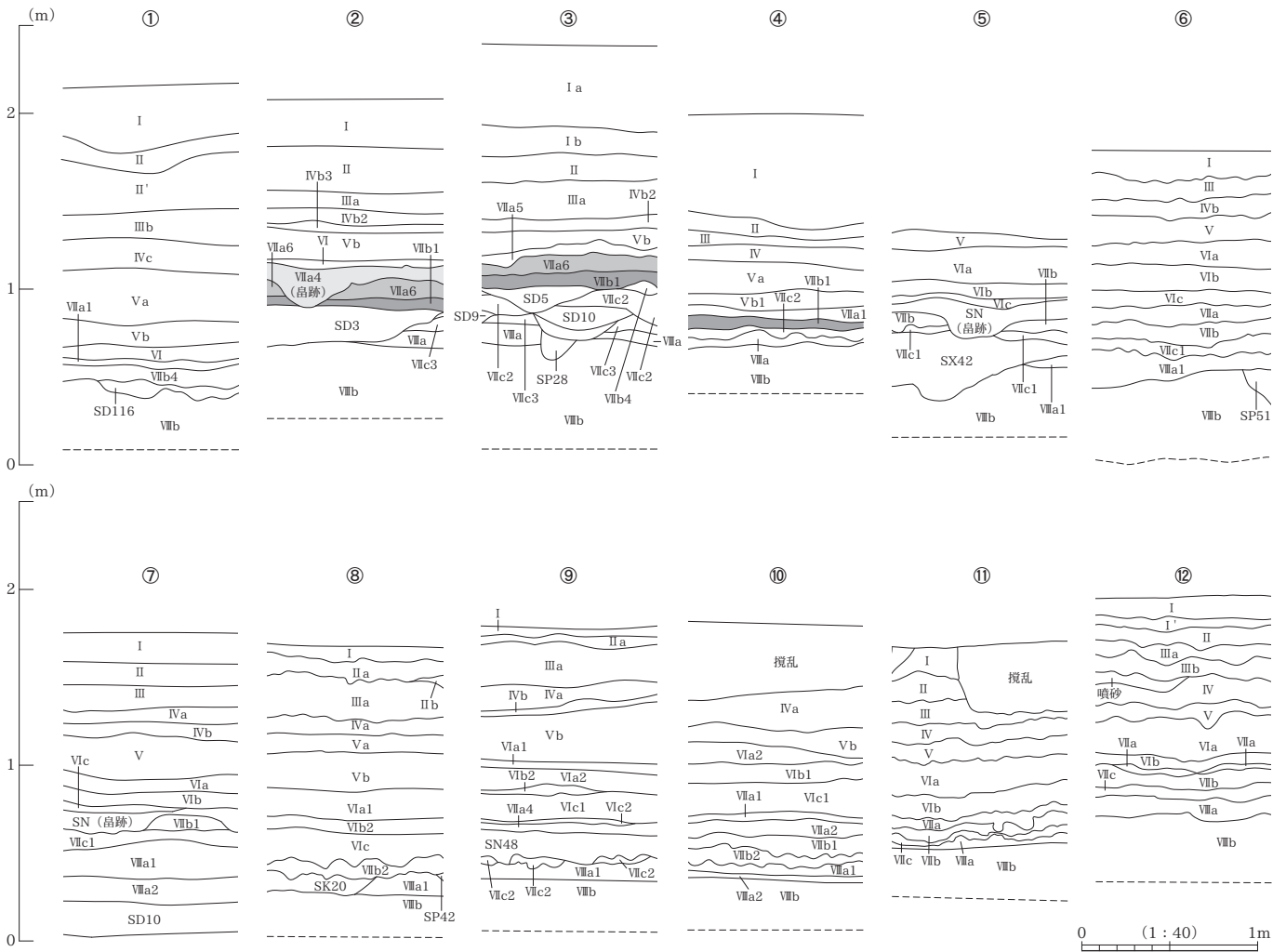
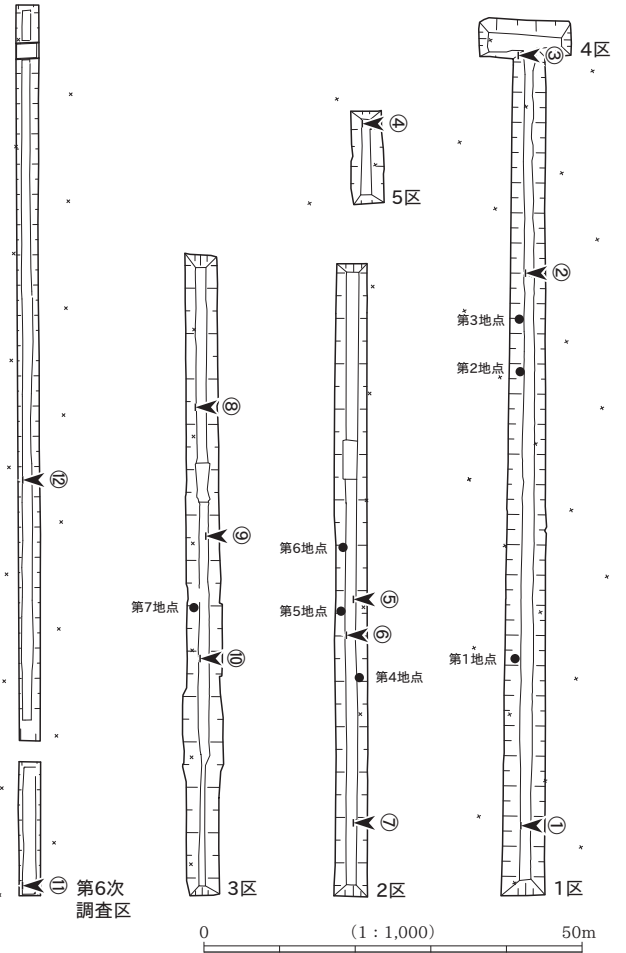




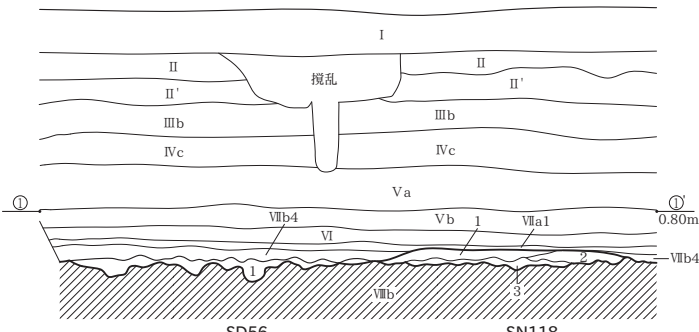
基本層序



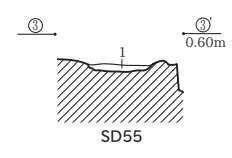
凡例
 ◀ 基本層序掲載地点
 ● 土壌サンプル地点



SN118・SD56

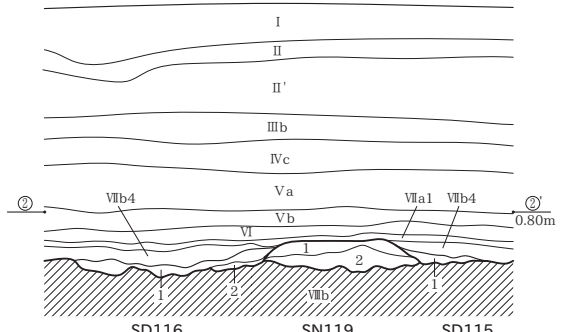


SD55



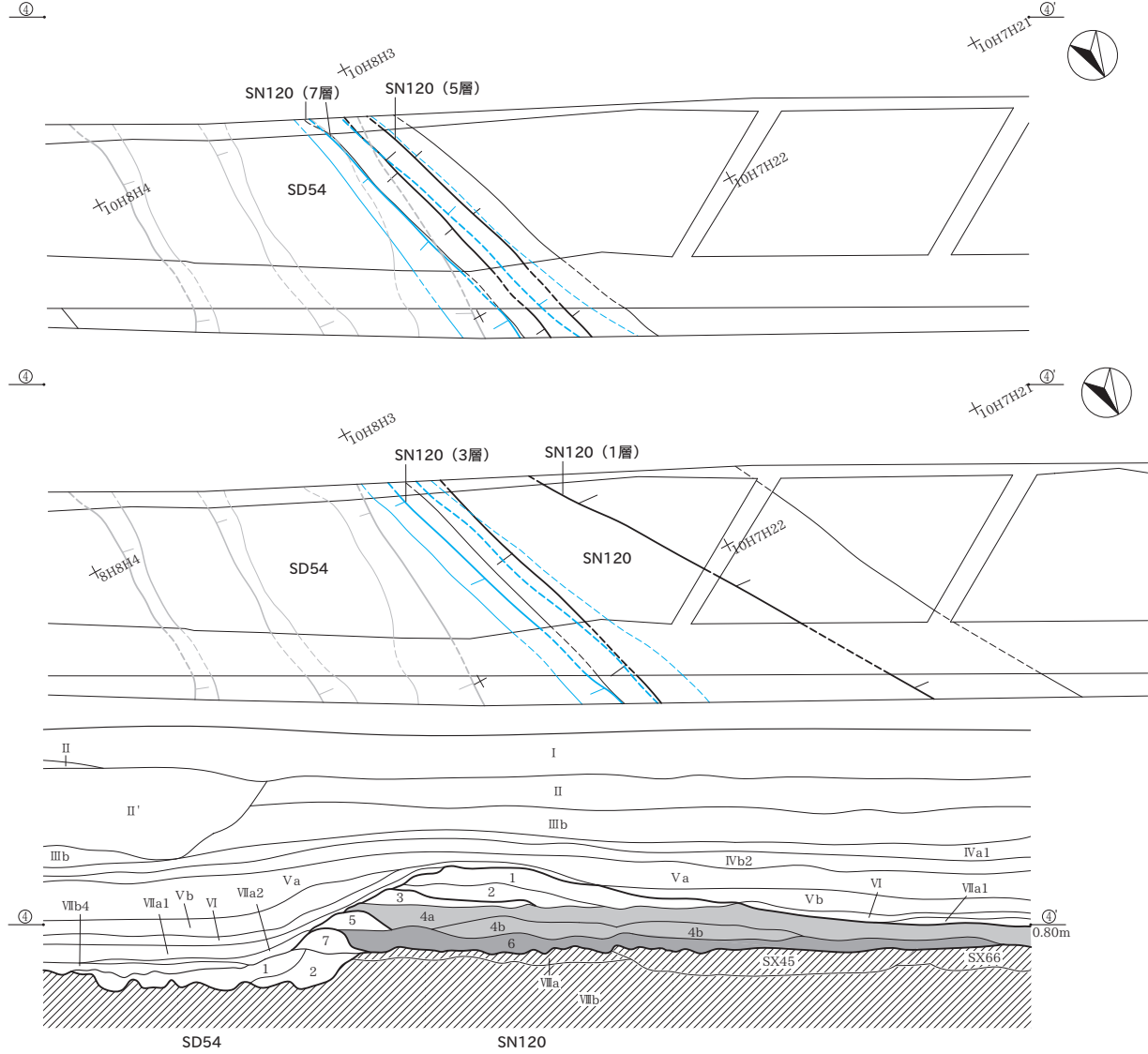
- SN118**
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に少量混じる。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。
 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量混じる。
- SD55**
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり、地山がマール状に多量混じる。
- SD56**
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり、地山がマール状に多量混じる。

SN119・SD115・116

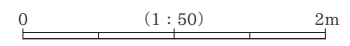


- SN119**
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。地山がブロック状に多量混じる。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり、地山がブロック状に多量混じる。
- SD115**
 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり、地山がマール状に少量混じる。
- SD116**
 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり、地山がマール状に少量混じる。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり、地山がマール状に中量混じる。

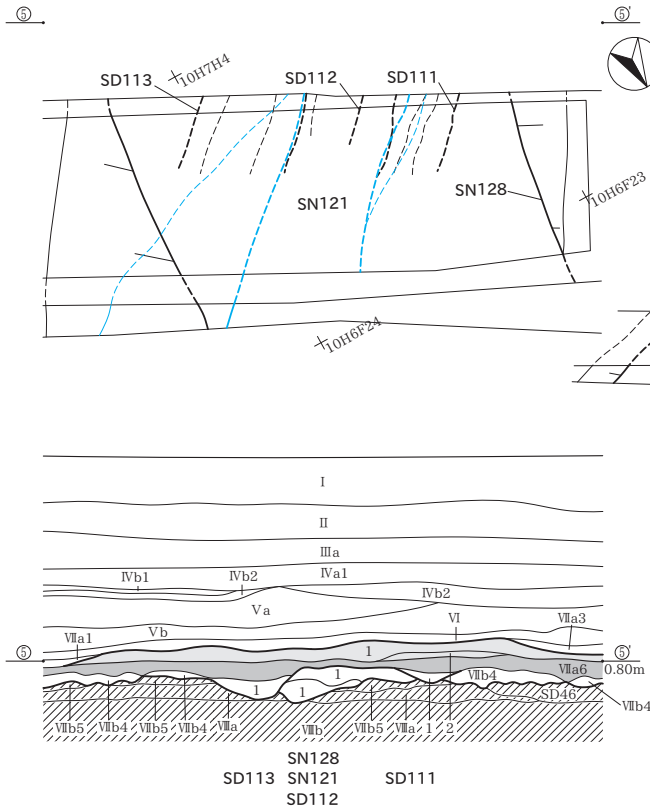
SN120・SD54



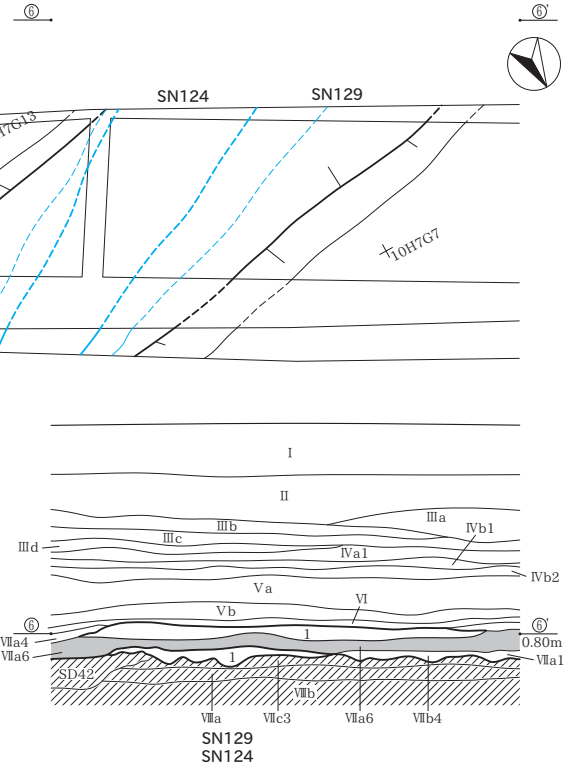
- SN120**
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、黄灰色粘質土、地山がブロック状に多量混じる。
 2 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黄灰色粘質土、地山がブロック状に少量混じる。
 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黄灰色粘質土、地山がブロック状に多量混じる。
- 4a 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ3mm以下を微量含む。黄灰色粘質土、地山がブロック状に中量混じる。
 4b 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ3mm以下を微量含む。黄灰色粘質土、地山がブロック状に中量混じる。
 5 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、黄灰色粘質土、地山がブロック状に多量混じる。
- 6 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、黄灰色粘質土、地山がブロック状に少量混じる。
 7 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、黄灰色粘質土、地山がブロック状に多量混じる。
- SD54**
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり、地山がマール状に少量混じる。
 2 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり、地山がマール状に中量混じる。



SN121・128・SD111・112・113

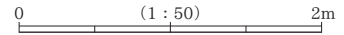


SN124・129

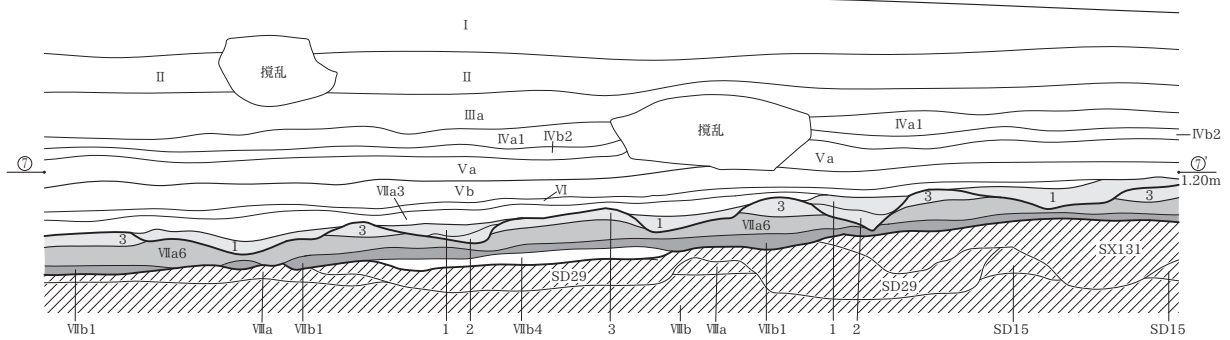


- SN121
 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黄灰色粘質土、地山ブロック状に少量混じる。
 SN128
 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、黄灰色粘質土がブロック状に微量混じる。VIIa6(基本層序)層。
 2 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、黄灰色粘質土がブロック状に中量混じる。
 SD111
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。
 SD112
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む。
 SD113
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。

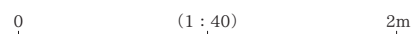
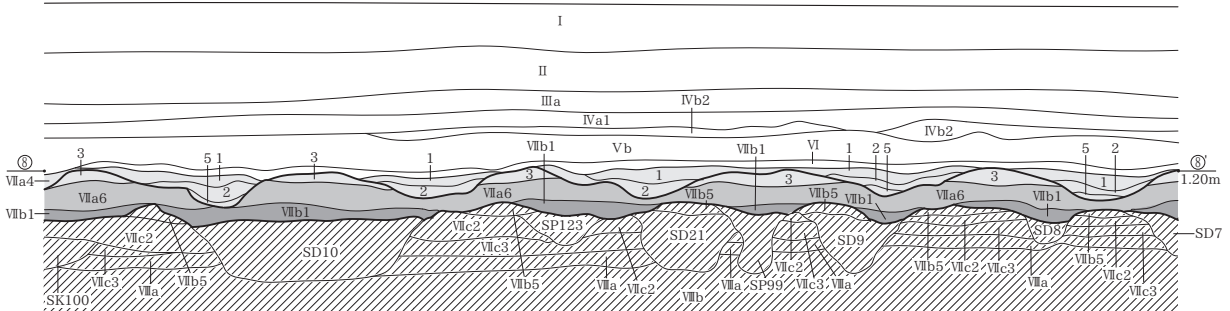
- SN124
 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm~1cmを微量含む。黄灰色粘質土がブロック状に中量混じる。
 SN129
 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。黄灰色粘質土がブロック状に少量混じる。



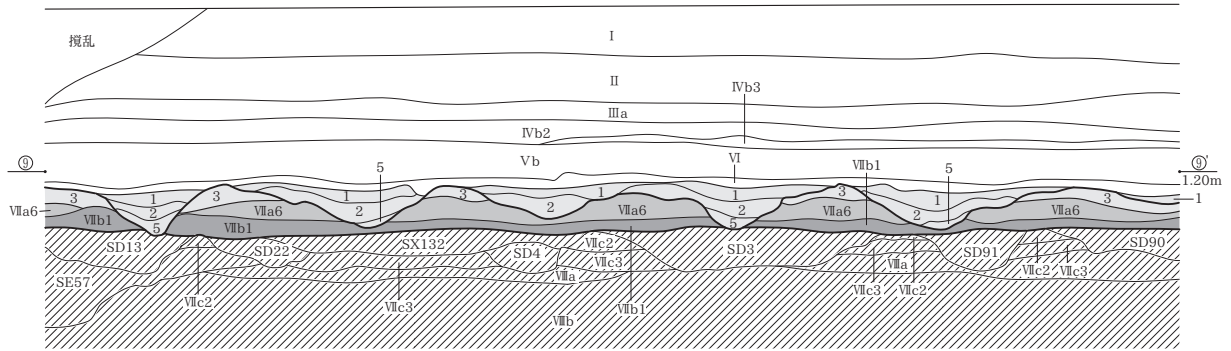
SN (畝跡) ①



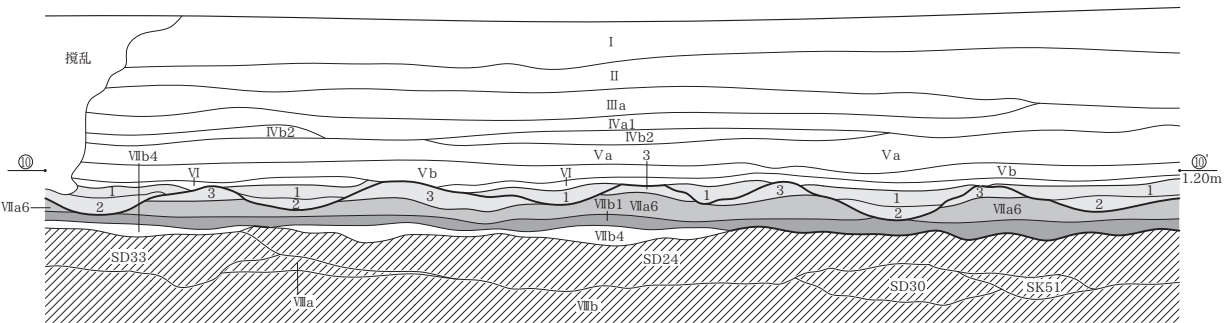
SN (畝跡) ②



SN (畠跡) ③



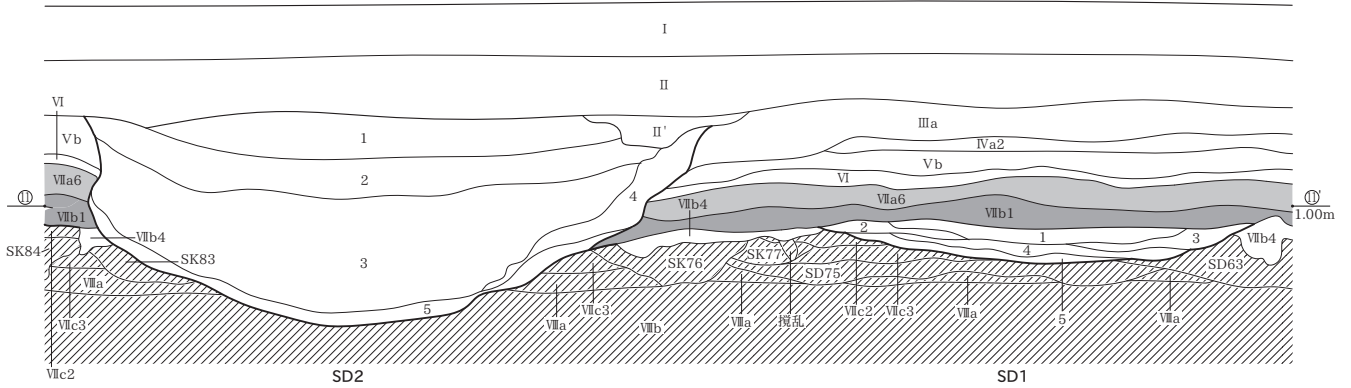
SN (畠跡) ④



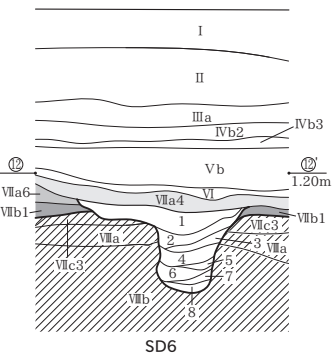
SN

- 1 褐灰色粘質土 (7.5YR5/1) 粘性あり、しまりあり、灰色粘質土、黒褐色粘質土がブロック状に中量混じる。未分解腐植物を微量含む。
- 2 灰褐色腐植土 (7.5YR5/2) 粘性ややあり、しまりあり、灰色粘質土、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。未分解腐植物を多量含む。
- 3 褐灰色粘質土 (7.5YR5/1) 粘性あり、しまりあり、灰色粘質土、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。未分解腐植物を少量含む。
- 5 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを少量含む。黄灰色粘質土がブロック状に少量混じる。

SD1・2



SD6



SD1

- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを少量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
- 2 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~7mmを少量含む。黒褐色粘質土がブロック状に中量混じる。
- 3 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5~10mmを少量含む。黒褐色粘質土がブロック状に中量混じる。
- 4 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ10~15mmを少量含む。地山がブロック状に微量混じる。
- 5 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ5~10mmを少量含む。地山がブロック状に微量混じる。

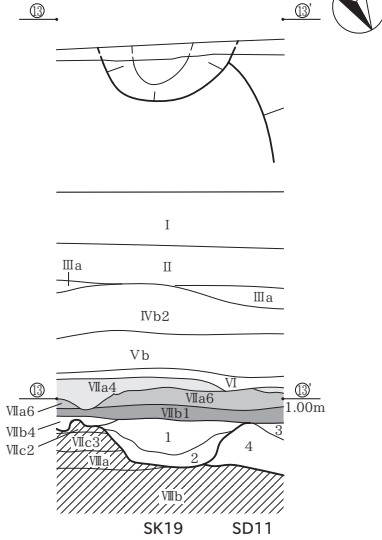
SD2

- 1 灰黄色粘質土 (2.5Y6/2) 粘性あり、しまりあり、下部に砂層が状在する。
- 2 灰黄色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。
- 3 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり、白色地がラミナ状に混じる。
- 4 灰黄色粘質土 (2.5Y6/2) 粘性あり、しまりあり、黒褐色粘質土、灰色粘質土、腐植物をラミナ状に中量含む。
- 5 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。地山がブロック状に微量混じる。

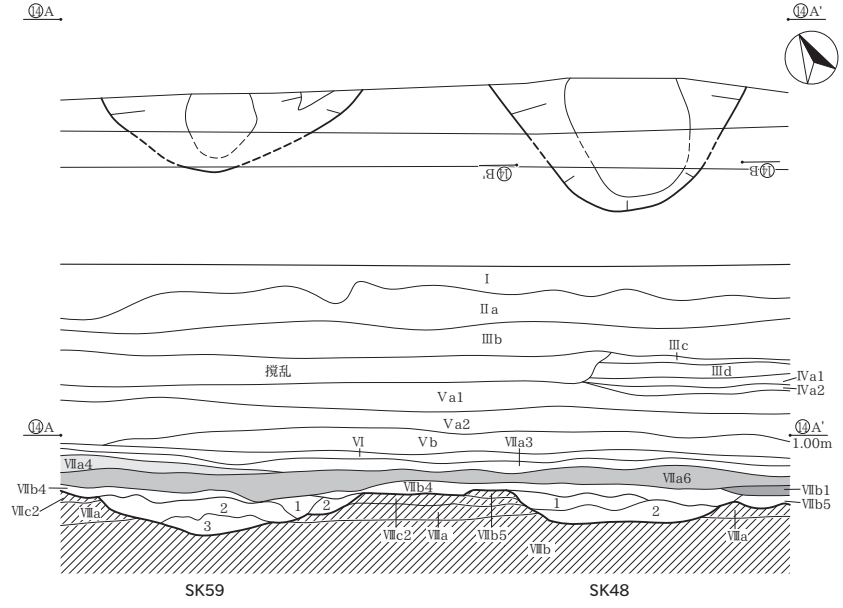
SD6

- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黄灰色粘質土、地山が少量含む。
- 2 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。地山がブロック状に多量混じる。
- 3 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを微量含む。黄灰色粘質土、地山が少量含む。
- 4 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量混じる。
- 5 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。地山が少量含む。
- 6 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量混じる。
- 7 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、地山が少量含む。
- 8 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量混じる。

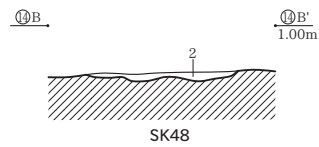
SK19



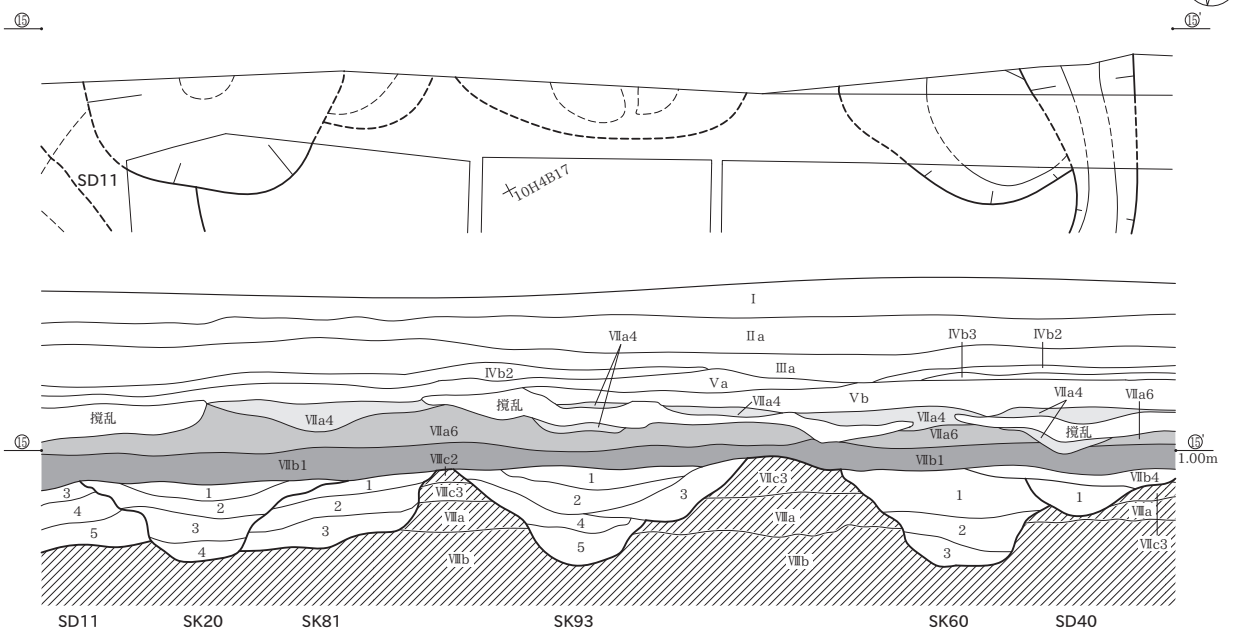
SK48・59



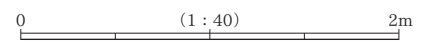
- SK19**
 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~7mmを微量含む。黒褐色粘質土、地山がブロック状に少量混じる。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを微量含む。地山がブロック状に中量混じる。
- SK48**
 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山ブロック状に少量混じる。
- SK59**
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。
 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山ブロック状に少量混じる。



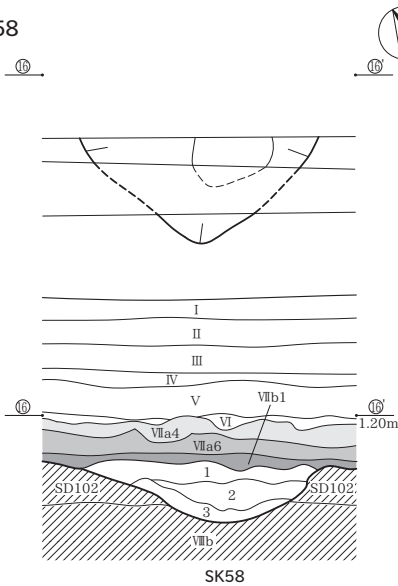
SK20・60・81・93・SD40



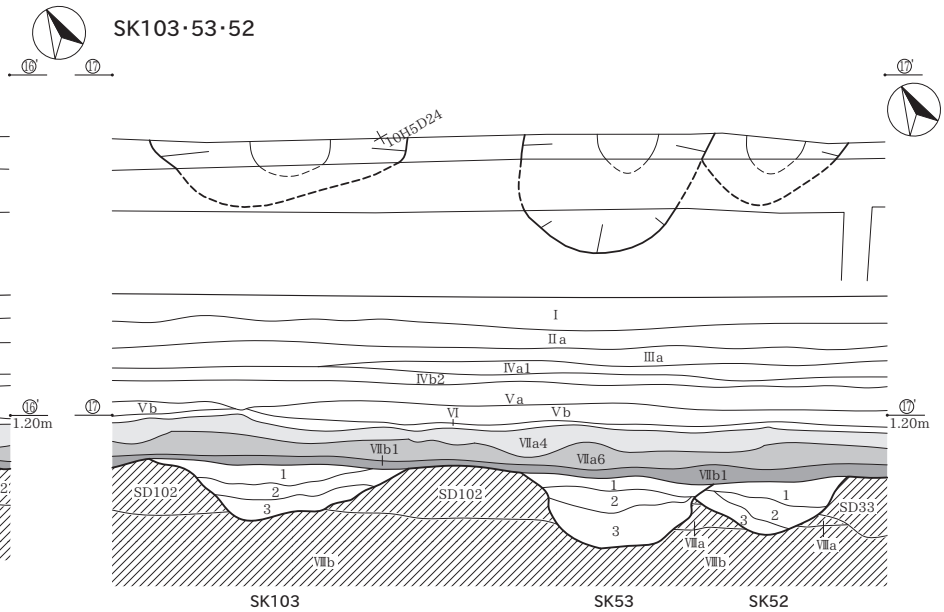
- SK20**
 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。黒褐色粘質土、地山がブロック状に少量混じる。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に少量混じる。
 4 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。
- SK60**
 1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に中量混じる。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。
 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
- SK81**
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黒褐色粘質土、地山がブロック状に少量混じる。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に少量混じる。
 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。
- SK93**
 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
 2 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを微量含む。黒褐色粘質土、地山がブロック状に少量混じる。
 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。
 4 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。
 5 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量混じる。
- SD40**
 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。黒褐色粘質土、黄灰色粘質土がブロック状に少量混じる。



SK58

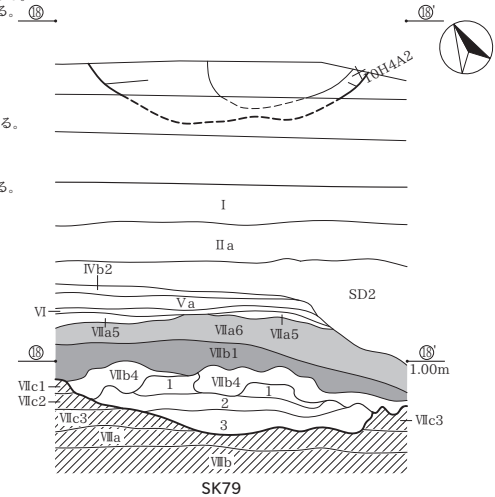


SK103・53・52



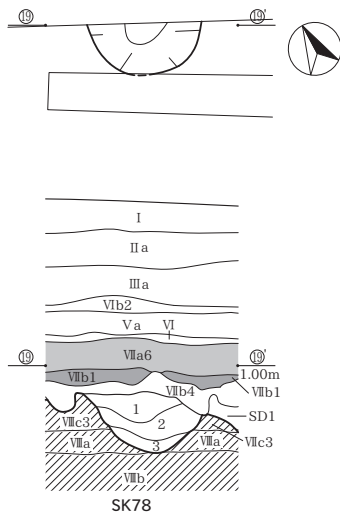
- SK58**
- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1.5cm以下を微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に中量混じる。
 - 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
 - 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ2.3cm以下を微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
- SK52**
- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1.5cm大を微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
 - 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm~1cmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
 - 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1.5cm以下を微量含む。地山がブロック状に中量混じる。
- SK53**
- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm~1.5cmを微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
 - 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1.5cm以下を微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
 - 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1.5cm以下を微量含む。地山がブロック状に中量混じる。
- SK103**
- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3~7mmを微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
 - 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。地山がブロック状に中量混じる。
 - 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。地山がブロック状に少量混じる。

SK79

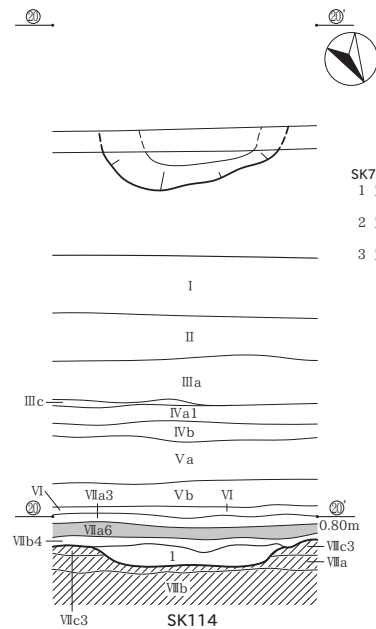


- SK79**
- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~3mmを少量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
 - 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に中量混じる。
 - 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。

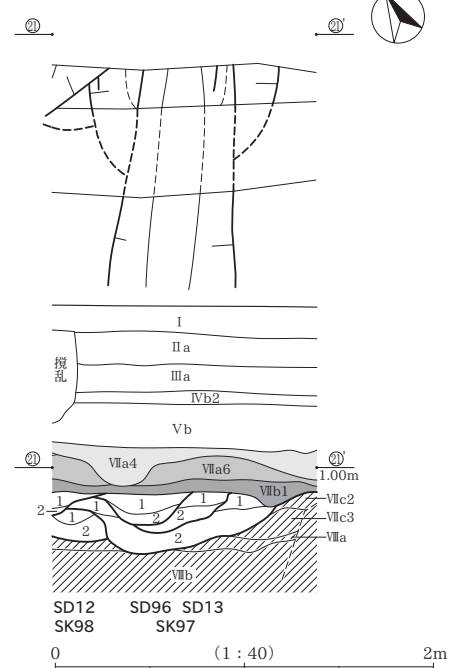
SK78



SK114



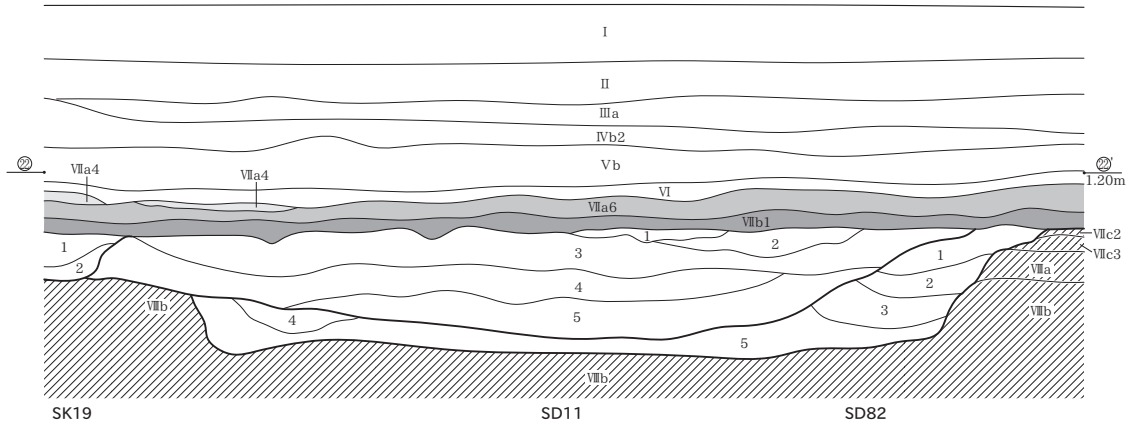
SK97・SD13・96



- SK78**
- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~3mmを微量含む。
 - 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~7mmを少量含む。地山がブロック状に中量混じる。
 - 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
- SK114**
- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。
- SK97**
- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を少量含む。黒褐色粘質土、地山がブロック状に少量混じる。
 - 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。
- SD13**
- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。黄灰色粘質土、地山が少量混じる。
 - 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。地山がブロック状に多量混じる。
- SD96**
- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黄灰色粘質土がブロック状に少量混じる。
 - 2 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、黄灰色粘質土、地山がブロック状に少量混じる。

0 (1 : 40) 2m

SD11・82



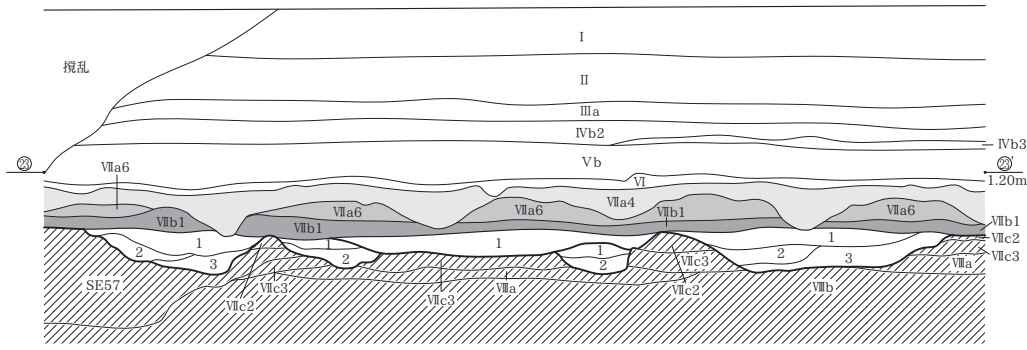
SD11

- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。灰黄色粘質土がブロック状に少量混じる。
- 2 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mm、25mm大を少量含む。黒褐色粘質土、灰黄色粘質土がブロック状に少量混じる。
- 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性あり、しまりあり、白色塊、黒褐色粘質土、灰黄色粘質土がブロック状に少量混じる。
- 4 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。
- 5 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。地山がブロック状に少量混じる。

SD82

- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。黒褐色粘質土、灰黄色粘質土をブロック状に少量混じる。
- 2 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~7mmを少量含む。地山がブロック状に中量混じる。
- 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
- 4 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを少量含む。
- 5 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ3~5mm、23mm大を少量含む。地山がブロック状に少量混じる。

SD3・4・13・22・SX132



SD3

- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を少量含む。黄灰色粘質土、地山が少量含む。
- 2 黄灰色砂質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、黒褐色粘質土、地山がブロック状に中量混じる。
- 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下、黒褐色粘質土、地山がブロック状に中量混じる。

SD4

- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黄灰色粘質土、地山が中量含む。
- 2 黄灰色砂質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、黒褐色粘質土、地山がブロック状に中量混じる。

SD13

- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。黄灰色粘質土、地山が少量混じる。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。地山がブロック状に中量混じる。
- 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。

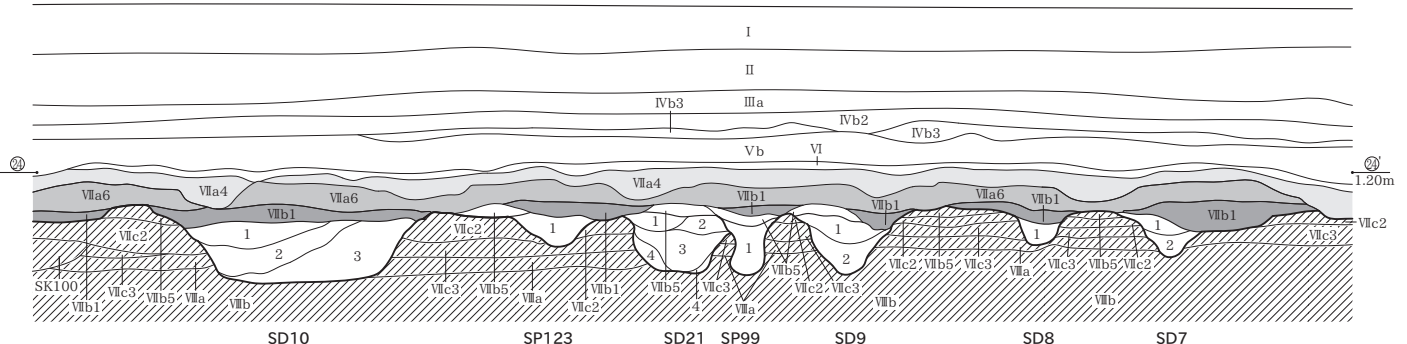
SD22

- 1 黄灰色砂質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを微量含む。黒褐色粘質土、地山がブロック状に少量含む。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。地山がブロック状に中量混じる。

SX132

- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。黄灰色粘質土、地山が少量含む。

SD7・8・9・10・21・SP99・123



SD7

- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。地山がブロック状に多量混じる。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。地山がブロック状に多量混じる。

SD8

- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。地山がブロック状に多量混じる。

SD9

- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。黒褐色粘質土、地山がブロック状に少量混じる。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に中量混じる。

SD10

- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
- 2 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に中量混じる。
- 3 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。

SD21

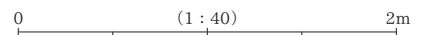
- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
- 2 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黒褐色粘質土、地山がブロック状に少量混じる。
- 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。

SP99

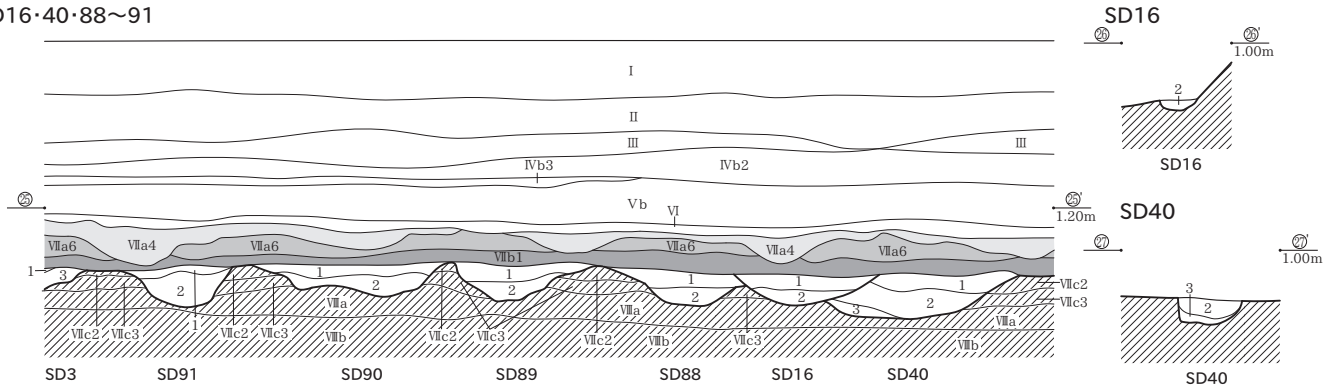
- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。

SP123

- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。

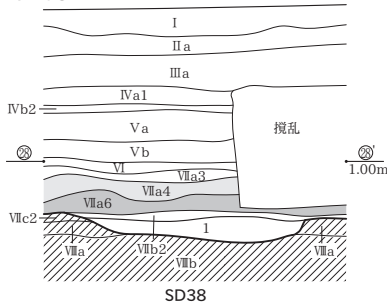


SD16・40・88~91

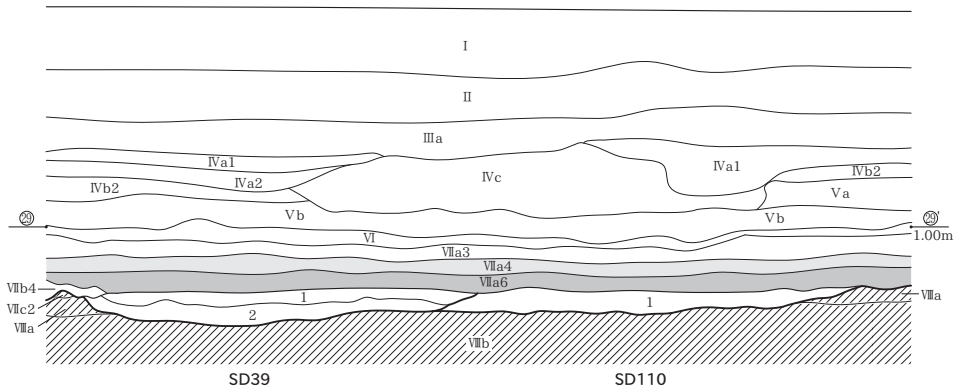


- | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| SD16
1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを微量含む。黒褐色粘質土、黄灰色粘質土がブロック状に少量混じる。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量混じる。 | SD89
1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~7mmを微量含む。黒褐色粘質土、黄灰色粘質土がブロック状に中量混じる。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。 |
| SD40
1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。黒褐色粘質土、黄灰色粘質土がブロック状に少量混じる。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。 | SD90
1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを少量に含む。黒褐色粘質土、黄灰色粘質土がブロック状に中量混じる。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。 |
| SD88
1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む。黒褐色粘質土、黄灰色粘質土がブロック状に少量混じる。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量に含む。 | SD91
1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm~1.3cmを少量含む。黒褐色粘質土、黄灰色粘質土がブロック状に少量混じる。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、黒褐色粘質土、黄灰色粘質土地山がブロック状に中量混じる。 |

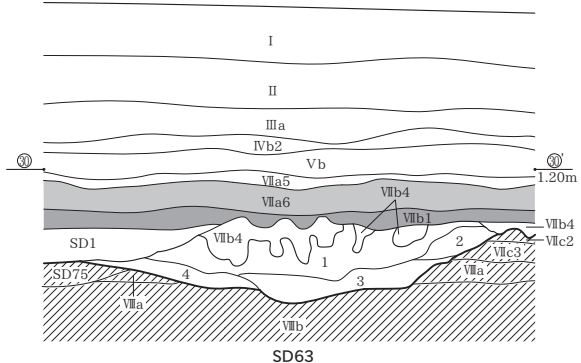
SD38



SD39・110

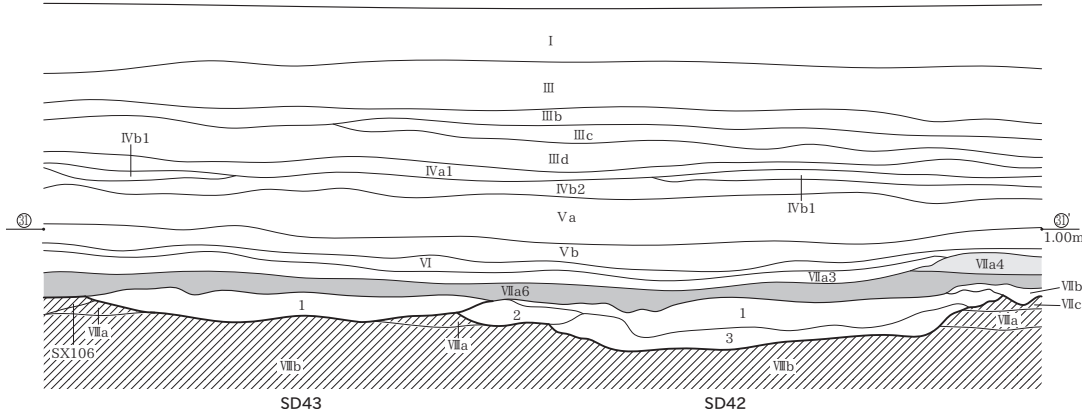


SD63



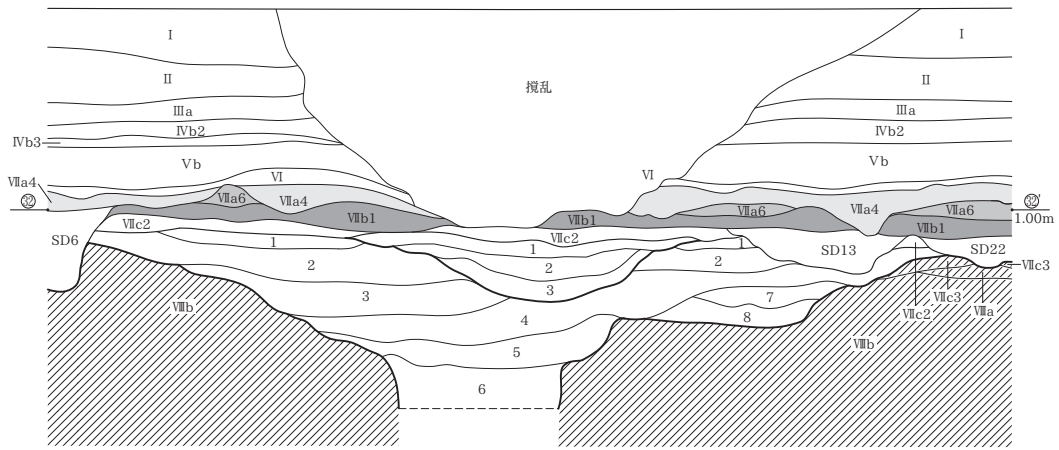
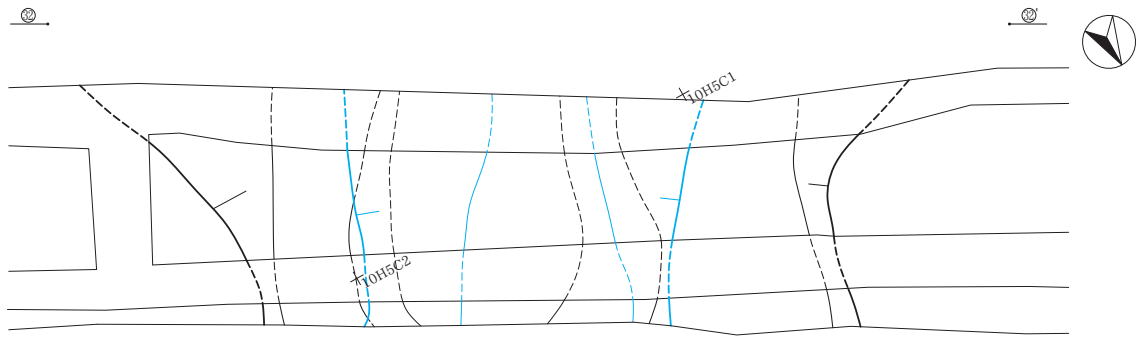
- | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| SD38
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5~7mm、3cmを微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。 | SD110
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。地山がブロック状に多量混じる。 |
| SD39
1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。 | SD63
1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを少量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に中量混じる。
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
4 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に中量混じる。 |

SD42・43



- | | |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| SD42
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に多量混じる。
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。 | SD43
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~7mmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|

SE57・SD5



SE57 SD5

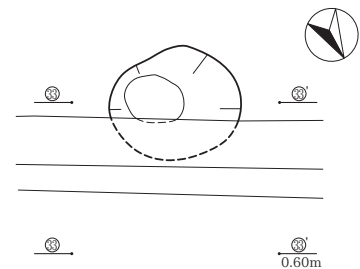
SE57

- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
- 2 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm~2.3cmを少量含む。地山がブロック状に少量混じる。
- 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、白色塊を少量含む。地山がブロック状に中量混じる。
- 4 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ2mm以下を微量含む。
- 5 灰色粘質土 (5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ3~5mmを少量含む。
- 6 灰色粘質土 (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ3~5mmを微量含む。
- 7 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。
- 8 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に少量混じる。

SD5

- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。黒褐色粘質土、地山がブロック状に少量混じる。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。地山がブロック状に中量混じる。
- 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量混じる。

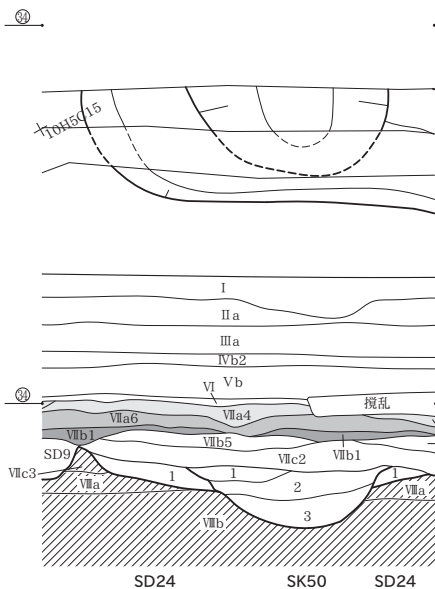
SK49



SK49

- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ3mm以下を微量含む。地山がブロック状に少量混じる。

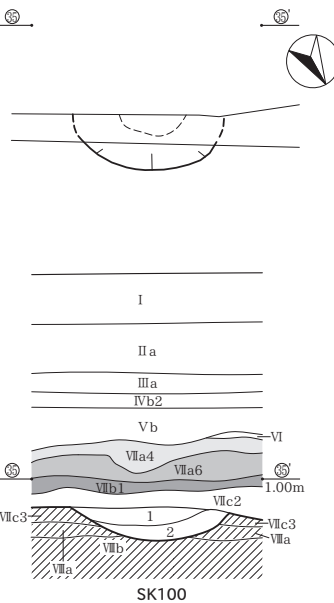
SK50・SD24



SK50

- 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に微量混じる。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む。黒褐色粘質土、地山がブロック状に少量混じる。
- 3 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm~1.5cmを微量含む。黒褐色粘質土、地山がブロック状に少量混じる。

SK100

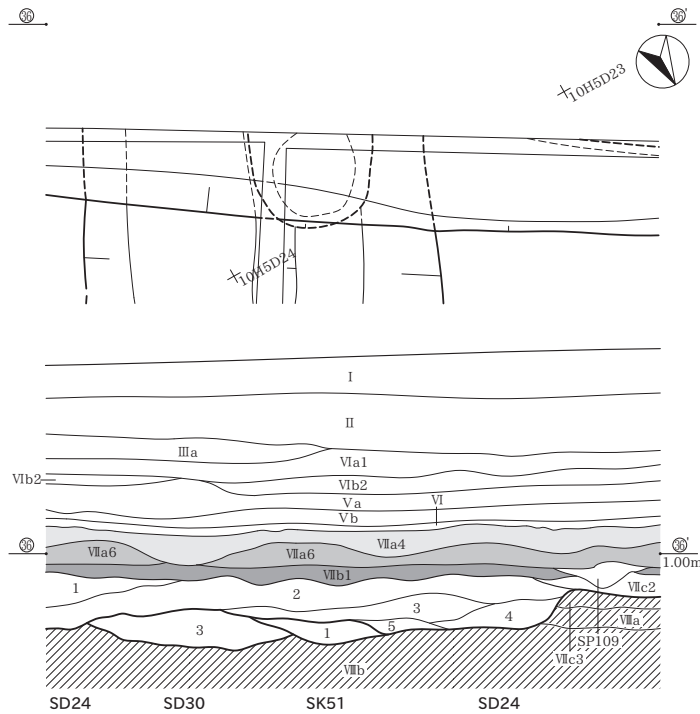


SK100

- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
- 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm~1.5cmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。

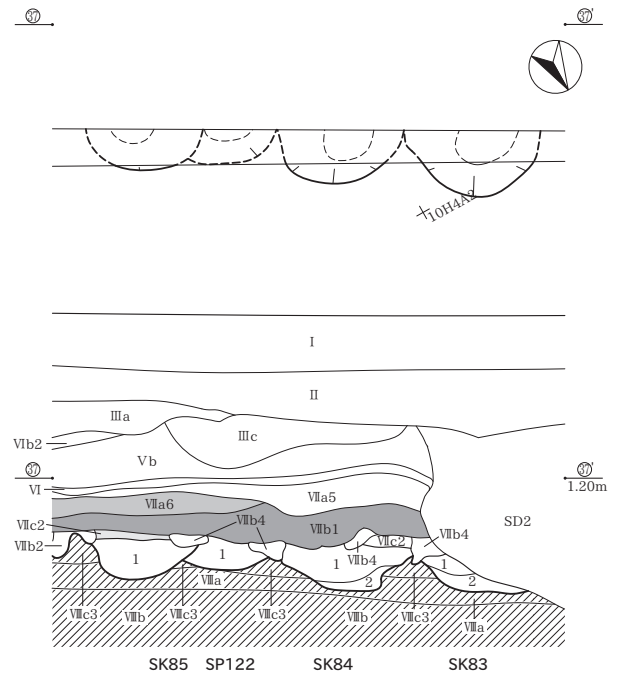


SK51・SD24・30



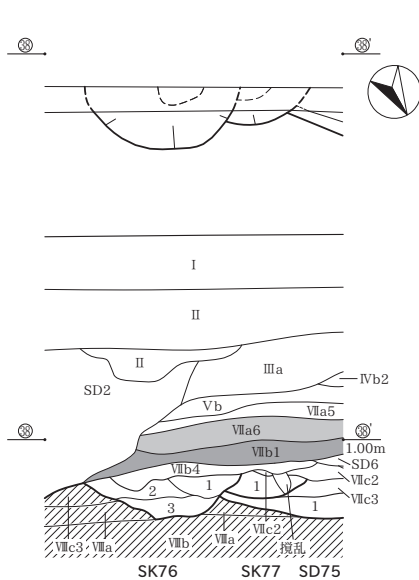
- SK51**
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。
- SD24**
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを微量含む。黒褐色粘質土、地山がブロック状に少量混じる。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
 4 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。
 5 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に多量混じる。

SK83~85・SP122



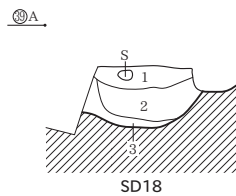
- SK83**
 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。黒褐色粘質土がブロック状に中量混じる。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に中量混じる。
- SK84**
 1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。黒褐色粘質土、地山がブロック状に少量混じる。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~3mmを微量含む。地山がブロック状に中量混じる。
- SK85**
 1 黄灰色粘質土 (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。地山がブロック状に中量混じる。
- SP122**
 1 黄灰色粘質土 (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。

SK76・77



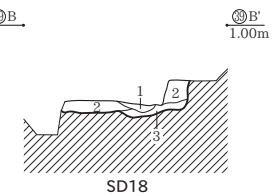
- SK76**
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ3~5mmを少量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~3mmを微量含む。地山や黒褐色粘質土がブロック状に微量混じる。
 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
- SK77**
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。地山がブロック状に中量混じる。

SD18

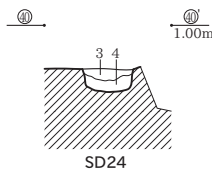


- SD18**
 1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1cm以下を少量含む。
 2 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ7mm~1.3cmを少量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5mm~1.5cmを微量含む。地山がブロック状に中量混じる。

SD18

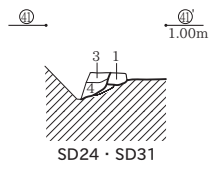


SD24

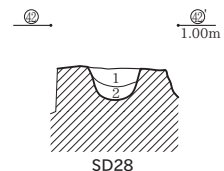


- SD24**
 3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
 4 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。
- SD31**
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、地山がブロック状に多量混じる。

SD24・31

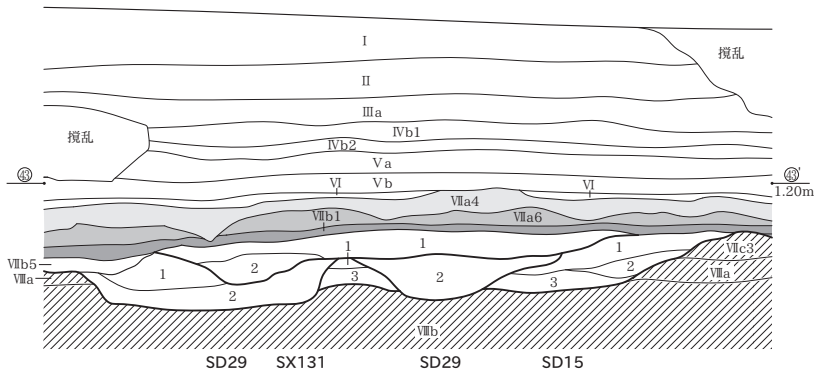


SD28



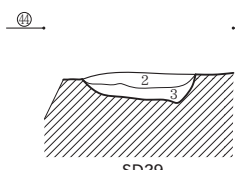
- SD28**
 1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む。黒褐色粘質土、地山がブロック状に少量に含む。
 2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、地山がブロック状に中量に含む。

SD15・29・SX131

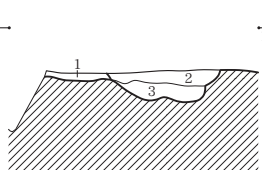


- SK32
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む。地山がブロック状に多量混じる。
- SD15
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm~1.5cmを微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
- SD29
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。地山がブロック状に多量混じる。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5~7mmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。
- SD31
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、地山がブロック状に多量混じる。
- SX131
1 黄灰色粘質粘土 (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。
2 黄灰色粘質粘土 (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを微量含む。黒褐色粘土層をブロック状に少量混じる。

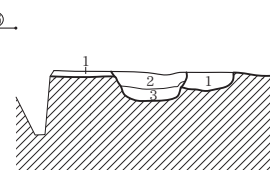
SD29



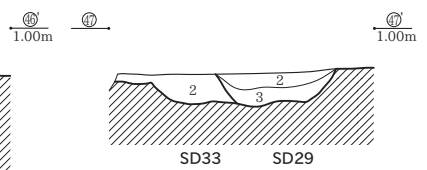
SD29・31



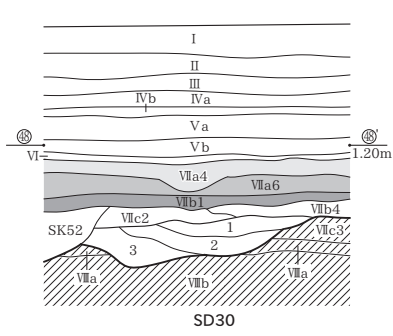
SD29・31・SK32



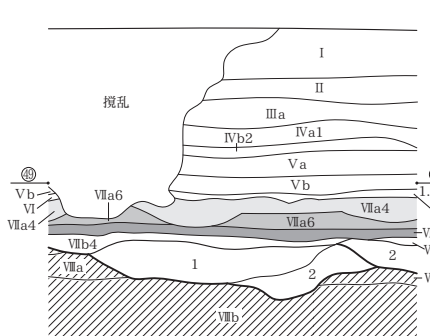
SD29・33



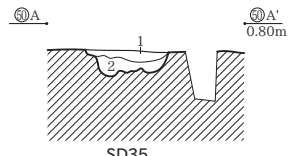
SD30



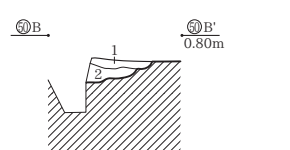
SD33



SD35

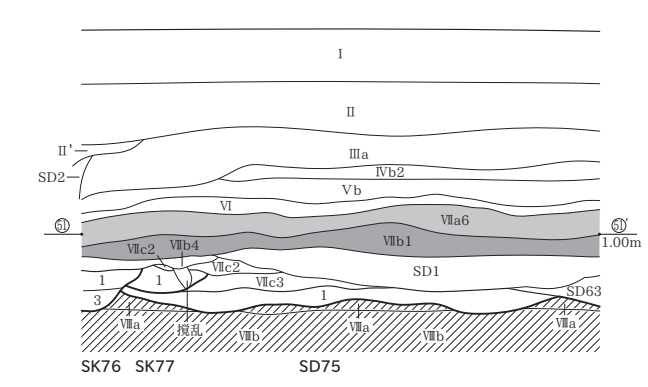


SD35

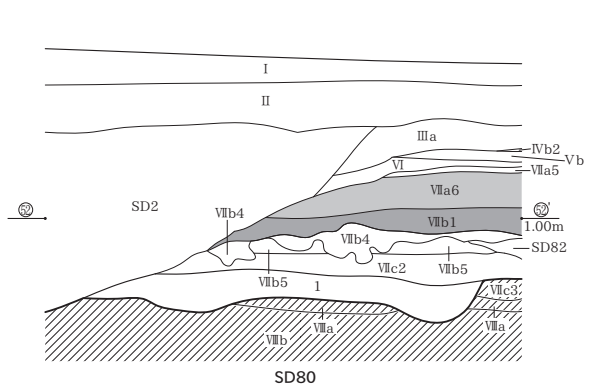


- SD30
1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを微量含む。地山がブロック状に多量混じる。
- SD33
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
- SD35
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。黒褐色粘質土がブロック状に少量混じる。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。地山がブロック状に少量混じる。

SD75

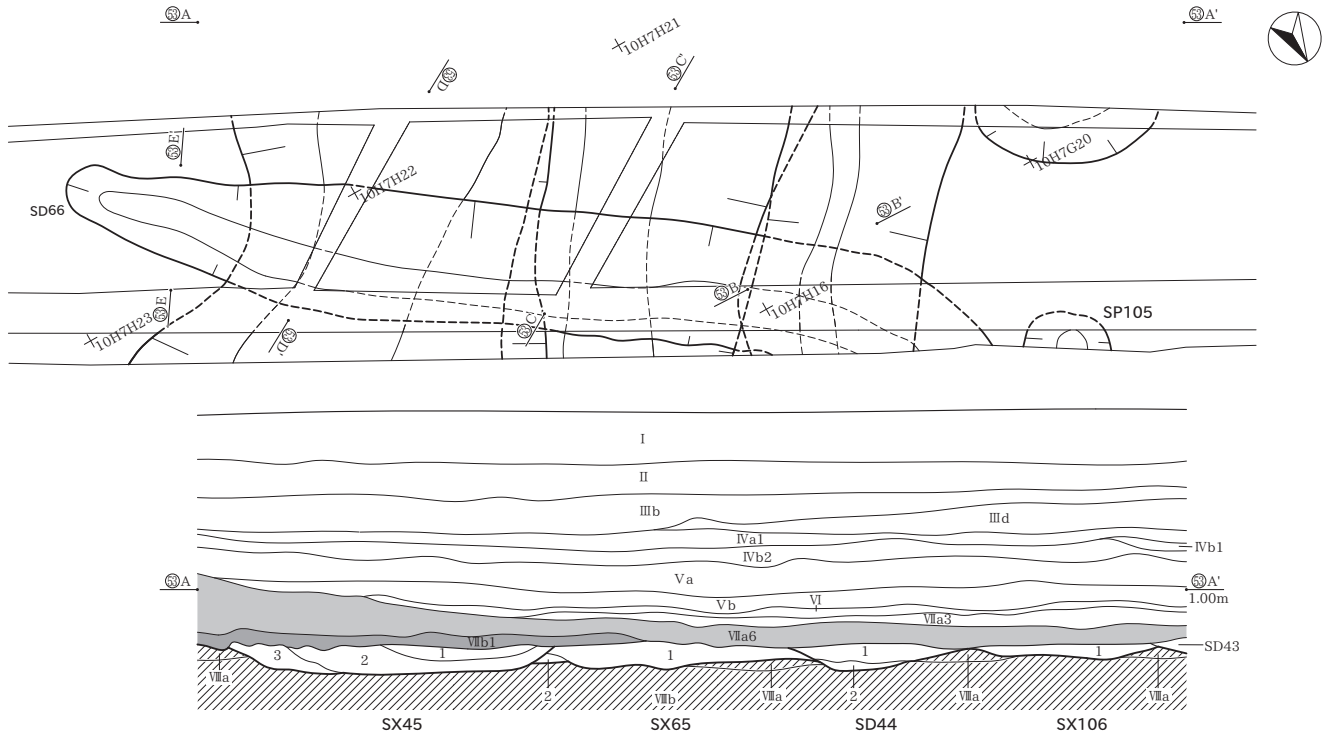


SD80



- SD75
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ3~5mmを微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
- SD80
1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~3mmを少量含む。地山がブロック状に少量混じる。

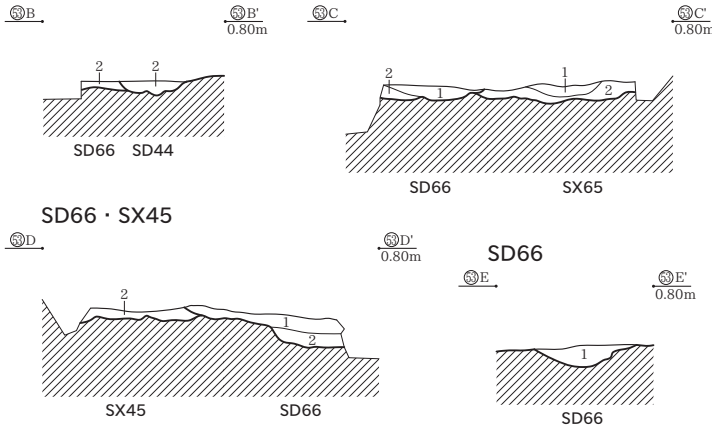
SD44・SX45・65・106



SD66・44

SD66・SX65

0 (1:50) 2m



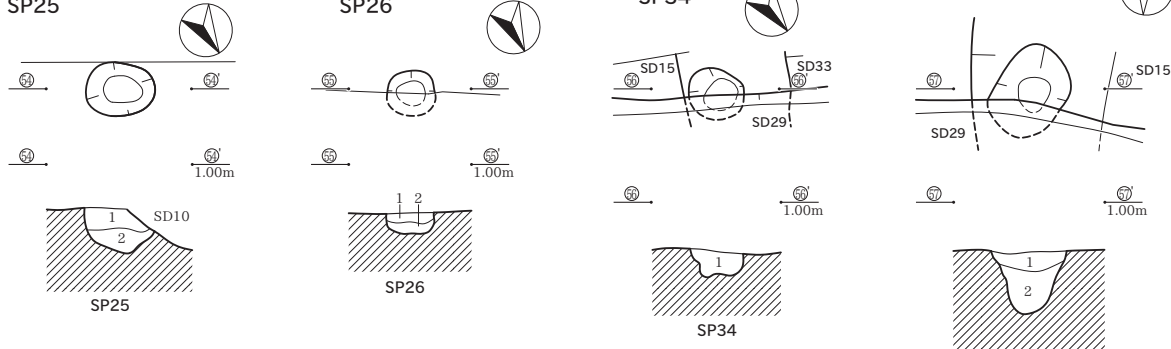
- SD44**
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~7mmを微量含む。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に少量混じる。
- SD66**
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。地山がブロック状に少量混じる。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に中量混じる。
- SX45**
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。地山がブロック状に中量混じる。
3 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に少量混じる。
- SX65**
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。
2 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、地山がブロック状に少量混じる。
- SX106**
1 黄灰色粘質シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5mm以下を微量含む。

SP25

SP26

SP34

SP41



SP62

SP25

SP26

SP34

SP41

SP62

SP41

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

SP62

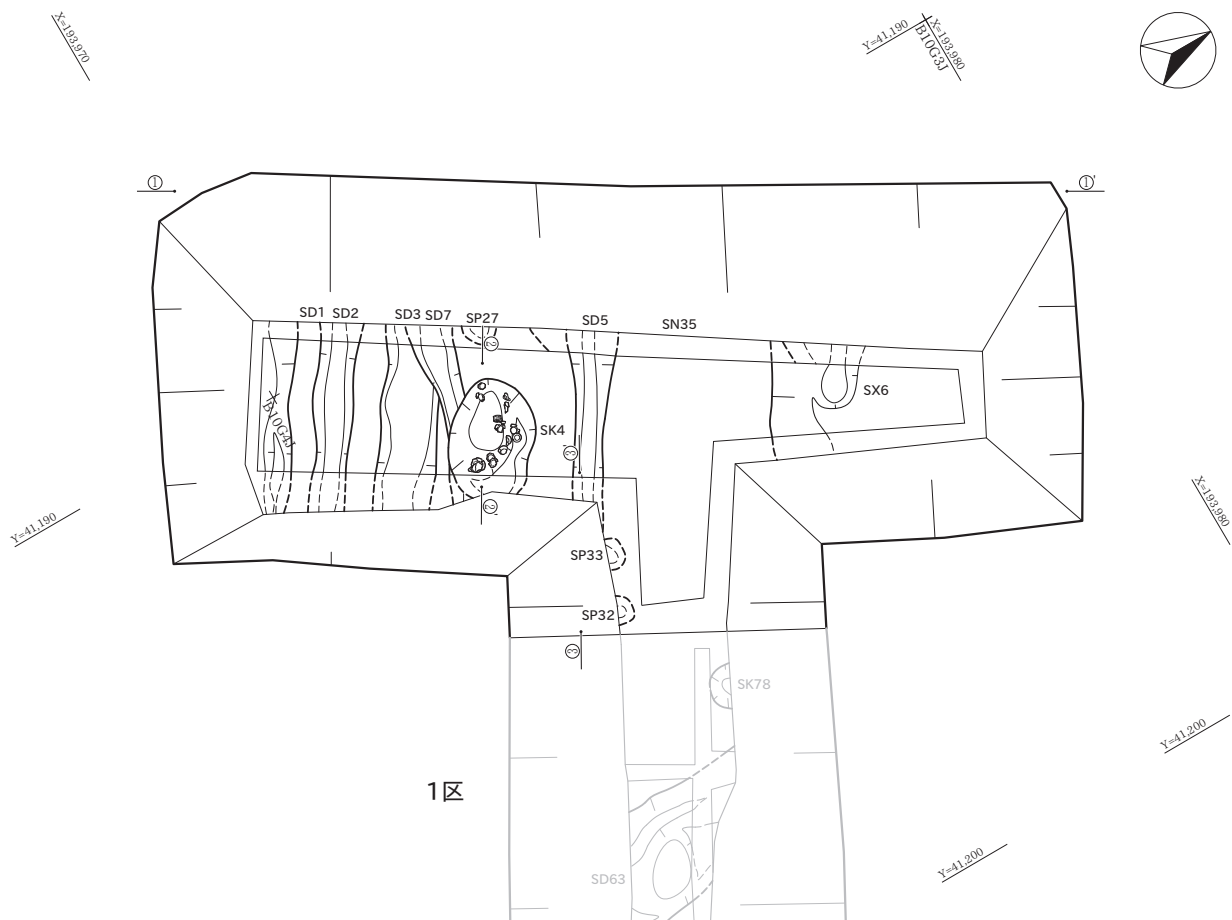
SP62

SP62

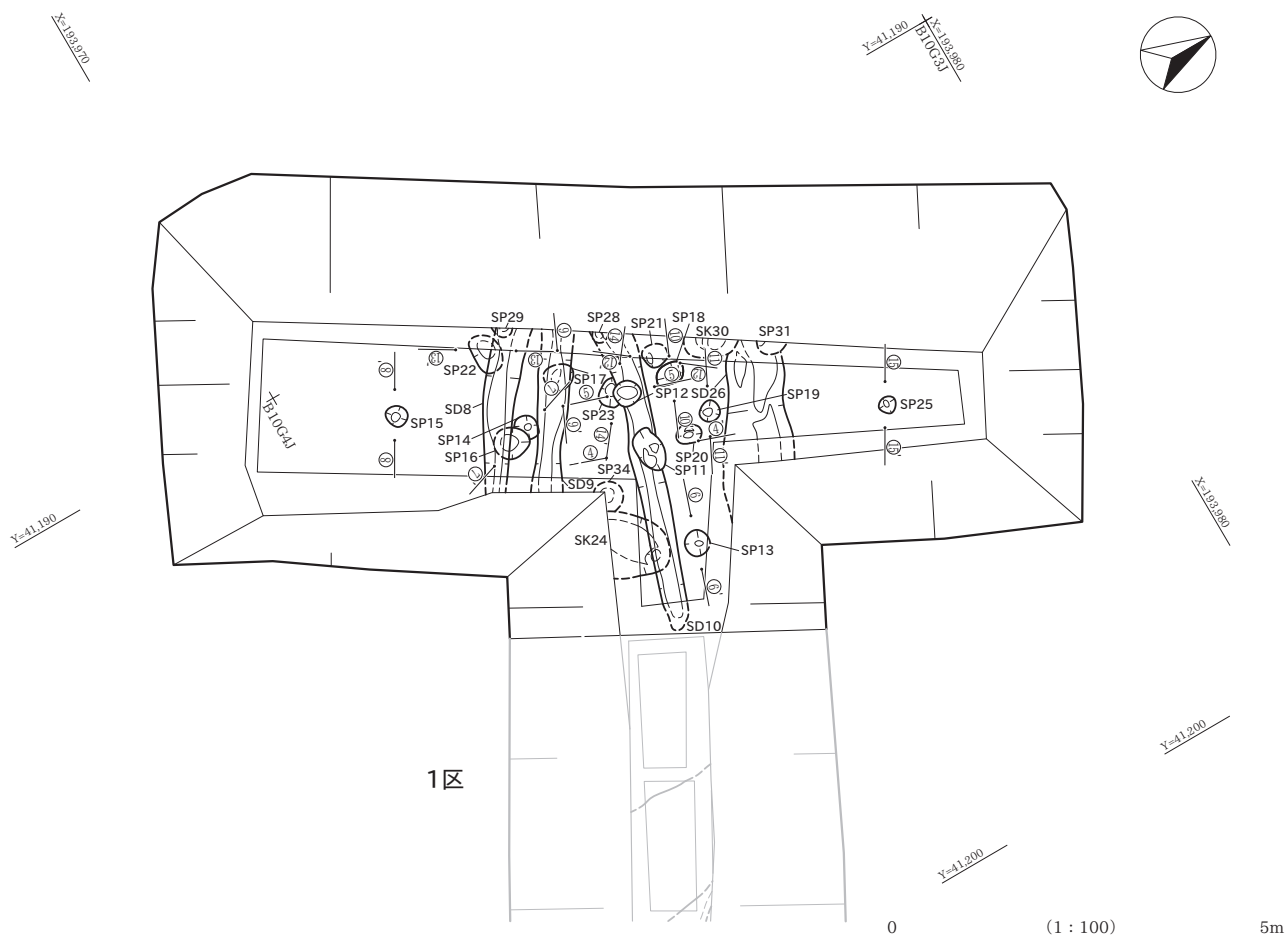
SP62

SP62

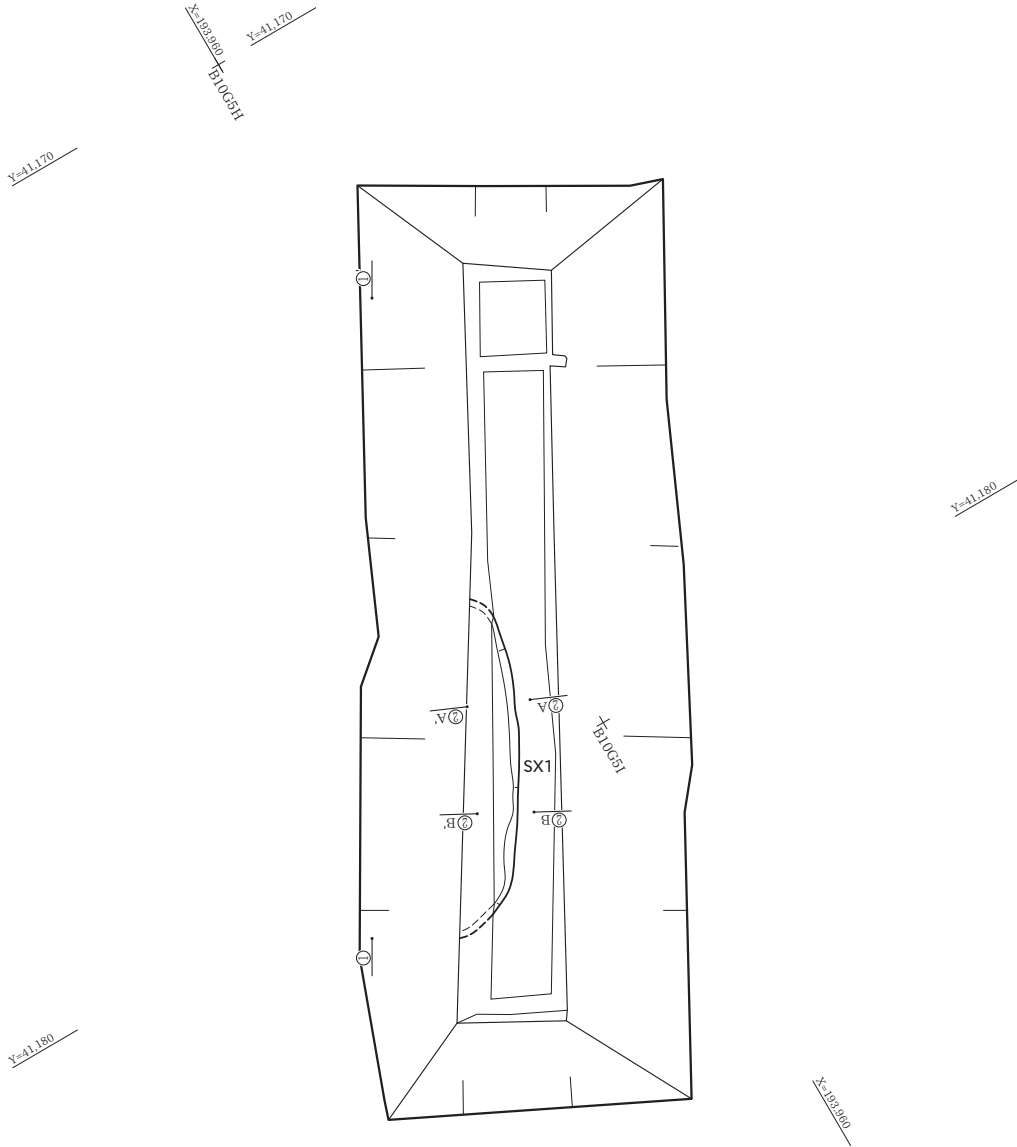
SP62



4区 遺構全体図 (上層・中層上面)

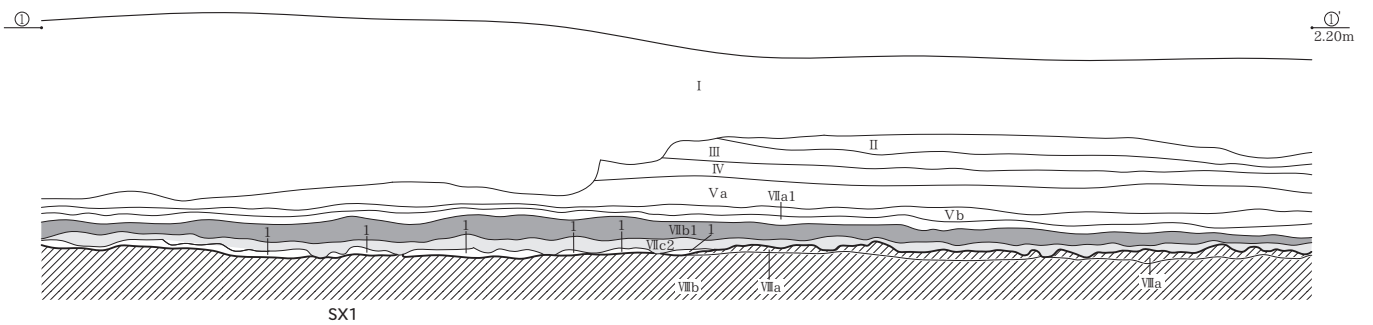


4区 遺構全体図 (中層下面)



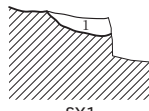
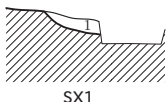
5区 遺構全体図 (中層下面)

南壁断面



SX1

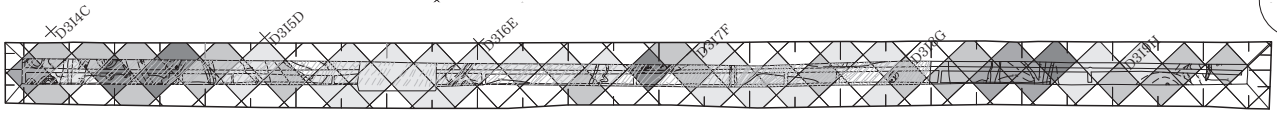
②A. ②A' 1.00m ②B. ②B' 1.00m



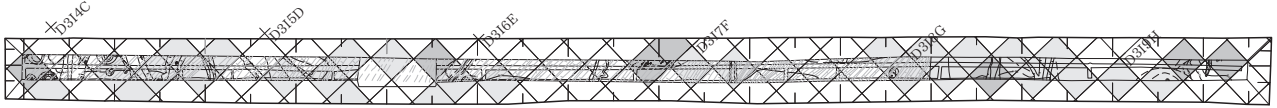
SX1

1 黄灰色粘質シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、地山がブロック状に少量混じる。

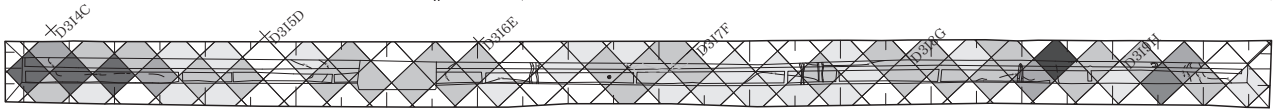
0 (1:40) 2m



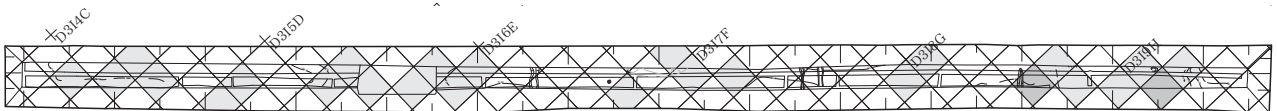
2区 土師器 (上・中層)



2区 須恵器 (上・中層)



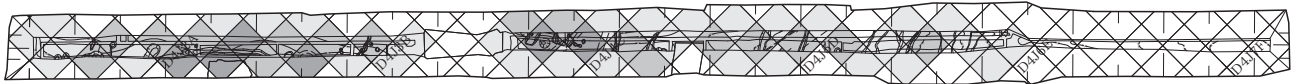
2区 土師器 (下層)



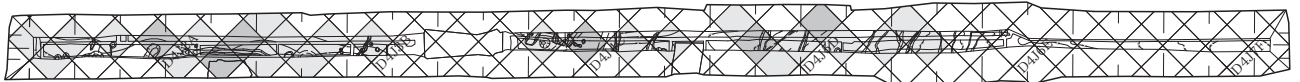
2区 須恵器 (下層)



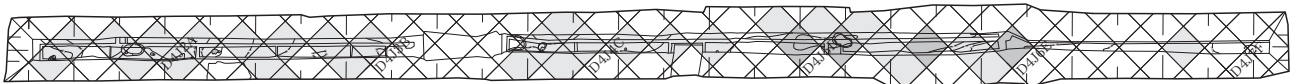
3区 土師器
(上・中層)



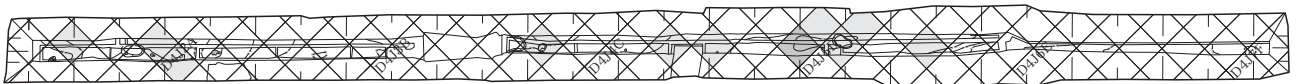
3区 須恵器
(上・中層)

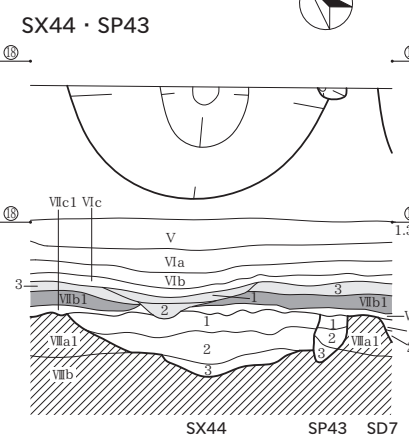
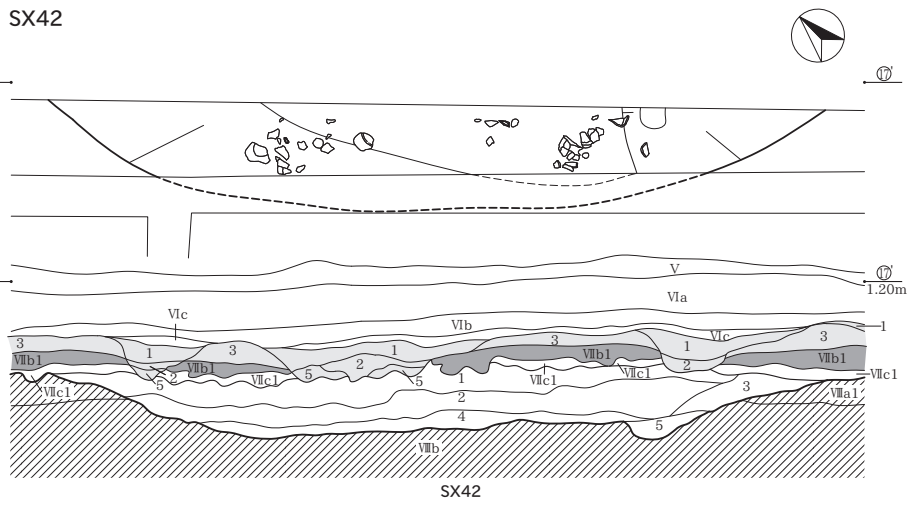
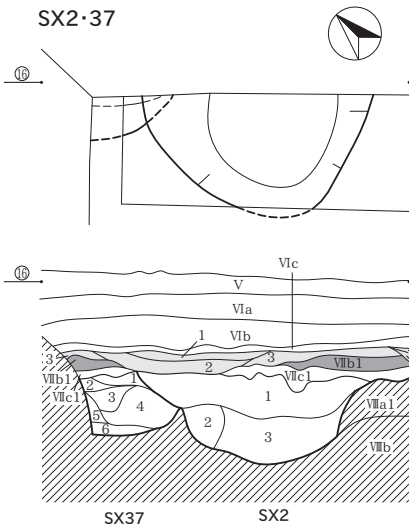


3区 土師器 (下層)



3区 須恵器 (下層)





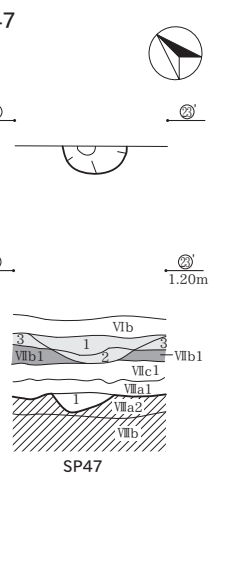
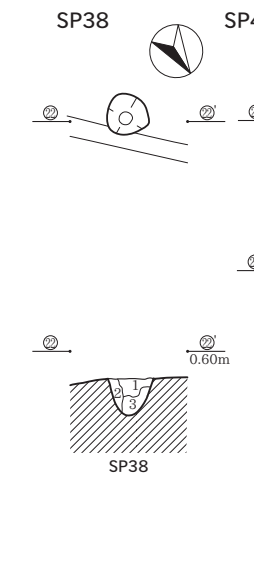
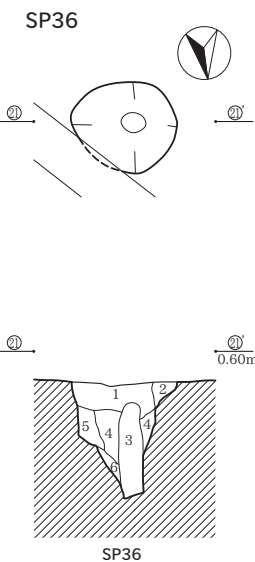
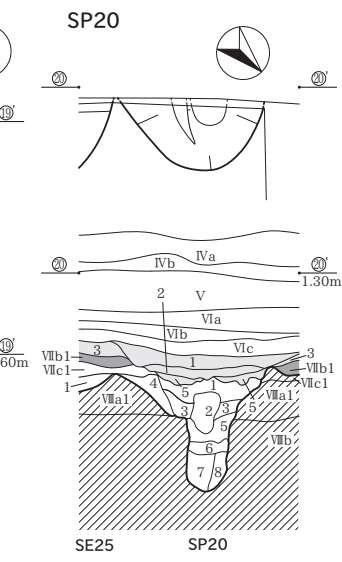
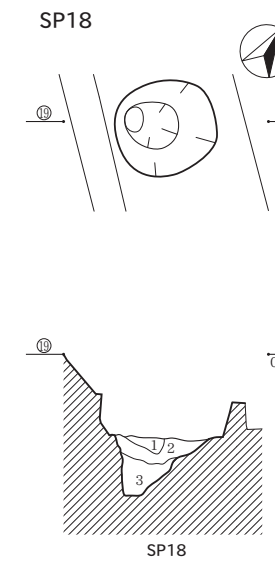
SX2
 1 暗オリーブ色粘質シルト (7.5Y4/3) 粘性あり、しまりなし、炭化物φ1~5mmを多量含む。未分解腐植物を斑状に含む。黒褐色粘質土を斑状に含む。
 2 灰色粘質シルト (10Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを含む。黒褐色粘質土を斑状に多量含む。
 3 オリーブ灰色粘質シルト (5GY5/1) 粘性ややあり、しまりあり、未分解腐植物を斑状に含む。黒褐色粘質土を斑状に少量含む。

SX37
 1 灰色粘質シルト (7.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1mmを少量含む。
 2 灰色粘質シルト (7.5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1mmを少量含む。
 3 オリーブ黒色粘質シルト (5Y3/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1~10mmを多量含む。未分解腐植物を斑状に含む。
 4 灰色粘質シルト (10Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを中量含む。未分解腐植物を斑状に少量含む。黒褐色粘質土を斑状に含む。
 5 灰色粘質シルト (10Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1mmを少量含む。未分解腐植物を斑状に含む。黒褐色粘質土を斑状に含む。
 6 灰色粘質シルト (10Y4/1) 粘性非常にあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。未分解腐植物を斑状に少量含む。

SX42
 1 灰色粘質土 (7.5Y5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1mmを少量含む。未分解腐植物を斑状に中量含む。黒褐色粘質土を斑状に含む。
 2 灰色粘質シルト (10Y5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1mmを微量含む。未分解腐植物を斑状に少量含む。黒褐色粘質土を斑状に含む。
 3 灰色粘質土 (7.5Y5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1~3mmを少量含む。未分解腐植物を斑状に少量含む。黒褐色粘質土を斑状に含む。
 4 灰色粘質土 (5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを多量含む。未分解腐植物を斑状に少量含む。VIIb層を斑状に含む。
 5 灰色粘質土 (7.5Y6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~3mmを含む。未分解腐植物を斑状に少量含む。VIIb層を斑状に少量含む。

SX44
 1 灰色粘質シルト (7.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~10mmを中量含む。未分解腐植物を斑状に含む。VIIa層をブロック状に含む。
 2 灰色粘質シルト (10Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ3~10mmを少量含む。未分解腐植物を斑状に少量含む。1層を斑状に含む。
 3 オリーブ灰色粘質シルト (2.5GY5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3~10mmを少量含む。未分解腐植物を斑状に少量含む。褐色粘質土を斑状に含む。

SP43
 1 灰色粘質シルト (7.5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1mmを少量含む。未分解腐植物を斑状に少量含む。
 2 灰色粘質シルト (5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1cmを少量含む。カワボを斑状に少量含む。
 3 灰色粘質土 (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3mmを多量含む。VIIa層を斑状に少量含む。



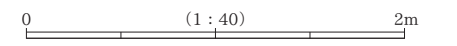
SP18
 1 オリーブ黒色粘質シルト (5Y3/2) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ2cmを含む。
 2 オリーブ黒色粘質シルト (10Y3/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを少量含む。
 3 灰色粘質シルト (7.5Y5/1) 粘性非常にあり、しまりややあり、炭化物φ1mmを少量含む。未分解腐植物を斑状に少量含む。

SP20
 1 灰色粘質シルト (7.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1mmを少量含む。未分解腐植物を斑状に含む。黒褐色粘質土を斑状に含む。
 2 灰色粘質シルト (10Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3mmを多量含む。褐色粘質土を斑状に多量含む。
 3 灰色粘質シルト (10Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、褐色粘質土を斑状に中量含む。
 4 灰色粘質シルト (10Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、未分解腐植物を斑状に含む。褐色粘質土を斑状に含む。
 5 オリーブ灰色粘質シルト (2.5GY5/1) 粘性ややあり、しまり非常にあり、炭化物φ1mmを微量含む。褐色粘質土を斑状に多量含む。
 6 オリーブ灰色粘質シルト (2.5GY5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ3mmを中量含む。褐色粘質土を斑状に多量含む。
 7 オリーブ灰色粘質シルト (2.5GY5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1~5mmを含む。褐色粘質土を斑状に含む。
 8 オリーブ灰色粘質シルト (2.5GY5/1) 粘性あり、しまりあり。

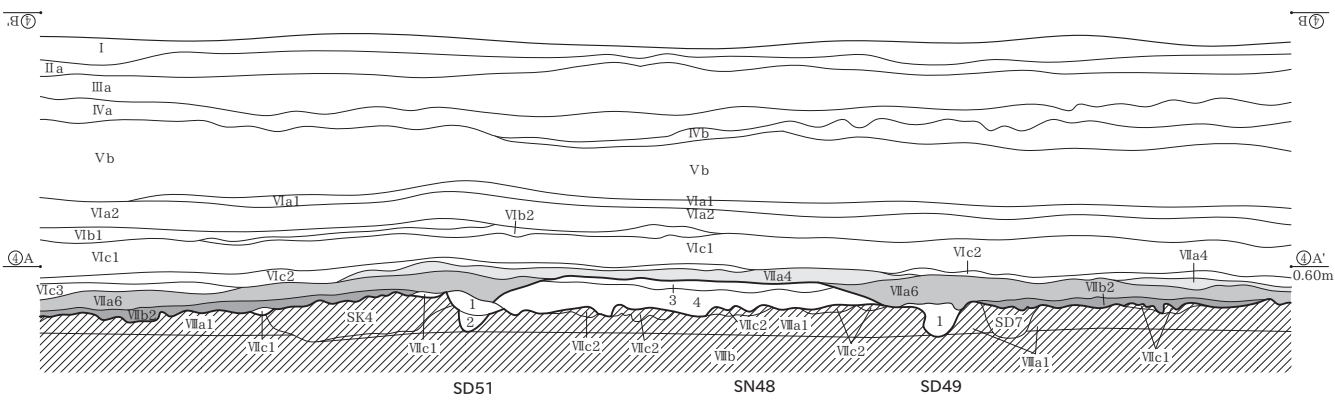
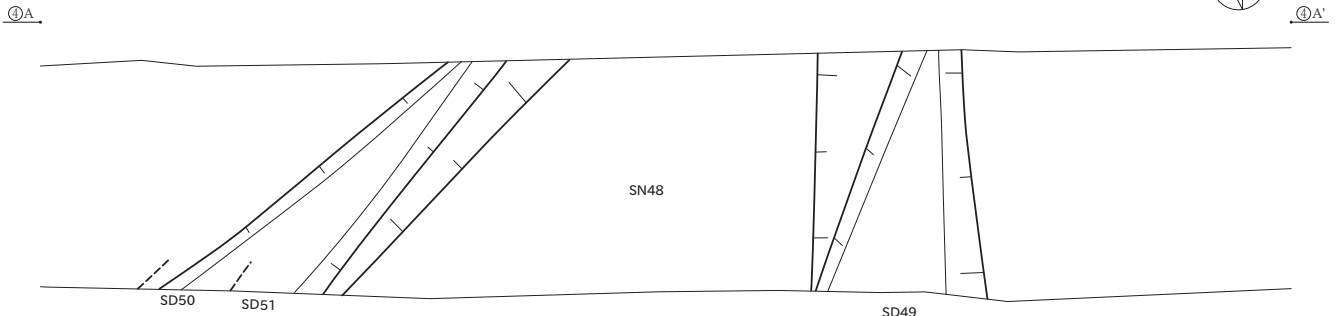
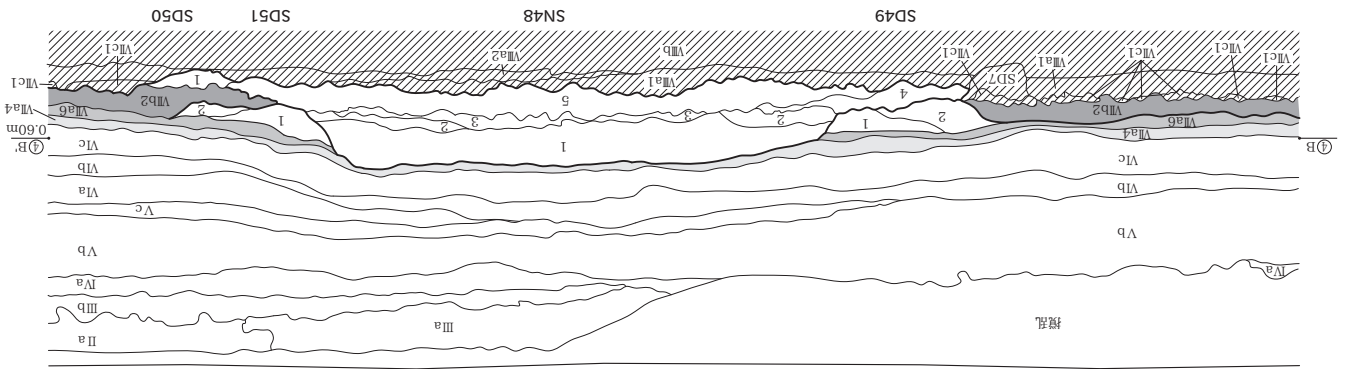
SP36
 1 灰色粘質シルト (10Y5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1~10mmを多量含む。黒褐色粘質土を斑状に含む。
 2 オリーブ灰色粘質シルト (5GY5/1) 粘性あり、しまりあり。
 3 灰色粘質シルト (7.5Y4/1) 粘性非常にあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。
 4 オリーブ灰色粘質シルト (2.5GY5/1) 粘性非常にあり、しまりややあり、炭化物φ1~10mmを多量含む。褐色粘質土を斑状に多量含む。
 5 オリーブ灰色粘質シルト (2.5GY6/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1~10mmを多量含む。褐色粘質土を斑状に中量含む。
 6 灰色粘質シルト (10Y4/1) 粘性非常にあり、しまりややあり、炭化物φ1mmを少量含む。

SP38
 1 オリーブ灰色粘質シルト (2.5GY5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを中量含む。褐色粘質土を斑状に中量含む。
 2 灰色粘質シルト (10Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3mmを少量含む。
 3 灰色粘質シルト (10Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを中量含む。褐色粘質土を斑状に含む。

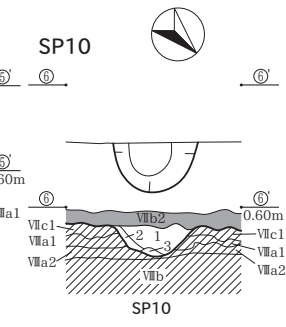
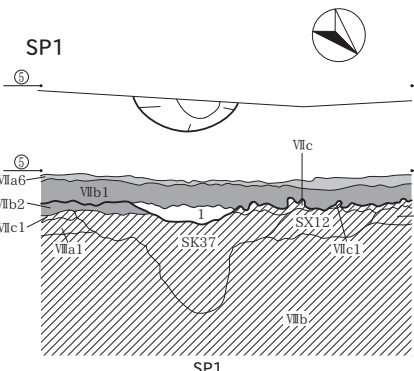
SP47
 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり、未分解腐植物を微量含む。



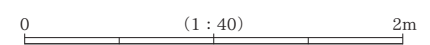
SN48・SD49・50・51

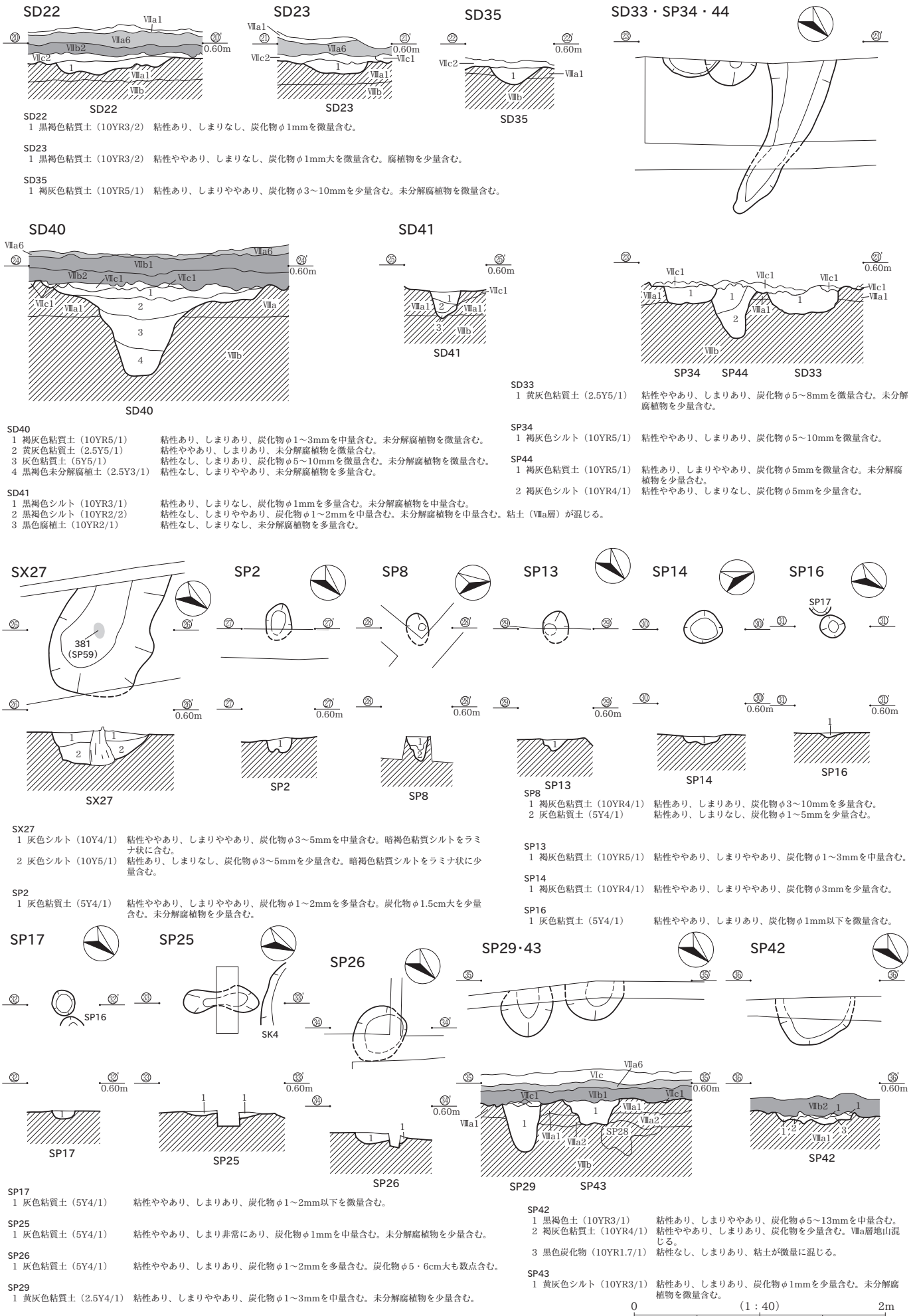


- SN48**
- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまり非常にあり、炭化物φ3~20mmを多量含む。未分解腐植物を多量含む。VIIa層をブロック状に多量含む。
 - 2 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性非常にあり、しまりあり、炭化物φ3~5mmを中量含む。未分解腐植物を多量含む。
 - 3 黒色粘質土 (2.5Y2/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ3~5mmを中量含む。未分解腐植物を多量含む。
 - 4 灰色粘質シルト (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3mmを中量含む。未分解腐植物を中量含む。
 - 5 灰色粘質シルト (5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~3mmを少量含む。未分解腐植物を多量含む。
- SD49**
- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性非常にあり、しまりややあり、炭化物φ3~5mmを中量含む。未分解腐植物を中量含む。
 - 2 黒色粘質土 (2.5Y2/1) 粘性非常にあり、しまりあり、炭化物φ5~10mmを中量含む。未分解腐植物を多量含む。
- SD50**
- 1 灰色シルト (5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ3~10mmを中量含む。未分解腐植物を少量含む。
- SD51**
- 1 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ3~5mmを中量含む。未分解腐植物を中量含む。
 - 2 黒色粘質土 (2.5Y2/1) 粘性非常にあり、しまりややあり、炭化物φ5~10mmを中量含む。未分解腐植物を多量含む。



- SP1**
- 1 暗灰色粘質土 (2.5Y4/2) 炭化物φ1~3mmを微量含む。未分解腐植物を中量含む。地山をラミナ状に含む。
- SP10**
- 1 黒色粘質シルト (2.5Y2/1) 粘性非常にあり、しまりなし、未分解腐植物を斑状に含む。
 - 2 オリーブ黒色粘質シルト (5Y3/1) 粘性非常にあり、しまりなし、炭化物φ3mmを微量含む。地山を斑状に含む。
 - 3 暗オリーブ灰色粘質シルト (2.5GY4/1) 粘性非常にあり、しまりなし、炭化物φ3mmを微量含む。2層をラミナ状に含む。





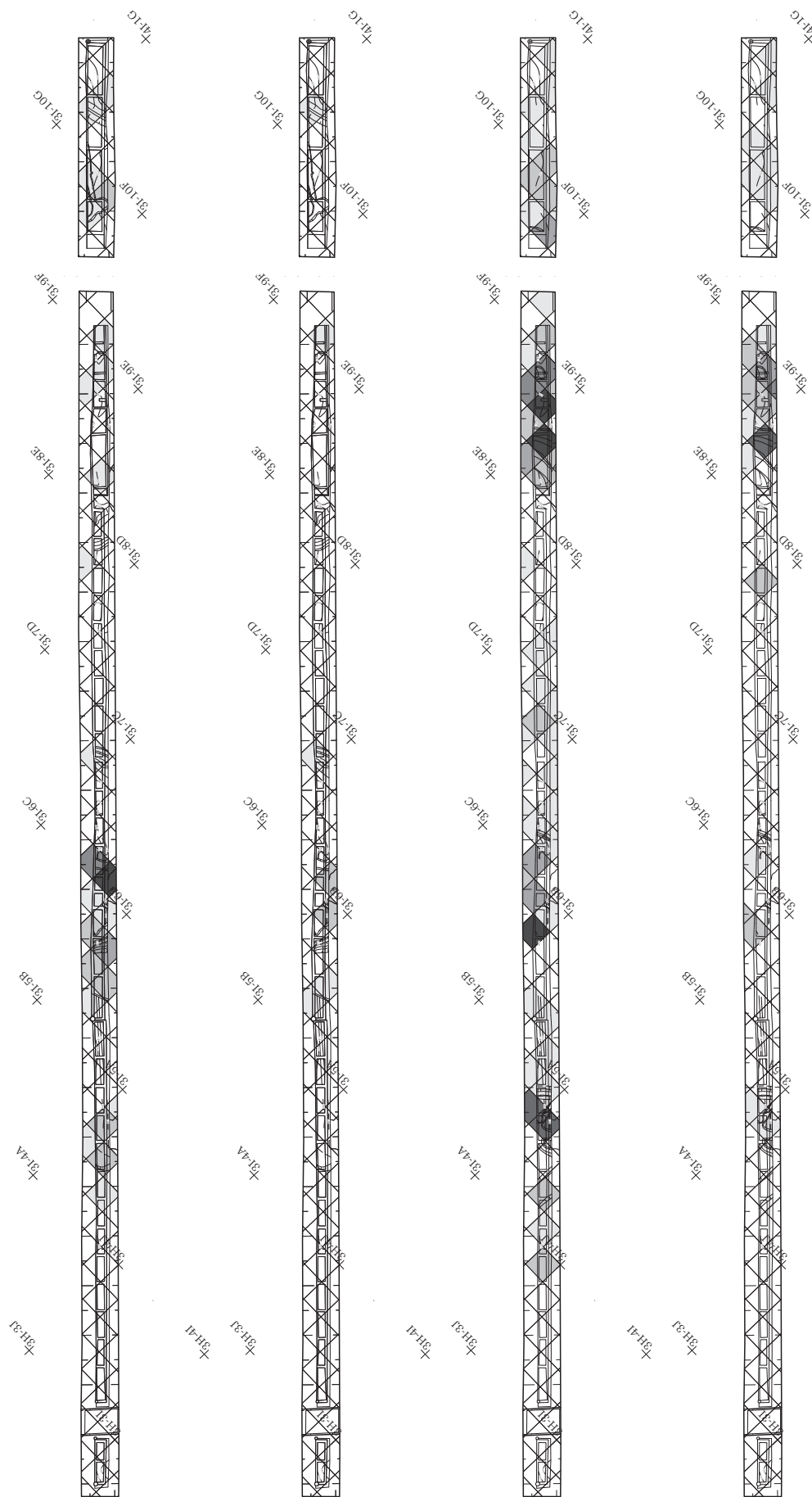


土師器 (上・中層)

須恵器 (上・中層)

土師器 (下層)

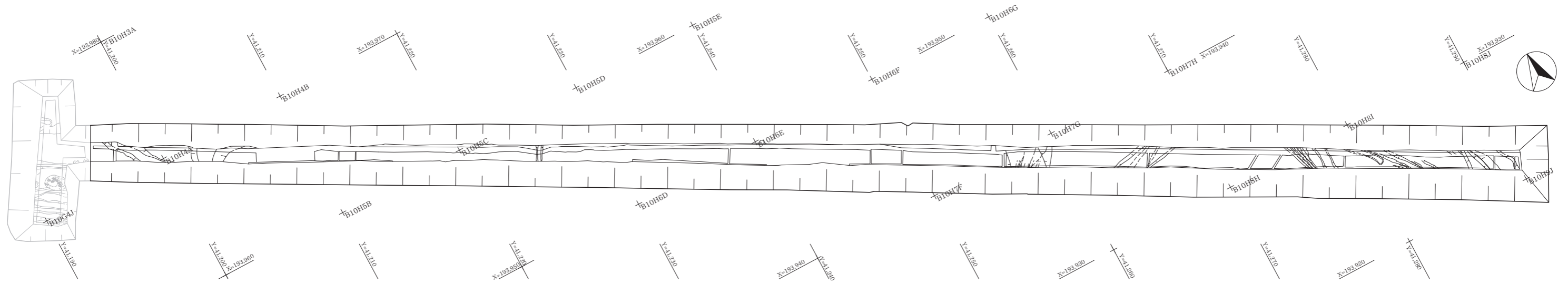
須恵器 (下層)



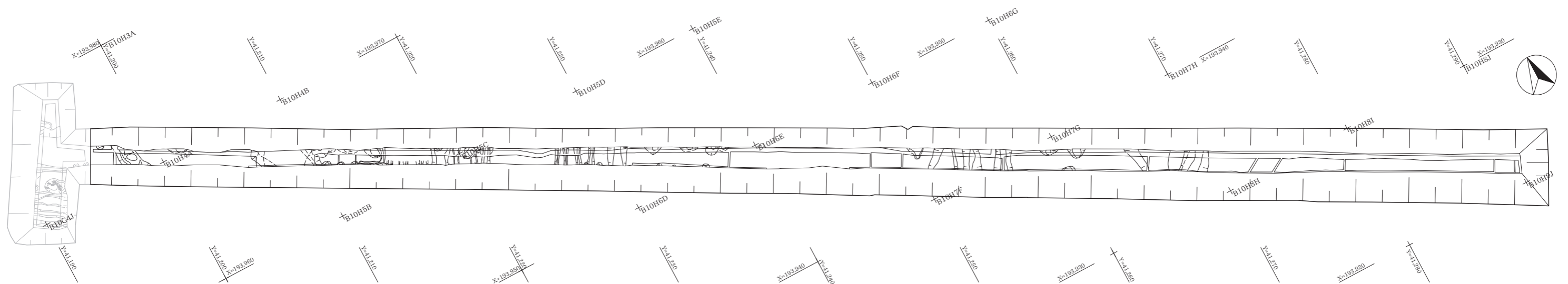
凡例

□ (White)	0
□ (Light Gray)	1~100g
□ (Medium-Light Gray)	101~500g
□ (Medium Gray)	501~1000g
□ (Dark Gray)	1001~1500g
□ (Very Dark Gray)	1501~2000g
□ (Black)	2001g~

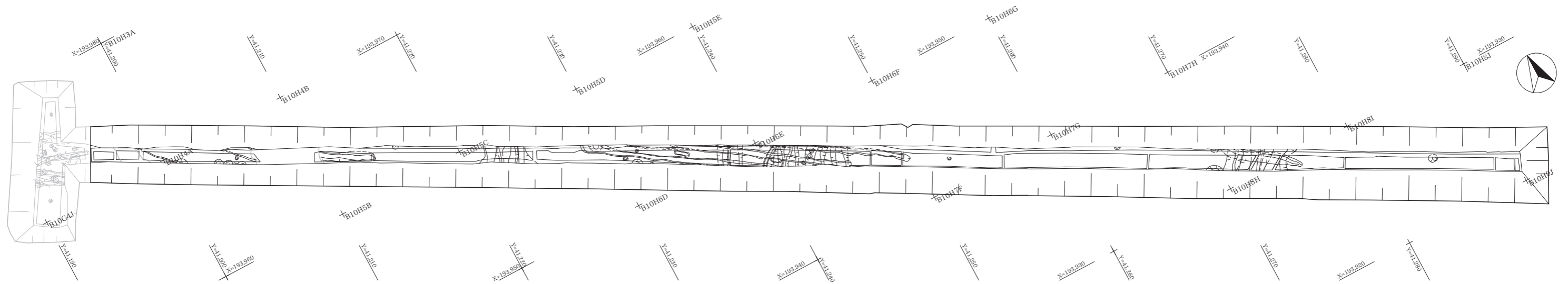
0 (1 : 500) 25m

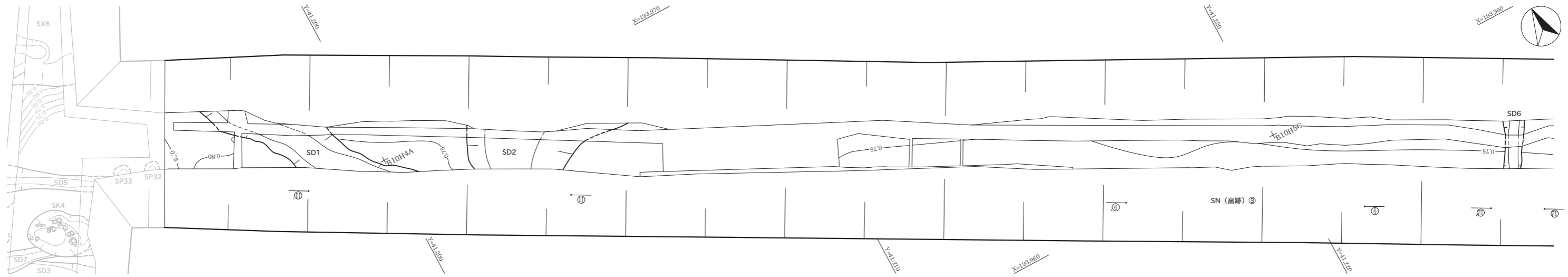


1区 遺構全体図 上層

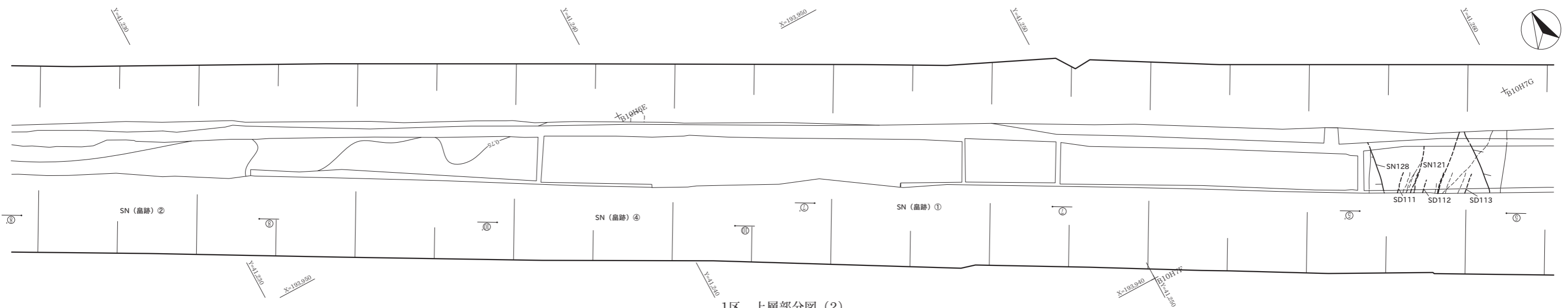


1区 遺構全体図 中層上面

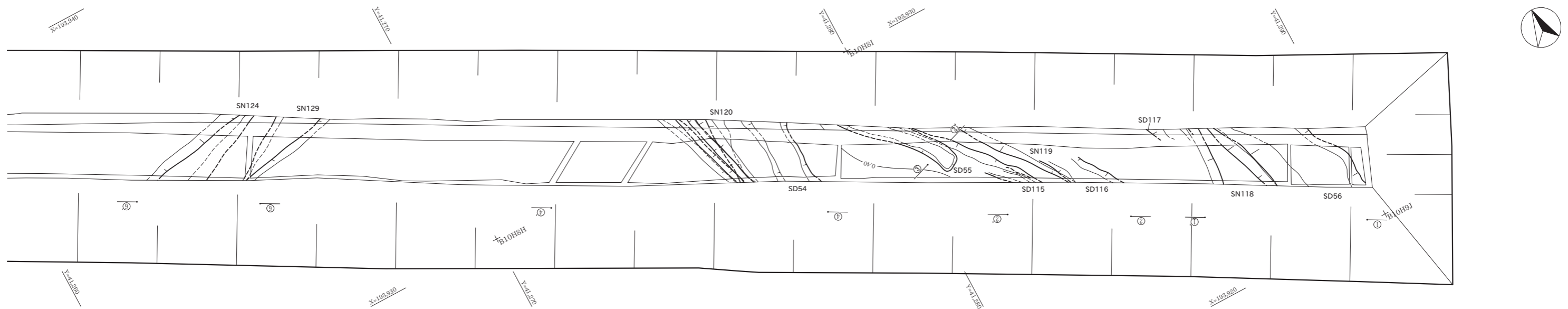




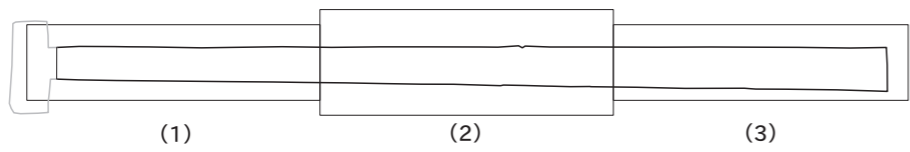
1区 上層部分図 (1)

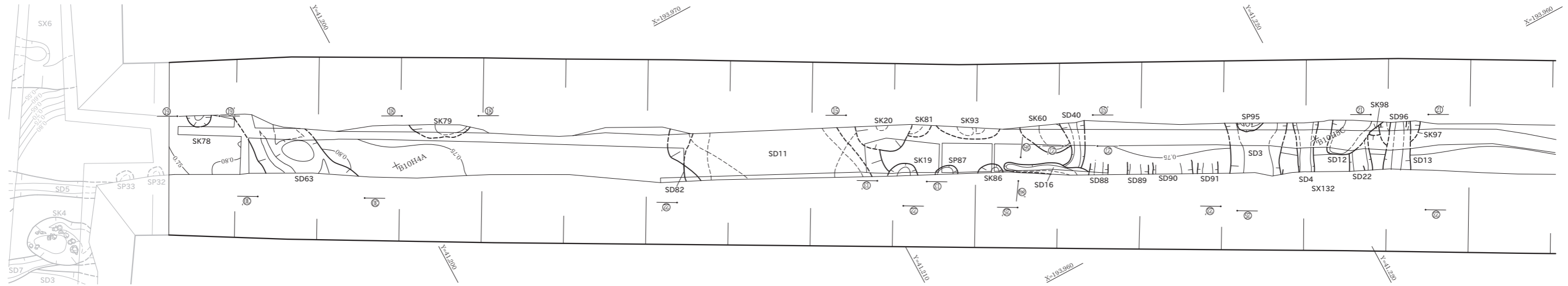


1区 上層部分図 (2)



1区 上層部分図 (3)

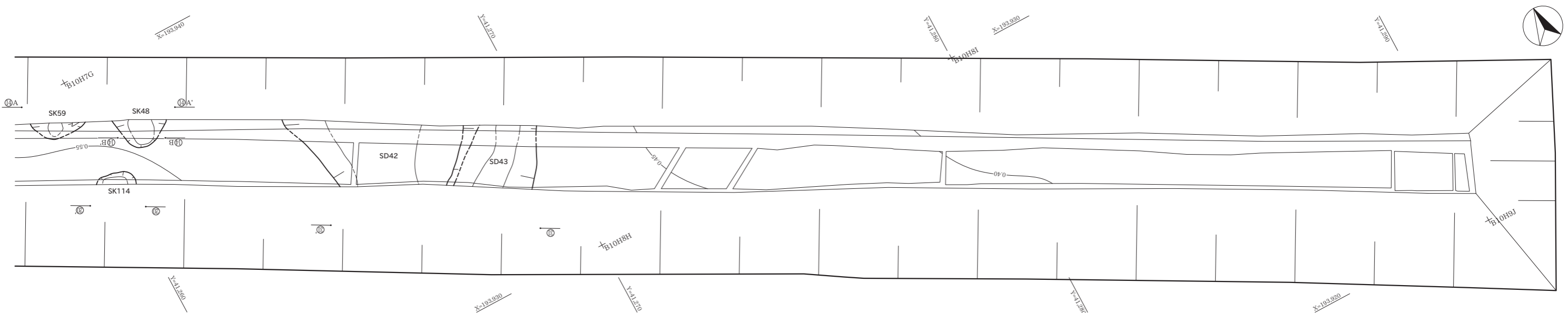




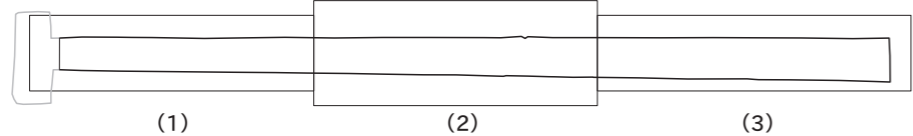
1区 中層上面 部分図(1)

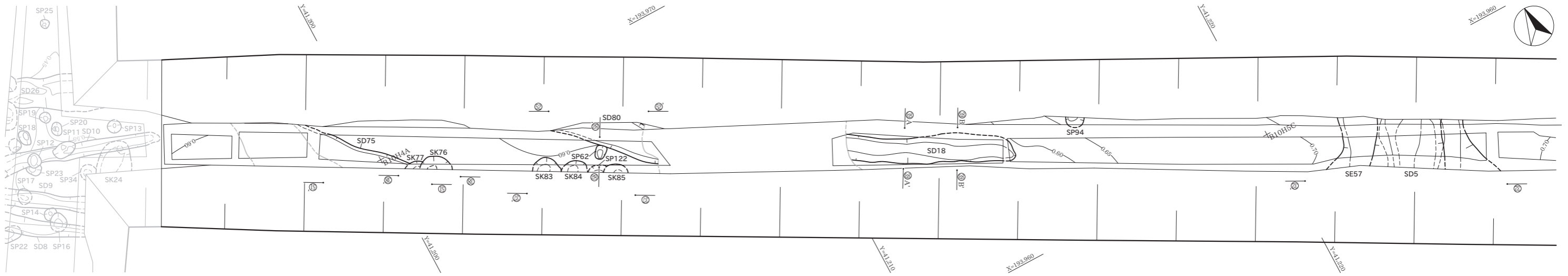


1区 中層上面 部分図(2)

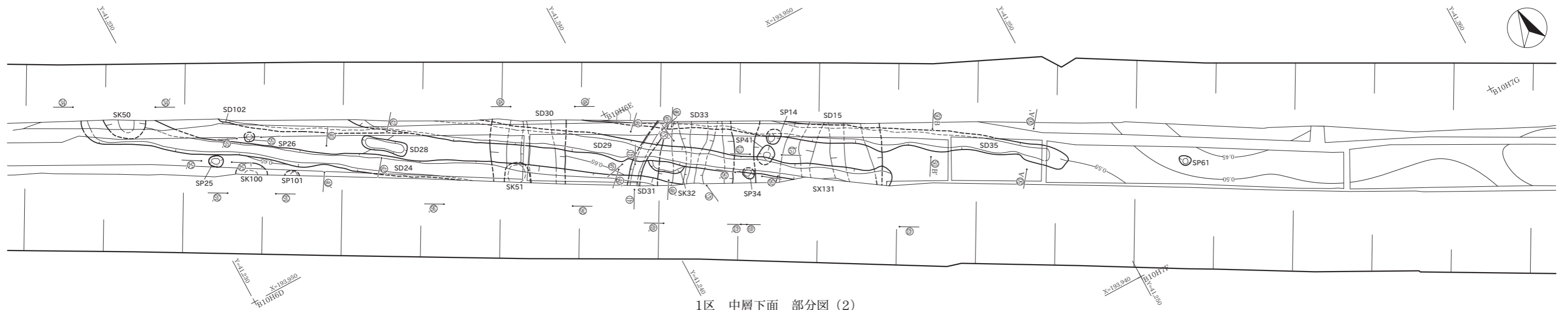


1区 中層上面 部分図(3)

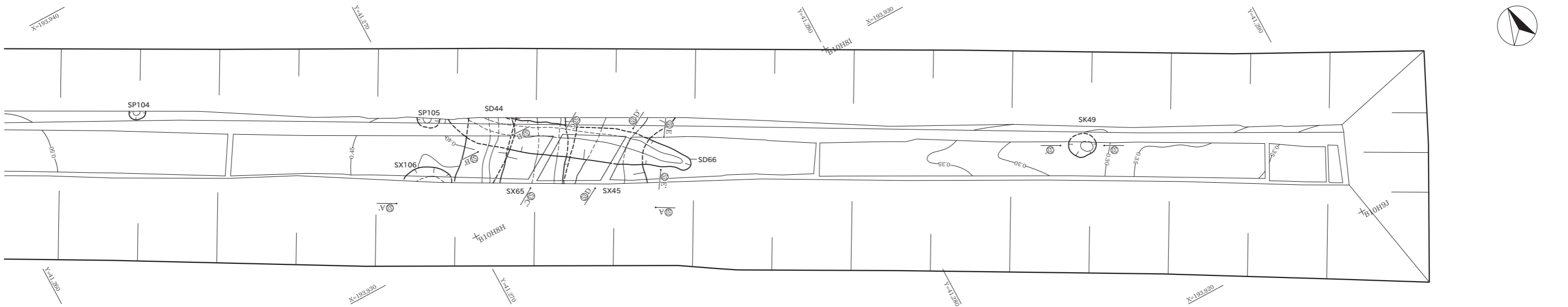




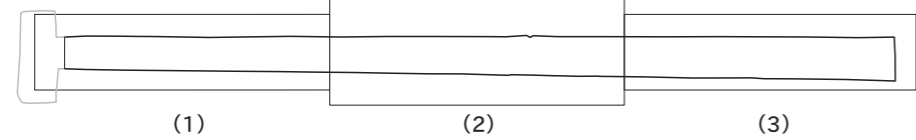
1区 中層下面 部分図(1)



1区 中層下面 部分図(2)



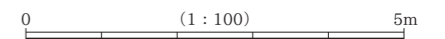
1区 中層下面 部分図(3)

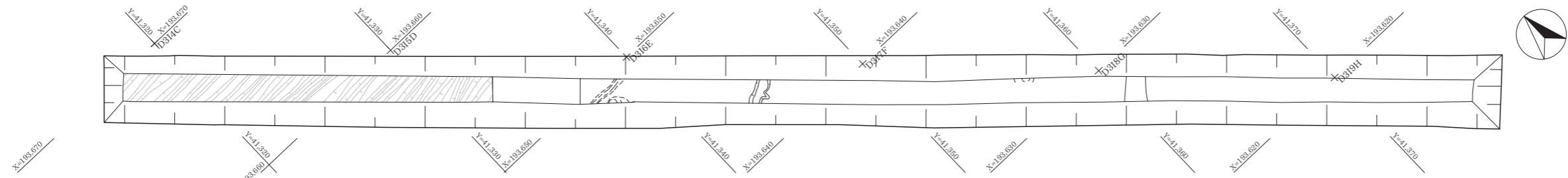


(1)

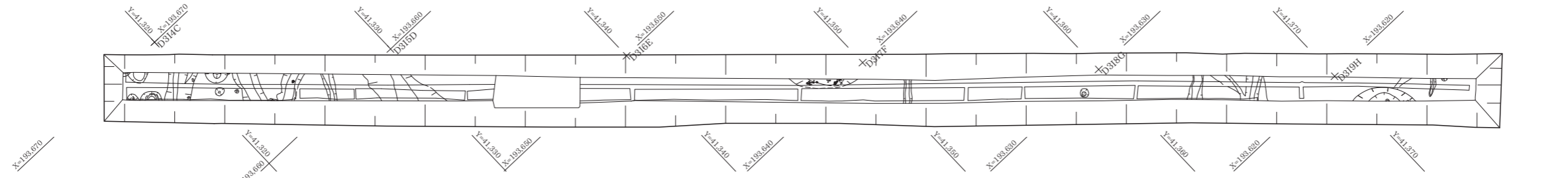
(2)

(3)

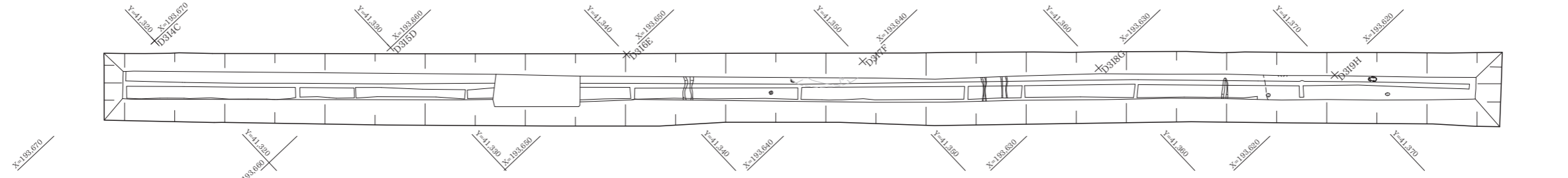




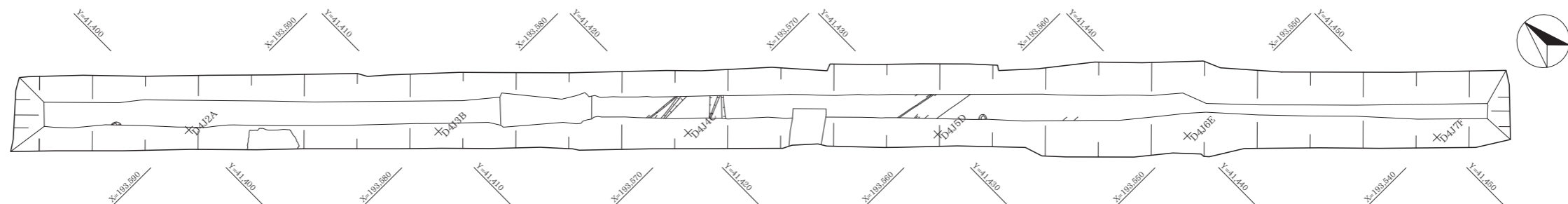
2区 遺構全体図 上層



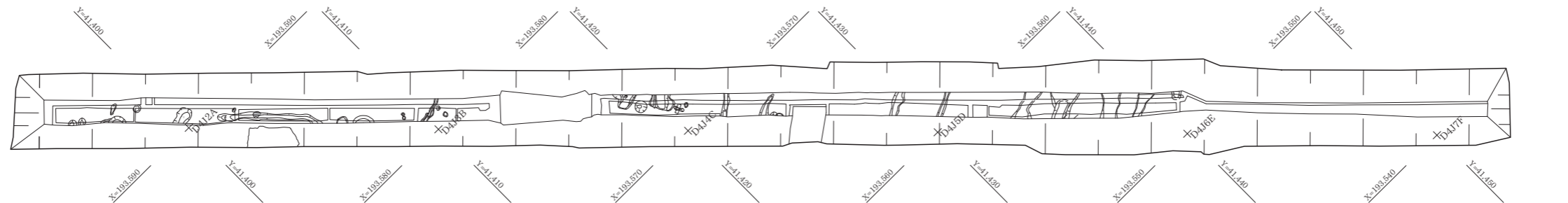
2区 遺構全体図 中層



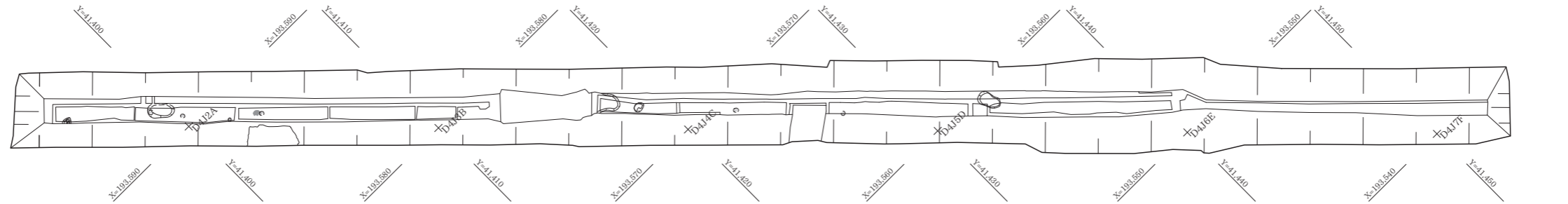
2区 遺構全体図 下層



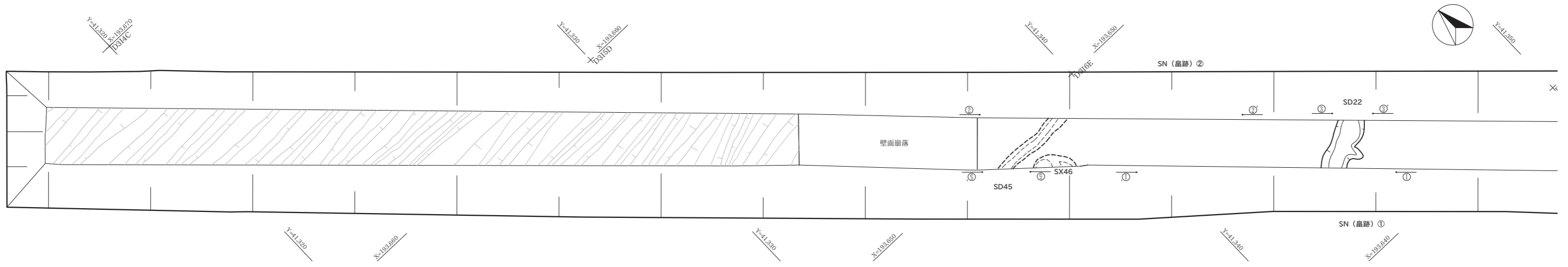
3区 遺構全体図 上層



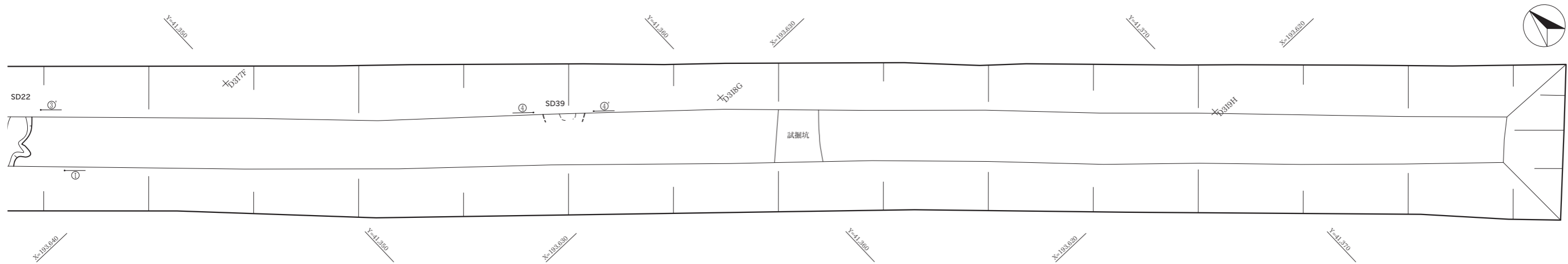
3区 遺構全体図 中層



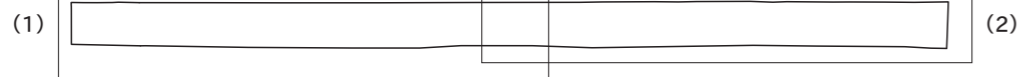
3区 遺構全体図 下層



2区 上層部分図(1)

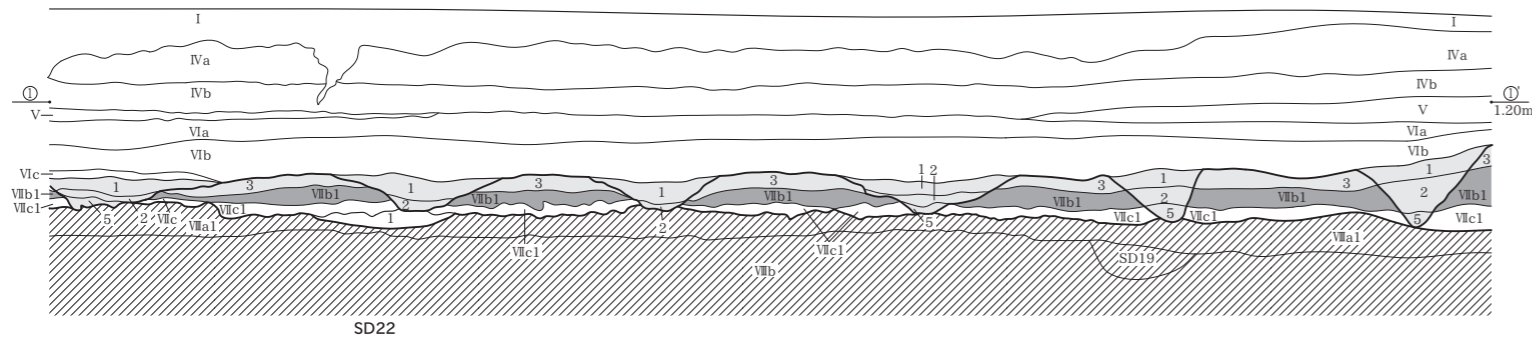


2区 上層部分図(2)

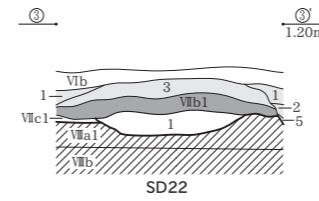


0 (1:120) 5m

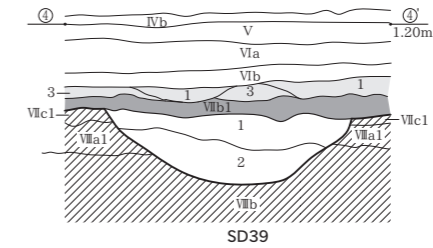
SN (鳥跡) ①



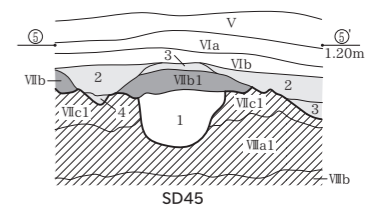
SD22



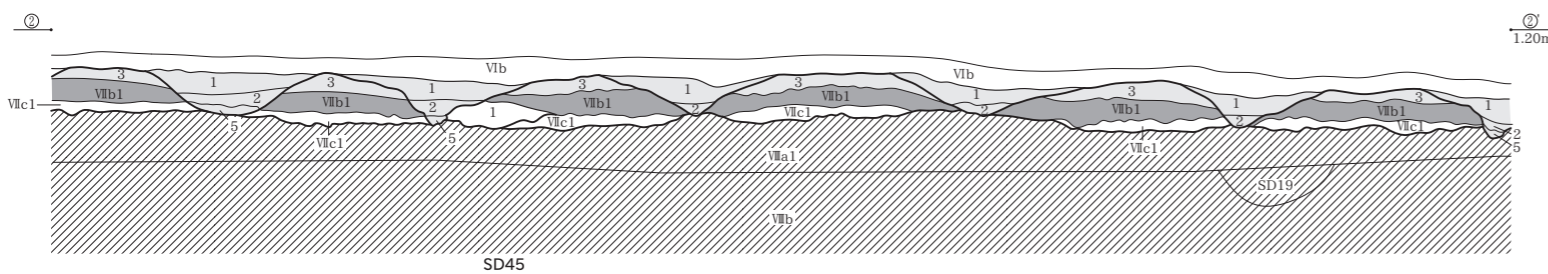
SD39



SD45



SN (鳥跡) ②



SN

- 1 暗灰色粘質土 (2.5Y4/2) 粘性非常にあり、しまりなし、西へ行くほど黒化する。
- 2 黒色粘質土 (N1.5/0) 粘性非常にあり、しまりあり、鉄を作る際に掘り込まれた部分か。
- 3 黒色粘質シルト (N1.5/0) 粘性非常にあり、しまりあり、未分解腐植物を斑状に多量含む。VIIa層を斑状に多く含む。
- 5 黒色粘質土 (5Y2/1) 粘性あり、しまりややあり、未分解腐植物を斑状に多量含む。VIIa層をブロック状に含む。当時の耕作土と考えられる。西へ行くほど黒化する。

SD22

- 1 灰色シルト (5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。

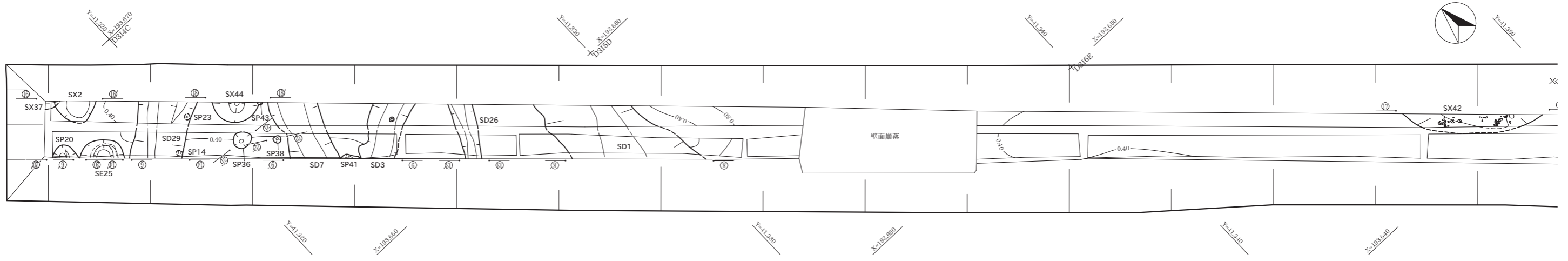
SD39

- 1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1~3mmを少量含む。未分解腐植物を少量含む。地山を微量に含む。
- 2 灰色シルト (5Y5/1) 粘性あり、しまりあり。

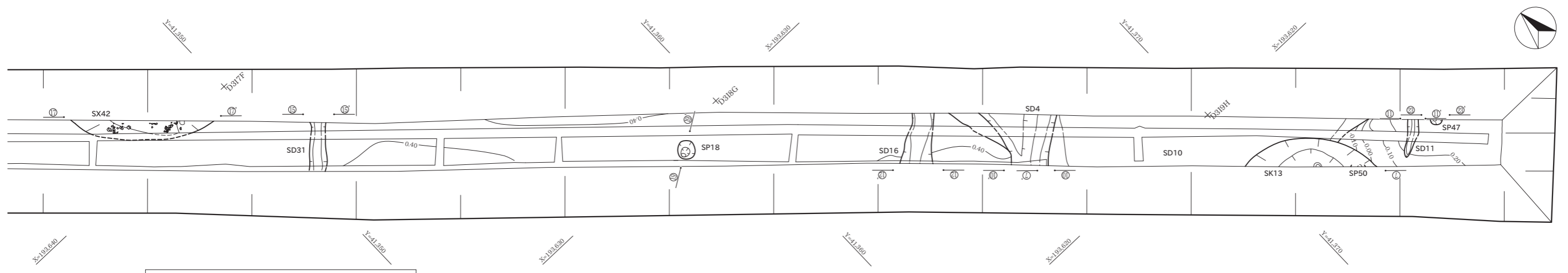
SD45

- 1 黒色粘土 (10YR1.7/1) 粘性非常にあり、しまりややあり、未分解腐植物層炭化物を多量に含む。VIIbガツボ層相当。

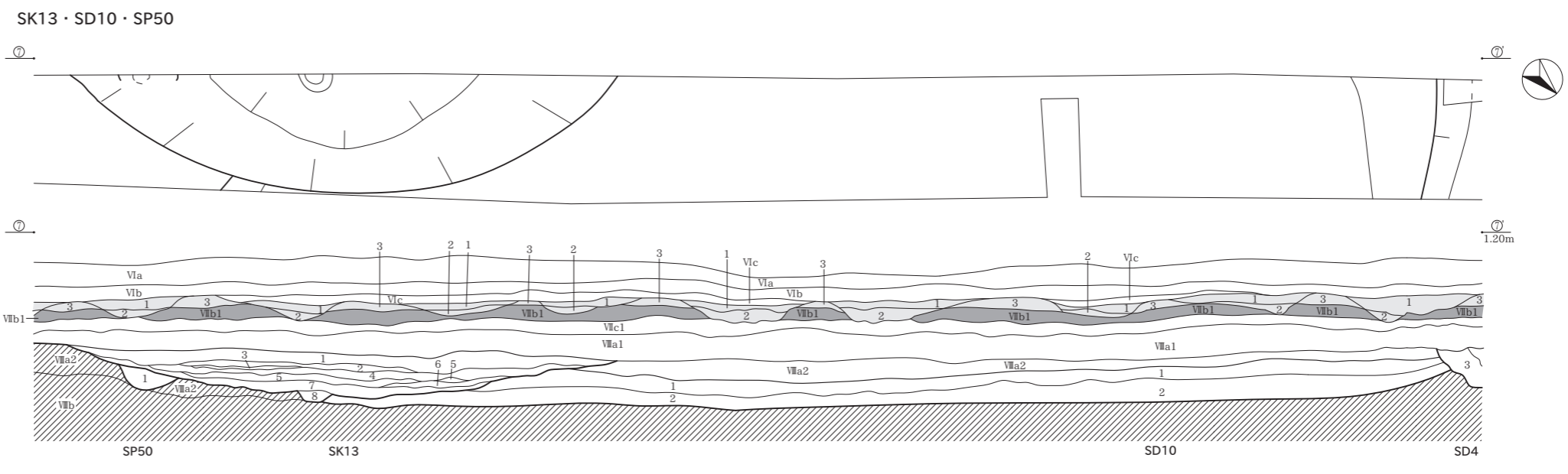
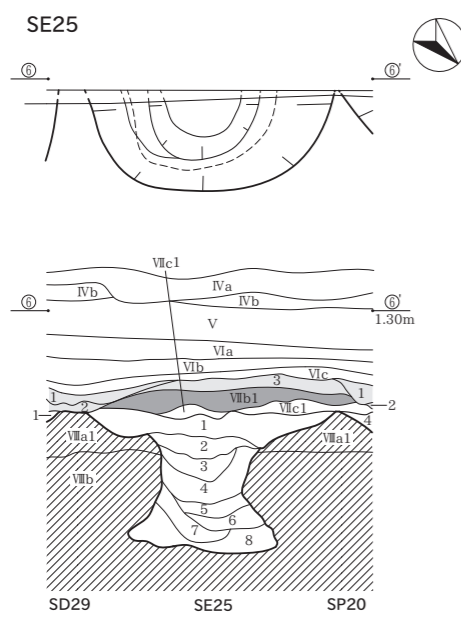
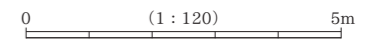
0 (1:40) 2m



2区 中層部分図(1)



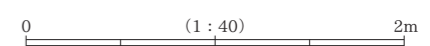
2区 中層部分図(2)

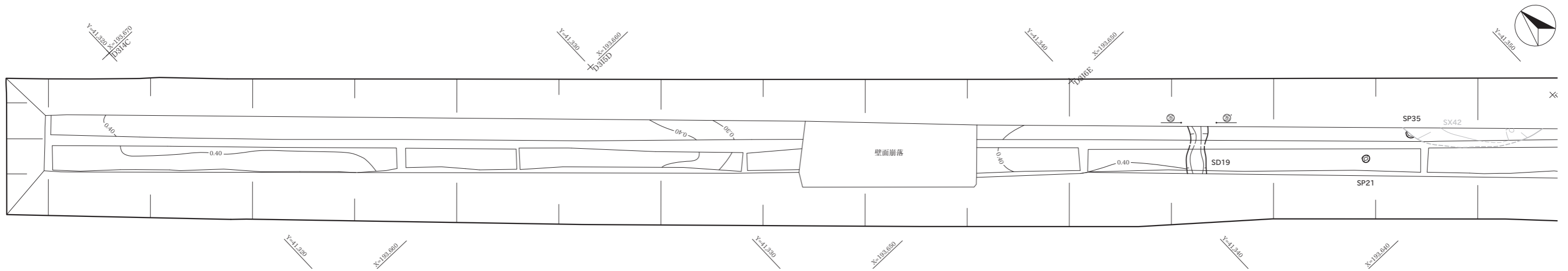


- SE25**
- 1 オリーブ黒色粘質シルト (5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを含む。未分解腐植物を斑状に含む。黒褐色粘質土を斑状に含む。
 - 2 灰色粘質シルト (7.5Y4/1) 粘性非常にあり、しまりやあり、炭化物φ1~5mmを含む。未分解腐植物を斑状に含む。黒褐色粘質土を斑状に含む。
 - 3 灰色粘質シルト (10Y4/1) 粘性非常にあり、しまりやあり、炭化物φ5mmを含む。黒褐色粘質土を斑状に多量含む。
 - 4 灰色粘質シルト (10Y4/1) 粘性非常にあり、しまりやあり、炭化物φ5mmを含む。黒褐色粘質土を斑状に含む。
 - 5 灰色粘質シルト (10Y4/1) 粘性非常にあり、しまりやあり、炭化物φ5mmを多量含む。黒褐色粘質土を斑状に含む。
 - 6 灰色粘質シルト (7.5Y4/1) 粘性非常にあり、しまりやあり、炭化物φ5mmを多量含む。黒褐色粘質土を斑状に多量含む。
 - 7 灰色粘質シルト (10Y5/1) 粘性非常にあり、しまりやあり、炭化物φ5mmを含む。黒褐色粘質土を斑状に含む。
 - 8 灰色粘質シルト (7.5Y5/1) 粘性非常にあり、しまりやあり、炭化物φ5mmを少量含む。黒褐色粘質土を斑状に含む。

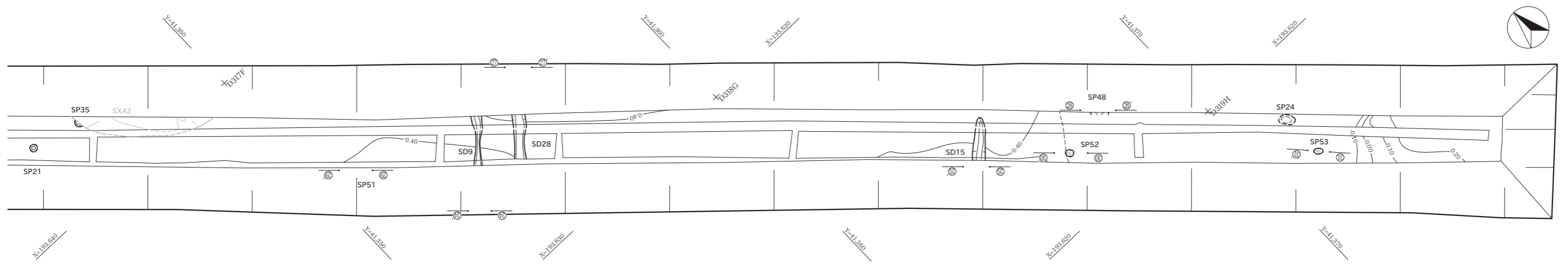
- SK13**
- 1 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性なし、しまりやあり。
 - 2 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性やあり、しまりやあり。
 - 3 黒色炭化物層 (10YR2/1) 粘性なし、しまりやあり、粘土を斑状に含む。
 - 4 黒褐色シルト (10YR3/2) 粘性なし、しまりやあり、粘土をラマナ状に含む。
 - 5 黒色炭化物層 (10YR2/1) 粘性なし、しまりやあり。
 - 6 黒褐色粘土層 (10YR3/2) 粘性やあり、しまりやあり。
 - 7 褐灰色 (10YR4/1) 粘性やあり、しまりなし。
 - 8 黒褐色 (10YR3/1) 粘性やあり、しまりやあり、炭化物φ1~3mmを中量含む。

- SD10**
- 1 オリーブ黒色粘土 (7.5Y3/1) 粘性あり、しまりやあり。
 - 2 褐灰色シルト (10YR4/1) 粘性やあり、しまりやあり、炭化物φ1~2mmを多量含む。未分解腐植物を微量含む。
- SP50**
- 1 褐灰色粘質シルト (10YR4/1) 粘性あり、しまりやあり。

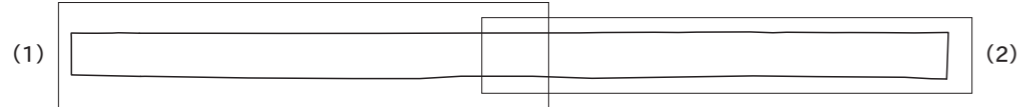




2区 下層部分図(1)

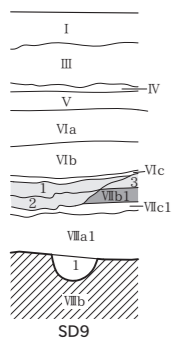


2区 下層部分図(2)

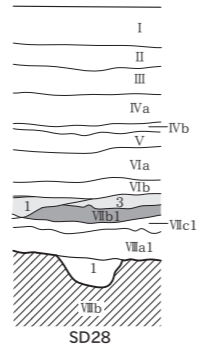


0 (1:120) 5m

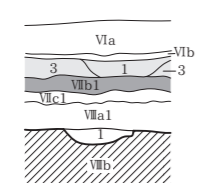
SD9
2.00m



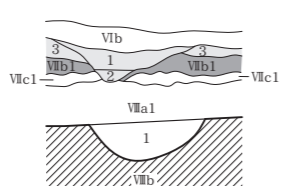
SD28
2.00m



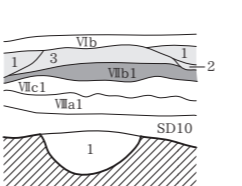
SD15
1.20m



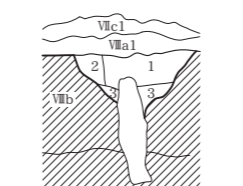
SD19
1.20m



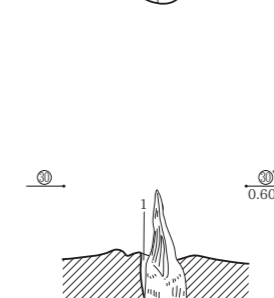
SP48
1.20m



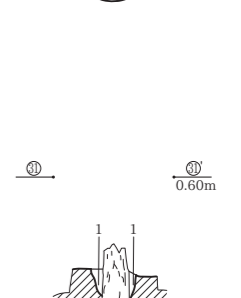
SP51
0.80m



SP52
0.60m



SP53
0.60m



SD9
1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~3mmを少量含む。地山を含む。

SD15
1 褐灰色粘土 (10YR4/1) 粘性非常にあり、しまりややあり、炭化物φ3~2mmを少量含む。未分解腐植物を中量含む。

SD19
1 灰色シルト (5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり。

SD28
1 灰色粘質シルト (7.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりややあり。

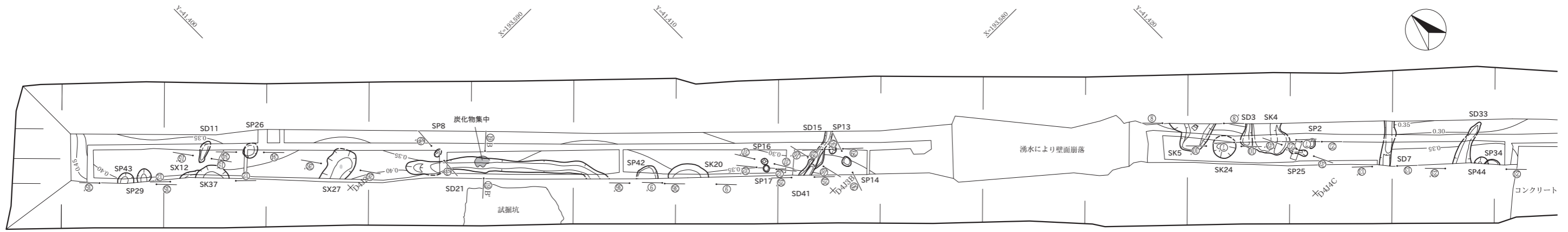
SP48
1 灰色シルト (5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、未分解腐植物を微量含む。

SP51
1 褐灰色粘土 (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ1~5mmを中量含む。
2 黄灰色シルト (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ1~5mmを中量含む。未分解腐植物を含む。地山を含む。
3 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~2mmを含む。未分解腐植物を含む。地山を含む。

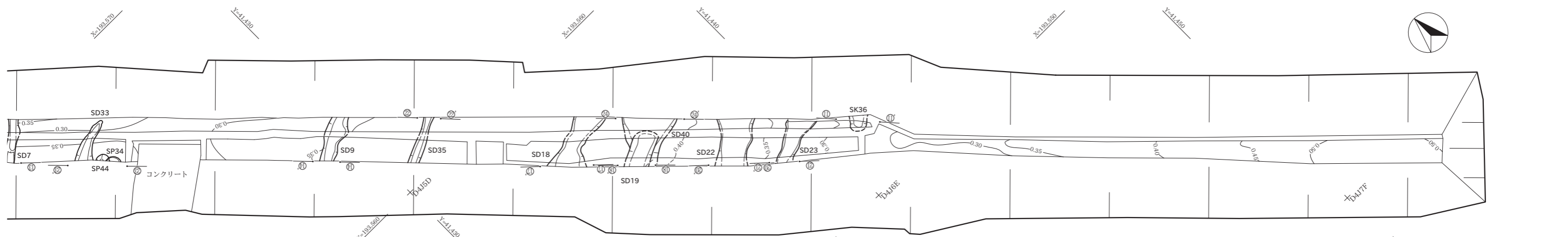
SP52
1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5~10mmを中量含む。未分解腐植物を微量含む。

SP53
1 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ1~15mmを中量含む。未分解腐植物を微量含む。

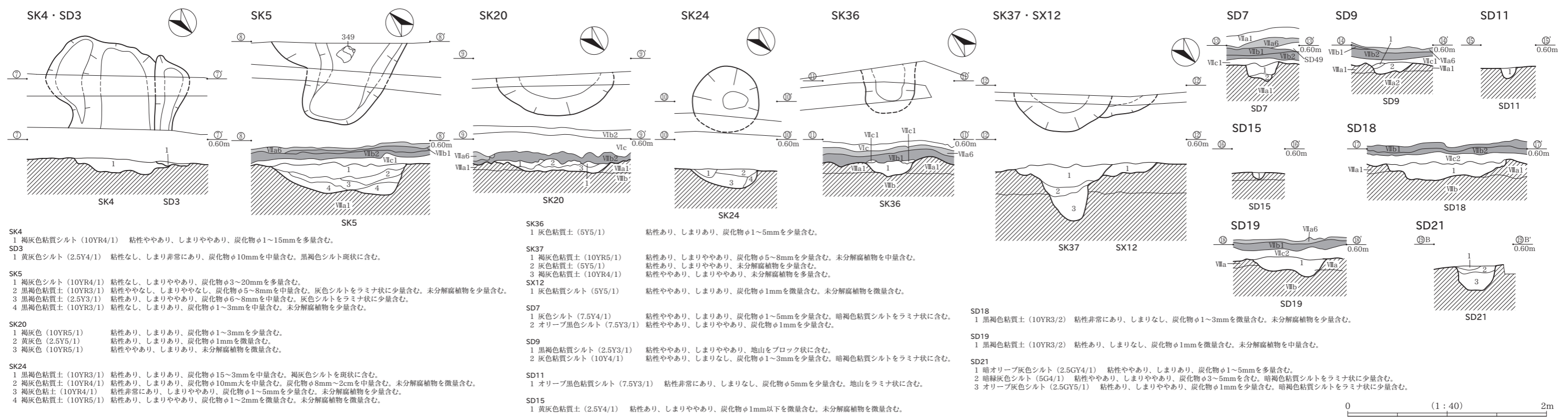
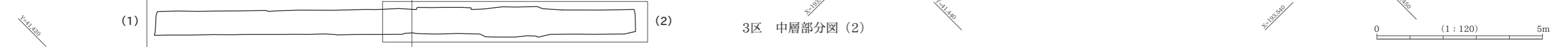
0 (1:40) 2m



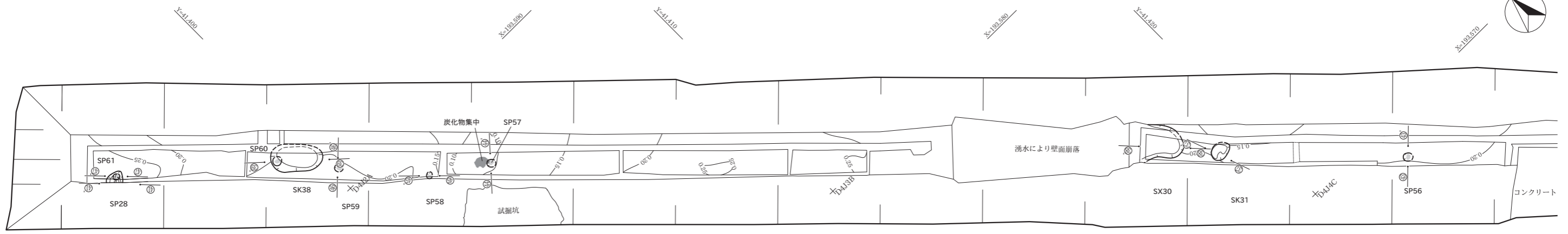
3区 中層部分図 (1)



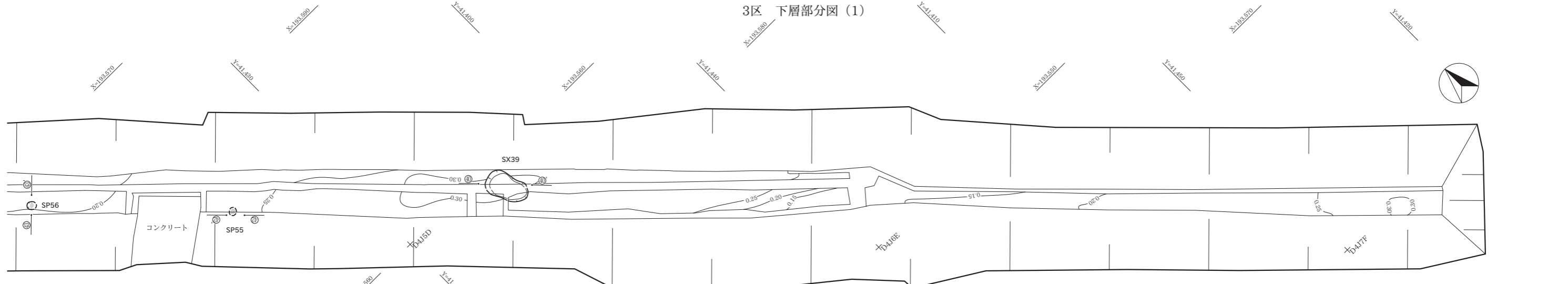
3区 中層部分図 (2)



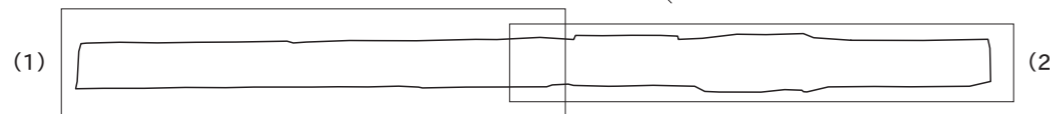
- SK4**
1 褐色粘質シルト (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ1~15mmを多量含む。
- SK5**
1 褐色シルト (10YR4/1) 粘性なし、しまりややあり、炭化物φ3~20mmを多量含む。
2 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性ややなし、しまりややなし、炭化物φ5~8mmを中量含む。灰色シルトをラミナ状に少量含む。未分解腐植物を少量含む。
3 黒褐色粘質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ6~8mmを中量含む。灰色シルトをラミナ状に少量含む。
4 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性なし、しまりあり、炭化物φ1~3mmを中量含む。未分解腐植物を少量含む。
- SK20**
1 褐色 (10YR5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~3mmを少量含む。
2 黄灰色 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1mmを微量含む。
3 褐色 (10YR5/1) 粘性ややあり、しまりあり、未分解腐植物を微量含む。
- SK24**
1 黒褐色粘質土 (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ15~3mmを中量含む。褐色シルトを斑状に含む。
2 褐色粘質土 (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ10mm大を中量含む。炭化物φ8mm~2cmを中量含む。未分解腐植物を微量含む。
3 褐色粘質土 (10YR4/1) 粘性非常にあり、しまりややあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。未分解腐植物を少量含む。
4 褐色粘質土 (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1~2mmを微量含む。未分解腐植物を微量含む。
- SK36**
1 灰色粘質土 (5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。
- SK37**
1 褐色粘質土 (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ5~8mmを少量含む。未分解腐植物を中量含む。
2 灰色粘質土 (5Y5/1) 粘性あり、しまりややあり、未分解腐植物を少量含む。
3 褐色粘質土 (10YR4/1) 粘性ややあり、しまりややあり、未分解腐植物を多量含む。
- SK37, SX12**
1 灰色粘質シルト (5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1mmを微量含む。未分解腐植物を微量含む。
- SD7**
1 灰色シルト (7.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを少量含む。暗褐色粘質シルトをラミナ状に含む。
2 オリーブ黒色シルト (7.5Y3/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ1mmを少量含む。
- SD9**
1 黒褐色粘質シルト (2.5Y3/1) 粘性ややあり、しまりややあり、地山をブロック状に含む。
2 灰色粘質シルト (10Y4/1) 粘性ややあり、しまりなし、炭化物φ1~3mmを少量含む。暗褐色粘質シルトをラミナ状に含む。
- SD11**
1 オリーブ黒色粘質シルト (7.5Y3/1) 粘性非常にあり、しまりなし、炭化物φ5mmを少量含む。地山をラミナ状に含む。
- SD15**
1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1mm以下を微量含む。未分解腐植物を微量含む。
- SD18**
1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性非常にあり、しまりなし、炭化物φ1~3mmを微量含む。未分解腐植物を少量含む。
- SD19**
1 黒褐色粘質土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりなし、炭化物φ1mmを微量含む。未分解腐植物を中量含む。
- SD21**
1 暗オリーブ灰色シルト (2.5GY4/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ1~5mmを多量含む。
2 暗緑灰色シルト (5G4/1) 粘性ややあり、しまりややあり、炭化物φ3~5mmを含む。暗褐色粘質シルトをラミナ状に少量含む。
3 オリーブ灰色シルト (2.5GY5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1mmを少量含む。暗褐色粘質シルトをラミナ状に少量含む。



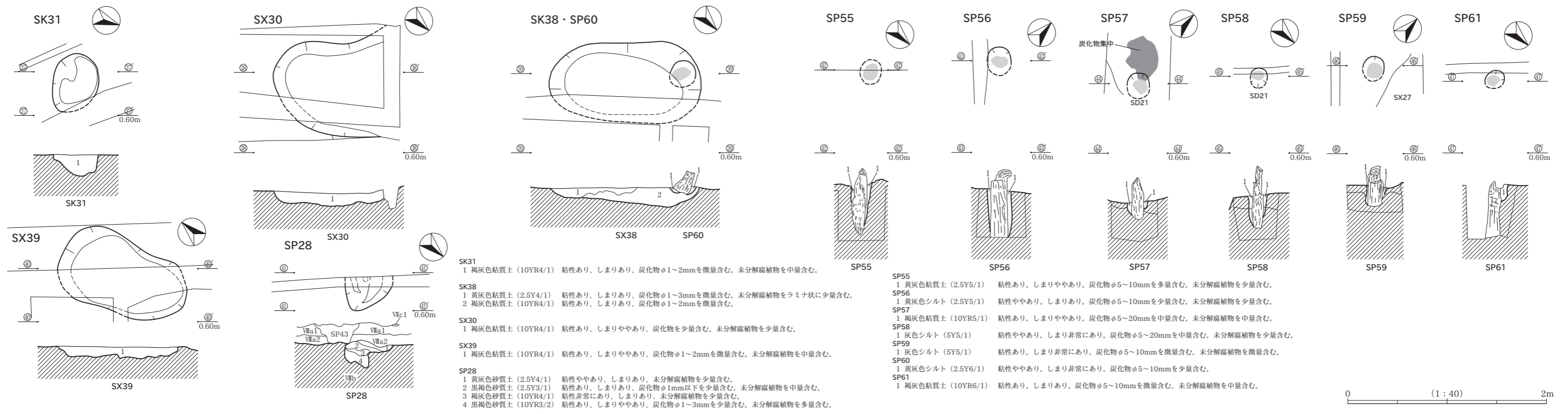
3区 下層部分図(1)



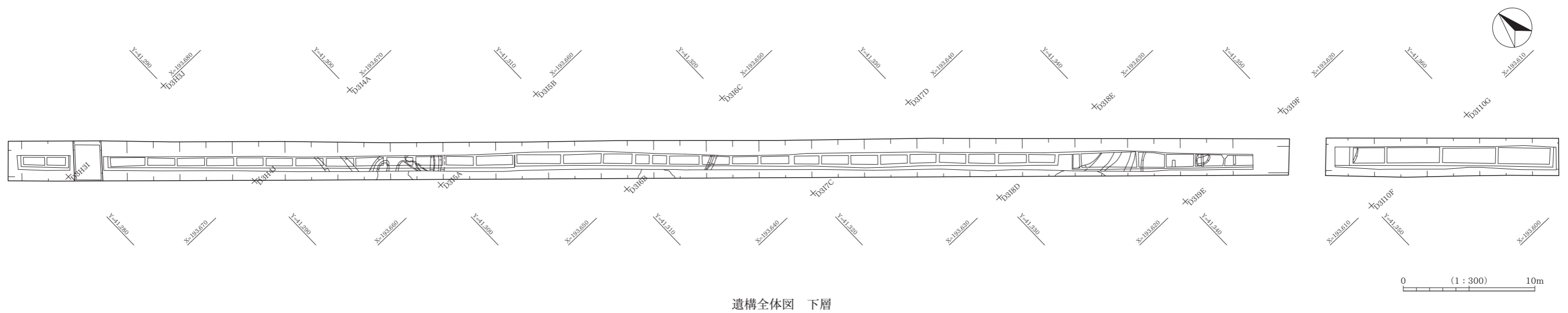
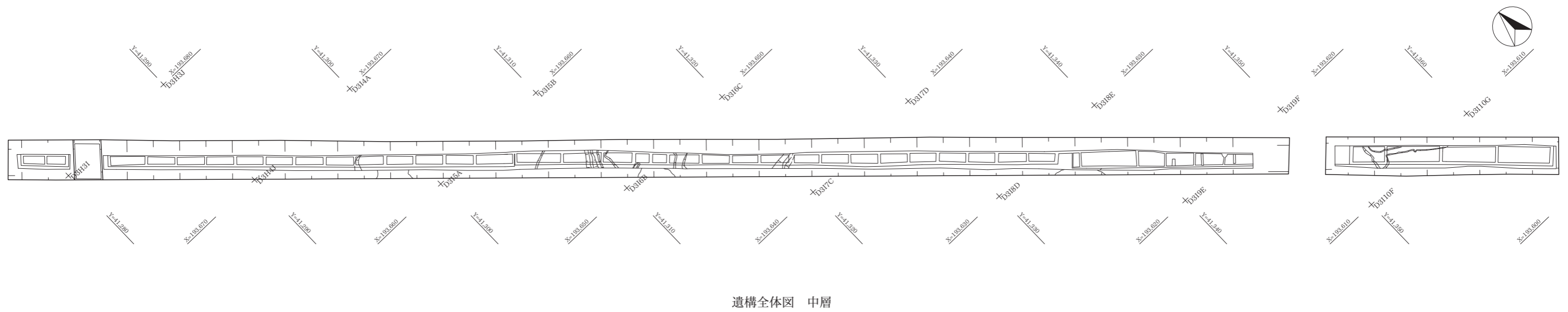
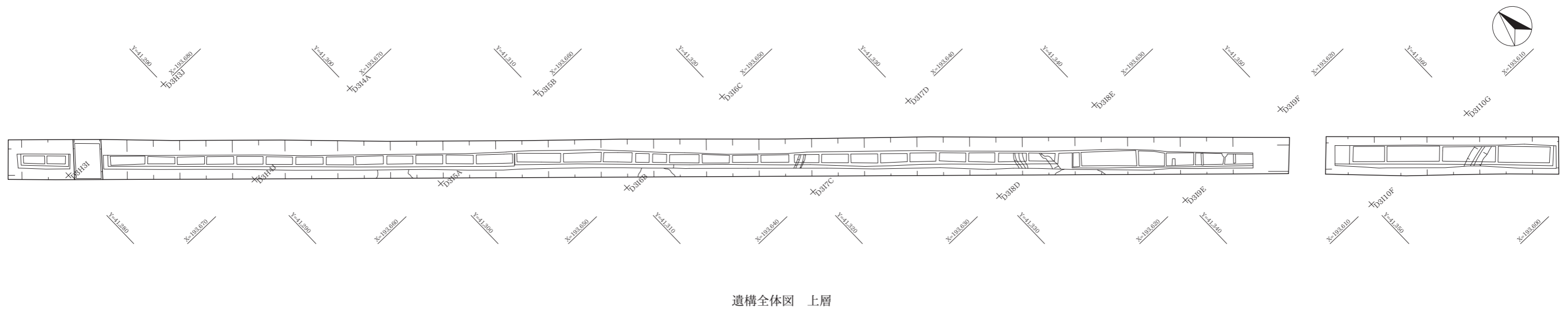
3区 下層部分図(2)

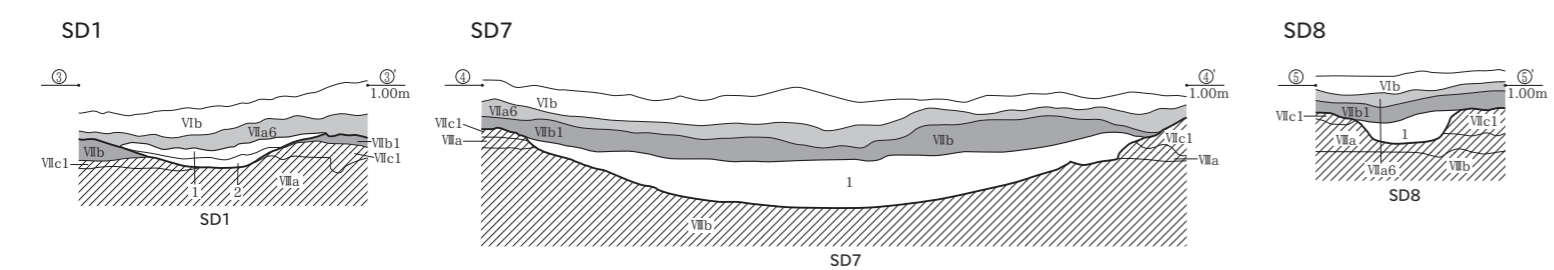
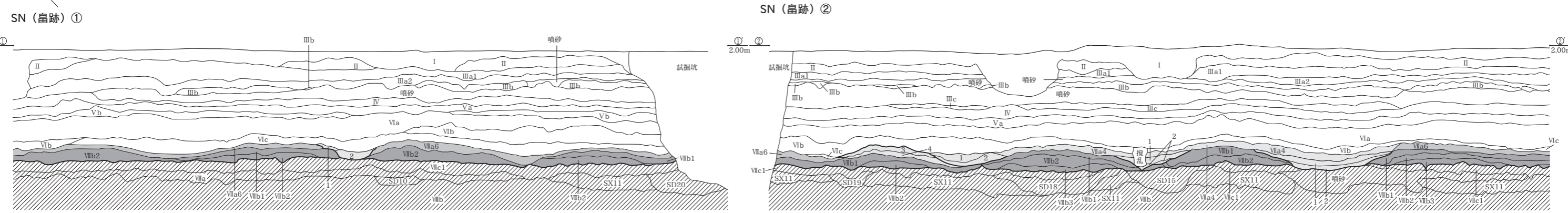
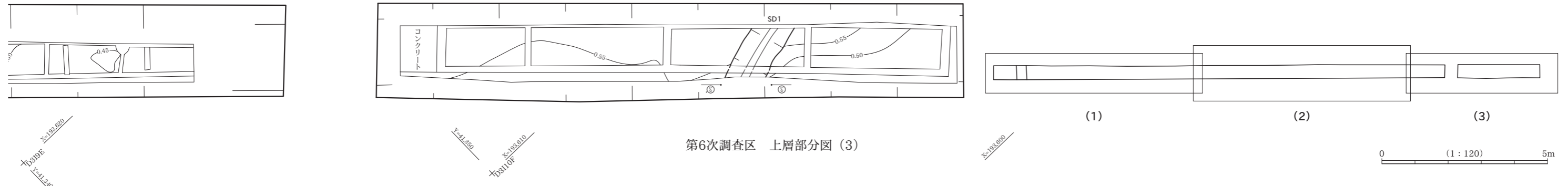
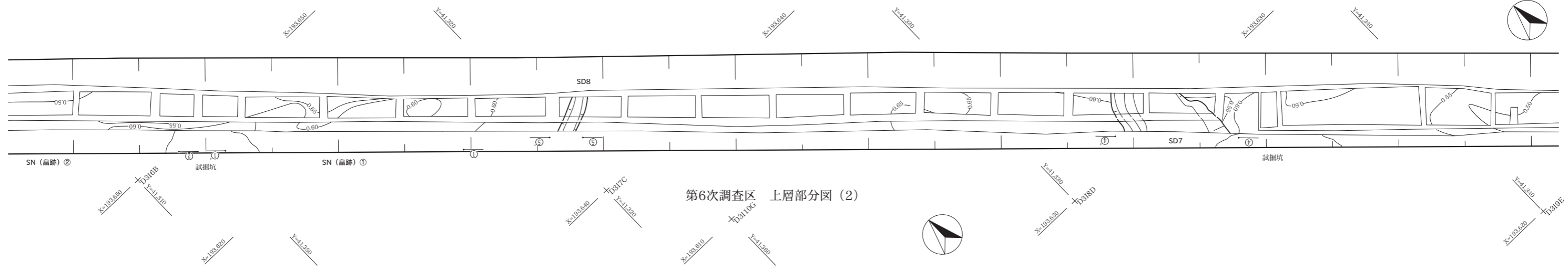
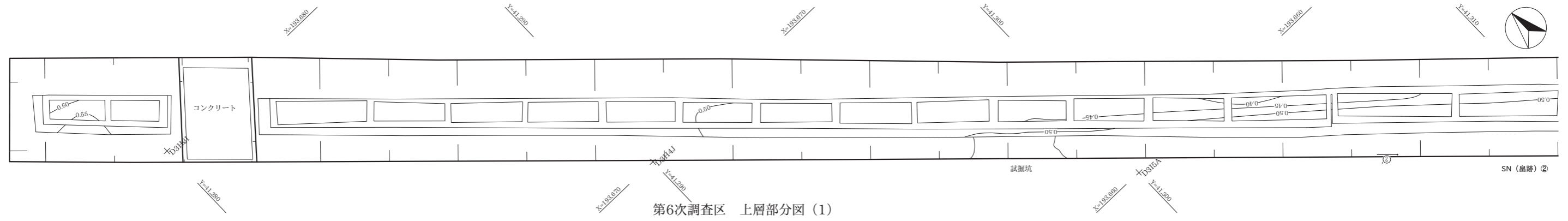


0 (1:120) 5m



- SK31**
1 褐灰色粘質土 (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~2mmを微量含む。未分解腐植物を中量含む。
- SK38**
1 黄灰色粘質土 (2.5Y4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~3mmを微量含む。未分解腐植物をラミナ状に少量含む。
2 褐灰色粘質土 (10YR4/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1~2mmを微量含む。
- SX30**
1 褐灰色粘質土 (10YR4/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物を少量含む。未分解腐植物を少量含む。
- SX39**
1 褐灰色粘質土 (10YR4/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1~2mmを微量含む。未分解腐植物を中量含む。
- SP28**
1 黄灰色砂質土 (2.5Y4/1) 粘性ややあり、しまりあり、未分解腐植物を少量含む。
2 黒褐色砂質土 (2.5Y3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ1mm以下を少量含む。未分解腐植物を中量含む。
3 褐灰色砂質土 (10YR4/1) 粘性非常にあり、しまりあり、未分解腐植物を少量含む。
4 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ1~3mmを少量含む。未分解腐植物を多量含む。
- SP55**
1 黄灰色粘質土 (2.5Y5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ5~10mmを多量含む。未分解腐植物を少量含む。
- SP56**
1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物φ5~10mmを少量含む。未分解腐植物を少量含む。
- SP57**
1 褐灰色粘質土 (10YR5/1) 粘性あり、しまりややあり、炭化物φ5~20mmを中量含む。未分解腐植物を中量含む。
- SP58**
1 灰色シルト (5Y5/1) 粘性ややあり、しまり非常にあり、炭化物φ5~20mmを中量含む。未分解腐植物を少量含む。
- SP59**
1 黄灰色シルト (2.5Y5/1) 粘性あり、しまり非常にあり、炭化物φ5~10mmを微量含む。未分解腐植物を微量含む。
- SP60**
1 黄灰色シルト (2.5Y6/1) 粘性ややあり、しまり非常にあり、炭化物φ5~10mmを少量含む。
- SP61**
1 褐灰色粘質土 (10YR6/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物φ5~10mmを微量含む。未分解腐植物を中量含む。





0 1:120 5m

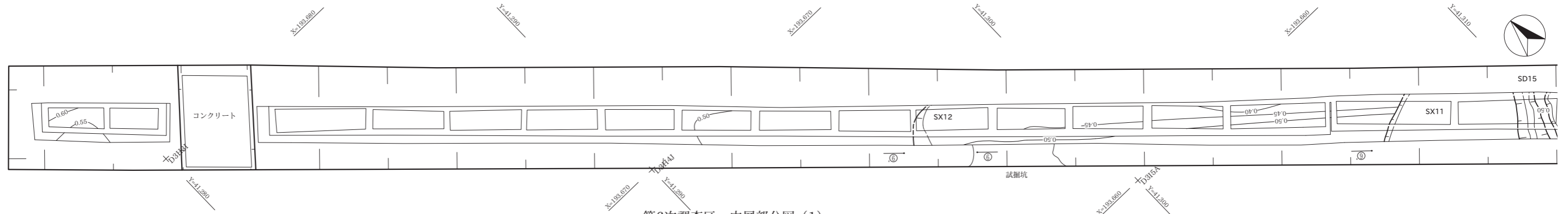
0 1:40 2m

SN
 1 オリーブ灰色粘質シルト (5GY5/1) 粘性非常にあり、しまりあり、VI層由来の未分解腐植物を含む。
 2 暗オリーブ灰色粘質シルト (2.5GY4/1) 粘性非常にあり、しまりあり、未分解腐植物を含む。水酸化鉄をラミナ状に含む。マンガンを多量含む。
 3 暗緑灰色粘質シルト (5G4/1) 粘性非常にあり、しまりあり、未分解腐植物を含む。
 4 黒色粘質シルト (N1.5/0) 粘性あり。しまりややあり。未分解腐植物を多量含む。

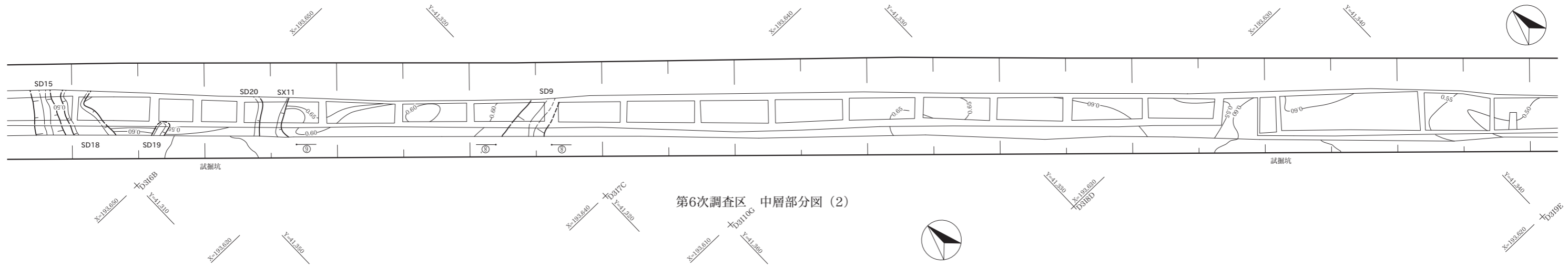
SD1
 1 灰色粘質シルト (10Y4/1) 粘性非常にあり、しまりあり、未分解腐植物を多量含む。
 2 灰白色腐植土 (7.5Y7/1) 粘性ややあり、しまりややあり。

SD7
 1 オリーブ灰色砂質シルト (5GY6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を斑状に含む。水酸化鉄を斑状に含む。

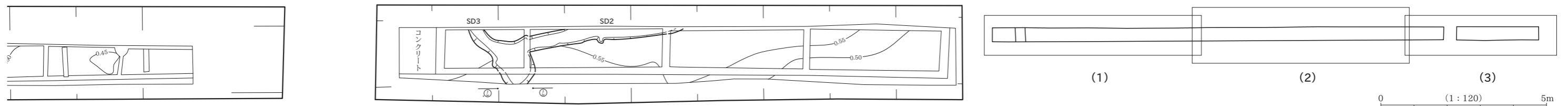
SD8
 1 黒色粘質シルト (10Y2/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。VIa層が斑状に混じる。未分解腐植物を含む。



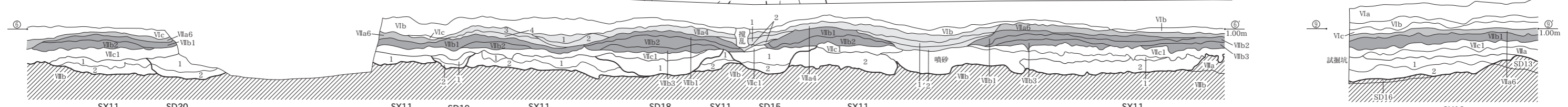
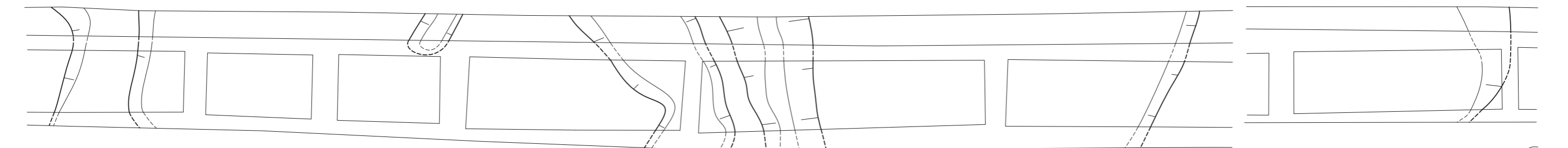
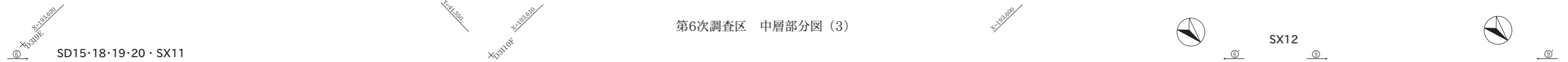
第6次調査区 中層部分図(1)



第6次調査区 中層部分図(2)

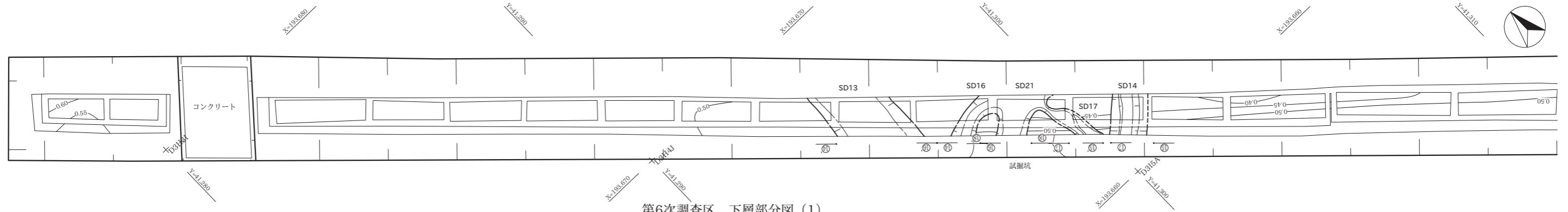


第6次調査区 中層部分図(3)

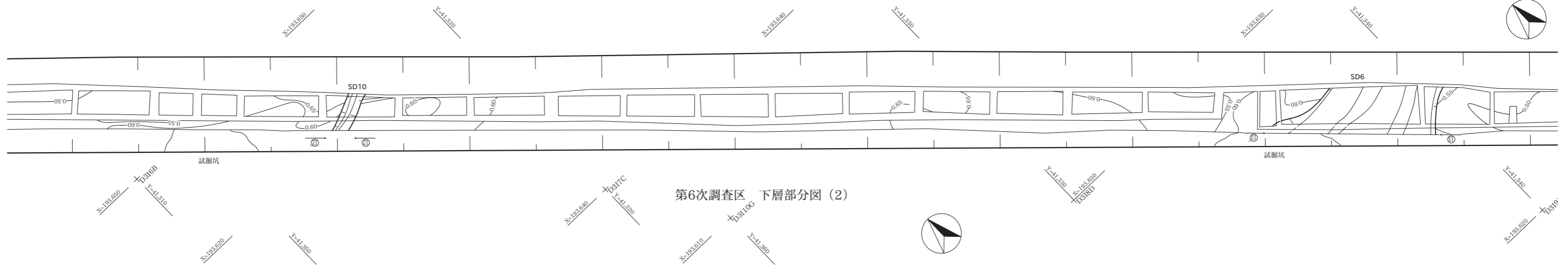


<p>SD3</p> <p>1 灰白色砂質シルト (7.5Y7/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物・焼土を含む。</p> <p>SD9</p> <p>1 灰オリーブ色砂質シルト (5Y5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を含む。VIIb層が斑状に混じる。</p> <p>SD15</p> <p>1 灰色粘質シルト (5Y5/1) 粘性あり、しまりあり、未分解腐植物を多量含む。</p> <p>2 灰色砂質シルト (5Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を含む。未分解腐植物を多量含む。</p>	<p>SD18</p> <p>1 灰オリーブ色粘質シルト (7.5Y5/2) 粘性あり、しまりあり、炭化物を微量含む。未分解腐植物を含む。</p> <p>SD19</p> <p>1 灰オリーブ色砂質シルト (7.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を含む。VII層がブロック状に混じる。</p> <p>2 灰オリーブ色細砂 (7.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を含む。VII層がブロック状に混じる。</p> <p>SD20</p> <p>1 灰オリーブ色砂質シルト (7.5Y5/2) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物・焼土を含む。</p> <p>2 灰オリーブ色細砂 (7.5Y6/2) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を含む。VII層が斑状に混じる。</p>	<p>SX11</p> <p>1 灰色砂質シルト (7.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物・未分解腐植物を含む。焼土を微量含む。</p> <p>2 灰白色細砂 (10Y7/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を微量含む。水酸化鉄を斑状に含む。</p> <p>SX12</p> <p>1 灰色砂質シルト (7.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物・焼土を含む。地山 (VIIb層) がブロック状に混じる。</p> <p>2 灰白色砂質シルト (10Y7/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を含む。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

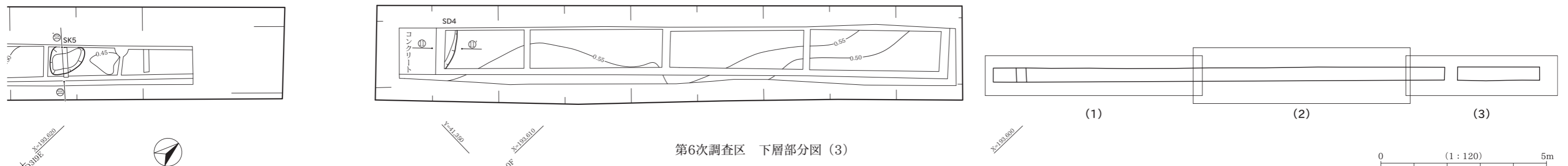
0 (1:40) 2m



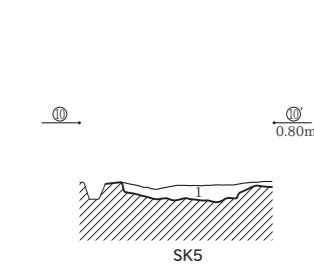
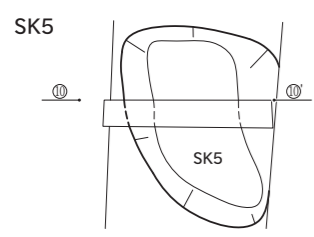
第6次調査区 下層部分図 (1)



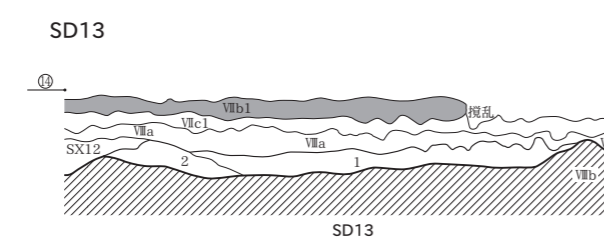
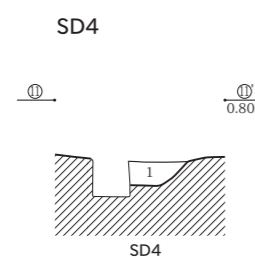
第6次調査区 下層部分図 (2)



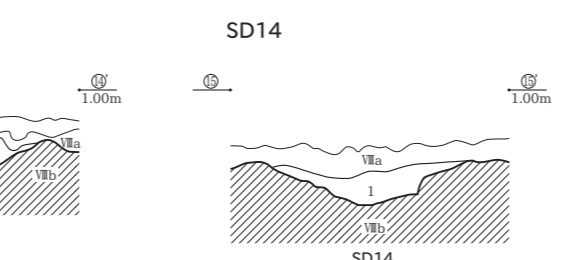
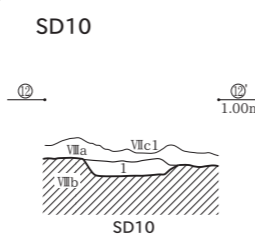
第6次調査区 下層部分図 (3)



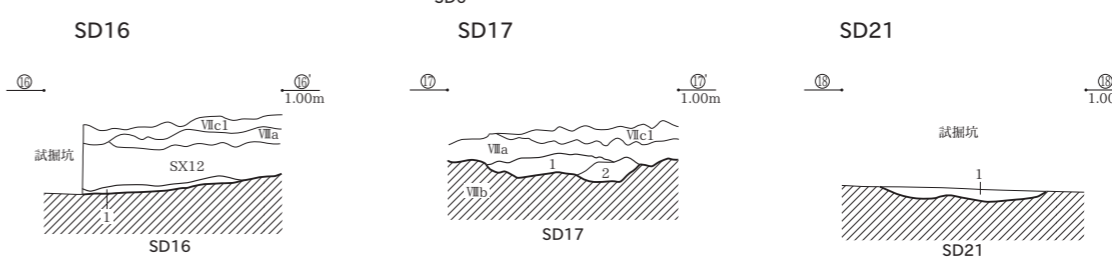
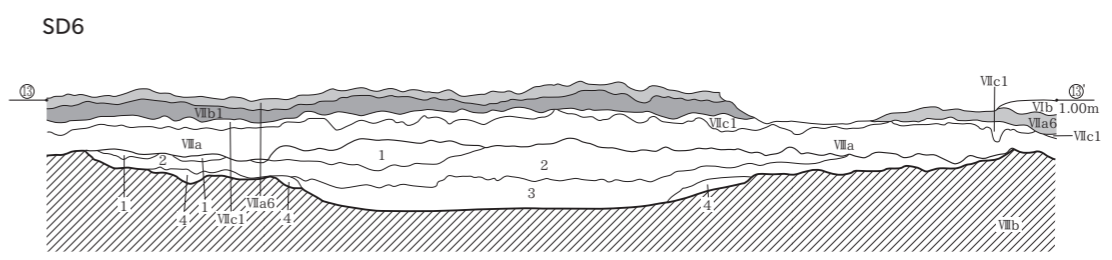
SK5
1 灰白色砂質シルト (10Y6/1) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を含む。VIIb層がブロック状に混じる。



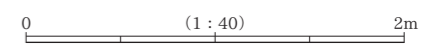
SD4
1 黄灰色砂質シルト (2.5Y5/1) 粘性ややあり、しまりあり、VIIc層が斑状に混じる。

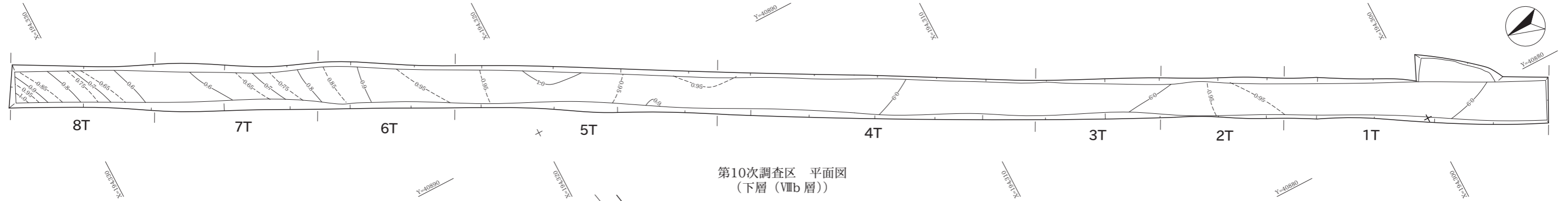
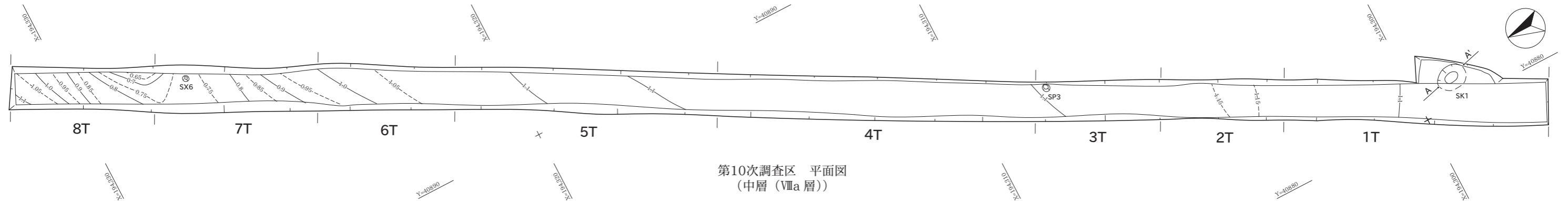
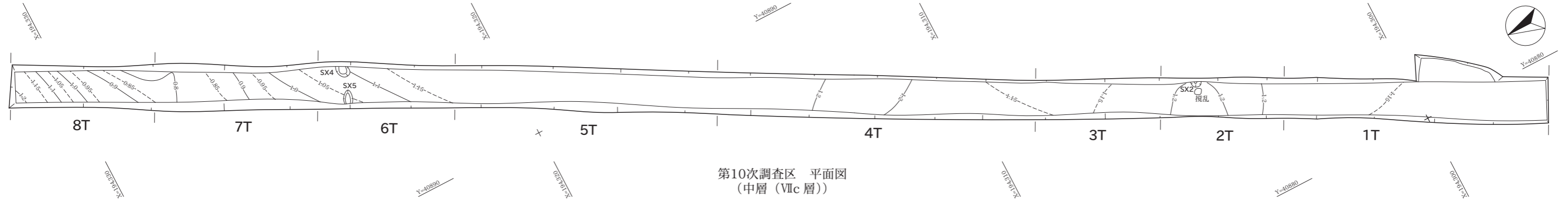


SD10
1 灰オリーブ色粘質シルト (7.5Y5/2) 粘性あり、しまりあり、VIIb層由来の未分解腐植物を多量に含む。

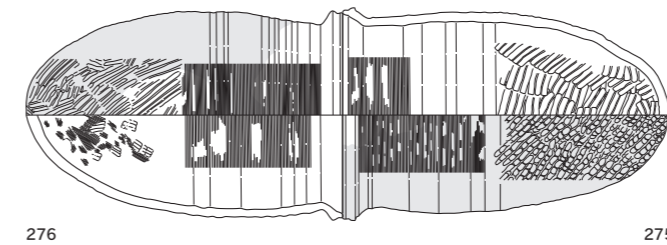
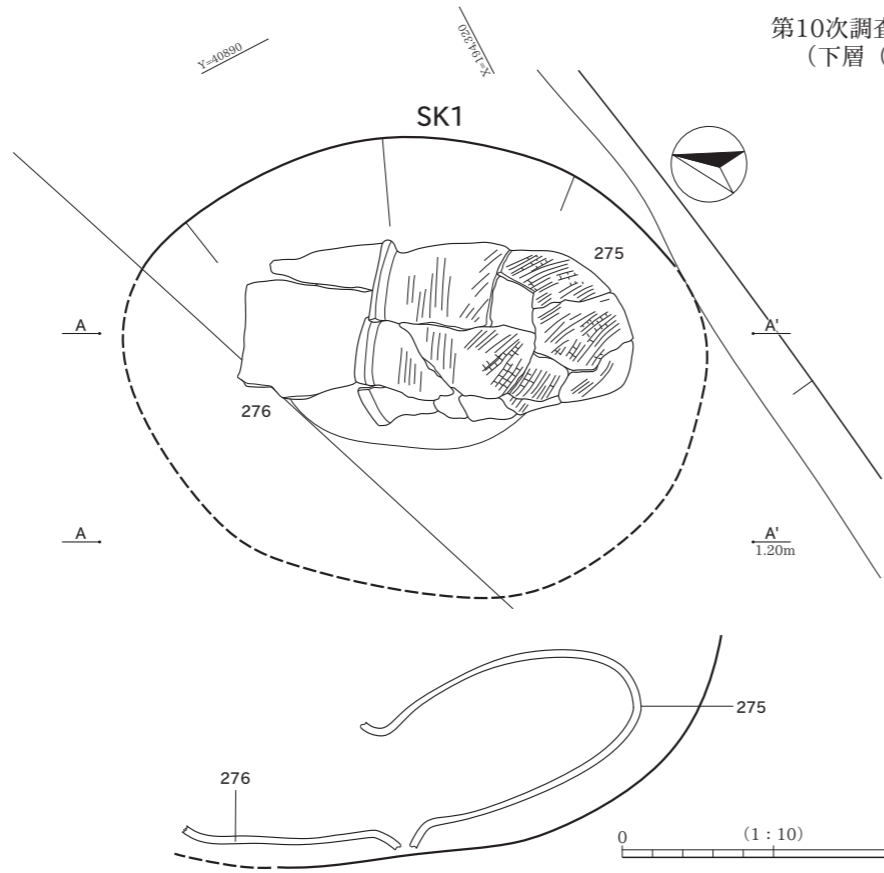
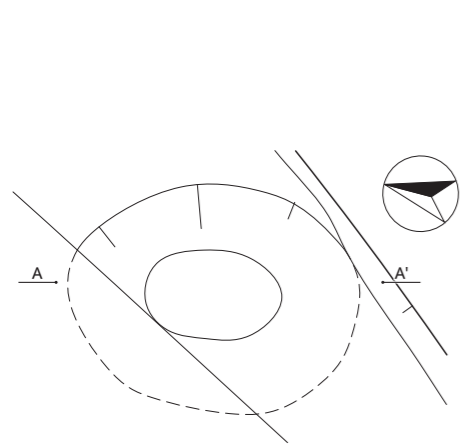


SD13
1 灰白色砂質シルト (10Y7/1)
2 灰色砂質シルト (7.5Y5/1)
SD14
1 灰色砂質シルト (7.5Y6/1)
SD16
1 灰オリーブ色砂質シルト (7.5Y6/2) 粘性ややあり、しまりあり、炭化物を含む。水酸化鉄を斑状に含む。

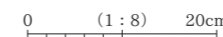




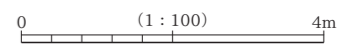
SK1 (土器棺墓) 微細図・断面図



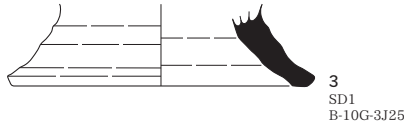
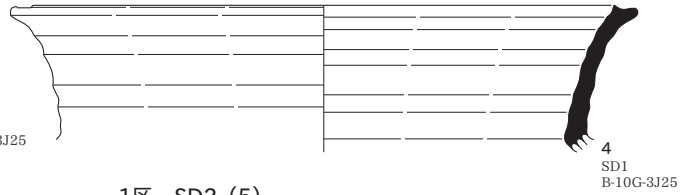
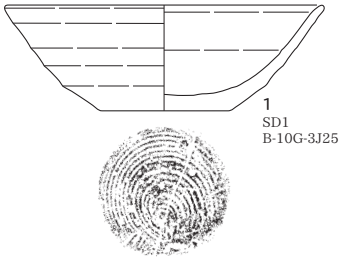
土器棺墓 復原図



土器棺墓 検出状況 (西から)



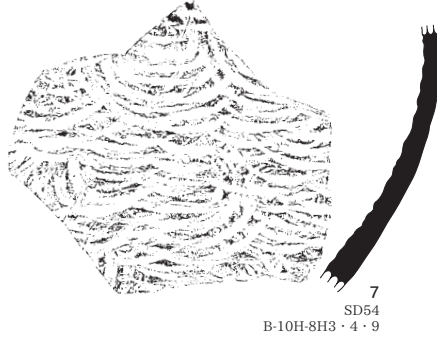
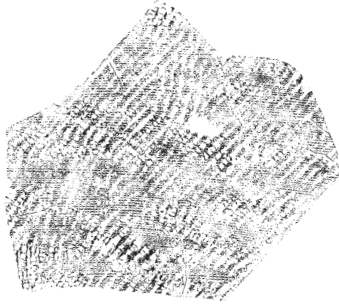
1区 SD1 (1~4)



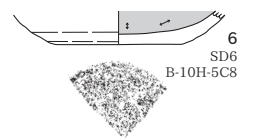
1区 SD2 (5)



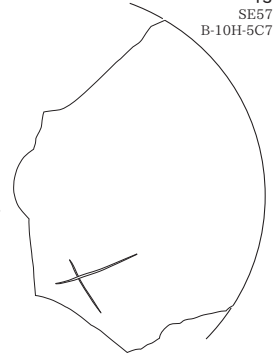
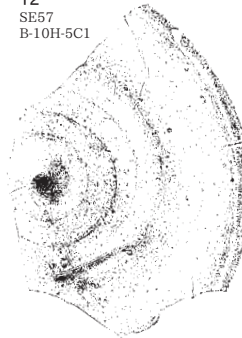
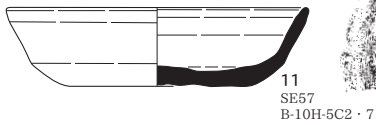
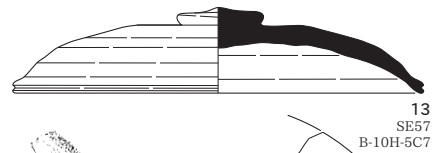
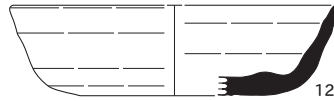
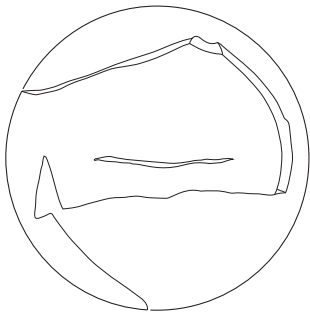
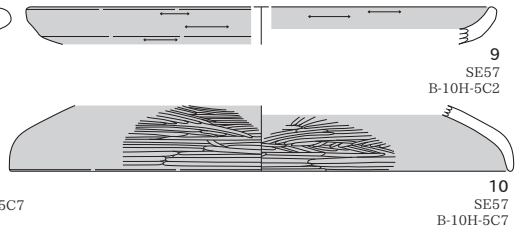
1区 SD54 (7)



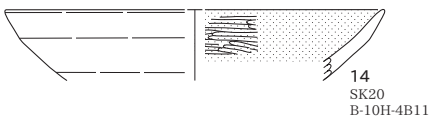
1区 SD6 (6)



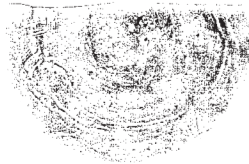
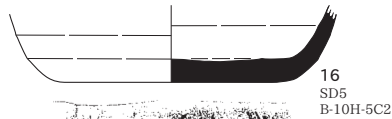
1区 SE57 (8~13)



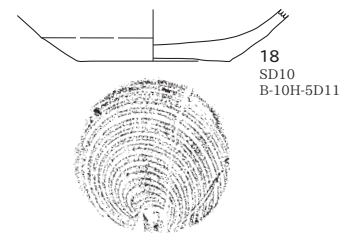
1区 SK20 (14)



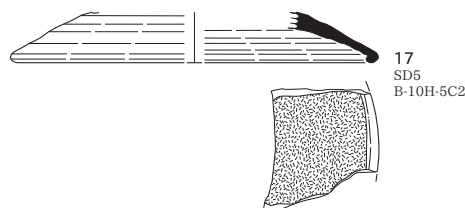
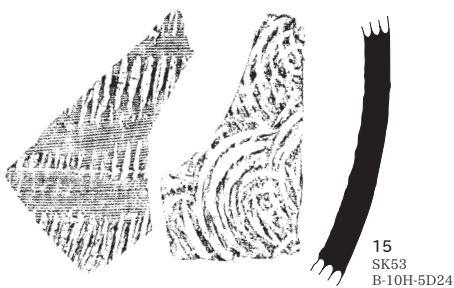
1区 SD5 (16 · 17)



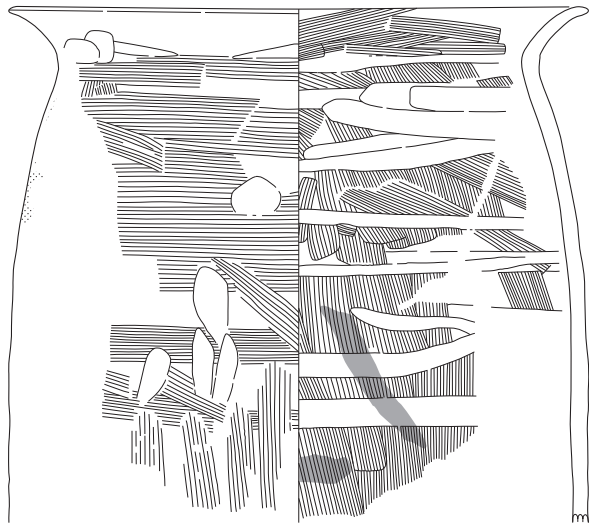
1区 SD10 (18)



1区 SK53 (15)

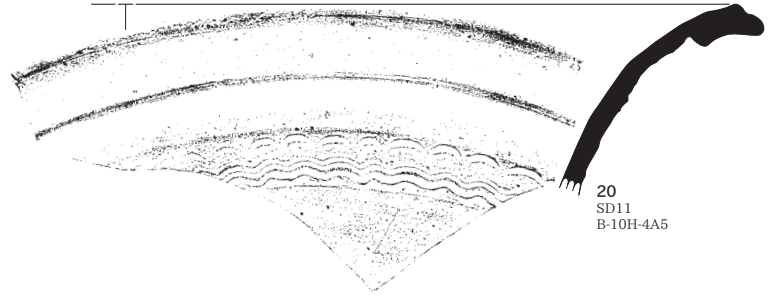


1区 SD11 (19~23)

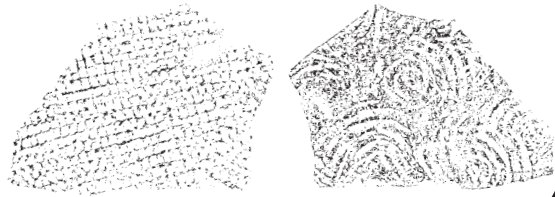


■ 黒色付着物

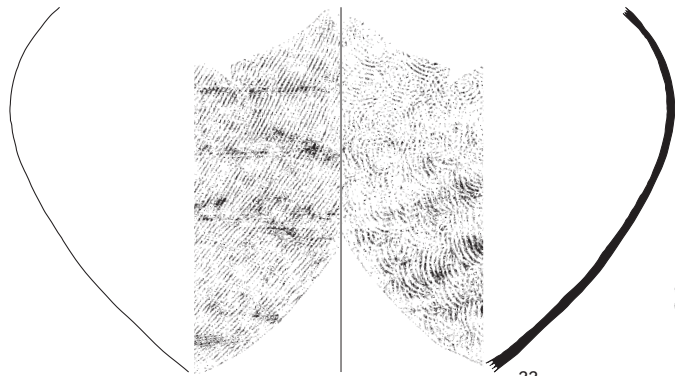
19
SD11・18・SK20
B-10H-4A3・15
4B11・16



20
SD11
B-10H-4A5



21
SD11
B-10H-4A1・8

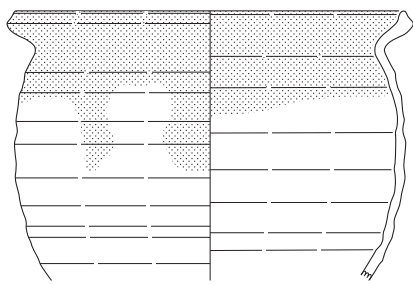


22
SD11
B-10H-4A10・15
4B12

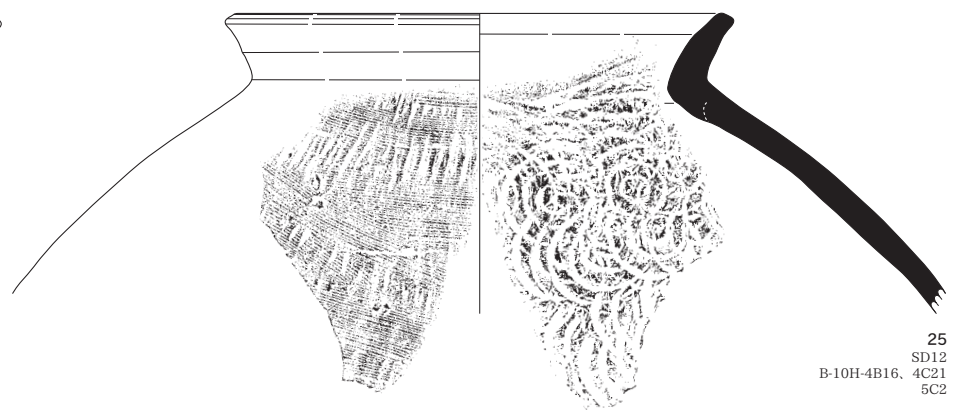


23
SD11
B-10H-4A9

1区 SD12 (24・25)

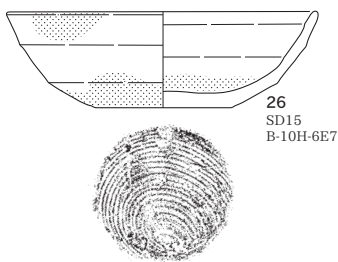


24
SD12
B-10H-5C2

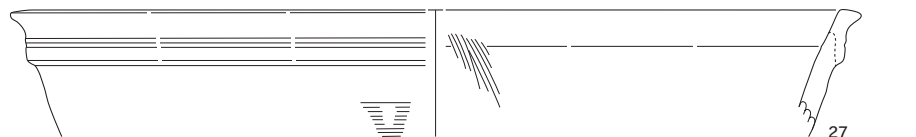


25
SD12
B-10H-4B16, 4C21
5C2

1区 SD15 (26・27)



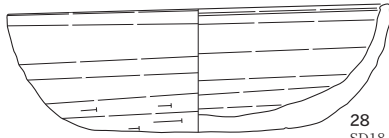
26
SD15
B-10H-6E7



27
SD15
B-10H-6E7

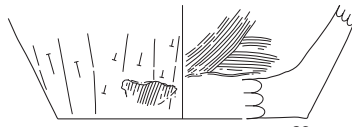
0 (22 1:8) 20cm
0 (その他 1:3) 10cm

1区 SD18 (28)



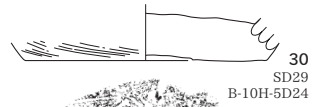
28
SD18
B-10H-4B11 · 16

1区 SD24 (29)



29
SD24
B-10H-5D17 · 18 · 22

1区 SD29 (30)



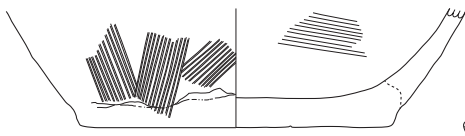
30
SD29
B-10H-5D24

1区 SD33 (31 · 34 · 35)

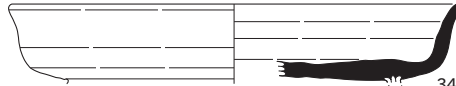


31
SD33
B-10H-6E1

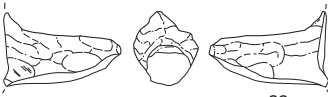
1区 SD30 (32 · 33 · 36)



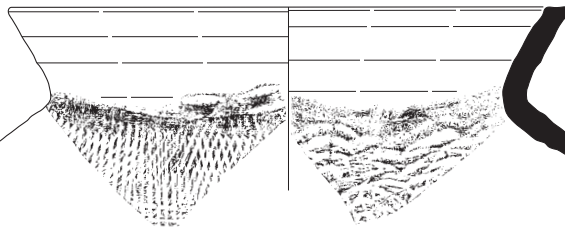
32
SD30
B-10H-5D24



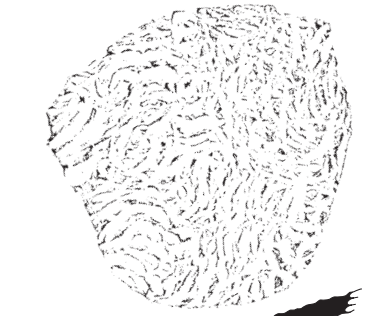
34
SD33
B-10H-6E1 · 6



33
SD30
B-10H-5D24



35
SD33
B-10H-6E6

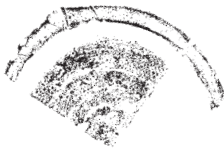


36
SD30
B-10H-5D24

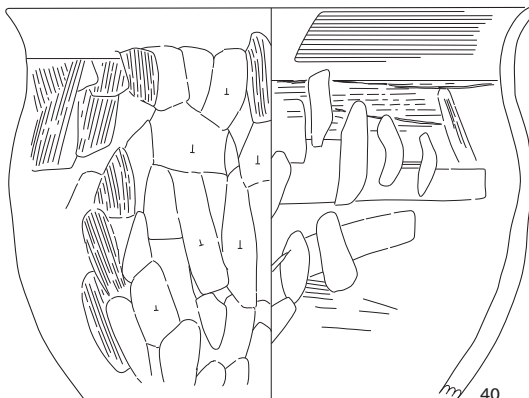
1区 SD35 (37)



37
SD35 · 39
B-10H-6E20
6F22

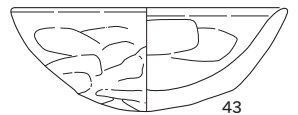


1区 SD42 (40 · 41)



40
SD42
B-10H-7G13

1区 SX65 (43 · 44)

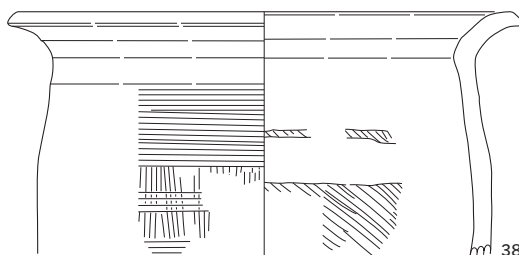


43
SX65
B-10H-7H22

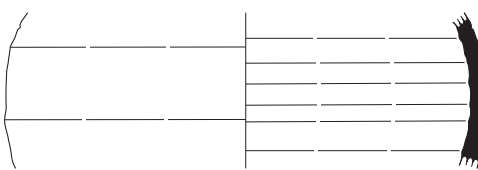


44
SX65
B-10H-7H22

1区 SD39 (38 · 39)

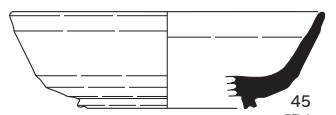


38
SD39 · 15
B-10H-6E1 · 2 · 7 · 11 · 13
6F22



41
SD42
B-10H-7G14

1区 SD4 (45)



45
SD4
B-10H-4B19 · 4C21

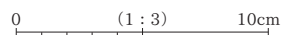


39
SD39
B-10H-6F22

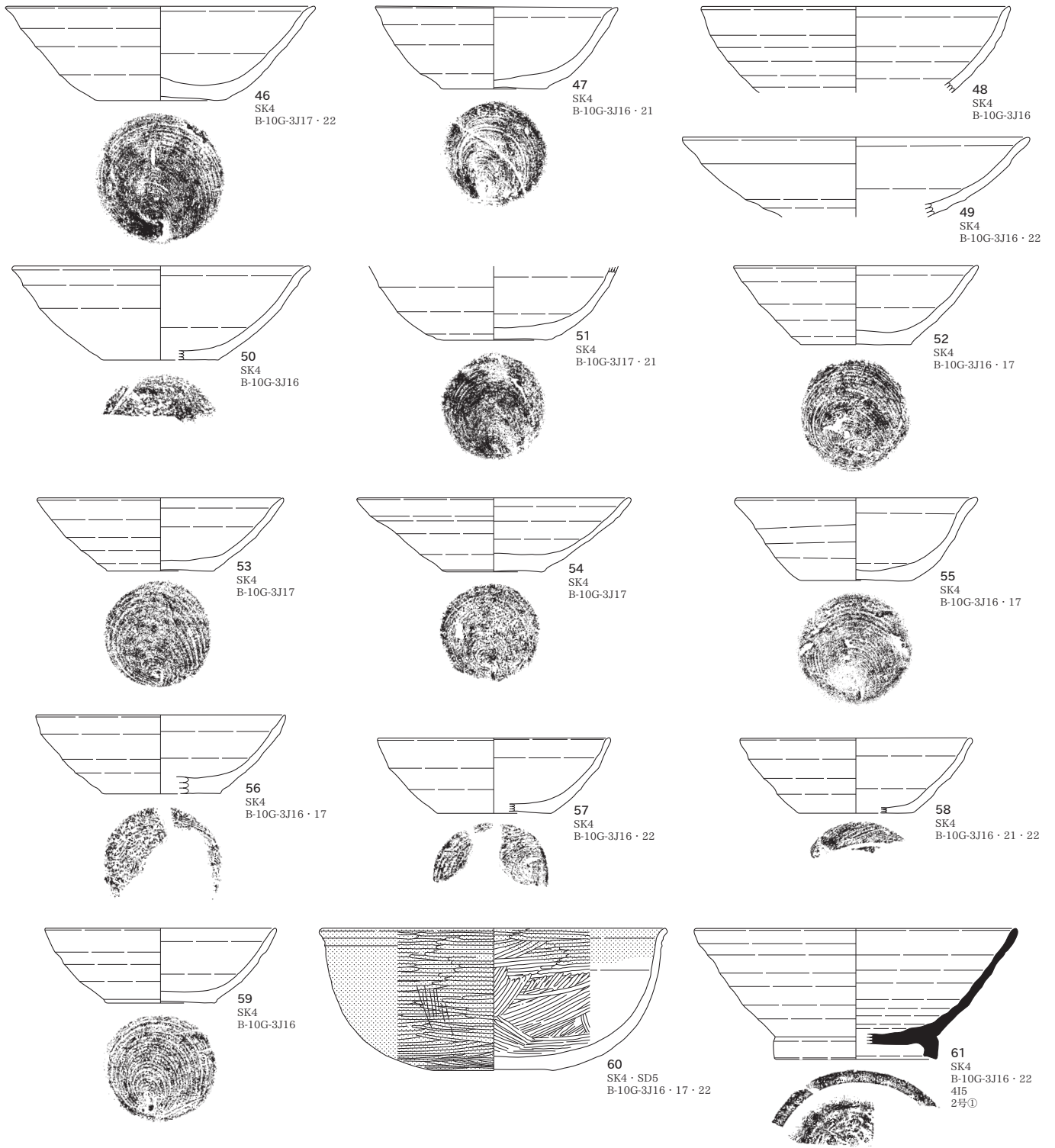
1区 SX45 (42)



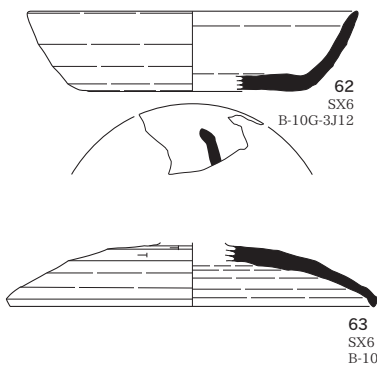
42
SX45
B-10H-7H23



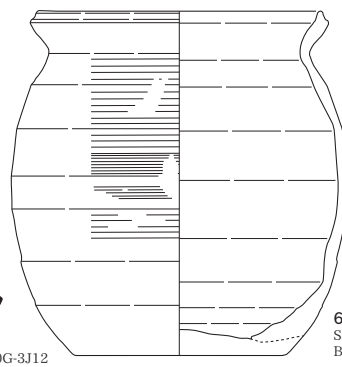
4区 SK4 (46~61)



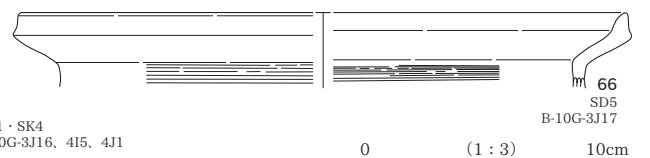
4区 SX6 (62 · 63)



4区 SD1 (64 · 65)

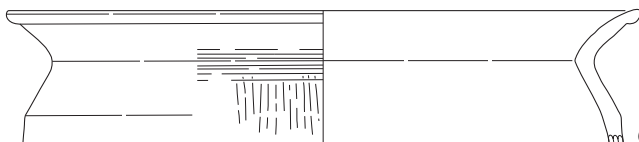


4区 SD5 (66)

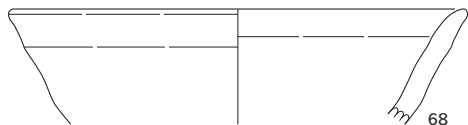


0 (1 : 3) 10cm

2区 SE25 (67・68)

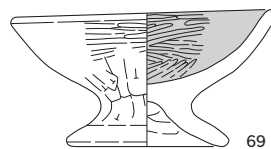


67
SE25
D-3I-4B4・9



68
SE25
D-3I-4B9

2区 SD7 (69)



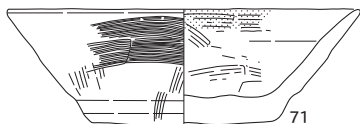
69
SD7
D-3I-4C17

2区 SX2 (70)

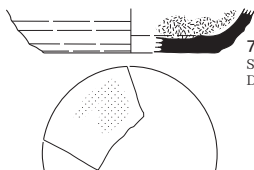


70
SX2
D-3I-4B4

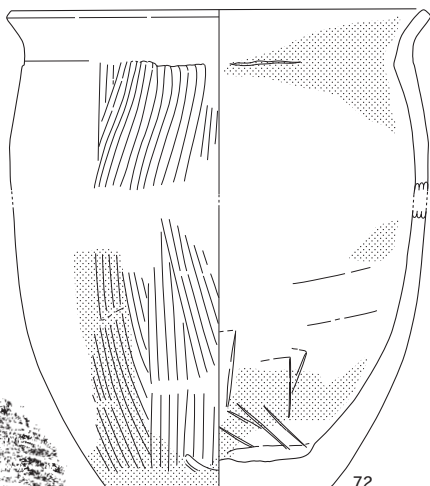
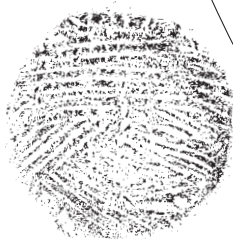
2区 SD3 (71~73)



71
SD3
D-3I-4C17・18

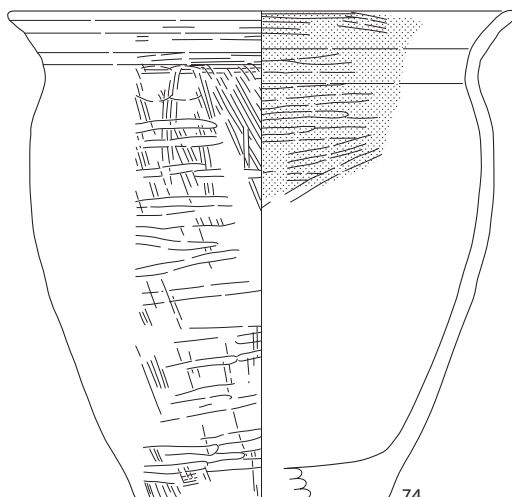


73
SD3
D-3I-4C18

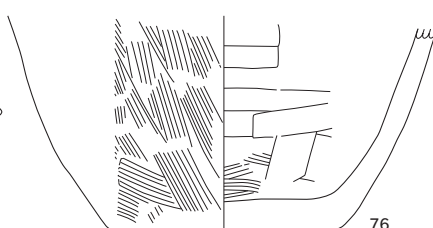


72
SD3
D-3I-4C17・18

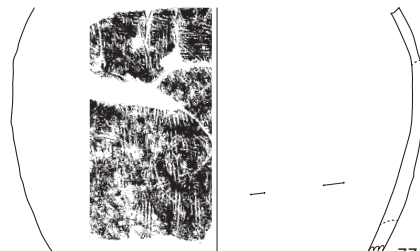
2区 SX42 (74~81)



74
SX42
D-3I-6E23・24・25、7E5



76
SX42
D-3I-6E24



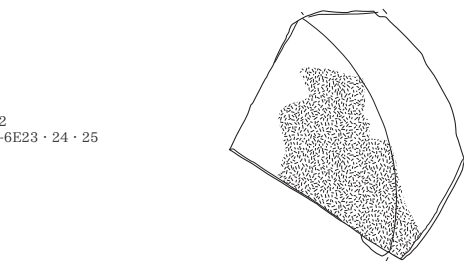
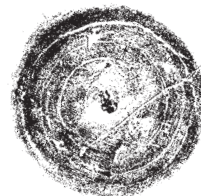
77
SX42
D-3I-6E23・24・25、7E5



75
SX42
D-3I-6E23・24・25



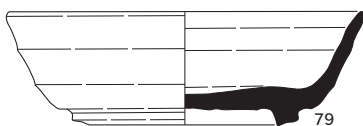
78
SX42
D-3I-6E24・8E22



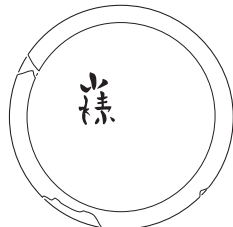
80
SX42
D-3I-6E24



81
SX42
D-3I-6E23・25、7E5



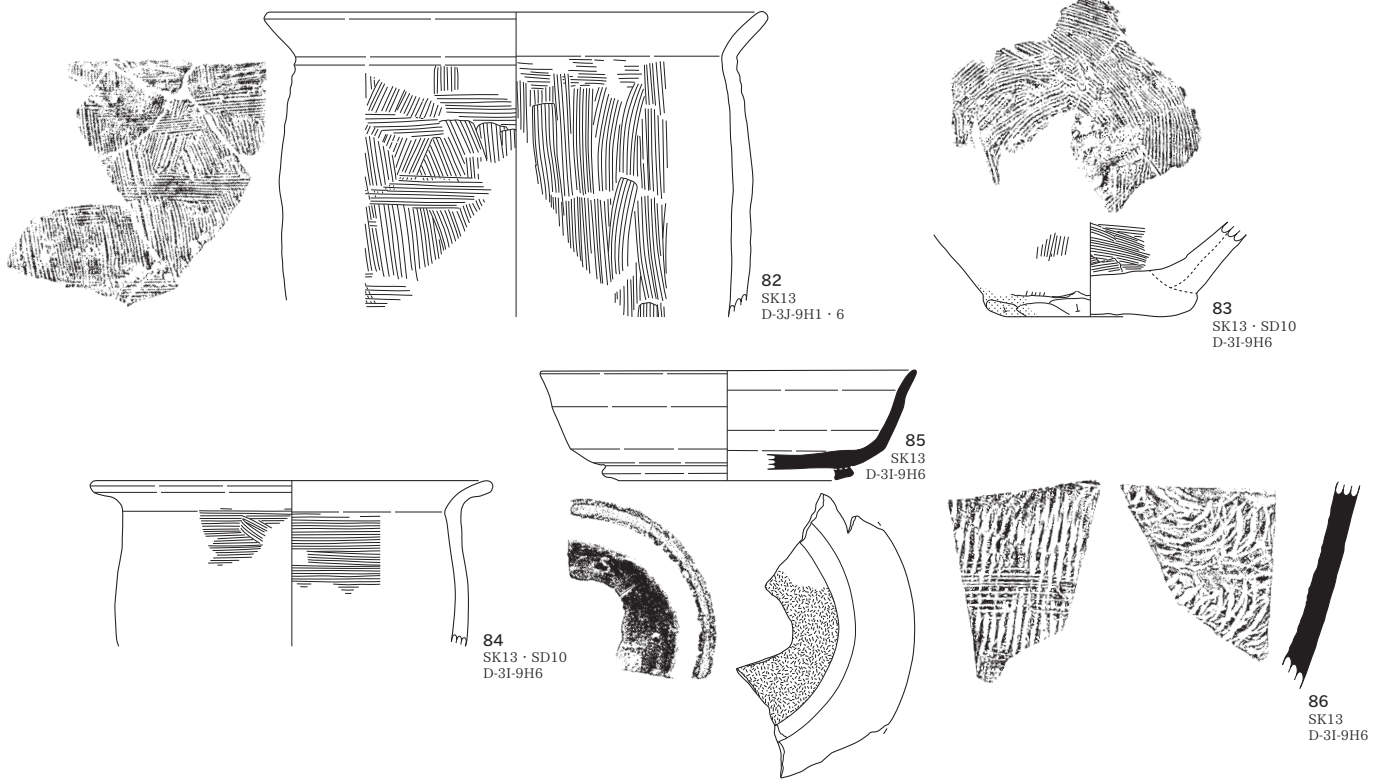
79
SX42
D-3I-6E24・25



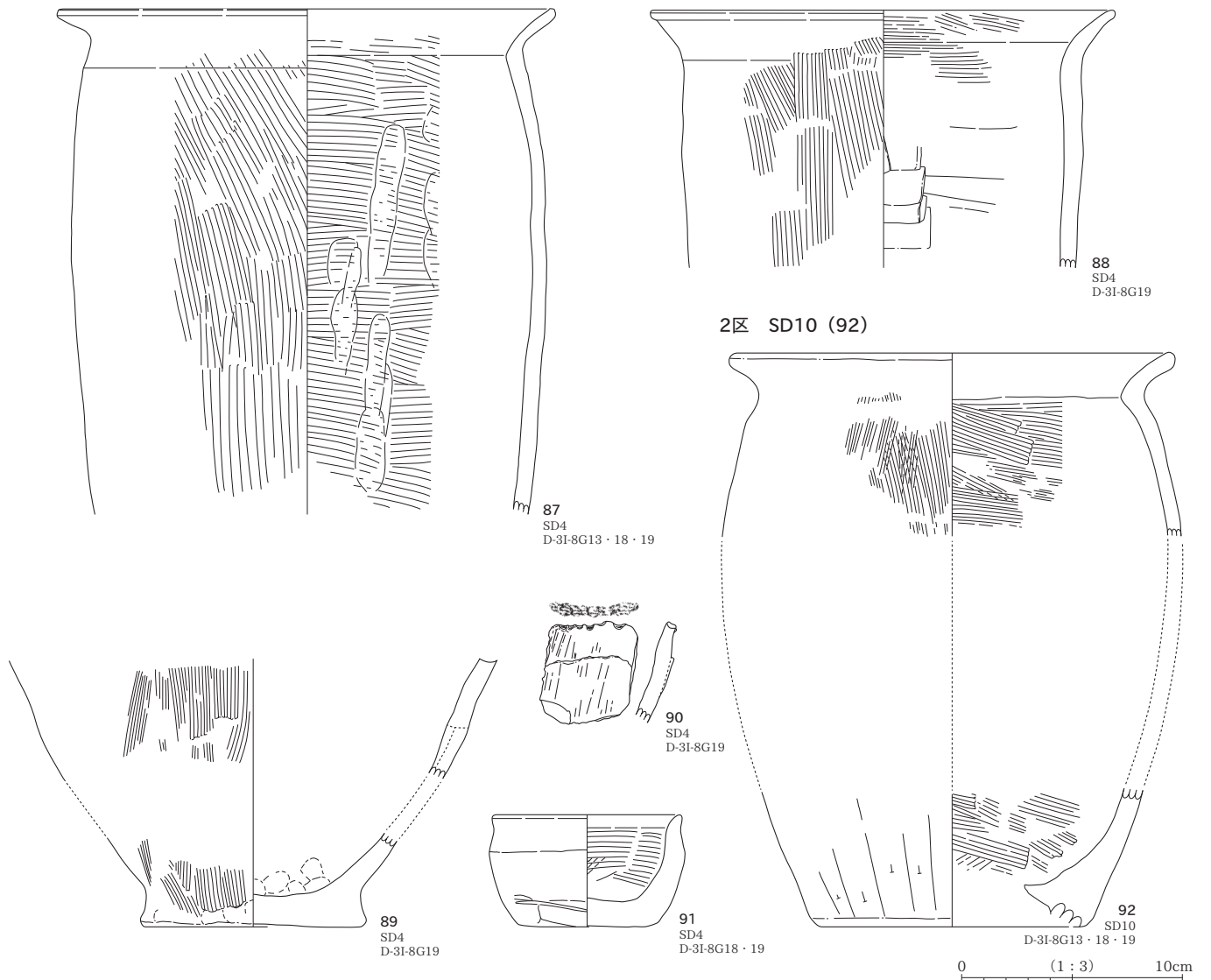
0 (77 1:5) 15cm

0 (その他 1:3) 10cm

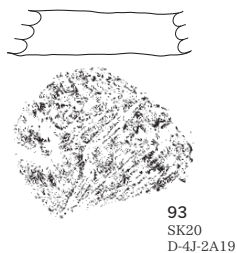
2区 SK13 (82~86)



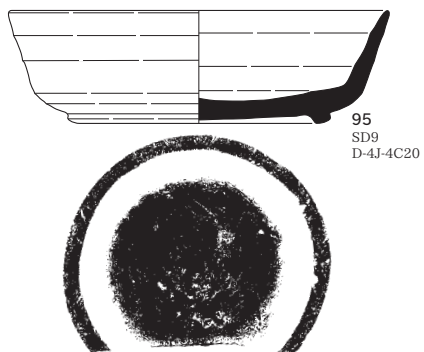
2区 SD4 (87~91)



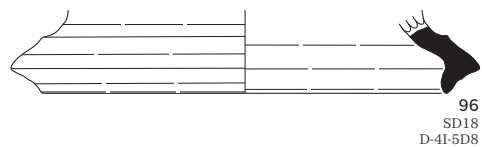
3区 SK20 (93)



3区 SD9 (95)



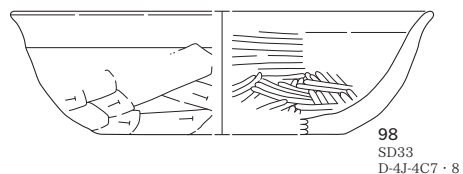
3区 SD18 (96)



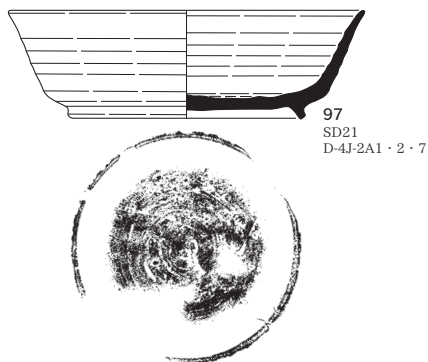
3区 SK36 (94)



3区 SD33 (98)



3区 SD21 (97)



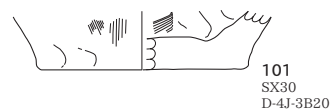
3区 SD40 (99)



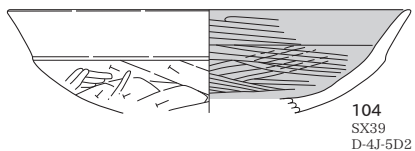
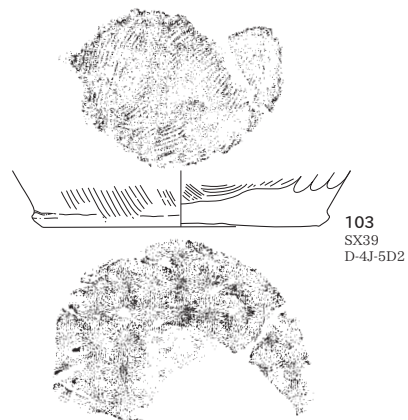
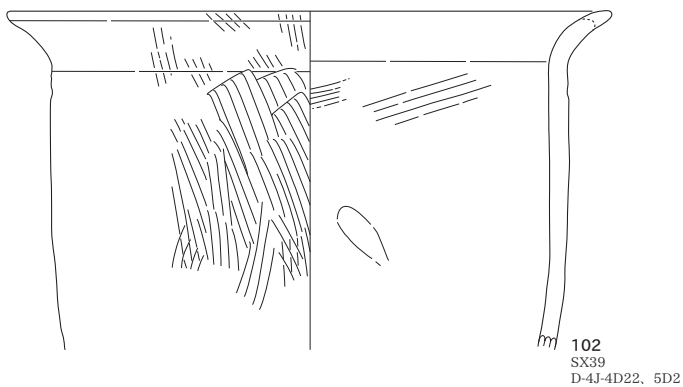
3区 SD35 (100)



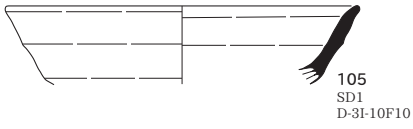
3区 SX30 (101)



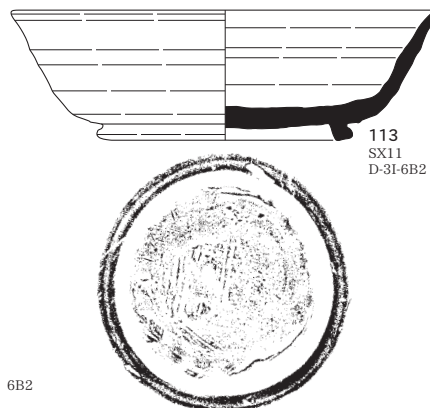
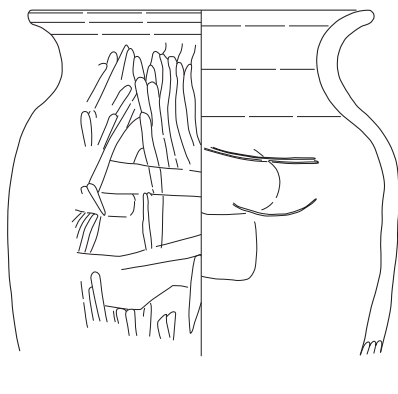
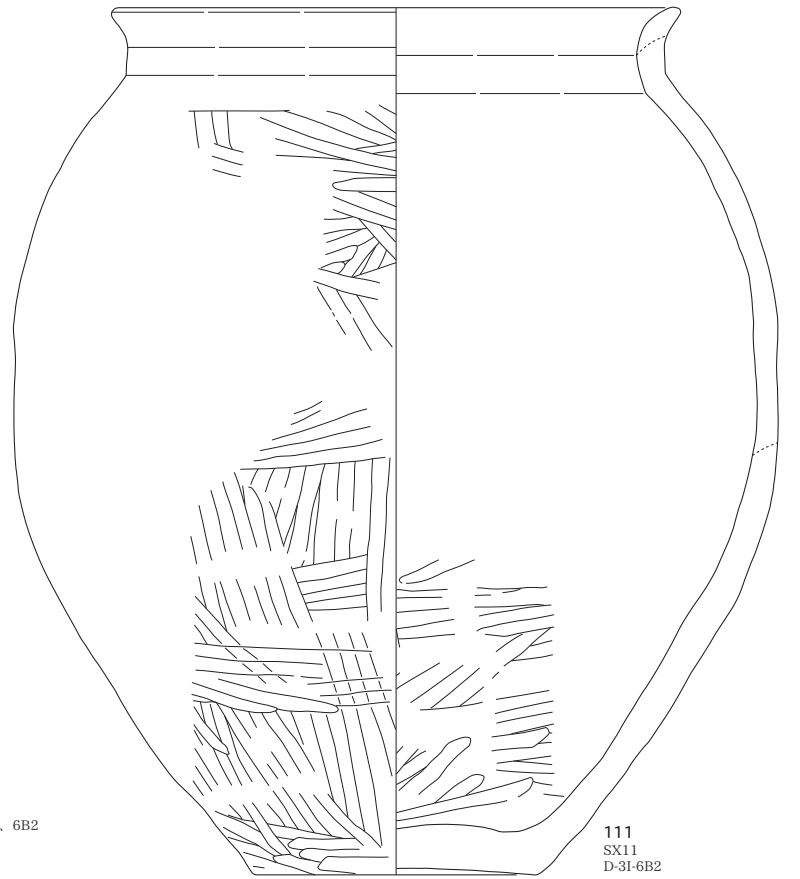
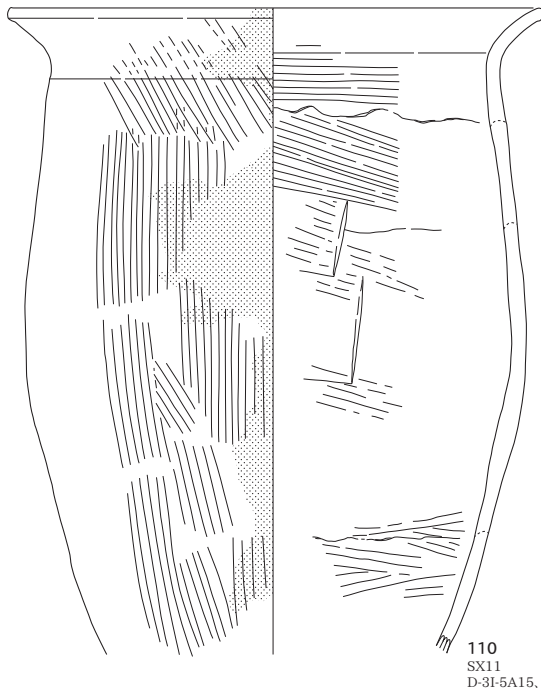
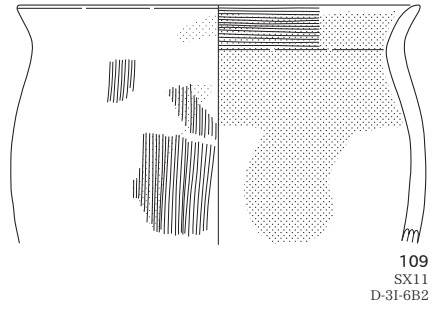
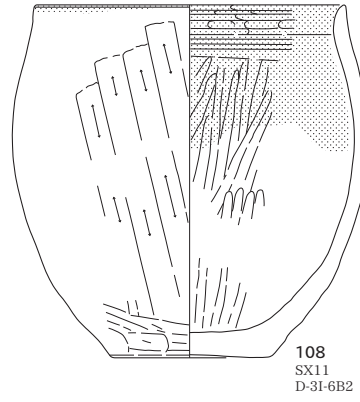
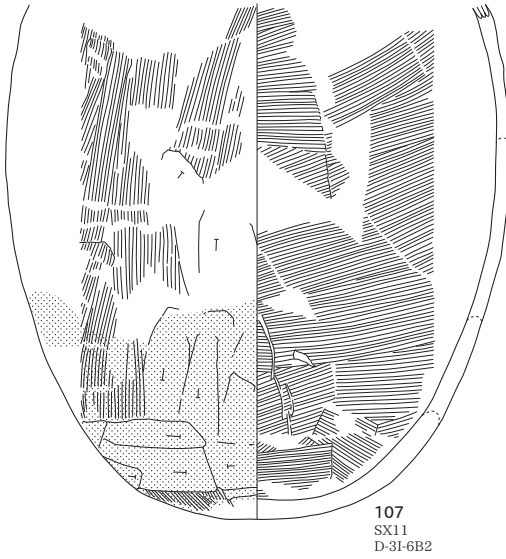
3区 SX39 (102~104)



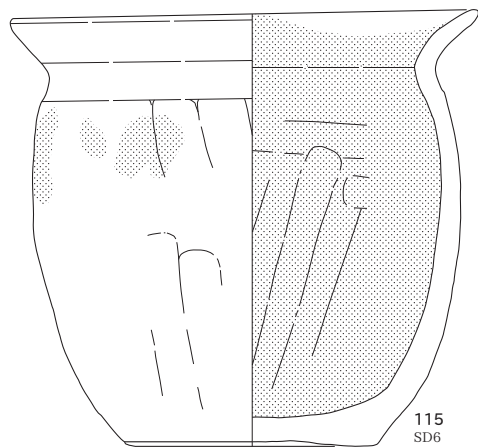
第6次調査区 SD1 (105)



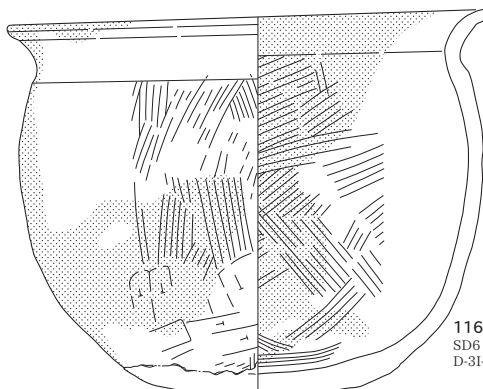
第6次調査区 SX11 (106~114)



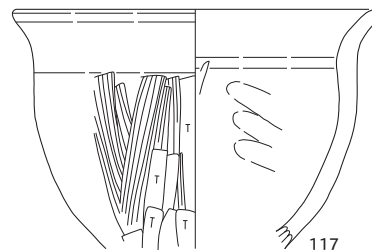
第6次調査区 SD6 (115~126)



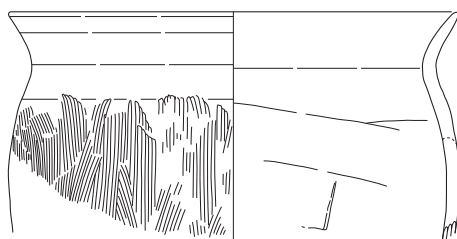
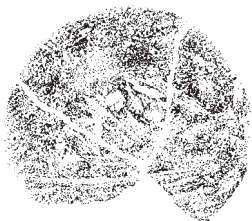
115
SD6
D-3I-8D15



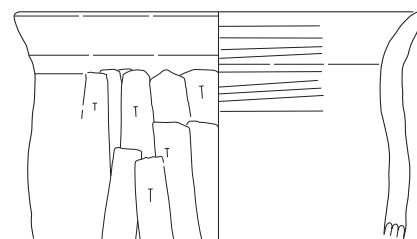
116
SD6
D-3I-8D15



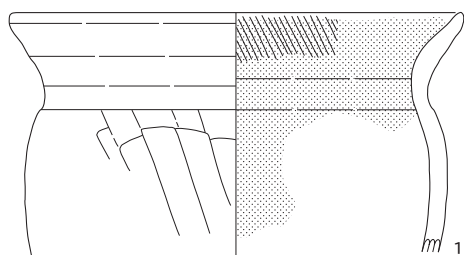
117
SD6
D-3I-8D15



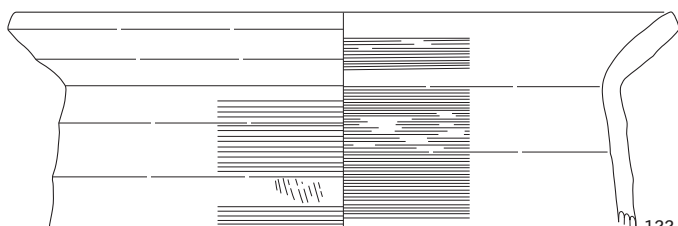
118
SD6
D-3I-8D15



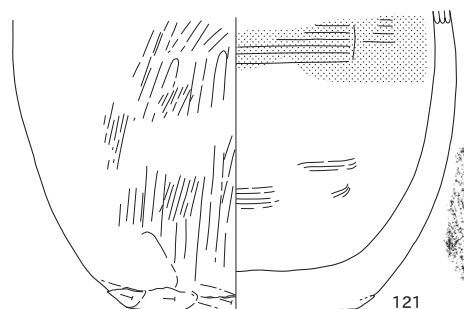
119
SD6
D-3I-8D15



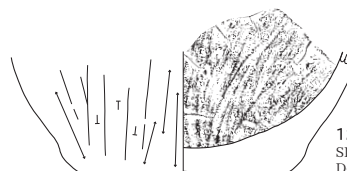
120
SD6
D-3I-8D15, 8E11



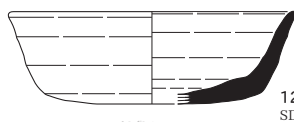
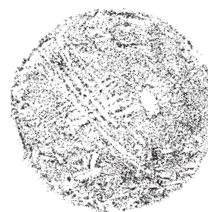
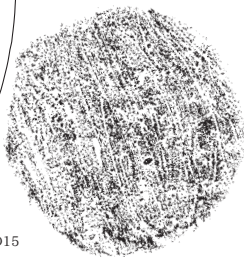
122
SD6
D-3I-8D15



121
SD6
D-3I-8D15



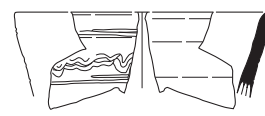
123
SD6
D-3I-8D15



124
SD6
D-3I-8D15, 8E11



125
SD6
D-3I-8D15



126
SD6
D-3I-8D10, 8E11



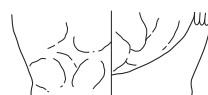
第6次調査区 SD21 (127~129)



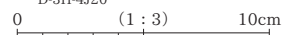
127
SD21
D-3H-4J20



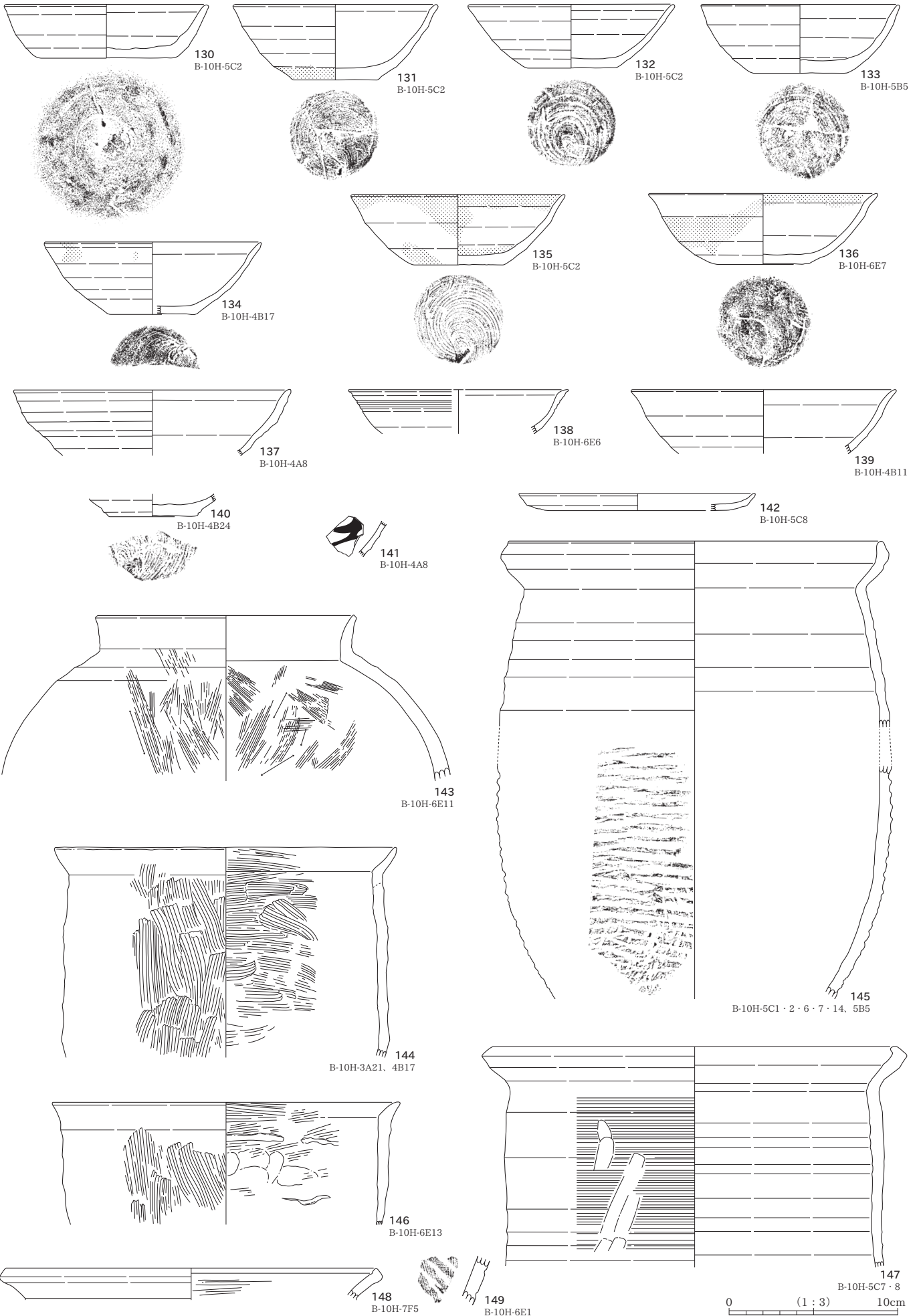
128
SD21
D-3H-4J20



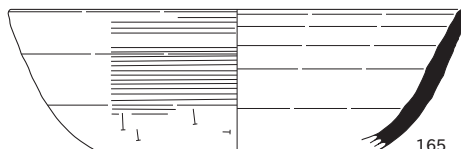
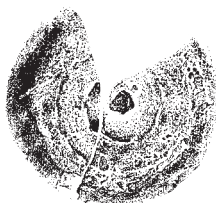
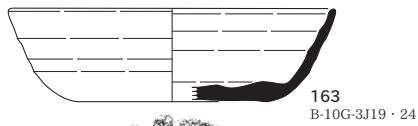
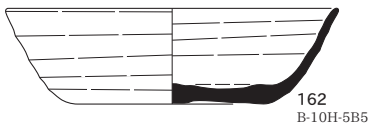
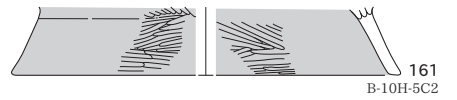
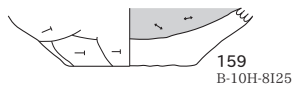
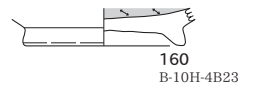
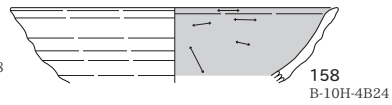
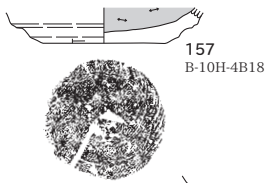
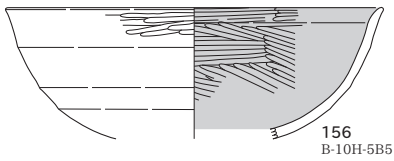
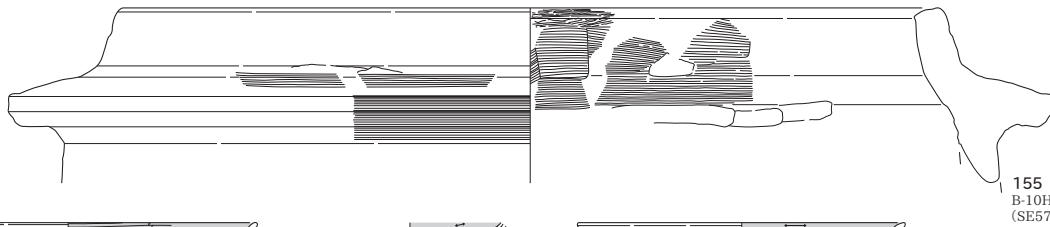
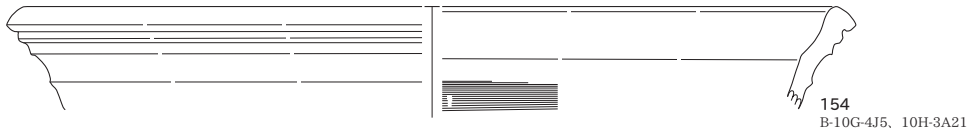
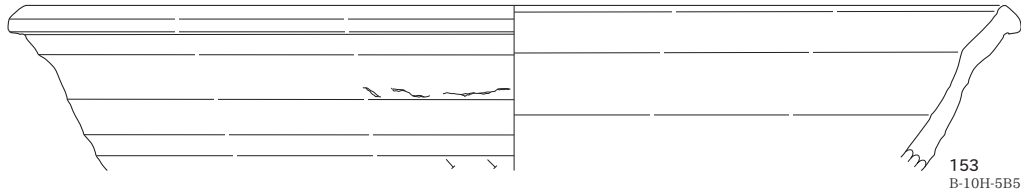
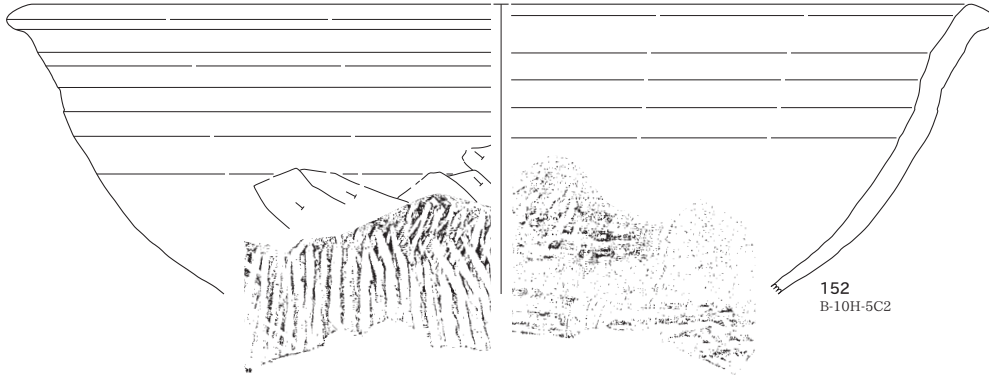
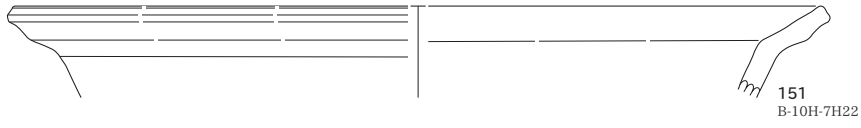
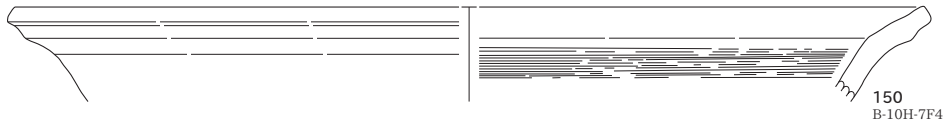
129
SD21
D-3H-4J20



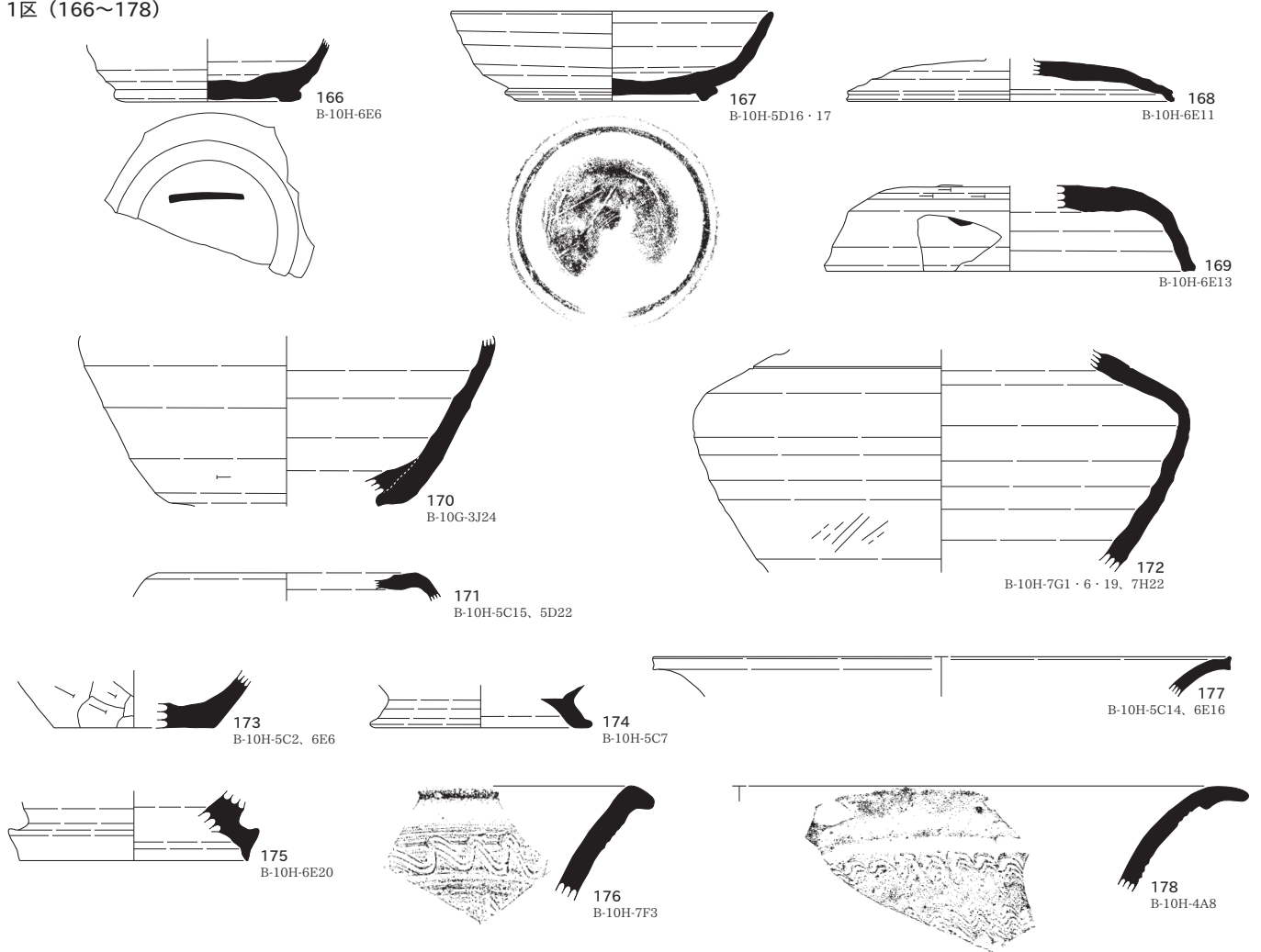
1区 (130~149)



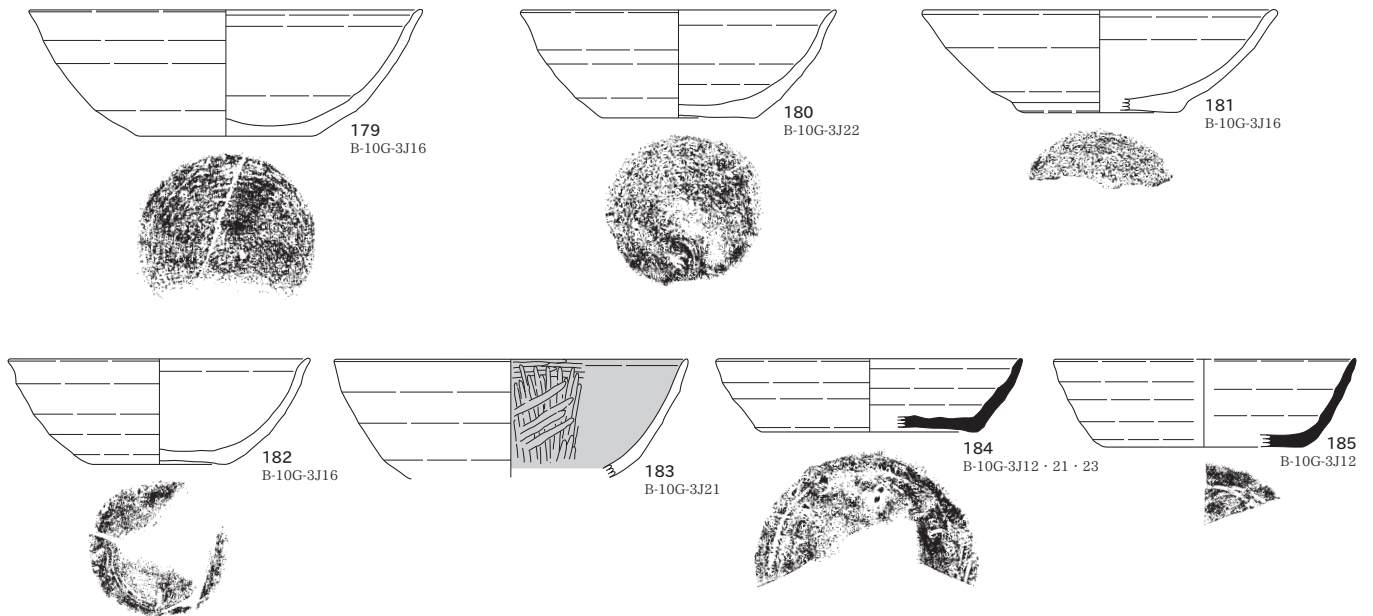
1区 (150~165)



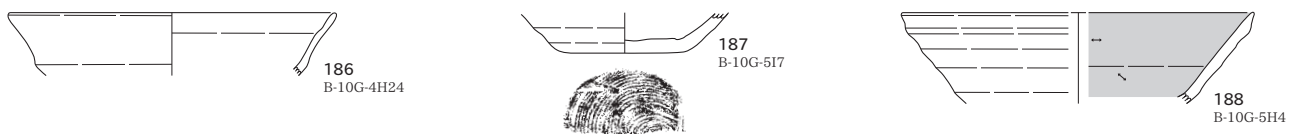
1区 (166~178)



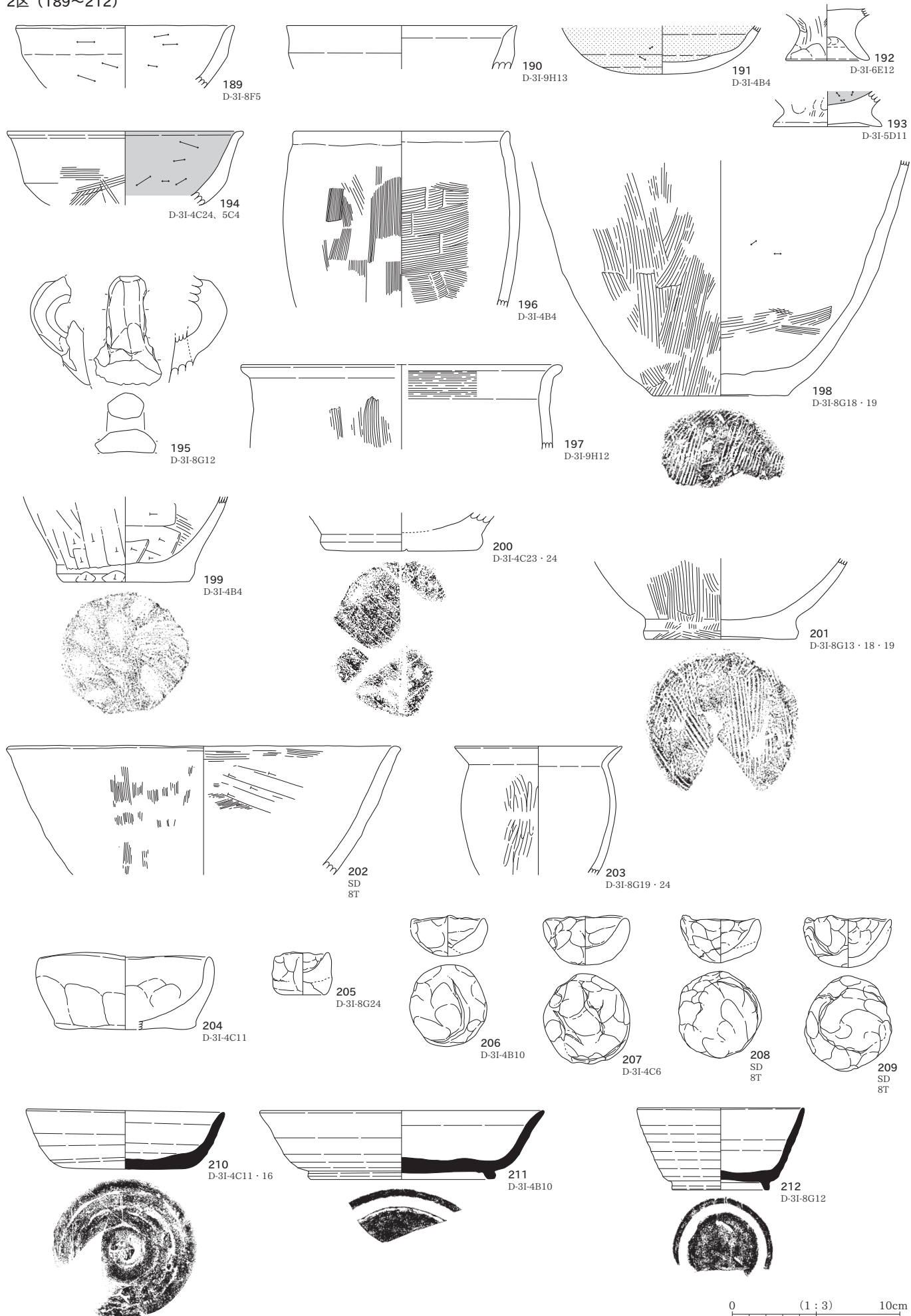
4区 (179~185)



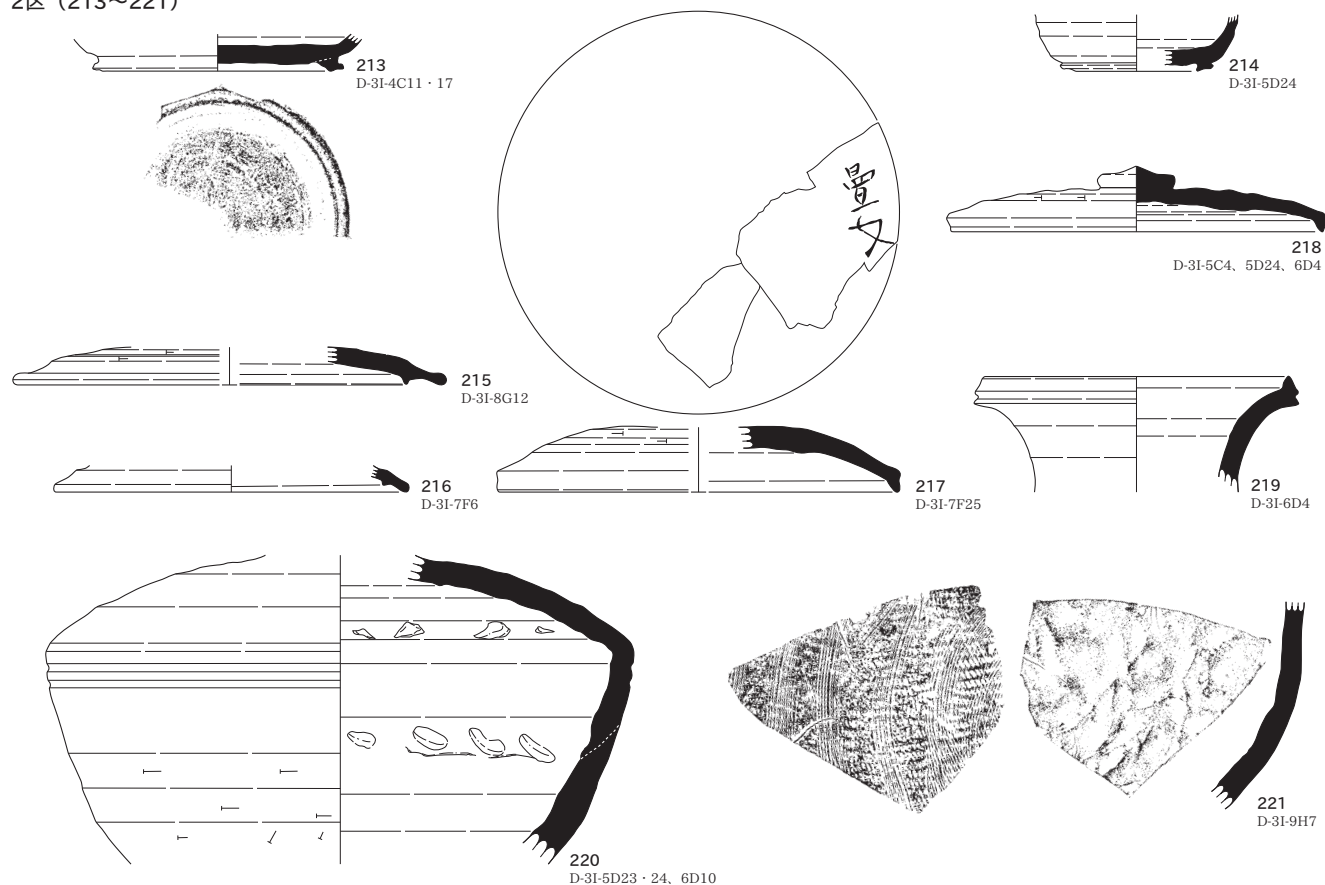
5区 (186~188)



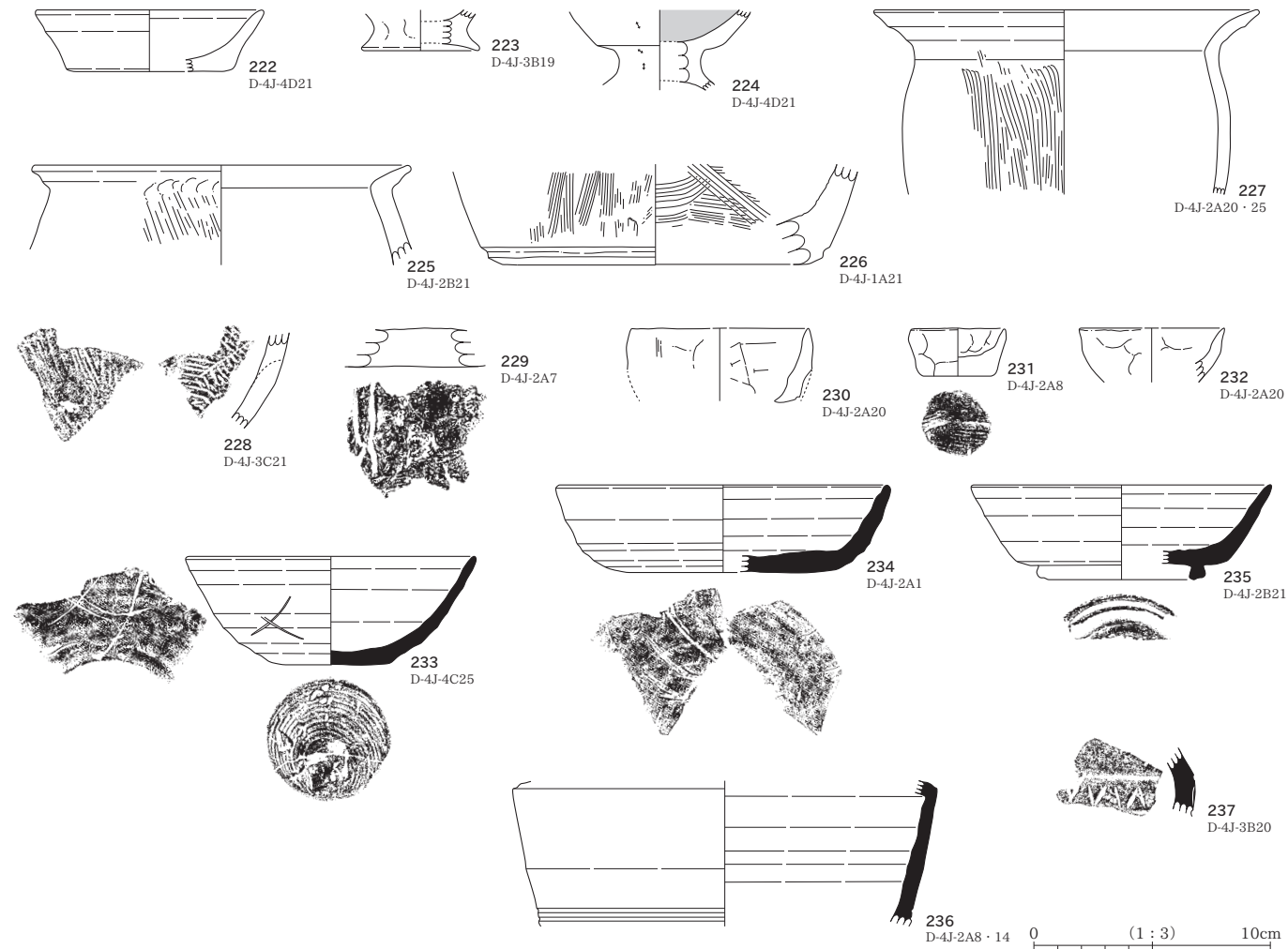
2区 (189~212)



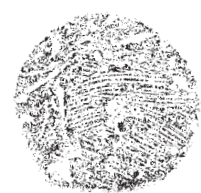
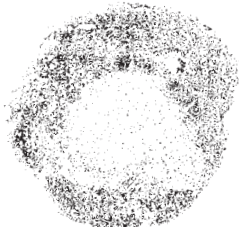
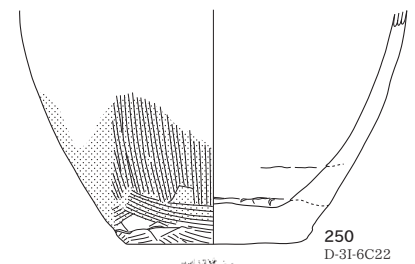
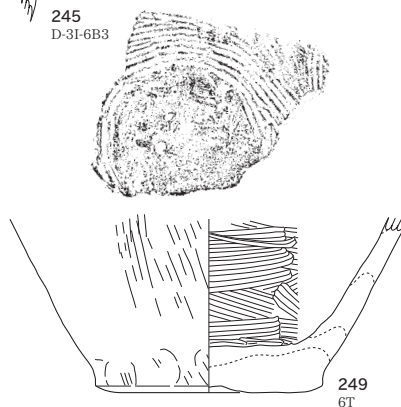
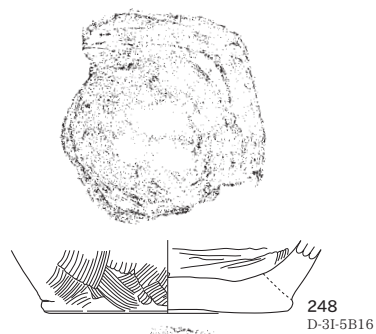
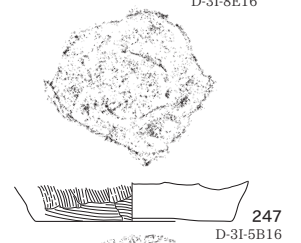
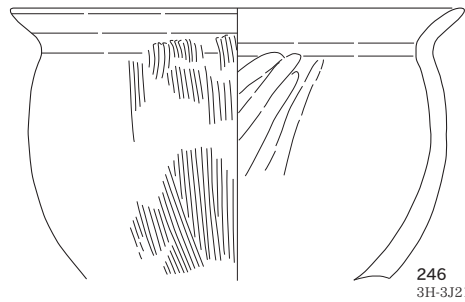
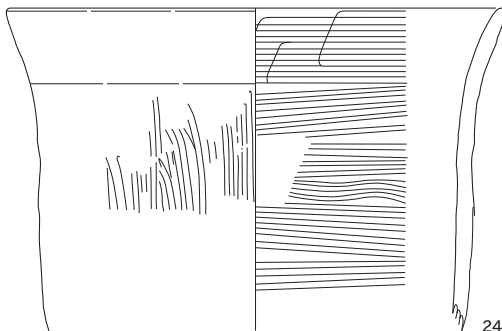
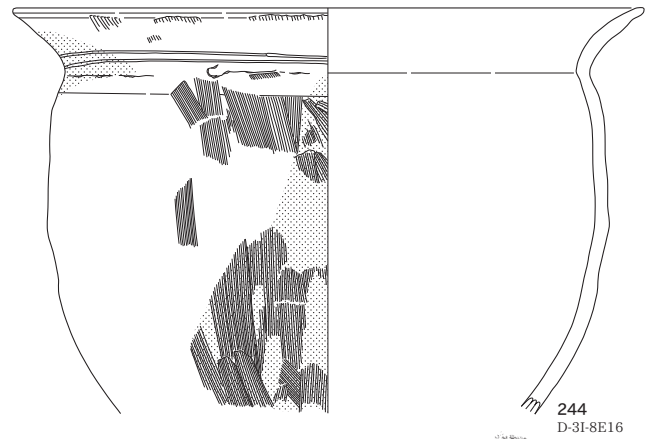
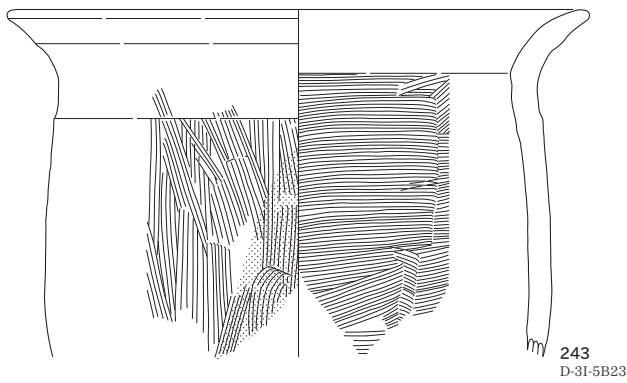
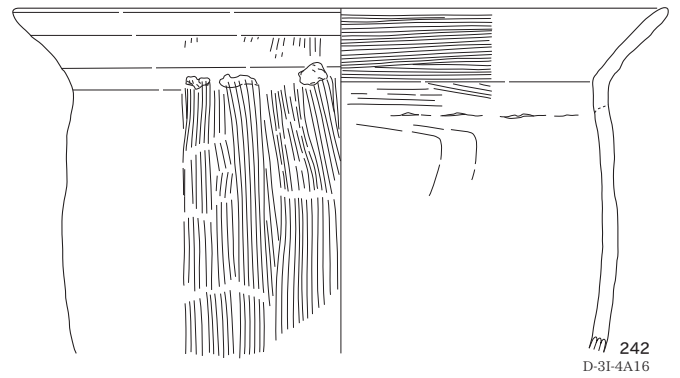
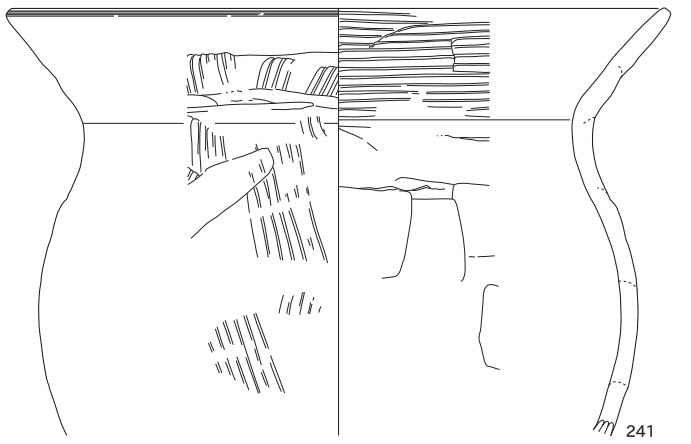
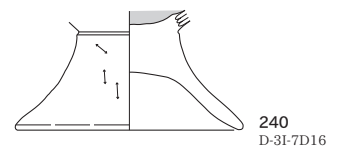
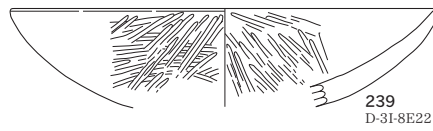
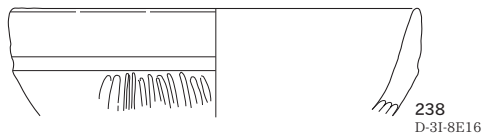
2区 (213~221)



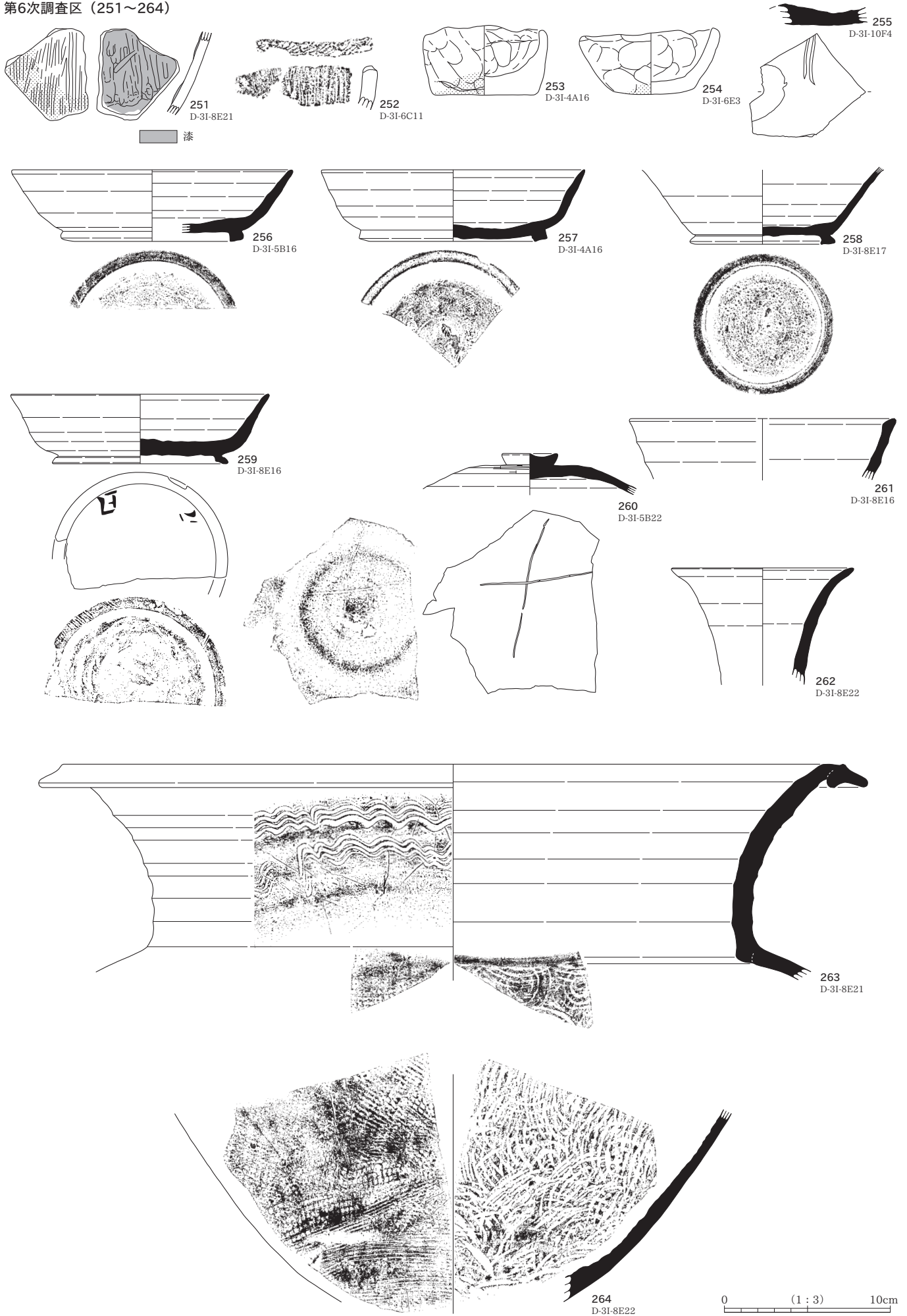
3区 (222~237)



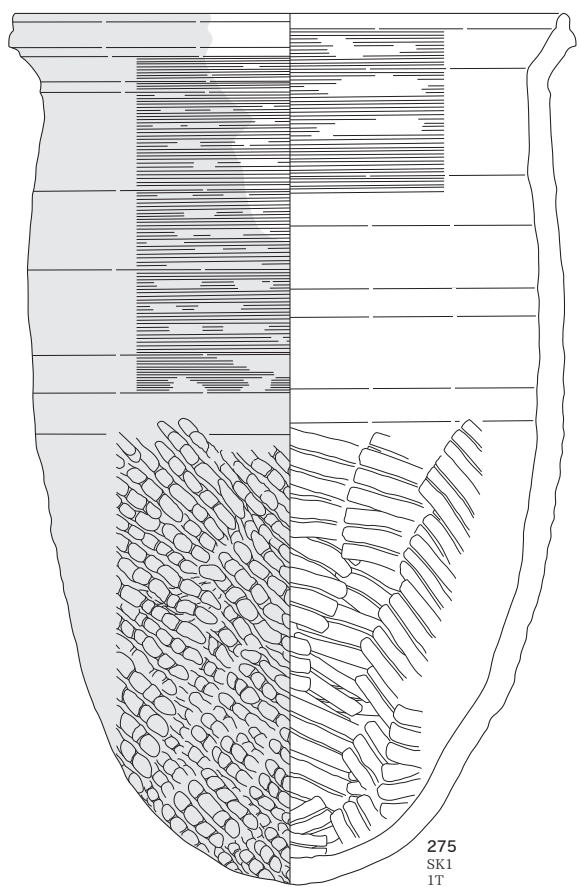
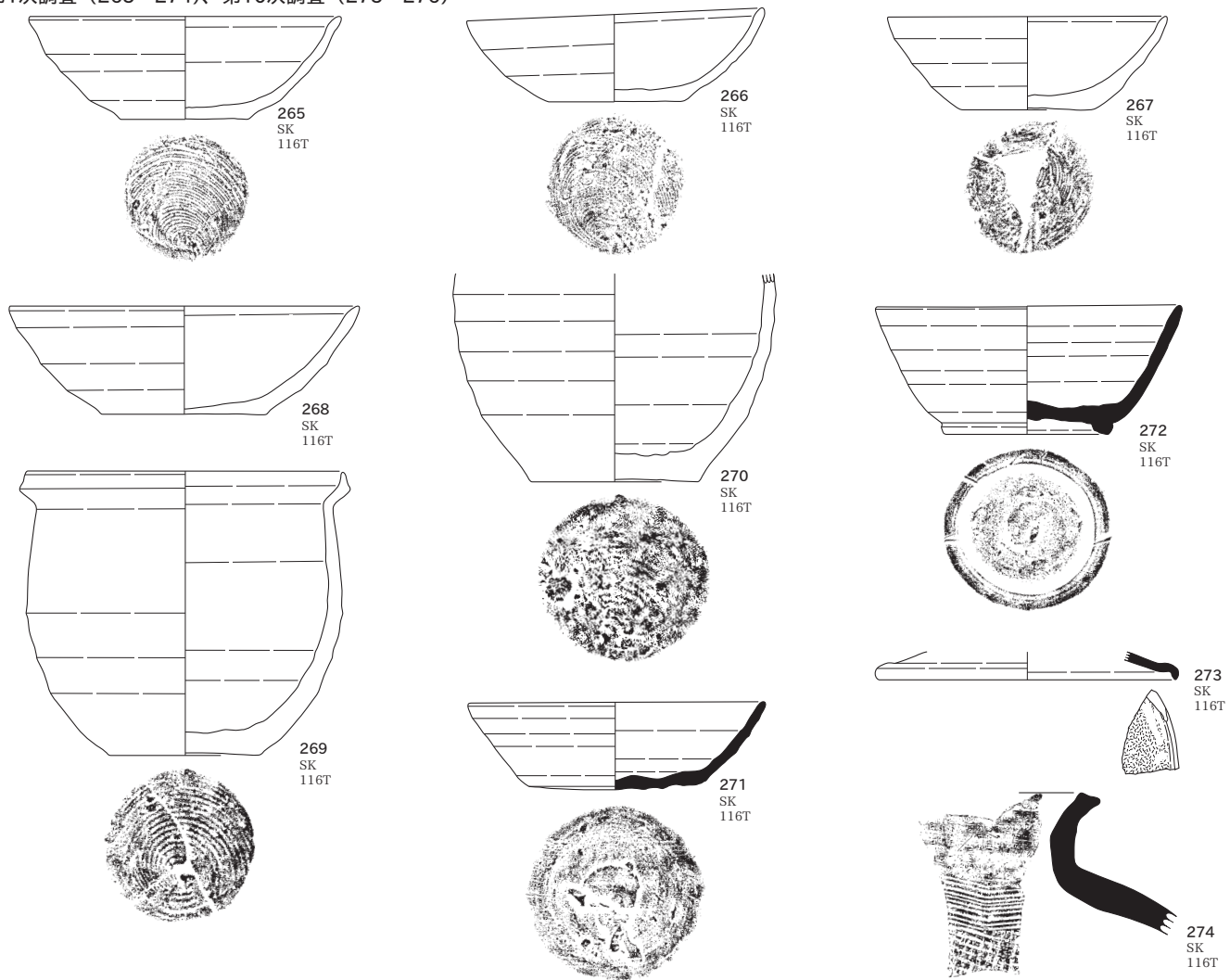
第6次調査区 (238~250)



第6次調査区 (251~264)



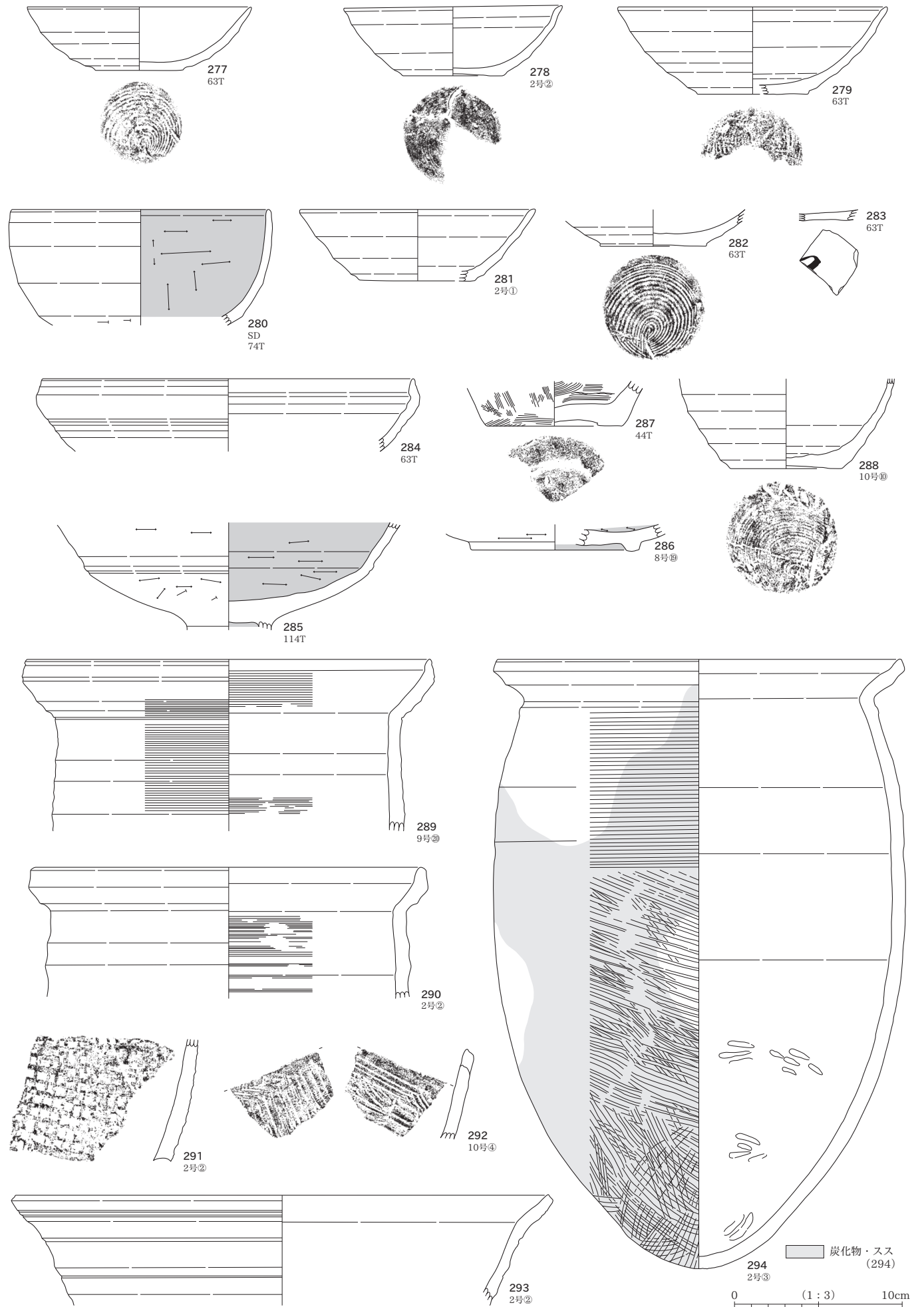
第1次調査 (265~274)、第10次調査 (275・276)



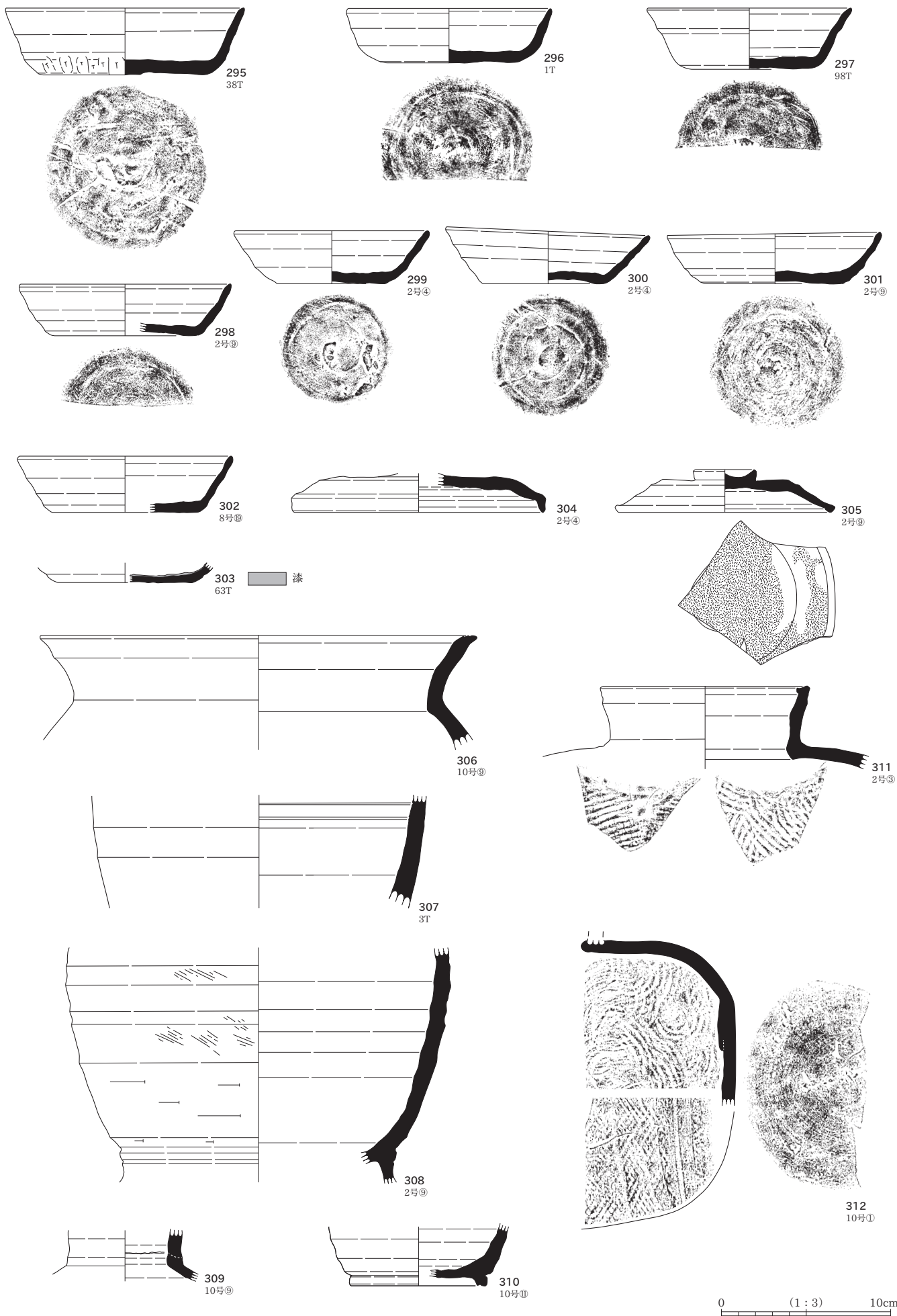
炭化物・スス (275・276)

0 (1:3) 10cm

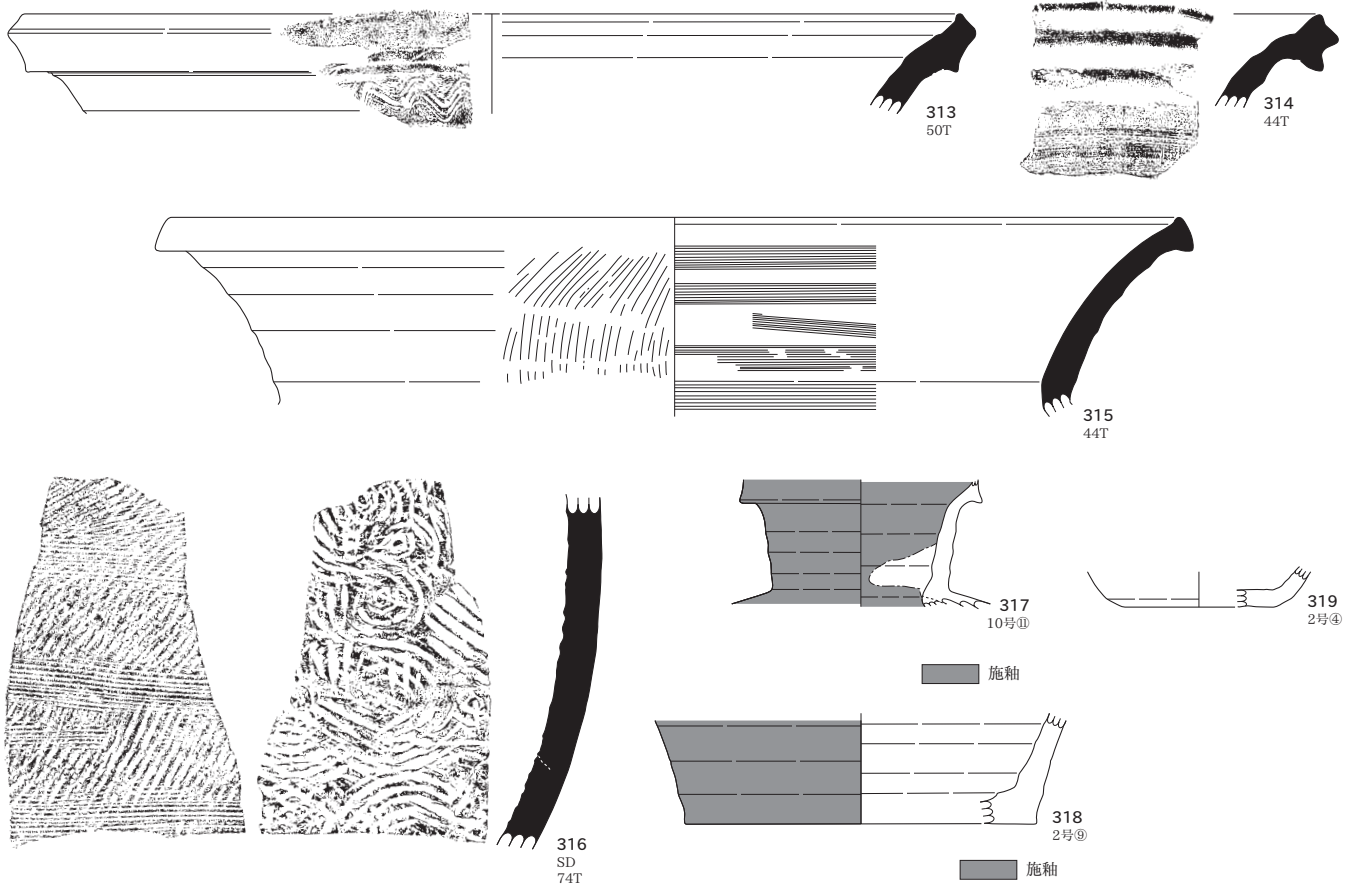
第1次調査（277・279・280・282～285）、第2次調査（287）、平成25年度立会（278・281・286・288～294）



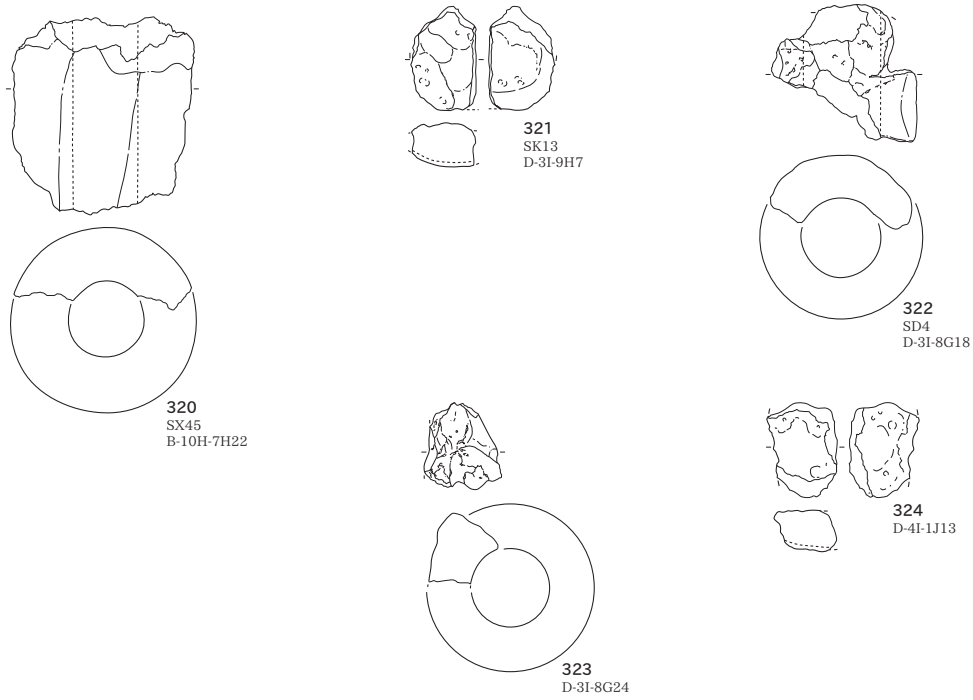
第1次調査（297・303）、第2次調査（295・296・307）、平成25年度立会（298～302・304～306・308～312）



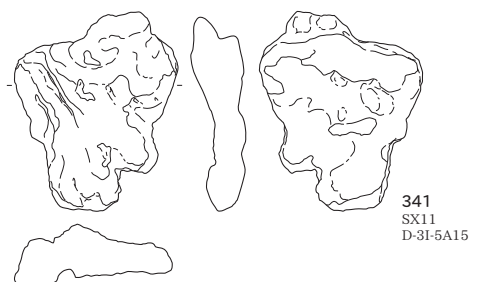
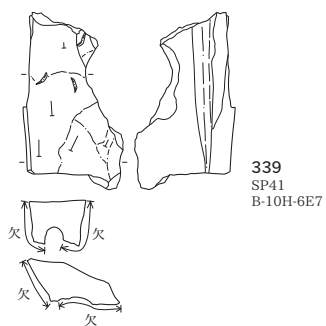
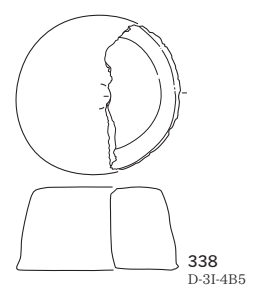
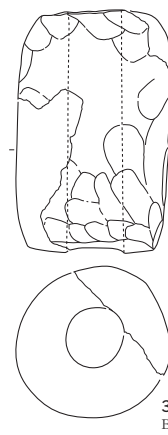
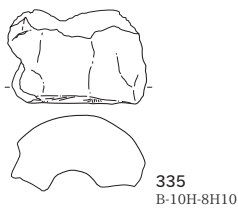
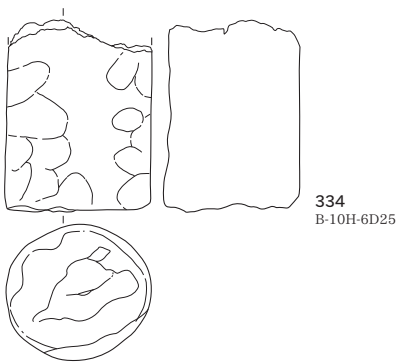
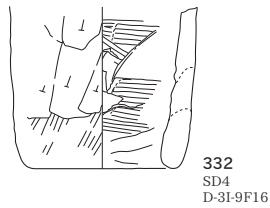
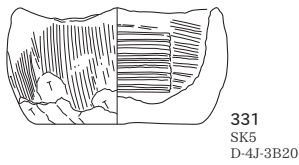
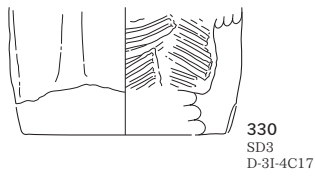
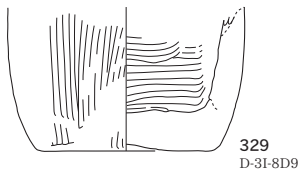
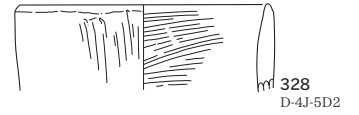
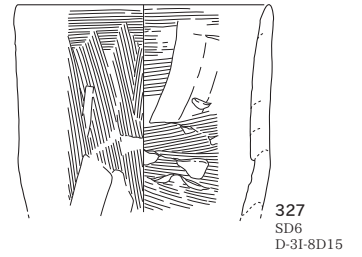
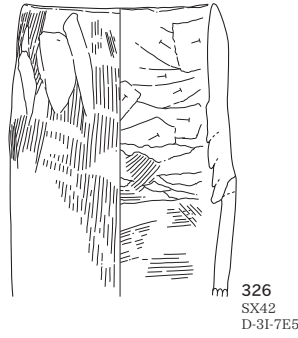
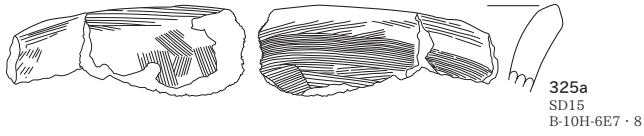
第1次調査(314~316)、第2次調査(313)、平成25年度立会(317~319)



鍛冶関連遺物 1区(320)、2区(321~323)、3区(324)



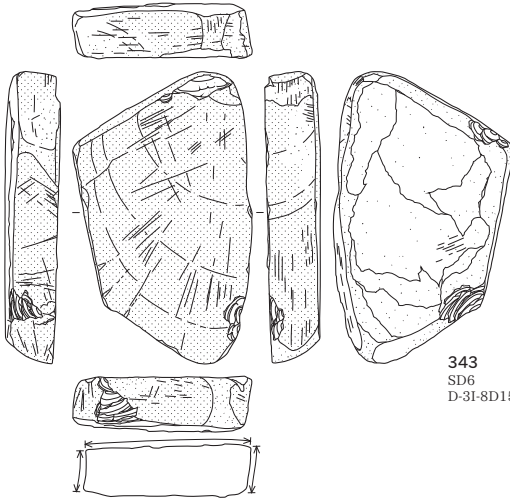
1区 (325・334~336・339・340)、2区 (326・330・338)、3区 (328・331・337)、第6次調査区 (327・329・332・333・341)



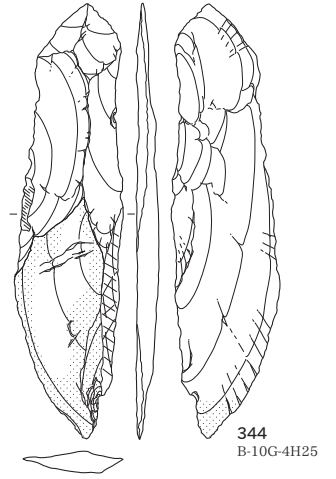
1区 (342・347・348・350)、2区 (345・346)、3区 (349)、4区 (351)、5区 (344)、第6次調査区 (343)



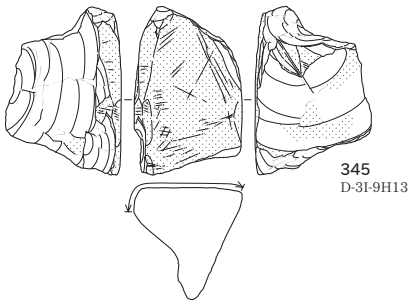
342
B-10H-7H16



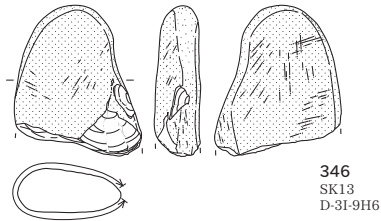
343
SD6
D-3I-8D15



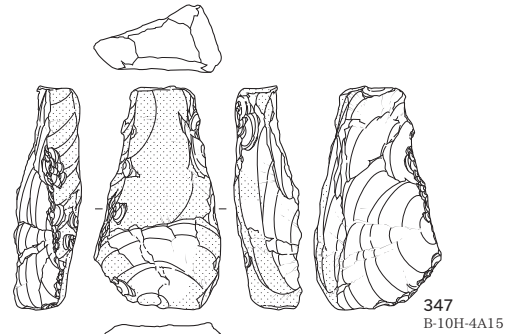
344
B-10G-4H25



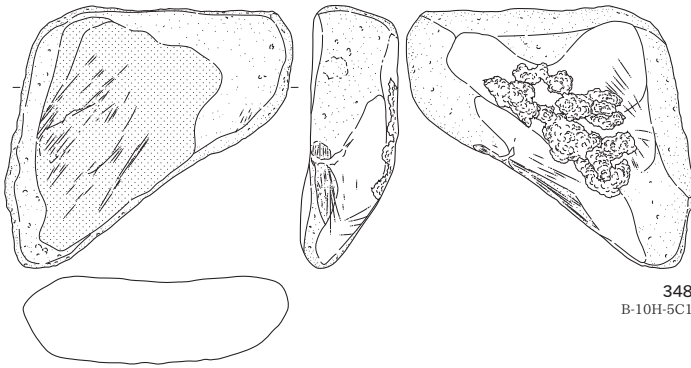
345
D-3I-9H13



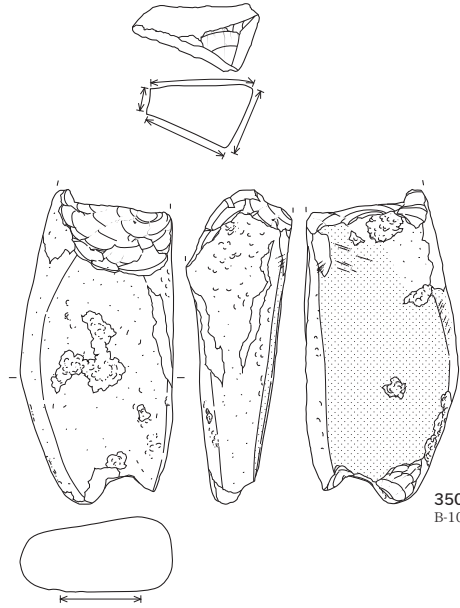
346
SK13
D-3I-9H6



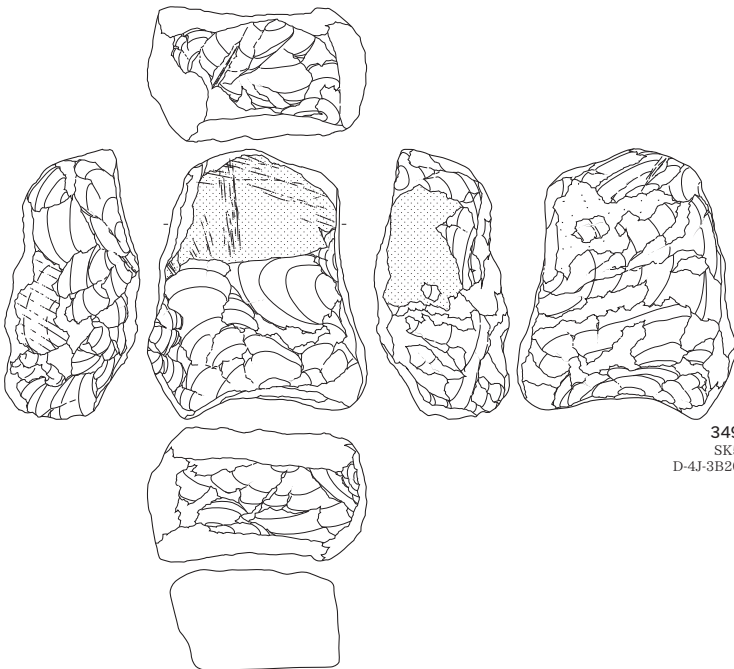
347
B-10H-4A15



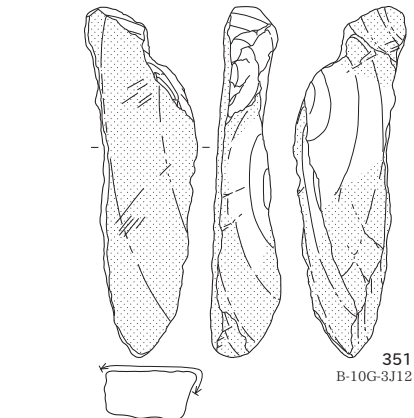
348
B-10H-5C1



350
B-10H-6E11



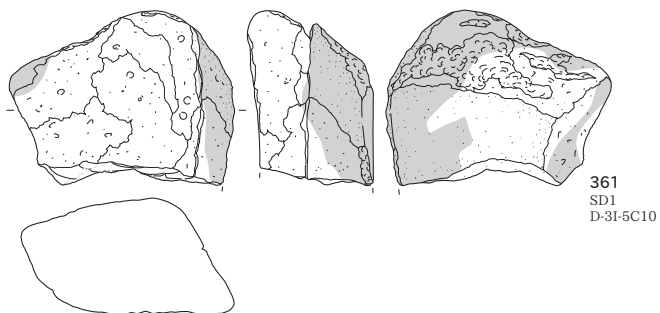
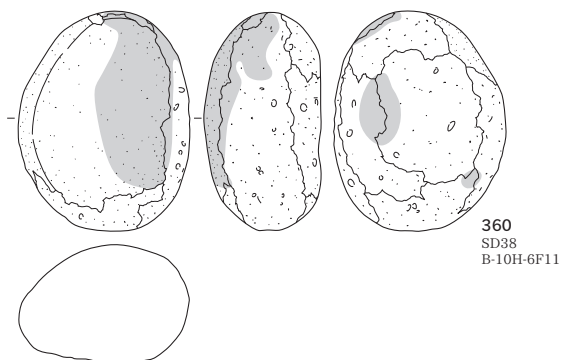
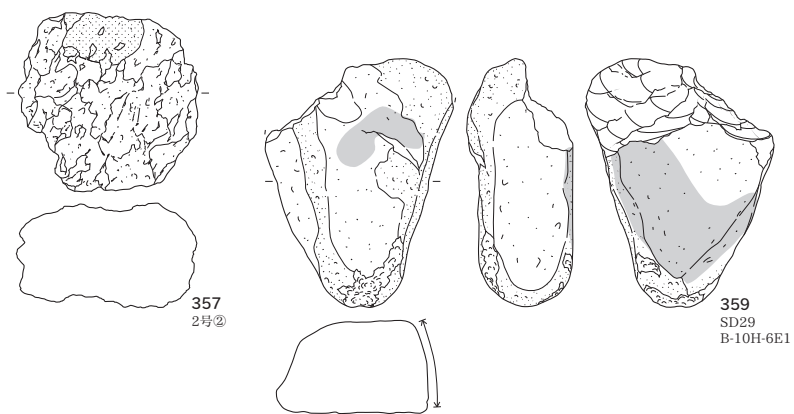
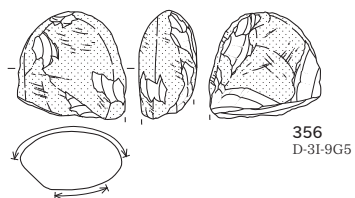
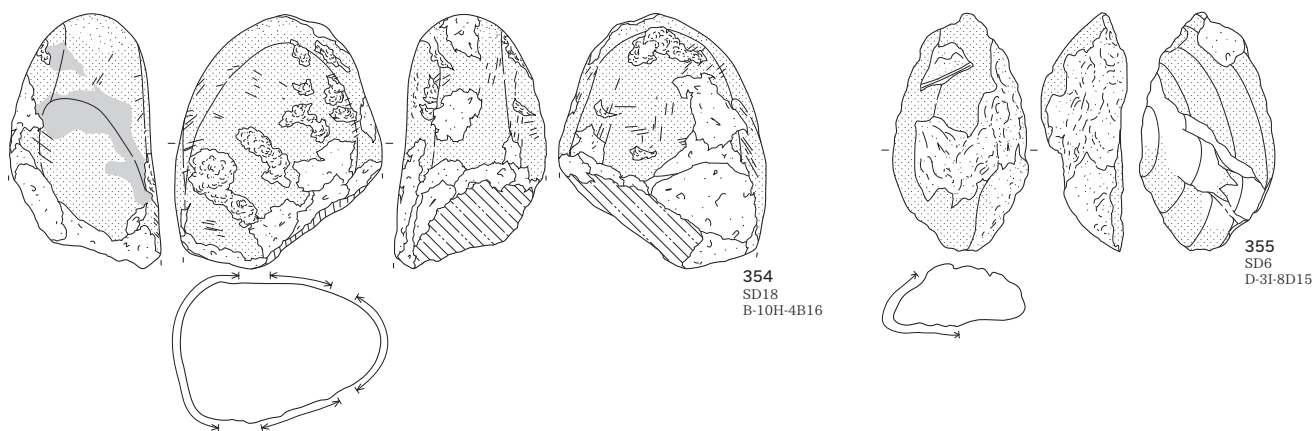
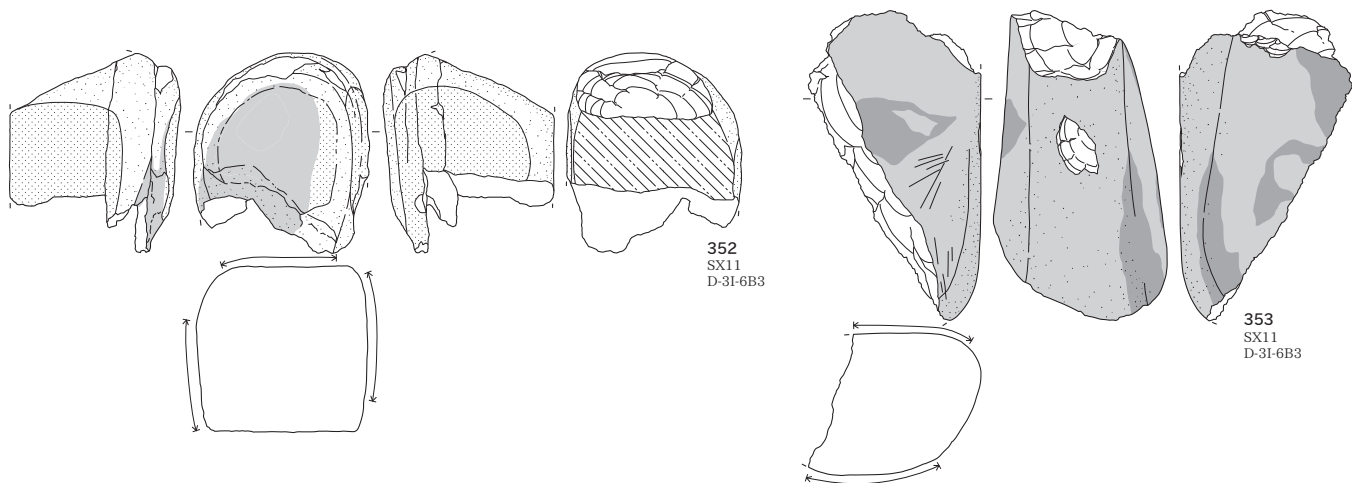
349
SK5
D-4J-3B20



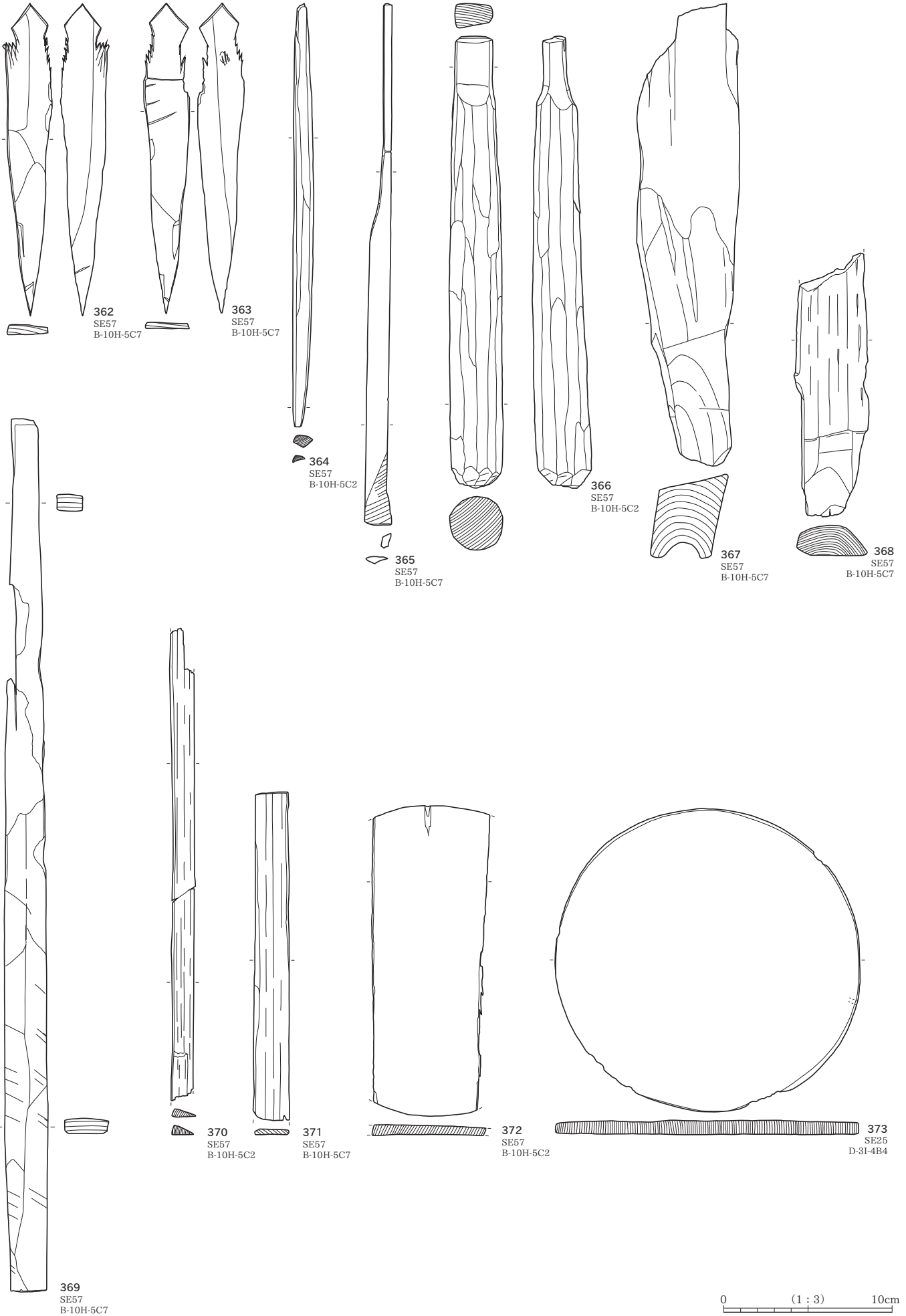
351
B-10G-3J12

0 (348・349 1:5) 15cm
0 (その他 1:3) 10cm

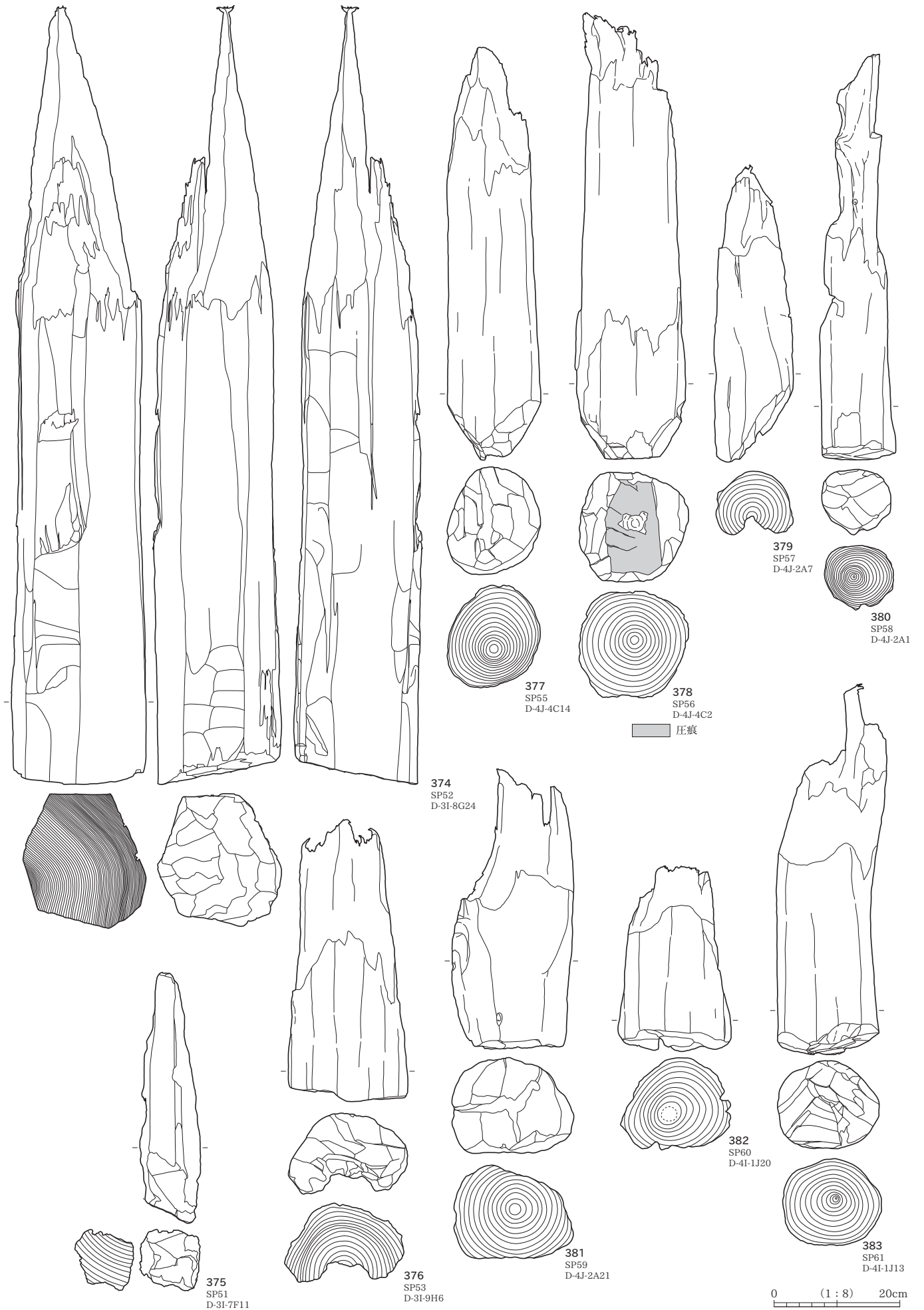
1区 (354・359・360)、2区 (356・361)、第6次調査区 (352・353・355・358)、平成25年度立会 (357)



1区 (362~372)、2区 (373)



2区 (374~376)、3区 (377~383)





下新田遺跡周辺空中写真 1

[米軍撮影 1947・1948 年]



下新田遺跡周辺空中写真 2

〔国土地理院撮影 2004 年〕



調査前風景 全景（北から）



1 区 調査前風景（北西から）



2・3 区 調査前風景（南東から）



第 6 次調査区 調査前風景（南東から）



完掘状況（東から）



完掘状況（北から）



1区 中層上面 完掘状況（北西から）



1区 中層下面 完掘状況（北から）



1区 SN118・SD56 土層断面・完掘（北東から）



1区 SN119 土層断面（北東から）



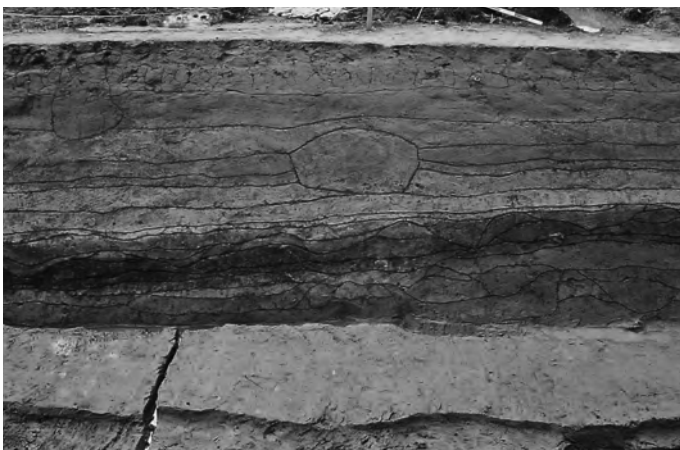
1区 SN120 土層断面（北東から）



1区 SN120 周辺 土層断面・完掘（北から）



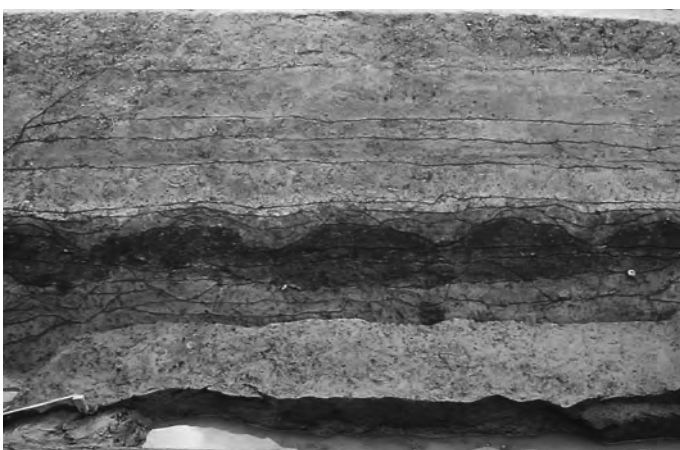
1区 SN（畠跡）土層断面（北から）



1区 SN（畠跡）①（B-10H-6E12～20）土層断面（北東から）



1区 SN（畠跡）②（B-10H-4B23～5C6）土層断面（北東から）



1区 SN（畠跡）③（B-10H-5C13～5D21）土層断面（北東から）



1区 SN(畠跡)④(B-10H-6D4 ~ 6E6) 土層断面(北東から)



1区 SD1 土層断面(北東から)



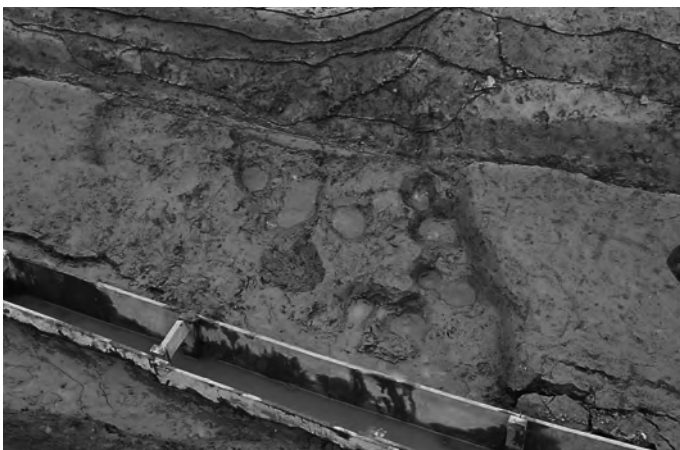
1区 SD1 土層断面・完掘(北から)



1区 SD2 土層断面・完掘(北東から)



1区 SD6 土層断面・完掘(北東から)



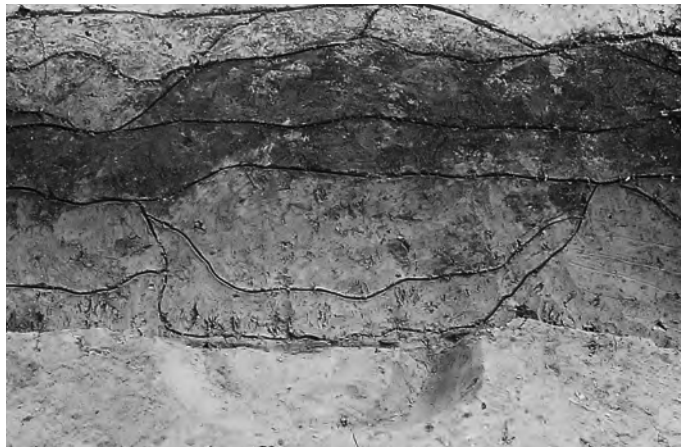
1区 SD54 土層断面・完掘(北から)



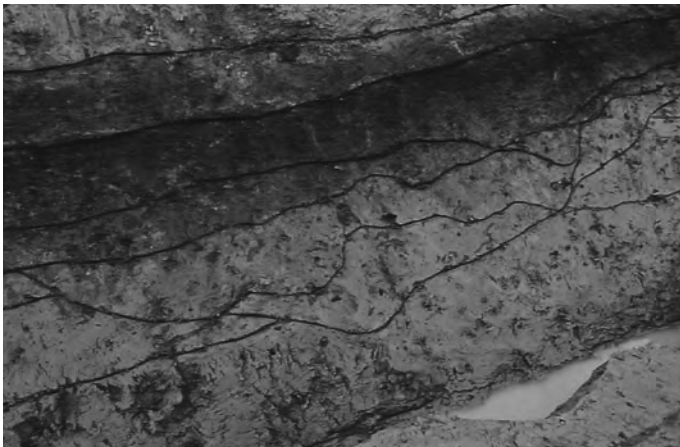
1区 SD55 土層断面(南から)



1区 SD55 完掘(北から)



1区 SK19 土層断面・完掘（北東から）



1区 SK59 土層断面・完掘（西から）



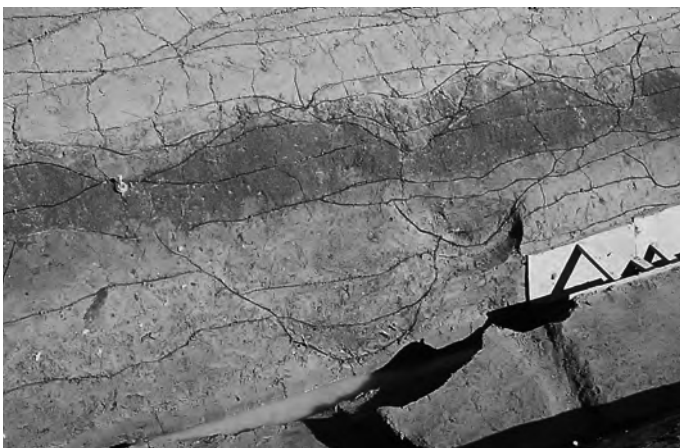
1区 SK48 土層断面 A-A'・完掘（南から）



1区 SK48 土層断面 B-B'（東から）



1区 SK20・81・93 土層断面（南西から）



1区 SK60・SD40 土層断面（西から）



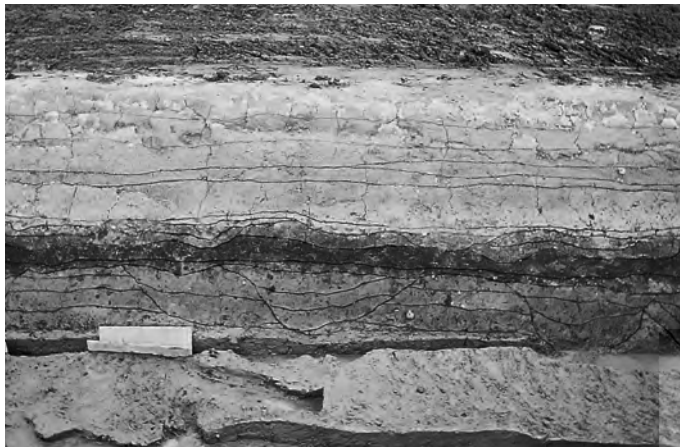
1区 SK58 土層断面・完掘（南から）



1区 SK52・53 土層断面・完掘（西から）



1区 SK79 土層断面 (南西から)



1区 SK103 土層断面 (南西から)



1区 SD11 遺物出土状況 (北から)



1区 SD11・82 土層断面・完掘 (北から)



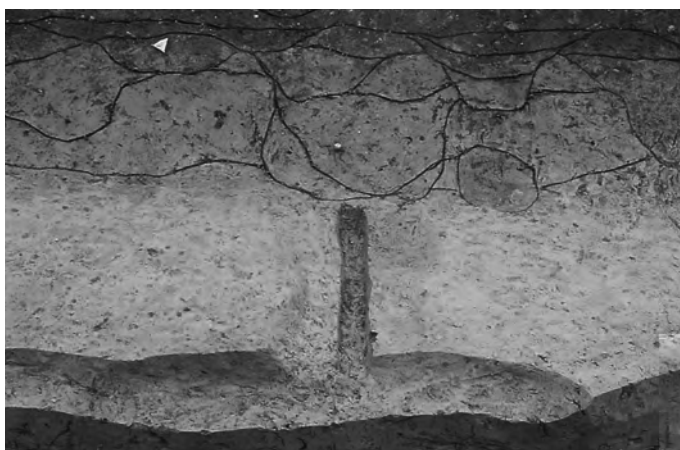
1区 SD3・4 土層断面・完掘 (北東から)



1区 SD10 土層断面・完掘 (北東から)



1区 SD9・8・7 土層断面・完掘 (北東から)



1区 SD21 土層断面・完掘 (北東から)



1区 SD16・40 土層断面 A-A'・完掘（北東から）



1区 SD16 土層断面 B-B'（北西から）



1区 SD16 完掘（北西から）



1区 SD40 土層断面 B-B'（北東から）



1区 SD38 土層断面・完掘（南西から）



1区 SD39・110 遺物出土状況（北東から）



1区 SD39・110 完掘（北東から）



1区 SD42 土層断面・完掘（北東から）



1区 SD43 土層断面・完掘（東から）



1区 SD63・75 土層断面・完掘（北から）



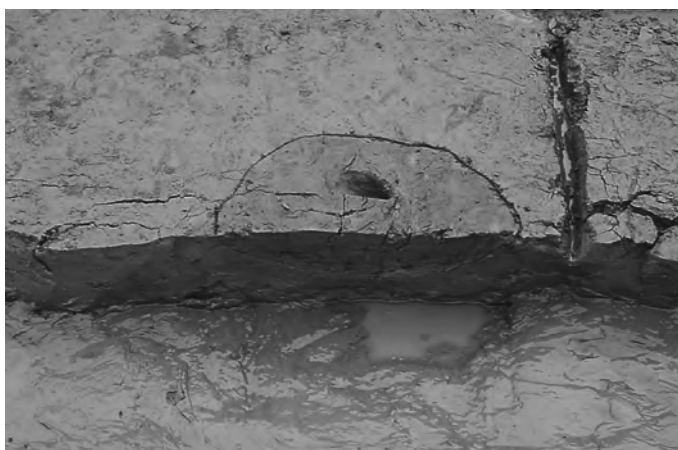
1区 SE57 土層断面（北東から）



1区 SE57 完掘（北から）



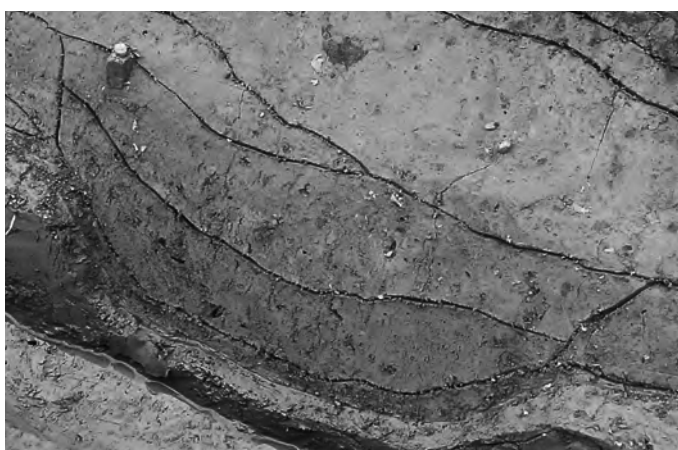
1区 SE57 完掘（北東から）



1区 SK49 土層断面（北東から）



1区 SK49 完掘（西から）



1区 SK50 土層断面・完掘（南から）



1区 SD18 土層断面 A-A' (北西から)



1区 SD18 土層断面 B-B' (北西から)



1区 SD18 完掘 (北から)



1区 SD15 土層断面・完掘 (北東から)



1区 SD24 土層断面 A-A' (北西から)



1区 SD24・31 土層断面 B-B' (南東から)



1区 SD28 土層断面 (北西から)



1区 SD28 完掘 (北から)



1区 SD29 土層断面 A-A' (北西から)



1区 SD29・31 土層断面 B-B' (北西から)



1区 SD31・29・SK32 土層断面 C-C' (北西から)



1区 SD29・33 土層断面 D-D' (東から)



1区 SD30・SK51 土層断面・完掘 (北東から)



1区 SD31 完掘 (北東から)



1区 SD33 土層断面・完掘、SK32 完掘 (北東から)



1区 SD35 土層断面 A-A' (南東から)



1区 SD35 土層断面 B-B' (北西から)



1区 SD24・29・35 完掘 (北から)



1区 SD75 土層断面・完掘 (北東から)



1区 SD66・44 土層断面 B-B' (北から)



1区 SD66・SX65 土層断面 C-C' (北西から)



1区 SX45・SD66 土層断面 D-D' (南東から)



1区 SD66 土層断面 E-E' (北西から)



1区 SX45・65・SD44・66 完掘 (北から)



4区 中層下面 完掘状況 (北から)



4区 SN35・SD5・8・9・10・SP28・29 土層断面 (南から)



4区 SK4 土層断面 (南から)



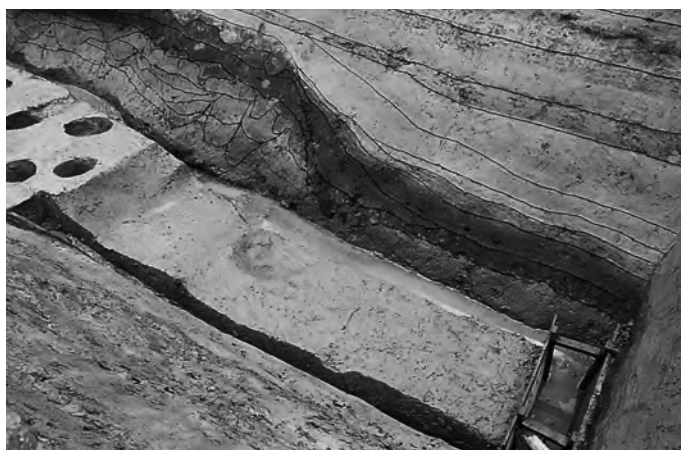
4区 SK4 遺物出土状況 (南東から)



4区 SK4 完掘 (南東から)



4区 SK24 土層断面・完掘 (北から)



4区 SK30・SD26・SX6・SP31 土層断面・完掘 (東から)



4区 SD1・2・3・5・7 土層断面 (南東から)



4区 SD1・2・3・7 完掘 (南東から)



4区 SD5・7・8・9 完掘 (南東から)



4区 SD10 完掘 (南から)



4区 下層 完掘状況 (北から)



5区 完掘状況 (北から)



5区 SX1 土層断面 A-A' (北西から)



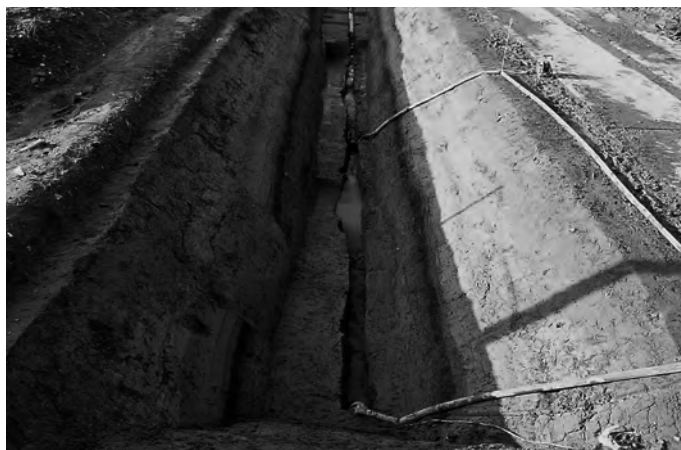
5区 SX1 土層断面 B-B' (北西から)



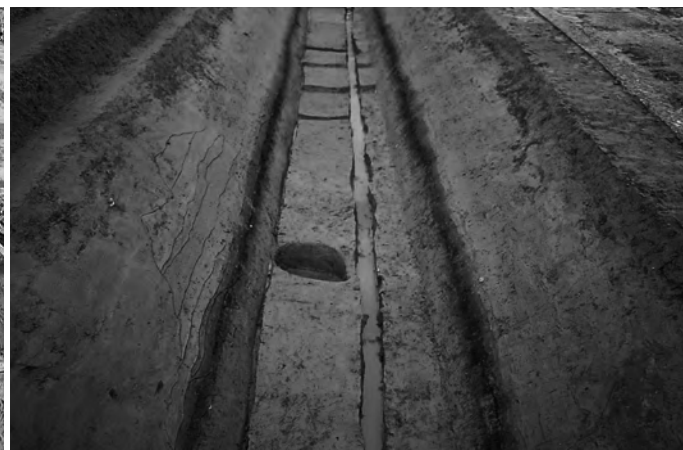
5区 SX1 完掘 (東から)



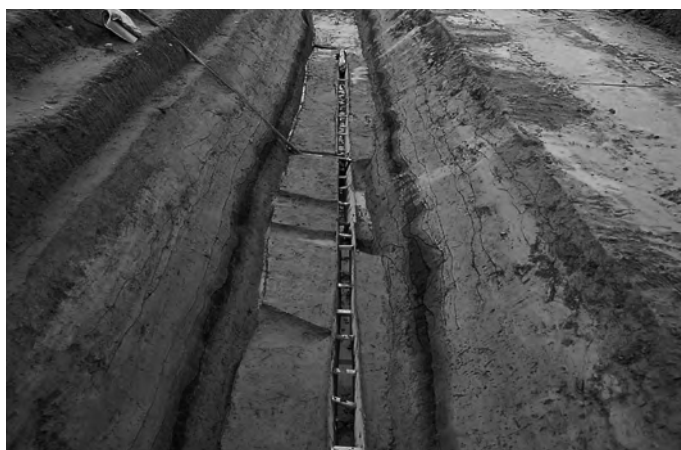
2区 完掘状況



2区 (D-3I-9H18 ~ 8G13) 完掘 (南東から)



2区 (D-3I-7F12 ~ 8F4) 完掘 (南東から)



2区 (D-3I-6E6 ~ 7F6) 完掘 (南東から)



2区 (D-3I-4B4 ~ 5C4) 完掘 (北西から)



2区 (東側) 完掘 (南から)



2区 (西側) 完掘 (東から)



2区 基本層序A (北東から)



2区 基本層序B、SP51 土層断面 (北東から)



2区 SN(畠跡)①(D-3I-6D10 ~ 6E23) 土層断面(北東から)



2区 SN (畠跡) (D-3I-5D16) 土層断面 (東から)



2区 SD45 土層断面 (北東から)



2区 SD39 土層断面 (南西から)



2区 SE25 土層断面・完掘（北東から）



2区 SK13・SP50 土層断面（北東から）



2区 SD1 土層断面（北東から）



2区 SD1 完掘（北から）



2区 SD3 土層断面（北東から）



2区 SD3 完掘（北東から）



2区 SD4 土層断面・完掘（北東から）



2区 SD10 土層断面・完掘（北から）



2区 SD7 土層断面 (北東から)



2区 SD7 完掘 (北東から)



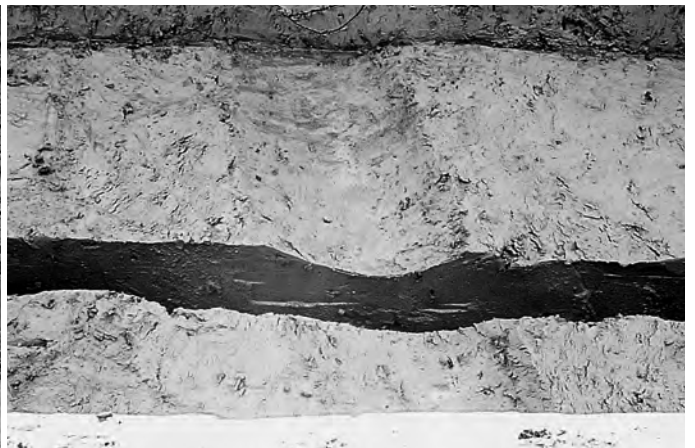
2区 SD11 土層断面・完掘 (南西から)



2区 SD16 土層断面・完掘 (北東から)



2区 SD26 土層断面 (北東から)



2区 SD26 完掘 (北東から)



2区 SD29 土層断面 (北東から)



2区 SX2・37 土層断面 (南西から)



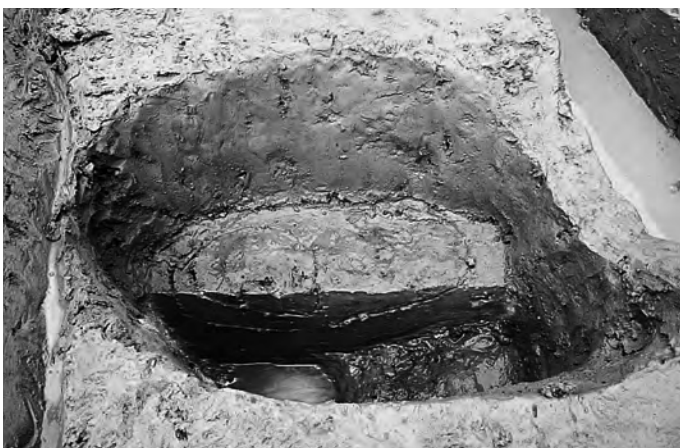
2区 SX42 遺物出土状況 (南西から)



2区 SX42 土層断面・完掘 (南西から)



2区 SX44・SP43 土層断面・完掘 (南西から)



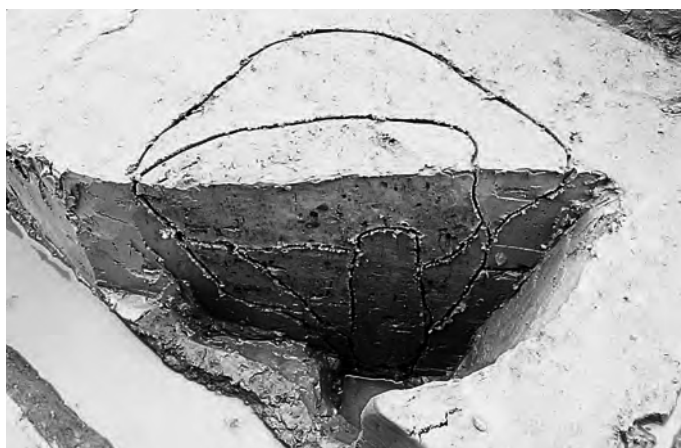
2区 SP18 土層断面 (南東から)



2区 SP18 完掘 (南東から)



2区 SP20 土層断面・完掘 (北東から)



2区 SP36 土層断面 (北から)



2区 SP36 完掘 (北から)



2区 SP38 土層断面（北東から）



2区 SP38 完掘（北東から）



2区 SP41 土層断面・完掘（北東から）



2区 SD9・28 土層断面・完掘（南西から）



2区 SD15 土層断面・完掘（北東から）



2区 SD4・15・16 完掘（北から）



2区 SP52 土層断面（北東から）



2区 SP53 土層断面（北東から）



3区 中層 完掘状況 (北東から)



3区 下層 完掘状況 (北東から)



3区 中層 (D-4J-5E21 ~ 7F2) 完掘 (南東から)



3区 下層 (D-4J-5E21 ~ 7F2) 完掘 (南東から)



3区 基本層序A (南西から)



3区 基本層序B (南西から)



3区 基本層序C (北東から)



3区 基本層序D (北東から)



3区 SN45・SD46・47 土層断面 (北東から)



3区 SN45・SD53・SP52 土層断面 (南西から)



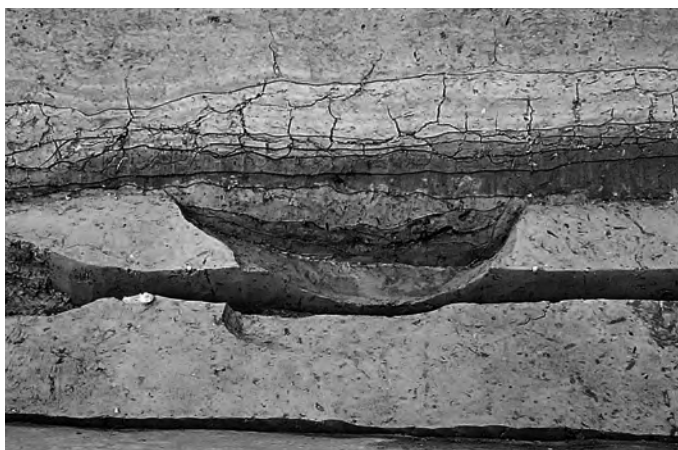
3区 SN48 土層断面 (北東から)



3区 SP10 土層断面・完掘 (北東から)



3区 SK5 遺物出土状況 (南西から)



3区 SK5 土層断面・完掘 (南西から)



3区 SK24 土層断面 (北東から)



3区 SK24 完掘 (北東から)



3区 SD7 土層断面 (北東から)



3区 SD7 完掘 (北東から)



3区 SD15 土層断面 (北東から)



3区 SD15・SP13 完掘 (北東から)



3区 SD18 土層断面 (北東から)



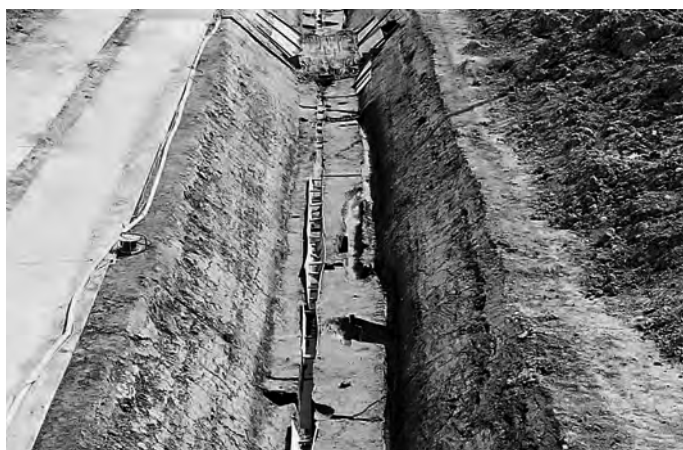
3区 SD18 完掘 (北東から)



3区 SD21 土層断面 A-A' (南東から)



3区 SD21 土層断面 B-B' (北西から)



3区 SD21 完掘 (北西から)



3区 SD33・SP44 土層断面 (北東から)



3区 SP34 土層断面・完掘、SD33・SP44 完掘（北東から）



3区 SD35 土層断面・完掘（南西から）



3区 SD40 土層断面（南西から）



3区 SD40 完掘（南西から）



3区 SD41 土層断面・完掘、SP13 完掘（北東から）



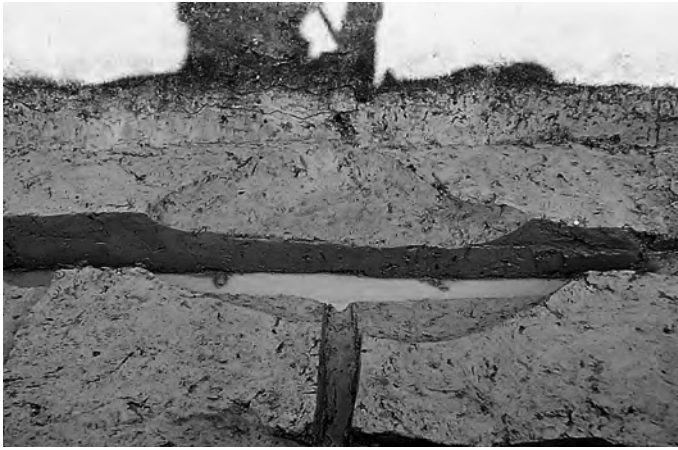
3区 SX30 土層断面（北東から）



3区 SX30 完掘（北西から）



3区 SX39 土層断面（南西から）



3区 SX39 完掘 (南西から)



3区 SP55 土層断面 (北東から)



3区 SP56 土層断面 (南東から)



3区 SP57 土層断面 (南東から)



3区 SP58 土層断面 (北東から)



3区 SP59 土層断面 (南東から)



3区 SK38 · SP60 土層断面 (北東から)



3区 SP61 土層断面 (北東から)



第6次調査区 完掘状況（東から）



第6次調査区 (D-3I-9F6 ~ 10G17) 完掘（南東から）



第6次調査区 (D-3I-8D3 ~ 9E3) 完掘（南東から）



第6次調査区 (D-3I-7C3 ~ 8D3) 完掘（南東から）



第6次調査区 (D-3I-6B9 ~ 6C21) 完掘（南東から）



第6次調査区 (D-3I-5B22 ~ 6B15) 完掘（南東から）



第6次調査区 (D-3I-4J2 ~ 5A8) 完掘（南東から）



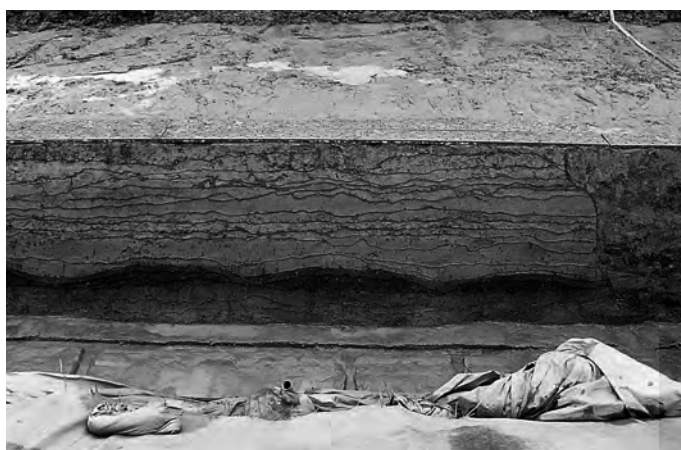
第6次調査区 基本層序A（北東から）



第 6 次調査区 基本層序 B (北東から)



第 6 次調査区 SN (畠跡) ① (D-3I-6B14 ~ 6B2) 土層断面 (北東から)



第 6 次調査区 SN (畠跡) ① (D-3I-6B2 ~ 6B14) 土層断面 (北東から)



第 6 次調査区 SN (畠跡) ② (D-3I-5A8 ~ 6B2) 土層断面 (北から)



第 6 次調査区 SD1 土層断面 (北東から)



第 6 次調査区 SD1 完掘 (東から)



第 6 次調査区 SD7 土層断面 (北東から)



第 6 次調査区 SD7 完掘 (南東から)



第 6 次調査区 SD8 土層断面 (北東から)



第 6 次調査区 SD8 完掘 (北西から)



第 6 次調査区 SD3 土層断面 (北東から)



第 6 次調査区 SD2 完掘 (西から)



第 6 次調査区 SD3 完掘 (南から)



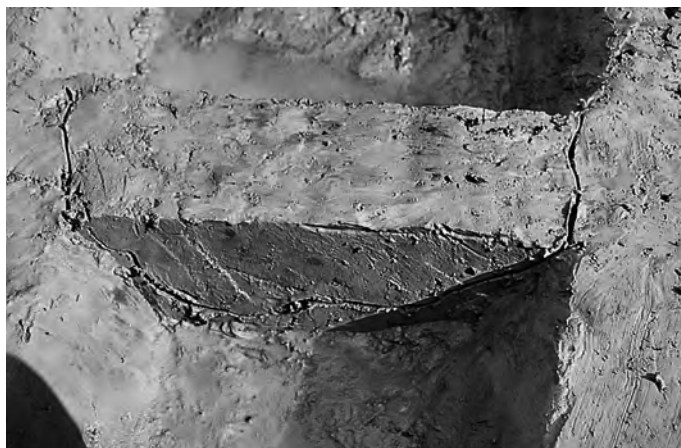
第 6 次調査区 SD15・18・19・SX11 完掘 (南から)



第 6 次調査区 SK5 土層断面 (南東から)



第 6 次調査区 SK5 完掘 (南東から)



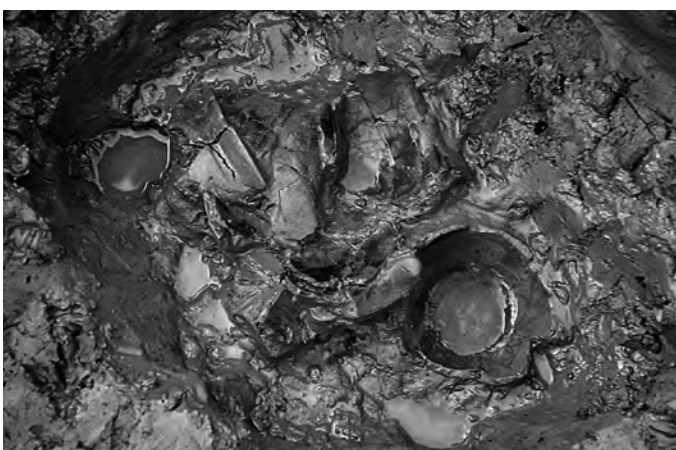
第6次調査区 SD4 土層断面 (南西から)



第6次調査区 SD4 完掘 (南西から)



第6次調査区 SD6 土層断面 (北東から)



第6次調査区 SD6 遺物出土状況 (北から)



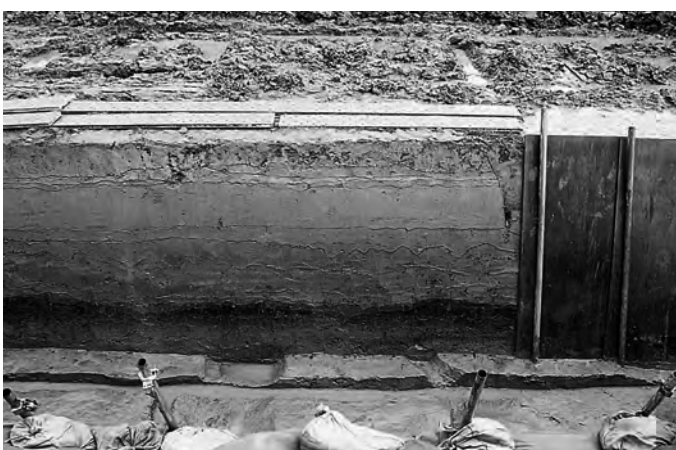
第6次調査区 SD6 完掘 (南東から)



第6次調査区 SD9 土層断面・完掘 (南西から)



第6次調査区 SD13 土層断面・完掘 (北東から)



第6次調査区 SD14・17 土層断面・完掘 (北東から)



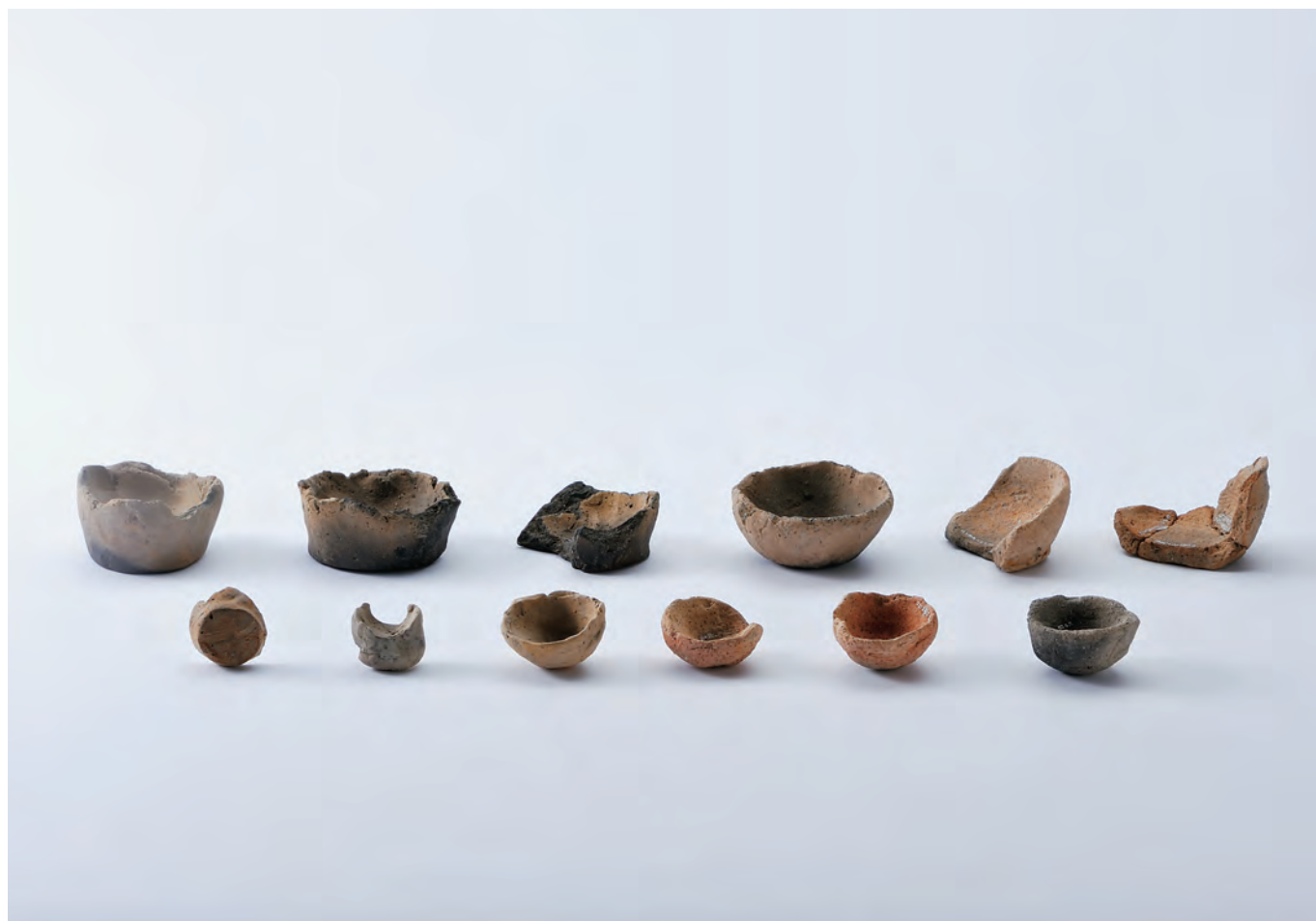
4区 SK4 出土土器



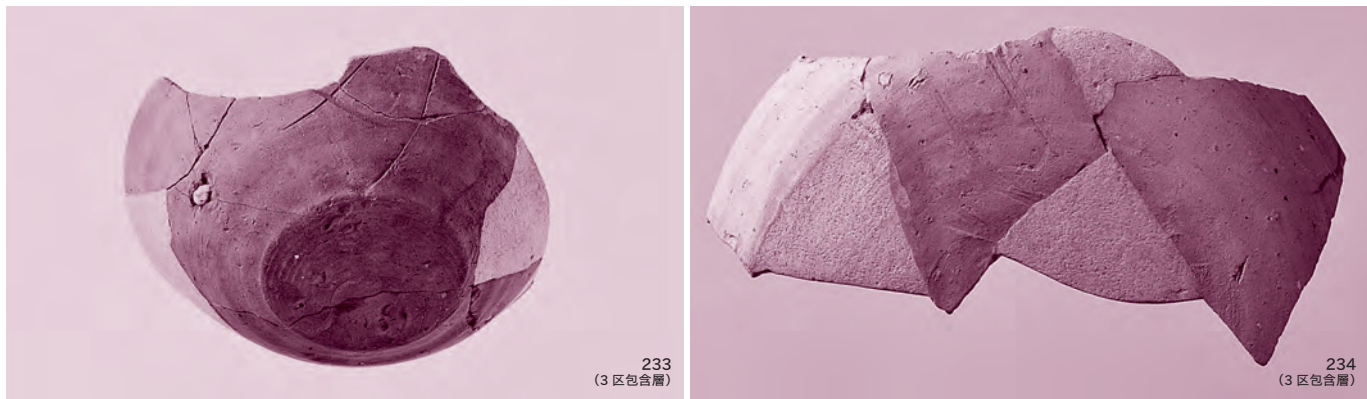
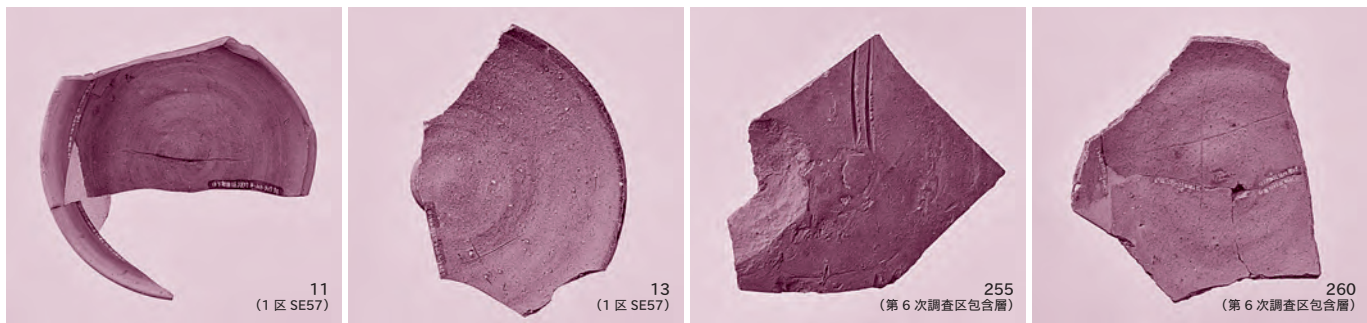
平安時代の土器



奈良時代の土器



手づくね・ミニチュア土器







249
(第5次調査6T)



レプリカ採取 No.164
(3区包含層)



レプリカ採取 No.167
(1区包含層)



228
(3区包含層)



250
(第6次調査区包含層)



44
(1区SX65)



295
(第2次調査38T)



287
(第2次調査44T)



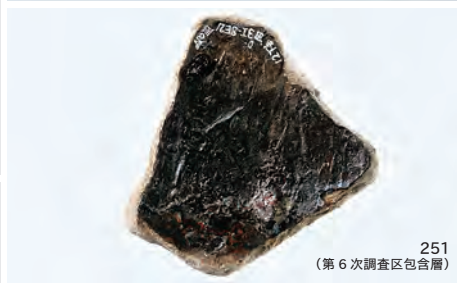
90
(2区SD4)



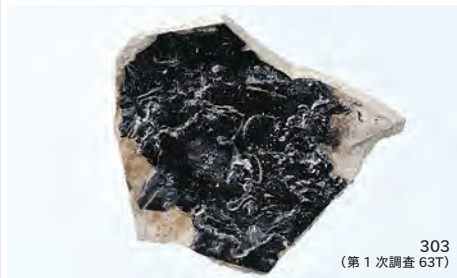
237
(3区包含層)



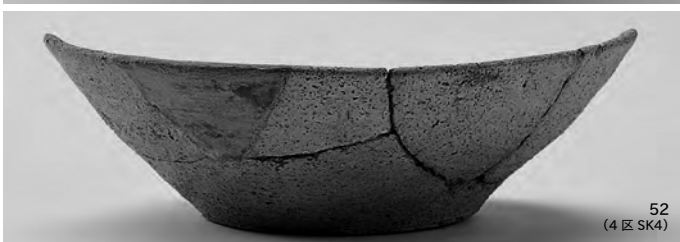
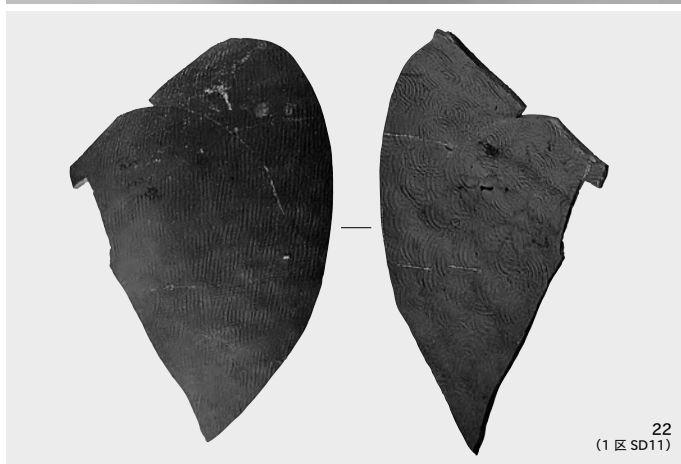
252
(第6次調査区包含層)



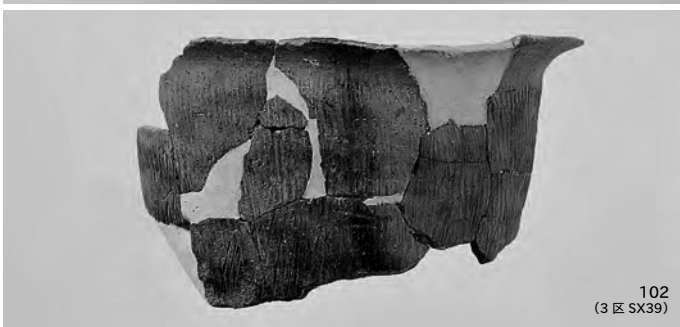
251
(第6次調査区包含層)

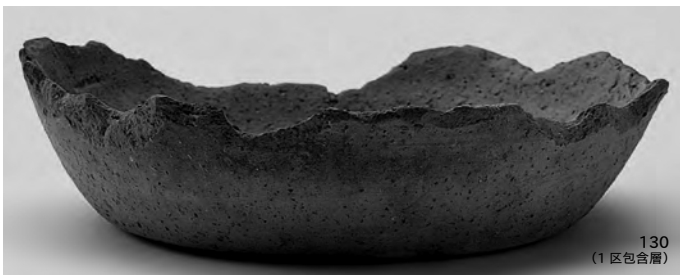
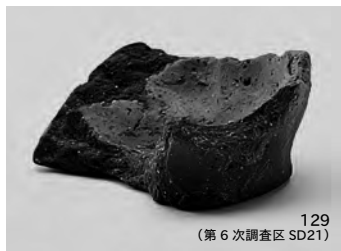


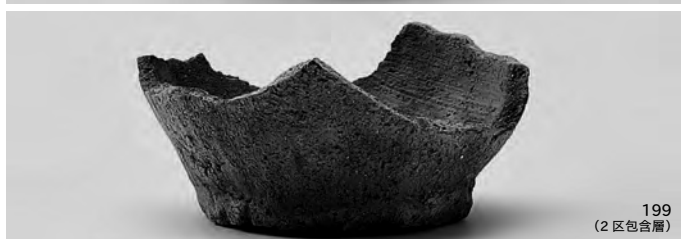
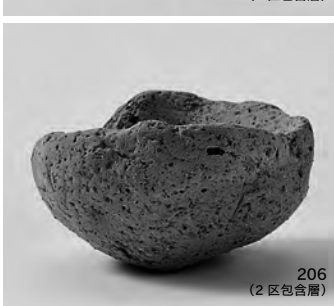
303
(第1次調査63T)

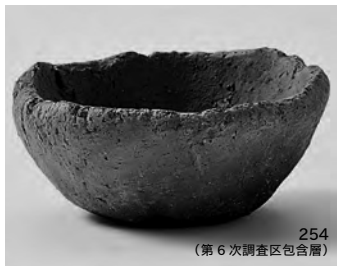


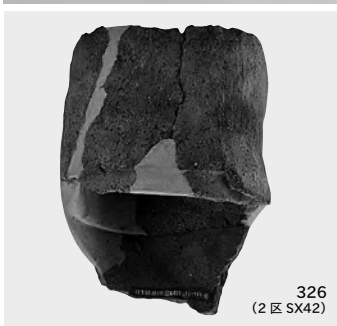
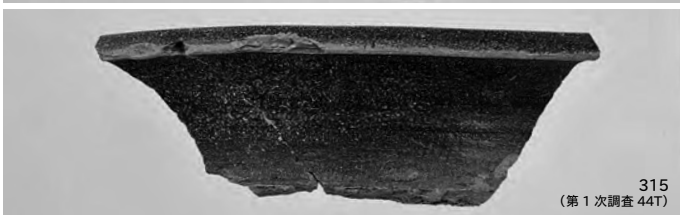






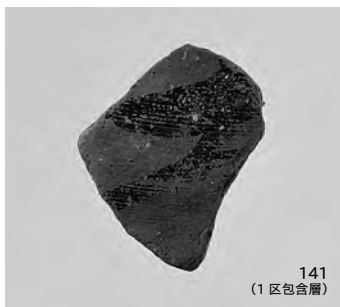








39
(1区SD39)



141
(1区包含層)



259
(第6次調査区包含層)



62
(4区SX6)



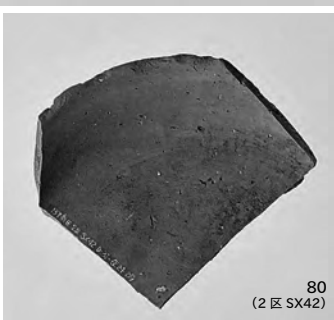
166
(1区包含層)



79
(2区SX42)



34
(1区SD33)



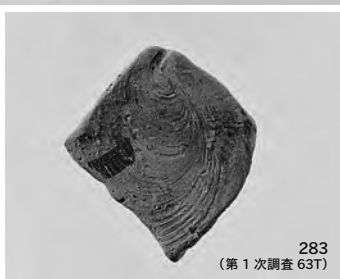
80
(2区SX42)



73
(2区SD3)



169
(1区包含層)



283
(第1次調査63T)



85
(2区SK13)



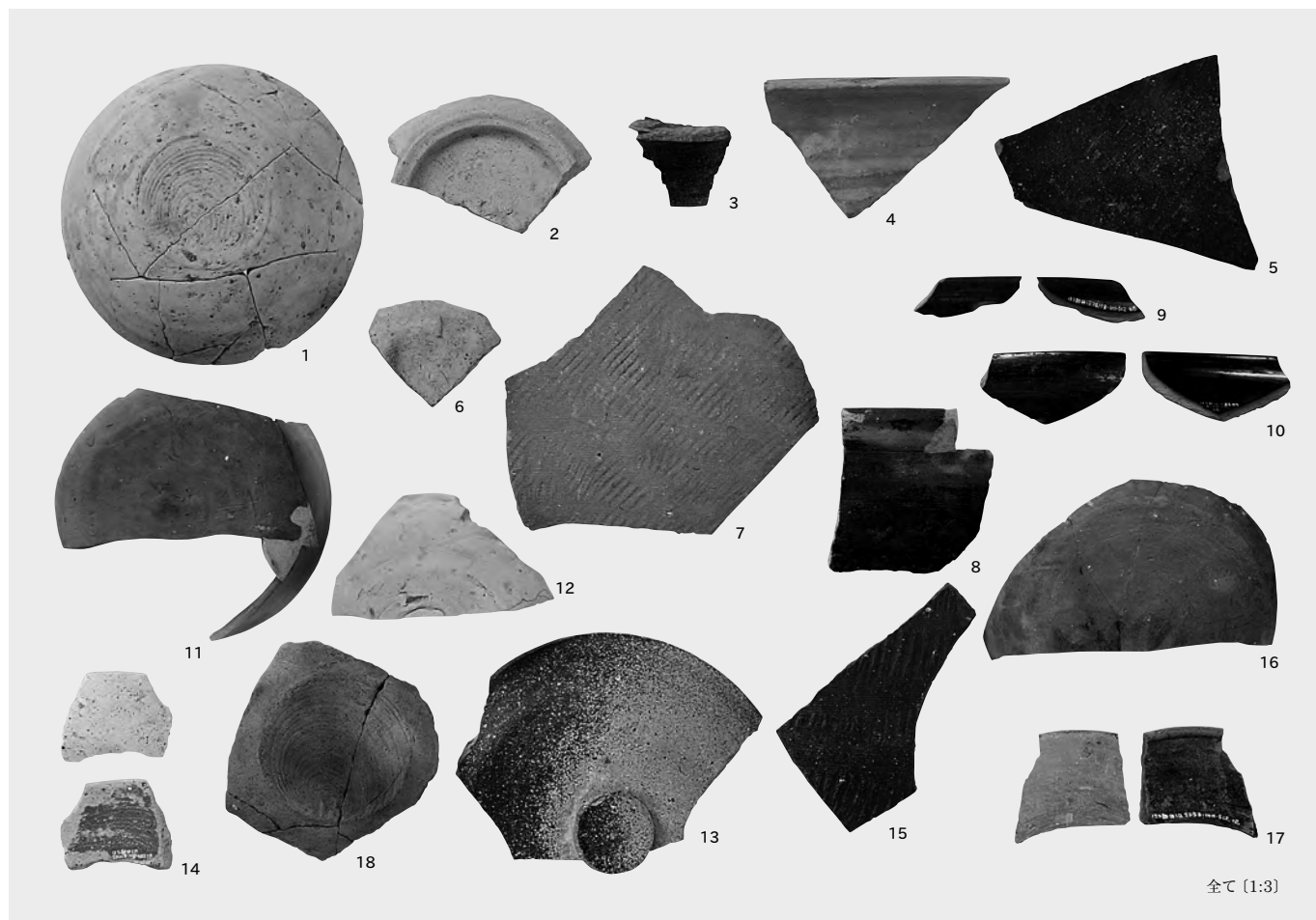
217
(2区包含層)



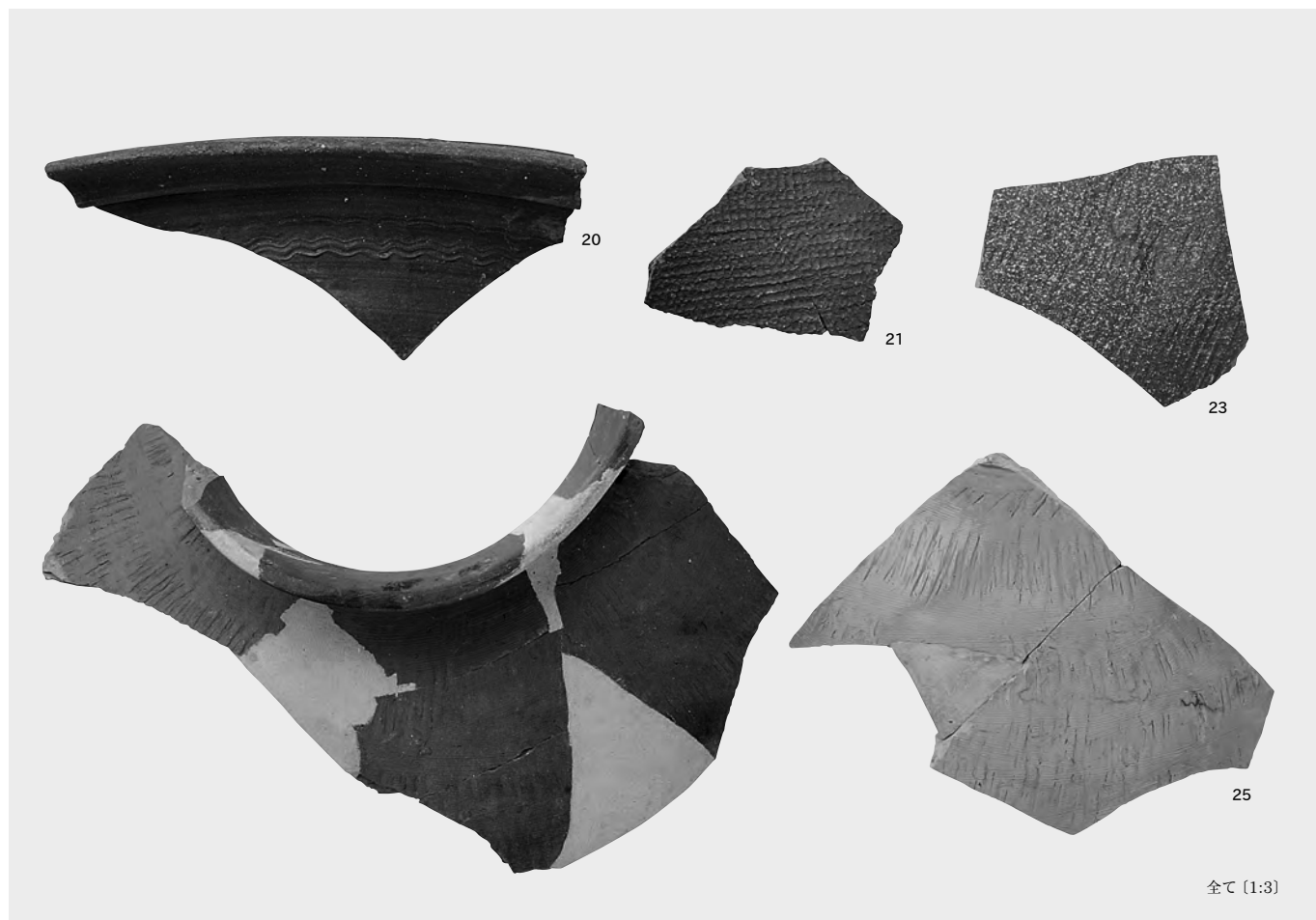
273
(第1次調査116T)



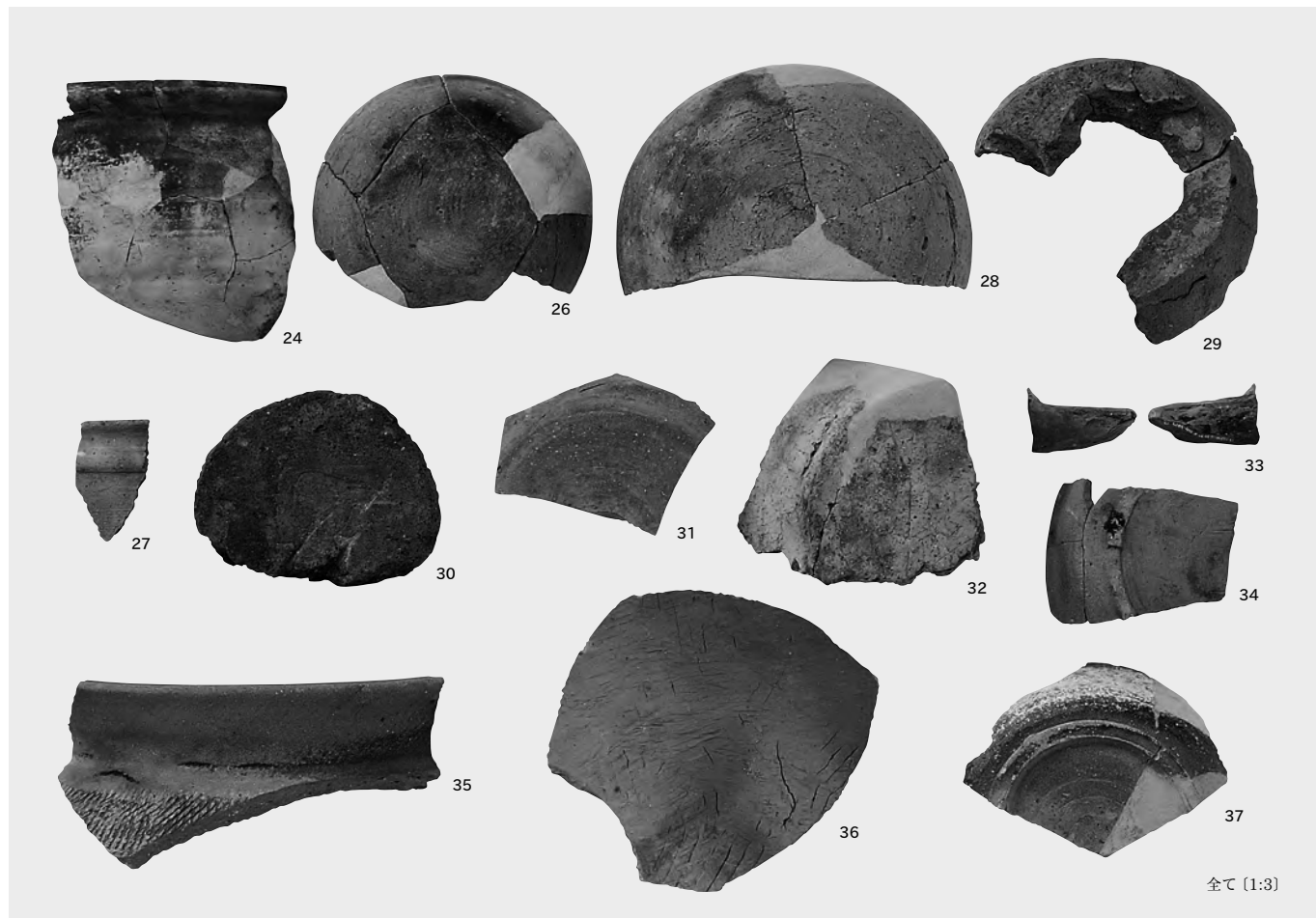
305
(平成25年度立会)



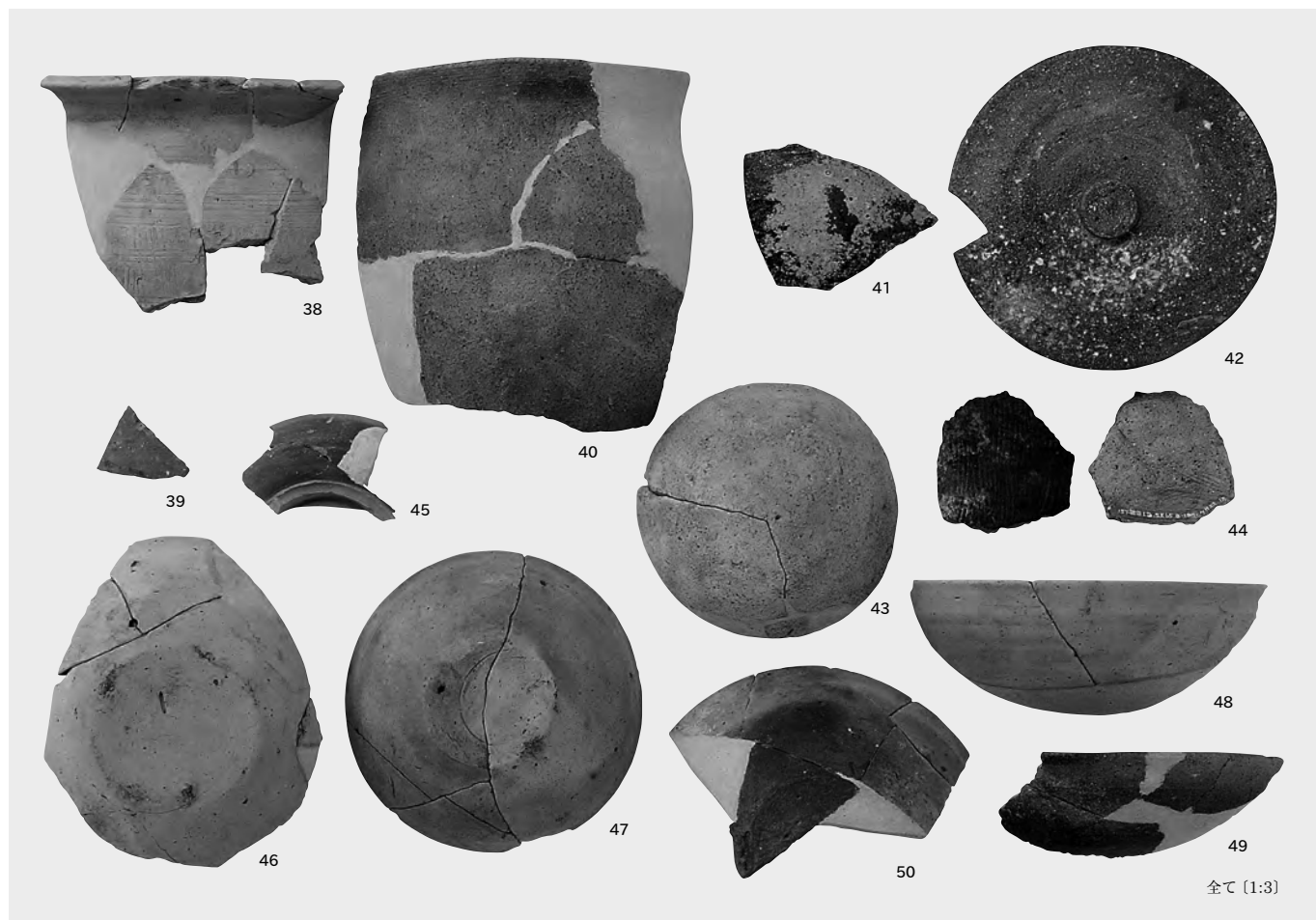
1 区 SD1 (1 ~ 4) SD2 (5) SD5 (16・17) SD6 (6) SD10 (18) SD54 (7) SE57 (8 ~ 13) SK20 (14) SK53 (15)



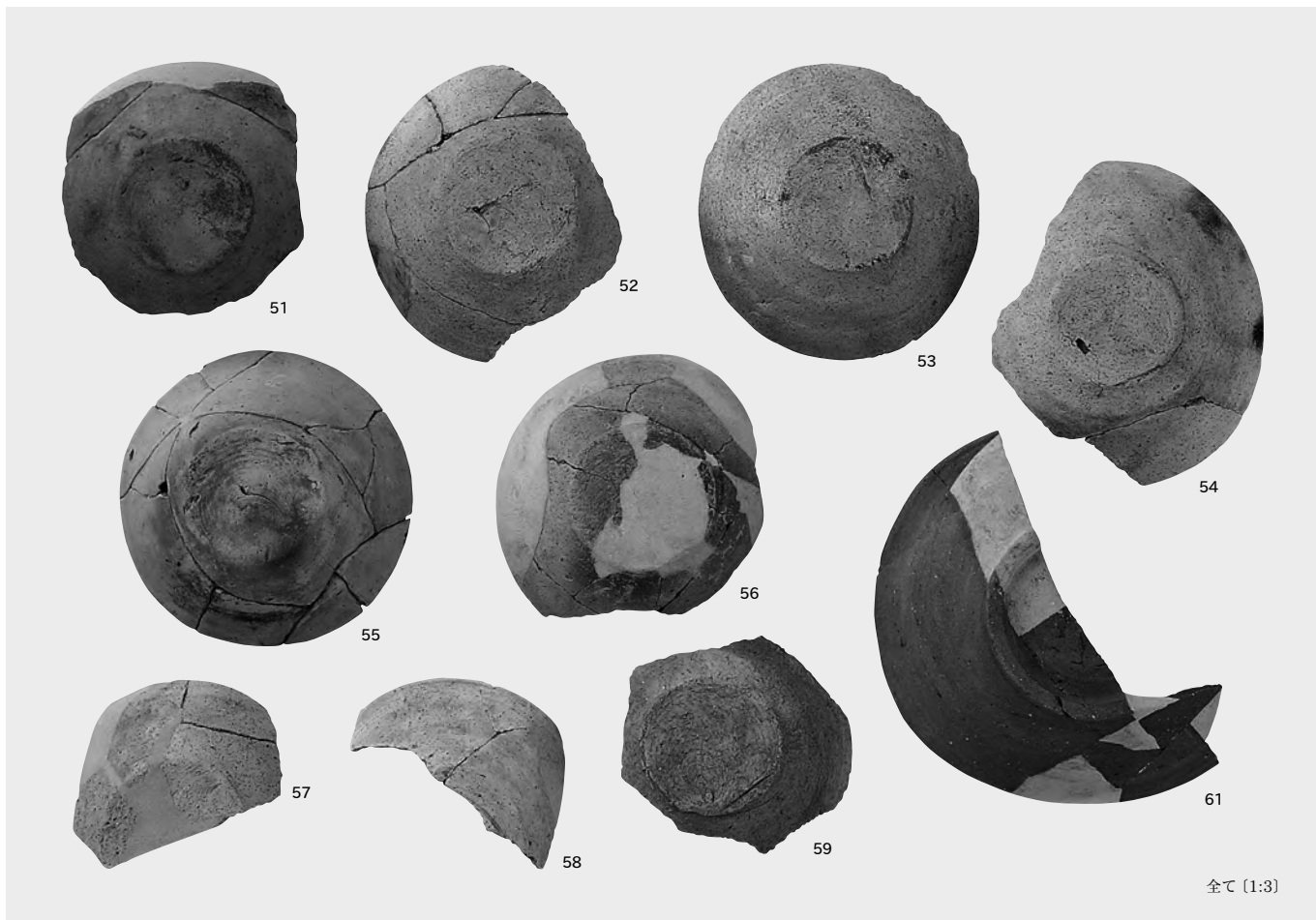
1 区 SD11 (20・21・23) SD12 (25)



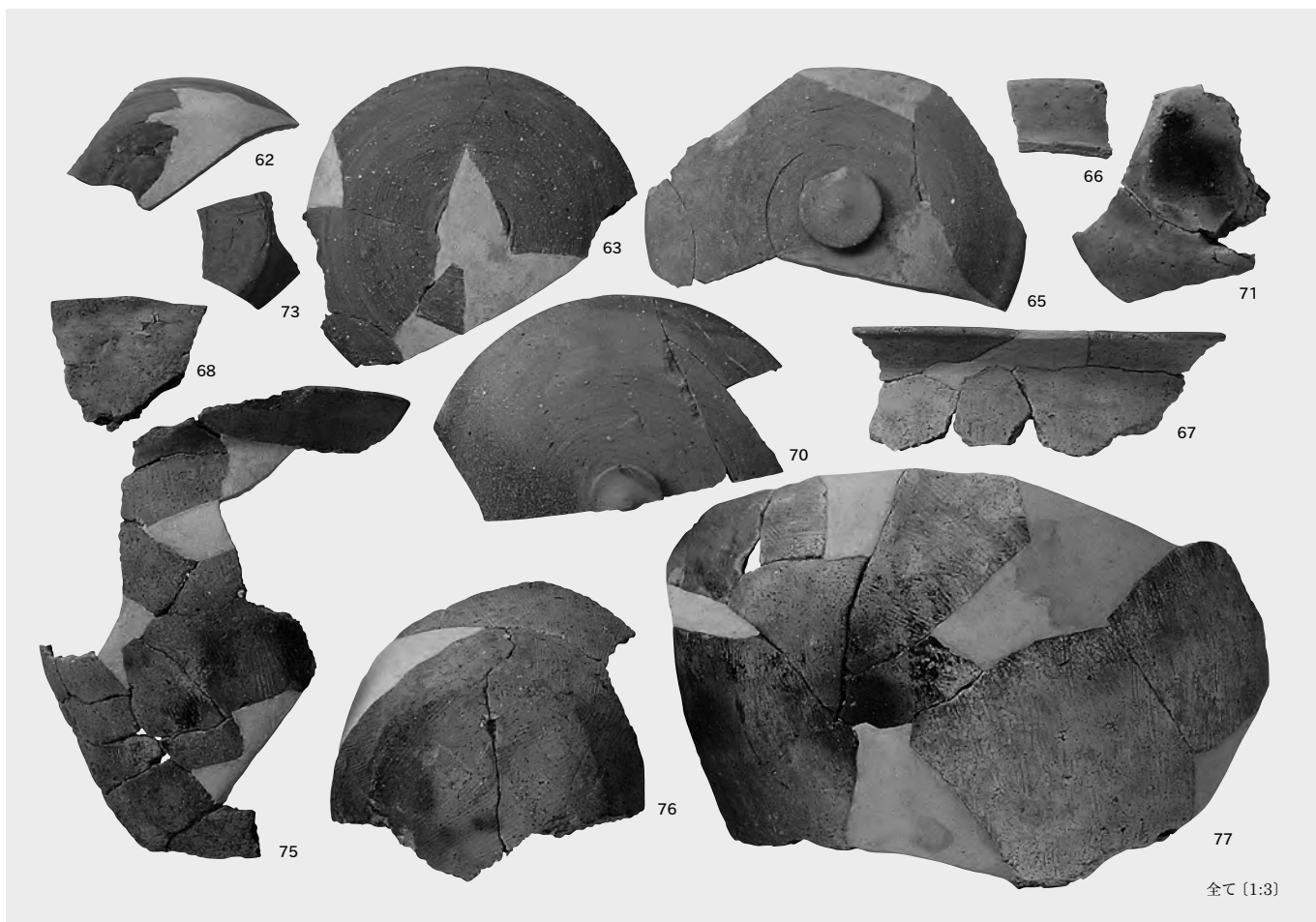
1区 SD12 (24) SD15 (26・27) SD18 (28) SD24 (29) SD29 (30) SD30 (32・33・36) SD33 (31・34・35) SD35 (37)



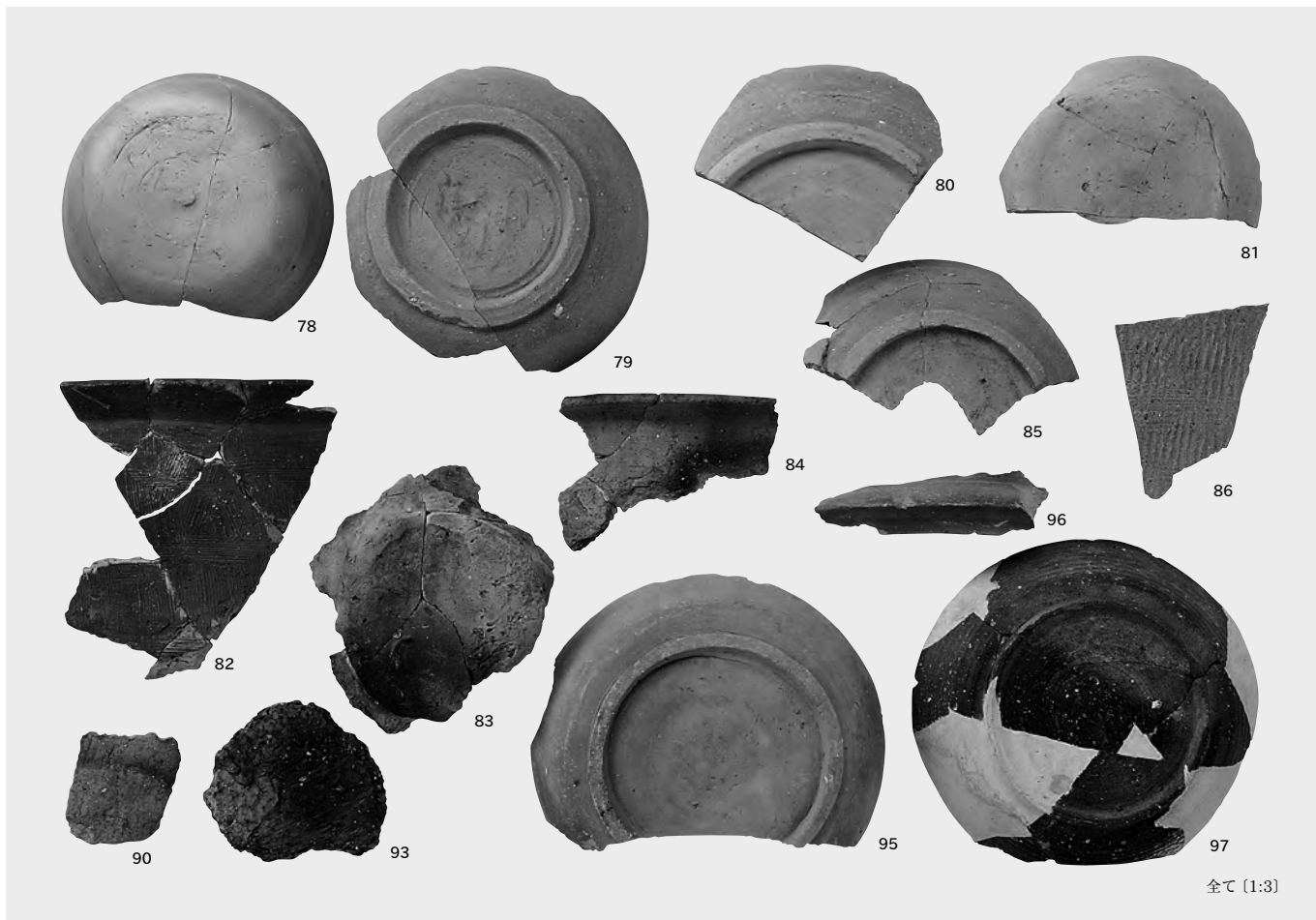
1区 SD4 (45) SD39 (38・39) SD42 (40・41) SX45 (42) SX65 (43・44)、4区 SK4 (46～50)



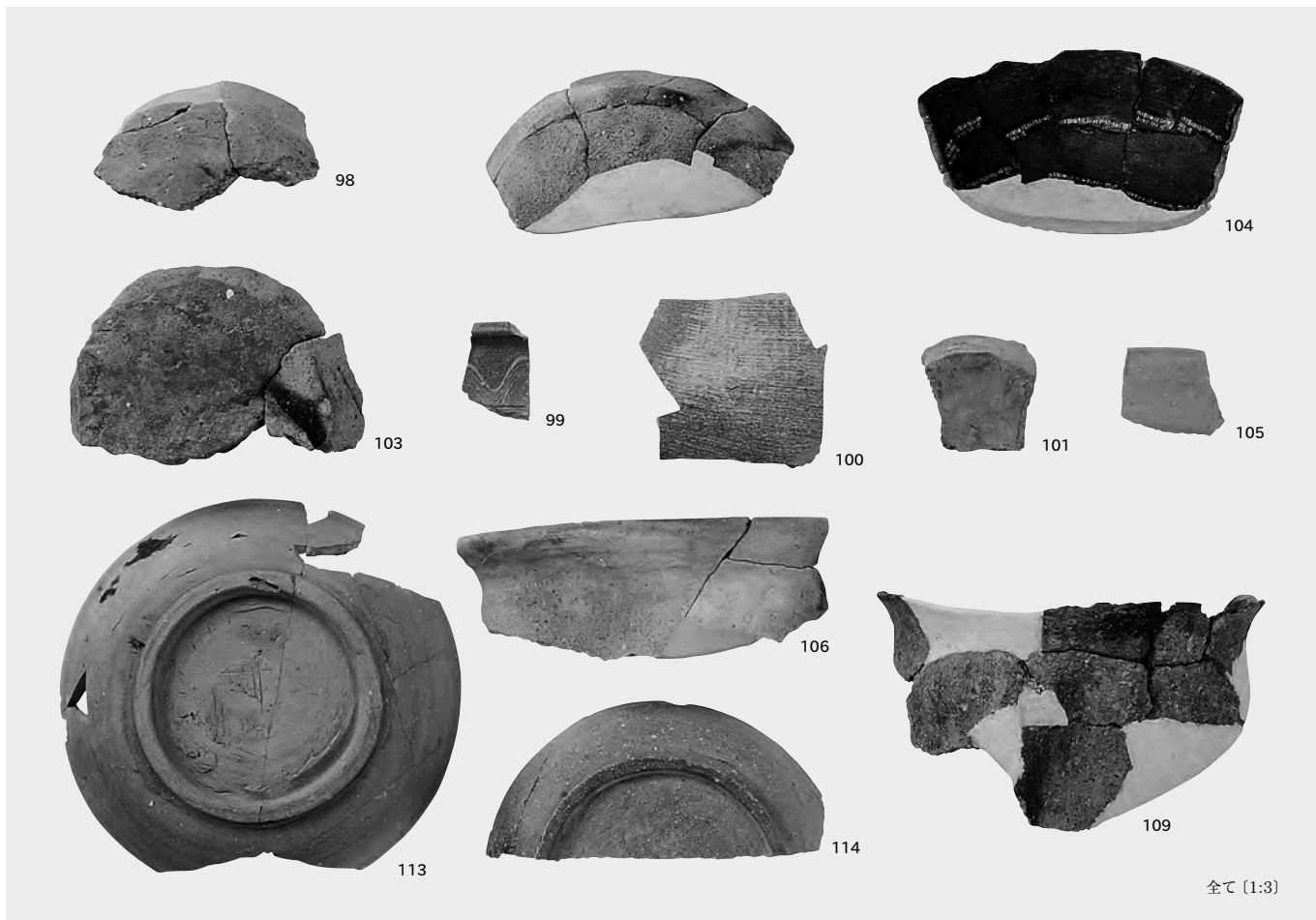
4区 SK4 (51 ~ 59・61)



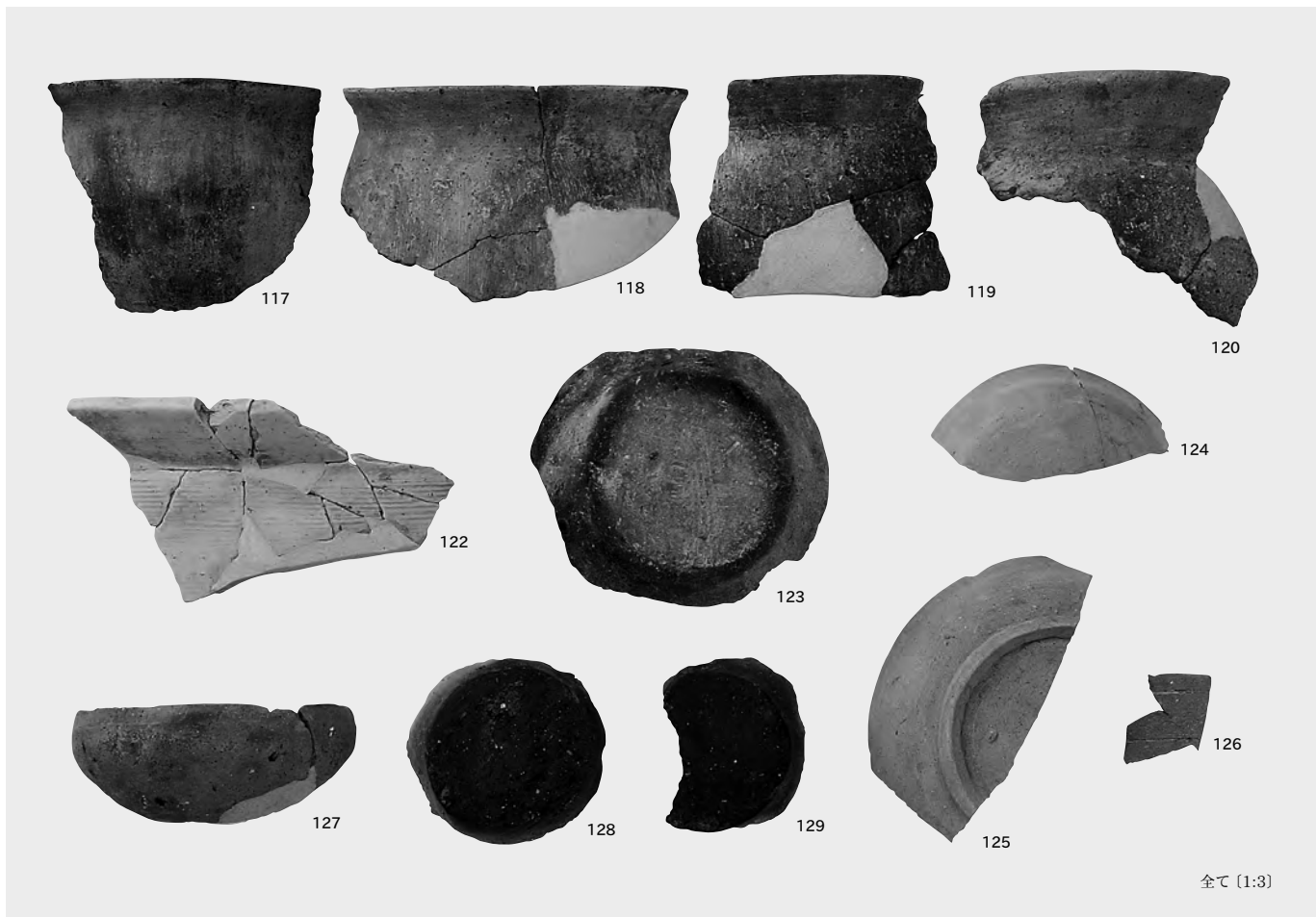
4区 SD1 (65) SD5 (66) SX6 (62・63)、2区 SE25 (67・68) SD3 (71・73) SX2 (70) SX42 (75 ~ 77)



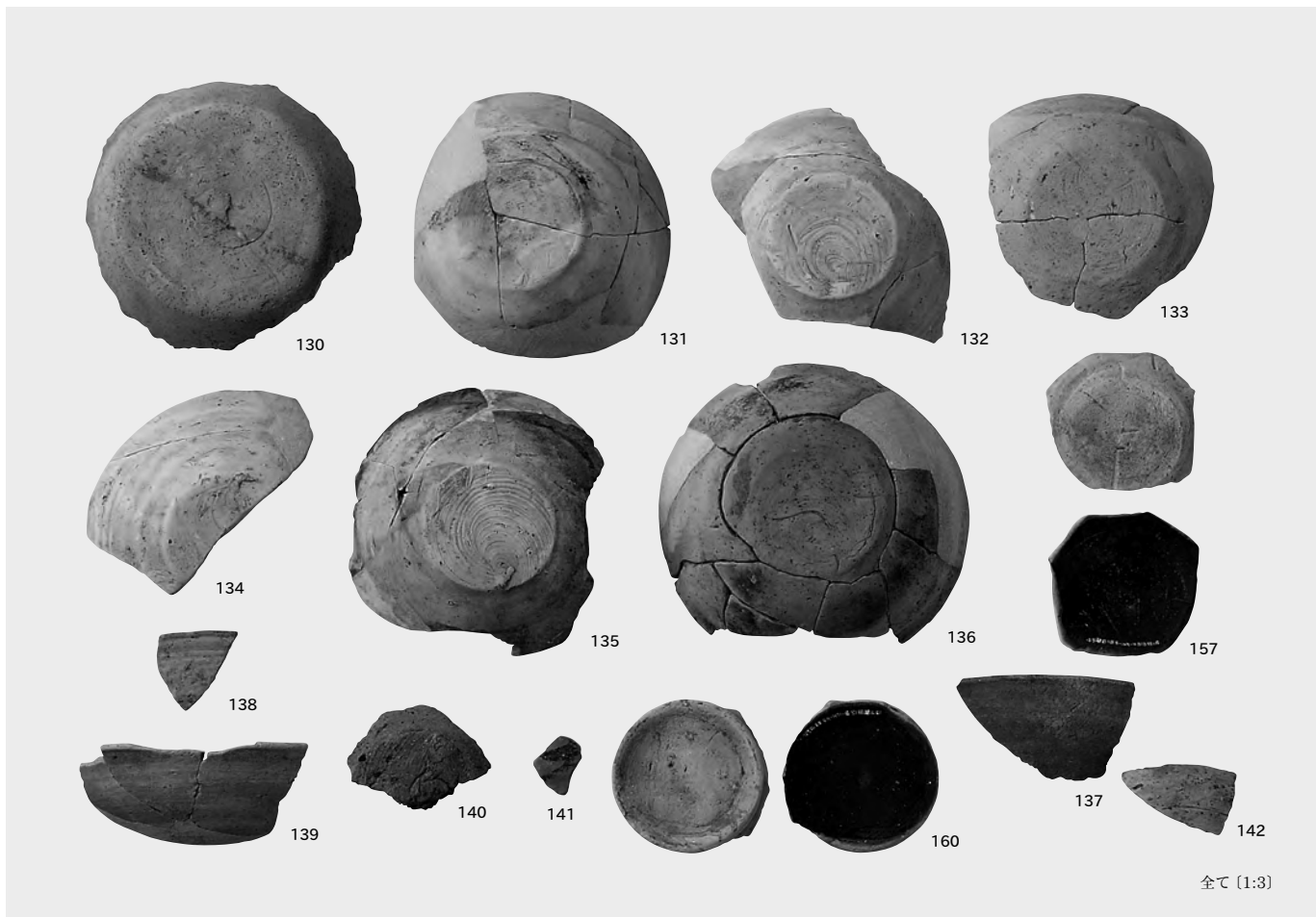
2区 SK13 (82~86) SD4 (90) SX42 (78~81)、3区 SK20 (93) SD9 (95) SD18 (96) SD21 (97)



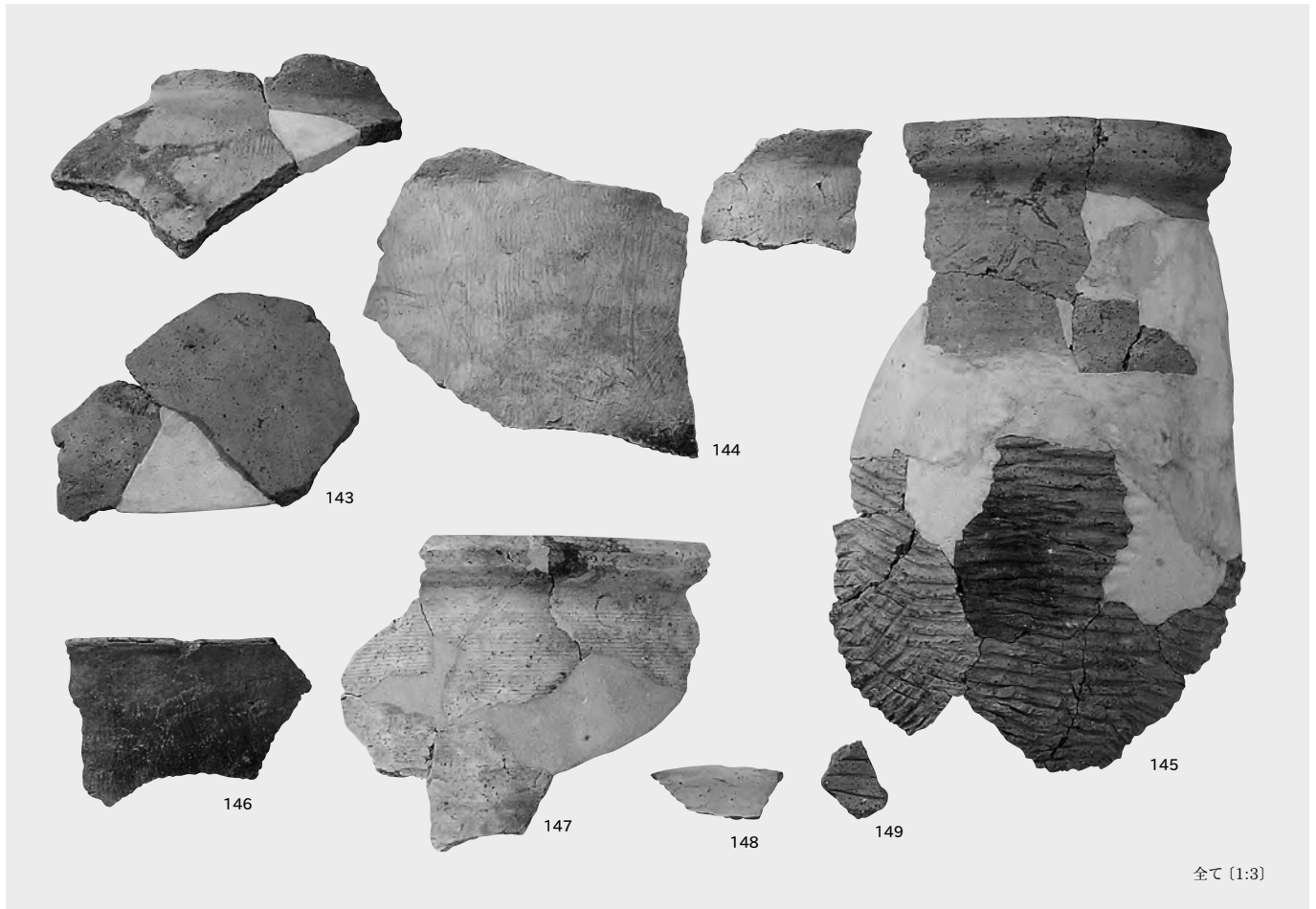
3区 SD33 (98) SD35 (100) SD40 (99) SX30 (101) SX39 (103・104)、第6次調査区 SD1 (105) SX11 (106・109・113・114)



第6次調査区 SD6 (117 ~ 120・122 ~ 126) SD21 (127 ~ 129)

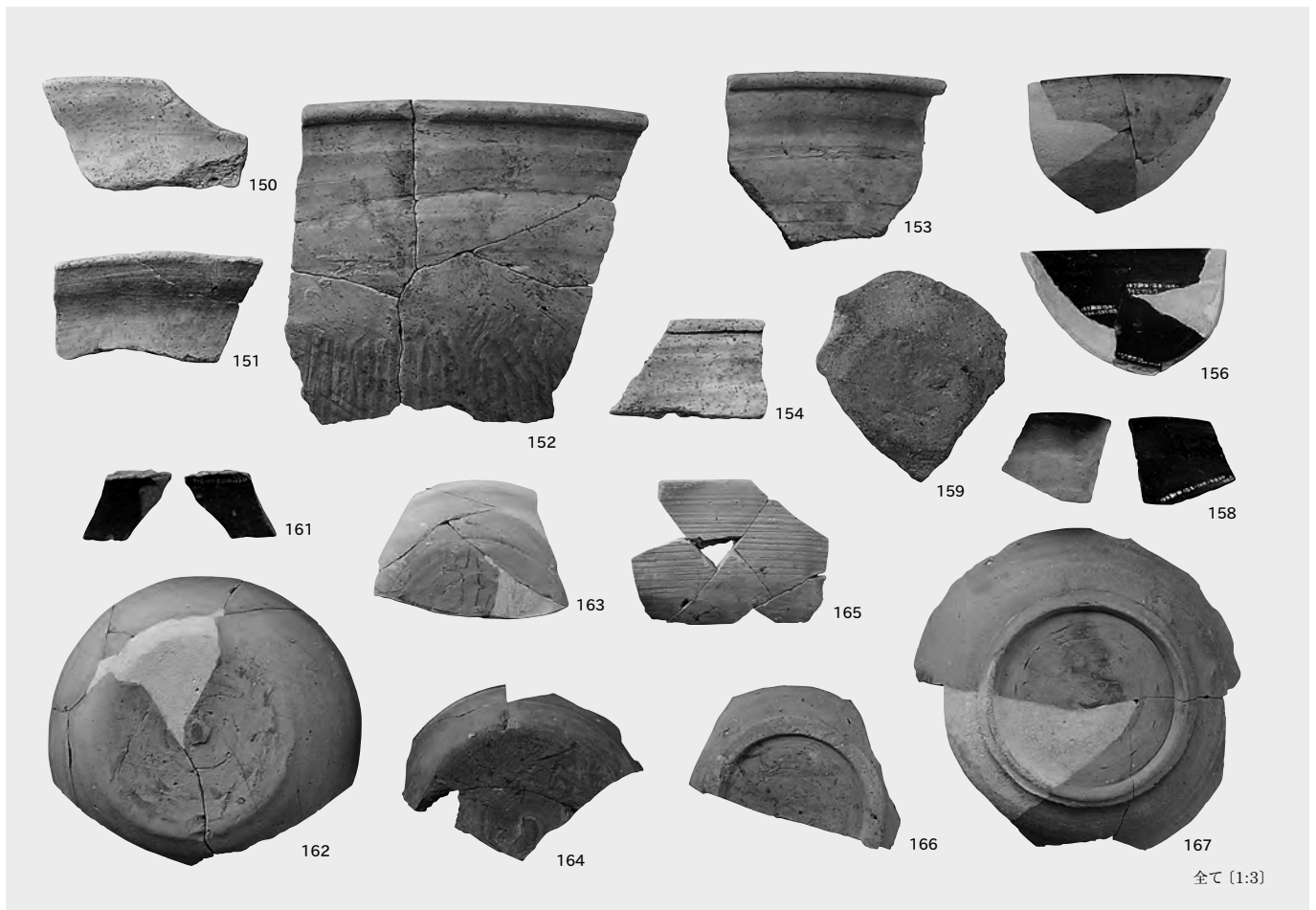


1区 包含層 (130 ~ 142・157・160)



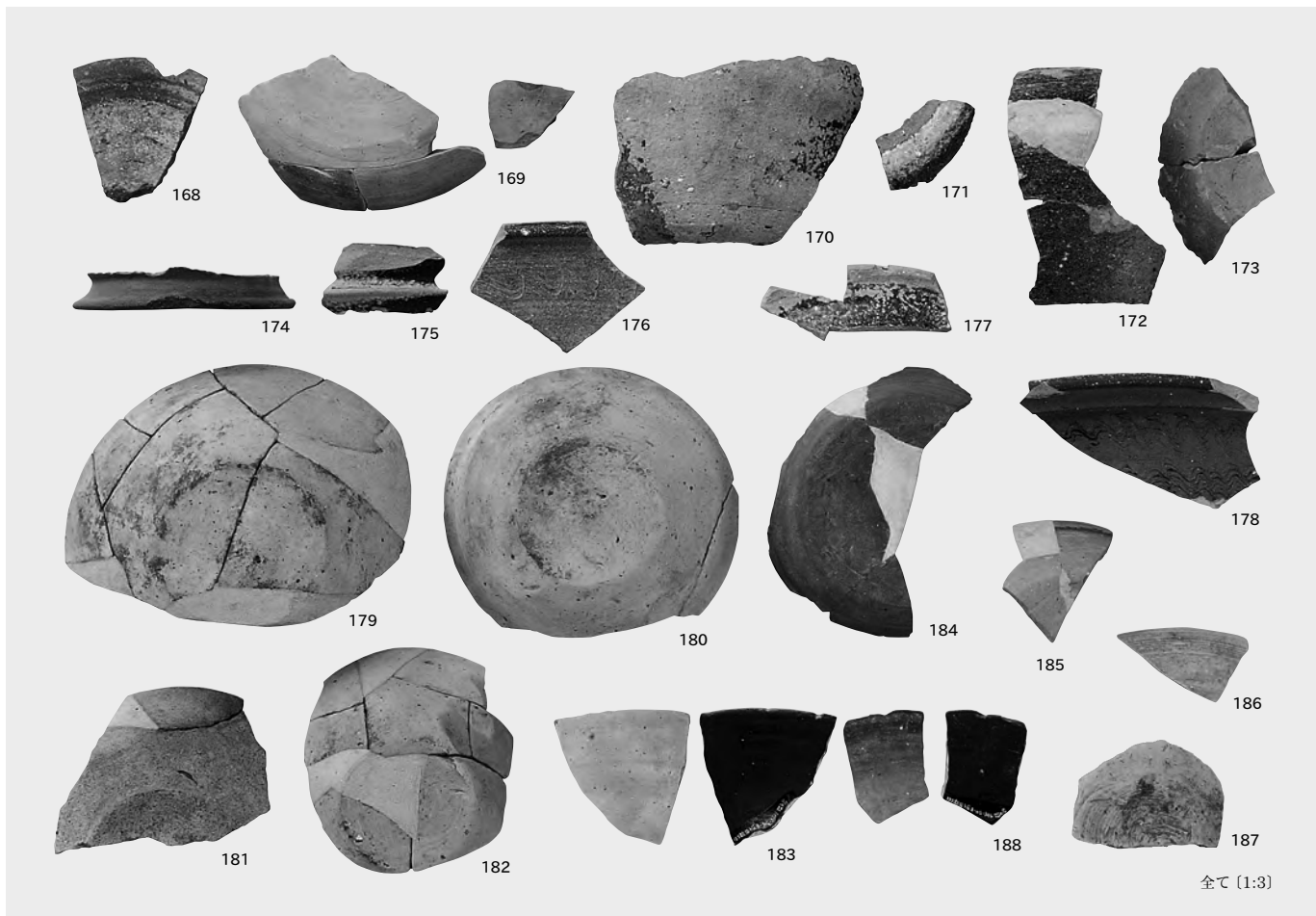
全て [1:3]

1区 包含層 (143 ~ 149)

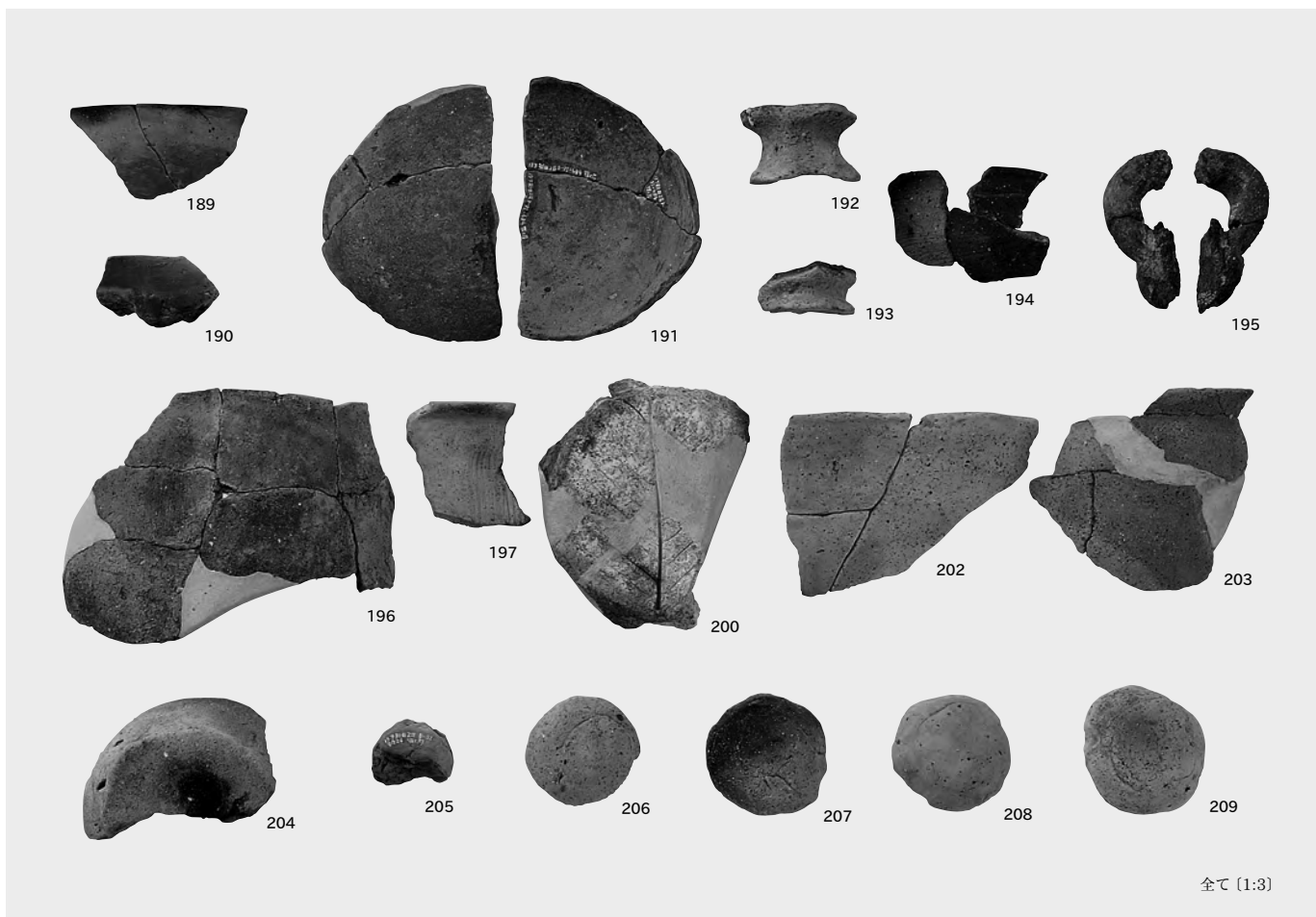


全て [1:3]

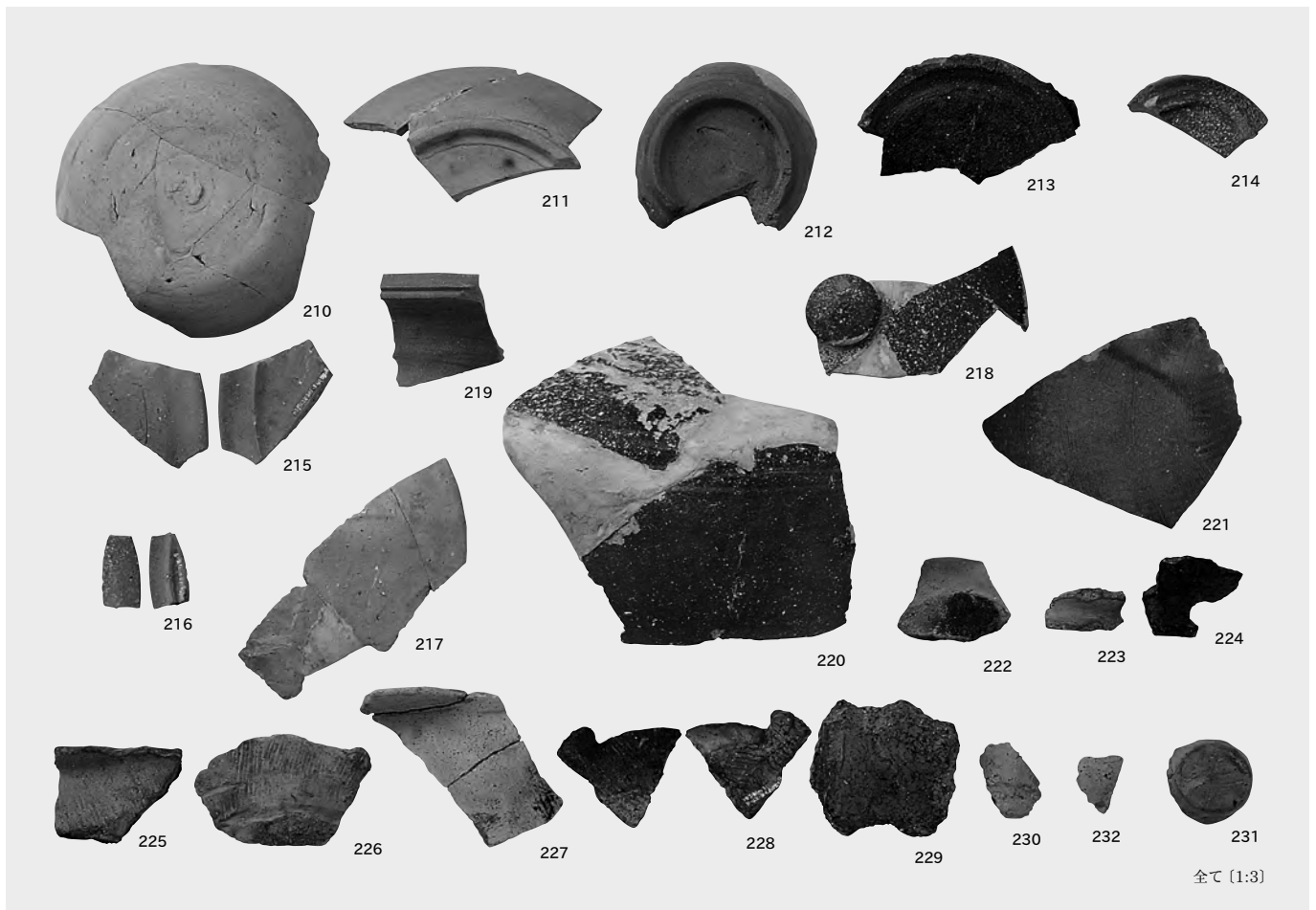
1区 包含層 (150 ~ 154・156・158・159・161 ~ 167)



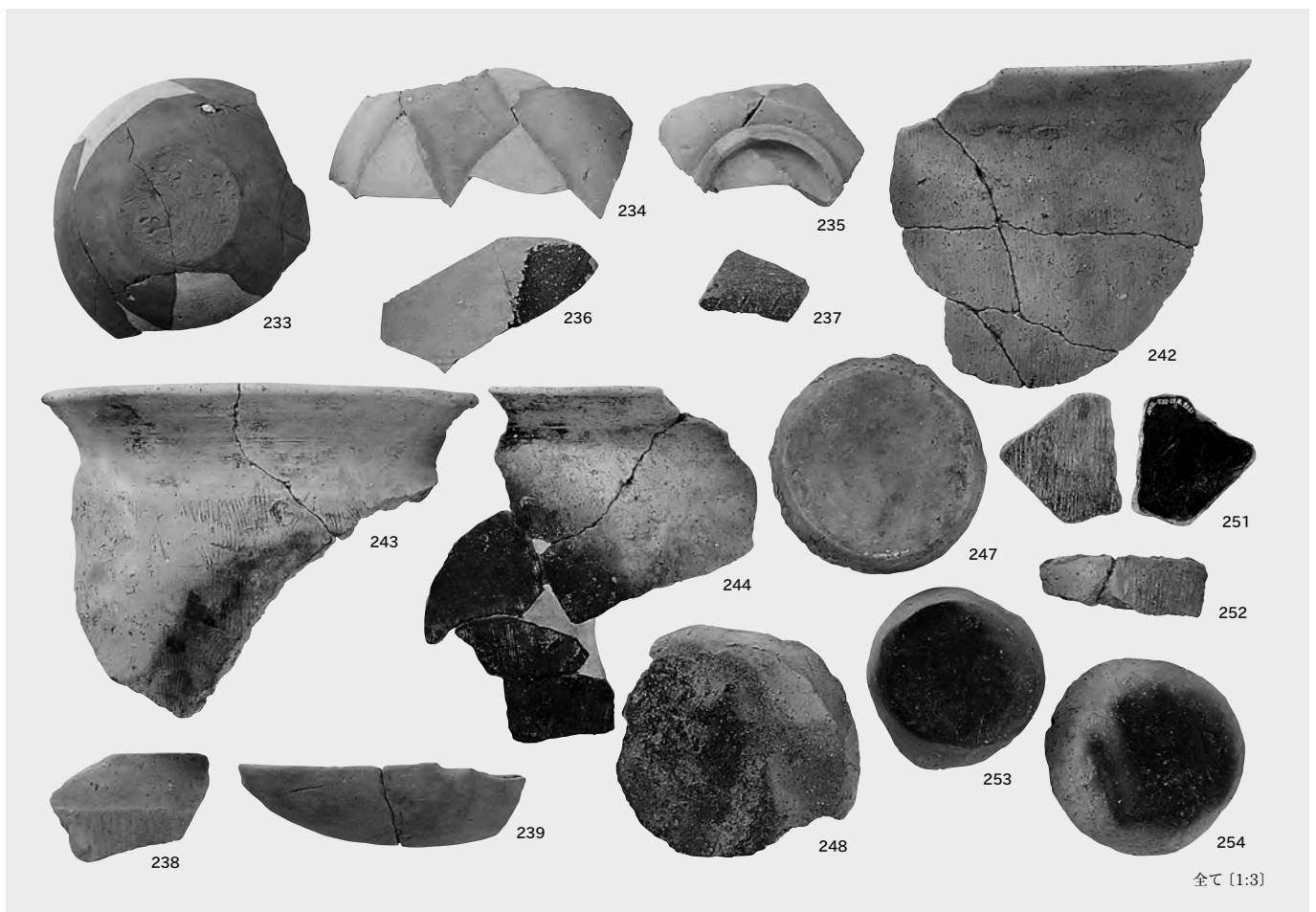
1区 包含層 (168 ~ 178)、4区 包含層 (179 ~ 185)、5区 包含層 (186 ~ 188)



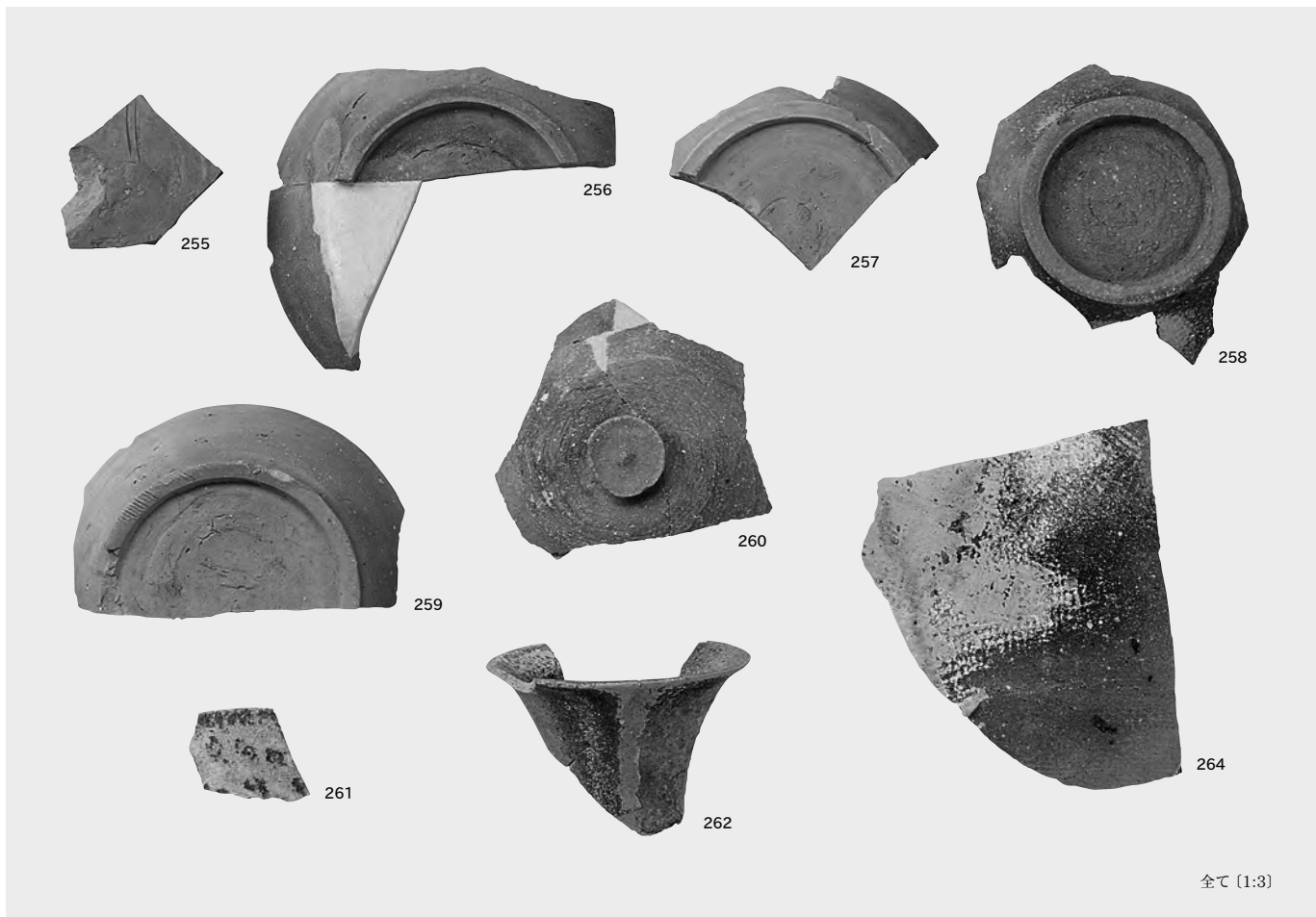
2区 包含層 (189 ~ 197・200・202 ~ 209)



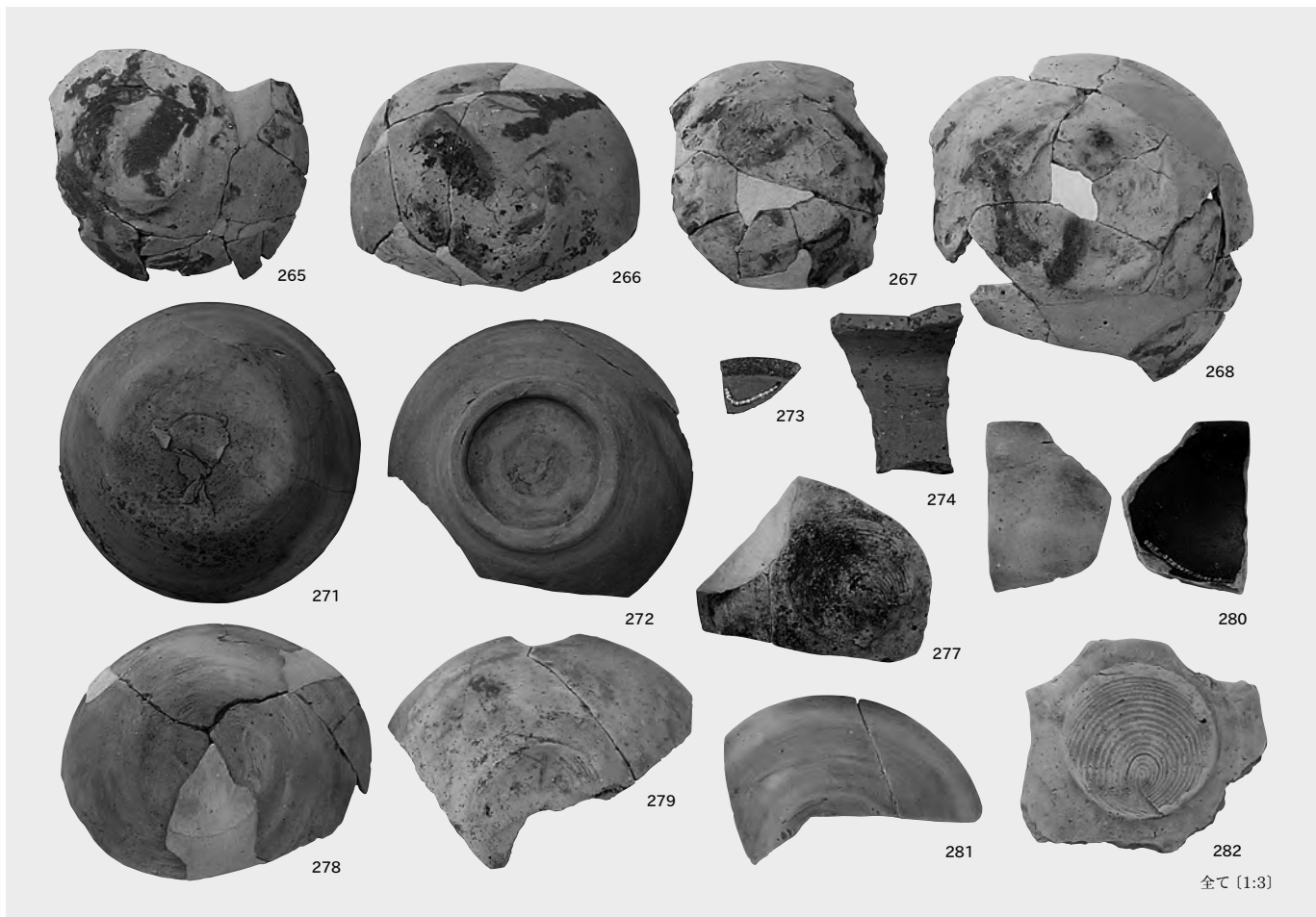
2区 包含層 (210 ~ 221)、3区 包含層 (222 ~ 232)



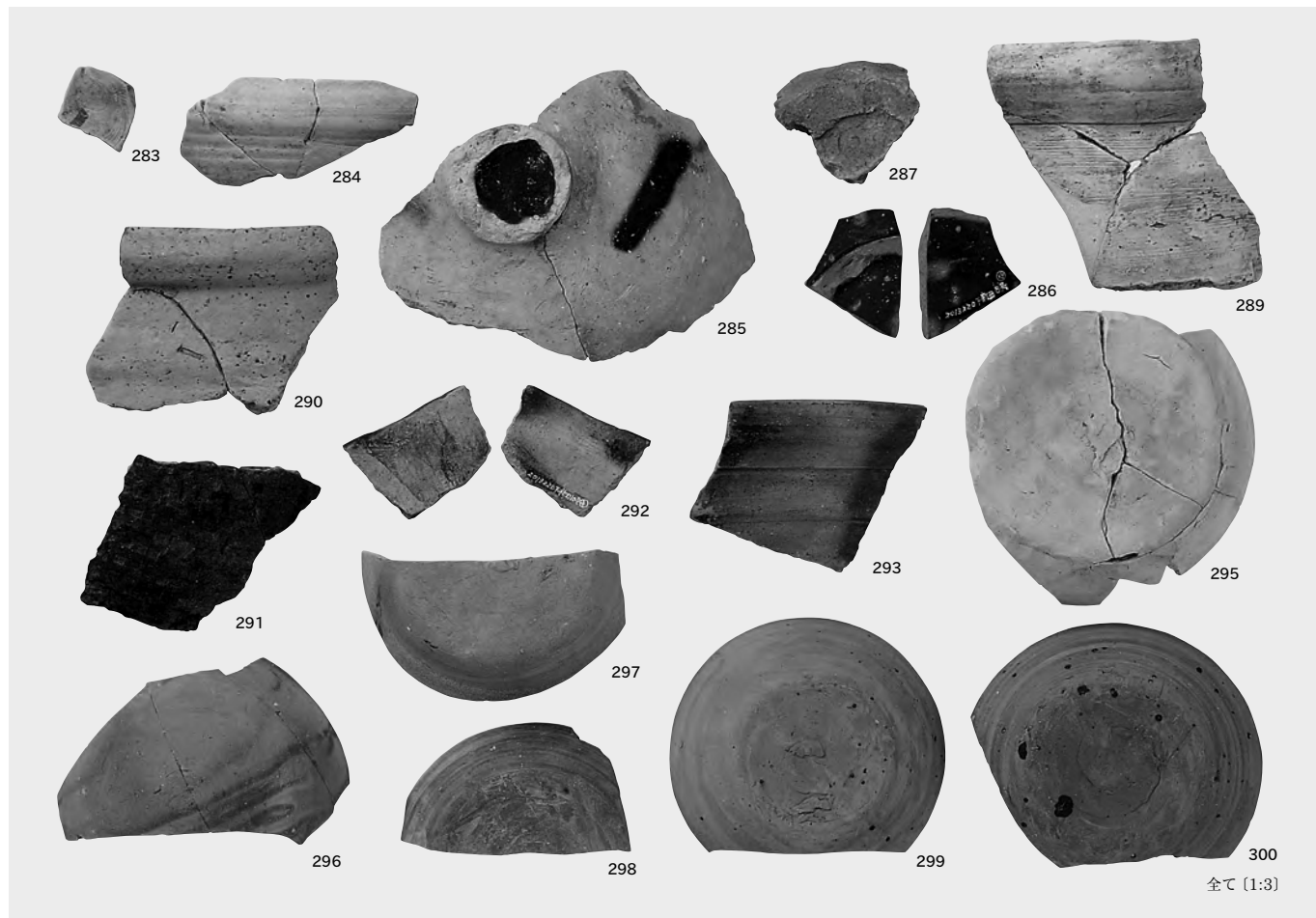
3区 包含層 (233 ~ 237)、第6次調査区 包含層 (238・239・242 ~ 244・247・248・251 ~ 254)



第 6 次調査区 包含層 (255 ~ 262・264)

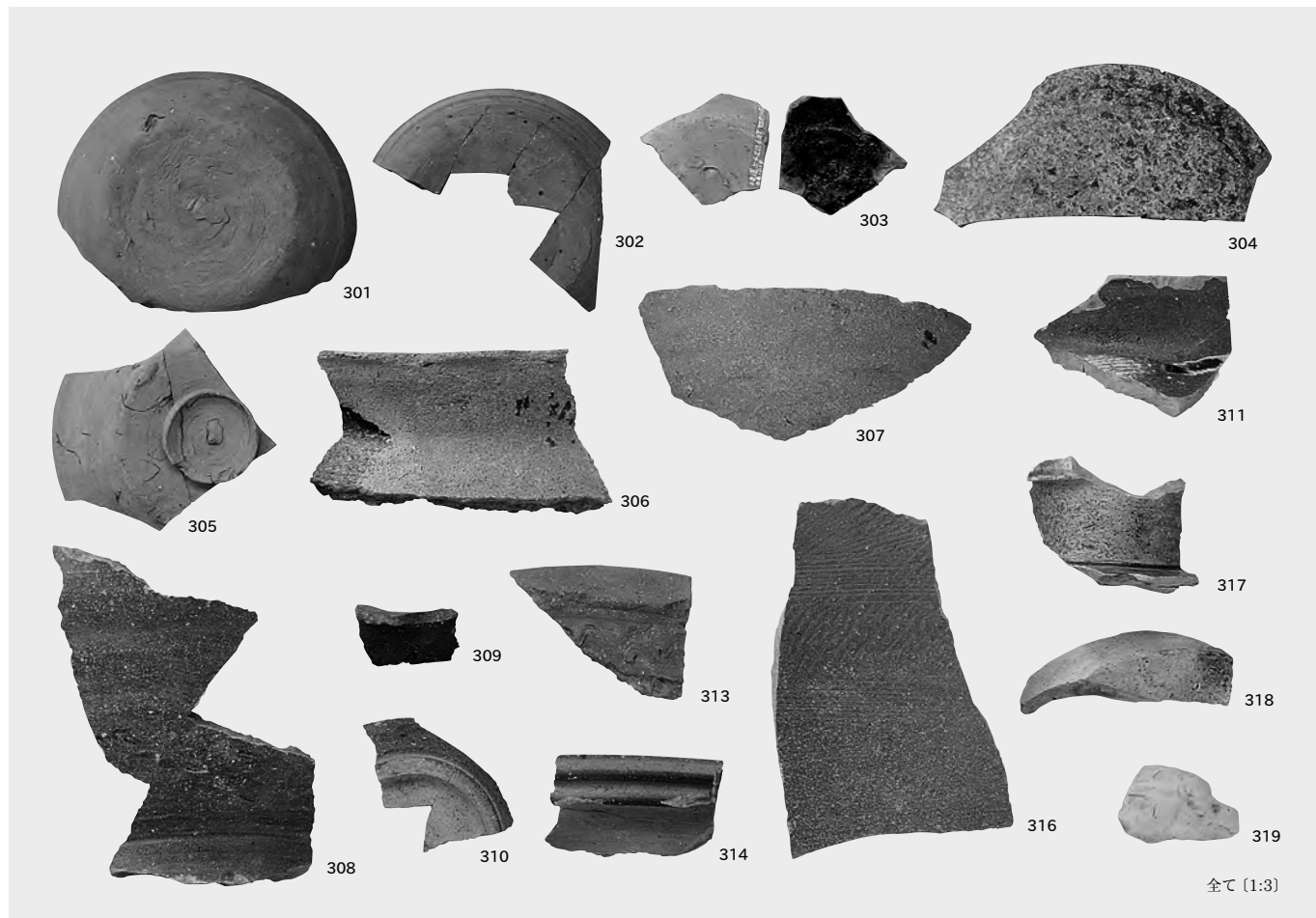


第 1 次調査 (265 ~ 268・271 ~ 274・277・279・280・282)、平成 25 年度立会 (278・281)



全て [1:3]

第1次調査(283～285・297)、第2次調査(287・295・296)、平成25年度立会(286・289～293・298～300)



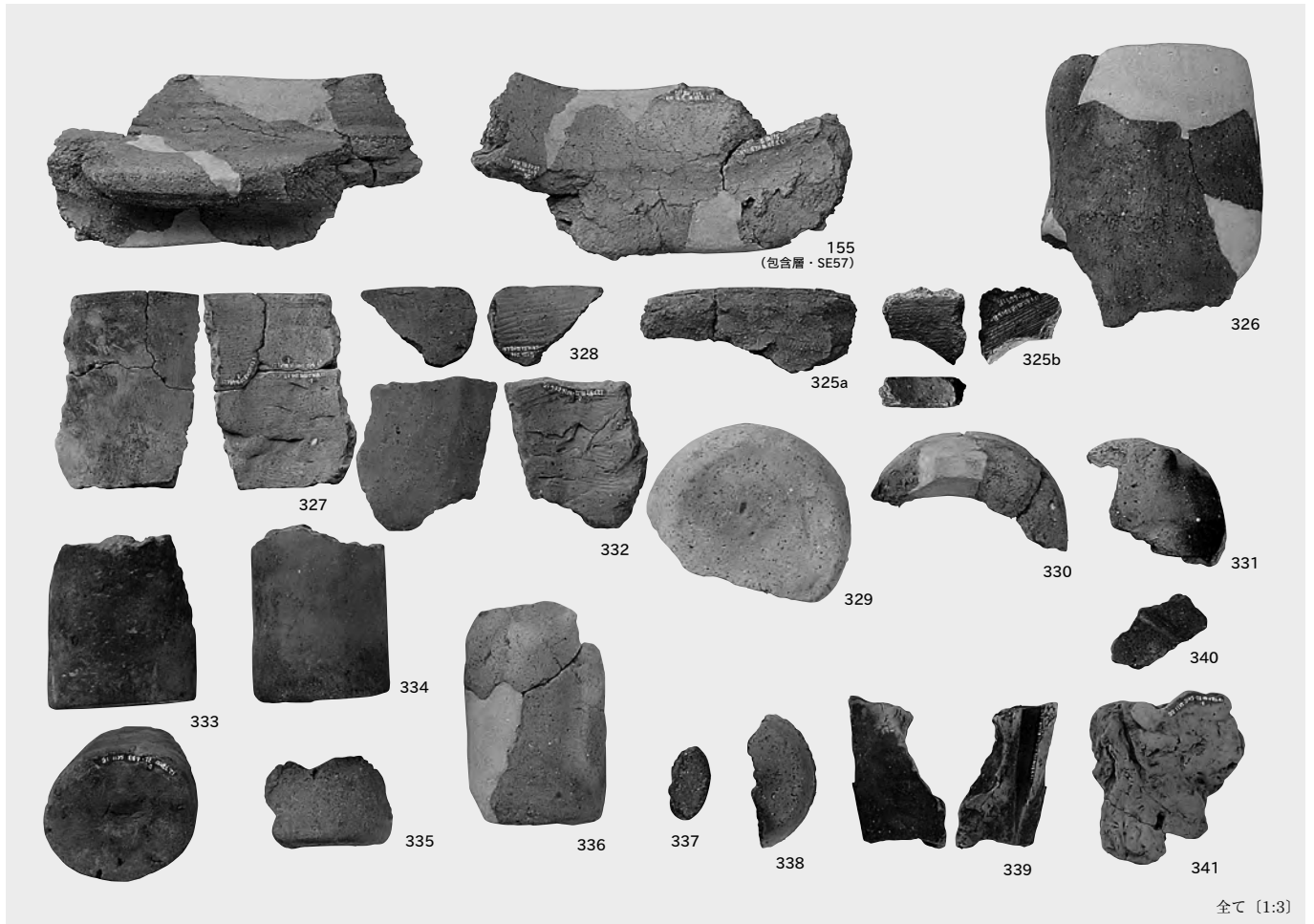
全て [1:3]

第1次調査(303・314・316)、第2次調査(307・313)、平成25年度立会(301・302・304～306・308～311・317～319)



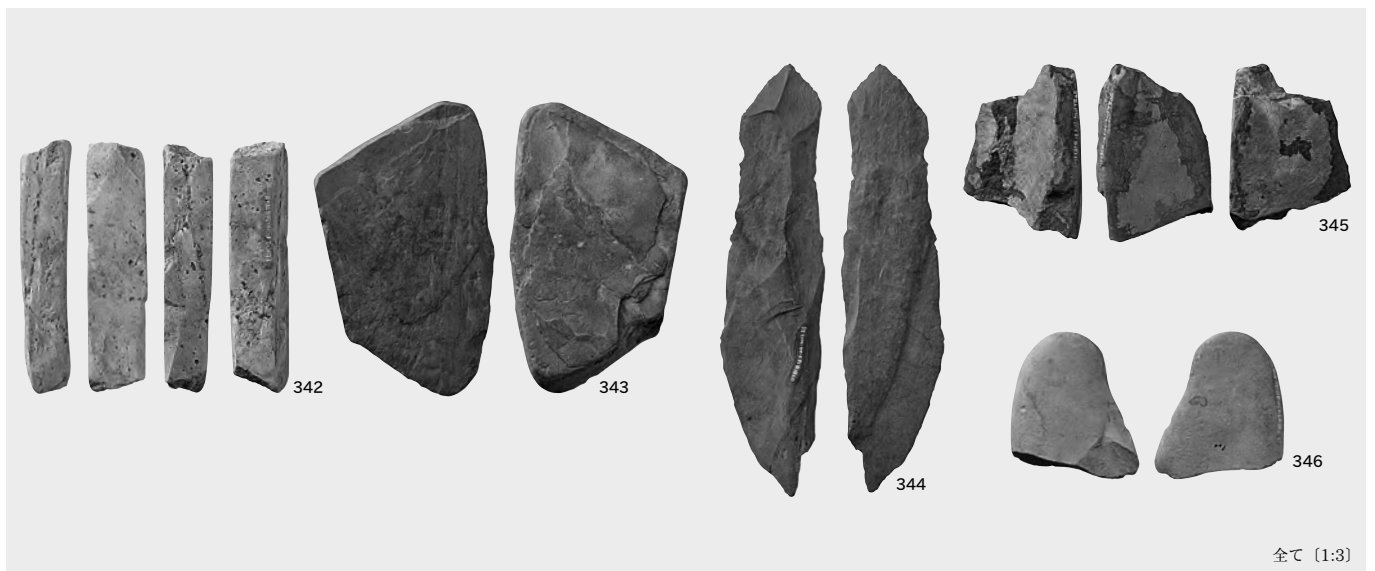
全て (1:3)

鍛冶関連遺物



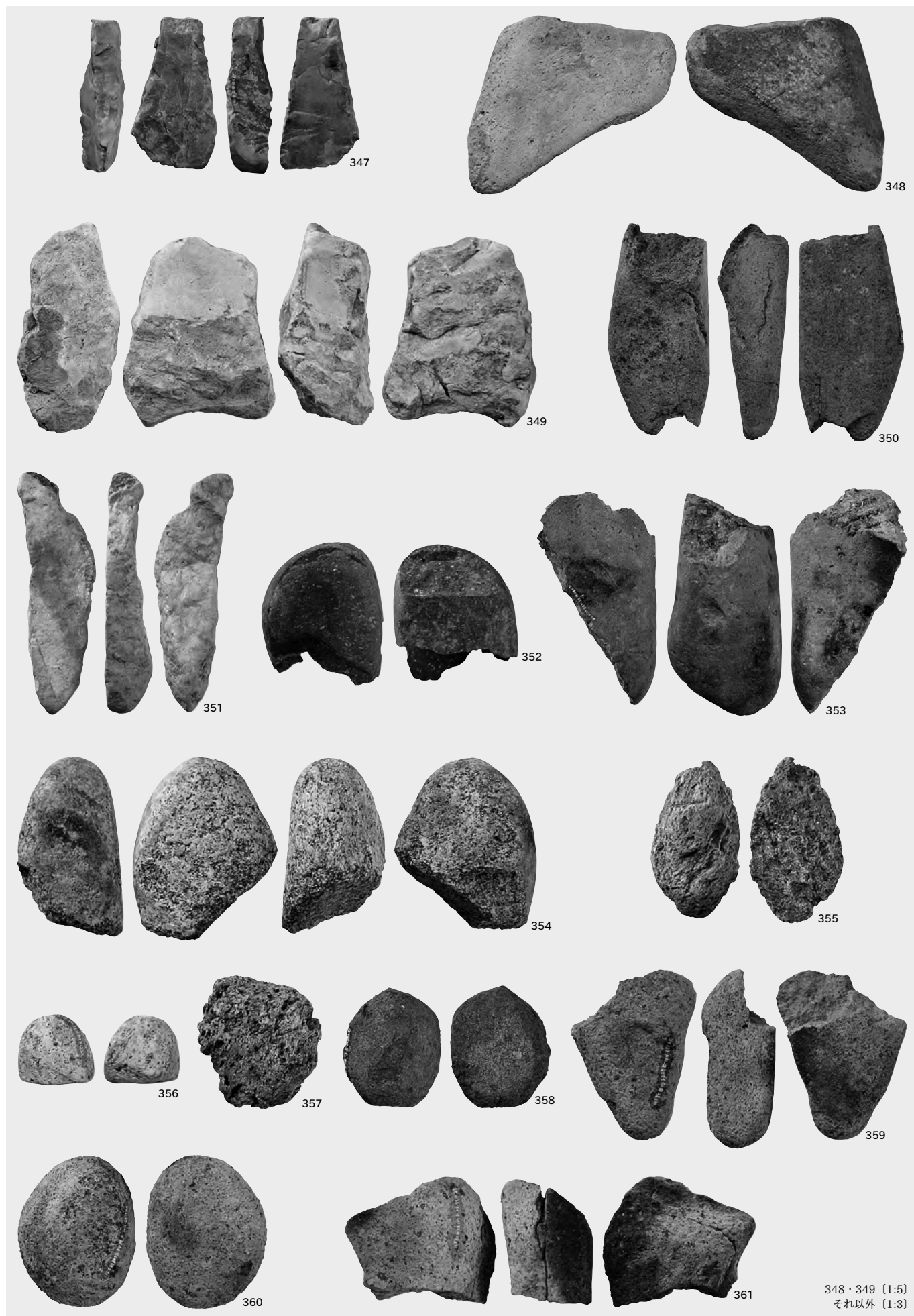
全て (1:3)

土器・土製品 2

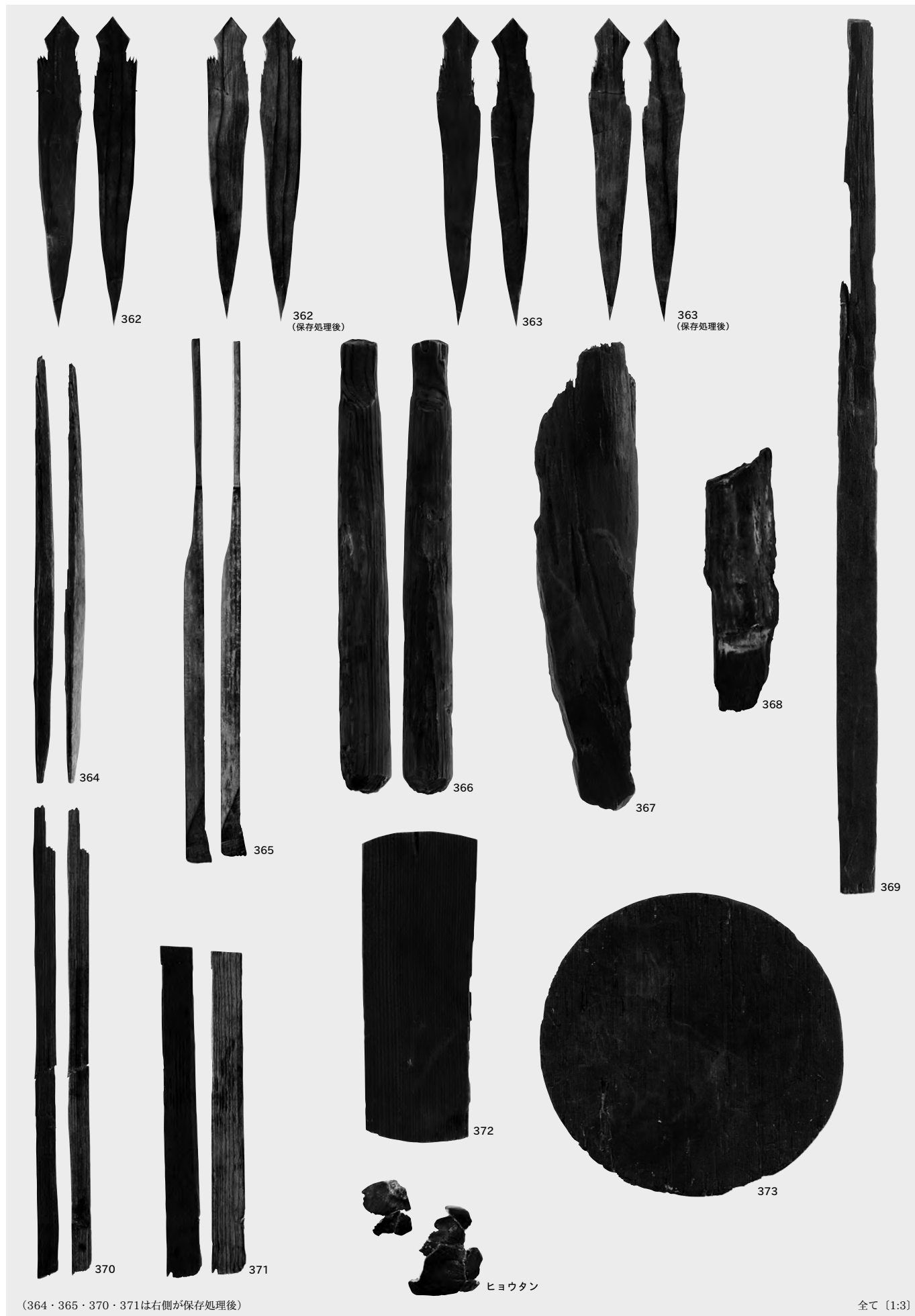


全て (1:3)

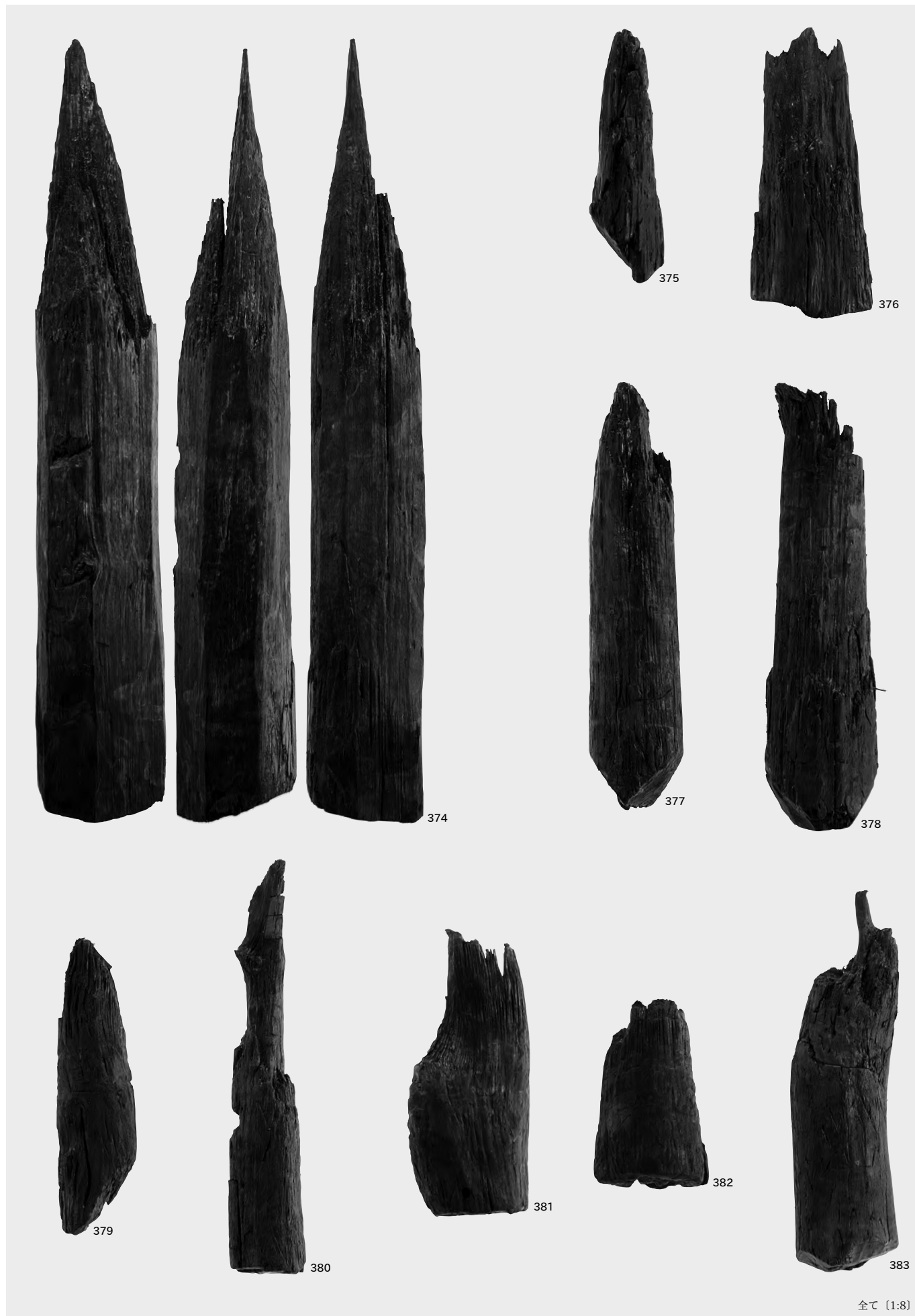
石製品 1



石製品 2



木製品 1 1区 SE57 (362 ~ 372・ヒョウタン)、2区 SE25 (373)



全て [1:8]

木製品 2 2区 SP51 (375) SP52 (374) SP53 (376)、3区 SP55 (377) SP56 (378) SP57 (379) SP58 (380)
 SP59 (381) SP60 (382) SP61 (383)

報告書抄録

ふりがな	しもしんでんいせき だい6・8・9じちょうさ							
書名	下新田遺跡 第6・8・9次調査							
副書名	県営ほ場整備事業（経営体育成基盤整備型）道上地区に伴う第3・5・6次発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	新潟市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号								
編著者名	龍田優子、長澤展生、相澤 央、早田 勉（火山灰考古学研究所）、黒沼保子・佐々木由香・バンダリ・スダルジャン・森 将志・米田恭子（パレオ・ラボ）、千葉博俊・金井慎司・斉藤崇人・馬場健司（パリノ・サーヴェイ）							
編集機関	新潟市文化スポーツ部 文化財センター							
所在地	〒950-1122 新潟市西区木場 2748 番地 1 TEL 025-378-0480							
発行年月日	西暦 2015 年 12 月 25 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しもしんでん 下新田遺跡	にいがたけんいせきにしにかんく 新潟県新潟市西蒲区 どうじょうあざしもしんでん 道上字下新田 5244 番地ほか	15108	573	37° 45' 20"	138° 56' 53"	20121105～20121214(第6次) 20130806～20131218(第8次) 20131111～20131211(第9次)	348 ㎡ 1,875 ㎡ 120 ㎡	県営ほ場 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
下新田遺跡	集落跡	奈良・平安時代 (8世紀前半・9 世紀後半)	上層：水田跡・畠跡 中層・下層：井戸・土坑・ 溝状遺構・ピット・性 格不明遺構・土器棺墓		土師器・須恵器・中世土師器・灰 釉陶器・土製品（カマド形土製品・ 円筒形土製品）・石製品（砥石）・ 鍛冶関連遺物・木製品（柱根）		耕作関連遺構（水田・ 畠）、カマド形土製 品、「日置」墨書土器、 土器棺墓	
要約	<p>下新田遺跡は、中ノ口川左岸の自然堤防上に立地し、現標高は概ね 1.7～2.5m である。上・中・下層に分かれ、ほぼ全ての調査区上層で畠跡や水田跡が明瞭に確認された。また、遺跡の南東側ほど奈良時代の遺物が主体的に出土する下層で検出される遺構が多く、井戸・柱穴・溝状遺構などが確認された。土器は、奈良時代（8世紀前半）を主体に平安時代（9世紀後半）の食膳具・貯蔵具・煮炊具が出土しており、北西方向へ場所は移動するものの、断続的に居住地として利用されていた集落跡と考える。また、2区で「日置」と書かれた墨書土器が出土し、郷名とすれば遺跡を含むこの地域が『和名類聚抄』に記載されている日置郷の一部である可能性が示唆される。さらに、自然科学分析の結果、奈良時代の土器底面に認められる木葉痕が湿地で生育するカワラハンノキと推定され、遺跡内で土器作りが行われていた可能性も考えられる。また、第10次調査で確認された土器棺墓は、県内でも類例が少なく古代の埋葬を考える上で貴重な資料といえる。</p>							

下新田遺跡 第6・8・9次調査

— 県営ほ場整備事業（経営体育成基盤整備型）道上地区に伴う第3・5・6次発掘調査報告書 —

2015年12月24日印刷
2015年12月25日発行

編集 新潟市文化財センター
〒950-1122 新潟市西区木場 2748 番地 1
TEL 025 (378) 0480

発行 新潟市教育委員会
〒951-8550 新潟市中央区学校町通一番町 602 番地 1
TEL 025 (228) 1000

印刷・製本 株式会社ハイングラフ
〒950-2022 新潟市西区小針 1 丁目 11 番 8 号
TEL 025 (233) 0321